副主編編

中國

なべべえ

中山思國羅維文論

11 國際化文高面

可・國権で文論選

上海古籍出版社

#### 高等學校文科教材

# 中国歷代文简選

第二册

主編 郭紹虞副主編 王文生

上海古籍出版社

#### 圖書在版編目(CIP)數據

中國歷代文論選. 第2册/郭紹虞主編.—上海: 上海古籍出版社, 2001.10(2003.5 重印) 高等學校文科教材 ISBN 7—5325—3044—2

I. 中... Ⅱ. 郭... □. 文學理論—中國—古代—高等學校—教材 IV. 1206.2

中國版本圖書館 CIP 數據核字(2001)第 067686 號

高等學校文科教材中 國歷代文論選

第二册

主 編 郭紹虞

副主編 王文生

上海古籍出版社出版、發行

(上海瑞金二路 272 號 郵政編碼 200020)

(1)網址:www.guji.com.cn

(2) E - mail: gujil@ guji. com. cn

戶本金全上海發行所發行經銷 上海古籍印刷廠印刷 開本850×1168 1/32 印張15.75 字數354,000 2001年10月新1版 2003年5月第2次印刷 印數:5,101—10,200

ISBN 7-5325-3044-2

K·362(課) 定價:15.20元

如有質量問題,請與承印廠聯系 64063949

## 目 錄

## 隋唐五代

中說〔選錄〕王	通	(	1	)
附錄				
上隋高祖革文華書李	諤	(	5	)
<b>羣書</b> 治要序(節錄) ·······魏	徴	(	6	)
答衢州鄭使君論文書柳	冕	(	6	)
書謝靈運集後王世	±貞	(	7	)
上吏部裴侍郎啓〔節錄〕王	勃	(	8	)
附錄				
王勃集序(節錄)楊	炯	(	11	)
南陽公集序(節錄)	類 程	(	14	)
樂府雜詩序(節錄) ······///////////////////////////////	類別	(	14	)
周書・王褒庾信傳論令狐循	練	(	15	)
附錄				
北齊書・文苑傳序(節錄)李音	藥	(	24	)
隋書・文學傳序魏	徴	(	<b>2</b> 5	
史通・言語(節錄)劉矢	P幾	(	27	)
附錄				
史通・雜說中(選錄)劉矢	11幾	(	35	)
史通・雜說下(選錄)劉矢	1幾	(	36	)
南陽獎紹述墓誌銘(節錄)韓	敿	(	36	)

史通·敍事〔節錄〕 ······劉知幾	(37)
附錄	
史通・雑說上(選錄)劉知幾	(49)
史通・載文(節錄)劉知幾	(50)
日知錄・文章繁簡顧炎武	(51)
文說三焦 循	(52)
文史通義·古文十弊(節錄) ·······章學誠	(52)
與東方左史虬修竹篇序	(55)
附錄	
右拾遺陳子昂文集序」直藏用	(57)
古風二首李 白	(58)
經亂離後天恩流夜郎憶舊遊書懷贈江夏	
韋太守良宰(節錄)李 白	(59)
宣州謝朓樓餞別校書叔雲李 白	(59)
戲為六絕句杜 甫	(60)
附錄	
<b>偶題杜</b> 前	(64)
解悶五首杜 甫	(64)
春日憶李白杜 甫	(65)
唐故工部員外郎杜君墓係銘並序元 稹	(65)
河嶽英靈集序股 璠	(67)
附錄	
河嶽英鹽集集論股 璠	(71)
中興間氣集序高仲武	(72)
詩式[選錄]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(73)
附錄	
詩式( <b>演錄)</b>	(85)

<b>詩議(選錄) 蛟 然</b>	(88)
<b>評論(選錄)</b>	(88)
詩格(選錄)王昌齡	(88)
<b>送靈澈上人廬山迴歸沃洲序權德輿</b>	(89)
董氏武陵集紀(節錄)劉禹錫	(89)
澈上人文集紀(鈴錄)劉禹錫	(90)
<b>篋中集序 ·······</b> 元 結	(91)
附錄	
文編序······元 結	(93)
劉侍御月夜讌會序元 結	(94)
<b>緊樂</b> 府序元 結	(94)
同元使君春陵行並序社 甫	(94)
道州刺史廳壁後記(節錄)呂 溫	(95)
與元九書白居易	(96)
附錄	
寶張籍古樂府白居易	(107)
<b>寄唐</b> 生白居易	(108)
新樂府序白居易	(108)
策林六十八(議文章碑碣詞賦)白居易	(109)
策林六十九(採詩以補察時政)白居易	(110)
<b>樂府古題序</b> 元 稹	(110)
<b>敍詩寄樂天書</b> 元	(111)
竹枝詞序·······劉禹錫	(113)
正樂府序皮日休	(114)
答李翊書 韓 愈	(115)
附錄	
進學解(節錄)韓 兪	(119)

答尉遲生書韓 愈	(119)
答劉正夫書(節錄) 韓 愈	(120)
韓文公墓誌銘(節錄)皇甫湜	(121)
昌黎先生集序······李 漢	(121)
上歐陽內翰第一書(節錄)蘇 洵	(122)
<b>論文管見(選錄)」 黄宗羲</b>	(123)
<b>藝概(選錄)劉熙載</b>	(123)
野序 韓 愈	(125)
<b>级</b>	
萬士(節錄) 韓 愈	(129)
荆潭唱和詩序 韓 愈	(129)
梅聖俞詩集序歐陽修	(130)
······韓 愈	(131)
<b>齊贈張祕書(節錄) 韓 愈</b>	(133)
<b>職業</b> 皇甫湜	(134)
鷹翁詩評敖陶孫	(135)
<b>凌論非國語書柳</b> 宗元	(137)
與呂道州溫論非國語書神宗元	(140)
	-
	•
	-
· · · · · · · · · · · · · · · · ·	•
楊評事文集後序(節錄)柳宗元	(148)
	答

報袁君陳秀才避師名書柳宗元	(149)
報崔黯秀才論爲文書柳宗元	(149)
柳宗直西漢文類序柳宗元	(150)
唐故柳州刺史柳君集紀劉禹錫	(152)
附錄	
答柳子厚書······劉禹錫	(156)
唐故尚書主客員外郎盧公集紀(節錄)劉禹錫	(157)
寄李鄒書 ····································	(158)
附錄	
文章論李德裕	(162)
答朱載言書李 翺	(164)
附錄	
寄從弟正辭書李 鰯	(170)
<b>齊說</b>	(170)
答李生第一書皇甫湜	(172)
附錄	
答李生第二書皇甫湜	(175)
答李生第三書皇甫湜	(176)
與王霖秀才書·······孫 樵	(177)
與友人論文書····································	(178)
皇甫持正文集書後(節錄)章學誠	(179)
答莊充書杜 牧	(182)
附錄	
上知己文章啓(節錄)杜 牧	(184)
献詩啓(節錄) ·····杜·牧	(185)
唐故平盧軍節度巡官隴西李府君墓誌銘(節錄) …杜 牧	(185)
李賀集序······杜 牧	(185)

.

上崔華州書〔節錄〕李商隱	(187)
附錄	
容州經略使元結文集後序(節錄)李商隱	(189)
獻侍即鉅鹿公啓(節錄)李商隱	(189)
<b>漫成五章(選錄)李商隱</b>	(189)
禪月集序(節錄)	(190)
文藪序皮日休	(191)
附錄	
桃花賦序	(194)
七愛詩・白太傅居易皮日休	(194)
論白居易薦徐凝屈張祜(節錄)皮日休	(194)
與李生論詩書司空圖	(196)
附錄	
與極浦書可空圖	(201)
與李生論詩書跋許印芳	
詩品可空圖	(203)
附錄	
與王駕評詩書(節錄)可空圖	(217)
題柳柳州集後序(節錄)可空圖	(217)
舊唐書·文苑傳序 ····································	(219)
附錄	
舊唐書・韓愈張籍孟郊唐衢李鄭宇文籍	
劉禹錫柳宗元章辭傳(節錄)劉 昫	(223)
舊唐書・元稹白居易傳(節錄)劉 昫	(224)
宋	
<b>應責柳</b> 開	(225)

.

附	錄

本文	(228)
唐柳先生集後序穆 修	(229)
<b>尊韓</b> 石 介	(230)
<b>夢溪</b> 筆談(選錄)沈 括	(230)
答張扶書[節錄]王禹偁	(231)
附錄	
再答張扶書王禹偁	(233)
<b>送庶幾序智 圓</b>	(234)
答韓三子華韓五持國韓六玉汝見贈述詩梅堯臣	(237)
附錄	
傳神悅躬上人梅堯臣	(240)
讀蟠桃詩寄子美永叔(節錄)梅堯臣	(240)
答裴送序意梅堯臣	(241)
寄滁州歐陽永叔(節錄)梅堯臣	(241)
依韻和晏相公梅堯臣	(241)
讀邵不疑學士詩卷杜挺之忽來因出示之	
且伏高致輒書一時之語以奉呈梅堯臣	(242)
書梅聖俞稾後歐陽修	(242)
六一詩話(選錄)歐陽修	(243)
梅聖俞別集序(節錄)」陸 游	(244)
跋西崑酬唱集」 游	(245)
怪說中 石 介	(246)
附錄	
上趙先生書	(249)
上蔡副樞密書(節錄)石 介	(251)
西崑酬唱集序楊 億	(252)

刊西崑詩集序	(253)
老學庵筆記(選錄)」 游	(254)
答吳充秀才書歐陽修	(255)
附錄	
送徐無黨南歸序歐陽修	(258)
論尹師魯墓誌歐陽修	(260)
附錄	
與杜訢論祁公墓誌書歐陽修	(264)
答錢公輔學士書王安石	(265)
與李杲堂陳介眉書黄宗義	(266)
與程若韓書方 苞	(267)
仲兄字文甫說蘇 洵	(268)
附錄	
江行唱和集序蘇軾	(271)
<b>鳧繹</b> 先生文集敍(節錄)蘇 軾	(272)
答綦君更生論文書樓 鑰	(272)
竹溪先生文集引(節錄)趙秉文	(273)
伊川擊壤集序邵 雍	(275)
附錄	
<b>論詩吟邵</b> 雍	(280)
談詩吟邵 雍	(280)
邵氏擊壤集序魏了翁	(281)
費元甫註陶靖節詩序魏了翁	(281)
通書·文辭思敦頤	(283)
附錄	
語錄(選錄) ······程 頤	(284)
與陳 <b>傳</b> 道序楊 時	(285)

	滄州精舍諭學者	朱	熹	(286)
	題碧霞山人王公文集後(節錄)	王	柏	(287)
南齊書	目錄序	曾	鞏	(288)
附给	<b>家</b>			
	寄歐陽舍人書	曾	鞏	(291)
上人書	***************************************	王安	石	(293)
附给	錄			
	與祖擇之書	王安	石	(295)
	韓子	王安	石	(295)
	答張浻書	採	復	(296)
	原文	李	觀	(297)
	延平集序	李	觀	(297)
	答陳充祕校書(節錄)	司馬	光	(298)
	習齋紀餘(節錄)	顏	元	(299)
<b>書黃子</b>	思詩集後	蘇	軾	(300)
附	<b>錄</b>			
	<b>送多寥</b> 師······	蘇	軾	(303)
	答陳師仲書(節錄)	蘇	軾	(304)
	<b>許韓</b> 柳詩	蘇	軾	(304)
	書摩詰藍田煙雨圖(節錄)	蘇	軾	(305)
	答會子華論詩(節錄)	包	悏	(305)
	<b>許長卿詩序(節錄)</b>	戴表	元	(305)
	<b>詩畫(節錄)</b>	李	贄	(306)
答謝民	師書(節錄)	蘇	軾	(307)
附给	<b>錄</b>			
	答王庠書(節錄)	蘇	軾	(309)
	答張文潛書(節錄)	蘇	搥	(309)

文說蘇 軾	(310)
上樞密韓太尉書蘇 轍	(311)
附錄	
內遊那 經	(313)
答洪駒父書黄庭堅	(316)
附錄	
贈高子勉(選錄)	(320)
<b>潛溪詩眼(選錄)范 溫</b>	(320)
冷齋夜話(選錄)	(321)
與王觀復書三首之一〔節錄〕 黄庭緊	(322)
附錄	
與王觀復書三首之二(節錄)」黃庭堅	(324)
大雅堂記(節錄)」黄庭堅	(325)
何君墓表(節錄)」 游	(325)
東屯高齋記(節錄)	(326)
與汪祕校論文書四南公	(327)
附錄	
讚李文饒集(節錄)日南公	(333)
上蘇內翰書(節錄)	(333)
石林詩話(選錄)葉夢得	(335)
附錄	, ,
石林詩話(選錄)葉夢得	(340)
<b>詩史(選錄) ····································</b>	(341)
王直方詩話(選錄)王直方	(341)
潛溪詩眼(選錄)	•
<b>彦周詩話(選錄)</b> 許	
<b>碧溪詩話(選錄)</b>	

	竹坡詩話(選錄)	·周紫	芝	(343)
	珊瑚鈎詩話(選錄)	·張表	臣	(344)
學詩詩	••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	·吳	可	(345)
附给	錄			
	<b>膨海詩話(選錄)</b>	·吳	可	(347)
	贈趙伯魚	·韓	駒	(348)
	學詩詩	·龔	相	(348)
	學詩詩	·趙	蕃	(348)
	學詩詩	·都	穆	(349)
論詞 …	•••••••••••••••	·李清	照	(350)
附给	錄			
	詞評。晁補之	胡	仔	(355)
	碧鷄漫志(選錄)	·王·	灼	(355)
	跋花間集二首	·陸	游	(358)
	<b>是短</b> 句序······	·陸	游	(358)
	跋後山居士長短句(節錄)	·陸	游	(359)
題酒邊	詞 ************************************	·胡	寅	(360)
附给	錄			
	東山詞序	·張	耒	(362)
	碧鶏漫志(選錄)	·王·	灼	(363)
	跋東坡七夕詞後(節錄)	·陸	游	(364)
	<b>稼</b> 軒詞序	·范	開	(365)
	<b>辛稼</b> 軒詞序······	·劉辰	翁	(365)
夏均父:	集序	•呂本	中	(367)
附给	錄			
	與曾吉甫論詩第一帖	·呂本	中	(369)
	與曾吉甫論詩第二帖	·呂本	中	(369)

	<b>宜蒙</b> 詩訓(選錄) ····································	(370)
歲寒堂	持話(選錄)張	(372)
附给	錄	
	養一齋詩話(選錄) 潘德輿	(381)
論詩詩		(384)
附:	錄	
	夜讚岑嘉州詩集」 遊 游	(389)
	宋都曹厪寄詩且督和答作此示之」 遊 游	(389)
	上辛給事書(節錄) 遊 游	(389)
江西宗	派詩序楊萬里	(391)
附	錄	
	立春日有懷二首(其二)楊萬里	(398)
	和李天麟二首楊萬里	(398)
	和段季承左藏惠四絕句楊萬里	(398)
	讀詩楊萬里	(399)
	答徐子材談絕句楊萬里	(399)
	<b>誠齋荆溪集序楊萬里</b>	(399)
	唐李推官披沙集序楊萬里	(400)
	頤庵詩稿序(節錄)楊萬里	(401)
	詩論(節錄) ·····楊萬里	(402)
	白石道人詩集自序	(402)
	白石道人詩說(選錄)夢 夔	(403)
答楊宋	卿朱 熹	(406)
附	续	
	上趙漕書 朱 松	(408)
	答鞏仲至(節錄)朱 熹	(410)
	清潔閣論詩(選錄) ······朱 熹	(411)

書龍川集後〔節錄〕葉 適	(414)
附錄	
對讚文選杜詩成四絕句葉 適	(415)
徐道暉墓誌銘(節錄)葉 適	(416)
<b>贈薛子長(節錄)</b>	(416)
書作論法後意與理勝	(417)
文章正宗綱目」真德秀	(418)
附錄	
跋彭忠肅文集	(420)
唐文爲一王法論魏了翁	(421)
滄浪詩話·詩辨 ·······嚴 羽	(423)
附錄	
答出繼叔臨安吳景仙書 嚴 羽	(430)
<b>嚴氏糾謬(選錄)                            </b>	(431)
答李天英書 ·······趙秉文	(433)
附錄	
重刊李長吉詩集序	(439)
重刊李長吉詩集序	•
	•
論詩詩······王若虚	(441)
論詩詩 ······王若虛 附錄	(441) (444)
論詩詩 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(441) (444) (446)
論詩詩 ····································	(441) (444) (446)
論詩詩 王若虚   財験 王若虚   文辨(選錄) 王若虚   論詩三十首(選錄) 元好問	(441) (444) (446) (449)
論詩詩 工艺虚   方方 (選錄) 工艺虚   文辨(選錄) 工艺虚   論詩三十首(選錄) 元好問   附錄 所錄	(441) (444) (446) (449) (462)

陶然集詩序元好問	(464)
元	
詞源[選錄] ····································	(467)
余景游樂府編序····································	(473)
趙氏詩錄序 ······楊維楨 附錄	(475)
元故奉訓大夫江西等處儒學提舉	
楊君墓誌銘(節錄)宋 濂	(477)
文妖	(478)
錄鬼簿序······鍾嗣成	(479)
附錄	
錄鬼簿(選錄)	(482)
唱論(選錄)	(483)
輟耕曲錄(選錄)%宗儀	(483)
太和正音譜(選錄)朱 權	(484)

•

# 中 說〔選錄〕

#### [隋] 王 通[1]

子謂薛收<sup>[2]</sup>曰: 昔聖人述史三<sup>[3]</sup>焉: 其述書也,帝王之制備矣,故索焉而皆獲; 其述詩也,與衰之由顯<sup>[4]</sup>,故究焉而皆得; 其述春秋也,邪正之跡明<sup>[5]</sup>,故考焉而皆當。此三者,同出於史,而不可雜也<sup>[6]</sup>,故聖人分焉。文中子曰: 吾視遷、固<sup>[7]</sup>而下,述作何其紛紛乎! 帝王之道,其暗而不明乎;天人之意,其否而不交乎<sup>[8]</sup>;制理者,参而不一乎<sup>[9]</sup>;陳事者,亂而無緒乎!·····

子在長安,楊素、蘇夔、李德林皆請見<sup>[10]</sup>。子與之言,歸而有憂色。門人問子,子曰:素與吾言終日,言政而不及化;變與吾言終日,言聲而不及雅<sup>[11]</sup>;德林與吾言終日,言文而不及理。門人曰:然則何憂?子曰:非爾所知也。二三子皆朝之預議者也<sup>[12]</sup>,今言政而不及化,是天下無禮也;言聲而不及雅,是天下無樂也;言文而不及理,是天下無文也。王道從何而與乎?吾所以憂也。……(《王道篇》)

李伯藥<sup>[13]</sup>見子而論詩,子不答。伯藥退,謂薛收曰:吾上陳應、劉<sup>[14]</sup>,下述沈、謝<sup>[15]</sup>,分四聲八病<sup>[16]</sup>,剛柔淸濁,各有端序,音若塌篪<sup>[17]</sup>,而夫子不應,我其未達敷? 薛收曰:吾嘗聞夫子之論詩矣,上明三綱,下達五常。於是徽存亡,辯得失,故小人<sup>[18]</sup> 歌之以貢其俗,君子賦之以見其志,聖人朵之以觀其變。今子營營馳騁乎末流<sup>[19]</sup>,是夫子之所痛也,不答則有由矣。

子曰:學者博誦云乎哉! 必也貫乎道; 文者苟作云乎哉! 必

也濟乎義。……(«天地篇»)

子謂文士之行可見: 謝靈運小人<sup>[20]</sup>哉! 其文傲, 君子則謹; 沈休文<sup>[21]</sup>小人哉! 其文冶, 君子則典。鮑照、江淹<sup>[22]</sup>, 古之狷者<sup>[23]</sup>也, 其文急以怨; 吳筠、孔珪<sup>[24]</sup>, 古之狂者也, 其文怪以怒; 謝莊、王融<sup>[25]</sup>, 古之織人也, 其文碎; 徐陵、庾信<sup>[26]</sup>, 古之夸人也, 其文誕。或問孝綽兄弟<sup>[27]</sup>。子曰: 鄙人也, 其文淫。或問湘東王兄弟<sup>[28]</sup>。子曰: 貪人也, 其文繁。謝朓<sup>[29]</sup>, 淺人也, 其文捷; 江總<sup>[30]</sup>, 跪人也, 其文虚。皆古之不利人也<sup>[31]</sup>。子謂顏延之、王儉<sup>[32]</sup>、任昉<sup>[83]</sup>有君子之心焉, 其文約以則<sup>[34]</sup>。

房玄齡<sup>[35]</sup> 問史,子曰:古之史者辯道,今之史也耀文。問文,子曰:古之文也約以達,今之文也繁以塞<sup>[38]</sup>。(《事君篇》)

薛收問曰: 今之民胡無詩?子曰: 詩者民之情性也, 情性能 亡乎? 非民無詩, 職詩者之罪也<sup>[37]</sup>。(《關期篇》)

《四部幾刊》影宋本《文中子中說》

#### 【註釋】

- [1]王通(公元五八四?——六一八年)——絳州龍門人。隋文帝仁壽年間,曾遊县安,後退居河汾,聚徒講學。死後,門人私諡為文中子。《隋書》無王通傳,新、舊《唐書》王勃、王續各傳曾經提到他,稱之為"隋末大儒"。生平事蹟,傳說很多,大半出於門徒和子孫的誇耀之詞,不一定可靠。他看仿《春秋》作《元經》,其書已佚。現存的著作,有《中說》(亦稱《文中子》)十卷,並有宋阮逸註本。
- [2]于——指文中子王通。薛收——字伯褒,蒲州汾陰人。王通的學生。
- [3] 聖人——道裏是指孔子。史三——即下所說的《書》《詩》《春秋》。
- [4] 與衰之由顯——意思是說,從《詩》中各個時代和各個地域的詩歌,可以明顯地 看出政教的得失,國家興盛或衰亡的原因。
- [5] 邪正之跡明——辨明邪正的事跡。據《史記·孔子世家》,孔子根據魯史作《春 秋》,據說,每一史實的紀錄,都寫有憂貶之義。

- [6]而不可雜也——意謂《書》《詩》《春秋》各有其作用,而不相混雜。
- [7]遷固——司馬遷和班固。
- [8]天人之意二句——天,即自然現象。人,社會人事。否,隔絕不通。古人認為歷史學家應該"究天人之際,通古今之變",然後才能"成一家之言"(司馬遷語,見《報任安書》)。這裏是說,司馬遷、班固以下的歷史著作都未闡明此義。
- [9] 制理二句——猶言立義。參,雜。參而不一,雜而不純。
- [10] 楊素——字處道,隋煬帝時官至司徒。蘇變——字伯尼,官通議大夫。精通樂理,著有《樂志》十五篇。李德林——字公輔,隋初官內史令,後出爲懷州刺史,以博學能文著稱。案:李德林生於公元五三一年,比王通大五十多歲,這裏所 敍請見王通的事實,不可靠。
- [11] 雅——舊說爲正聲,與俗樂相對而言。
- [12] 朝之預識者也—— 參議朝政的人。
- [13] 李伯藥----字重規,李德林的兒子。
- [14] 應劉——漢末建安時代的詩人應瑒和劉楨。
- [15] 沈謝——南朝時詩人沈約和謝朓。
- [16] 四聲八病——見本書第一册《宋書·謝靈運傳論》註[1][50]。
- [18] 小人——指平民,與下文統治者的君子相對而言。
- [19] 末流——指齊、梁以來所流行的聲律之說。
- [20] 小人——這裏是指品德隨落的人,與下文的"君子"爲對文。下並同。
- [21] 沈休文----見本書第一册《宋書·謝鑒運傳論》註[1]。
- [22] 鮑照(公元四一四年?——四六六年)——字明遠,東海人。官至臨海王劉子項 前軍參軍。今傳《鮑氏集》十卷。《宋書》卷五十一、《南史》卷十三附臨川王道 規傳。江淹(公元四四四年——五〇五年)——字文通,齊陽考城人。官至散 騎常侍、左衞將軍,封醴陵侯。今傳《江文通集》四卷。《梁書》卷十四、《南史》 卷五十九有傳。
- [23] 狷者——狷與狂為對文,《論語·子路》: "不得中行而與之,必也狂狷乎! 狂者進取,狷者有所不為。"本文"狷"字,有"狷急""狷隘"之意,謂器量狹小,性情急躁。
- [24] 吳筠——當是吳均或王筠之誤。吳均字叔庠,《梁書》卷四十九、《南史》卷七十二有傳。王筠字元禮,一字德柔,《梁書》卷三十三有傳。都是齊、梁時詩人。

- 孔珪———作孔稚珪(見《南齊書》,《南史》無"稚"字),字德璋。《南齊書》卷四十八、《南史》卷四十九有傳。
- [25] 謝莊——字希逸。《宋書》卷八十五有傳,《南史》卷二十附謝弘豫傳。王融——· 見本書第一册《詩品序》註[106][136]。
- [26] 徐陵(公元五〇七年——五八二年)——字孝穆, 東海郊人。在梁時官散騎常侍,入陳,遷太子少傅。今傳《徐孝穆集》二卷及其所編《玉臺新詠》十卷。《陳書》卷二十六有傳。《南史》卷六十二附徐擒傳。庾信(公元五一三年——五八一年)——字子山。南陽新野人。在梁時,即與徐陵齊名。後出使西魏,仕于北朝。今傳《庾子山集》十六卷。《周書》卷四十一、《北史》卷八十三有傳。
- [27] 孝綽兄弟——孝綽指劉孝綽。《梁書》卷三十三有傳。他和兄弟孝威、孝儀都 以才名著稱。
- [28]湘東王兄弟——梁元帝蕭繹,高祖第七子,初封湘東郡王。其兄昭明太子龍統,武帝長子,簡文帝蕭綱,武帝第三子,均好文學。
- [29] 謝朓——見本書第一册《顏氏家訓·文章篇》註[36]。
- [30] 江總——字總持。《陳書》卷二十七有傳,《南史》卷三十六附江夷傳。
- [31] 不利人也——不利於國家的人。
- [32] 王儉——字仲寶。《南齊書》卷二十三有傳,《南史》卷二十二附王量首傳。
- [33] 任昉——見本書第一册《顏氏家訓·文章篇》註[64]。
- [34] 則——有法度。
- [35] 房玄齡——字喬松(《舊唐書》作房裔,字玄齡,此從《新唐書》)。唐太宗時,官 尚書左僕射,封魏國公。
- [36] 繁以塞——詞繁而意晦。與上文"約以達"對舉成文。
- [37] 職詩者之罪也——《漢書·食貨志》: "行人振木鐸徇于路,以宋詩,獻之大師, 此其音律,以聞於天子。" 顏師古註: "行人,遺人也,主號令之官。" "宋詩, 采 取怨剌之詩也。"職詩者謂宋詩之官。這句泛指統治者不重視人民意見的反映, 所以不宋詩以觀民風。

#### 【説明】

《中說》一書,雜記王通言行,據後人考訂,可能是他的門徒或子孫所作。王通以道統自命,師徒互相標榜,比擬孔、顏。書的體例和文字完全模仿《論語》。所敍事跡,也多有牴牾不合之

處。這裏節錄的是有關文學思想的部分。

王通代表儒家的正統思想。重道輕藝,重行輕文,是他的文論的核心。他強調文章不苟作,必須"上明三綱,下達五常",為封建說教;"徵存亡,辯得失",為封建統治服務。基於這樣的認識,他把擊律和詞華看成文章的"末流";而標舉"謹"和"典"、"約"和"達"作為準則。於是,他從文觀人,批判了六朝以來的文士;由人論文,否定了六朝以來的文風。

從王通對六朝文學的批評中,可以看出他對文學的特點是 缺乏認識的,但在理論上開中唐古文家"文以貫道"(見李漢《昌 黎先生文集序》)的先聲,對後世有較大的影響。他重視民間詩 歌的意見,也有可取之處。

### 附錄

#### 上隋高祖革文華書

#### 〔隋〕李 諤

臣聞古先哲王之化民也,必變其視聽,防其嗜欲,塞其邪放之心,示以 淳和之路。五教六行,爲訓民之本;《詩》《書》《禮》《易》,爲道義之門。故能 家復孝慈,人知禮讓。正俗調風,莫大於此。其有上書獻賦,制誄鐫銘,皆 以褒德序賢,明勳證理。苟非懲勸,義不徒然。

降及後代,風教漸落。魏之三祖,更尙文詞,忽君人之大道,好雕蟲之小藝。下之從上,有同影響,競騁文華,遂成風俗。江左齊、梁,其弊彌甚,實賤賢愚,唯務吟詠。遂復遺理存異,尋虛逐微,競一韻之奇,爭一字之巧。連篇累牘,不出月露之形;積案盈箱,唯是風雲之狀。世俗以此相高,朝廷據茲擢士。祿利之路旣開,愛尙之情愈篤。於是閭里童昏,貴遊總丱,未窺六甲,先制五言。至如義皇、舜、禹之典,伊、傅、周、孔之說,不復關心,何嘗入耳!以傲誕爲淸虛,以緣情爲勳績,指儒素爲古拙,用詞賦爲君子。故文筆日繁,其政日亂。良由棄大聖之軌模,構無用以爲用也。損本逐末,流徧

華壤, 遞相師祖, 久而愈扇。

及大隋受命, 聖道 串興, 屛黜輕浮, 遏止華偽。自非懷經抱賀, 志道依仁, 不得引預潛紳, 多廁繆冕。開皇四年, 普韶天下, 公私文翰, 並宜實錄。其年九月, 泗州刺史司馬幼之文表華豔, 付所司治罪。自是公卿大臣, 咸知正路, 莫不鑽仰墳[索](原作"集", 《文苑英華》作"素", 當是"索"字形近而誤, 今改正), 東絕華綺。擇先王之令典, 行大道於茲世。如聞外州遠縣, 仍踵敝風, 選吏舉人, 未遵典則。至有宗黨稱孝, 鄉曲歸仁, 學必典謨, 变不苟合, 則擯落私門, 不加收齒; 其學不稽古, 逐俗隨時, 作輕薄之篇章, 結朋黨而求譽, 則選充吏職, 舉送天朝。蓋由縣令刺史, 未行風教, 猶挾私情, 不存公道。臣旣忝憲司, 職當糾察。若聞風卽劾, 恐掛網者多。請勒諸司, 普加搜訪, 有如此者, 具狀送臺。

中華書局排印本《隋書》卷六十六

#### 羣書治要序(節錄)

#### [唐]魏 徽

……近古皇王,時有撰述,並皆包括天地,牢籠羣有。競探浮豔之詞, 爭馳迁誕之說,騁末學之博聞,飾雕蟲之小伎,流宕忘反,殊塗同致。雖辯 周萬物,愈失司契之源; 術總百端,彌(原無彌字,據《全唐文》卷一四一增) 乖得一之旨。……

《四部費刊》影日本天明七年刊本《掌書治要》

#### 答衢州鄭使君論文書

#### 〔唐〕柳 冕

專使至, 辱書幷歸拙文, 如見君子。所褒過當, 無德以當之。幸甚。門 人云: "夫子之文章, 可得而聞也; 夫子之言性與天道, 不可得而聞也。"卽聖 人道可企而及之者文也, 不可企而及之者性也。蓋言教化發乎性情、緊乎 國風者謂之道。故君子之文,必有其道。道有深淺,故文有崇替;時有好尚,故俗有雅鄭。雅之與鄭,出乎心而成風。

昔游、夏之文,日月之麗也,然而列於四科之末,藝成而下也。苟文不足,則人無取焉。故言而不能文,非君子之儒也;文而不知道,亦非君子之儒也。逮德下衰,其文漸替。惜乎王公大人之言,而溺於翟麗怪誕之說,非文之罪也,爲文者之過也。

夫善爲文者,發而爲聲,鼓而爲氣。直則氣雄,精則氣生,使五彩並用,而氣行於其中。故虎豹之文,蔚而騰光,氣也;日月之文,麗而成章,精也。 精與氣,天地感而變化生爲,聖人感而仁義行爲。不善爲文者,反此,故變 風、變雅作矣,六藝之不興,教化之不明,此文之弊也。

噫! 文之無窮,而人之才有限。苟力不足者,疆而爲文則蹶,彊而爲氣則竭,彊而爲智則拙。故言之彌多,而去之彌遠。遠之便已,道則中廢,又 君子所恥也,則不足見君子之道與君子之心。心有所感,文不可已,理有至精,詞不可逮,則不足當君子之褒。敬叔頓首。

《四部叢刊》影明嘉靖刊本《唐文粹》卷八十四

#### 書謝靈運集後

#### 〔明〕王世貞

余始讀謝鹽運詩,初甚不能入,既入而漸愛之,以至於不能釋手。其體 雖或近俳,而其意有似合掌者。然至穩置之極,而反若平淡,琢磨之極,而 更似天然,則非餘子所可及也。飽照對顏延之之請隨,而謂謝如初發芙蓉, 自然可愛,君若鋪錦列織,亦復雕續滿眼也。自有定論。而王仲淹乃謂:"鹽 運小人哉,其文傲,君子則謙;顏延之有君子之心焉,其文約以則。"此何說 也!靈運之傲不可知,若延之之病,正坐於不能約以則也。余謂仲淹,非能 知詩者,殆以成敗論耳。

梁溪顧氏校刊本《讀書後》卷三

# 上吏部裴侍郎啓[1][節錄]

#### [唐] 王 勃[2]

夫文章之道,自古稱難。聖人以開物成務<sup>[3]</sup>,君子以立言見 志。遺雅背訓,孟子不爲[4]; 勸百諷一,揚雄所恥[5]。 苟非可以 甄明大義, 矯正末流, 俗化資以興衰, 家國繇其輕重, 古人未嘗留 心也。自微言既絕[8],斯文不振,屈宋導澆源於前,枚馬[7]張淫 風於後;談人主者以宮室苑囿爲雄,敍名流者以沉酗驕奢爲達。 故魏文[8] 用之而中國[9] 衰,宋武[10] 貴之而江東亂:雖沈謝[11] 爭 鶩, 適先兆齊梁之危; 徐庚[12] 並馳, 不能免周陳之禍。於是識其 道者卷舌而不言,明其弊者拂衣而徑逝。《潛夫》《昌言》[13]之論, 作之而有逆於時;周公孔氏之敎,存之而不行於代,天下之文靡 不壞矣。國家應千載之期,恢百王之業,天地靜默,陰陽順序,方 欲激揚正道,大庇生人,黜非聖之書,除不稽之論,收童頓顙思進 皇謀, 樵夫拭目顧談王道。 崇大厦者非一木之材, 匡弊俗者非一 日之衞,衆持則力盡,眞長則偽銷,自然之數也。君侯受朝廷之 寄,掌鎔範之權,至於舞詠澆淳,好尙邪正,宜深以爲念也。伏見 銓擢[14]之次,每以詩賦爲先,誠恐君侯器人於翰墨之間,求材於 簡牘之際,果未足以採取英秀,斟酌高賢者也。徒使駿骨[15]長 朽,真龍[18]不降,衒才飾智者奔馳於末流,懷真蘊璞[17]者栖遑 於下列。

《四部叢刊》影明張紹和刊本《王子安集》卷八

#### 【註釋】

- [1] 吏部裴侍耶——裴行儉(公元六一九年——六八二年), 字守約, 絳州聞喜人。 貞觀中舉明經。後官至禮部尚書,封聞喜縣公。據《舊唐書》卷一〇八本傳, 總 章中, 遷司列少常伯, 咸亨初, 官名復舊, 改爲吏部侍耶, 與李敬玄、馬載同典選 十餘年, 有能名, 時號"裴李"或"裴馬"。按: 王勃在道裏稱他"吏部裴侍耶", 此 啓當作於咸亨元年(公元六七〇年)以後。
- [2] 王勃(公元六四九年——六七六年)——字子安,絳州龍門人。他少年時就有才華,麟德初應舉及第,曾做過號州參軍等小官。後往交趾探父,渡海溺死。文學與楊炯、盧照隣、駱賓王齊名,有初唐四傑之稱。現有《王子安集》十六卷及羅振玉輯《王子安集佚文》一卷行世。《舊唐書》卷一九〇、《新唐書》卷二〇一有傳。
- [3] 開物成務——《易·聚辭上》: "夫易開物成務,冒天下之道,如斯而已者也。"王 弼注: "冒,覆也。"李鼎祚《集解》: "務,事也。"孔穎達《正義》: "言易能開通萬物 之志,成就天下之務,有覆冒天下之道。"
- [4] 遺雅背訓孟子不爲——雅,正;背,叛;訓,道。二句意謂叛離正道,不合孔子之敢,孟子决不爲之。如《孟子。公孫丑上》載孟子回答公孫丑的話:"管仲,曾西之所不爲也,而子爲我願之乎?"《盡心下》:"在彼者皆我所不爲也,在我者皆古之制也。"都是。正言之,即《滕文公上》所謂"言必稱堯舜"。本文是引用來指文章。
- 【5】勸百諷一揚雄所恥——《漢書・司馬相如傳》費: "揚雄以為靡麗之賦,勸百而 風一。" 多見本書第一册 《法言・吾子》註[4]。
- [6] 微言既絕——劉歆《移讓太常博士書》: "及夫子沒而微言絕,七十子喪而大義 乖。" 微言,《漢書》卷三十《藝文志》李奇註解釋爲"隱微不顯之言",顏師古註則 以爲是"精微要妙之言"。
- [7] 枚馬——枚乘、司馬相如。
- [8] 魏文——魏文帝曹丕。 見本書第·-册《典論。 論文》註[2]。
- [9]中國——古人常稱中原爲中國。
- [10]宋武——指宋武帝劉裕。聯繫下文"江東亂",或指宋孝武帝劉駿。《文心雕龍時序》:"宋武愛文""孝武多才"。
- [11] 沈瀚----沈,沈約,字休文; 謝,謝朓,字玄暉。《梁書·沈約傳》:"謝玄暉善爲 詩,任彥昇工於文章,約兼而有之,然不能過也。"參見本書第一册《宋書·謝

靈運傳論»註[1]及《顏氏家訓·文章》註[36]。

- [12] 徐庚——《周書・庚信傳》: "(徐) 摛子陵及信,並為抄撰學士。……既有盛才, 文並綺豔,故世號爲徐、庚體焉。"參見本册《中說》註[26]。
- [13] 潛夫昌言——王符,字節信。東漢和帝至桓、靈時人。《後漢書》卷四十九本傳說他"志意蘊憤,乃隱居著書三十餘篇,以譏當時失得,不欲章顯其名,故號曰《潛夫論》。其指計時短,討論物情,足以觀見當時風政。"仲長統(公元一七九年——二二〇年),字公理。《後漢書》卷四十九本傳說他"性俶儻,敢直言,不矜小節,默語無常,時人或謂之狂生。……每論說古令及時俗行事,恆發憤嘆息,因著論名曰《昌言》,凡三十四篇,十餘萬言。"《昌言》現大部亡佚,僅存三篇及零星幾段文字。
- [14] 銓擢——舜,衡;擢,引,拔。銓擢,意謂量才錄用或選拔人材。
- [15] 酸骨——任昉《天監三年策秀才文》: "朕傾心酸骨,非懼眞龍。"以駿骨喻賢才,本《戰國策·燕策》郭隗說燕昭王故事: 以五百金買駿馬的頭骨,千里馬不求自致。
- [16] 眞龍——《文選·天監三年策秀才文》李善註引《莊子》: "子張見魯哀公,哀公不禮。去曰:君之好士,有似葉公子高之好龍也。葉公好龍,室屋雕文盡以寫龍。于是天龍聞而下之。……葉公見之,葉而退走,失其魂魄,五色無主。是葉公非好眞龍也,好夫似龍而非龍也。今君之好士也,好夫似士而非士者。"
- [17] 蘊璞——《韓非子·和氏》载: 卞和在山中得一玉璞, 先後獻給楚厲王、武王, 都被認為是石而斷去左、右足。楚文王時, 卞和抱玉哭于荆山之下, 文王使人剖璞, 得到寶玉, 稱為"和氏之璧"。

#### 【説明】

初唐文壇,由於歷史的原因,一方面沿用南朝的文體,一方面又不滿于齊梁以來的豔麗文風。初唐四傑的創作與理論,就是當時這種矛盾的產物。他們的創作,雖然沒有擺脫齊梁集日,但不管在創作或理論上,都已有改革的要求。王勃《上吏部裴侍郎啓》,就是這種改革要求在理論上的一篇代表作。

在這篇文章中,王勃受其祖父王通的影響,首先肯定了文學的經世教化作用,認爲文章是"甄明大義,矯正末流,俗化資以與

衰,家國繇其輕重"的不朽事業。這與他在《平臺秘略論·藝文》 中所說"故文章經國之大業,不朽之能事"是同一意思。本文中他 又斷言自孔子"微言"絕後,"斯文不振",從而慨嘆"周公、孔氏之 教,存之而不行于代",迫切希望唐王朝能"激揚正道","黜非聖 之書,除不稽之論"。由此可見他改革文風的主張在很大程度上 仍然沿襲着儒家傳統文學觀。

王勃竭力反對六朝以來的"緣情體物"之作,斥之為"雕蟲小技"(見《平臺秘略論·藝文》),"勸百諷一,揚雄所恥"。他甚至進一步猛烈攻擊了從屈原、宋玉至沈(約)、謝(朓)、徐(陵)、庾(信)等一大批作家,認為雕刻浮豔之文,"貴之而江東亂","用之而中國衰"。這種偏激片面之辭,當時盧照隣也不敢同意(參見附錄《南陽公集序》)。不過,這些言論其實並不着重在批評前人,而是借題發揮,主要是針對唐初豔麗纖巧的浮靡文風而發。關於這點,楊炯在《王子安集序》中說得很淸楚:"嘗以龍朔初載,文場體變,爭構織微,競爲雕刻。……骨氣都盡,剛健不聞。(王勃)思草其弊,用光志業。"對於當時"天下之文靡不壞矣"的風氣,也起到矯枉過正、補弊救偏的作用。從這一角度來理解,王勃等人的理論,可說是陳子昂、白居易的詩歌革新理論及韓、柳古文運動的先聲。

#### 附 錄

#### 王勃集序(節錄)

#### 〔唐〕楊 炯

大矣哉,文之時義也! 有天文焉,察時以觀其變; 有人文焉,立言以重 其範。歷年滋(原作茲,據《全唐文》校改)久,遞爲文質,應運以發其明,因 人以通其粹。仲尼旣沒,游、夏光洙泗之風; 屈平自沈,唐、宋弘汨羅之跡。 文儒於焉異術,詞賦所以殊源。

速秦氏燔書,斯文天喪;漢皇改運,此道不還。賈、馬蔚與,已虧於雅頌;曹、王傑起,更失於風騷。僶俛大猷,未忝前載。

洎乎潘、陸奮發,孫、許相因,繼之以顏、謝,申之以江、鮑,梁、魏羣材, 周、隋衆制,或苟求蟲篆,未盡力於丘墳;或獨徇波瀾,不尋源於禮樂。會時 沿革,循古抑揚,多守律以自全,罕非常而制物。

其有飛馳倏忽,倜儻紛綸,鼓動包四海之名,變化成一家之體。蹈前賢之未識,探先聖之不言。經籍爲心,得王、何於逸契,風雲入思,叶張、左於神交。故能使六合殊材,並推心於意匠;八方好事,咸受氣於文樞。出軌躅而驟首,馳光芒而動俗。非君之博物,孰能致於此乎!

君諱勃,字子安,太原祁人也。其先出自有周,濬啓(原作哲,據《四部 叢刊》影明本《王子安集》校改)文明之裔;隱乎炎漢,弘宣高尚之風。晉室 南遷,家聲布於淮海;宋臣北徙,門德勝於河汾。宏材繼出,達人間峙。祖 父通,隋秀才高第,蜀郡司戶書佐,蜀王侍讀。大業末,退講藝於龍門。其 卒也,門人諡之曰文中子。聞風睹奧,起予道惟,揣摩三古,開闡八風。始 擯落於鄒、韓,終激揚於荀、孟。父福時,歷任太常博士,雍州司功,交阯、六 合二縣令,爲齊州長史。抑惟邦彥,是曰人宗。絕六藝以成能,兼百行而爲德。司馬談之晚歲,思弘授史之功,揚子雲之暮年,遂起參玄之歎。

君之生也,含章是託。……富貴比於浮雲,光陰踰於尺壁,著撰之志,自此居多。觀覽舊章,翱翔羣藝,隨方滲漉,於何不盡?在乎詞翰,倍所用心。 嘗以龍朔初載,文場變體,爭搆纖微,競爲雕刻。糅之金玉龍鳳,亂之朱紫 靑黃,影帶以狗其功,假對以稱其美,骨氣都盡,剛健不聞。思革其弊,用光 志業。薛令公朝右文宗,託末契而推一變;盧照隣人間才傑,覽清規而輟九 攻。知晉與之矣,知己從之矣。於是鼓舞其心,發洩其用,八紘(原作絃,據 《四部叢刊》影明本《王子安集》校改)馳騁於思緒,萬代出沒於毫端,契將往 而必融,防未來而先制。動搖文律,宮商有奔命之勞;沃蕩詞源,河海無息 肩之地。以茲偉鑒,取其雄伯,壯而不虛,剛而能潤,雕而不碎,按而彌堅, 大則用之以時,小則施之有序,徒縱橫以取勢,非鼓怒以爲資。長風一振, 衆萌自偃。遂使繁綜淺術,無潛籬之固;紛繪小才,失金湯之險。積年綺 碎,一朝清廓,翰苑豁如,詞林增峻,反諸宏博,君之力焉。

.........

君以為摘藥彫章,研養之餘事; 知來藏往,探贖之所宗。隨時以發,其唯應便;稽古以成,其殆察微。循紫官於北門,幽求聖律;訪玄扈於東洛,響像天人。每覽章編,思弘大《易》,周流窮乎八索,變動該乎四營,為之發揮,以成注解。嘗因夜夢,有稱孔夫子而謂之曰:《易》有太極,子其勉之! 寤而循環,思過半矣。於是窮蓍禁以像告,考爻彖以情言,旣乘理而得玄,亦研精而循(原作狗,據《四部叢刊》影明本《王子安集》校改)道。虞仲翔之盡思,徒見三爻;韓康伯之成功,僅踰兩繫。君之所注,見光前古。與夫發天地之祕藏,知鬼神之情狀者,合其心矣。君又以幽贊神明,非杼軸於人事;經營訓導,迺優游於聖作。於是編次《論語》,各以羣分,窮源造極,為之 詁訓。仰貫一以知歸,希體二而致遠,為言式序,大義昭然。

文中子之居龍門也,賭隋室之將喪(原作散,據《四部叢刊》影明本《王子安集》校改),知吾道之未行,循歎鳳之遠圖,宗獲麟之遺制,裁成大典,以贊孔門。討論漢、魏,迄於晉代,刪其韶命爲百篇以續《書》;甄正樂府,取其雅與爲三百篇以續《詩》。又自晉太熙元年,至隋開皇九年平陳之歲,褒貶行事,述《元經》以法《春秋》。門人薛收竊慕,因(原作同,據《四部叢刊》影明本《王子安集》校改)爲《元經》之傳,未就而歿。君思崇祖德,光宜奧義,續薛氏之遺傳,制詩書之衆序。包(原作危,據《四部叢刊》影明本《王子安集》校改)舉藝文,克融前烈。陳羣稟太丘之訓,時不逮焉;孔伋傳司寇之文,彼何功矣。《詩》《書》之序,並冠於篇;《元經》之傳,未終其業。命不與我,有涯先謝,春秋二十八年,唐上元三年秋八月。不改其樂,顏氏斯殂;養空而游(原作浮,據《四部叢刊》影明本《王子安集》校改),賈生終逝。嗚呼!天道何哉!所注《周易》,窮乎《晉卦》。又注《黃帝八十一難》,幸就其功。撰《合論》十篇,見行於代。

君平生屬文,歲時不倦,綴其存者,纔數百篇。嗟乎促齡,材氣未盡,歿而不朽,君子貴焉。

兄勔及動(原作劇,據《全唐文》校改),磊落詞韻,鏗鍧風骨,皆九變之雄律也;弟助及助,總括前藻,網羅羣思,亦一時之健筆焉。友愛之至,人倫所及,永言存殁,何痛如之! 援翰紀文,咸所未忍。蓋以投分相期,非弘詞

說。潸然摩涕,究而序之。分爲二十卷,具諸篇目。《三都》(原作部,據《全唐文》校改)盛作,恨不序於生前;《七志》良書,空得撰(原作撰得,據《四部叢刊》影明本《王子安集》校改)於身後。神其不遠,道或存焉。

《四部義刊》影明本《楊盈川集》卷三

#### 南陽公集序(節錄)

#### 〔唐〕 盧照隣

斯文之功大矣! 自獲麟絕筆,一千三四百年,游夏之門,時有荀卿孟子,屈宋之後,直至賈誼相如。兩班敘事,得丘明之風骨,二陸裁詩,含公幹之奇偉。鄴中新體,共許音韻天成;江左諧人,咸好瓌姿豔發。精博爽麗,顏延之急病於江鮑之間;疎散風流,謝宣城緩步於向劉之上。北方重濁,獨盧黃門往往高飛;南國輕淸,惟庚中丞時時不墜。嗟乎! 古今之士遞相毀譽,至有操我戈矛,啓其墨守。〈三都〉旣麗,徵夏熱於〈上林〉;〈九辯〉已高,資春歌於〈下里〉。 踷(原作蹐,形近而誤) 駮之論,紛然遂多。近日劉勰〈文心〉,鍾嶸〈詩評〉,異議蜂起,高談不息。……

《四部發刊》影印明張氏刻本《幽憂子集》卷六

#### 樂府雜詩序(節錄)

#### [唐] 盧照隣

……言古與者,多以西漢為宗; 議今文者,或用東朝為美。落梅芳樹, 共體千篇; 隨水巫山,殊名一意。亦猶負日於珍狐之下,沈螢於燭龍之前, 辛勤逐影,更似悲狂,罕見鑿空,曾未先覺。潘陸顏謝,蹈迷津而不歸;任沈 江劉,來亂轍而彌遠。其有發揮新題,孤飛百代之前,開鑿古人,獨步九流 之上,自我作古,粤在茲乎!……

《四部費刊》影印明張氏刻本《幽憂子集》卷六

## 周書·王褒庾信傳論

#### 〔唐〕令狐德棻[1]

史臣曰: 兩樣定位,日月揚暉,天文彰矣;八卦以陳,書契有作,人文詳矣<sup>[2]</sup>。若乃《墳》《索》<sup>[3]</sup>所紀,莫得而云;《典》《謨》<sup>[4]</sup>以降,遺風可述。是以曲阜多才多藝<sup>[5]</sup>,鑒二代以正其本<sup>[6]</sup>;闕里性與天道<sup>[7]</sup>,修六經以維其末<sup>[8]</sup>。故能範圍天地<sup>[9]</sup>,綱紀人倫<sup>[10]</sup>。窮神知化<sup>[11]</sup>,稱首於千古<sup>[12]</sup>;經邦緯俗<sup>[13]</sup>,歲用於百代<sup>[14]</sup>。至矣哉!斯固聖人之述作也。

逮乎兩周道喪,七十義乖[15]。淹中稷下[16],八儒三墨[17], 辯博之論蜂起;漆園黍谷[18],名法兵農,宏放之詞霧集。雖雅 誥奧義[19],或未盡善,考其所長,蓋賢達之源流也。

其後逐臣屈平,作《離騷》以敍志,宏才豔發<sup>[20]</sup>,有惻隱之美<sup>[21]</sup>。宋玉,南國詞人,追逸轡而亞其跡<sup>[22]</sup>。大儒荀況,賦《禮》《智》<sup>[23]</sup>以陳其情。含章鬱起<sup>[24]</sup>,有諷論(案:當作諭)之義<sup>[25]</sup>。 賈生,洛陽才子<sup>[26]</sup>,繼淸景而奮其暉。並陶鑄性鹽<sup>[27]</sup>,組織風雅<sup>[28]</sup>,詞賦之作,實爲其冠。

自是著述滋繁,體制匪一。孝武之後,雅尚斯文,揚葩振藻 者如林,而二馬、王、楊<sup>[29]</sup>爲之傑;東京之朝,茲道愈扇<sup>[30]</sup>,咀 徵含商<sup>[31]</sup>者成市,而班、傅、張、蔡<sup>[32]</sup>爲之雄。

當塗<sup>[33]</sup>受命,尤好蟲篆<sup>[34]</sup>;金行<sup>[35]</sup>勃興,無替<sup>[38]</sup>前烈。曹、王、陳、阮<sup>[37]</sup>, 負宏衍<sup>[38]</sup>之思, 挺棟幹於鄧林<sup>[39]</sup>; 潘、陸、張、左<sup>[40]</sup>,擅侈麗<sup>[41]</sup>之才,飾羽儀於鳳穴<sup>[42]</sup>。斯並高視當世,連衡孔門<sup>[43]</sup>。雖時運推移,質文屢變<sup>[44]</sup>,譬猶六代並凑<sup>[45]</sup>,易俗之

用無爽[46],九流[47]競逐,一致之理同歸[48]。歷選前英[49],於茲 爲盛[50]。

既而中州板撐<sup>[51]</sup>, 戎狄交侵, 僭偽相屬, 士民塗炭<sup>[52]</sup>, 故文章黜焉。其潛思於戰爭之間, 揮翰於鋒鏑之下, 亦往往而間出矣。若乃魯徽、杜廣、徐光、尹弼之疇<sup>[53]</sup>, 知名於二趙; 宋諺、封奕、朱彤、梁讜之屬<sup>[54]</sup>, 見重於燕、秦。然皆迫於倉卒,牽於戰爭。競奏符檄, 則粲然可觀<sup>[55]</sup>; 體物緣情, 則寂寥於世<sup>[56]</sup>。非其才有優劣, 時運然也。

至朔漠之地,蕞爾夷俗[57],胡義周之頌國都[58],足稱宏麗[59]。區區河右[60],而學者埓於中原,劉延明之銘酒泉[61],可謂淸典[62]。子曰:"十室之邑,必有忠信[63]。"豈徒言哉! 洎乎有魏,定鼎沙朔,南包河、淮,西吞關、隴。當時之士,有許謙、崔宏、崔浩、高允、高閭、游雅等[64],先後之間,聲實[65]俱茂,詞義典正[68],有永嘉之遺烈[67]焉。及太和[68]之辰,雖復崇尚文雅,方廢並路,多乖往轍[69],涉海登山,罕值良寶。其後袁翻[70]才稱澹雅,常景[71]思摽沉鬱,彬彬焉,蓋一時之俊秀也。

周氏創業,運屬凌夷[72],纂遺文於旣喪,聘奇士如弗及。是以蘇亮、蘇綽、盧柔、唐瑾、元偉、李昶之徒[73],咸奮鱗翼[74],自致青紫[75]。然綽建言務存質樸,遂糠粃魏、晉,憲章虞、夏[76]。雖屬詞有師古之美,矯枉非適時之用,故莫能常行焉[77]。旣而革車電邁[78],諸宮雲撤[79],爾其荆、衡杞梓[80],東南竹箭[81],備器用於廟堂者來矣[82]。唯王褒[83]、庾信,奇才秀出,牢籠於一代[84]。是時,世宗[85]雅詞雲委[86],滕、趙二王[87],雕章間發[88],咸築宮[89]虛館,有如布衣之交。由是朝廷之人,閭閣之士[90],莫不忘味於遺韻[91],眩精於末光。猶丘陵之仰嵩、岱,川流之宗溟渤也。然則子山之文,發源於宋末[92],盛行於梁季,其體以淫放為本,其詞以輕險為宗,故能誇目侈於紅紫,蕩心逾於鄭、衞[93]。

告楊子雲有言:"詩人之賦麗以則, 詞人之賦麗以程<sup>[84]</sup>。"若以庾 氏方之, 斯又詞賦之罪人也。

原夫文章之作,本乎情性[95],覃思[96]則變化無方,形言[97]則條流遂廣。雖詩賦與奏議異軫,銘誄與書論殊逡[98],而 撮其指要,舉其大抵,莫若以氣爲主[99],以文傳意。考其殿 最[100],定其區域,摭六經百氏之英華,探屈、宋、卿、雲[101]之祕 奧,其調也尚遠,其旨也在深,其理也貴當,其辭也欲巧[102]。然 後瑩金璧,播芝蘭,文質因其宜,繁約適其變。權衡輕重,斟酌古 今,和而能壯,麗而能典[103],煥乎若五色之成章,紛乎猶八音之 繁會。夫然,則魏文所謂通才足以備體矣[104],士衡所謂難能足 以逮意矣[105]。

中華書局排印本《周書》卷四十一

#### 【註釋】

- [1]令狐德棻(公元五八三——六六六年)——宜州華原人。高祖武德年代,官秘曹丞。太宗貞觀年代,封彭城子。高宗時,官至國子祭酒,進賢為公。曾修《周曹》。《新唐書》卷一百二、《舊唐書》卷七十三有傳。
- [2] 阿饒定位六句——阿饒,天地。這六句論文而推源到天文與人文,即是以文化 爲文,也即是以文化爲道,是一種文道合一的主張。這種理論,早見於《文心雕 龍·原道》: "日月迭壁,以垂麗天之象;山川煥綺,以鋪理地之形;此蓋道之文 也。""言之文也,天地之心哉!" 《北齊書·文苑傳序》: "夫玄象著明以察時變, 天文也;聖達立言化成天下,人文也。達幽顯之情,明天人之際,其在文乎?"以 文化論文,正是對六朝偏重形式的文學的一種救弊主張。
- [3]墳索——三墳、五典、八索、九丘的簡稱。這裏指《尚書》以前已經失傳的古籍。
- [4]典謨——《尚書》中有《堯典》、《皋陶謨》等篇,這裏泛指《尚書》篇章。
- [5] 曲阜句——指周公姫旦。周公封於曲阜,見《史記·魯周公世家》。《論語·泰伯》: "雖有周公之才之美。"
- [6] 鑒二代句——鑒,同監,意獨視。二代,夏、商。《論語·八佾》:"子曰:周監於二代,郁郁乎文哉。吾從周。"正其本,謂端正其治道之本。

- [7] 關里性與天道——關里,孔子故里,在曲阜,道裏指孔子。《論語·公冶長》: "子 實曰:夫子之文章,可得而聞也;夫子之言性與天道,不可得而聞也。"
- [8] 修六經以維其末——六經已是文字的記載, 比起性與天道, 只能算得是末。維, 維繫。
- [9]範圍天地——謂六經的內容,包括了天地間的一切。
- [10] 綱紀人倫——謂六經所說的道理是封建秩序的總綱。
- [11] 窮醉知化——竊盡神祕的道理,知道萬物變化發展的規律。
- [12] 稱首於千古——謂六經稱得上千古文章之首。
- [13] 經邦緯俗——謂錯綜着治國家正風俗的道理在內。
- [14] 藏用於百代——六經包藏着後代可以用來治天下的道理。
- [15] 七十義和——見本册《上吏部裴侍郎啓》註[6]。
- [17] 八儒——于張之儒、子思之儒、顏氏之儒、孟氏之儒、漆雕氏之儒、仲良氏之儒、孫氏之儒、樂正氏之儒。三墨——相里氏之墨、相夫氏之墨、鄧陵氏之墨。都見於《韓非子・顯學》。
- [18] 漆園——宋地名, 莊子曾為漆園吏。 黍谷——河北省山名, 鄒衍所居。
- [19] 雅點奧義——雅,《詩經》中有大、小雅,古人以爲是正聲。酷,古代一種訓誡勉勵的文告,《尚書》中有《康點》《酒點》。 這些篇章文義深奧,放說奧義。
- [20] 監發——煥發華美的詞彩。
- [21] 惻隱之美——《漢書・藝文志》: "大儒孫卿及楚臣屈原,離體憂國,皆作賦以 風, 成有惻隱古詩之義。"惻隱, 悲痛愁怨。
- [22] 追逸譽而亞其跡——遺句意指宋玉的嗣赋能追蹤屈原而成就較差。
- [23] 賦禮智――《禮》、《智》二賦,見《荀子·賦》篇。
- [24] 含章鬱起——含章, 文采內含。鬱, 盛貌。
- [25] 有觀敵之義——間宋、荀二家的賦。《漢書·藝文志》謂宋玉以下到揚雄的賦, "競爲侈麗聞行之詞,沒其風敵之義"。本文論點,與班氏相反,以宋玉與荀癎 並舉,就宋玉賦作如《風賦》等具有諷敵之義者立論。
- [26] 賈生洛陽才子——賈誼,洛陽人。
- [27] 陶鑄性量---- 獨言陶冶性情。
- [28]組織風雅——謂能運用國風大小雅的寫作精神從事創作。
- [29] 二馬——司馬遷、司馬相如。王——王褒。楊——楊,通揚,指揚雄。都是西

漢的作家。

- [30] 茲道愈屬——屬作動詞用。謂寫作辭賦的風氣越來越興盛。
- [32] 班——班固。傅——傅毅。張----張衡。蔡-----蔡邕。都是東漢的作家。
- [33] 當途——指三國的曹魏。《後漢書·袁術傳》: "又少見識書,官代漢者當途高, 自云名字應之。"李賢註: "當途高者,魏也。"
- [34] 蟲緣——指詞賦之類的作品。揚雄曾稱詞賦爲童子雕蟲篆刻,壯夫不爲。(見 《法書・吾子》)
- [85] 金行——指晉。五行,金、木、水、火、土。古代陰陽家認爲各個王朝各得五行之德以統治天下,或以相生立論,或以相尅立論。《文選》隨機《宣猷堂詩》李善注引程猗《說石圖》曰:"金者,晉之行也。"晉以金德王,所以說金行勃興。
- [36] 替——廢。
- [37] 曹----曹植。王----王粲。陳-----陳琳。阮-----阮瑀。
- [38] 宏衍——深廣。
- [39] 挺棟幹於鄧林——鄧林見本書第一册《詩品序》註[164]。曹、王諸人,都是建安文理的骨幹,故云。
- [40]潘——潘岳。陸——二陸: 陸機和陸雲。張——三張: 張敏、張協和張亢。 左——左思。
- [41] 侈麗——浮語華麗。
- [42] 飾羽儀於鳳穴——飾羽儀,謂修飾詞藻;鳳穴,指文理。太康時代,潘、陸諸入特 別重視文章外形的修飾,故云。
- [43] 連衡孔門---謂此諸人,都可接踵孔門文學之士。
- [44] 質文屋變——文代傳說,殷尙質,周尙文,各時代的風尙不同。例如本文前面 所述典謨以降到儒墨諸子,大都尙質;二馬、王、楊到潘、陸、張、左,又往往質勝 於文。就文章的角度說,質,指樸實的內容;文,指華麗的詞采。
- [45] 六代—— 菹夷指黄帝、彝、舜、禹、殷、周六代的音樂。 並湊, 同時合奏。 海, 聚。
- [46] 易俗之用無爽——《禮記·樂記》: "樂也者,……其感人深, 其移風易俗, 故先 王著其敦焉。"無爽, 無失。
- [47] 九流——儒家者流、道家者流、陰陽家者流、法家者流、名家者流、墨家者流、縱 横家者流、雜家者流、農家者流。 見《漢書・藝文志》。
- [48] 一致之理同歸——《易·聚辭下》: "天下同歸而殊途,一致而百慮。"一致之理,即是上文所云"經邦緯俗" "易俗之用"。

- [49] 前英——前代的優秀文人。
- [50] 於茲爲盛——指建安到西晉初年。
- [51] 板蕩——指西晉末及東晉民族混戰、國家分裂時期。《板》、《蕩》,《詩・大雅》 篇名。《毛詩序》: "《板》,凡伯刺厲王也。""《蕩》,召穆公傷周室大壤也。"
- [52] 塗炭------ 傷古文《尙書・仲虺之誥》: "民墜途炭。"途,泥。炭,火。謂人民陷於水深火熱的苦難之中。
- [53] **香散——仕前趙劉聰爲長史,見《晉書》卷一〇二《劉聰載記》。杜廣——**待考。 徐光———仕後趙石勒,見《晉書》卷一〇四《石勒載記》。尹弼——待考。
- [54]宋慈——待考。封奕——宇子專,渤海豬人。在前燕官太尉。見《古今圖書集成》引《前燕錄》。朱彤——京兆人。在前秦官祕書監、前將軍。見《古今圖書集成》引《前秦錄》。梁讜——宇伯言,略陽氏人。在前秦官侍中。見《古今圖書集成》引《前秦錄》。
- [56]體物緣情二句——虛機《文賦》:"詩緣情以綺靡,賦體物而瀏亮。"這二句謂當時北方沒有擅長詩賦的文學家出現。
- [57] 朔漠之地二句——指夏,建都統萬城(今陝西橫山)。蕞爾,小。
- [58] 胡義周之頌國都——胡義周,安定臨涇人。仕赫連勃勃爲祕書監。頌國都指《統 萬城功德銘》,見《晉書》卷一三〇《赫連勃勃載記》。《北史》三十四《胡方回傳》 以爲義周子方回所作。
- [59]宏麗——氣魄宏大,辭采華麗。
- [60] 河右——指西凉。初都敦煌,後遷酒泉。
- [61] 劉延明之銘酒泉——劉延明,敦煌人。歴仕西涼、北涼、北魏,官至樂平王從事中耶。《酒泉銘》已佚。《北史・劉延明傳》載延明有《靖恭堂銘》一卷。疑即是本文所指"銘酒泉"的文章。
- [62] 清典——雖使用典實,但不是辭藻濃到化不開。
- [63] 十室之邑二句----《論語・公冶長》: "子曰: 十室之邑, 必有忠信如丘者焉, 不如丘之好學也。"
- [64] 許謙——字元遜,代人。在北魏官至安遠將軍。《魏書》卷二十四有傳。崔宏——字玄伯,清河東武城人。在北魏官吏部尚書、天部大人。《魏書》卷二十四有傳。 崔浩——字伯淵,宏長子,在北魏官司徒。《魏書》卷三十五有傳。高允——字

伯恭,勃海人。在北魏官散騎常侍。《魏書》卷四十八有傳。高間——字閻士,漁陽雅奴人。在北魏官至太常卿。《魏書》卷五十四有傳。游雅-——字伯度,廣平任人。在北魏官至祕書監。《魏書》卷五十四有傳。

- [65] 聲實——擊,名聲。實,實學。
- [66] 嗣義典正——嗣, 指形式。義, 指內容。典, 指詞說, 正, 指義說。
- [67] 永嘉之遺烈——永嘉,晉懷帝年號,當公元三〇七至三一二年。永嘉以後,孫 綽、許詢等談玄的文章,語言比較質樸。北魏諸人的文風,跟它近似,所以說是 "有永嘉之遺烈焉"。
- [68] 太和——北魏孝文帝年號,當公元四七七至四九九年。
- [69] 方駿二句——方,並。駿,車駕三馬。路,車。往轍,前人已經走過的軌跡。這二句謂這一時期的文人作品,如果跟前賢比較起來,往往違反前賢創作的道路。即不能與前賢比並之意。
- [70] 袁翻——字景翔,陳郡項人。在北魏官至撫軍將軍。《魏書》卷六十九有傳。
- [71]常景——字永昌,涼州人。在北魏官至儀同三司。《魏書》卷八十二有傳。
- [72] 運屬凌夷----凌夷,衰頹之意。遺句謂國運當衰頹之際。
- [73] 蘇亮——字景順,武功人。在西魏官至侍中。《周書》卷三十八有傳。蘇綽——字令綽,武功人。在西魏官至大行臺度支尚書領著作彙司農廟。《周書》卷二十三有傳。盧柔——字子剛,涿人。在北周官至開府。《周書》卷三十二有傳。 唐蓮——字附璘,平壽人。在北周官至司宗中大夫兼內史。《周書》卷三十二有傳。元偉——字猷道,河南洛陽人。在北周官至襄州刺史,進位大將軍。《周書》卷三十八有傳。李昶——臨丘臨黃人。在北周官至甚州刺史。《周書》卷三十八有傳。
- [74] 咸舊鳞翼——古代傳說,謂江海魚集龍門下,能登上龍門的就化爲龍。 用來比喻仕宦得意。
- [75] 自致青紫——漢代丞相太尉用金印紫綬, 御史大夫銀印青綬。青紫, 用來指最 高的官位。
- [76] 然綽建言務存質模三句——《周書·蘇綽傳》:"自有晉之季,文章競爲浮華,遂成風俗。太祖(宇文泰)欲革其弊,因魏帝祭廟,羣臣畢至,乃命綽爲《大酷》,奏行之。……自是之後,文章皆依此體。"
- [77] 雖屬詞有師古之美三句——這三句說明蘇綽改革文體,用古奧的《尚書》體代 替駢文,更不適於用。因此,這一文體改革運動,並不能取得成功。
- [78] 草車電邁——草車,兵車。道句說西魏侵梁事。

- [79] 诸宫望撤——诸宫,楚别宫,在江陵。道句說西魏攻佔江陵。
- [80] 荆衡杞梓——《墨子·公翰》:"荆有長松、文梓、檀、枏、豫章。"
- [81] 東南竹箭----《爾雅·釋地》: "東南之美者,有會稽之竹箭焉。"
- [82] 備器用於廟堂者衆矣——這三句說江陵陷落以後,梁臣入北朝事。《周書·王 褒庾信傳》:"城陷,……褒與王克、劉穀、宗懍、殷不害等數十人俱至長安。"
- [83] 王褒——字子淵, 琅邪臨沂人。在梁官至吏部尚書左僕射。西魏攻陷江陵, 梁 元帝出降, 褒入北朝, 官至宜州刺史。
- [84] 牢籠於一代——包有一代文人之美。
- [85]世宗——北周明帝宇文毓。
- [86] 雲委---委, 積。
- [87] 滕趙二王——滕王, 宇文道; 趙王, 宇文招。
- [88] 雕章間發----雕章,雕飾詞藻的文章。間發,不斷寫出。
- [89] 築宮——燕昭王築碣石宮醴待賢士。
- [90] 閬閩之士——民間的文士。
- [91] 忘咏——《論語·述而》: "子在齊聞韶,三月,不知肉味,曰:不圖為樂之至於斯也。"
- [92] 發源於宋末——這句說明庾信"以淫放爲本,其詞以輕險爲宗"的文詞,導源於 劉宋的鮑照。可參照下一條註。
- [93] 其體以淫放爲本四句——蕭子顯《南齊書·文學傳論》:"次則發唱蕭挺,操調 險急,雖藻淫體,傾炫(顕倒迷眩)心魂,亦獨五色之有紅紫,八音之有鄭衞。斯 鮑照之遺烈也。"本文批判庾信的話,大致用蕭氏批判鮑照的文句。
- [94] 詩人之賦麗以則詞人之賦麗以淫——見揚雄《法言·吾子》。
- [95] 文章之作本乎情性——鍾樂《詩品序》: "氣之動物,物之感人,故搖蕩性情,形 諸舞詠。"劉勰《文心雕龍·體性》: "夫情動而言形,理發而文見。"又《知音》: "夫綴文者情動而辭發。"同樣闡述文學作品與性情的關係,但鍾氏認爲外界事 物激動了性情才發爲吟詠,而本文作者則是簡單地說寫作"本乎情性"。
- [96] 軍思---深思。
- [97] 形哲——《毛詩序》: "情動於中而形於营。"形言,謂表現爲書面語言。
- [98] 詩賦與奏職異彰銘誄與書論殊證——曹丕《典論·論文》: "夫文本同而末異: 蓋奏職宜雅,書論宜理,銘誄尙實,詩賦欲麗。"曹文是還兩句語意所本。彰,車後橫木。作為車的通稱,則是以局部代金體。還裏的異彰,則又引伸作不同的 道路解。

- [99]以氣爲主——曹丕《典論·論文》: "文以氣爲主。"氣的含義,屢見前註。
- [100] 考其殿最——見本書第一册《文賦》註[81]。
- [101] 卿雲——司馬相如,字長卿。揚雄,字子雲。
- [102] 其辭也欲巧----陸機《文賦》:"其會意也尙巧,其遺言也貴好。"
- [103] 麗而能典——典的意義相當於雅,相當於"麗以則"的則。"麗而淫"就不能雅。
- [104] 魏文所謂通才足以備體矣——曹丕《典論·論文》: "此四科(指奏議等四項)不 伺, 故能之者偏也; 唯通才能備其體。"
- [105] 土衡所謂雖能足以逮意矣——陸機《文賦》:"恆患意不稱物,文不逮意。蓋非知之難,能之難也。"

#### 【説明】

本文是機《宋書·謝靈運傳論》之後又一篇正史論贊中比較 全面地闡述文學理論的論文。

本文的主要論點,首先是闡述了文之本源,文爲道服務的主 張。其次是指出不同時代有不同文風:戰國以前的學術文章,質 勝於文;戰國以後的詞賦,文勝於質;而共同的作用在於"易俗"。 其三是指出文風的改革,應該與時代的發展要求相適應,反對盲 目崇古。其四是指出重文而無質的弊病。最後提出質文不可偏 廢這一寫作主張和通才標準。

魏、晉以來,在駢體文的領域裏,形成了頹靡文風,到了梁、 陳時代,越來越泛濫。北周顏之推、隋李諤先後提出革新文風的 主張,但都沒有接觸到改革駢文形式的問題。本文所闡述,基本 上沒有越出顏、李諧人論點的範疇,但它却比較系統地吸取了前 人文論的精神,揭示了文質並重的論旨。對當時不良文風的扭 轉,起了一定的作用。李延壽《北史·文苑傳》有很長的序文,絕 大部分就是本文的翻版。

# 附 錄

## 北齊書·文苑傳序(節錄)

#### [唐] 李百藥

夫玄象著明,以察時變,天文也;聖達立言,化成天下,人文也。達幽顯之情,明天人之際,其在文乎! 逖聽三古,彌綸百代,制體作樂,騰實飛擊,若或言之不文,豈能行之遠也?

子曰: "文王旣沒,文不在茲?"大聖踵武,邈將千載,其間英賢卓犖,不可勝紀,咸宜韜筆寢贖,未可言文,斯固"才難不其然也"。至夫游、夏以文詞擅美,顏回則庶幾將聖,屈、宋所以後塵,卿、雲未能輟簡。於是辭人才子,波駭雲屬,振鴻鷺之羽儀,縱雕龍之符采。人謂得玄珠於赤水,策奔電於崑丘,開四照於春華,成萬寶於秋實。

然文之所起,情發於中。人有六情,稟五常之秀;情感六氣,順四時之序。其有帝資縣解,天縱多能,擠黼黻於生知,問珪璋於先覺,譬雕雲之自成五色,猶儀鳳之冥會八音,斯固感英鹽以特達,非勞心所能致也。縱其情思底滯,關鍵不通,但伏膺無怠,鑽仰斯切,馳騖勝流,周旋益友,強學廣其聞見,專心屏於涉求,畫續飾以丹青,彫琢成其器用,是以學而知之,猶足賢乎已也。謂石為獸,射之洞開,精之至也;積歲解牛,砉然游刃,習之久也。自非渾沌無可鑿之姿,窮奇懷不移之情,安有至精久習而不成功者焉!

善乎! 魏文之著論也: "人多不強力, 貧賤則既於飢寒, 富貴則流於逸樂, 遂營目前之務, 而遵千載之功, 日月逝於上, 體貌衰於下, 忽然與萬物遷化, 斯志士大痛也。"……

中華書局排印本《北齊書》卷四十五

## 隋書·文學傳序

#### 〔唐〕魏 徵

《易》曰:"觀乎天文以察時變,觀乎人文以化成天下",《傳》曰:"言,身之文也,言而不文,行之不遠。"故堯曰"則天",表文明之稱;周云"盛德",著煥乎之美。然則文之爲用,其大矣哉! 上所以敷德教於下,下所以達情志於上。大則經緯天地,作訓垂範; 次則風謠歌頌,匡主和民。或離讒放逐之臣,塗窮後門之士,道轗軻而未遇,志鬱抑而不申,憤激委約之中,飛文魏闕之下,奮迅泥滓,自致青雲,振沈溺於一朝,流風聲於千載,往往而有。是以凡百君子,莫不用心焉。

自漢、魏以來,迄乎晉、宋,其體屢變,前哲論之詳矣。暨永明、天監之際,太和、天保之間,洛陽、江左,文雅尤盛。于時作者,濟陽江淹、吳郡沈約、樂安任昉、濟陰溫子昇、河間邢子才、鉅鹿魏伯起等,並學窮書圃,思極人文。 縟綵鬱於雲霞,逸響振於金石,英華秀發,波瀾浩蕩,筆有餘力,詞無竭源。 方諸張、蔡、曹、王,亦各一時之選也。聞其風者,聲馳景慕。

然彼此好尚, 互有異同: 江左宮商發越, 貴於淸綺; 河朔詞義貞剛, 重乎氣質。氣質則理勝其詞, 淸綺則文過其意。理深者便於時用, 文華者宜於歐歌。此其南北詞人得失之大較也。若能撥彼淸晉, 簡茲累句, 各去所短, 合其兩長, 則文質斌斌, 盡善盡美矣。

梁自大同之後,雅道淪缺,漸乖典則,爭馳新巧。簡文、湘東,啓其淫放;徐陵、庾信,分路揚鑣。其意淺而繁,其文匿而彩,詞尙輕險,情多哀思。 格以延陵之聽,蓋亦亡國之音乎! 周氏吞併梁、荆,此風扇於關右,狂簡斐然成俗,流宕忘反,無所取裁。 高祖初統萬機,每念斵彫爲樸,發號施令,咸去浮華。 然時俗詞藻,猶多淫麗,故憲臺執法,屢飛霜簡。 煬帝初智藝文,有非輕側之論,聲乎即位,一變其風。 其《與越公書》《建東都詔》《冬至受朝詩》及《擬飲馬長城窟》,並存雅體,歸於典制。 雖意在驕淫,而詞無浮蕩,故當時綴文之士,遂得依而取正焉。 所謂能言者未必能行,蓋亦君子不以人廢言也。 爰自東帝歸秦,逮乎靑蓋入洛,四隩咸暨,九州攸同。江、漢英鹽,燕、趙奇俊,並該天網之中,俱爲大國之寶。言刈其楚,片善無遺,潤木圓流,不能十數,才之難也,不其然乎! 時之文人,見稱當世,則范陽盧思道、安平李德林、河東薛道衡、趙郡李元操、鉅鹿魏澹、會稽處世基、河東柳晉、髙陽許善善心等,或鷹揚河朔,或獨步漢南,俱騁龍光,並驅雲路,各有本傳,論而敍之。其潘徽、萬壽之徒,或學優而不切,或才高而無貴任,其位可得而卑,其名不可堙沒,今總之於此,爲《文學傳》云。

中華書局排印本《隋書》卷七十六

# 史通·言語(節錄)

## [唐] 劉知幾[1]

蓋樞機之發,榮辱之主<sup>[2]</sup>。言之不文,行之不遠<sup>[3]</sup>。則知飾 嗣專對<sup>[4]</sup>,古之所重也。夫上古之世,人惟樸略<sup>[5]</sup>,言語難曉,訓 釋方通。是以尋理則事簡而意深,考文則詞難而義釋<sup>[6]</sup>,若《尚 書》載伊尹立訓、皋陶矢謨<sup>[7]</sup>、《洛誥》《康誥》《收誓》《泰誓》是也。 周監於二代,郁郁乎文<sup>[8]</sup>,大夫行人<sup>[8]</sup>,尤重詞命<sup>[10]</sup>。語微婉而多切,言流靡而不経<sup>[11]</sup>,若《春秋》載呂相絕秦<sup>[12]</sup>,子產獻捷<sup>[13]</sup>,滅孫諫君納鼎<sup>[14]</sup>,魏絳對戮揚干<sup>[15]</sup>是也。戰國虎爭,馳說雲湧,人持《弄丸》之辯,家挟《飛鉗》之術<sup>[16]</sup>,劇談者以譎誑<sup>[17]</sup>為宗,利口者以寓言<sup>[18]</sup>為主,若《史記》載蘇秦合從<sup>[19]</sup>,張儀連橫<sup>[20]</sup>,范睢反間以相秦<sup>[21]</sup>,魯連解紛而全趙<sup>[22]</sup>是也。遠漢、魏已降,周、隋而往,世皆尚文,時無專對<sup>[23]</sup>。運籌畫策,自具於章表;獻可替否<sup>[24]</sup>,總歸於筆札。宰我、子貢<sup>[25]</sup>之道不行,蘇秦、張儀之業遂廢矣。……是以歷選載言,布諸方冊,自漢已下,無足觀焉。

零夫戰國已前,其言皆可諷詠,非但筆削<sup>[28]</sup>所致,良由體質素美。何以覈諸?至如"鶉賁"<sup>[27]</sup>"鸛鴒"<sup>[28]</sup>,童豎之謠也。"山木"<sup>[29]</sup>"輔車"(輔原作轉,據浦氏求放心齋本改)<sup>[30]</sup>,時俗之諺也。"皤腹棄甲"<sup>[31]</sup>,城者之謳也。"原田是謀"<sup>[32]</sup>,輿人之誦也。斯皆芻詞<sup>[33]</sup>鄙句,猶能溫潤若此,況乎東帶立朝之士,加以多聞博古之識(識原作說,據浦本改)者哉?則知時人出言,史官人記,雖有討論潤色<sup>[34]</sup>,終不失其梗概者也。

夫三傳[35]之說,旣不習於《尚書》,兩漢之詞,又多違於《戰

策》[36],足以驗甿俗[37]之遞改,知歲時之不同。而後來作者,通 無遠識,記其當世口語,罕能從實而書,方復追效昔人,示其稽 古[38]。是以好丘明者,則偏模《左傳》,愛子長者,則全學《史公》。 用[39]使周、秦言辭,見於魏、晉之代,楚、漢應對,行乎宋、齊之日, 而偽修混沌[10],失彼天然,今古以之不純,眞偽由其相亂。故裴 少期譏孫盛錄曹公平素之語,而全作夫差亡滅之詞[41],雖言似 《春秋》,而事殊乖越[42]者矣。然自晉咸、洛[43]不守,龜鼎[44]南 遷,江左爲禮樂之鄉,金陵實圖書之府,故其俗猶能語存規 檢[45], 言喜風流, 顯沛造次[46], 不忘經籍。(原註: 若《梁史》載高 祖在圍中,見蕭正德而謂之曰:啜其泣矣,何嗟及矣。湘東王聞世子方等見 殺, 謂其次子賭曰: 不有其廢, 君何以與。皆其類也。) 而 史臣 修飾, 無 所 費功。其於中國[17]則不然:何者?於斯時也,先王桑梓[18],翦爲 聲貊[49],被髮左袵[50],充物[51]神州。其中辯若駒支[52],學如郯 子[53],有時而遇,不可多得。而彥鶯修偽國諸史[54],收、弘撰魏、 周書[55],(原註:收爲魏收,弘爲牛弘。)必諱(原作謂,據浦本校改) 彼夷晋,變成華語,等楊由之聽雀[58],如介葛之聞牛[57],斯亦可 矣。而於其間,則有妄益文彩,虛加風物,援引《詩》《書》,憲 章[58]《史》《漢》,遂使沮渠、乞伏[59],儒雅比於元封[80];拓跋、宇 文[61], 德音同於"正始"[62]。華而失實,過莫大焉。唯王、宋著 書, 敍元髙時事[83], (原註: 王,謂王邵也。宋,謂宋孝王也。邵撰《齊 志》,孝王撰《關東風俗傳》也。) 抗詞正筆,務存直道,方言世語,由 此畢彰。而今之學者,皆尤[84]二子,以言多滓穢,語傷淺俗。夫 本質如此, 而推過史臣, 猶鑑者見嫫母[65]多媸, 而歸罪於明鏡 也。又世之議者,咸以北朝衆作,周史[88]爲工,蓋賞其記言之 體,多同於古故也。夫以枉飾虛言,都損實事,便號以良直,師其 模楷, (原註:如周太祖實名黑獺,魏本索頭,故當時有童謠曰:狐非狐, 絡非絡, 燋梨狗子齒斷索。又曰: 獾獾頭團欒, 河中狗子破爾菇。又西帝下

韶陽齊神武,數其罪廿。睹如此事,難可棄遺。而周史以其事非雅,略而不 載。賴君懋編錄,故得權聞於後。其事不傳於北齊,因而埋沒不盡亦多矣。) 是以董狐、南史<sup>[87]</sup>,舉目可求,班固、華嶠<sup>[68]</sup>,比肩皆是者矣。 近有燉煌張太素<sup>[69]</sup>、中山郎餘令<sup>[70]</sup>,並稱述者,自負史才。郎 著《孝德傳》(原作《李傳》,據浦本校改),張著《隋後略》,凡所撰 今(原作人,據浦本校改)語,皆依做舊辭,若選言可以效古而書, 其難類者,則忽而不取,料其所棄(一作斥),可勝紀哉?

蓋江芈駡商臣曰:"呼! 役夫! 宜君王廢汝而立職[71]。"漢王怒酈生曰:"豎儒! 幾敗乃公事[72]。"單固謂楊(原作嵇,據浦本改)康曰:"老奴! 汝死自其分[78]。"樂廣數衞玠曰:"誰家生得寧馨兒[74]。"斯並當時侮嫚之詞,流俗鄙俚之說,必播以唇吻,傳諸諷誦,而世人皆以爲上之二言,不失淸雅,而下之兩句,殊爲魯樸者何哉? 蓋楚、漢世隔,事已成古,魏、晉年近,言猶類今,已古者卽謂其文,猶今者乃驚其質。夫天地長久,風俗無恆,後之視今,亦猶今之視昔。而作者皆怯書今語,勇效昔言,不其惑乎?……蓋善爲政者,不擇人而理,故俗無精盆,咸被其化。工爲史者,不選事而書,故言無美惡,盡傳於後。若事皆不認,言必近眞,庶幾可與古人同居,何止得其糟粕[75]而已。

中華會局影印明張之象刻本《史通》卷六

## 【註釋】

- [1] 劉知幾(公元六六一年——七二一年)——字子玄,彭城人。官至太子左庶子 療崇文館學士,貶安州別駕卒。曾修國史。著《史通》二十卷,共四十九篇,包 括內篇三十六篇(三篇已佚,存三十六篇),外篇十三篇。清人浦起龍校註疏 證,名《史通通釋》。紀昀整理,名《史通削繁》。《舊唐書》卷一百六十二、《新唐 書》卷一百三十二有傳。
- [2] 樞機之發榮辱之主——《易·繫辭上》:"言行,君子之樞機;樞機之發,榮辱之 主也。"樞機,用作言語的代詞。

- [3] 营之不文行之不遠——見本書第一册《文心雕龍·情乐》註[83]。
- [4]飾詞---修飾文詞。對---外交場合上的應對。
- [5] 模略——指生活模素簡單。
- [6] 義釋——釋,猶解,謂明也。事簡而意不深,則奪理之功未至; 嗣雖而意不解, 是考文之力不深。
- [7]矢謨——矢,陳。謨,謀。
- [8] 周監於二代二句——監,意猶視。《論語·八佾》: "子曰:周監於二代,郁郁乎 文哉。吾從周。"
- [9]行人——官名。《周禮》秋官有行人,管朝觀聘問。春秋戰國時期列國都有設置。
- [10] 嗣命——古代使節往來,相互應對的言詞。
- [11] 营流靡而不淫—— 語言流利漂亮而不過多。淫,多。
- [12] 呂相絕案——《左傳》成公十三年:"晉侯使呂相絕案",宣告伐案的原因。杜預 注:"呂相,魏錡子,蓋口宣己命。"
- [13] 子產獻捷——《左傳》發公二十五年: 鄭人伐陳,"鄭子產獻捷于晉, 戎服將事, 晉人問陳之罪"及"何故戎服",子產進行回答,說服了晉人,接受他的獻捷。
- [14] 臧孫諫君納鼎——《左傳》桓公二年:"夏四月,取郜大鼎于宋,戊申,納于大廟, 非禮也。"臧哀伯進行了諫勸。
- [15]魏絳對戮揚干——見《左傳》襄公三年。晉侯弟揚干的車子擾亂行列,魏絳戮 其僕。晉侯怒,欲殺魏絳。魏絳給晉侯書中說明自己治軍執法的責任,晉侯讀 了承認錯誤,並獎拔了魏絳。
- [16] 弄丸飛鉗——《文心雕龍·論說》:"轉丸騎其巧辭,飛鉗伏其精衡。"《轉丸》、 《飛鉗》都是《鬼谷子》篇名,內容歡辯難方衡。
- [17] 麟誑——詭詐欺騙。
- [18] 寓言——民間的寓言故事,或游說之士自己編造的寓言,借來說明道理。
- [19] 蘇秦合從----見《史記·蘇秦列傳》。蘇秦曾游說燕、趙、韓、魏、齊、楚六國合 從抗秦。
- [20] 張機連横---見《史記・張儀列傳》。張機曾游說魏、楚等國與秦國連橫, 拆散 六國之間的合從。
- [21] 范睢反間以相案——見《史記·范睢蔡澤列傳》。范睢游說案昭王奪穰侯的權。 被拜爲案相。
- [22] **營運解**紛而全趙——事載《史記・營仲連鄒陽列傳》,見本書第一册《文選序》 註[29]。

- [23] 專對——閻若璩《四書釋地又續》:"專,擅也。即《公羊傳》聘禮,大夫受命不受辭,出竟有可以安社稷利國家者,則專對之,可也。"
- [24] 獻可替否——建議可行的事,廢除不好的事。
- [25] 宰我子貢---《論語·先進》:"言語:宰我、子貢。"
- [26] \$\pmanuse \text{fill} --- \( \pmu \text{plin} \text{: '\text{\tin}\text{\tetx{\text{\texi\text{\text{\text{\text{\texi}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\
- [27] 鶉賁——《左傳》傳公五年:"童謠曰:'丙之農, 龍尾(尾星)伏辰(日月之會日辰。日在尾, 尾星伏不見)。均服(軍服)振振(盛), 取號之旂。鶉(星名)之費 賁(鳥星之體), 天策(星名)焞焞(無光)。火中(鶉火星正中)成軍(軍事有成功),號公其奔。'"
- [28] 關碼——《左傳》昭公二十五年: "……文武之世, 童謠有之, 曰: '鸛之鴿之(鸛鴿, 鳥名), 公出辱之。關鴿之羽, 公在外野, 往饋之馬。關鴿跌跌(跳躍), 公在草侯, 徵裹(袴) 與糯。鸝鵒之巢, 遠哉遙遙。稠父(昭公) 喪勞, 宋父(定公) 以驕。 鶺鴒黝鵒, 往歌來哭。""
- [29] 山木——《左傳》隱公十一年:"居懿有之曰:'山有木,工則度之。資有禮,主則 擇之。'"
- [30] 輔車——《左傳》傳公五年: "諺所謂'輔車相依, 脣亡齒寒'者, 其虞、虢之謂也。"
- [31] 醋腹棄甲——《左傳》宜公二年: "宋城,華元為植(將主),巡功。城者謳曰: '牌 (出目)其目,皤(大腹)其腹,棄甲而復。于思(多變)于思,棄甲復來。'"
- [32]原田是謀——《左傳》僖公二十八年:"……晉侯患之,聽輿人(衆人)之誦曰: '原田每每(草茂盛),舍其舊而新是謀。'"
- [33] 嗧詞——草野之詞。
- [34] 討論潤色——《論語·憲問》:"爲命,……世叔討論之,……東里子產潤色之。" 潤色,增飾文采。
- [35] 三傳——《春秋》傳有《左傳》《公羊傳》《穀梁傳》三家。
- [36] 戰策——即《戰國策》。
- [37] 甿俗——即民俗。
- [38] 示其稽古——謂表示他考古學問的淵博。
- [39] 用——以。
- [40] 偽修混沌——《莊子·天地》篇載孔子謂抱甕灌園不肯用機械的漢陰丈人是: "彼假修渾沌氏之術者也。"郭象註: "以其背今向古,羞爲世事,故知其非眞渾 沌也。"渾與混同。

- [41] 裴少期鬷孫盛二句——裴少期,名松之,劉宋時史學家。本字世期,唐人避諱作少期。曾註《三國志》。《魏武紀》註說:"孫盛《魏氏春秋》云:答諸將曰:'劉備,入傑也,將生憂寡入。'臣松之以為……凡孫盛制書,多用《左氏》以易舊文,……後之學者,將何取信哉?且魏武方以天下勵志,而用夫差分死之言,尤非其類。"按《左傳》哀公二十年載夫差語:"句踐將生憂寡人,寡人死之不得矣。"
- [42] 乖越——隔絕。
- [43] 咸洛——咸陽、洛陽。
- [44] 龜州——《後漢書・宦者傳》:"遂遷龜州。"李賢註:"龜州,國之守器,以喻帝位也。《尚書》曰:'寧王潰我大寶龜。'《左傳》曰:'鼎遷於商'也。"
- [45]規檢——規格。語存規檢,謂語言保持士大夫的風度。
- [46] 顯沛造次——流離倉猝。
- [47]中國——見本册《上吏部裴侍郎啓》註[9]。
- [48] 桑梓——郷土。
- [49] 剪為藝術——翦,盡。這句謂中原地區盡爲少數民族統治者佔領。
- [50] 被髪左袵――語見《論語・憲問》。我國古代某些少數民族的風俗和服裝式樣, 披髮衣襟向左。
- [51] 充物——充滿。
- [52] 辯若駒支——駒支,戎族人。他對晉范宜子申辯事,見《左傳》襄公十四年。
- [53] 郯子——春秋時郯國人,相傳為少皞氏後裔。孔子曾從學於郯子,事後對人 說: "吾聞之,天子失官,學在四夷,猶信。"事見《左傳》昭公十七年。
- [54] **彥蘭修僞國諸**史——崔鴻, 字彥蘭, 北魏東清河人。曾撰《十六國春秋》百卷, 今佚, 清人湯球有輯本。
- [55] 收弘撰魏周書——魏收撰《魏書》一百十四篇。牛弘撰《周史》,今亡。
- [56] 楊由之聽省——楊由,後漢蜀郡成都人,以大雀集於庫樓,知郡內當有小兵。 見《後漢書・方術傳》。
- [57] 介葛之聞牛——《左傳》僖公二十九年:"介葛盧聞牛鳴,日:'是生三犧,皆用之矣。其音云。'問之而信。"介,東夷國。葛盧,介君名。
- [58] 憲章——遵守其法制。
- [59] 沮渠乞伏——北涼國王沮渠氏,胡族。西秦國王乞伏氏,鮮卑族。
- [60]元封——漢武帝年號。
- [61] 拓跋宇文---北魏拓跋氏,鲜卑族。北周宇文氏,鲜卑族。
- [62] 德音同於正始——正始,三國時魏齊王芳年號。正始之音,指魏晉道一段時期

- 的學風和文風。《晉書·衞玠傳》:"不意永嘉之末,復聞正始之音。"《文心雕龍·明詩》:"乃正始明道,詩雜仙心。"參見本册《與東方左史虬修竹篇序》註[10]。
- [63] 王宋著書敘元高時事——王劭,字君慰,隋時官至祕書少監。著《齊書》紀傳百餘卷。《齊書》述高齊,宋書述元魏。二書今已亡佚。
- [64] 尤——責備。
- [65] 嫫母——古代醜女之稱,相傳爲黃帝之妃。
- [66] 周史——撰周史者, 北周時有柳虬領史事, 隋有牛泓著《周史》, 唐令狐德棻等 又因牛泓之曹撰《周曹》。《史通》中對這三家都有所評, 見《古今正史》、《雜說中》。
- [67] 董狐——春秋時晉國的史官。南史——春秋時齊國的史官。都以直筆著名。
- [68] 華幡----《隋書・經籍志》: "《後漢書》十七卷,本九十七卷,今殘缺,晉少府卿 華幡撰。"
- [69] 張太素——名大業,魏州繁水人,唐高宗時官東臺舍人,兼修國史。著《後魏書》 一百卷,《北齊書》二十卷,《隋書》三十二卷,《隋後略》十卷,《燉煌張氏家傳》二 十卷,今已亡佚。
- [70] 耶餘令——定州新樂人, 唐初官霍王府參軍, 改著作佐郎, 續梁元帝《孝德傳》 更撰《孝子後傳》三十卷, 今已亡佚。
- [71] 江半屬商臣四句——語見《左傳》文公元年。原文是:"江半怒曰:呼!役夫!宜 君王之欲殺女而立職也。"
- [72] 漢王怒酈生三句——《漢書·張良傳》載酈食其爲劉邦謀立六國後,未行,張良 痛論其不可,劉邦屬了酈生這兩句話。乃公,劉邦自稱。《史記·留侯世家》作 "而公"。乃、而,你。
- [73] 單固謂楊康三句——語見《三國志·魏書·王凌傳》註引《魏略》。單固、楊康都參與王凌、令狐愚的政治密謀,楊康揭露其事,單固被捕致死。"楊康自以白其事,冀得封拜,後以辭頗參錯,亦并斬。臨刑,俱出獄,固又屬康曰:'老奴,汝死自分耳。若令死者有知,汝何面目以行地下也。'"
- [74]樂廣數衞玠二句——浦起龍《史通通釋》: "《晉書·樂廣傳》: '廣,字彥輔,與王 行俱宅心事外,天下言風流者,王樂稱首焉。'《衞玠傳》: '玠, 字叔寶, 風神秀 異。妻父,即樂廣也。時謂婦公冰清,女壻玉潤。'按:二傳俱無寧馨兒語。其語令 見《王行傳》。行總角造山濤,濤嗟嘆,目而送之,曰: '何物老嫗,生寧馨兒。'《史 通》似誤。"寧馨,晉宋人常用語,猶云如此。
- [75] 得其糟粕——見《莊子》選篇。

#### 【説明】

《史通》是我國現存最早的一部系統闡述史學理論的名著。 它不僅在史學理論上,而且在文學理論上,和《文心雕龍》一樣, 作出了很大貢獻。它揚棄了初唐史家論文的折衷主張,進一步 對六朝駢文中不良傾向作了嚴正的批評。

古代史學與文學著作,往往相通。因此,《史通》全書如《言語》《浮詞》《敍事》《模擬》等篇,都涉及文學。六朝駢文中的頹靡之風,長期以來,波及各種著作的領域,劉知幾針對當時史學界存在的這種傾向,進行了批評。不愧是唐代古文運動的一個先驅。

關於文學作品中語言運用問題,過去存在兩派不同的主張: 一派主張語言必須雅馴,非先秦經籍所有的不敢登諸簡冊;一派 主張語言必求近眞,反對依做舊辭。《史通》的《言語》篇,主張後 一派意見。

本文對照秦、漢以前和魏、晉以後兩種不同的書面語言的現象。首先闡明遠古時代文字簡樸,春秋戰國以降,嗣令已重文飾,但民謠俗諺,掇詞鄙句,經過加工提鍊,載在方冊的,往往保存着民間語言體質素美的面貌,書面語言與口頭語言的距離,比較接近。從魏、晉到南北朝,是一個分水嶺。用古語以代替今嗣,成爲時代風尚,華而失實,書面文字與口頭語言的距離,越來越遠。作者着重指出當時用古代今的兩種錯誤,卽是事實乖遠與華夷混淆。而評論家由於缺乏正確認識,因而得出了錯誤的論斷,鄙夷口語而崇尙文飾。

本文立論雖是對歷史著作而發,但適用於文學作品。當時 盲目模仿古代言語的人們,"已古者卽謂之文,猶今者乃驚其 質",作者對他們進行了批判,認爲"天地長久,風俗無恆,後之視 今,亦猶今之視昔,而作者皆怯書今語,勇效昔言,不亦惑乎?"儘管《史通》作者本身的創作實踐,還不能完全去掉六朝人所謂"典雅"的駢文氣息,跟自己所提倡的崇今存在一些距離,但不可否認,這種見解,不僅在當時有它的進步意義,而且對後代也有一定的影響。晚清提倡詩界革命的黃遵憲在《雜咸》詩中所說的一套理論,作者在一千幾百年以前即已提出,雖然歷史條件不同,但應該予以足够的重視。

# 附 錄

# 史通·雜說中(選錄)

## [唐] 劉知幾

或問曰: 王劭《齊志》多記當時鄙言,爲是乎? 爲非乎? 對曰: 古往今來,名目各異,區分壤隔,稱謂不同。所以晉、楚方言,齊、魯俗語,六經諸子賦之多矣。自漢已降,風俗匱遷,求諸史籍,備覩其事。或君臣之目,施諸朋友;或奪官之稱,屬諸君父;曲相崇敬,標以處士王孫;輕加侮辱,號以僕夫舍長。亦有荆楚訓多爲夥;廬江目橘爲圯;南呼北人曰愴;西謂東胡曰廣;渠們底箇,江左彼此之辭;乃若君卿,中朝汝我之義。斯並因地而變,隨時而革,布在方册,無假推等。足以知毗俗之有殊,驗土風之不類。然自二京失守,四夷稱制,夷夏相雜,晉句尤媸。而彥鸞、伯起,務存隱諱(謂長爲藏,蓋爲姚萇諱),重規、德棻,志在文飾,遂使中國數百年內,其俗無得而冒。蓋語曰: "知古而不知今,謂之陸沉。"又曰: "一物不知,君子所恥。"是則時無遠近,事無互細,必藉多聞,以成博識。如今之所謂者,若中州名漢,關右稱羌,易臣以奴,呼母云姊,主上有大家之號,師人致兒郎之說,凡如此例,其流甚多。必尊其本原,莫詳所出,閱諸《齊志》,則了然可知。由斯而冒,劭之所錄,其爲弘益多矣。足以開後進之蒙蔽,廣來者之耳目。徼君懋,吾幾面牆於近事矣。而子奈何妄加義謂者哉!

中華書局影印明張之象刻本《史通》卷十七

## 史通・雑説下(選錄)

## 〔唐〕劉知幾

昔劉勰有云:"自卿、淵已前,多役才而不課學;向、雄已後,頗引書以助文。"然近史所載,亦多如是。故雖有王平所識,僅通十字;霍光無學,不知一經,而述其言語,必稱典誥,良由才乏天然,故事資虛飾者矣。

按:《宋書》稱武帝入關,以鎮惡不伐遠方,馮異於渭濱遊覽,追想太公。 夫以宋祖無學,愚智所委,安能援引古事,以酬答羣臣者乎?斯不然矣。更 有甚於此者,覩周、齊二國,俱出陰山,必言類互鄉,則字文尤甚。而牛弘、 王劭,並掌策審,其載齊言也,則殘俗如彼;其載周言也,則文雅若此。夫如 是,何哉? 非兩邦有夷夏之殊,由二史有虚實之異故也。夫以記字文之言, 而動道經典,多依《史》《漢》,此何異莊子述鮒魚之對,而辯類蘇、張,賈生敍 鵬鳥之辭,而文同屈,宋、施於寓言則可,求諸實錄則否矣。

世稱近史編語,唯周多美辭。夫以博採古文,而聚成今說,是則俗之所傳,有《雜九錫》《酒孝經》《房中志》《醉鄉記》,或師範五經,或規模三史,雖文皆雅正,而其事悉虛無。豈可便謂南、董之才,宜居班、馬之職也。

自梁室云季,雕蟲道長。平頭上尾,尤忌於時,對語麗辭,盛行於俗。始自江外,被於洛中。而史之載言,亦同於此。假有辨如鄭叟,吃若周昌,子羽修飾而冒,仲由率爾而對,莫不拘以文禁,一概而書。必求實錄,多見其妄矣。

中華會局影印明張之象刻本《史通》卷十八

## 南陽樊紹述墓誌銘(節錄)

## 〔唐〕韓 愈

蟬隱廬影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷三十四

# 史通·叙事(節錄)

## [唐] 劉知幾

夫敍事之體,其流甚多,非復片言所能觀樓<sup>[1]</sup>,今軱區分類聚,定爲三篇,列之於下。

夫國史之美者,以敍事爲工;而敍事之工者,以簡要爲主。 簡之時義大矣哉!

歷觀自古,作者權輿<sup>[2]</sup>,《尚書》發蹤,所載務於寡事;《春秋》 變體,其言貴於省文。斯蓋澆淳殊致,前後異跡<sup>[3]</sup>。然則文約而 事豐,此述作之尤美者也<sup>[4]</sup>。

始自兩漢, 迄乎三國, 國史之文, 日傷煩富。逮晉已降, 流宕 逾遠。尋其宂句(尋字前原有必字, 據浦本校刪), 摘其煩詞, 一行 之間, 必謬增數字; 尺紙之內, 恆虛費數行。 夫聚蚊成雷, 羣輕折 軸<sup>[5]</sup>, 況於章句不節, 言詞莫限, 載之兼兩<sup>[8]</sup>, 曷足道哉!

蓋敍事之體,其別有四:有直紀其才行者,有唯書其事跡者,有因言語而可知者,有假讚論而自見者。至如古文《尚書》,稱帝堯之德,標以"允恭克讓"[7]。《春秋左傳》,言子太叔之狀,目以"美秀而文"[8]。所稱如此,更無他說,所謂直紀其才行者。又如《左氏》載申生爲臟姬所潛,自縊而亡[9]。《班史》稱紀信爲項籍所圍,代君而死[10]。此則不言其節操,而忠孝自彰,所謂唯書其事跡者。又如《尚書》稱武王之罪紂也,其《智》曰:"焚炙忠良,刳剔孕婦[11]。"《左傳》紀隨會之論楚也,其詞曰:"華輅藍樓,以啓山林[12]。"此則才行事跡,莫不闕如,而言有關涉,事便顯露,所

謂因言語而可知者。又如《史記・衞靑傳》後,太史公曰:蘇建管 貴大將軍不薦賢待士[18]。《漢書·孝文紀》末,其讚曰: "吳王詐 病不朝,賜以几杖[11]。"此則記之與傳,並所不書,而史臣發言, 別出其事,所謂假讚論而自見者。然則才行、事跡、言語、讚論, 凡此四者,皆不相須[16],若無而畢書,則其費尤廣。(原註:近史 紀傳欲晉人居哀毀損,則先云至性純孝;欲言人晝夜觀書,則先云篤志好 學; 欲替人赴敵不顧,則先云武藝絕倫; 欲替入下筆成篇,則先云文章敏速; 此則旣述才行,又彰事跡也。如《穀梁傳》云:"驪姫以耽爲酒,藥脯爲毒,獻 公曰: 奚來? 鹽姫曰: '世子以祀,故致福在君。'君將食之, 鹽姫跪曰: '食自 外來者,不可不試也。'殭酒於地而地墳,以脯與犬,犬斃。驪姫下堂而啼, 呼曰: '天乎! 天乎! 吾君之國,子之國也,子何逼乎爲君?'"又《體記》云: "陽門之介夫死,子罕哭之甚哀。晉人之覘宋者反報於晉侯曰:'陽門之介 夫死,而子罕哭之哀,而民說,殆不可伐也。'"此則旣載事跡,又載言語也。 又近代諸史,人有行事美惡皆已具其紀傳中,續以論讚,重述前事,此則才 行事跡紀傳已書,論讚又載也。) 但自古經史,通多此類,(原註:《公》 《梁》《體》《新序》《說苑》《戰國策》《楚漢春秋》《史記》迄於皇家所撰五代史 皆有之。)能獲免者,蓋十無一二。(原註:惟左邱明、裴子野、王劭無此 也。)

又般事之省,其流有二焉:一曰省句,二曰省字。《左傳》宋華耦來盟,稱其先人得罪於宋,"魯人以爲敏"[18]。(原註: 魯人,間鈍人也。《禮記》已有註解。)夫以鈍者稱敏,則明賢達所嗤,此爲省句也。《春秋經》曰:"隕石於宋,五[17]。"夫聞之隕,視之石,數之五,加以一字太詳,減其一字太略,求諧折中,簡要合理,此爲省字也。其反於是者,若《公羊》稱邓克眇,季孫行父秃,孫良夫跛,齊使跛者逆跛者,秃者逆秃者,眇者逆眇者[18]。蓋宜除"跛者"已下句,但云各以其類逆。必事加再述,則於文殊費,此爲煩句也。《漢書・張蒼傳》云:"年老口中無齒[19]。"蓋於此一句之內,去"年"及"口中"可矣。夫此六文成句,而三字妄加,此爲煩字

也。然則省句爲易,省字爲難,洞識此心,始可言史矣。若句盡餘賸,字皆重複,史之煩蕪,職由於此。

蓋餌巨魚者,垂其千釣,而得之在於一筌<sup>[20]</sup>。捕高鳥者,張 其萬置<sup>[21]</sup>,而獲之由於一目<sup>[22]</sup>。夫敍事者,或虛益散辭,廣加閑 說,必取其所要,不過一言一句耳。苟能同夫獵者漁者,旣執而 置釣,必收其所留者,唯一筌一目而已,則庶幾駢枝盡去,而塵垢 都捐,華逝而實存,滓去而瀋在矣! 嗟乎! 能損之又損,而玄之 又玄,輪扁所不能語斤<sup>[23]</sup>,伊擊所不能言鼎也<sup>[24]</sup>。右簡要

夫飾言者爲文,編文者爲句; 句積而章立,章積而篇成。篇 目旣分,而一家之言備矣。……

自聖賢述作,是曰經典,句皆韶夏<sup>[25]</sup>,言盡琳瑯,秩秩德音<sup>[26]</sup>,洋洋盈耳<sup>[27]</sup>。譬夫游滄海者,徒驚其浩曠;登太山者,但 嗟其峻極。必摘以尤最,不知何者爲先?

然章句之言,有顯有晦。顯也者,繁詞縟說,理盡於篇中;晦也者,省字約文,事溢於句外。然則晦之將顯<sup>[28]</sup>,優劣不同,較可知矣<sup>[29]</sup>。夫能略小存大,舉重明輕,一言而巨細咸該,片語而洪纖靡漏,此皆用晦之道也。

昔古文義,務卻浮詞。《虞書》云:"帝乃殂落,百姓如喪考妣<sup>[30]</sup>。"《夏書》云:"啓呱呱而泣,予不子<sup>[31]</sup>。"《周書》稱"前徒倒戈,血流漂杵"<sup>[32]</sup>。《虞書》云:"四罪而天下咸服<sup>[33]</sup>。"此皆文如闊略,而語實周膽,故覽之者初疑其易,而爲之者方覺其難,固非雕蟲小技所能斥非其說也。旣而丘明受經,師範尼父<sup>[34]</sup>。夫經以數字包義,而傳以一句成言,雖繁約有殊,而隱晦無異。故其綱紀而言邦俗也,則有士會爲政,"晉國之盜奔秦"<sup>[35]</sup>;"邢遷如歸,衞國忘亡"<sup>[36]</sup>。其款曲而言人事也,則有"使婦人飲之酒,以犀革裹之, 比及宋, 手足皆見"<sup>[37]</sup>;"三軍之士, 皆如挾纊"<sup>[38]</sup>。斯

皆言近而旨遠, 辭淺而義深, 雖發語已殫, 而含意未盡。使夫讀者, 望表而知裏, 捫毛而辨骨, 覩一事於句中, 反三隅於字外。晦之時義, 不亦大哉!

洎班、馬二史,雖多謝五經,必求其所長,亦時值斯語。至若高祖亡蕭何,"如失左右手"[39]; 漢兵敗績,"睢水爲之不流"[40]; 董生"乘馬三年,不知牝牡"[41]; 翟公之門,"可張雀羅"[42],則其例也。

自茲已降,史道陵夷,作者蕪音累句,雲蒸泉湧。其爲文也, 大抵編字不隻,捶句皆雙,修短取均,奇偶相配。故應以一言蔽 之者,輒足爲二言,應以三句成文者,必分爲四句,瀰漫重沓,不 知所裁。是以承祚受責於少期<sup>[43]</sup>,(原註:《魏書·鄧哀王傳》曰: "容貌姿美,有殊於衆,故特見寵異[明刻本無此九字,非]。"裴松之註云: "一類之言,而分爲三,亦敍事之屬一病也。")子昇取譏於君懋<sup>[44]</sup>,(原 註:王劭《齊志》曰:"時議恨邢子才不得掌興魏之書,悵快;溫子昇亦若此,而撰《永安記》率是支[明刻本支作六,疑是大字]言。")非不幸也。

蓋作者言雖簡略,理皆要害,故能疎而不遺,儉而無關。譬如用奇兵者,持一當百,能全克敵之功也。若才乏儁穎,思多昏滯, 費詞旣甚,稅事纔周,亦猶售鐵錢者,以兩當一,方成貿遷之價也。……是則一貴一賤,不言可知,無假推揚,而其理自見矣。 右隱晦

昔文章既作, 比與由生, 鳥獸以嫓賢愚, 草木以方男女, 詩人 騷客, 言之備矣。

洎乎中代,其體稍殊,或擬人必以其倫,或述事多比於古。當 漢氏之臨天下也,君實稱帝,理異般、周,子乃封王,名非魯、衞。 而作者猶謂帝家爲王室,公輔爲王臣; 盤石加建侯之言,帶河申 俾侯之稱[45]。而史臣撰錄,亦同彼文章,假託古詞,翻易今語, 潤色[46]之濫, 萌於此矣!

降及近古,彌見其甚。至如諸子短書,雜家小說,論逆臣則呼爲"問鼎"[47],稱巨寇則目以"長鯨",邦國初基,皆云"草昧",帝王兆跡,必號"龍飛"[48]。斯並理兼諷諭,言非指斥,異乎游、夏措辭,南、董顯書之義也[49]。如魏收《代史》[50],吳均《齊錄》[51],或牢籠一世,或苞舉一家,自可申不刊之格言,弘至公之正說,而收稱劉氏納貢,則曰來獻百牢[52],均敍元日臨軒,必云朝會萬國。夫以吳徽魯賦,禹計螸山[53],持彼往事,用爲今說,置於文章則可,施於簡冊則否矣。

亦有方以類聚,譬諸昔人,如王隱稱諸葛亮挑戰,"冀獲曹符之利"[54];崔鴻稱慕容沖見幸,爲"有龍陽之姿"[55]。其事相符,言之讜矣。而盧思道稱邢邵喪子不慟,自東門吳已來,未之有也[56];李百藥稱王琳雅得人心,雖李將軍恂恂善誘,無以加也[57]。斯則虛引古事,妄足庸音,苟矜其學,必辨而非當者矣!

昔《禮記·檀弓》,工言物始。夫自我作故,首創新儀,前史所刊,後來取證。是以漢初立轉,子長所書[58];魯始爲髦,丘明是記[59];河橋可作,元凱取驗於《毛詩》[60];男子有笄,伯支遠徵於《內則》[61]。即其事也。案裴景仁《秦記》,稱苻堅方食,撫盤而詬。王劭(原作邵)《齊志》,述受紇洛干咸恩,脫帽而謝。及彥鸞撰以新史,重規删其舊錄,乃易"撫盤"以"推案"[62],變"脫帽"爲"兔冠"[63]。夫近世通無案食,胡俗不施冠冕,直以事不類古,改從雅言,欲令學者何以考時俗之不同,察古今之有異?

·····至如翼犍,魏道武所諱[84],黑賴,周文本名[85],而伯起革以他語,德棻闕而不載[86]。蓋尨(原作厖,據《左傳》校改)降、蒯聵,字之媸也;重耳、黑臀[87],名之鄙也,舊皆列以三史,傳諸五經,未聞後進談講,別加刊定。況齊丘之犢,彰於載讖,(原註:杜臺鄉、齊記》載讚云:"首牛入西谷,逆犢上齊丘"也。)河邊之狗,著於

謠詠, (原註: 王劭《齊志》載謠"貓貓頭團團,河中狗出破爾苑"也。) 明如日月, 難爲蓋職。此而不書,何以示後?

亦有氏姓本複,減省從單[88],或去"万紐"而留"于",或止存 "狄"而除"犀"[89],求諸自古,罕聞茲例。

昔夫子有云:"文勝質則史。"故知史之爲務,必藉於文。自 五經已降,三史而往,以文敍事,可得言焉。而今之所作,有異於 是。其立言也,或虛加練飾,輕事雕彩;或體兼賦頌,詞類俳優; 文非文,史非史。譬夫烏孫造室,雜以漢儀<sup>[70]</sup>,而刻鵠不成,反 類於鶩<sup>[71]</sup>者也。右妄飾

> 中華會局影印明張之象刻本《史通》卷六 多以梁溪浦氏求放心療本《史通通釋》

#### 【註稿】

- [1] 關纖——細緻地加以論述。觀,通作羅。
- [2]權與---始也。
- [3] 澆淳殊致前後異跡——澆,薄。淳,厚。二句意謂,《尚書》和《春秋》的時代不同,上古社會淳樸,人事單純,後來就繁複起來了,所以《尚書》可以"寡事",而《春秋》只能"省文"。說明了文體演變的時代性。
- [4] 然則文約而事豐此述作之尤美者也——意謂社會人事是一天比一天繁複的, 後來的史家應該作到文辭簡約而內容豐富,這是著述的最高標准。然則,作然 而解。
- [5] 聚蚊成雷暴輕折軸——是說許多小的聲音,可以匯成大的聲響;許多輕的東西 堆在車上,也能壓斷車軸。用以比喻個別的字句不節省,就會形成繁冗蕪雜的 篇章。兩句都是用成語,上句見《漢書・中出清王傳》,下句見《戰國策》。
- [6] 戴之兼兩——《後漢書·吳祐傳》: "此書若成,則載之兼兩。"彙,倍。兩,車輛。
- [7] 尤恭克讓——《尚書·堯典》:"日若稽古帝堯曰放勵,欽明文思安安,尤恭克讓,光被四表,格于上下。……"《傳》:"尤,信。克,能。"
- [8] 美秀而文——《左傳》襄公三十一年: 鄭"子產之從政也, 擇能而使之, 馮簡子能 斷大事, 子太叔美秀而文, ……"
- [9]為關姬所謂自縊而亡——事見《左傳》當公四年。申止,晉獻公太子,鹽坻,獻

公妃。飁姬誣陷申生企圖毒死獻公。有人勸申生作辯白,申生說:"君非姬氏, 居不安,食不飽。我辭,姬必有罪,君老矣,吾又不樂。"又不肯出走,自縊 于新城。

- [10] 為項籍所國代君而死——事見《漢書·高帝本紀》。項羽圍漢滎陽,紀信冒充 漢王劉邦出降,劉邦因得脫逃,紀信被項羽燒殺。
- [11] 焚炎忠良刳剔孕婦——見僞古文《尚書·泰誓上》。《傳》: 忠良無罪,焚炎之; 懷子之婦,刳剔視之; 言暴虐。
- [12] 華輅藍織以啓山林——《左傳》宜公十二年樂書說:"楚自克庸(國名)以來,其 君無日不討(治理)國人而訓之,……訓之以若敖、蚡冒(二人皆楚先君), 蓽路 (柴車,路通輅)藍縷(破衣),以啓(開發)山林。……"興書和隨會都是晉國大 夫,二人都諡武子,這裏誤把樂書作隨會。
- [13] 蘇建營費大將軍不薦賢待士——這句是作者綜括《史記·衞將軍·驃騎列傳》 費的大意,並非原文。大將軍,指衞青。
- [15] 皆不相須——是說四種寫法,都可獨立見義,有了這樣,不必再要那樣。須,等 待。
- [16] 替人以為敏——"左傳"文公十五年: "宋華耦來盟, ……公與之宴, 辭曰: '君之失臣督, 得罪於宋殤公, 名在諸侯之策, 臣承其祀, 其敢辱君? 請承命於亞旅。' 替人以為敏。"杜預注: "無故揚其先祖之罪, 是不敏, 替人以為敏, 明君子所不與(贊許)也。"
- [17] 隕石於宋五——見《左傳》傳公十六年。杜預註:"隕,落也。闡其隕,觀之石, 數之五,各隨其聞見先後而記之。"
- [18] 公羊稱郄克眇六句——見《公羊傳》成公二年,原文和濱裏所引文字有很大的 出入。又《穀梁傳》成公元年也有關於濱事的記載,文字亦不盡同。
- [19] 年老口中無齒——今本《漢書·張蒼傳》無"年老"二字。又《史記·張丞相列傳》無"年"字,可能是唐時寫本如此,或係作者誤記。
- [20] 签——捕魚的竹器。
- [21] 置——獵人用的網。
- [22] 一目——《淮南子·說山酆》:"有鳥將來,張羅而待之,得鳥者,羅之一目也。" 醫本此。

- [23]輪厲不能語斤——事見《莊子》選駕。語斤,談斷輪的技術。
- [24] 伊摯不能官照——伊摯,即伊尹。照,古代所用烹飪工具。官照,談烹調技術。 《呂氏春秋・孝行覽・本味》: "(伊尹)對曰: '……鼎中之變,精妙微纖,口弗能官,志不能喩。……'"
- [25] 韶夏——古樂章名。
- [26] 秩秩德音——用《詩三百篇》成語, 見《秦風·小戎》: "厭厭良人, 秩秩德音。" 注: "厭厭,安靜也; 秩秩,有知也。"
- [27] 洋洋盈耳——用《論語》成語,見《泰伯》: "子曰:'師摯之始,《關雎》之亂,洋洋 乎盈耳哉!'"
- [28] 晦之將顯---將, 猶與也。
- [29] 較可知矣---較然可知矣的略文。較然,明顯的樣子。
- [80] 帝乃殂落二句——見《書·堯典》。殂落,死去。
- [31] 啓呱呱而泣二句——寫大禹治平洪水,公而忘私的情形。見《書·阜陶謨》(寫 古文《益稷》)。《傳》: "啓,禹子也。禹治水過門不入,闡啓泣聲,不暇子名之。"
- [82] 前徒倒戈二句——寫周武王伐紂時的情况。見僞古文《書·武成》:"罔有敵于我師,前徒倒戈,攻于後以北,血流漂杵。"《傳》:"紂衆服周仁政,無有戰心,前徒倒戈,自攻于後以北走,血流漂春杵,甚言之。"
- [83]四罪而天下咸服——見《書·堯典》。舜流共工於幽州,放膽兜於崇山,寫三苗 於三危,殭蘇於羽山。四罪,謂處理上面所說的四個罪人。
- [84]尼父——見本書第一册《文選序》註[27]。
- [85] 士會為政二句——《左傳》宜公十六年: 晉"命士會將中軍,且為大傅,於是晉國 之盗逃奔于秦。"
- [36] 那遍如歸二句——見《左傳》閔公二年。邢、衞兩國智一度滅亡,因齊桓公而復 建國。桓公遷邢於夷儀,封衞於楚邱。兩句寫二國遷都時的情况。
- [37] 摩革裹之三句——《左傳》莊公十二年: "宋萬弑閔公於蒙禪,……奔陳。……陳 人使婦人飲之酒,而以犀革裹之,比及宋,手足皆見。……"菹裏是說從"手足皆 見"四字就寫出宋萬的勇力過人。
- [38] 三軍之士皆如挾續——《左傳》宜公十二年:"楚子伐蘭,……申公巫臣曰:'師人多寒。'王巡三軍,拊而勉之,三軍之士,皆如挾續。""如挾續",溫暖得像穿上新縣一樣。
- [39] 高祖亡蕭何如失左右手——見《史記·淮陰侯列傳》: "(韓)信數與蕭何語,何 奇之。至南鄭,諸將行道亡者數十人,信度何等已數言上(劉邦),上不我用,卽

- 亡。何聞信亡,不及以聞,自迫之。人有言上曰:'丞相何亡。'上大怒,如失左右手。"
- [40] 漢兵敗續睢水爲之不流——見《史記·項羽本紀》: 楚軍追擊漢軍"至重璧東睢 水上,漢軍却,爲楚所擠,多殺。漢卒十餘萬人皆入睢水,睢水爲之不流。"
- [41] 董生乘馬三年不知牝牡——董生,董仲舒。意謂真心動學,不知外事。《太平 御覽》刑法部引《漢書》,稱董子"十年不親闡,乘馬三年,不知牝牡。"今《史記· 董仲舒傳》並無乘馬語。《漢書·董仲舒傳》亦無此語。
- [42] 種公之門可張雀羅——《史記·汲黯鄭當時傳》: "始程公為廷尉,賓客闐門,及廢,門外可設雀羅。……"按:以上所舉四例,象見於班固《漢書》,故本文總提"班馬二史"。
- [43] 承祚受責於少期——見本册《三國志·魏志》卷二十《鄧哀王傳》裴松之註引。 陳壽字承祚,晉人,撰《三國志》。少期是裴松之的字,見《史通·官語》註[41]。
- [44] 君慰——王劭字君慰。
- [45] 盤石二句——盤石,指國基的鞏固。《荀子》:"國安於盤石。"帶河,帶礪河山的略文。《史記·高祖功臣侯者年表》:"封韶之誓曰:使河如帶,泰山若厲;國以永寧,爰及苗裔。"盤石和帶河是古時封建列國時策文中常用的套語。二句意謂漢朝以後,列國的君主有王囂,而封國的策文仍襲用殷、周舊例,稱之爲侯。
- [46] 潤色——增美其文辭,使有色彩可觀。潤,修飾。《論語·憲問》: "······東里子 產潤色之。"
- [47] 問期——《左傳》宜公三年: "……(周)文王使王孫滿勞楚子,楚子問鼎之大小輕重焉。"九鼎傳說是夏禹所鑄,殷、周以來,被認爲象徵政權的神器,問鼎,有 奪取政權之義。
- [48] 龍飛——古代以龍爲君主之象,«易·乾卦»有"飛龍在天"的話,故用之於帝王 之創業。
- [49] 游夏措辭南董顯書之義——指史家據事實錄之義。《史記·孔子世家》說孔子作《春秋》,"游、夏之徒,不能贊一詞"。游,子游,曾偃的字; 夏,子夏,卜商的字,在孔門中都以文學見長。南董見本册《史通·曾語》註[67]。
- [50]代史——即《魏書》。北魏初期國號代。
- [51] 齊錄——《梁書·文學傳》說吳均著有《齊春秋》三十卷,當即遭裏所說的《齊錄》。原書已佚,下文所云"朝會萬國",不可考。
- [52] 來獻百年——《魏書·世祖紀》: "(太平眞君)十一年,……義隆(宋文帝)使獻百年,賈其方物。"道裏譏笑他模擬春秋時吳徽魯賦的舊文。《左傳》其公七年:

- "夏,公會吳于鄫,吳來歡百牢。"牢,供宴會祭祀用的牲畜。
- [53] 周計途山----《左傳》哀公七年:"禹合諸侯於途山,執玉帛者萬國。"計,指統計 與會國的數字。
- [54] 王體稱諸萬亮挑戰二句——王隱,字處叔,晉元帝時人,著有《晉書》,今佚。這裏所舉句例,孫盛《晉陽秋》有同樣的記載:"諸萬亮寇於郿,據渭水南原, 韶使高祖(司馬懿)指之。……亮雖挑戰,或遺高祖巾幗。巾幗婦女之飾,欲以激怒, 冀獲曹告之利。……"(見《世說新語·方正篇》劉孝標註引)曹告,楚國的大司馬,楚漢戰爭時,項羽令他謹守成皋,不要與漢兵接戰,後因不能忍受挑戰的侮辱,波汜水廳戰,半波被漢兵擊敗,自殺。事見《史記·項羽本紀》。
- [55] 崔鴻稱慕容沖見幸二句——《太平御覽》卷五七〇引崔鴻《十六國春秋》:"初, 苻堅二十五年滅慕容沖,……冲時年十二,亦有龍陽之美,堅又幸之。"《戰國 策·魏策:"魏王與龍陽君共船而釣,……(龍陽君)對曰:'……今以臣凶惡, 而得為王拂枕席。'"所以後來都以龍陽作為男寵的代稱。
- [56] 盧思道稱那邵喪子不慟二句――見《北齊書・邢邵傳》。東門吳,戰國時魏人, 喪子不憂事,見《戰國策・秦策》。按《北齊書》的作者爲李百樂。《隋書・經籍 志》載思道有《知己傳》一卷。邢邵事應在《傳》內。
- [57] 李百樂稱王琳雅得人心三句――《北齊書·王琳傳》: "輕財愛士,得將卒之心。……觀其誠信感物,雖李將軍之恂恂善誘,殆無以加焉。"李將軍,指李廣。 見《史記・李將軍列傳》。
- [58] 漢初立轄二句——韓,通樹。《漢書·高帝紀》:"八年冬……十一月,令士卒從 軍死者爲檔歸其縣,縣給衣衾棺葬具。"槽,小棺。此文不見《史記》,子長應作 孟堅。
- [59] 魯始為鑿二句——《左傳》襄公四年: "邾人、莒人伐鄫,臧紇救鄫,侵邾,敗於狐 鮐,國人從喪者皆鑿,魯於是乎始髽。"髽是用麻和頭變編結在一起。因為死者 多而一時又辦不齊喪服,所以採用這種誌哀的辦法,後來就成為社會流行的 風俗。
- [60]河橋可作二句——《晉書·杜預傳》: "預又以孟津渡險,有覆沒之患,請建河橋 於富平津。鸛者以為: '殷、周所都,歷聖賢而不作者,必不可立故也。'預曰: '造 舟爲梁,則河橋之謂也。'"元凱,杜預的字。"造舟爲梁"見《詩、大雅、大明》。
- [61] 男子有笄二句——《魏書·劉芳傳》载王肅說:古者唯婦人有笄,男子則無。引《喪服》"男子冠而婦人笄"爲證。劉芳學《禮記·內則》:"子事父母,難初鳴,櫛續籍。"證明男子有笄。伯支,劉芳的字,見《北史》。《魏書》作伯文。

- [62] 易撫盤以推案——裴景仁的《秦記》及彥蘭的《新史》(即崔鴻的《十六國春秋》)。原書現均佚。揚球《三十國春秋輯本》載裴景仁《秦記》:"苻堅討姚萇於北地,斷其運水之路。人有渴死者,俄而降雨於萇營,營中水深三尺,周營百步之外,寸餘而已,於是萇軍大振。堅方食,撫盤而詬曰:'天其無心,何故降澤賊營!"註:"《史通》六引裴景仁《秦記》稱,苻堅方食,撫盤而詬。"又湯球《十六國春秋輯補·前秦錄》七作"堅方食去案,怒曰:天其無心,何故降澤賊營!"
- [63] 變脫帽為兔冠——重規,李百藥的字。王劭著《齊書》紀傳百餘卷。本文所稱《齊志》,當即是《齊書》,原書已佚,原文無可考。李百藥《北齊書·万俟普傳》:"子洛,字受洛干。……高祖……嘗親扶上馬。洛兔冠稽首曰:'顧出死力,以報深恩。'"
- [64] 翼键魏道武所諱——什翼键姓拓跋氏,自稱代王,是北魏開國之主,後追諡為 高祖昭成帝。太祖道武帝拓跋珪是他的孫子,故稱"道武所諱"。
- [65] 黑獺周文本名——周文,北周文帝宇文泰。黑賴是他的小名(《周書·文帝紀》 說"字黑獺")。
- [66] 伯起革以他語二句——伯起,魏收的字,《魏書》的作者。德棻,《周書》的作者令狐德棻。按翼键和黑賴並見今本上述二史,置真說"革以他語"、"闕而不载",未知何據。余嘉錫《四庫提要辨證》:"詳其語意,蓋謂當稱名之處,則闕而不载。"
- [67] **尨**降——古帝堯時八愷(八位賢人)中的一人。蒯聵——衞莊公名。重耳——晉文公名。黑臀——晉成公名。
- [68] 氏姓本復二句——《通鑑釋例》:"魏之羣臣出代北者皆復姓,孝文遷洛,改爲單姓。史患其煩,皆從後姓。"
- [69] 去万紐而留于二句——万紐于是三字復姓, 簡作于; 狄犀是兩字復姓, 簡作狄。
- [70] 烏孫造室雜以漢儀——烏孫,當作龜茲。《漢書·西域傳》: "龜茲王治宮室,……如漢家儀。"雜以漢儀,猶言雜以漢制。這句意思是說,各個民族都有自己的建築風格,硬學他族,就會弄得不倫不類,用以比喻史傳文之"體彙賦頌"。
- [71] 刻鵠不成反類於驚——語本馬接《戒兄子嚴敦書》: "所謂刻鵠不成尙類鶩者也。"見《後漢書·馬接傳》而略變其意。

## 【説明】

史傳文的文學意義往往體現在敍事上。本篇專就這一問題加以論述。

首先,作者認爲史傳文是隨着時代的發展而發展的,社會生活一天比一天豐富;而"敍事之工,以簡要爲主"。如何統一兩者之間的矛盾,不在於"寡事",而在於"省文",於是"文約而事豐",就成爲衡量敍事才能的標準。

要做到"文約而事豐",作者指出應該從兩方面着手:一是就表現方法而言,則"敍事之體,其別有四";一是就修辭技巧而言,則"敍事之省,其流有二"。關於前者,或"直紀才行",或"唯書事跡",或"因言語而可知",或"假論讚而自見",只須根據實際情況,靈活採用其中一種方法,不可"無而畢書";關於後者,則"省句爲易,省字爲難"。只有消滅了剩句餘字,才能保證史傳文語言的純潔性。

根據"尙簡"的原則,文中進一步提出了"用晦"之義。所謂 "晦",指的是"言近而旨遠,嗣淺而義深"的境界。這不僅要掌握 "省文約文"的方法,而且要從紛繁的事象中找出最有特徵性的 東西,顯示出高度的概括性和表現力。這樣,"文如闊略,語實周 贍",才可使讀者"望表而知裏,捫毛而辨骨"。

最後, 說明"史之爲務, 必藉於文", 文和史有不可分割的關係; 同時指出史傳文和一般文學作品在體制上的區別: 對史傳文的要求來說, 它必須忠實紀錄歷史事實, 而不可"虛加練飾, 輕事雕彩"。他分析了後來史傳文"日傷繁富"的原因: 一方面, 由於受到"編字不隻, 捶句皆雙"的駢體文的限制, 從語言結構上擴大了文章的篇幅; 另一方面, 由於文人修史, 愛尙詞華, 往往追求文字典雅, "假託古詞, 翻易今語", 弄得"體兼賦頌, 詞類俳優", 失去了鮮明的時代色彩, 不能描繪出真實的歷史面貌。

在本文裏,劉知幾不僅從史傳文的角度一般地批判了長期流行的華而不實的文風,而且由內容到形式,從形式的本身否定了駢體文的體制。後來韓愈、柳宗元反駢尚散的古文運動,在文

體改革方面,是要求書面語言比較接近於口語,自如地表達思想感情,生動而逼真地描繪現實生活。這一理論,劉知幾已開其端。雖然他的作品,並沒有能够實踐自己的主張,還存在着如文中所設諷的"應以一言蔽之者,輒足爲二言"那樣的情況,然而他的論證則頗能命中要害。

為了闡明"尚簡"之說與"用晦"之義,劉知幾從正反兩面舉 出許多生動的例子,具體地講到文章作法的問題,對後來也有一 定的影響。清代桐城派所講的"古文義法",像方苞的《左傳義法 舉要》就是採取這種方式來論文的。但劉知幾畢竟是史論家,對 語言藝術的多樣性認識不足,因而篇中所論,也不免有刻舟求劍 之弊。

# 附錄

# 史通・雑説上(選錄)

## [唐] 劉知幾

孟堅又云:劉向、揚雄博極羣書,皆服其(指司馬遷)善敍事。豈時無英秀,易爲雌霸者乎?不然,何虚譽之甚也!《史記·鄧通傳》云:"帝崩,景帝立。"向若但云"景帝立",不言"文帝崩",斯亦可知矣,何用兼書其事乎?又《倉公傳》稱其"傳黃帝扁鵲之脈書,五色診病,知人死生,決嫌疑,定可治。召問其所長,對曰:傳黃帝扁鵲之脈書",以下他文,盡同上說。夫上旣有其事,下又載其言,言事雖殊,委曲何別?按遷之所述,多有此額,而劉、揚服其善敍事也何哉?

太史公撰《孔子世家》多探《論語》舊說,至《管晏列傳》則不取其本書,以爲時俗所有,故不復更載也。案《論語》行於講肆,列於學官,重加編勒, 祗覺煩費。如管、晏者, 諧子雜家, 經史外事, 葉而不錄, 實杜異聞。夫以可

除而不除,宜取而不取,以茲著述,未覩厥義。……

司馬遷《序傳》云: "爲太史七年而遭李陵之禍,幽於裸魏,廼喟然而歎曰:是予之罪也,身虧不用矣!"自敍如此,何其略哉! 夫云遭李陵之禍,幽於裸魏者,乍似同陵陷沒,遂寘於刑,又似爲陵所間,獲罪於國,遂令讀者難得而詳。賴班固載其《與任安書》,書中具述被刑所以。儻無此錄,何以克明其事者乎?

中華書局影印明張之象刻本《史通》卷十六 会以梁溪浦氏求放心齊本《史通通釋》

## 史 通・載 文(節錄)

#### [唐] 劉知幾

失觀乎人文,以化成天下; 觀乎國風,以察興亡。是知文之爲用,遠矣 大矣。若乃宜、僖善政,其美載于周詩,懷、襄不道,其惡存於楚賦; 讀者不 以吉甫、奚斯爲詔,屈平、宋玉爲謗者,何也? 蓋不虛美不隱惡故也。是則 文之將史,其流一焉,固可以方駕南、董,俱稱良直者矣。

\*\*\*\*\*\*

且漢代詞賦,雖云虛矯,自餘他文,大抵猶實。至於魏、晉已下,則僞謬 雷同。推而論之,其失有五:一曰虛設,二曰厚顏,三曰假手,四曰自戾,五曰一概。……考茲五失,以奪文義,雖事皆形似,而言必憑虛。夫鏤冰爲璧,不可得而用也;豐地爲餅,不可得而食之,是以行之於世,則上下相蒙;傳之於後,則示人不信。

中華書局影印明張之桑刻本《史通》卷五

## 日知錄·文章繁簡

#### [淸] 顧炎武

韓文公作《樊宗師墓銘》曰:"維古於辭必己出,降而不能乃剽賊,後皆 指前公相襲,從漢迄今用一律。"此極中今人之病。若宗師之文,則懲時人 之失而又失之者也。作書須注,此自秦、漢以前可耳。若今日作書而非注 不可解,則是求簡而得繁,兩失之矣。子曰:"辭達而已矣。"

辭主乎達,不論其繁與簡也。繁簡之論與,而文亡矣。《史記》之繁處必勝於《漢書》之簡處。《新唐書》之簡也,不簡於事而簡於文,其所以病也。

"時子因陳子而以告孟子,陳子以時子之言告孟子",此不須重見而意 已明。"齊人有一妻一妾而處室者。其良人出,則必饜酒肉而後反。其妻問所 與飲食者,則盡富貴也。其妻告其妾曰:良人出,則必饜酒肉而後反。問其 與飲食者,盡富貴也,而未嘗有顯者來。吾將瞷良人之所之也。""有饋生魚 於鄭子產,子產使校人畜之池。校人烹之,反命曰:始舍之圉圉焉,少 則洋 洋焉,悠然而逝。子產曰:得其所哉!得其所哉!校人出曰:孰謂子產智, 予既烹而食之,曰得其所哉!得其所哉!"此必須重疊而情事乃盡。此孟子 文章之妙,使入《新唐書》,於齊人則必曰其妻疑而瞷之,於子產則必曰校人 出而笑之,兩言而已矣。是故辭主乎達,不主乎簡。劉器之曰:《新唐書》敍事 好簡略其辭,故其事多鬱而不明,此作史之病也。且文章豈有繁簡耶?昔 人之論謂如風行水上,自然成文,若不出於自然,而有意於繁簡,則失之矣。 當日進《新唐書》表云:"其事則增於前,其文則省於舊。"《新唐書》所以不及 古人者,其病正在此兩句也。

《黄氏日鈔》言蘇子由《古史》改《史記》多有不當,如《樗里子傳》,《史記》曰: "母,韓女也。樗里子滑稽多智。"《古史》曰: "母,韓女也。滑稽多智。"似以母爲滑稽矣。然則樗里子三字其可省乎?《甘茂傳》,《史記》曰: "甘茂者,下蔡人也。事下蔡史舉學百家之說。"《古史》曰: "下蔡史舉學百家之說。"《古史》曰: "下蔡史舉學百家之說。"《古史》曰: "下蔡史舉學百家之說。"《古史》曰: "下蔡史學學百家之說。"《古史》曰: "下蔡史學學百家之說。"《古史》曰: "下蔡史學學百家之說。"《古史》曰: "下蔡史學學百家之說。"《以史學自學百家矣。然則事之一字其可省乎?以是知文不可以

《日知錄集釋》卷十九

## 文 說 三

#### 〔淸〕焦 循

夫謂文無深與博,亦卽無所爲簡。行千里者以千里爲至,行一里者以一里爲至。《左氏春秋》,一人之筆也,或一二言而止,或連篇累牘,千百言而不止。一二言未嘗不足,千百言未嘗有餘。災變戰伐下至瑣褻猥鄙之事,無不備載。未聞徒舉其大端,而屏其細,故以爲簡也,而文自簡明。康海作《武功志》,不管殘磚敗瓦,而處人於荒村僻巷間也。而說者稱羨之,良可怪矣!

《文選樓養書》本《雕菰樓集》卷十

## 文史通義·古文十弊(節錄)

## 〔淸〕章學誠

一曰:凡為古文辭,必先識古人大體,而文辭工拙又其次焉。不知大體,則胸中是非不可以憑,其所論次未必俱當事理,而事理本無病者,彼反見為不然而補救之,則率天下之人而禍仁義矣。……無故自生嫌疑,特添注以斡旋其事,方自以謂得體,而不知適如冰雲肌膚剜成瘡痏,不免愈濯愈痕 瘢矣。人苟不解文辭,如遇此等,但須據事直書,不可無故妄加雕飾。妄加雕飾,謂之"剜肉爲瘡",此文人之通弊也。

二曰:《春秋》書內不諱小惡。歲寒知松柏之後彫,然則欲表松柏之貞,必明霜雪之厲,理勢之必然也。自世多嫌忌,將表松柏而又恐霜雪懷慚,則觸手皆荆棘矣。但大惡諱,小惡不諱。……人非聖人,安能無失! 古人敍一人之行事,尙不嫌於得失互見也;今敍一人之事,而欲顧其上下左右前後之人皆無小班,雜矣! 是之謂"八面求圓",又文人之通弊也。

三曰: 文欲如其事,未閒事欲如其人者也。曾見名士爲人撰誌,其人蓋 有朋友氣誼, 誌文乃倣韓昌黎之誌柳州也,一步一趨,惟恐其或失也。中間 感動世情反覆,已覺無病費呻吟矣。……是之謂"削趾適履",又文人之通 弊也。

四曰:仁智爲聖,夫子不敢自居;瑚璉名器,子貢安能自定!稱人之 善,尙恐不得其實;自作品題,豈宜誇耀成風耶!·····是之謂"私署頭衡",又 文人之通弊也。

五曰: 物以少爲貴,人亦宜然也。天下皆聖賢,孔孟亦弗尊尙矣。……豈可見奄寺而頌其不好色哉! 山居而貴薪木,涉水而寶魚蝦,人知無是理也,而稱人者乃獨不然。是之謂"不達時勢",又文人之通弊也。

六曰: 史旣成家, 文存互見, ……非惟命意有殊, 抑亦詳略之體所宜然也。若夫文集之中, 單行傳記, 凡遇牽聯所及, 更無互著之篇, 勢必加詳, 亦其理也。但必權其事理足以副乎其人, 乃不病其繁重爾。……故凡無端影附者, 謂之"同里銘旌", 不謂文人亦效之也! 是又文人之通弊也。

七曰:陳平佐漢,志見社內;李斯亡秦,兆端廁鼠;推微知著,固相士之玄機;搜間傳神,亦文家之妙用也。但必得其神志所在,則如圖畫名家,賴上妙於增毫。苟徒慕前人文辭之佳,強轉猥瑣以求其似,……行文貪多務得,明知贅餘非要,卻為有益後世,推求不憚辭費。……夫傳人者文如其人,述事者文如其事,足矣。其或有關考徵,……要必本質所具;即或閒情逸出,正爲阿堵傳神。不此之務,但知市菜求增,是之謂"畫蛇添足",又文人之通弊也。

八曰:文人固能文矣,文人所書之人,不必盡能文也。敍事之文,作者之言也,爲文爲質,惟其所欲,期如其事而已矣。配言之文,則非作者之言也,爲文爲質,期於適如其人之言,非作者所能自主也。……與其文而失實,何如質以傳眞也。由是推之,名將起於卒伍,義俠或奮閻閻,言辭不必經生,記述貴於宛肖。而世有作者,於斯多不致思,是之謂"優伶演劇"。蓋優伶歌曲,雖耕氓役隸,矢口皆叶宫商,是以謂之戲也。而記傳之筆,從而效之,又文人之通弊也。

九曰: 古人文成法立, 未管有定格也。傅人適如其人, 述事適如其事,

無定之中有一定焉。知其意者,且暮遇之。不知其意,襲其形貌,神弗肖也。……整師講授《四書》文義,謂之時文,必有法度以合程式。而法度難以空言,則往往取譬以示蒙學。擬於房室,則有所謂間架、結構;擬於身體,則有所謂眉目、筋節;擬於繪畫,則有所謂點腈、添毫;擬於形家,則有所謂來龍、結穴。隨時取譬,習陋成風,然爲初學示法,亦自不得不然,無庸實也。惟時文結習,深錮腸腑,進親一切古書古文,皆此時文見解,動操墊師啓蒙議論,則如用象棋枰布圍棋子,必不合矣。是之謂"井底天文",又文人之通弊也。

十曰: 時文可以評選, 古文經世之業, 不可以評選也。前人業評選之, 則亦就文論文可耳。……有明中葉以來, 一種不情不理, 自命為古文者, 起不知所自來, 收不知所自往, 專以此等出人思議, 誇為奇特, 於是坦蕩之塗生荆棘矣。夫文章變化, 侔於鬼神, 斗然而來, 戛然而止, 何嘗無此景象?何嘗不爲奇特? 但如山之巖峭, 水之波瀾, 氣積勢盛, 發於自然。必欲作而致之, 無是理矣。文人好奇, 易於受惑, 是之謂"誤學邯鄲", 又文人之通弊也。

嘉業堂本《章氏遺書》卷二《文史通義》

# 與東方左史虬修竹篇序凹

## 〔唐〕陳子昂[2]

東方公足下:文章道弊五百年矣。漢、魏風骨<sup>[3]</sup>,晉、宋莫傳,然而文獻有可徵者。僕嘗暇時觀齊、梁間詩,彩麗競繁,而興寄<sup>[4]</sup>都絕,每以永歎。思古人常恐逶迤頹靡,風雅不作,以耿耿也<sup>[5]</sup>。一昨於解三處見明公《詠孤桐篇》<sup>[6]</sup>,骨氣端翔<sup>[7]</sup>,音情頓挫<sup>[8]</sup>,光英朗練<sup>[9]</sup>,有金石聲。遂用洗心飾視,發揮幽鬱。不圖正始之音<sup>[10]</sup>,復觀於茲,可使建安作者相視而笑。解君云:"張茂先<sup>[11]</sup>、何敬祖<sup>[12]</sup>,東方生<sup>[13]</sup>與其比肩。"僕亦以爲知言也。故感歎雅制,作《修竹詩》一篇,當有知音以傳示之。

《四部襲刊》影明本《陳伯玉文集》卷一

## 【註釋】

- [1]東方虬——《全唐詩小傳》:"東方虬,武則天時爲左史。"按:《全唐詩》收其《昭君怨》三首、《春雪》一首。
- [2]陈子昂(公元六六一年——七〇二年)——字伯玉,梓州射洪人。唐光宅進士,官至右拾遺。有《陳拾遺集》十卷。《舊唐書》卷一九〇、《新唐書》卷一〇七有傳。
- [4] 興奇——指文章有深刻的含義。興,即比奧的表現手法; 奇,指有所寄託。
- [5] 思古人三句——意思說,思念古人,因而想到當今之文風,恐怕衰落頹廢下去, 從此不見風雅,心有不安。
- [6] 詠孤桐篇——今已佚。
- [7] 骨氣端翔——端,指骨格的堅實;翔,指氣勢的飛動。

- [8]音情頓挫----詩的音節抑揚頓挫,感情波瀾起伏。
- [9]光英期練--作品的光彩,明期皎潔。
- [10] 正始之音——正始,魏齊王芳年號(公元二四〇至二四八年)。作為文學史上的所謂正始時代,是泛指魏王朝後期的。代表作家有何晏、阮籍、嵇康。這裏所說"正始之音",指的是嵇、阮的詩。《世說新語·賞譽》云: "不意永嘉之末,復聞正始之音。"那是指玄談,與此文所云,含義不同。《文心雕龍·明詩》: "乃正始明道,詩雜仙心,何晏之徒,率多浮淺。唯嵇志清嫂,阮旨遙深,故能標焉。" 嵇、阮的詩都在一定程度上暴露了當時上層社會的黑暗,表達作家對現實的不滿,和建安作者的精神是一致的。
- [11] 張茂先——即張華,晉初著名詩人。有集十卷。丁福保收其詩入《全晉詩》卷 二。
- [12]何敬祖——即何劭,晋初人,有集二卷。丁福保收其詩入《全晉詩》卷二。
- [13] 東方生——即東方虬。

### 【說明】

在我國古代詩歌史上,兩晉、南北朝一部分交人的作品,具有偏重形式、內容空虛、脫離現實的不良傾向,違背《詩三百篇》和漢樂府的傳統精神,離開建安到正始諸家的創作軌道。齊梁時期的理論家劉勰與鍾嶸反對這種詩風,雖然作出了很大的努力,但他們的進步理論,在當時沒有引起詩人們的足够重視。因此,這一鬥爭還有待於後人作進一步的努力。初唐四傑,在詩歌創作和理論方面,初步有所革新,但自覺地提出比較明確的文學主張的,應該說是從陳子昂開始的。

《與東方左史虬修竹篇序》,是陳子昂詩歌理論的一個綱領。 在這篇短文裏,他肯定了風雅、漢魏詩歌的進步傳統,指出了 晉、宋以來"文章道弊"、"彩麗競繁"的弊病。他着重提出"風骨" 和"與寄"兩個問題,企圖從精神上去變革五百年來的詩風。所 謂"風骨",就是健康的內容與生動有力的語言形式相統一。所 謂"與寄",是"託物起與"、"因物喻志"的表現方法。二者是《詩 三百篇》到正始詩歌的優良傳統所在,作家企圖以此去影響當時的詩壇。

在本篇中,顯然可以看出,作者傾向於繼承"晉宋莫傳"的 "漢、魏風骨",在於使"正始之音復覩於茲","建安作者相視而 笑"。這一面塗着復古色彩的革新旗幟,是爲了借鑑建安、正始詩 人的五言古詩和提倡以與寄爲主的表現方法。陳子昂的創作, 不論是《修竹篇》或《咸遇》詩,都實踐了這一主張,因而起到給 唐代詩壇開一代新風的作用。陳子昂這種主張,影響了同時的 張九齡等人,到李白、杜甫,則更髙地舉起了詩歌革新的旗幟,後 來,白居易、元稹等人進一步開展新樂府運動,從理論上、實踐上 總結發揚進步詩歌理論的傳統,把唐代詩歌推向更大的繁榮。

陳子昂是唐代詩歌革新運動的倡導者。他的理論和創作對齊、梁以來的不良詩風,起了"橫制頹波"的作用,產生出"天下翕然,質文一變"(盧藏用《陳子昂文集序》語)的影響。"國朝盛文章,子昂始高蹈"(韓愈《萬士》詩)。"論功若準平吳例,合著黃金鑄子昂"(元好問《論詩絕句》)。韓愈、元好問對他的推崇,雖然有些過分,但也說明了他在詩歌理論和創作史上的重要地位。

## 附錄

### 右拾遺陳子昂文集序

### 〔唐〕盧藏用

告孔宜父以天縱之才,自衞返魯,乃刪《詩》《書》,述《易》道而作《春秋》,數千百年,文章粲然可觀者也。孔子歿二百歲而騷人作,於是婉麗浮侈之法行焉。漢與二百年,賈誼、馬遷爲之傑,憲章禮樂,有老成人之風。長卿、子雲之儔,瑰詭萬變,亦奇特之士也。惜其王公大人之言,溺於流辟而不顧。其後班、張、崔、蔡、曹、劉、潘、陸,隨波而作,雖大雅不足,其遺風餘烈,尙

有典型(原作刑,據《全唐文》卷二百三十八校改)。宋、齊已來,蓋顯領逶迤, 陵頹流露,至於徐、庾,天之將喪斯文也。後進之士,若上官儀者,繼踵而生, 於是風雅之道掃地盡矣。

易曰:"物不可以終否,故受之以泰。"道喪五百歲而得陳君。君諱子昂,字伯玉,蜀人也。崛起江漢,虎視函夏,卓立千古,橫制頹波,天下翕然,質文一變。非夫岷、峨之精,巫、廬之靈,則何以生此!故其(原作有,據《全唐文》卷二百三十八校改)諫諍之辭,則爲政之先也;昭夷之碣,則議論之當也;國殤之文,則大雅之怨也;徐君之議,則刑禮之中也。至於感激頓挫、微顧闡幽,庶(原作度,據《全唐文》卷二百三十八校改)幾見變化之朕,以接乎天人之際者,則《感遇》之篇存焉。觀其逸足駸駸,方將摶扶搖而凌太清,獵遭風而薄嵩、岱。吾見其進,未見其止。惜乎! 凐厄當世,道不偶時,委骨巴山,年志俱夭,故其文未極也。

嗚呼! 聰明精粹而淪剝,貪叨桀驁以顯榮。天乎! 天乎! 吾殆(原作始,據 〈全唐文〉卷二百三十八校改)未知夫天焉。昔嘗與余有忘形之契,四海之 內,一人而已。良友殁矣,天其喪予。今採其遺文可存者,編而衣之,凡十 卷。恨不逢作者,不得列於詩人之什,悲夫! 故粗論文之變而爲之序。至於 王霸之才,卓犖之行,則存之別傳,以繼於終篇云耳。黃門侍郎盧蔽用撰。

《四部襲刊》影明本《陳伯玉文集》卷首

### 古風二首

### 〔唐〕李 白

大雅久不作,吾衰竟誰陳?王凤委蔓草,戰國多荆榛。龍虎相啖食,兵 戈逮狂秦。正聲何微茫,哀怨起騷人。揚、馬激頹波,開流蕩無垠。廢興雖 萬變,憲章亦已淪。自從建安來,綺麗不足珍。聖代復元古,垂衣貴淸眞。羣 才屬休明,乘運共躍鱗。文質相炳煥,衆星羅秋旻。我志在刪述,垂輝映千春。希聖如有立,絕筆於獲麟。(其一)

醜女來效颦,還家驚四鄰。壽陵失本步,笑殺邯鄲人。一曲斐然子,雕

蟲喪天眞。棘刺造沐猴,三年費精神。功成無所用,楚楚且華身。大雅思文王,頌聲久崩淪。安得郢中質,一揮成斧斤。(其三十五)

《四部叢刊》影明本《分類補註李太白詩》卷二

# 經亂離後天恩流夜郎憶舊遊書懷贈 江夏韋太守良宰(節錄)

[唐] 李 白

······**党**君荆山作,江、鲍堪動色。清水出芙蓉,天然去雕飾。······ 《四部襲刊》影明本《分類補註李太白詩》卷十一

## 宣州謝朓樓餞別校書叔雲

## 〔唐〕李 白

棄我去者,昨日之日不可留; 亂我心者,今日之日多煩憂。長風萬里送 秋雁,對此可以酣高樓。蓬萊文章建安骨,中間小謝又清發。俱懷逸與壯 思飛,欲上青天覽日月。抽刀斷水水更流,舉杯銷愁愁復愁。人生(一作男 兒)在世不稱意,明朝散髮弄扁舟。

《四部幾刊》影明本《分類補註李太白詩》卷十八

# 戲為六絕句

## 〔唐〕杜 甫[1]

庾信文章老更成,凌雲健筆意縱橫<sup>[2]</sup>。今人嗤點流傳賦,不 覺前賢畏後生<sup>[3]</sup>。

王、楊(原作楊、王,依《杜詩鏡銓》本改)、盧、駱當時體,輕薄 爲文哂未休[4]。爾曹身與名俱滅,不廢江河萬古流[5]。

縱使"盧、王操翰墨, 劣於漢、魏近風騷"<sup>[6]</sup>。龍文虎脊皆君馭,歷塊過都見爾曹<sup>[7]</sup>。

才力應難跨(原作誇,依《杜詩鏡銓》本改)數公<sup>[8]</sup>,凡今誰是 出羣雄?或看翡翠蘭苕上,未製鯨魚碧海中<sup>[9]</sup>。

不薄今人愛古人,清詞麗句必爲隣<sup>[10]</sup>。竊攀屈、宋宜方駕, 恐與齊、梁作後廛<sup>[11]</sup>。

未及前賢更勿疑,遞相祖述復先誰<sup>[12]</sup>?別裁偽體親風雅,轉 益多師是汝師<sup>[13]</sup>。

《四部費刊》影宋本《分門集註杜工部詩》卷十六

### 【註釋】

[1]杜甫(公元七一二年——七七〇年)——字子美,梁縣人。唐玄宗時,應進士

- 舉,落第。肅宗時,官至檢校尚書工部員外耶。有《杜甫集》六十卷,後人編摭 者非原本,分卷各不同。《舊唐書》卷一九〇文苑、《新唐書》卷二〇一文藝都有 傳。
- [2] 庾信文章二句——庾信,見本册《中說》註[26]。成,指功夫的成熟,即下句所 說的健華凌雲,意境縱橫開闊。杜詩:"清新庾開府。"(《春日憶李白》)但又云: "庾信生平最蕭瑟,暮年詩賦動江關。"(《詠懷古跡》五首之一)指出庾信後期作 風的轉變,不僅以清新見長,都可與此相印證。
- [3] 今人喘點二句——賦,即首句所說的"文章",是彙詩和賦而言的。因限於詩句的字數和聲調,偏舉以見義。這兩句是說:"後人取其流傳之賦嗤笑而捐點之, 豈知前賢自有品格,未見其當畏後生也。"(仇兆鰲《杜詩詳註》)
- [4] 王楊盧駱二句——王、楊、盧、駱,指初唐四傑王勃、楊炯、盧照隣、駱賓王。王勃,見本册《上吏部裴侍耶啓》註[2]。楊炯(公元六五〇年——?),華陰人。官盈川令,梓州司法參軍。今傳《盈川集》十卷。盧照隣(公元六三五年?——六八九年?),字升之,號幽憂子,幽州范陽人。督官新都尉。今傳《幽憂子集》七卷。駱賓王(公元六四〇年——六八四年?),婺州義烏人。官臨海丞。有《駱賓王集》四卷。王、楊、盧、駱,《舊唐書》卷一九〇、《新唐書》卷二〇一有傳。當時體,初唐時的文體。四傑詩文仍未完全擺脫六朝藻繪餘智。"輕薄爲文",是說當時人機笑其文體輕薄。如《玉泉子》所說:"時人之職,楊好用古人姓名,謂之點鬼簿;駱好用數對,謂之算博士。"(見《九家集註杜詩》趙次公註引)即其一例。文,選裏泛指詩文。
- [5] 育曹二句——上句批判了當時哂笑四傑的人,下句肯定了四傑的文學成就。史 「有解此詩云: "言四子文體,自是當時風尚,乃嗤其輕薄者至今未休。曾不知爾 曹身名俱滅,而四子之文不廢,如江河萬古常流。"(《杜詩瓊證》)
- [6] 縱使二句——盧、王,即上一首所說的四傑。限於字數,舉盧以概略,舉王以槪 楊。劣於漢魏近風騷,不如漢魏之近風騷。"縱使"二字另讀。"盧王操翰墨,劣 於漢魏近風騷"是一個完整的意思,當時人哂笑四傑的話。即前一首所云"輕 潛為文"。
- [7] 龍文虎脊二句——龍文和虎脊都是毛色斑駁的酸馬,用以比喻奇麗的詞朵。歷 塊過都,語本王褒《聖主得賢臣頌》"過都越國,厭如歷塊"。 呂延濟註: "言過都 國疾如行一小塊之間。"這裏略變其意,是脫歷田野(塊,可作土地解。 《莊子· 齊物論》"大塊嚏氣,其名為風。"),過城市,指長距離的奔聽。 見爾曹,意謂相 形之下,就能看出高低。上句說四傑能够顯遠魂瑋的文詞,下句說他們經得趣

時間的考驗。"此詩本承上一章言。時人之譏陋四于者,每謂其輕薄爲文,正 以其劣於漢魏之近風騷耳。四于之劣於漢魏之近風騷,……當時文體如是,固 非四子之病也。……龍文虎脊,自有其不廢江河者在,固非身與名俱滅之爾曹 所能望塵追及矣。"(郭紹虞《杜甫戲爲六絕句集解》)

- [8] 數公——指前面三首說的庾信和四傑。
- [9]或看二句——翡翠蘭苔,形容詞采的鮮妍。語本郭璞《遊仙詩》: "翡翠戲蘭苕,容色更相鮮。"鯨魚碧海,指筆力的雄健。這首詩慨嘆於當時還沒有特出的詩人,能够創造出一種雄偉非常的意境;至於一般作者,麗詞雖有可取,然而翡翠蘭苕,才力不免薄弱,要想跨越前人,是很難的。一、二兩句為倒文,三、四兩句伸足上文文義。
- [10] 不薄二句——是說自己論詩並無古令的成見,只要是清詞麗句,都有所取。不薄和愛為互文。隣,與下一首"親風雅"的"親"義近。必為隣,也就是不薄和愛的意思。一說,"今人愛古人"五字連讀,指當時人崇尚漢、魏的風氣。不薄,是說並不否認遭點。下句是轉折的語氣:"蓋言今人以愛古人之故,喘點庾信之賦, 酸呕四于之文,矯正一時風氣,其意原不可薄。但建安以來清詞麗句自有不發江河者在。"(郭紹虞《杜甫戲為六絕句集解》)
- [11] 稱攀屈宋二句——稱,楊樹達謂表敬副詞,並引劉淇之說:"稱,滕詞。"竊攀,謂 努力高攀。這兩句闡明"清詞麗句必爲隣"之義,是說清詞麗句,必須上攀屈、 宋,與之並駕齊驅,否則僅僅迫求於詞藻形式之美,就不免落入齊、梁的後塵。
- [12] 未及前賢二句——前賢, 泛指前代有成就的作家。遞相祖述, 意謂因襲成風。 復先離,錢謙益箋曰: "遞相祖述, 沿流失源, 而不知誰為之先也。"正因為如此, 就無疑地不能跨越前人了。這兩句指出問題癥結之所在, 下兩句指出學詩的 正確途徑。
- [13] 別裁僞體二句——別,別擇。裁,裁去。僞體,指模擬因襲,沒有生命力的東西。別裁僞體,謂去僞存奠。轉益多師是汝師,即無所不師而無定師的意思。 這兩句是說,應該別裁僞體,轉益多師,而最後歸依於風、雅。

### 【説明】

這是最早出現的論詩絕句。前三首通過對具體作家的評論 提出了問題,後三首揭示論詩的宗旨。它是針對當時情况,有感 而發的。 唐代詩歌理論的發展,是個長期的反覆的過程。從陳子昂、李白提出復古的主張以後,明確了詩歌發展的方向,然而某些人理解不免片面,粗暴地全盤否定六朝文學;而另一些人則仍然"拘限聲病,喜尙形似,且以流易爲詞,不知喪於雅正"(見元結《篋中集序》)。所謂"好古者遺近,務華者去實"(見元稹《唐故工部員外郎杜君墓係銘》),認識還不是一致的。

杜甫主張兼取衆長,認爲對六朝以來的作家應該具體分析,而不採取一律排斥的態度。這詩以庾信爲例,指出論文當觀全人,不應忽視其健筆凌雲的長處;以四傑爲例,說明評價作家,不應脫離當時歷史條件。基於這樣的認識,他提出了廣泛吸取前人創作經驗的主張,其中也包含着"別裁僞體"的批判精神。他有取於清詞麗句的技巧,但反對繼弱小巧的風格。認爲必須上攀屈、宋,自鑄偉詞,創造出"碧海鯨魚"的壯美意境。最後,他指出只有轉益多師,鎔今鑄古,把藝術修養建築在博大深厚的基礎上,才能使完美的形式表現充實的內容,而接近於反映現實的風雅。

杜甫的詩歌理論並不像陳子昂、李白以及後來的白居易那樣,為了救時救弊,突出地強調某一個方面。他在創作實踐上達到思想性和藝術性的統一,他的論詩也是如此。只因他是以詩論詩,嗣簡義精,限於體製,究竟不能像散文那樣的明白淺顯,曲折達意。因而後來箋釋紛紜,歧義百出;其中摭拾一端,加以附會的也大有人在,這樣就不能不產生流弊了。

杜詩中,談藝論文的還很多,都可與此詩相印證。此詩作 於上元二年(公元七六一年),比較系統地表現了杜甫的文學 思想。 附 錄

偶 題

### [唐] 杜 甫

文章千古事,得失寸心知。作者皆殊列,名聲豈浪垂? 騷人嗟不見,漢 道盛於斯。前輩飛騰入,餘波綺麗為。後賢兼舊制(原作利,據《杜少陵集詳 註》改),歷代各清規。法自儒家有,心從弱歲疲。永懷江左逸,多病鄴中 奇。嚴驥皆良馬,麒麟帶好兒。車輪徒已斷,堂構惜仍虧。謾作《曆夫論》, 虚傳幼婦碑。緣情慰漂蕩,抱疾廣遷移。經濟慙長策,飛棲假一枝。廛沙 傍蜂臺,江峽繞蛟螭。蕭瑟唐、虞遠,聯翩楚、漢危。聖朝兼盗賊,異俗更喧 卑。鬱鬱星辰劍,蒼蒼雲雨池。兩都開幕府,萬寓插軍廳。南海殘銅柱,東 風避月支。晉曹恨鳥鵲,號怒怪熊羆。稼穡分詩興,柴荆學土宜。故山迷 白閣,秋水憶黃陂。不敢要佳句,愁來賦別離。

《四部費刊》影宋本《分門集註杜工部詩》卷十六

## 解悶五首

### 〔唐〕杜 甫

沈范早知何水部,曹劉不待薛郎中。獨當省署開文苑,兼泛滄浪學釣錄。

李陵蘇武是吾師,孟子(按:指孟雲卿)論文更不疑。一飯未曾留俗客,數篇今見古人詩。

復懷襄陽孟浩然,清詩句句靈堪傳。即今耆舊無新語,謾釣槎頭縮項編。

陶冶性**雙**存底物,新詩改罷自長吟。熱知二謝將能事,頗學陰何苦用心。

不見高人王右丞,藍田丘壑蔓寒藤。最傳秀句實區滿,未絕風流相國館。《四部雙刊》影宋本《分門集註杜工部詩》卷十六

## 春日億李白

### 〔唐〕杜 甫

白也詩無敵,飄然思不羣。清新庾開府,俊逸鮑多軍。渭北春天樹,江東日暮宴。何時一樽酒,重與細論文!

《四部費刊》影宋本《分門集註杜工部詩》卷十九

## 唐故工部員外郎杜君墓係銘並序

### 〔唐〕元 稹

敍曰: 予讀詩至杜子美而知小大之有所總萃焉。

始堯、舜時,君臣以賡歌相和。是後詩人權作,歷夏、殷、周千餘年,仲尼緝拾選練,取(原無取字,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校增)其于預教化之尤者三百,其餘無聞焉。屬人作而怨憤之態繁,然猶去風雅日近,尙相比擬。秦、漢以還,探詩之官旣廢,天下妖謠民驅歌頌諷賦曲度嬉戲之詞,亦隨時間作。遠至漢武賦《柏梁》,而七言之體具。蘇子卿、李少卿之徒,尤工爲五冒。雖句讚文律各異,雅鄭之音亦雜,而詞意簡遠,指事冒情,自非有爲而爲,則文不妄作。建安之後,天下文士遭罹兵戰,曹氏父子鞍馬間爲文,往往横槊賦詩,故其遺壯(原無此二字,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改) 辦場冤哀悲(原作孫,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改) 離之作,尤極(原作拯,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改) 於古。晉世風聚稍存。宋、齊之間,教失根本,士以簡慢執習舒徐相尙,文章以風容色澤放曠精清爲高,蓋吟寫性鹽流連光景之文也,意氣(原作義,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改)於古。晉世風聚稍存。宋、齊之間,教失根本,士以簡慢執習舒徐相尙,文章以風容色澤放曠精清爲高,蓋吟寫性鹽流連光景之文也,意氣(原作義,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改)格力無取焉。陵遍至於梁、陳,崔豔刻飾、佻巧小碎之詞劇,又宋、齊之所不取也。

唐舆,官學大振,歷世之文,能者互出。而又沈、宋之流,研練精切,穩

順聲勢,謂之爲律詩。由是而後,文變之體極焉。然而莫不好古者遺近,務 華者去實。效齊、梁則不逮於魏、晉,工樂府則力屈於五言,律切則骨格不 存,閑暇則纖體莫備。至於子美,蓋所謂上薄風、騷,下該沈、宋,古傍蘇、 李,氣奪曹、劉(一本作言奪蘇、李,氣吞曹、劉),掩顏、謝之孤高,雜徐、與之 流麗,盡得古今之體勢,而兼人人之所獨專矣。使仲尼考毀其旨要,尙不知 貴其多乎哉? 荀以爲能所不能,無可不可,則詩人以來,未有如子美者!

時山東人李白,亦以奇文取稱;時人謂之李、杜。予觀其壯浪縱恣,擺 去拘束,模寫物象,及樂府歌詩,誠亦差肩於子美矣。至若鋪陳終始,排比 聲韻,大或千言,次猶數百,詞氣豪邁,而風調淸深,屬對律切,而脫棄凡近, 則李尙不能歷其藩翰,況堂奧乎?

予嘗欲條析(原作件拆,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改)其文,體別相附,與來者爲之準,特病賴未就。適子美之子子嗣業,啓子美之柩,襄祔事於偃師,次於荆,雅知予愛言其大父爲文,拜予爲誌。辭不可絕,予因係其官閥而銘其卒葬云。

係曰: 晉當陽成侯姓杜氏,下十(原無十字,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校增)世而生依藝,令於鞏。依藝生審言,善詩,官至膳部員外郎。審言生閑,閑生甫。閑爲牽天令。甫,字子美。天寶中,獻《三大禮賦》,明皇(原作帝,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改)奇之,命宰相試文,文善,授右衞率府胄曹(原本此六字只作甫曹,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改)。屬京師阅,步調行在,拜左拾遺。歲餘,以直言失(原作官,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改),出爲華州司功,轉遷京兆功曹。劍南節度嚴武,狀爲工部員外郎,參謀軍(原無此十八字,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校增)事。旋又棄去,扁舟下荆楚間,竟以寓卒,族(原作旋,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校增)事。旋又棄去,扁舟下荆楚間,竟以寓卒,族(原作旋,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校增)事。旋又棄去,扁舟下荆楚間,竟以寓卒,族(原作旋,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校增)事。旋又棄去,扁舟下荆楚間,竟以寓卒,族(原作旋,據《四部叢刊》影宋本《分門集註杜工部詩》校改)殯岳陽,享年五十九。夫人弘農楊氏女,父曰司農少卿怡,四十九年而終。嗣子曰宗武,病不克葬;歿,命其子嗣業。嗣業資無以給喪,收拾乞匄,焦勞畫夜,去子美歿後餘四十年,然後卒先人之志,亦足爲難矣。

銘曰: 維元和之癸巳, 粤某月某日之佳辰, 合窆我杜子美於首陽之前山。嗚呼! 千歲而下曰: 此文先生之古墳。

《四部義刊》影明嘉靖本《元氏長慶集》卷五十六

# 河獄英靈集序

## [唐] 殷 璠[1]

梁昭明太子撰《文選》,後相效著述者十餘家<sup>[2]</sup>,咸自稱盡善。高聽之士<sup>[3]</sup>,或未全許。且大同至於天寶<sup>[4]</sup>,把筆者近千人,除勢要及賄賂者,中間灼然可尚者<sup>[5]</sup>,五分無二,豈得逢詩輒贊,往往盈帙<sup>[6]</sup>?蓋身後立節<sup>[7]</sup>,當無詭隨<sup>[8]</sup>,其應詮揀<sup>[9]</sup>不精,玉石相混,致令衆口銷鑠<sup>[10]</sup>,爲知音所痛。

夫文有神來、氣來、情來,有雅體、野體、鄙體、俗體[11](以上十八字,據《四部叢刊》影明刻本《河嶽英靈集》及《文鏡祕府論》校改。《全唐文》作"夫文友神情體雅")。編紀者能審鑒諸體,安詳[12]所來,方可定其優劣,論其取捨。至如曹、劉,詩多直致[13],語少切對[14],或五字並側[15],或十字俱平[16],而逸價終存。然擊瓶膚受[17]之流,責古人不辨宮商,詞句質素,恥相師範。於是攻乎異端,妄爲穿鑿,理則不足,言常有餘[18],都無興象(原作比興,據《文鏡祕府論》校改),但貴輕豔。雖滿篋筍[19],將何用之?

自蕭氏[20]以還,尤增矯飾[21]。武德[22]初,微波[23]尚在。貞觀[24]末,標格漸高。景雲[25]中,頗通遠調。開元[26]十五年後(《全唐文》無後字,據《四部叢刊》影明刻本《河嶽英靈集》及《文鏡祕府論》增),聲律風骨始備矣。實由主上惡華好樸,去偽從眞,使海內詞人,翕然尊(原作遵,據《文鏡祕府論》校改)古,有周風雅,再闡今日。

璠雖不佞,竊嘗好事,常顧删略羣才,贊聖朝之美。爰因退跡<sup>[27]</sup>,得遂宿心。粤若王維、王昌齡、儲光義等二十四人(《全唐

文》作三十五人,茲據《四部叢刊》影明刻本《河嶽英靈集》校正),皆河嶽英靈也,此集即以《河嶽英靈》為稱。詩一百七十首(案:《四部叢刊》影明刻本《河嶽英靈集》作二百三十四首,《文鏡祕府論》作二百七十五首。明刻本實收詩二百二十八首,三本數字俱不符),分為上下卷。起甲寅[28],終乙酉(《四部叢刊》影明刻本《河嶽英靈集》及《文鏡祕府論》俱作癸巳)[29]。論次於序,以品藻各冠於篇額[30]。如名不副實,才不合道,縱權(《全唐文》無權字,據《四部叢刊》影明刻本《河嶽英靈集》及《文鏡祕府論》增)壓梁、變[31],終無取焉。

《全唐文》卷四百三十六[32]

### 【註釋】

- [1]殷璠——《河嶽英靈集》首標"唐丹陽進士殷璠集"。《全唐詩》小傳:"璠,丹陽 人,處士。"它無所考。
- [2]後相效著述者十餘家——據《隋書·經籍志》所著錄、《文選》之後,相效著述的有《詞林》五十八卷、《文海》五十卷。《舊唐書·經籍志》著錄,有《小詞林》五十三卷;《集古今帝王正位文章》九十卷;《文海集》三十六卷,蕭圓撰;《類文三百士館詞林》一千卷,許敬宗撰;《禮古今詩苑英華》二十卷,釋惠靜撰;《詩林英選》十一卷;《類集》一百一十三卷,虞綽等撰;《詩禮》十二卷;《詞英》八卷;《六代詩集鈔》四卷,徐陵撰;《古今類聚詩苑》三十卷,劉孝孫撰;《麗正文苑》二十卷,許敬宗撰;《古今詩類聚》七十九卷,郭瑜撰。《新唐書·藝文志》著錄,卜長福《續文選》三十卷;卜隱之《擬文選》三十卷;張楚金《翰苑》三十卷;徐堅《文府》二十卷。編撰時間,都在《河嶽英靈集》之前。
- [4]大同至於天寶——大同,梁武帝年號,自公元五三五年至五四五年。天寶,唐玄宗年號,自公元七四二年至七五六年。大同元年至天寶末年,共二百二十二年。
- [5] 灼然可尚——有顯著的成就可以效法的。
- [6] 豈得逢詩聊贊往往盈帙——豈可以把看到的詩——贊賞,纂錄起來便是滿滿 的卷帙。
- [7] 身後立節——身後,當作身前。立節,謂選家選錄的標準應該謹嚴。

- [8] 能隨——《詩·大雅·生民》《無縱龍隨。"這裏借作隨擊附和解。
- [9] 詮揀----選擇。
- [10] 衆口銷樂——《國語·周語》: "衆口樂金。"樂,銷鎔。衆人的職論,可以銷樂金石,喻其力量之大。
- [11] 雅體野體鄙體俗體---按: 後三體無多大差別, 都與雅體相對立。
- [12]安詳——當爲案詳。《四部發刊》影明刻本《河嶽英靈集》及《文鏡秘府論》安俱 作委,疑有誤。
- [13] 曹劉詩多直致——直致指質直而言。如鍾嶸《詩品》說陸機詩"有傷直致之奇"。 曹、劉詩多直致,即《詩品》所稱"曹公古直",曹丕詩"鄙質如偶語",劉楨"氣過 其文,雖潤恨少"之類。
- [14] 語少切對——語, 指詩句。切對, 指平仄譜和的對句, 如沈約《宋書·謝靈運傳》所說: "若前有浮聲, 則後須切響。"
- [15] 五字並與——如曹植《野田黄雀行》:"利劍不在掌。"劉楨《贈五官中耶將》:"諡 慕結不解。"
- [16] 十字俱平——如曹植《美女篇》: "羅衣何飄飄, 長裾隨風湿。"
- [17] 挈瓶——見本書第一册《文賦》註[133]。膚受——專問上僅得皮毛。
- [18] 言常有餘——言,指辭。這句謂辭浮於意。
- [19] 篋笥----指書箱。
- [20] 蕭氏——指蕭梁。
- [21] 烯節——就詞藻音律二方面言。
- [22]武德——唐高祖年號,自公元六一八年至六二六年。
- [23] 微波——六朝崇尚詞藻音律的殘餘詩風。
- [24] 貞觀——唐太宗年號,自公元六二七至六四九年。
- [26]景雲——唐睿宗年號,自公元七一〇至七一一年。
- [26] 開元——唐玄宗年號,自公元七一三至七四一年。十五年魯公元七二七年。
- [27] 退跡-----辭官歸歷。
- [28] 甲寅——玄宗開元二年,當公元七一四年。
- [29] 乙酉——玄宗天寶四载,當公元七四五年。如作癸巳,是玄宗天寶十二载,當 公元七五三年。
- [80] 品藻各冠篇額——《河嶽英靈集》於每個作家作品之前,各有評語。額,在人面的上部,用以指前。
- [31] 樓壓梁寶——梁,梁冀。寶,寶憲。二家是東漢的權門貴戚。

[32]本篇所據版本是《全唐文》。《四部叢刊》影明翻宋本《河嶽英靈集》的序,脫漏錯誤很多,所以不採用。個別句子以明刻本為勝的,則據以校改。中華書局影印《文苑英華》文字與《全唐文》基本相同。

### 【説明】

齊、梁以後的詩,一味講究聲律與詞藻。就詩歌的發展過程看,這一方面對詩歌語言的提鍊和律詩的形成,起了一定的促進作用;一方面却形成了偏重形式的詩風。初唐後期以來,詩壇上掀起了對齊、梁綺靡詩風及其餘波鬥爭的高潮。鬥爭是從兩方面進行的:用理論結合創作的,以陳子昂為先驅; 用理論結合選詩以樹立新的創作旗幟的,則有殷璠的《河嶽英靈集》與元結的《篋中集》。

股璠在《河嶽英靈集》中選錄了王維、王昌齡、儲光羲等二十四人的作品,計二百二十八首,分爲上下卷。選者對每個作家都作了簡要而比較中肯的評論。選本有評語,是這書的創舉。稅文論述了詩歌的內容(理)形式(言)並重的問題和評價作品的標準問題。選者認爲作品不可偏重形式,所以理不足而言有餘,無比與而貴輕豔的詩篇,是雖多而無用的。但亦不是排斥形式,因此選者在批判了單純追求聲律詞藻的偏向以後,又肯定了開元以來在"去偽存真"的基礎上發展起來的聲律風骨兩者棄備的新詩風。而這也正是選者"刪略羣才"的準繩。

這些論點,在殷璠的《河嶽英靈集》的《集論》中,有更進一步的闡發。他認為"氣因律而生,節假律而明,才得律而清",所以詩人"不可不知音律"。但又不可"專事拘忌","能文者匪謂四聲盡要流美,八病咸須避之"。"故詞有剛柔,調有高下,但令詞與調合,首末相稱,中間不敗,便是知音"。對詩歌的音律美,相當重視,但反對人為的矯揉造作。因此,他的選擇標準是"旣閑(熟習)

新聲,復曉古體;文質半取,風騷兩挾。言氣骨則建安爲傳,論宮商則太康不逮。"殷璠的詩歌理論,對中唐以後詩人們的創作,應該是具有一定的啓發作用的。

選詩標舉一家宗旨,就現存的選本來說,殷璠這書是最早的。後代如鍾惺的《古詩歸》《唐詩歸》,王夫之的《古詩評選》《唐詩評選》,王士禛的《唐賢三昧集》都是。儘管他們所標舉的宗旨有偏差,但確是代表了一種詩歌流派的傾向。至於專選同時代詩人作品的集子,後代如宋人謝翺的《天地間集》,元人杜本的《谷音》,清初錢謙益的《吾炙集》,陳維崧的《篋衍集》等,又都是濫觴於《河嶽英靈集》的。

## 附錄

## 河嶽英靈集集論

### [唐] 般 璠

論曰: 昔伶倫造律,蓋爲文章之本也。是以氣因律而生,節假律而明,才得律而清焉(焉下原有"寧"字,據《文鏡祕府論》校删)。預於詞場,不可不知音律焉。孔聖刪詩,非代議所及。自漢、魏至於晉、宋,高唱者十有餘人;然觀其樂府,猶有小失。齊、梁、陳、隋,下品實繁,專事拘忌,彌損厥道。夫能文者,匪謂四聲盡要流美,八病咸須避之,縱不拈綴,未爲深缺。即"羅衣何飄飄,長裾隨風還",雅調仍在,況其他句乎。故詞有剛柔,調有高下,但令詞與調合,首末相稱,中間不敗,便是知音。而沈生雖怪曹、王曾無先覺,隱侯去(原作言,據《文鏡祕府論》校改)之更遠。璠今(原作令,據《文鏡祕府論》校改)所集,頗異諸家: 旣閑新聲,復曉古體。文質半取,風騷兩挾。言氣骨則建安爲傳,論宮商則太康不逮,將來秀士,無致深惑(原作憾,據《文鏡祕府論》校改)。

《四部叢刊》影明翻宋本《河嶽英靈集》

## 中興間氣集序

### [唐] 高仲武

詩人之作,本諸於心,心有所感而形於言,言合典謨則列於風雅。暨乎梁昭明, 載述已往,撰集者數家,推其風流,正聲最備,其餘著錄,或未至焉。何者?《英華》失於浮游,《玉臺》陷於淫靡,《珠英》但紀朝士,《丹陽》止錄吳人。此縣曲學專門,何暇兼包衆善,使夫大雅君子,所以對卷而長嘆也!

唐與一百七十載,屬方隅叛渙,戎事紛綸,業文之人,述作中廢。粵若肅宗先帝,以殷憂啓聖,反正中原。伏惟皇帝以出震權明,保安區字,國風雅頌,蔚然復興,所謂文明御時,上以化下者也。仲武不揆菲陋,輒罄謏聞,博訪詞林,採察謠俗,起自至德元首,終於大曆暮年,述(一作作)者數千(費本無此句),選者二十六人,詩總一百三十二(二,費本四)首,分爲兩卷,七官附之,略敍品彙人倫,命曰《中與間氣集》。且夫微言雖絕,大制猶存(何云:此處疑有脫誤),詳其臧否,當可援議。古之作者,因事造端,敷弘體要,立義以全其制,因文以寄其心,著王政之與衰,表國風之善否,豈苟悅權右、取媚薄俗哉! 今之所收,殆革前弊,但使體狀風雅,理致淸新,觀者易心,聽者竦耳,則朝野通取(一作載),格律象收。自鄶以下,非所敢隸焉。凡百君子,幸詳至公。

《四部幾刊》影明翻宋本《中興間氣集》

# 詩 式[1] (選錄)

### [唐] 皎 然[2]

夫詩者,衆妙之華實,六經之菁英,雖非聖功,妙均於聖。彼 天地日月,玄(《詩學指南》本作光)化之淵奧,鬼神之微冥,精思一搜,萬象不能藏(《詩學指南》本作職)其巧。其作用[3]也,放意 須險,定句須難,雖取由我衷,而得若神表。至如天眞挺拔之句, 與造化爭衡,可以意冥[4],難以言狀,非作者不能知也。泊西漢以來,文體四變[5]。將恐風雅寖泯,輒欲商較以正其源。今從兩 (《詩學指南》本作西)漢已降,至於我唐,名篇麗句,凡若干人,命 曰《詩式》,使無天機者坐致天機。若君子見之(原註:一作知),庶 有益於詩教矣。

# 明 勢

高手述作,如登衡(《詩學指南》《歷代詩話》本俱作荆)、 巫[6], 覿三湘、鄢、郢[7]山川(《歷代詩話》本無山川二字)之盛,縈 迴盤礴, 千變萬態(文體開闔作用之勢): 或極天高峙, 崒焉不羣, 氣 騰勢飛, 合沓相屬(奇勢在工); 或修江[8]耿耿, 萬里無波, 欻(原作 淡, 據《歷代詩話》本改) 出高深重複之狀(奇勢牙發); 古今逸格, 皆造其極妙(《歷代詩話》本無妙字)矣。

## 明 作 用

作者措(《詩學指南》本作旨)意,雖有聲律,不妨作用。如壺公瓢中,自有天地日月<sup>[9]</sup>,時時拋鍼擲綫,似斷而復續。此爲詩

中之仙,拘忌之徒,非所(原作可,據《詩學指南》本改)企及矣。

## 明四聲

樂章有宮商五晉[10]之說,不聞四聲。近自周願、劉繪[11]流出,宮商暢於詩體,輕重低昂之節[12],韻合情高,此(原衍之字,據《歷代詩話》本刪)未損文格。沈休文酷裁八病[13],碎用四聲,故風雅殆盡。後之才子,天機不高,爲沈生弊法所媚[14]; 懵然隨流,溺而不返。

## 詩有四不

氣高而不怒,怒則失於風流;力勁而不露,露則傷於斤斧;情 多而不暗,暗則陟(原作傷,據《詩學指南》本改)於拙鈍;才膽而 不疎,疎則損於筋脈。

## 詩有四深

氣象氤氲,由深於體勢;意度盤礴,由深於作用;用律不滯,由深於聲對[15];用事不直,由深於義類[16]。

## 詩有二要

要力全而不苦澀,要氣足而不怒張。

### 詩有二廢

雖欲廢巧尙直,而思致不得置;雖欲廢言(《歷代詩話》本作 詞)尙意,而典麗不得遺。

### 詩有四離

雖有(《詩學指南》本作欲,《歷代詩話》本作期)道情,而離深·74·

僻;雖用(《詩學指南》本作欲)經史,而離書生;雖尚(《詩學指南》 本作欲)高逸,而離迂遠;雖欲飛動,而離輕浮。

## 詩有六迷

以虛誕而爲高古,以緩慢而爲澹濘,(慢,原作縵,據《詩學指南》本改。《歷代詩話》本此句作"以緩漫而爲沖澹"。)以錯用意而爲獨善,以跪怪而爲新奇,以爛熟而爲穩約,以氣少力弱而爲容易。

## 詩有六(《詩學指南》本作七)至

至險而不僻,至奇而不差,至麗而自然,至苦而無迹,至近而意遠,至放而不迂。(《詩學指南》本此句下有"至難而狀易"句。)

# 詩有七德(原註:一作得)

一、識理,二、高古,三、典麗,四、風流,五、精神,六、質幹,七、體裁。

## 詩有五格

不用事第一,作用事第二,(其有不用事而措意不高者,黜入第二格。)直用事第三,(其中亦有不用事而格稍下,貶居第三。)有事無事第四,(比於第三格中稍下,故入第四。)有事無事情格俱下第五。(情若俱下〔《歷代詩話》本下字下有"有事無事"四字〕可知也。)

### 文章宗旨

評曰: 康樂公[17] 早歲能文, 性額神澈(原作徹, 據《歷代詩話》本改), 及通內典, 心地更精, 故所作詩, 發皆造極, 得非空王之道助邪[18]? 夫文章天下之公器, 安敢私焉。 髮者嘗與諸公論

康樂爲文, 真於情性, 尚於作用, 不顧詞彩, 而風流自然。彼淸景當中, 天地秋色, 詩之量也; 慶雲從風, 舒卷萬狀, 詩之變也。不然, 何以得其格高, 其氣正, 其體貞, 其貌古, 其詞深, 其才婉, 其德宏, 其調逸, 其聲諧哉(原無哉字, 據《歷代詩話》本補)? 至如《述祖德》一章、《擬鄴中》八首、《經廬陵王墓》、《臨池上樓》, 識度高明, 蓋詩中之日月也, 安可攀援哉! 惠休所評, 謝詩如芙蓉出水<sup>[19]</sup>, 斯言頗近矣, 故能上躡風騷, 下超魏、晉, 建安製作, 其椎輪乎<sup>[20]</sup>?

## 用事

評曰: 詩人皆以徵古爲用事,不必盡然也。今且於六義<sup>[21]</sup>之中,略論比與。取象曰比,取義曰與,義卽象下之意。凡禽魚草木人物名數,萬象之中義類同者,盡入比與,《關雎》卽其義也。如陶公以孤雲比貧士<sup>[22]</sup>,鮑照(原作昭,據《歷代詩話》本改)以直比朱絃,以清比冰壺<sup>[23]</sup>。時人呼比爲用事,祀(疑字誤,《歷代詩話》本作呼,亦非)用事爲比。如陸機《齊謳行》(此三字原無,只作詩,據《歷代詩話》本改): "鄙哉牛山敷<sup>[24]</sup>,未及至人情<sup>[25]</sup>,爽鳩苟已徂<sup>[26]</sup>,吾子安得停!"此規諫之中(原作忠,據《詩學指南》本改),是比非用事(原作是用事非比,據《詩學指南》本改)也。如康樂公《還舊園作》(此四字原無,只作詩,據《歷代詩話》本改): "偶與張邴合<sup>[27]</sup>,久欲歸東山<sup>[28]</sup>。"此敍志之中(原作忠,據《詩學指南》本改),是比非用事也。詳味(原無此二字,據《歷代詩話》本補)可知。

## 取 境

評曰:或云:詩不假脩飾,任其醜朴,但風韻正,天眞全,即名上等。予曰:不然。無鹽觀容而有德[29],曷若文王太姒有容而有

德乎<sup>[30]</sup>? 又云: 不要苦思, 苦思則喪自然之質。此亦不然。夫不入虎穴, 焉得虎子<sup>[31]</sup>。取境之時, 須至難至險, 始見奇句。成篇之後, 觀其氣 (原註: 一作風) 貌, 有似等閒, 不思而得, 此高手也。有時意靜神王, 佳句縱橫, 若不可遏, 宛如神助。不然, 蓋由先積精思, 因神王而得乎?

### 重 意 詩 例

評曰: 兩重意已上, 皆文外之旨。若遇高手如康樂公, 覽而察之, 但見情性, 不覩文字, 蓋詩(原作詣, 據《詩學指南》本改)道之極也。向使此道尊之於儒, 則冠六經之首; 貴之於道, 則居衆妙之門[32]; 崇之於釋, 則徹空王之奧; 但恐徒揮其斤而無其質[33], 故伯牙所以數息也[34]。疇昔國朝協律郎吳兢, 與越僧玄監集秀句[36], 二子天機素少, 選又不精, 多采浮淺之言, 以誘蒙俗, 特入瞽夫偷語之便, 何異借賊兵而資盜糧[36], 無益於詩教矣。

## 辯體有一十九字

評曰: 夫詩人之(原衍說字, 據《歷代詩話》本刪)思初發, 取境偏高, 則一首舉體便高; 取境偏逸, 則一首舉體便逸。才性(原註: 一作情性)等字亦然。體(原註: 一作本)有所長, 故各功歸一字。偏高偏逸之例, 直於詩體篇目風貌。不妨一字之下, 風律外彰, 體德內蘊, 如車之有穀[37], 衆美歸焉。其一十九字, 括文章德體風味盡矣, 如易之有彖辭焉[38]。今但註於前卷中, 後卷不復備舉。其比與等六義, 本乎情思, 亦蘊乎十九字中, 無復別出矣。

高 風韻朝(原作切,據《詩學指南》本改)暢曰高。 逸 體格聞放曰逸。 貞 放詞正直曰貞。 忠 臨危不變

日忠。 節 持操不改曰節。 志 立性不改(《詩學指南》本作放)日志。 氣 風情耿介(原作耿,據《詩學指南》本改) 日氣。 情 緣境(原作景,據《詩學指南》本改)不盡曰情。 思 氣多含蓄曰思。 德 詞溫而正曰德。 誠 檢 東防閑曰誠。 閑 情性疎野曰閑。 達 心迹曠誕曰 達。 悲 傷甚曰悲。 怨 詞調(《詩學指南》本作理)悽 切曰怨。 意 立言盤泊(原無此二字,據《詩學指南》本補)曰 意。 力 體裁勁健曰力。 靜 非如松風不動,林狖未鳴, 乃謂意中之靜。 遠 非如渺渺望水,杳杳看山,乃謂意中之 遠。

(以上卷一)

### 復古通變體所謂通於變也

評曰:作者須知復變之道,反古曰復,不滯曰變。若惟復不變,則陷于相似之格,其狀如駕驥同廐,非造父<sup>[39]</sup>不能辨,能知復變之手,亦詩人之造父也。以此相似一類,置於古集之中,能使弱手視之眩目,何異宋人(疑奪以字)死鼠爲玉璞,豈知周客嚧嗍而笑哉<sup>[40]</sup>! 又復變二門,復忌太過,詩人呼爲膏肓之疾<sup>[41]</sup>,安可治也。如釋氏頓教<sup>[42]</sup>學者,有沈性之失,殊不知性起之法,萬象皆真。夫變若造微,不忌太過,苟不失正,亦何咎哉! 如陳子昂復多而變少<sup>[43]</sup>,沈、宋復少而變多<sup>[44]</sup>。今代作者不能盡舉,吾始知復變之道,豈惟文章乎? 在儒爲權,在文爲變,在道爲方便<sup>[45]</sup>。後輩若乏天機,強效復古,反令思擾神沮。何則?夫不工劍術,而欲彈撫干將太阿之欽<sup>[46]</sup>,必有傷手之患<sup>[47]</sup>,宜其誠之哉!

(以上卷五)

《十萬卷樓叢書》本《詩式》

#### 【註釋】

- [1]詩式——唐人皎然所作的詩論,有五卷本與一卷本。《唐宋叢書》《學海類編》《歷代詩話》所收,都只有一卷,至"辨體有一十九字"而止,"中序"以後缺。惟清末陸心源《十萬卷樓叢書》所收,為五卷足本。(《詩學指南》所收,與一卷本、五卷本又互有詳略,次第亦不同,有若干條列於《評論》中。)第一卷總論詩歌原理及五格中的第一格;第二卷至末卷,分別論五格中的第二格至第五格,各摘錄兩漢至中唐詩人名篇麗句爲例。書中內容,偶有與他書相雷同處,如三偷亦見於托名唐人李淑的《詩苑類格》,故或有疑其爲後人所依托。然《新唐書·藝文志》即已著錄爲畫公所撰,《直齋書錄解題》《詩人玉曆》《唐詩紀事》亦皆認爲皎然作。
- [2] 較然——中唐時代詩僧,本名謝清豐,又稱豐,謝豐運十世孫,湖州長城人。生卒年不詳。主要活動於大曆、貞元時代。童年即隨法侶,一生居吳興東溪草堂,與當時士大夫如顏眞卿、韋應物、李陽冰、顧况等互相唱和,時號"江東名僧"。貞元中,湖州刺史于順編其詩文為《杼山集》,并為之序。論詩著作,於《詩式》外,又有《詩議》《評論》等。辛文房《唐才子傳》载其事。
- [3]作用——指藝術構思。
- [4]意冥——冥謂契合於無形。
- [5] 文體四變——文體,指詩體。按照《詩式》所論,似以辭、李的自然天成,《十九首》的始見作用,魏、晉、六朝的雕繪偶儷,唐人的律詩爲四變。
- [6]衡巫——衡山,五嶽中的南嶽,在湖南。巫山,在四川、湖北兩省邊境。
- [7]三湘——湘水發源與離水合流後稱離湘,中游與瀟水合流後稱瀟湘,下游與蒸水合流後稱蒸湘,總稱三湘。一般用以泛指湖南全省。鄒郢——都是春秋時整國都名。鄙,在今湖北省宜城縣。郢,在今湖北省江陵縣。
- [8]修江——長江。
- [9] 藍公――《後漢書・方術傳》載: 汝南市中有老翁賣樂, 瑟一壺於肆, 市龍則 跳入壺中。又《雲笈七籤》載,施存爲雲臺治官,夜宿壺中,壺中自有日月。自 號壺天,人號爲壺公。
- [10] 宫商五音——宫、商、角、徽、羽爲五音。
- [11] 周順劉繪——周順(公元? ——四八五年),字彦倫,汝南安城人。與沈約都是四聲說的創始人,參潛本書第一册《詩品序》註[186]。《南齊書》卷四十一有傳。劉繪(公元四五八年——五〇二年),字士章,彭城人。《南齊書》卷四十八有傳

稱:"永明(南齊武帝年號,公元四八三年到四九三年)末,京邑人士盛爲文章 談義,皆凑竟陵王西邸。繪爲後進領袖,機悟多能。時張融、周順並有言工,融 音旨殺費,願辭致綺捷,繪之言吐,又頓挫有風氣。"

- [12] 輕重低昂之節---輕是清音,即平聲;重是濁音,即仄聲。
- [13] 八病——見本書第一册《宋書·趙靈運傳論》附錄。
- [14]媚——感。
- [15] 聲對 --- 整律對偶。
- [16] 義類——事義與事類,見本書第一册《文心雕龍·知音》註[44]。
- [17] 康樂公——謝靈運, 謝玄之孫, 晉時襲封康樂公。靈運通佛學, 主頓悟, 曾整理 《大般涅槃經》爲南本。故下文云"及通內典, 心地更精"。
- [18] 空王——佛。道助——《摩訶般若波羅蜜經》:"三十七助道法,是菩薩摩訶薩道。" **這**真是說謝靈運詩的高超成就,是由於得到佛學之助。
- [19] 惠休所評二句——鍾嶸《詩品》:"湯惠休曰:'謝詩如芙蓉出水,顏(延之)如錯 宋鑑金。'顏終身病之。"
- [20] 椎輪——見本書第一册《文選序》及其註[4]。
- [21] 六義——見《毛詩序》。
- [22]陶公句——陶曆《詠貧士》詩首四句:"萬族各有託,孤雲獨無依; 曖曖空中滅,何時見餘暉。"無依無靠的孤雲,在天空中暗然消散,什麼時懷也看不見它的光輝。在遭孤雲的形象中,隱然有陶潛自己的身影在內。這裏出現的是人與物統一的完整的藝術境界,不單純是把孤雲作比喻。
- [23] 鮑照句——鮑照《代白頭吟》:"直如朱絲繩,清如玉壺冰。"李善註:"朱絲,朱絃也。"
- [24] 牛山數——《晏子春秋》:"景公遊于牛山,北臨其國城而流涕曰:若何滂滂去此而死乎? 艾孔、梁丘據皆從而泣,晏子獨笑于旁。公刷涕而顧晏子,……晏子對曰:使賢者常守之,則太公、桓公將常守之矣;使勇者常守之,則靈公、莊公將常守之矣;數君者將守之,則吾君安得此位而立焉?……而獨爲之流涕,是不仁也。不仁之君見一,詔諫之臣見二,此臣之所以獨竊笑也。"
- [25] 至人——《莊子》的《逍遙遊》、《齊物論》、《人間世》、《應帝王》、《達生》、《田子方》、《天下》各篇中,都提及至人,是莊子自指其理想中人而言。
- [26] 爽鳩——《左傳》昭公二十年: "(齊侯)飲酒樂,公曰:古而無死,其樂若何?晏子 對曰:古而無死,則古之樂也,若何得焉? 昔爽鳩氏始居此地,季蘭因之,有逢 伯陵因之,蒲姑氏因之,而後太公因之。古若無死,爽鳩氏之樂,非君所顯也。"

- [27] 傷與張邴合——《史記·張釋之傳》: "其子曰張摯,字長公,官至大夫,免。以不能取容當世,故終身不仕。"《漢書·阿聾傳》: "初, 琅邪邴漢亦以清行徽用。 ……漢兄子曼容亦養志自修,爲官不肯過六百石,輒自免去。"詩意謂己志趣,恰與張、邴二人相同。按:托名賈島所撰《二南密旨·論立格瀰奧》云: "三日事格。須與懷屬思,有所冥合。若將古事比今事,無冥合之意,何益於詩敎。如謝豐運詩: '傷與張邴合,久欲歸東山。'如陸士衡《齊甌行》: '斷散牛山歡,未及至人情。'如古詩云: '蠲向碧雲客,獨吟黃鶴詩。'"
- [28] 久欲歸東山——東山在會稽始寧(始寧在今浙江上虞縣西南五十里)西南四十五里,風景極勝。東山西一里始寧團,乃謝雲運別墅,是其祖父謝玄故宅所在。
- [29]無靈句——《列女傳》:"鑑離春者,齊無鹽邑之女,宜王之正后也。其為人極随無變,……行年四十,無所容入,衒嫁不體,流棄莫執。於是乃拂拭短褐,自調宜王,……顯備後宮之掃除。……(宜王)拜無鹽君爲后,齊國大安。"
- [80] 文王太姒句----《列女傳》:"太姒者,武王之母,……仁而明道,文王嘉之,親迎于清。"
- [81]不入虎穴二句——"不入虎穴,不得虎子",班超語,見《後漢書·班超傳》。
- [82] 衆妙之門---《老子》:"玄之又玄, 衆妙之門。"
- [83] 揮其斤而無其質----《莊子·徐无鬼》: "郢人堊(音惡,石灰)慢(逾)其鼻端若蠅翼,使匠石斷之。匠石運斤(斧類)成風,聯(放手)而斷之,盡堊而鼻不傷。郢人立不失答。宋元君聞之,召匠石曰:嘗試爲寡人爲之。匠石曰:臣則嘗能斷之。雖然,臣之質,(施技的對象,指郢人)死久矣。"
- [84] 伯牙句——伯牙歎息鍾子期死後無知音, 見本書第一册 《文心雕 龍·知音》 註[52]。
- [85] 疇昔國朝協律耶吳兢二句——唐人吳兢選《古今詩人秀句》,其書已佚,存序 文於《文鏡秘府論》南卷中,見本書第一册《詩品序》附錄。序中未提到與越僧 玄監集秀句事,皎然當有所本,今不詳。
- [86] 借賊兵而資盜糧——《史記·范睢蔡澤傳》:"放齊所以大破者,以其伐楚而肥 韓魏也。此所謂借賊兵而齎盜糧者也。"
- [87]如車之有較——《老子》: "三十幅,共一穀。"較是車輪中心的圓木,周圍與車幅 (車輪上一條一條的直木)的一端相接,中有圓孔,用以插軸。
- [88]如易之有泰辭焉——泰辭,即《易》卦下的卦辭,傳說爲周文王所作,總論還一 卦的主要意義。如"乾"卦下面的"元、李、利、贞"四字就是。
- [39] 造父——人名,周穆王時人, 聲彻。 見《皮記·始世家》。

- [40] 宋人二句——《戰國策·秦策》: "鄭入謂玉未理者獎,周人謂息未腊者朴。周人懷朴[獎]過鄭賈曰: '欲質朴乎?'鄭賈曰: '欲之。'出其朴。視之,乃息也,因 謝不取。"按: 疑本文"宋"字為"鄭"字之訛。一說,古代常以宋人指愚人,這裏 的宋人也即愚人的意思。喧喊,即虛胡,喉間的笑聲。《後漢書·應劭傳》: "宋愚夫亦寶燕石,稻鞮士重,夫覩之者掩口盧胡而笑。"
- [41] 膏肓之疾——《左傳》成公十年: "疾不可為也,在肓之上,膏之下,攻之不可,達之不及,藥不至焉,不可為也。"膏,心尖脂肪或心下面的部位。肓,心臟和隔膜之間。膏肓之疾,謂不可醫治的病。
- [42] 頓教——佛家分頓、漸二教,以速疾證悟真理者爲頓教。
- [43] 陳子昂復多而變少——謂陳子昂五君古詩,復阮籍《詠懷》之古,在詩歌形式方面,未能創新寫律體詩。《詩式》卷三《論盧藏用陳子昂集序》有云:"子昂《感宴》(按:當作遇)三十首,出自阮(原作此,睽)公《詠懷》。《詠懷》之作,難以爲鑄。子昂詩曰:'荒哉穆天子,好與白雲期。宮女多怨曠,曆城(在崑崙)蔽歌眉。'曷若阮公'三楚(南楚、東楚、西楚)多秀士,朝雲(宋玉《高唐賦》载巫山胂女自云"妾且爲朝雲")進荒淫。朱華振芬芳,高蔡(楚地名。蔡聖侯在此行獵,不顧國事。見《戰國策》)相追奪。一爲黄雀哀(黃雀棲茂樹,不知人挾彈在後彈之。見《戰國策》),涕下離能禁。"可與此語相發明。
- [44] 沈宋復少而變多——沈佺期、宋之問多寫律詩,在唐代五律與七律詩的形成上,有一定功績,故云。
- [45] 方便——《維摩討所說經》:"以無量方便,饒益衆生。"方便,佛家語,獨云權宜。
- [46] 彈撫干將太阿之欽——彈,擊。干將,春秋時吳人,與其妻莫邪所鑄之劍,即名 干將、莫邪。太阿,吳歐冶子、干將所鑄劍名。欽,劍把,手所把持處。
- [47] 傷手之患----《老子》: "夫代大匠斷者, 希有不傷其手矣。"

### 【說明】

唐人詩歌理論,主要有兩派:其一重視詩歌的現實內容與社會意義,由陳子昂發展到白居易、元稹,一直到皮日休;其一則比較重於詩歌藝術,發揮了較多的創見,幷且寫成了專書,由皎然的《詩式》,發展到司空圖的《二十四詩品》。

詩式,即是詩的法則。全會標準論詩宗旨,也品許了具體作

品。品評的等第,即以書中所標舉的五種詩格做准則。精華部分,在於理論,它接觸到詩歌的風格、意境、內容形式的關係、復古與通變等問題。

《詩式》在詩歌原則上,確認了詩的崇高地位,以為"夫詩者 衆妙之華實, 六經之菁英",因此,他又提出了詩體論與詩德論,以 見詩道之所以可奪。 詩體有十九字, 其中有屬於思想內容的貞、 忠、節、志、德、誠、悲、怨、意,所以爲"六經之菁英"; 有屬於藝術 風格的高、逸、氣、情、思、閑、達、力、靜、遠,所以爲"衆妙之華實"。 認爲這樣是"風律外彰,體德內蘊","其一十九字,括文章德體風 **味盡矣。"所謂詩德,即是詩的準則。七德之中,高古、典麗、風流、** 精神,也都屬於風格的範疇。藝術上達到了這樣的境地,才算是 "高手述作","造其極妙","雖非聖功,妙均於聖"。爲了闡明"衆 妙"之所以爲妙,於是在"四不""四深""二要""二廢""四離""六 至"等口訣中,對各個藝術問題,作了闡說,把露、疎、苦澀、怒張、 迂遠、輕浮、虛誕、緩漫、詭怪、僻、弱等等擴斥於藝術美的領域之 外。而皎然所特別強調的最高藝術標準,則是要做到"真於情性, 尙於作用,不顧詞彩,而風流自然","但見情性,不觀文字",才眞 是"發皆造極","詩道之極"。後來司空圖所謂"不着一字,盡得風 流", 殿羽所謂"羚羊掛角, 無跡可求", 與皎然的說法有一定的 聯繫。

要達到如上的詩歌藝術標準,《詩式》提出了取境問題。皎然在《秋日遙和盧使君游何山寺宿歇上人房論涅槃經義》一詩中曾 說過: "詩情綠境發。"他把詩歌的基本因素情和境有機地統一了 起來。皎然所說的境,即後人所謂意境。他以為"詩人之思初發,取境偏高,則一首舉體便高;取境偏逸,則一首舉體便逸。"又以為"靜,非如松風不動,林欲未鳴,乃謂意中之靜。遠,非如渺渺望水,杳杳看山,乃謂意中之遠。"這樣闡說意境,在古典詩論中,可

說是一個開端,最後發展為王國維《人間詞話》的境界說。詩中的意境既不等同於單純屬於客觀世界的境,因此,要"氣象氤氳","意度盤礴"。詩中的意必須通過"象"來表現,所以要"假象見意",要"采奇於象外"(見附錄《評論》),"情在言外","旨冥句中"。象、言、句、文,只是用以顯示奇、情、旨的形迹。情文並茂,意境雙融,才是詩家的極詣。與意境相聯繫,皎然解釋比與,也賦予它以新的含義。他以為"取象曰比,取義曰與。義卽象下之意。凡禽魚草木人物名數萬象之中義類同者,盡入比與。"所以他所說比與,實際是屬於意境的範疇。有比與卽是有象外之奇,文外之旨,言外之情,以此區別於單純取象作比喻而不能融境於情的屬於修辭範疇的比。陶潛《詠貧士》詩的取與於孤雲,正是融境入情的例子。江淹《詠扇》詩的取象於秦女乘鸞(見附錄《詩式:團扇二篇》),也正是"與生於中,無有古事"的說明。這在一定程度上已接觸到詩歌創作運用形象思維的問題,有一定的合理因素。

由取壞而進一步說到如何取壞,皎然主張要站得高,看得遠,"如登衡、巫,觀三湘、鄢、郢山川之盛";要"釋慮於險中"(見附錄《評論》),"不入虎穴,焉得虎子","放意須險,定句須難,雖取由我衷,而得若神表"。他特別強調了詩人神思的作用,却並不認爲這種神思是神秘的,他說到: "有時意靜神王,佳句縱橫,若不可遏,宛若神助。"接着又說: "不然,蓋由先積精思,因神王而得乎?""神思"是長期思想醞釀的結果,因精神狀態高昂而激發,並不是無所依傍的靈咸。

有關詩歌創作問題,皎然所論,雖注意到內容,但也重視形式。他以為"無鹽關容而有德,曷若文王太姒有容而有德"。旣反對"酷裁八病,碎用四聲"的偏尚形式,但在重內容的前提下,又以為"韻合情高,此未損文格","作者措意,雖有聲律,不妨作用","用律不滯,由深於聲類"。旣主張"不用事第一",又以為"用

事不直,由深於義類"。並且說"雖欲廢巧尙直,而思致不得置;雖欲廢言尙意,而典麗不得遺"。而《詩式》一書,較多論述的還是在藝術方面。

在繼承與創新的問題上,皎然強調的是"變"。他以為"反古 曰復,不滯曰變。若惟復不變,則陷於相似之格。""後輩若乏天 機,強效復古,反令思擾神沮"。因此,他主張自立新意,"無有依 傍",要復古而能"通於變"。這些見解,也有可取之處。但同時也 應指出,他更多的是從詩歌形式的發展角度看問題,肯定了"沈、 宋復少而變多",批評了"陳子昂復多而變少",忽視了詩歌社會 內容的重要,因而又是片面的。而在寫詩技巧方面,他又嘲諷了 詩家的"三同",對"偷語""偷意",絕不容恕,只有"才巧意精,若 無朕迹"的"偷勢",才是"詩人偷狐白裘於閩域中之手"。

《詩式》文字簡約,其精蘊往往含而未申,有待於後人的探索。這一類型的詩論,有所謂李嶠的《評詩格》,王昌齡的《詩格》,白居易的《金鍼詩格》,齊己的《風騷旨格》等等,大都出於宋以後人僞托,不能與《詩式》相提並論。

## 附 錄

## 詩 式(選錄)

### 〔唐〕皎 然

### 李少卿幷古詩十九首

評曰: 西漢之初,王澤未竭, 詩教在焉。昔仲尼所刪《詩三百篇》, 初傳卜商。後之學者以師道相高,故有齊、魯四家之目。其五言周時已見濫觴,及乎成篇,則始於李陵、蘇武二子,天予眞性,發言自高,未有作用。《十九首》辭義精炳,婉而成章,始見作用之功,蓋東(原作是,據《歷代詩話》本改)漢之文體。又如"冉冉孤生竹"、"青青河畔草",傅毅、蔡邕所作,以此而論,爲(原作前,據《歷代詩話》本改)漢明矣。

### 鄴 中 集

野曰: 鄴中七子,陳王最高。劉楨(原作即,據《歷代詩話》本改)辭氣偏,王得(原脫得字,據《歷代詩話》本補)其中,不拘對屬,偶或有之,語與興驅,勢逐情起,不由作意(原作作不由意,據《詩學指南》本改),氣格自高,與(原脫,據《歷代詩話》本補)《十九首》其流一也。

#### 三不同語意勢

評曰:不同可知矣,此則有三同。三同之中,偷語最為鈍賊,如(原衍何字,據《歷代詩話》本酬)漢定律令,厥罪必(原作不,據《歷代詩話》本改)書。應爲鄭侯務在匡佐,不暇采詩,致使弱手蕪(原作無,據《歷代詩話》本改)才,公行劫剝。若評質(原作許貧,據《歷代詩話》本改)以(原脫,據《歷代詩話》本改)以(原脫,據《歷代詩話》本社)道,片言可折,此雖無處逃刑。其次偷意,事雖可罔,情不可原。若欲一例平反,詩教何設?其次偷勢,才巧意精,若無朕迹,蓋詩人偷狐白袭於閩域中之手(原作"蓋詩人閩域之中偷狐白裘之手",據《歷代詩話》本改)。吾亦賞俊,從其漏網。

#### 團扇二篇

野曰:江則假象見意,班則貌題直書。至如"出入君懷袖,搖動微風發,常恐秋節至,涼雕奪炎熱。"旨婉詞正,有潔婦之節,但此兩對,亦足以揜映。江生詩曰:"畫作秦王女,乘騰向烟霧。"興生於中,無有古事。假使佳人玩之在手,乘騰之意,飄然莫偕。雖蕩如夏姬,自忘情改節。吾許江生情遠辭麗,方之班女,亦未可減價。

### 王仲宜七哀

評曰:仲宜詩云: "出門無所見,白骨蔽平原。路有飢婦人,抱子棄草間,顧聞號泣聲,揮涕獨不還。未知身死處,何能兩相完? 驅馬棄之去,不忍聽此言。"此中事在耳目,故傷見乎辭。及至"南登灞陵岸,回首望長安",察思則已極,覽辭則不傷。一篇之功,併在於此,使今古作者味之無厭。末句因"南登灞陵岸""悟彼下泉人",蓋以逝者不返,吾將何親,故有傷肝之歎。沈約云:不傍經史,直率(當作舉)胸臆。吾許其知詩者也。如此之流,皆名爲上上逸品者矣。

(以上卷一)

### 池塘生春草明月照積雪

評曰: 客有問予: 謝公二句優劣奚若? 予因引梁征遠將軍評為隱秀之語。且鍾生旣非詩人,安可輒議,徒欲聾瞽後來耳目。且如"池塘生春草",情在言外,"明月照積雪",旨冥句中,風力雖齊,取興各別。古今詩中,或一句見意,或多句顯情。王昌齡云: 日出而作,日入而息,謂一句見意為上。事殊不爾。夫詩人作用,勢有通塞,意有盤礴。勢有通塞者,謂一篇之中,後勢特起,前勢似斷,如驚鴻背飛,卻顧[[6]]。即曹植詩云"浮沈各異勢,會合何時諧? 願因(原注:一作為)西南風,長逝入君懷"是也。意有盤礴者,謂一篇之中,雖詞歸一旨,而與乃多端,用識與才,疑踐理窟,如卞子採玉,徘徊荆岑,恐有遺璞。其有二義,一情一事。事者,如劉越石詩曰"鄧生何感激,千里來相求,白登幸曲逆,鴻門賴留侯,重耳用五賢,小白相射鉤,苟能隆二伯,安問黨與讎"是也。情者,如康樂公"池塘生春草"是也。抑由情在言外,故其辭似淡而無味,常手覽之,何異文侯聽古樂哉! 《謝氏傳》曰: 吾嘗在永嘉西堂作詩,夢見惠連,因得"池塘生春草",豈非神助乎!

(以上卷二)

### 齊 梁 詩

評曰:夫五言之道,惟工惟精。論者雖欲降殺齊、梁,未知其旨。若據時代,道喪幾之矣。沈約詩(疑當作說)詩,人不用此論,何也。如謝吏部詩:"大江流日夜,客心悲未央。"柳文暢詩:"太液滄波起,長楊高樹秋。"王元長詩:"霜氣下孟津,秋風度函谷。"亦何減於建安。若建安不用事,齊梁用事,以定優劣,亦請論之。如王筠詩:"王生臨廣陌,潘子赴(原注:一作賦)黄河。"庾肩吾詩:"秦王觀大海,魏帝逐飄風。"沈約詩:"高樓切思婦,西園游上才。"格雖弱,氣循正。遠比建安,可言體變,不可言道喪。大曆中,詞人多在江外,皇甫冉、嚴維、張繼素、劉長卿、李嘉祜、朱放,竊佔青山白雲、春風芳草,以爲己有。吾知詩道初喪,正在於此,何得推過齊、梁作者。迄今餘波尙賽,後生相效,沒弱者多。大曆末年,諸公改轍,蓋知前非也。……

(以上卷四)

### 立意總評

評曰: 前無古人獨生我, 思驅江、鮑、何、柳爲後輩, 於其間或偶然中者,

豈非神會而得也。……詩人意立,變化無有倚傍,得之者懸解其間。…… (以上卷五) 《十萬卷樓叢書》本《詩式》

## 詩 議(選錄)

### 〔唐〕皎 然

……夫境象非一,虚實難明。有可覩而不可取,景也;可聞而不可見, 風也。雖緊乎我形,而妙用無體,心也;發貫衆象,而無定質,色也。凡此 等,可以偶虛,亦可以偶實。

乾隆敦本堂本《詩學指南》卷三

## 許 論(選錄)

### 〔唐〕皎 然

或曰:今人所以不及古者,病於麗詞。予曰:不然。先正詩人,時有麗詞。"雲從龍,風從虎",非麗邪?"昔我往矣,楊柳依依;今我來思,雨雪霏霏",非麗邪?但古人後於語,先於意。

或曰: 詩不要苦思, 苦思則喪於天眞。此甚不然。固當釋慮於險中, 采 奇於象外, 狀飛動之趣, 寫眞奧之思。夫希世之珍, 必出驪龍之額, 況通幽 名變之文哉!

乾隆敦本堂本《詩學指南》卷三

## 詩格(選錄)

### 〔唐〕王昌齡

詩有三境:一曰物境。欲爲山水詩,則張泉石雲峯之境,極麗絕秀者,

胂之於心,處身於境, 視境於心, 瑩然掌中, 然後用思, 了然境象, 故得形似。 二日情境。娛樂愁怨, 皆張於意而處於身, 然後馳思, 深得其情。三日意 境。亦張之於意而思之於心, 則得其眞矣。

時有三格:一曰生思。久用精思,未契意象,力疲智竭,放安神思,心偶 照境,猝然而生。二曰感思。尊昧前言,吟諷古制,感而生思。三曰取思。 搜求於象,心入於境,神會於物,因心而得。

乾隆敦本堂本《詩學指南》卷三

## **送靈澈上人廬山迴歸沃洲序**

### 〔唐〕權德輿

昔廬山遠公、鍾山約公皆以文章廣心地,用贊後學,俾學者乘理以詣,因言而悟,得非元津之一派乎? 吳興長老寶公(按:即皎然)掇六義之清英,首冠方外,入其室者,有沃洲鹽澈上人。上人心冥空無而跡寄文字,故語甚 夷易,如不出常境,而諸生思慮,終不可至。其變也,如松風相韻,冰玉相叩,屠峯千仞,下有金碧,聳鄙夫之目,初不敢眠。三復則淡然天和,晦於其中,故睹其容覽其詞者,知其心不待境靜而靜。况會稽山水,自古絕勝,東晉逸民多遺身世於此。夏五月,上人自鑪峯言旋,復於是邦。予知夫拂方袍,坐輕舟,泝沿鏡中,靜得佳句,然後深入空寂,萬慮洗然,則嚮之境物,又其稊稗也。鄙人方景慕企尙之不暇,焉敢以離羣爲款。

《全唐文》卷四百九十三

## **董氏武陵集紀(節錄)**

### 〔唐〕劉禹錫

片言可以明百意,坐馳可以役萬景,工於詩者能之; 風雅體變而興同, 古今調殊而理異(原作冥,據上海人民出版社《劉禹錫集》校改),達於詩者 能之。工生於才,達生於明,二者還相爲用,而後詩道備矣。……一旦得董 生之詞,杳如搏翠,屏浮層瀾,視聽所遇,非風塵間物。亦循明金終羽,得于 遐裔,雖欲勿寶,可乎? 生名侹,字庶中,幼恃屬詩者,晚而不衰。心源爲 饈,筆端爲炭,鍛鍊元本,雕礱臺形,糾紛舛錯,逐意犇走,因故沿濁協爲新 聲。……余不得讓而著于篇,因系之曰: 詩者其文章之蘊邪? 義得而言喪, 故微而難能,境生於象外,故精而寡和。千里之繆不容秋毫,非有的然之姿 可使戶曉,必俟知者然後鼓行於時。自建安距永明已還,詞人比肩,唱和相 發。有以朔風零雨高視天下,蟬噪鳥鳴蔚在史策,國朝因之,粲然復興。

《四部叢刊》影印武進董氏影宋本《劉夢得文集》卷二十三

### 澈上人文集紀(節錄)

### [唐] 劉禹錫

初上人在吳興,居何山,與畫公爲侶(皎然字畫,時以字行)。時予方以兩髦執筆硯,陪其吟詠,皆曰孺子可教。後相遇于京洛,與友許之契焉。上人歿後十七年,予爲吳都,其門人秀峯捧先師之文來乞詞以志,且曰:"師嘗在吳,賦詩僅二千首。今刪取百篇,勒爲十卷,自大曆至元和凡五十年間,接詞客聞人詶唱別爲十卷。今也思行乎昭世,求一言羽翼之。"因爲許曰:世之言詩僧多出江左,靈一導其源,護國襲之;清江揚其波,法振沿之。如幺絃孤韻瞥入人耳,非大樂之音。獨吳與畫公能備衆體,畫公後,澈公承之。至如《芙蓉園新寺詩》云:"經來白馬寺,僧到赤烏年。"《謫汀洲》云:"青 蚬爲弔客,黃犬寄家書。"可謂入作者閩域,豈獨雄於詩僧間邪!

《四部叢刊》影印武進董氏影宋本《劉夢得文集》卷二十三

# 篋中集"序

[唐] 元 結<sup>[2]</sup>

元結作《篋中集》。或問曰: 公所集之詩,何以訂之? 對曰: 風雅不興,幾及千歲,溺於時者,世無人哉? 嗚呼! 有名位不顯,年壽不將[3](原作終,據《四部叢刊》影明本校改),獨無知音,不見稱頌,死而已矣,誰云無之! 近世作者,更相沿襲,拘限擊病,喜尚形似;且以流易爲辭,不知喪於雅正,然哉! 彼則指詠時物,會諧絲竹,與歌兒舞女,生汚惑之擊於私室可矣。若令方直之士,大雅君子,聽而誦之,則未見其可矣。

吳興沈千運<sup>[4]</sup>,獨挺於流俗之中,強攘於已溺<sup>[5]</sup>之後,窮老不惑,五十餘年。凡所爲文,皆與時異。故朋友後生,稍見師效,能似類者,有五六人。於戲! 自沈公及二三子,皆以正直而無祿位,皆以忠信而久貧賤,皆以仁讓而至喪亡。異於是者,顯榮當世。誰爲辯士,吾欲問之。兵與於今六歲,人皆務武,斯焉誰嗣! 已長逝者,遺文散失。方祖師(祖師,《全唐文》、《唐人選唐詩》作阻絕。)者,不見近作。盡篋中所有,總編次之,命曰《篋中集》。且欲傳之親故,冀其不亡。於今凡七人,詩二十二首。時乾元三年<sup>[6]</sup>也。

中華書局排印本孫望校《元次山集》卷七

### 【註釋】

- [1] 箧中集——箧,小箱子,如書箧。《箧中集》是元結所編,一卷,集其親友沈千運、王季友、子逖、孟雲卿、張彪、趙豫明、元季川七人的五言古詩,共二十七首。
- [2]元結(公元七一九——七七二年)——字次山,河南人。天寶十三载進士。曾 参加討伐史思明之役,有戰功,後爲道州刺史。所著原集已散佚,後人輯有《元

次山集»。《新唐書》卷一四三有傳。

- [3]年壽不將----《楚辭·哀時命》:"哀余壽之弗將。"王逸註:"將,猶長也。"
- [4]沈千運——吳興人,天寶中歷試進士不第,遨遊襄鄧間,一生落抔。
- [5]已弱——也作"己溺"。《孟子·離婁下》:"禹思天下有溺者,由己溺之也。"由 通猶。己溺作典故用,意爲救人。
- [6]乾元三年——公元七六〇年。乾元爲唐肅宗年號,三年閏四月,改元爲上元。

#### 【説明】

元結論詩,繼承《詩經》風雅比與的傳統,要求詩歌具有美刺的內容和質樸的風格,能發揮積極的社會作用,而反對流連光景、浮豔雕飾之作。"風雅不與,幾及千歲","近世作者,更相沿襲,拘限聲病,喜尙形似;且以流易爲辭,不知喪於雅正。""文章道喪蓋久矣。時之作者,煩雜過多,歌兒舞女,且相喜愛,繫之風雅,誰道是邪?"這些感慨,喊出了中唐現實主義詩論的先聲。但這裏完全排斥詩歌的音律,是有片面性的。

他早期的《二風詩論》就自述作《二風詩》的目的是"極帝王理亂之道,繫古人規諷之流"。其後在《繫樂府十二首序》中說明自己創作動機是"盡歡怨之聲者,可以上感於上,下化於下"。他晚年又寫出著名的新樂府體詩篇《春陵行》,反映社會動亂面貌,未尾說:"何人采國風,吾欲獻此詩。"杜甫對《春陵行》等詩作和這種創作思想給予極高評價,指出"不意復見此比與體制,微婉頓挫之詞",肯定了它們能繼承《詩經》緊密聯繫現實、婉而多諷的優秀傳統。白居易、元稹的新樂府運動,正是沿着這條路縫發展的。

元結的散文, 洗淨駢風, 筆鋒銳利, 富有批判現實精神。正如他自己所說: "多退讓者,多激發者,多嗟恨者,多傷閔者", 是"救時勸俗之所須者"。呂溫就推重他的文章"彰善而不黨, 指惡而不誣, 直舉胸臆, 用爲鑒戒"。宋代歐陽修說: "唐自太宗郅治之

盛,幾乎三代之隆,而惟文章獨不能革陳隋之弊,旣久而後韓柳之徒出,蓋習俗難變,而文章變體又難也。次山當開元、天寶時獨作古文,其筆力雄健,意氣超拔,不減韓之徒也。"(《集古錄·唐元次山銘》)高似孫《子略》說:"次山平生辭章奇古不蹈襲,其視柳柳州又英崛。唐代文人惟二公而已。"反映他又是韓、柳古文運動的前驅,比較而言與柳宗元更爲接近。

## 附錄

## 文 編 序

## 〔唐〕元 結

天寶十二年,漫叟以進士獲薦,名在禮部,會有司考校舊文,作《文編》 納於有司。當時叟方年少,在顯名跡,切恥時人詔邪以取進,姦亂以致身, 徑欲填陷穽於方正之路,推時人於禮讓之庭,不能得之,故優游於林壑,快 恨於當世。是以所爲之文,可戒可勸,可安可順。侍郎楊公見《文編》,歎曰: "以上第汚元子耳,有司得元子是賴。" 叟少師友仲行公,公聞之, 驗叟曰: "於戲! 吾嘗恐直道絕而不複,不虞楊公於子相續如樓。"明年,有司於都 堂策問羣士,叟竟在上第。

爾來十五年矣。更經喪亂,所望全活,豈欲跡參戎旅,苟在冠冕,觸踐 危機,以爲榮利,蓋辭謝不免,未能逃命。故所爲之文,多退讓者,多激發 者,多嗟恨者,多傷閔者。其意必欲勸之忠孝,誘以仁惠,急於公直,守其節 分,如此非救時勸俗之所須者歟?

叟在此州,今五年矣,地偏事簡,得以文史自娛。乃次第近作,合於舊編,凡二百三首,分爲十卷,復命曰《文編》,示門人子弟,可傳之於筐篋耳。 叟之命稱,則著於《自釋》云,不錄。時大曆二年丁未中冬也。

中華書局排印本孫望校《元次山集》卷十

## 劉侍御月夜讌會序

#### 〔唐〕元 結

兵與以來十一年矣,獲與同志歡醉達且,詠歌取適,無一二焉。乙巳歲,彭城劉鹽源在衡陽,逢故人或有在者,日(原作曰,據《全唐詩》校改)昔相會,第歡遠遊,始與諸公待月而笑語,竟與諸公愛月而歡醉,詠歌夜久,賦詩言懷。於戲! 文章道喪蓋久矣。時之作者,煩雜過多,歌兒舞女,且相喜愛,繫之風雅,誰道是邪? 諸公嘗欲變時俗之淫靡,爲後生之規範,今夕豈不能道達情性,成一時之美乎?

中華會局排印本孫望校《元次山集》卷三

## 繁樂府序

#### [唐] 元 結

天寶辛未(疑辛卯之譌)中,元子將前世嘗可稱歎者爲詩十二篇,爲引 其義以名之,總命曰"緊樂府"。古人歌詠,不盡其情聲者,化金石以盡之, 其歡怨甚耶戲。盡歡怨之聲者,可以上感於上,下化於下,故元子緊之。 中華書局排印本孫望校《元次山集》卷二

## 同元使君春陵行並序

#### 〔唐〕杜 甫

覽道州元使君結《春陵行》象《賊退後示官吏作》二首,志之曰:當天子分憂之地,效漢官良吏之目。今盗賊未息,知民疾苦,得結輩十數公,落落然參錯天下為邦伯,萬物吐氣,天下少安,可待矣!不意復見比與體制、微婉頓挫之詞。感而有詩,增諸卷軸,簡知我者,不必答元。

遭亂髮盡白,轉衰病相嬰。沉縣盜賊際,狼狽江漢行。歎時藥力薄,爲客廳療成。吾人詩家秀,博采世上名。粲粲元道州,前聖畏後生。觀乎《春陵》作,敎見俊哲情,復覽《賊退》篇,結也實國楨。賈誼昔流慟,匡衡常引經。道州憂黎庶,詞氣浩縱橫。兩章對秋月,一字偕華星。致君唐虞際,純朴憶大庭。何時降璽書,用爾爲丹青?獄訟久衰息,豈唯偃甲兵!悽惻念誅求,薄飲近休明。乃知正人意,不苟飛長纓。涼廳振南岳,之子寵若驚。色阻(珠曰:一云色沮。)金印大,與含滄溟(珠曰:溟一作浪。)清。我多長卿病,日夕思朝廷。肺枯渴太甚,漂泊公孫城。呼兒具紙筆,隱几臨軒楹。作詩呻吟內,墨淡字欹傾。感彼危苦詞,庶幾知者聽。

《四部費刊》影宋本《分門集註杜工部集》卷二十五

## 道州刺史廳壁後記(節錄)

## 〔唐〕呂 溫

壁記,非古也。若冠綬命秩之差,則有格令在;山川風物之辨,則有圖 踩在。所以爲之記者,豈不欲述理道、列賢不肖以訓于後,庶中人以上得化 其心焉。代之作者,率異於是,或誇學名數,或務工爲文,居其官而記者則 媚己,不居其官而代人記者則媚人,《春秋》之旨,蓋委地矣。賢二千石河南 元結,字次山,自作《道州廳事記》,彰善而不黨,指惡而不誣,直舉胸臆, 用爲鑒戒。昭昭吏師,長在屋壁,彼貪虐放肆以生人爲戲者,獨不媿於心 乎?……

《四部聲刊》影宋鈔本《呂和叔文集》卷十

## 與元九"書

#### [唐] 白居易[2]

月日,居易白,微之足下:

自足下謫江陵<sup>[3]</sup>,至於今,凡枉贈答詩僅<sup>[4]</sup>百篇。每詩來,或辱序,或辱書,冠於卷首。皆所以陳古今歌詩之義,且自敍為文因緣與年月之遠近也。僕旣受足下詩,又諭足下此意,常欲承答來旨,粗論歌詩大端,幷自述為文之意,總為一書,致足下前。累歲已來,牽故少暇;間有容隙,或欲為之,又自思所陳亦無出足下之見,臨紙復罷者數四,卒不能成就其志;以至於今。今俟罪薄陽,陳盥櫛食寢外無餘事,因覽足下去通州<sup>[5]</sup>日所留新舊文二十六軸,開卷得意,忽如會面。心所蓄(原本作畜,據《全唐文》校改)者,便欲快言,往往自疑,不知相去萬里也。旣而憤悱之氣思有所洩,遂追就前志,勉為此書。足下幸試為僕留意一省。

夫文尚矣,三才<sup>[6]</sup>各有文: 天之文,三光<sup>[7]</sup>首之; 地之文, 五材<sup>[8]</sup>首之; 人之文, 六經首之。就六經言, 《詩》又首之。何者? 聖人感人心而天下和平。感人心者, 莫先乎情, 莫始乎言, 莫切 乎聲, 莫深乎義。詩者: 根情, 苗言, 華聲, 實義。上自聖賢, 下至 愚騃, 微及豚魚, 幽及鬼神, 羣分而氣同, 形異而情一, 未有聲入 而不應, 情交而不感者。

聖人知其然,因其言,經之以六義<sup>[9]</sup>;緣其聲,緯之以五 音<sup>[10]</sup>。音有韻,義有類。韻協則言順,言順則聲易入;類舉則情 見,情見則感易交。於是乎孕大含深,貫微洞密,上下通而一 氣<sup>[11]</sup>泰,憂樂合而百志熙。五帝三皇所以直道而行,垂拱而理 者,揭此以爲大柄,決此以爲大寶(原作寶,據《文苑英華》改)也。

故聞"元首明,股肱良"之歌<sup>[12]</sup>,則知虞道昌矣。聞五子洛 汭之歌<sup>[13]</sup>,則知夏政荒矣。言者無罪,聞者足(原本作作,據《全 唐文》校改)戒<sup>[14]</sup>,言者聞者莫不兩盡其心焉。

泊周衰秦興, 采詩官[15] 廢, 上不以詩補察時政, 下不以歌洩 導人情。乃至於諂成之風動, 救失之道缺。於時六義始刓[16]矣。

國風變爲騷辭,五言始於蘇、李。蘇、李、騷人,皆不遇者,各 繫其志,發而爲文。故河梁之句[17],止於傷別,澤畔之吟[18],歸 於怨思。彷徨抑鬱,不暇及他耳。然去《詩》未遠,梗概尚存。故與 離別則引雙鳧一雁[19]爲喻,諷君子小人則引香草惡鳥爲比。雖 義類不具,猶得風人之什二三焉。於時六義始缺矣。

晉、宋以還,得者蓋寡。以康樂<sup>[20]</sup>之與博,多溺於山水;以 淵明之高古,偏放於田園。江、鮑<sup>[21]</sup>之流,又狹於此。如梁鴻 《五噫》<sup>[22]</sup>之例者,百無一二焉。於時六義蹇微矣,陵夷矣。

至於梁、陳間,率不過嘲風雪、弄花草而已。噫! 風雪花草之物,《三百篇》中豈舍之乎? 顧所用何如耳。設如"北風其涼",假風以刺威虐也[23]; "雨雪霏霏",因雪(原本無因雪,據《全唐文》校增) 以愍征役也[24]; "棠棣之華",咸華以諷兄弟也[25]; "采采芣苜",美草以樂有子也[26]。皆與發於此而義歸於彼。反是者,可乎哉! 然則"餘霞散成綺,澄江淨如練"[27], "離花先委露,別葉乍辭風"[28]之什,麗則麗矣,吾不知其所諷焉。故僕所謂嘲風雪、弄花草而已。於時六義盡去矣。

唐興二百年,其間詩人不可勝數。所可舉者,陳子昂有《咸遇詩》二十首<sup>[29]</sup>,鮑防(原本作舫,據《全唐文》校改)有《咸與詩》十五首<sup>[30]</sup>。又詩之豪者,世稱李<sup>[81]</sup>、杜。李(原本無李字,據《全唐文》校增)之作,才矣奇矣,人不逮矣,索其風雅比與,十無一焉。杜詩最多,可傳者千餘首(原本作人,據《文苑英華》校改。《全唐

文》作篇),至於貫串今古,觀樓格律,盡工盡善,又過於李。然撮其《新安吏》《石壕吏》《潼關吏》《塞蘆子》《留花門》(原本作新開安石壕潼關吏蘆子開花門,據《全唐文》校改)之章,"朱門酒肉臭,路有凍死骨"[32]之句,亦不過三四十首(原本無首字,據《全唐文》校增)。杜尚如此,況不逮杜者乎!

僕常痛詩道崩壞,忽忽憤發,或食輟哺、夜輟寢,不量才力, 欲扶起之。嗟夫! 事有大謬者,又不可一二而言,然亦不能不粗 陳於左右。

僕始生六七月時,乳母抱弄於書屏下,有指無字之字示僕者, 僕雖口未能言,心已默識。後有問此二字者,雖百十其試,而指之 不差,則僕宿昔之緣,已在文字中矣。及五六歲,便學爲詩,九歲 諳識聲韻,十五六始知有進士,苦節讀書。二十已來,畫課賦,夜 課書,間又課詩,不遑寢息矣。以至於口舌成瘡,手肘成胝,旣壯而 膚革不豐盈,未老而齒髮早衰白,瞥瞥(《文苑英華》作瞀瞀)然如 飛蠅垂珠在眸子中也,動以萬數。蓋以苦學力文所致,又自悲矣。

家貧多故,二十七方從鄉賦<sup>[38]</sup>(《全唐文》作試)。旣第之後,雖專於科試,亦不廢詩。及授校書郎時,已盈三四百首。或出示交友如足下輩,見皆謂之工,其實未窺作者之城耳。自登朝來,年齒漸長,閱事漸多,每與人言,多詢時務,每讀書史,多求理道,始知文章合爲時而著,歌詩合爲事而作。是時皇帝初卽位<sup>[34]</sup>,宰府有正人<sup>[35]</sup>,屢降璽書,訪人急病<sup>[36]</sup>。僕當此日,擢在翰林<sup>[37]</sup>,身是諫官<sup>[38]</sup>,手(《全唐文》作月)請諫紙<sup>[38]</sup>,啓奏之外,有可以救濟人病,裨補時闕,而難於指言者,輒詠歌之,欲稍稍遞進聞於上。上以廣宸聰<sup>[40]</sup>,副憂勤;次以酬恩獎,塞言貴<sup>[41]</sup>;下以復吾平生之志。豈圖志未就而悔已生,言未聞而謗已成矣。

又請為左右終言之。凡聞僕《賀雨》詩<sup>[12]</sup>,而衆口籍籍,已 謂非宜矣。聞僕《哭孔戡》詩<sup>[48]</sup>,衆面脈脈,盡不悅矣。聞《秦中 吟》[41],則權豪貴近者相目而變色矣。閱《樂遊園》寄足下詩[45], 則執政柄者扼腕矣。閱《宿紫閣村》詩[46],則握軍要者切齒矣。大 率如此,不可遍舉。不相與者號爲沽名,號爲詆訐,號爲訕謗。苟 相與者,則如牛僧孺之戒[47]焉。乃至骨肉妻孥皆以我爲非也。 其不我非者,舉世不過三兩人。有鄧飭[48]者,見僕詩而喜,無何 而鲂死。有唐衢[49]者,見僕詩而泣,未幾而衢死。其餘則足下,足 下又十年來困躓若此。嗚呼! 豈六義四始[50]之風,天將破壞不 可支持耶? 抑又不知天之意不欲使下人之病苦聞於上耶?不然, 何有志於詩者不利若此之甚也。

然僕又自思關東一男子耳。除讀書屬文外,其他懵然無知, 乃至書畫棋博可以接羣居之歡者,一無通曉,即其愚拙可知矣。 初應進士時,中朝無總廠之親<sup>[51]</sup>,達官無半面之舊,策蹇步於利 足之途,張空拳於戰文之場。十年之間,三登科第<sup>[52]</sup>,名入衆 耳,迹升清貫<sup>[53]</sup>,出交賢俊,入侍冕旒。始得名於文章,終得罪 於文章,亦其宜也。

日者,又開親友間說:禮、吏部舉選人,多以僕私試賦判傳為準的。其餘詩句,亦往往在人口中。僕愿然自愧,不之信也。及再來長安,又聞有軍使高霞寓者[54],欲聘倡妓,妓大誇曰:"我誦得白學士《長恨歌》,豈同他妓哉?"由是增價。又足下書云,到通州日,見江館柱間有題僕詩者,復何人哉?又昨過漢南日,適遇主人集衆樂,娛他賓,諸妓見僕來,指而相顧曰:"此是《秦中吟》《長恨歌》主耳。"自長安抵江西,三四千里,凡鄉校、佛寺、逆旅、行舟之中往往有題僕詩者,士庶、僧徒、孀婦、處女之口每每有詠僕詩者。此誠雕蟲之技(原作戲,據《全唐文》校改)[55],不足爲多,然今時俗所重,正在此耳。雖前賢如淵、雲者[58],前雖如李、杜者,亦未能忘情於其間哉!

古人云: "名者公器, 不可以多取[67]。" 僕是何者, 竊時之名

已多。旣竊時名,又欲竊時之富貴,使已為造物者,肯兼與之乎? 今之逃窮,理固然也。況詩人多蹇,如陳子昂、杜甫,各授一拾 遺,而迍剝至死。李白、孟浩然[58]輩不及一命,窮悴終身。近日 孟郊六十,終試協律[59]; 張籍五十,未離一太祝[60]。彼何人哉! 彼何人哉! 況僕之才又不逮彼。今雖謫佐遠郡,而官品至第 五[61],月俸四五萬,寒有衣,饑有食,給身之外,施及家人,亦可 謂不負白氏之子矣。微之微之,勿念我哉!

僕數月來,檢討囊祑(《全唐文》作篋)中,得新舊詩,各以類分,分爲卷首。自拾遺來,凡所適所咸,關於美刺與比者,又自武德訖元和因事立題[62],題爲《新樂府》者,共一百五十首,謂之諷諭詩。又或退公獨處,或移病[63] 閒居,知足保和,吟翫情性者一百首,謂之閒適詩。又有事物牽於外,情理動於內,隨咸遇而形於數詠者一百首,謂之咸傷詩。又有五言、七言、長句、絕句,自一百韻至兩韻者四百餘首,謂之雜律詩。凡爲十五卷,約八百首。異時相見,當盡致於執事。

微之! 古人云: "窮則獨善其身, 達則棄濟天下[64]。"僕雖不肖, 常師此語。大丈夫所守者道, 所待者時。時之來也, 爲雲龍, 爲風鵬[65], 勃然突然, 陳力以出; 時之不來也, 爲霧豹, 爲冥鴻[66], 寂兮寥兮, 奉身而退。進退出處, 何往而不自得哉? 故僕志在棄濟, 行在獨善, 奉而始終之則爲道, 言而發明之則爲詩。謂之諷諭詩, 舜濟之志也; 謂之閒適詩, 獨善之義也。故覽僕詩, 知僕之道焉。其餘雜律詩, 或誘於一時一物, 發於一笑一吟, 率然成章, 非平生所尚者, 但以親朋合散之際, 取其釋恨佐歡。今 鈴次之間, 未能删去, 他時有爲我編集斯文者, 略之可也。

微之! 夫貴耳賤目,榮古陋今,人之大情也。僕不能遠徵古舊,如近歲韋蘇州[67]歌行,才麗之外,頗近輿諷。其五言詩又高雅閑澹,自成一家之體。今之乘筆者誰能及之? 然當蘇州在時,

人亦未甚愛重,必待身後,然後(原本無後字,據《全唐文》校增) 人貴之。今僕之詩,人所愛者,悉不過雜律詩與《長恨歌》已下 耳。時之所重,僕之所輕。至於諷諭者,意激而言質,閑適者,思 淡而詞迂,以質合迂,宜人之不愛也。

今所愛者,並世而生,獨足下耳。然千百年後,安知復無如足下者出而知愛我詩哉?故自八九年來,與足下小通則以詩相就,小窮則以詩相勉,索居則以詩相慰,同處則以詩相娛。知吾罪吾(原本作知吾最要,據《全唐文》校改。《舊唐書·白居易傳》亦作"知吾罪吾"),率以詩也。如今年春遊城南時,與足下馬上相戲,因各誦新豔小律,不雜他篇,自皇子跛歸昭國里[68],迭吟遞唱,不絕聲者二十里餘。樊、李[69]在旁,無所措口。知我者以爲詩仙,不知我者以爲詩魔。何則?勞心靈,役聲氣,連朝接夕,不自知其苦,非魔而何?偶同人當美景,或花時宴罷,或月夜酒酣,一詠一吟,不知老之將至。雖驂鸞鶴[70]、遊蹇瀛者之適,無以加於此焉。又非仙而何?微之微之!此吾所以與足下外形骸、脫踪跡,傲軒鼎[71]、輕人寰者,又以此也。

當此之時,足下與有餘力,且與僕悉索還往中詩,取其尤長者,如張十八<sup>[72]</sup>古樂府,李二十<sup>[73]</sup>新歌行,盧、楊<sup>[74]</sup>二祕書律詩,**資**七、元八<sup>[75]</sup>絕句,博搜精綴,編而次之,號《元白往還詩集》。衆君子得擬議于此者,莫不踴躍欣喜,以爲盛事。嗟乎! 言未終而足下左轉<sup>[76]</sup>,不數月而僕又繼行。心期索然,何日成就,又可爲之嘆息矣。

又僕嘗語足下:凡人爲文,私於自是,不忍于割截,或失于繁多,其間妍媸益又自惑,必待交友有公鑒無姑息者,討論而削奪之,然後繁簡當否得其中矣。況僕與足下,爲文尤患其多。己尚病之,況他人乎?今且各纂詩筆,粗爲卷第,待與足下相見日,各出所有,終前志焉。又不知相遇是何年,相見在何地,溘然而至,

則如之何! 微之微之! 知我心哉!

薄陽臘月,江風苦寒,歲暮鮮歡,夜長無睡。引筆鋪紙,悄然 燈前,有念則書,言無次第,勿以繁雜爲倦,且以代一夕之話也。 微之微之! 知我心哉! 樂天再拜。

文學古籍刊行社影宋本《白氏長慶集》卷四十五

#### 【註釋】

- [1]元九——元稹(公元七七九年——八三一年),字徼之,河南人。行九,故稱元 九。唐穆宗長慶二年拜相。有《元氏長慶集》六十卷、補遺六卷。《舊唐書》卷一 六六、《新唐書》卷一七四有傳。
- [2] 白居易(公元七七二年——八四六年)——字樂天,下邽人。唐貞元十五年進士,官至太子少傅。有《白氏長慶集》七十一卷。《舊唐書》卷一六六、《新唐書》卷一一九有傳。
- [3] 謫江陵——江陵,在今湖北省。元稹因得罪當時的宦官和權貴,公元八一〇年 從監察御史降職爲江陵士曹參軍。
- [4] 僅——作幾乎解。有或多或少的意思。這裏僅百篇,指有百篇之多。
- [5] 通州——今四川省達縣。元稹於公元八一五年調任通州司馬。
- [6]三才——見本書第一册《詩品序》註[3]。
- [7]三光——日、月、星。
- [8] 五材——金、木、水、火、土。
- [9] 六義——見《毛詩序》。
- [10] 五音——見本書第一册《詩品序》註[129]。
- [11] 一氣——我國古代哲學家認為天地萬物為氣所構成。《莊子·知北遊》:"通天下一氣耳。"
- [12] 元首明股肱良之歌——相傳虞舜在位時,天下大治,他和臣子皋陶一唱一和作歌。其中三句是:"元首明哉! 股肱良哉! 庶事康哉!"見《書·皋陶謨》(僞古文《益稷》)。
- [13] 五子洛汭之歌——洛,洛水。汭,水流限曲之處。傳說夏朝的統治者太康荒淫無道,失去了權位,他的兄弟五人在洛水旁邊等候他不來,作了五道歌詞,表示心中的怨恨。見僞古文《書・五子之歌》。

引うて

- [14] 言者無罪,聞者足戒——見《毛詩序》。
- [15] 宋詩官——《漢書·食貨志》: "孟冬之月,行人振木鐸徇于路,以宋詩獻之大師, 比其音律, 以開於天子。"行人, 周代官名。徇, 宜示。
- [16] 河——廳削平。這句謂六義被削弱。
- [17] 河梁之句——見本書第一册《文選序》註[16]。
- [18] 澤畔之吟——見本曹第一册《文選序》註[13]。
- [19] 雙鳧一雁——托名蘇武歸國時,留別李陵的詩:"二鳧俱北飛,一鳧獨南翔。"見《初學記》卷十八。《古文苑》二鳧作雙鳧。
- [20] 康樂——謝靈運,封康樂公。
- [21] 江鮑——指江淹、鲍照。
- [22] 五噫——東漢梁鴻路過當時的京城洛陽。憤慨於統治者的奢侈生活,作《五噫歌》。歌辭:"陟彼北芒兮,噫! 顧瞻帝京兮,噫! 宮闕崔巍兮,噫! 民之劬勞兮,噫! 澄澄未央兮,噫!"
- [23] 北風其涼二句——《詩·邶風·北風》第一章第一句。《詩序》: "《北風》,刺虐也。衛國並爲威虐,百姓不親,莫不相攜持而去焉。"毛傳: "與也。北風,寒涼之風。"孔穎達正義: "寒涼之風,病害萬物。與者,喻君政教酷暴,使民散亂。"
- [24] 雨雪霏霏二句——《詩·小雅·宋薇》最後一章的句子。《詩序》: "《宋薇》, 遺戍 役也。"毛傳: "霏霏, 甚也。"鄭玄鑑"謂極言其苦。"
- [25] 棠棣之華二句——《詩・小雅・棠棣》中第一句。鄭玄箋:"輿者,喻弟以敬事 兄,兄以榮覆弟。"
- [26] 宋宋芣苜二句——《詩·周南·芣苢》中的第一句。《詩序》: "《芣苢》,后妃之 美也。和平則婦人樂有子矣。"芣苢, 車前草, 其子治婦人難產。
- [27] 餘霞散成綺澄江淨如練——謝朓《晚登三山還望京邑》詩句。
- [28] 離花先委購別葉乍辭風——鮑照《翫月城西門》詩句。《鮑氏集》作"歸華先委 購,別葉早辭風"。
- [29] 陳子昂——見本册《與東方左史虬修竹篇序》註。今存陳子昂《感遇詩》三十八首, 較白居易所說多十八首。
- [30] 鲍防——字子愼,襄陽人,天寶時詩人。本文所說《感興詩》十五首,已佚。
- [81] 李——李白(公元七〇一年——七六二年),字太白, 祖籍隴西成紀(今甘肅天水縣)。他出生於中亞的碎葉城(唐屬條支都督府,即今蘇聯之托克馬克。他幼年時,遷家到綿州彰明(今四川江油縣)的青蓮鄉。天寶初,供奉翰林。有《李太白集》三十卷。《舊唐書》卷一九〇文苑、《新唐書》卷二〇二文藝都有傳。

- [32] 朱門酒肉臭二句——杜甫《自京赴奉先縣詠懷五百字》詩中的句子。
- [33] 鄉賦---地方選拔人才的考試。白居易於公元七九九年在宜城參加鄉試。
- [34] 皇帝初即位——指唐憲宗李純即位的初期。
- [35] 宰府有正人——指宰相杜黄裳等人。
- [36] 助人急病——助, 訪問。人, 民也。唐人避唐太宗諱, 往往用"人"字代"民"。病, 病痛,疾苦。
- [37] 擢在翰林——公元八〇七年,白居易被任爲翰林學士。
- [38] 身是諫官——公元八〇八年,白居易被任爲左拾遺,仍兼翰林學士。拾遺是諫官。
- [39] 請諫紙——唐制,諫官每月請領一定數量的紙張。
- [40] 宸聴---皇帝的聽聞。
- [41]塞言實——盡諫官進言的職資。
- [42] 賀雨詩——白居易於公元八〇九年所作。內容是諷勸皇帝改善人民生活。
- [43] 哭孔戡詩——孔戡是當時一個正直不畏權勢的官員。
- [44] 秦中吟——共十首,自序云:"貞元、元和之際,予在長安,聞見之間,有足悲者。 因直歌其事,命爲《秦中吟》。"
- [45] 樂遊園寄足下詩——即《登樂遊園望詩》。
- [46] 宿紫閣村詩——即《宿紫閣山北村詩》。
- [47] 牛僧孺之戒——公元八〇八年,唐憲宗策試賢良方正直言極諫舉人,牛僧孺和 皇甫湜、李宗閔都參加了這次考試,指陳時政,言語激烈,因此得罪了權貴和官 官,牛與考官同受處分。
- [48] 鄧魴——白居易同時的詩人。
- [49] 唐衢——白居易同時的詩人。《舊唐書·唐衢傳》: "唐衢者,應進士,久而不 第,能爲歌詩,意多感發; 見人文章有所傷嘆者,讀訖必哭,涕泗不能已。……故 世謂唐衢善哭。"《白氏長慶集》中有《寄唐生》《傷唐衢》等詩。
- [50]四始——見本書第一册《毛詩序》註[28]。
- [51] 中朝無總廠之親——總廠,即細廠布,古代"五服"中最輕的喪服。這句是說: 朝中連個最疏遠的親族也沒有。
- [52] 三登科第一一白居易於公元八〇〇年登進士第;八〇二年應吏部試,以曹判拔 萃登科;八〇六年,應"才識療茂明於體用科"之試,被錄取入第四等。
- [53]清賞——接近皇帝,地位"清高"的官員。
- [54] 高霞寓——范陽人,當時為振武邠寧節度使。

- [55] 雕蟲之技——見揚雄《法言·吾子》。蟲,蟲會;刻,刻符。蟲會刻符都是漢代 學僮所習,此喻吟詩作賦,堆砌詞藻,也是少年人的玩意兒。
- [56] 前賢如淵雲者——即王褒、揚雄。王字子淵,揚字子雲。
- [57] 名者公器不可以多取----《莊子·天運》:"名,公器也,不可多取。"
- [58] 孟浩然——湖北襄陽人。曾赴長安謀求官職,但以"當路無人",還歸故鄉,隱居 終老。
- [59] 孟郊——字東野,湖州武康人。元和年間,鄭餘慶薦郊爲水陸轉運從事,試協 律郎。
- [61] 官品至第五——五品官。唐制,上州司馬是從五品。
- [62] 自武德乾元和因事立題——武德, 唐高祖年號, 自公元六一八年至六二六年, 凡九年。元和, 唐憲宗年號, 自公元八〇六年至八二〇年, 凡十五年。白居易《新樂府》自首篇《七德舞》以高祖時事立題起, 至元和四年作《宋詩官》止, 共五十篇。
- [63] 移病----因病請假。
- [64] 窮則獨善其身達則兼濟天下——見《孟子·盡心»上。"
- [65] 雲龍風鶥——《易·乾》:"雲從龍,風從虎,聖人作而萬物稅。"《莊子·逍遙遊》:"鵬之徙於南冥也,水擊三千里,摶扶搖而上者九萬里,去以六月息者也。……風之積也不厚,則其資大翼也無力。故九萬里,則風斯在下矣,而後乃令培風;背資青天而莫之天閼者,而後乃今將圖南。"龍乘雲,鷗乘風,比喻賢者得到為國效力的時機。
- [66] 霧豹——喻騰士。《列女傳·賢明》:"妾聞南山有玄豹,霧雨七日而不下食,何也? 欲以澤其毛而成文章也,故藏而遠害。"冥鴻——喻遠走高飛以避害者。揚 继《法言·問明》:"治則見,亂則隱。鴻飛冥冥,弋人何葉焉!"
- [67] 草蘇州——草應物,長安人。于貞元二年(公元七八六年)赴蘇州刺史任,十二年後去官。(據余嘉錫《四庫提要辨證》考訂。)白居易《吳郡詩石記》:"貞元初,韋應物爲蘇州牧。……時予始年十四五。"
- [68] 皇子陂——唐代县安城南的一個名勝。昭國里——在县安城中的東南部。白 居易曾居住於此。
- [69] 樊李——樊宗憲與李景信,又一說是樊宗師和李建。
- [70] 陰繁鶴----- 就是跨鶴登仙的意思。

- [71] 軒用——貴族豪門所坐之車與所用之食器。傲軒期即輕視富貴權勢之意。
- [72] 張十八——即張籍。
- [73] 李二十——即李紳。
- [74] 遺楊----遺拱、楊巨源。
- [75] 實七元八——實鞏、元宗簡。
- [76] 左轉——古人以左為不順,故稱降職爲左選或左轉。

#### 【説明】

《與元九書》是白居易詩論的綱領,是他創作政治諷諭詩的經驗總結。它吸取了前代和同時代人詩論中的進步因素,加以發展,比較全面地解決了文學理論和詩歌創作中的幾個主要問題,具有鮮明的時代內容,強烈的戰鬥色彩。

首先,白居易從文學同現實的關係着眼,認為文學不僅消極地反映社會生活,而應和當前的政治鬥爭相聯繫,積極干預生活。基於這樣的認識,他提出了"文章合為時而著,歌詩合為事而作"的明確結論。《新樂府序》說的"為君、為臣、為事而作",《讀 張籍古樂府》說的"未嘗著空文",都是這個意思。

在"為時""為事"的前提下,他反覆闡明詩歌應該發揮其"補察時政,洩導人情"的作用。他之所以"痛詩道崩壞,忽忽憤發",是因為"諂成之風動,救失之道缺";而他所提倡的、所實踐的,則是與這種傾向針鋒相對的"意激而言質"的"諷諭詩"的詩風,要求詩人對當時的社會弊端作如實的揭發、批判。由於強調批判現實,因而他使詩和當前政治鬥爭聯繫得更爲緊密。

白居易強調"風""雅"反映現實的優良傳統。他說: "聖人知其然,因其言,經之以六義;緣其聲,緯之以五音"。又云: "為詩意如何? 六義互鋪陳。風雅比與外,未嘗著空文。"(《讀張籍古樂府》)可見"風雅比與"是"六義"的精髓,而"美刺"又是"風雅"的精神所在。用"風雅比與"或"美刺比與"作爲最高準則,以之衡量

複雜的文學歷史現象,去僞存眞,於是在本篇裏貫串着大膽批判的精神,對六朝以來某些脫離現實、綺靡頹廢的文風及其影響作了堅决的否定。當然他對於某些偉大作家如屈原、陶潛、李白等的批評是不無偏激狹隘之處的。

《詩三百篇》以後,白居易最推崇的是杜甫。他又指出,杜詩雖然盡工盡善,都是可傳之作,但像《新安吏》《石壕吏》之章,"朱門酒肉臭,路有凍死骨"之句,亦不過三四十首。從這裏可以看出他論詩宗旨之所在。他為新樂府運動從傳統中提供了學習的範例。元稹作《杜工部墓係銘》,推崇杜詩,謂"盡得古今之體勢,而無人人之所獨專",但在《樂府古題序》裏,則特別指出杜的歌行,"卽事名篇,無復依傍",用意與白居易正復相同。與元、白同時的張籍、王建的樂府詩,大都以反映民生疾苦爲主要題材,和元、白的精神也是相一致的。

大曆以後,唐代詩壇上有一部分作者專寫風花雪月、流連光景的詩篇,有超脫人生、逃避現實的不良傾向。但是,當時的社會矛盾異常尖銳複雜,運用詩歌這一文藝形式作爲武器,批評政治,反映現實,所謂"惟歌生民病",則已成爲進步詩人自覺的要求。白居易的主張,正集中地表現了這種文學的思潮,在文學思想史上所產生的作用和影響是很大的。但是,白居易所強調的文章"爲時""爲事""爲民""爲物"而作的目的,主要是"爲君""爲臣",是"顧得天子知",這表現了他的階級與時代的局限性。

## 附錄

## 讀張籍古樂府

[唐] 白居易

張君何爲者? 柔文三十春; 尤工樂府詩, 舉代少其倫。爲詩意如何? 六

義互鋪陳,風雅比與外,未嘗著空文。讀君《學仙》詩,可諷放佚君;讀君《董公詩》,可誨貪暴臣;讀君《商女》詩,可感悍婦仁;讀君《勤齊》詩,可勸薄夫淳。上可裨教化,舒之濟萬民;下可理情性,卷之善一身。始從靑衿歲,迨此白髮新,日夜秉筆吟,心苦力亦勤。時無采詩官,委棄如泥塵。恐君百歲後,滅沒人不聞。願藏中祕書,百代不凐淪;願播內樂府,時得聞至尊。言者志之苗,行者文之根,所以讀君詩,亦知君爲人。如何欲五十,官小身賤資?病眼街西住,無人行到門!

文學古籍刊行社影宋本《白氏長慶集》卷一

## 寄 唐 生

#### 〔唐〕白居易

賈誼哭時事,阮籍哭路歧,唐生今亦哭,異代同其悲。唐生者何人?五十寒且飢。不悲口無食,不悲身無衣,所悲忠與義,悲甚則哭之。太尉擊賊日,倘書叱盜時,大夫死兇寇,諫議謫蠻夷,每見如此事,聲發涕輒隨。往往聞其風,俗士猶或非;憐君頭半白,其志竟不衰。我亦君之徒,鬱鬱何所爲,不能發擊哭,轉作樂府詩。篇篇無空文,句句必盡規,功髙虞人箴,痛甚騒人辭。非求官律高,不務文字奇,惟歌生民病,願得天子知。未得天子知,甘受時人嗤,藥良氣味苦,瑟淡音聲稀。不懼權豪怒,亦任親朋畿,人竟無奈何,呼作狂男兒。每逢羣盜息,或遇雲霧披,但自髙聲歌,庶幾天聽卑。歌哭雖異名,所感則同歸,寄君三十章,與君爲哭詞。

文學古籍刊行社影宋本《白氏長慶集》卷一

## 新樂府序

#### 〔唐〕 白居易

序曰:凡九千二百五十二言,斷為五十篇。篇無定句,句無定字; 緊於意,不緊於文。首句標其目,卒章顯其志,詩三百之義也。其辭質而徑,欲見之者易識也;其言直而切,欲聞之者深誠也;其事覈而實,使采之者傳信也:

其體順而肆,可以播於樂章歌曲也。總而言之,爲君、爲臣、爲民、爲物、爲事而作,不爲文而作也。

文學古籍刊行社影宋本《白氏長慶集》卷三

## 策林六十八議文章碑碣詞賦

#### 〔唐〕白居易

問:國家化天下以文明,獎多士以文學,二百餘載,文章煥焉。然則述作之間,久而生弊,曹事者罕聞於直筆,褒美者多覩其虛辭。今欲去僞抑淫,芟蕪剗穢,黜華於枝葉,反實於根源,引而救之,其道安在?

臣謹按:《易》曰"觀乎人文,以化成天下",記曰"文王以文理",則文之用大矣哉! 自三代以還,斯文不振,故天以將喪之弊,授我國家。國家以文德應天,以文教牧人,以文行選賢,以文學取士,二百餘載,煥乎文章,故士無賢不肖,率注意於文矣。然臣聞大成不能無小弊,大美不能無小疵。是以凡今秉筆之徒,率爾而言者有矣,斐然成章者有矣。故歌詠、詩賦、碑碣、讚詠之製,往往有虛美者矣,有媿辭者矣。若行於時,則誣善惡而惑當代;若傳於後,則混眞僞而疑將來。臣伏思之,恐非先王文理化成之教也。且古之爲文者,上以紐王教,繫國風;下以存烱戒,通諷諭。故懲勸善惡之柄,執於文士褒貶之際焉;補察得失之端,操於詩人美刺之間焉。今褒貶之文無覈實,則懲勸之道缺矣;美刺之詩不稽政,則補察之義廢矣。雖彫章鏤句,將焉用之?

臣又聞: 稂莠秕稗生於穀,反害穀者也; 淫辭麗藻生於文,反傷文者也。故農者耘稂莠,簸秕稗,所以養穀也; 王者刪淫辭,削麗藻,所以養文也。伏惟陛下詔主文之司,諭養文之旨,俾辭賦合烱戒諷諭者,雖質雖野,採而獎之;碑誄有虛美愧辭者,雖華雖麗,禁而絕之。若然,則爲文者必當佝質抑淫,著誠去僞,小疵小弊,蕩然無遺矣,則何慮乎皇家之文章,不與三代同風者歟?

《四部叢刊》本《白氏長慶集》卷四十八

## 策林六十九採詩以補祭時政

#### [唐] 白居易

問: 聖人之致理也,在乎酌人言,察人情,而後行為政、順為教者也。然 則一人之耳,安得偏聞天下之言乎? 一人之心,安得盡知天下之情乎? 今 欲立採詩之官,開諷刺之道,察其得失之政,通其上下之情。子大夫以爲如 何?

臣聞:聖王酌人之言,補已之過,所以立理本、導化源也,將在乎選觀風之使,建採詩之官,俾乎歌詠之聲,諷刺之興,日採於下,歲獻於上者也。所謂"言之者無罪,聞之者足以自誠"。大凡人之感於事,則必動於情,然後興於嗟嘆,發於吟詠,而形於歌詩矣。故聞《蓼蕭》之詩,則知澤及四海也;聞《華黍》之詠,則知時和歲豐也;聞《北風》之言,則知威虐及人也;聞《碩鼠》之刺,則知重斂於下也;聞"廣袖高髻"之謠,則知風俗之奢蕩也;聞"誰其穫者婦與姑"之之(疑衍一之字)言,則知征役之廢業也。故國風之盛衰,由斯而見也;王政之得失,由斯而聞也;人情之哀樂,由斯而知也。然後君臣親覽而斟酌焉,政之廢者修之,闕者補之;人之憂者樂之,勞者逸之。所謂善防川者,决之使導;善理人者,宜之使言。故政有毫髮之善,下必知也;教有錙銖之失,上必聞也。則上之誠明何憂乎不下達?下之利病何患乎不上知?上下交和,內外胥悅。若此而不臻至理,不致昇平,自開闢以來,未之聞也。老子曰:"不出戶知天下",斯之謂歟!

《四部叢刊》本《白氏县慶集》卷四十八

#### 樂府古題序

#### 〔唐〕元 稹

《詩》訖於周,《離騷》訖於楚。是後詩之流爲二十四名: 賦、頌、銘、贊、 文、誄、箴、詩、行、詠、吟、題、怨、歎、章、篇、操、引、謠、謳、歌、曲、詞、調, 皆 詩人六義之餘,而作者之旨。由操而下八名,皆起於郊祭軍賓吉凶苦樂之際。在晉馨者,因聲以度詞,審調以節唱,句度短長之數,聲韻平上之差,莫不由之準度。而又別其在琴瑟者為操引,采民甿者為謳謠,備曲度者總得 間之歌曲詞調。斯皆由樂以定詞,非選調以配樂也。由詩而下九名,皆屬 事而作,雖題號不同,而悉謂之為詩可也。後之審樂者,往往採取其詞,度 為歌曲。蓋選詞以配樂,非由樂以定詞也。而纂撰者由詩而下十七名,盡 編為樂錄樂府等題。除《錦吹》《橫吹》《郊祀》《清商》等詞在《樂志》者,其餘 《木蘭》《仲卿》《四愁》《七哀》之輩,亦未必盡播於管絃明矣。後之文人,遠 樂者少,不復如是配別,但遇興紀題,往往兼以句讚短長為歌、詩之異。

劉補闕之<樂府》,肇於漢、魏。按仲尼學《文王操》,伯牙作《流波》《水仙》等操,齊贖沐作《雉朝飛》,衞女作《思歸引》,則不於漢、魏而後始,亦以明矣。況自風雅至於樂流,莫非諷與當時之事,以貽後代之人,沿襲古題,唱和重複。於文或有短長,於義咸爲贅賸,尙不如寓意古題,刺美見事,猶有詩人引古以諷之義爲。曹、劉、沈、鮑之徒,時得如此,亦復稀少。近代唯詩人杜甫《悲陳陶》《哀江頭》《兵事》《麗人》等,凡所歌行,率皆卽事名篇,無復倚旁。予少時與友人樂天、李公垂輩謂是爲當,遂不復擬賦古題。

昨梁州見進士劉猛、李餘,各賦《古樂府詩》數十首。其中一二十章,成有新意,予因選而和之。其有雖用古題全無古義者,若《出門行》不言離別, 《將進酒》特書烈女之類是也。其或頗同古義,全創新詞者,則《田家》止述 軍輸、《捉捕詞》先螻蟻之類是也。劉、李二子,方將極意於斯文,因爲粗明 古今歌詩同異之香焉。

《四部叢刊》影明嘉靖本《元氏長慶集》卷二十三

## 敍詩寄樂天書

〔唐〕元 稹

稱九歲學賦詩, 長者往往驚其可教。年十五六, 粗識聲病。時貞元十年已後, 德宗皇帝春秋高, 理務因人, 最不欲文法吏生天下罪過。外關節

將,動十餘年不許朝覲,死於其地不易者十八九。而又將豪卒愎之處,因喪 負衆,橫相賊殺,告變駱驛,使者迭親,旋以狀聞天子曰: "某邑將某能遏亂, 亂衆事附,願爲帥。"名爲衆情,其實逼詐,因而可之者又十八九。前置介 倅,因緣交授者亦十四五。由是諸侯敢自爲旨意,有羅列兒孩以自固者,有 開導變夷以自重者。省寺符篆,固於几閣,甚者擬(原作礙,據《全唐文》校 改)韶旨,視一境如一室,刑殺其下,不啻僕畜,厚加剝奪,名爲進率,其實買 入之數百一焉。京城之中,亭第邸店以曲巷斷;侯甸之內,水陸腴沃以鄉里 計;其餘奴婢、資財、生生之備,稱之。朝廷大臣,以謹愼不言爲樸雅。以時 進見者,不過一二親信。直臣義士,往往抑塞。禁省之間,時或繕完隤墜, 豪家大帥,乘聲相扇,延及老佛、土木、妖熾,習俗不怪。上不欲令有司備宮 閩中,小碎須求,往往持幣帛以易餅餌,更緣其端,剽奪百貨,勢不可禁。

僕時孩騃,不慣聞見,獨於書傳中,初習理亂萌漸,心體悸護,若不可活,思欲發之久矣。適有人以陳子昂《感遇詩》相示,吟翫激烈,即日為《寄思玄子詩》二十首。故鄭京兆於僕爲外諸翁,深賜憐奨,因以所賦呈獻,京兆翁深相駭異。祕書少監王表在座,顧謂表曰:"使此兒五十不死,其志義何如哉? 惜吾輩不見其成就!"因召諸子,訓責泣下。僕亦竊不自得,由是勇於爲文。又久之,得杜甫詩數百首,愛其浩蕩津涯,處處臻到,始病沈、宋之不存寄與,而話子昂之未暇旁備矣。

不數年,與詩人楊巨源友善,日課爲詩。性復僻賴人事,常有閒暇,間則有作,職足下時,有詩數百篇矣。習慣性鹽,遂成病蔽。每公私感憤,道義激揚,朋友切磨,古今成敗,日月遷逝,光景慘舒,山川勝勢,風雲景色,當花對酒,樂罷哀餘,通滯屈伸,悲歡合散,至於疾恙窮(原作躬,據《全唐文》校改)身,悼懷惜逝,凡所對遇異於常者,則欲賦詩。

又不幸年三十二時,有罪譴棄,今三十七矣。五六年之間,是丈夫心力肚時,常在閑處,無所役用,性不近道,未能淡然忘懷,又復賴於他欲。全盛之氣,注射語言,雜糅精粗,遂成多大,然亦未嘗繕寫。適值河東李明府景儉在江陵時,僻好僕詩章,謂爲能解,欲得盡取觀覽,僕因撰成卷軸。其中有旨意可觀,而詞近古往者爲古諷;意亦可觀,而流在樂府者爲樂諷;詞雖近古,而止於吟寫性情者爲古體;詞實樂流,而止於模象物色者爲新題樂府;擊勢沿順,屬對穩切者爲律詩,仍以七言五言爲兩體;其中有稍存寄興、

與諷為流者為律諷。不幸少有伉儷之悲,撫存感往,成數十詩,取潘子《悼亡》為題。又有以干教化者。近世婦人,暈淡眉目,綰約頭鬢,衣服修廣之度,及匹配色澤,尤劇怪豔,因為豔詩百餘首,詞有今古,又兩體。自十六時至是,元和七年矣,有詩八百餘首,色類相從,共成十體,凡二十卷。自笑冗亂,亦不復置之於行李。昨來京師,偶在筐篋。及通行,盡置足下。僅亦有說:

僕聞上士立德,其衣立事,不遇立言。凡人急位,其衣急利,下急食。 僕天與不厚,旣乏全然之德;命與不遇,未遭可為之事;性與不惠,復無垂範之言。兀兀狂癡,行近四十,徼名取位,不過於第八品,而冒憲已六七年。 授通之初,有習通之孰者曰:通之地,濕墊卑褊,人士稀少,近荒札死亡過 华,邑無吏,市無貨,百姓茹草木,刺史以下,計粒而食。大有虎猿虵虺之息,小有螻蚋浮廛蜘蛛蛒蜂之類,皆能鑽囓肌膚,使人瘡痏。夏多陰鑿,秋爲痢瘡,地無醫巫藥石,萬里病者,有百死一生之慮。夫何以僕之命不厚也如此!智不足也又如此!其所詣之憂險也又復如此!則安能保持萬全,與足下必復京蟄,以須他日立言事之驗耶?但恐一旦與急食相扶,而終使足下受天下"友不如己"之謂。是用悉所爲文,留穢箱笥,比夫格弈樗塞之戲,猶曰愈於飽食。僕所爲不又愈於格弈樗塞之戲乎?

昨行巴南道中,又有詩五十一首,文書中得七年已後所為,向二百篇,繁亂冗雜,不復置之。執事前所為《寄思玄子》者,小歲云,爲文不能自足其意,貴其起予之始,且志京兆翁見遇之由。今亦寫爲古諷之一,移諸左右。僕少時授吹嘘之術於鄭先生,病媚不就,今在閑處,思欲恰神保和,以求其病,異日亦不復費詞於無用之文矣。省視之煩,庶亦已於是乎?

《四部體刊》影明嘉靖本《元氏長慶集》卷三十

## 竹 核 詞 序

#### 〔唐〕劉禹錫

四方之歌,異音而同樂。歲正月,余來建平,里中兒(原作見,據上海人民出版社排印本《劉禹錫集》校改)聯歌竹枝,吹短笛擊鼓以赴節,歌者揚

被睢舞,以曲多為賢。聆其音,中黃鍾之羽,其卒章激訐如吳聲。雖值傳不可分,而含思宛轉,有其(原作湛,據上海人民出版社排印本《劉禹錫集》校改)濮之豐。昔屈原居沅湘間,其民迎神,詞多鄙陋,乃爲作《九歌》,到于今荆楚鼓舞之。故余亦作《竹枝詞》九篇,俾善歌者艷之,附于末。後之聆巴飲,知變風之自焉。

《四部叢刊》影宋本《劉夢得文集》卷九

# 正樂府序 (唐)皮日休

樂府,盡古聖王採天下之詩,欲以知國之利病,民之休戚者也。得之者,命司樂氏入之於損箎,和之以管籥。詩之美也,聞之足以觀乎功;詩之刺也,聞之足以戒乎政。故《周禮》太師之職,掌教六詩,小師之職,掌諷誦詩。由是觀之,樂府之道大矣。今之所謂樂府者,唯以魏、晉之侈麗,陳、梁之浮豔,謂之樂府詩,眞不然矣。故嘗有可悲可懼者,時宜於詠歌,總十篇,故命曰《正樂府詩》。

中華書局排印本蕭滌非整理《皮子文藪》卷十

# 答李翊書[1]

[唐] 韓 愈[2]

六月二十六日, 愈白, 李生足下:

生之書辭甚高,而其問何下而恭也! 能如是,誰不欲告生 以其道<sup>[3]</sup>? 道德之歸也有日矣,況其外之文乎? 抑愈所謂望孔 子之門牆而不入於其宮<sup>[4]</sup>者,焉足以知是且非邪? 雖然,不可不 爲生言之:

生所謂立言者是也,生所爲者與所期者,甚似而幾<sup>[5]</sup>矣。抑不知生之志,蘄勝於人而取於人耶<sup>[6]</sup>?將蘄至於古之立言者耶?蘄勝於人而取於人,則固勝於人而可取於人矣。將蘄至於古之立言者,則無望其速成,無誘於勢利,養其根而竢其實,加其膏而希其光。根之茂者其實遂,膏之沃者其光曄<sup>[7]</sup>,仁義之人,其言藹如也。

抑又有難者,愈之所為不自知其至猶未也?雖然,學之二十餘年矣。始者非三代兩漢之書不敢觀<sup>[8]</sup>,非聖人之志不敢存,處若忘,行若遺,儼乎其若思, 茫乎其若迷<sup>[9]</sup>。當其取於心而注於手也,惟陳言之務去,憂憂乎其難哉<sup>[10]</sup>! 其觀於人,不知其非笑之為非笑也。如是者亦有年,猶不改,然後識古書之正僞,與雖正而不至焉<sup>[11]</sup>者,昭昭然白黑分矣。而務去之,乃徐有得也。當其取於心而注於手也,汩汩然來矣<sup>[12]</sup>。其觀於人也,笑之則以爲喜,譽之則以爲憂,以其猶有人之說者存也。如是者亦有年,然後浩乎其沛然<sup>[13]</sup>矣。吾又懼其雜也,迎而距之,平心而察之,其皆醇也,然後肆焉<sup>[14]</sup>。雖然,不可以不養也。行之乎仁

義之途,游之乎詩書之源,無迷其途,無絕其源,終吾身而已 矣<sup>[15]</sup>。

氣,水也<sup>[16]</sup>;言,浮物也;水大而物之浮者大小畢浮。氣之與言猶是也,氣盛則言之短長與聲之高下者皆宜。雖如是,其敢自謂幾於成乎!雖幾於成,其用於人也奚取焉?雖然,待用於人者,其肖於器邪?用與舍屬諸人。君子則不然,處心有道,行己有方,用則施諸人,舍則傳諸其徒,垂諸文而爲後世法<sup>[17]</sup>。如是者,其亦足樂乎?其無足樂也<sup>[18]</sup>?

有志乎古者希<sup>[19]</sup>矣。志乎古,必遺乎今<sup>[20]</sup>,吾誠樂而悲之。 亟稱其人,所以勸之,非敢褒其可褒,而貶其可貶也。

問於愈者多矣,念生之言不志乎利,聊相爲言之。愈白。 蟬隱蘆影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷十六

#### 【註釋】

- [1]李翊——貞元十八年進士。韓愈這書是十七年所寫。愈《與祠部陸員外(俊) 書》薦舉李翊,稱他爲"出羣之才"。《五百家注韓昌黎樂》引樊汝霖說:"李翊或作李朝。"吳汝綸說:"當依別本作答李朝,篤中所論,翊殆不足與聞。"李朝(公元七七二年——八四一年),字習之,隴西人。貞元十四年進士,官至山南東道節度使。韓愈門人。著有《李文公集》十卷。《舊唐書》卷一百六十、《新唐書》卷一百七十七都有傳。
- [2]韓愈(公元七六八年——八二四年)——字退之,河陽人。唐貞元八年進士,官至吏部侍耶。有《昌黎先生集》四十卷、《外集》十卷,宋人所輯五百家注,最詳瞻。《舊唐書》卷一六〇、《新唐書》卷一七六有傳。
- [3]告生以其道——韓愈所談的道,內容很複雜。這裏主要是指仁義。下文所說"仁義之人,其言臨如也","行之乎仁義之途"的仁義,也就是這裏所說的道。
- [4] **这**孔子之門牆而不入於其宮——《**論**語·子張》: "子貫曰:譬之宮牆,賜之牆也及肩,闕見室家之好。夫子之牆數仞,不得其門而入,不見宗廟之美,百官之官。"
- [5] 数——近。

- [6] 蕲膀於人而取於人——蕲,求。取於人,爲人所取,猶言見取於人。
- [7] 將歡至于古之立言者七句——遂,成長。曄,光明。這七句的意思,跟《答李秀才書》所說: "然愈之所志于古者,不惟其辭之好,好其道焉爾。"《答尉遲生書》所說: "實之美惡,其發也不揜:本深而末茂,形大而擊宏,行峻而言厲,心醇而氣和……"大致相同。"無望其速成",即下文"學之二十餘年矣",如是者亦有年……","如是者亦有年……","終吾身而已矣"之意。"無誘于勢利",即下文"其觀于人也, 笑之則以爲喜,譽之則以爲憂","雖幾於成,其用於人也奚取焉","處心有道,行己有方,用則施諸人,舍則傳諸其徒,垂諸文而爲後世法"之意。
- [8]非三代兩漢之書不敢觀——韓愈在《進學解》中具體地說到"上規姚姒,渾渾無涯;周酷、殷盤,信屈聱牙;《春秋》謹嚴,《左氏》浮誇;《易》奇而法,《詩》正而葩;下遠莊、《騷》,《太史》所錄,于雲、相如,同工異曲"。可以參證。
- [9] 處若忘四句——儼,矜持。四句卽韓愈《送高閑上人序》"雖外物至,不廖于心" 的意思。形容學道與學文的深造自得,屏絕外墓。
- [10]惟陳言之務去二句——即《南陽樊紹述墓志銘》所說"惟古於嗣必己出"的意思,但銘文明指遣詞造句,而本文所云陳言,則無指詞句與意義兩方面而言。 憂憂,形容用力。
- [12] 當其取於心而注於手也汩汩然來矣——即《送高閑上人序》所說"機應于心"的意思。汩,水急流貌。"汩汩然來",與下文"浩乎其沛然矣","然後肆焉","不可以不養也",都是說氣,所以下交說:"氣,水也……。"
- [13] 沛然——充濫縱肆稅。
- [14] 晉又懼其雜也五句——包括道與文兩方面,旣要求內容的醇正,又要求文字的 精當。
- [15] 無迷其途三句——即《送高閖上人序》所說"樂之終身不厭,奚暇外墓"的意思。
- [16] 氣水也——遭裏的氣,近文章的氣勢,與曹丕《典論·論文》所說的氣,指作者 材性、作品風格者,稍有不同;但氣勢之所以盛,與平時的學養工夫也分不開, 所以上文說"不可以不養也"。
- [17] 建諸文而爲後世法-----即韓愈《答吳立之書》所說"作唐之一經,建之於無窮"

的意思。

- [18] 其亦足樂乎二句——這裏所說對道與文深造有得時的樂趣,即《答李秀才書》 所說"將復有深于是者,與吾子樂之,況其外之文乎"的意思。
- [19] 希——罕。
- [20] 志乎古必遺乎今——即《與馮宿論文書》所說"但不知直似古人,亦何得於今人也","不知古文,直何用於今世也",《答尉遲生書》所說"古之道不足以取於今"的意思。

#### 【說明】

唐代古文運動,從李華、蕭穎士到梁肅、獨孤及、柳冕,到韓愈、柳宗元,不論在理論上或創作上,是逐步發展的。特別是在理論上,最後完整地提出了內容的革新問題——文以明道,和形式的革新問題——創造比較接近於口語的古文。韓愈一生,有意識地在古文的理論建設方面作出了貢獻。在他給朋友學生的書信和其他贈序雜文等論述中,可以看到他的理論觀點。《答李翊書》是這些作品中有代表性的一篇。

本文闡述了如下四個問題:第一、學古文以立行為本,立言為表。"仁義之人,其言藹如"。要獲得文學上的成就,必須從道德修養入手。第二、學文的途徑,要道文合一,要善於學習前人的作品,而寫作要有創造性,不論是內容或詞句,都要務去陳言。第三、學文要有堅定的信心,不以時人的毀譽爲轉移。深造自得,逐步演進,有一個長期曲折的過程,不能希望速成。第四、寫古文要以氣為先。作者把氣與言的關係比作水與浮物的關係。氣是駕馭言的,所以強調"氣盛則言之短長與聲之高下者皆宜"。這主要在闡明古文的特徵,它不同於被對偶形式所拘束,矯揉造作,不合自然語氣的駢體,而是言有短長,聲有高下,比較接近口語。韓愈自己的創作,就是如此。

本文所述當時人們對韓愈的非笑,以及韓愈從"不知非笑·118·

之為非笑"到"笑之則以為喜,譽之則以為憂"這一過程,跟他在《與馮宿論文書》首段所述: "僕為文外,每自測意中以為好,則人必以為惡矣; 小稱意, 人亦小怪之; 大稱意, 則人必大怪之也。時時應事作俗下文字, 下筆令人慙, 及示人, 則人以為好矣。小慙者亦蒙謂之小好, 大慙者即必以為大好矣。不知古文直何用於今世也, 然以竢知者知耳。"同樣說明了韓愈對駢文"摧陷廓淸"(李漢《昌黎先生集序》語), 是經過鬥爭的。

## 附錄

## 進學解(節錄)

#### 〔唐〕韓 愈

……先生口不絕吟於六藝之文,手不停披於百家之編,記事者必提其要,纂言者必鉤其玄,貪多務得,細大不捐,焚膏油以繼晷,恆兀兀以窮年。 先生之業,可謂動矣。觝排異端,攘斥佛老,補苴罅漏,張皇幽眇,轉墜緒之 茫茫,獨旁搜而遠紹,障百川而東之,迴狂瀾於旣倒,先生之於儒,可謂有勞 矣。沈浸釀郁,含英阻華,作爲文章,其曹滿家。上規姚姒,渾渾無涯;周 誥、殷盤,信屈聱牙;《春秋》謹嚴,《左氏》浮誇;《易》奇而法,《詩》正而葩;下 逮《莊》、《騷》,太史所錄,子雲、相如,同工異曲;先生之於文,可謂閎其中而 肆於其外矣。……

蟬隱蘆影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷十二

答尉遲生書

〔唐〕韓 愈

愈白, 尉遲生足下:

夫所謂文者,必有諸其中,是故君子愼其實。實之美惡,其發也不揜。

本深而末茂,形大而聲宏,行峻而言厲,心醇而氣和,昭晰者無疑,優游者有餘。體不備不可以爲成人,辭不足不可以爲成文。愈之所聞者如是。有問於愈者,亦以是對。今吾子所爲皆善矣,謙謙然若不足,而以徵於愈,愈又敢有愛於言乎?抑所能言者,皆古之道,古之道不足以取於今,吾子何其愛之異也?賢公卿大夫在上比肩,始進之賢士在下比肩,彼其得之必有以取之也。子欲仕乎?其往問焉,皆可學也。若獨有愛於是,而非仕之謂,則愈也嘗學之矣,請繼今以言。

蟬隱廬影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷十五

## 答劉正夫書(節錄)

#### 〔唐〕韓 愈

愈白, 進士劉君足下:

……或問為文宜何師?必謹對曰:宜師古聖賢人。曰:古聖賢人所爲書俱存,辭皆不同,宜何師?必謹對曰:師其意,不師其辭。又問曰:文宜易,宜難?必謹對曰:無難易,惟其是爾。如是而已,非固開其爲此,而禁其爲彼也。

夫百物朝夕所見者,人皆不注視也;及觀其異者,則共觀而言之。夫文 豈異於是乎? 漢朝人莫不能爲文,獨司馬相如、太史公、劉向、揚雄爲之最。 然則用功深者,其收名也遠,若皆與世沉浮,不自樹立,雖不爲當時所怪,亦 必無後世之傳也。足下家中百物,皆賴而用也;然其所珍愛者,必非常物。 夫君子之於文,豈異於是乎? 今後進之爲文,能深探而力取之,以古聖賢人 爲法者,雖未必皆是,要若有司馬相如、太史公、劉向、揚雄之徒出,必自於 此,不自於循常之徒也。若聖人之道,不用文則已;用則必尙其能者。能者 非他,能自樹立不因循者是也。有文字來,誰不爲文,然其存於今者,必其 能者也。顧常以此爲說耳。……

蟬隱匱影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷十八

## 韓文公墓誌銘(節錄)

#### [唐] 皇甫湜

……先生七歲好學, 言出成文。及冠, 恣為書, 以傳聖人之道。人始未信, 既發不掩, 聲震業光, 衆方驚躁而萃排之。乘危將順, 不懈益張, 卒大信於天下。

先生之作,無圓無方,至是歸工。抉經之心,執聖之權,尙友作者,跂邪 觝異,以扶孔氏,存皇之極。知與罪非我計,茹古極(原作極,據《四部叢刊》 本校改)今,無有端涯,渾渾灝灝,不可窺挍。及其酣放,毫曲快字,凌紙怪 發,鯨鏗春麗,驚耀天下。然而栗密窈眇,章安句適,精能之至,入神出天。 嗚呼極矣!後人無以加之矣,姬氏以來,一人而已矣。……

汲古閣本《皇甫持正集》卷六

## 昌黎先生集序

## 〔唐〕李 漢

文者, 黃道之器也, 不深於斯道, 有至焉者, 不也? 《易》繇爻象, 《春秋》 書事, 《詩》詠歌, 《書》《禮》剔其僞, 皆深矣乎。秦、漢已前, 其氣渾然。 迨乎 司馬遷、相如、董生、揚雄、劉向之徒, 尤所謂傑然者也。至後漢、曹魏, 氣象 萎爾。司馬氏已來, 規範蕩悉, 謂《易》已下, 爲古文剽掠潛竊爲工耳, 文與 道蓁蹇, 固然莫知也。

先生生於大曆戊申,幼孤,隨兄播遷韶嶺。兄卒,鞠於嫂氏,辛勤來 歸。自知讀書爲文,日記數千百言。比壯,經書通念曉析,酷排釋氏,賭史 百子,皆搜抉無隱。汗瀾卓踔,奫泫澄深,詭然而蛟龍翔,蔚然而虎鳳躍,鏘 然而韶鈞鳴;日光玉潔,周情孔思,千態萬貌,卒澤於道德仁義,炳如也。洞 視萬古,愍惻當世,遂大拯頹風,教人自爲。時人始而驚,中而笑且排,先生 益堅,終而翕然隨以定。嗚呼! 先生於文,摧陷廓清之功,比於武事,可謂 雄偉不常者矣。 長慶四年冬,先生歿,門人隴西李漢辱知最厚且親,遂收拾遺文,無所失墜。得賦四,古詩二百一十,聯句十一,律詩一百六十,雜著六十五,書啓序九十六,哀詞祭文三十九,碑誌七十六,筆硯鱷魚文三,表狀五十二,總七百,並目錄合爲四十一卷。目爲《昌黎先生集》,傳於代。又有《注論語》十卷,傳學者,《順宗實錄》五卷,列於史書,不在集中。

先生諱愈,字退之,官至吏部侍郎,餘在國史本傳。

蟬隱慶影宋世綵堂本《昌黎先生集》

## 上歐陽內翰第一書(節錄)

#### 〔宋〕蘇 洵

……孟子之文,語約而意盡,不爲巉刻斬絕之言,而其鋒不可犯。韓子之文,如是江大河,渾浩流轉,魚黿蛟龍,萬怪惶惑,而抑遏蔽掩,不使自露;而人望見其淵然之光,蒼然之色,亦自畏避不敢迫視。執事之文,紆餘委備,往復百折,而條達疎暢,無所間斷;氣盡語極,急言竭論,而容與閒易,無艱難勞苦之態。此三者,皆斷然自爲一家之文也。惟李鄭之文,其味黯然而長,其光油然而幽,俯仰揖讓,有執事之態;陸贄之文,遣言措意,切近的當,有執事之實;而執事之才,又自有過人者。蓋執事之文,非孟子、韓子之文,而歐陽子之文也。……

……洵少年不學,生二十五歲,始知讀書,從士君子遊。年旣已晚,而又不遂刻意厲行,以古人自期,而視與已同列者皆不勝已,則遂以為可矣。其後困益甚,然後取古人之文而讀之,始覺其出言用意與己大異。時復內顧,自思其才,則又似夫不遂止於是而已者。由是盡燒異時所為文數百篇,取《論語》《孟子》韓子及其他聖人賢人之文,而兀然端坐終日以讀之者七八年。方其始也,入其中而惶然,博觀於其外而駭然以驚。及其久也,讀之益精,而其胸中豁然以明,若人之言固當然者,然猶未敢自出其言也。時旣久,胸中之官日益多,不能自制,試出而書之,已而再三讀之,渾渾乎覺其來之易矣,然猶未敢以爲是也。近所爲《洪範論》《史論》凡七篇,執事觀其如何。……

《四部叢刊》影宋本《嘉祐集》卷十一

## 論 文 管 見(選錄)

#### 〔清〕黄宗羲

昌黎"陳言之務去"。所謂"陳言"者,每一題,必有庸人思路共集之處 總繞筆端,剝去一層,方有至理可言。猶如玉在璞中,鑿開頑璞,方始見玉, 不可認璞爲玉也。不知者求之字句之間,則必如《曹成王碑》,乃謂之去陳 言,豈文從字順者,爲昌黎之所不能去乎?

冒之不文,不能行遠。今人所習,大概世俗之調,無異吏胥之案贖,族亭之日曆。即有議論敍事,敝事贏馬,終非鹵簿中物。學文者須熟讚三史八家,將平日一副家儅盡行籍沒,重新積聚;竹頭木屑,常談委事,無不有來歷,而後方可下筆。顧傖父以世俗常見者爲清眞,反視此爲脂粉,亦可笑也。

所謂文者,未有不寫其心之所明者也。心苟未明,劬勞憔悴於章句之間,不過枝葉耳,無所附之而生。故古今來不必文人始有至文,凡九流百家,以其所明者,沛然隨地湧出,便是至文。故使子美而談劍器,必不能如公孫之波瀾;柳州而敍宮室,必不能如梓人之曲盡,此豈可強者哉。

耕餘樓本《南雷文案》三集卷三

## 藝 概(選錄)

## 〔淸〕劉熙載

昌黎接孟子知言養氣之傳,觀《答李翊書》,學養並言可見。

昌黎謂"仁義之人其言藹如",蘇老泉以孟、韓爲溫醇,意蓋隱合。

說理論事涉於遷就,便是本領不濟。看昌黎文,老實說出緊要處,自使 用巧騁奇者,望之辟易。

韓文起八代之衰,實集八代之成。蓋惟善用古者能變古,以無所不包,

故能無所不掃也。

昌黎論文曰"惟其是爾"。余謂"是"字註脚有二: 曰正、曰眞。

昌黎以"是""異"二字論文,然二者仍須合一。若不"異"之"是",則 庸而已;不"是"之"異",則妄而已。

昌黎自言,"約六經之旨而成文"。"旨"字專以本領言,不必其文之相似。 故雖於《莊》、《騷》、太史、子雲、相如之文,博取兼資,其約經旨者自在也。陸 修見李智之《復性書》曰:"子之言,尼父之心也。"亦不以文似孔子而云然。

昌黎謂柳州文"雄深雅健似司馬子長"。觀此評,非獨可知柳州,並可知 昌黎所得於子長處。

論文或專尚指歸,或專尚氣格,皆未冤著於一偏。《舊唐書·韓愈傳》 "經誥之指歸,遷、雄之氣格"二語,推韓之意以爲言,可謂觀其備矣。

昌黎文兩種,皆於《答尉遲生書》發之。一則所謂"昭晰者無疑","行蛟而言厲"是也;一則所謂"優游者有餘","心醇而氣和"是也。

昌黎尙陳言務去。所謂陳言者,非必勵襲古人之說以爲己有也;只識見 議論落於凡近,未能高出一頭,深入一境,自結撰至思者觀之,皆陳言也。

昌黎曰:"學所以爲道,文所以爲理耳。"又曰:"愈之所志於古者,不惟 其辭之好,好其道焉耳。"東坡稱公"文起八代之衰,道濟天下之弱"。文與 道豈判然兩事乎哉?

昌黎論文之旨,於《答尉遲生書》見之,曰:"君子愼其實。"柳州論文之旨,於《報袁君陳秀才書》見之,曰:"大都文以行爲本,在先誠其中。"

昌黎之文如水,柳州之文如山,浩乎沛然,曠如奥如。二公殆各有會心。 心。

昌黎答劉正夫問文曰: "無難易,惟其是而已。" 李智之《答王載言書》曰: "其愛難者則曰,文章宜深不當易;其愛易者則曰,文章宜通不當難。此皆淸有所偏帶而不流,未識文章之所主也。"於此見兩公文一脈相通矣。

同治刻本《藝概》卷一《文概》

# 

## [唐] 韓 愈

大凡物不得其平則鳴,草木之無聲,風撓之鳴,水之無聲,風 蕩之鳴,其躍也或激之,其趨也或梗之,其沸也或炙之。金石之 無聲,或擊之鳴。人之於言也亦然,有不得已者而後言,其歌也 有思,其哭也有懷。凡出乎口而爲聲者,其皆有弗平者乎!

樂也者,鬱於中而泄於外者也,擇其善鳴者而假之鳴。金、 石、絲、竹、匏、土、革、木八者, 物之善鳴者也。維天之於時也亦然, 擇其善鳴者而假之鳴。是故以鳥鳴春,以雷鳴夏,以蟲鳴秋,以風 鳴冬。四時之相推奪(原作敓,古字),其必有不得其平者乎!其於 人也亦然。人聲之精者爲言,文辭之於言,又其精也,尤擇其善鳴 者而假之鳴。其在唐虞,答陶[2]、禹其善鳴者也,而假以鳴。夔[3] 弗能以文解鳴,又自假於韶[4]以鳴。夏之時,五子以其歌鳴[5]。 伊尹鳴般,周公鳴周。凡載於《詩》《書》六蓺,皆鳴之善者也。周之 衰,孔子之徒鳴之,其聲大而遠。傳曰:"天將以夫子爲木鐸"[6], 其弗信矣乎! 其末也, 莊周以其荒唐之辭[7] 鳴。楚, 大國也, 其 亡也,以屈原鳴。臧孫辰[8]、孟軻、荀卿,以道鳴[9]者也。楊朱、 墨翟、管夷吾、晏嬰、老聃、申不害、韓非、眘到、田駢、鄒衍、尸佼、 孫武、張儀、蘇秦之屬[10],皆以其術鳴。秦之輿,李斯鳴之。漢之 時,司馬遷、相如、揚雄,最其善鳴者也。其下魏、晉氏,鳴者不 及於古,然亦未嘗絕也。就其善者,其聲淸以浮,其節數以急,其 醉淫以哀,其志弛以肆,其爲言也亂雜而無章。將天醜其德,莫 之顧邪? 何爲乎不鳴其善鳴者也!

唐之有天下,陳子昂、蘇源明、元結、李白、杜甫、李觀[11],皆以其所能鳴。其存而在下者,孟郊東野,始以其詩鳴。其高出魏、晉,不懈而及於古,其他浸淫乎漢氏矣。從吾遊者,李鄒、張籍[12],其尤也。三子者之鳴信善矣,抑不知天將和其聲,而使鳴國家之盛耶,抑將窮餓其身,思愁其心腸,而使自鳴其不幸邪?三子者之命,則懸乎天矣。其在上也奚以喜,其在下也奚以悲。

東野之役於江南也<sup>[13]</sup>,有若不釋然者,故吾道其命於天者以解之。

蟬隱廬影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷十九

#### 【註釋】

- [1] 孟東野——孟郊(公元七五一年——八一四年),字東野,湖州武康人。唐貞元十二年進士,曾官溧陽尉、河南府水陸轉運判官。有《孟東野集》十卷。《舊唐書》卷一六〇有傳,《新唐書》卷一七六附韓愈傳。
- [2] 咎陶——即皋陶。《書》有《皋陶謨》,善鳴指此。
- [3] **第一一見本書第一册《尚書・堯典**》註[2]。
- [4] 韶--相傳是農舜時的古樂。
- [5] 五子以其歌鳴——見本册《與元九書》註[13]。
- [6] 天將以夫子爲木鐸——見《論語·八佾》。鐸是大鈴,以木爲舌的鐸叫做木鐸。 《周禮·天官冢宰上》鄭玄注:"古者將有新令,必奮木鐸以警衆,使明聽也。"
- [7] 荒唐之辭——見本書第一册《莊子》選錄註[42]。
- [8] 臧孫辰——春秋時魯國大夫,複姓臧孫,名辰,諡文仲,後人簡稱爲臧文仲。孔 子在時常提到他,見《左傳》文公二年及《論語》中《衡璽公》《公冶長》等篇。
- [9]以道喝——遺裏的道,指儒家之道;下文的循,指諸子百家的學說。
- [10] 楊朱———作陽朱,亦作陽子居,戰國初期人,老聃弟子。《漢書·藝文志》不 著錄其書,近人以爲道家。墨翟——見《墨子》說明。管夷吾——即管仲,齊 人,爲齊桓公相。《管子》八十六篇,《漢書·藝文志》列道家,今存七十六篇。晏 嬰——春秋齊人,爲齊景公相《晏子》八篇,《漢書·藝文志》列儒家。老聃—— 即李耳,有《老子》二卷,《漢書·藝文志》列道家。申不害——戰國時京人,爲

韓昭侯相,有《申子》六篇,《漢書·藝文志》列法家。書久亡佚,馬國翰、嚴可 均、王時潤有輯本。韓非——戰國時韓之諸公子。《韓子》五十五篇,《漢書· 藝文志》列法家。音到——音,古慎字。慎到,戰國前期趙人。《慎子》四十二 篇,《漢書·藝文志》列法家。田駢——戰國齊人,游稷下,號天口駢。《田子》 二十五篇,《漢書·藝文志》列道家。書久亡佚,馬國翰有輯本。鄒行——戰國 齊人,為燕昭王師,居稷下,號談天行。有《鄒子》四十九篇,《漢書·藝文志》列 陰陽家。書久亡佚,馬國翰有輯本。尸佼——戰國楚人,商鞅之師。《尸子》二 十篇,《漢書·藝文志》列雜家。全書已亡佚,汪繼培、孫星行、任兆麟有輯本。 孫武——春秋時吳將,有兵法八十二篇,《漢書·藝文志》列兵家,今存十三篇。 張儀——戰國時魏人。有《張子》十篇,《漢書·藝文志》列縱橫家。書已亡佚。 蘇秦——戰國時洛陽人。有《張子》十篇,《漢書·藝文志》列縱橫家。書已亡佚。 蘇秦——戰國時洛陽人。有《張子》三十一篇,《漢書·藝文志》列縱橫家,書已 亡佚,馬國翰有輯本。

- [11] 蘇源明——原名預,字弱夫,京兆武功人。工文辭,有名天寶間,肅宗時,官至秘書少監。《新唐書·藝文志》著錄其集三十卷。《新唐書》卷二〇二《文藝》有傳。元結——見本册《篋中集序》註[2]。 李觀(公元七六六年——七九四年)——字元賓,隴西人,後徙居江東。貞元八年,舉博學弘詞。他的文章不蹈襲前人。《新唐書·藝文志》著錄其集三卷。
- [12] 李翱——見本册《答李翊書》註[1]。張籍(公元七六八年——約八三〇年)——字文昌,原籍吳郡,儒寓和州。貞元十五年進士,官至國子司業。韓愈門人。著有《張司業集》八卷。《舊唐書》卷一六〇有傳,《新唐書》卷一七六附韓愈傳後。
- [13] 東野之役於江南—— 貞元十七年, 孟郊選任溧陽尉, 役於江南指此。

#### 【説明】

司馬遷在《太史公自序》和《報任安書》裏曾提到發憤著書, 韓愈這篇《送孟東野序》對此作了進一步的闡發。

本文列舉從上古到魏、晉、六朝文學和學術的現象,說明不同的時代會產生不同的文學和學術思想;這些文學家和學術思想 想家之所以卓然不朽,正因爲"擇其善鳴者而假之鳴"。而魏、晉 以下的文學"其聲清以淨,其節數以急,其辭程以哀,其志弛以 肆;其爲言也亂雜而無章",則是由於"天醜其德莫之顧","不鳴 其善鳴者",可見有價值的文學,必須是和時代密切聯繫着的。

本交又指出: "凡物不得其平則鳴。""人之於言也亦然,有不得已者而後言,其歌也有思,其哭也有懷",才能寫出有眞情實感的作品。"有不得已者而後言",作者的思想感情"鬱於中而泄於外",和他所處的時代環境、自身遭遇有關。在封建社會的黑暗時代,那就只有"窮餓其身,思愁其心腸",遭受排斥壓抑的人們,纔有可能通過切身感受,"自鳴其不幸",來反映這個時代;也只有這種不平之鳴,才是代表那個時代的真文學。"楚大國也,其亡也以屈原鳴",把表現在《楚辭》裏的屈原的義憤和楚國的興亡聯繫起來,說明屈原"發憤以抒情"(見《九章·抽思》)的實質,論證了司馬遷的發憤著書說。《荆潭唱和詩序》說: "和平之音淡薄,而愁思之聲要妙; 謹愉之辭難工,而窮苦之言易好。"(見附錄)《柳子厚墓誌銘》云: "然子厚斥不久,窮不極,雖有出於人,其文學辭章,必不能自力以致必傳於後如今,無疑也。"也都是這個意思。

孟郊是位窮苦的詩人,這次出任溧陽尉,已是年逾五旬的老 翁。韓愈同情他的遭遇,但又認爲窮愁潦倒,會使他在詩歌創作 上取得更大的成就,所以在贈序裏發揮了一段大議論。本文和 《調張籍》詩中說李、杜"家居荒涼",政治失意,文章不朽,光焰常 新,可以相印證。

韓愈之於孟郊,和後來歐陽修之於梅聖俞頗相類似,歐陽修有《梅聖俞詩集序》,用意與本文大致相同。"詩窮而後工",歐陽修又作過進一步的解釋。

# 附 錄

## 萬 士(節錄)

#### 〔唐〕韓 愈

周詩三百篇,雅麗理訓誥。曾經聖人手,議論安敢到?五言出漢時,蘇李首更號。東都漸瀰漫,派別百川導。建安能者七,卓犖變風操。逶迤抵晉宋,氣象日凋耗。中間數鮑謝,比近最淸奧。齊梁及陳隋,衆作等蟬噪。搜春摘花卉,沿襲傷剽盜。國朝盛文章,子昂始高蹈。勃與得李杜,萬類因陵暴。後來相繼生,亦各臻閫奧。有窮者孟郊,受材實雄鶩。冥觀洞古今,象外逐幽好。橫空盤硬語,妥帖力排幕。敷柔肆紆餘,舊猛卷海潦。榮華肖天秀,捷疾逾響報。行身踐規矩,甘辱恥媚竈。孟軻分邪正,眸子看瞭眊。杳然粹而淸,可以鎮浮躁。酸寒溧陽尉,五十幾何耄。孜孜營甘旨,辛苦久所冒。俗流知者誰?指注競嘲傲。……

蟬騰產影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷二

## 荆潭唱和詩序

#### 〔唐〕韓 愈

從事有示意以《荆潭酬唱詩》者,愈旣受以卒業,因仰而言曰: 夫和平之音淡薄,而愁思之聲要妙; 謹愉之辭難工,而窮苦之言易好也。是故文章之作,恆發於羇旅草野。至若王公貴人,氣滿志得,非性能而好之,則不暇以為。今僕射裴公開鎖蠻荆,統郡惟九; 常侍楊公領砌之南壤地二千里,德刑之政並勤,爵祿之報兩崇: 乃能存志乎詩書,寓辭乎詠歌,往復循環,有唱斯和,搜奇抉怪,雕鏤文字,與章布里間憔悴事一之士較其毫釐分寸,鏗鏘發金石,幽眇感鬼神,信所謂材全而能鉅者也。兩府之從事與部屬之吏屬而和之,苟在編者,咸可觀也,宜乎施之樂章,紀諸冊書。從事曰: 子之言是

也。告於公,曹以爲《荆潭唱和詩序》。

蟬隱虛影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷二十

# 梅聖俞詩集序

#### 〔宋〕歐陽修

予聞世謂詩人少達而多窮。夫豈然哉?蓋世所傳詩者,多出於古窮人之辭也。凡士之蘊其所有,而不得施於世者,多喜自放於山巓水涯,外見蟲魚草木風雲鳥獸之狀類,往往探其奇怪;內有憂思感憤之鬱積,其與於怨刺,以道羇臣寡婦之所嘆,而寫人情之難言;蓋愈窮則愈工。然則非詩之能窮人,殆窮者而後工也。

予友梅聖俞,少以蔭補爲吏,累舉進士,輒抑於有司,因於州縣,凡十餘年。年今五十,猶從辟書爲人之佐,鬱其所畜,不得奮見於事業。其家宛陵,幼習於詩,自爲童子,出語已驚其長老。旣長,學乎六經仁義之說,其爲文章,簡古純粹,不求苟說於世。世之人徒知其詩而已。然時無賢愚,語詩者必求之聖俞;聖俞亦自以其不得志者,樂於詩而發之,故其平生所作,於詩尤多。世旣知之矣,而未有薦於上者,昔王文康公嘗見而嘆曰:二百年無此作矣。雖知之深,亦不果薦也。若使其幸得用於朝廷,作爲雅頌,以歌詠大宋之功德,薦之淸廟,而追商、周、魯頌之作者,豈不偉歟! 奈何使其老不得志,而爲窮者之詩,乃徒發於蟲魚物類、覉愁感歎之言。世徒喜其工,不知其窮之久而將老也。可不惜哉!

聖俞詩旣多,不自收拾。其妻之兄子謝景初,懼其多而易失也,取其自 洛陽至於吳興已來所作,次爲十卷。予嘗嗜聖俞詩,而惠不能盡得之,遽喜 謝氏之能類衣也,輒序而藏之。其後十五年,聖俞以疾卒於京師,余旣哭而 銘之,因索於其家,得其遺藥千餘篇,並舊所藏,掇其尤者六百七十七篇,爲 一十五卷。嗚呼! 吾於聖俞詩論之群矣,故不復云。廬陵歐陽修序。

《四部費刊》影元本《歐陽文忠公文集》卷四十二

# 調張籍

#### 〔唐〕韓 愈

李、杜文章在,光焰萬丈長<sup>[2]</sup>。不知羣兒愚,那用故謗傷? 蚍蜉<sup>[8]</sup> 揻大樹,可笑不自量。伊<sup>[4]</sup> 我生其後,舉頸遙相望。夜夢多見之,畫思反微茫。徒觀斧鑿痕,不矚治水航<sup>[5]</sup>。想當施手時, 巨刃磨天揚。垠崖劃崩豁,乾坤擺雷碩<sup>[8]</sup>。惟此兩夫子,家居率荒涼<sup>[7]</sup>。帝欲長吟哦,故遣起且僵。翦翎爰籠中,使看百鳥翔<sup>[8]</sup>。平生千萬篇,金薤垂琳琅<sup>[9]</sup>。仙官勑六丁<sup>[10]</sup>,雷電下取將。流落人間者,太山一豪芒<sup>[11]</sup>。我顏生兩翅,捕逐出八荒。精誠忽交通,百怪入我腸。刺手拔鯨牙<sup>[12]</sup>,舉瓢酌天漿<sup>[13]</sup>。騰身跨汗漫,不著織女裹。顧語地上友,經營無太忙。乞<sup>[14]</sup>君飛霞珮,與我高頡頏<sup>[15]</sup>。

蟬隱產影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷五

#### 【註釋】

- [1] 張籍——見本册《送孟東野序》註[12]。
- [2]李杜文章二句——李、杜齊名,但唐人對李、杜並致推奪的則始於韓愈。在愈全集中並舉李、杜之處不一而足,如《石鼓歌》: "少陵無人謫仙死。" 《薦士》: "勃 典得李、杜,萬類困陵暴。" 《醉留東野》: "昔年因讀李白、杜甫詩,長恨二人不相 從。" 《感春》: "近憐李、杜無檢束。" 《酬司門盧四兄雲夫院長望秋作》: "遠追甫、白感至誠(誠)。"并此而六。
- [3] 蚍蜉——大蟻,喻羣兒。
- [4]伊----發語詞。
- [5]不鵬治水航----以禹治水爲喻,愈謂自己雖看到了李、杜詩作,但無從知道李、

杜的創作過程,猶如雖見到大禹開山鑿河的蹤跡,但不能見到他治水的航程一樣。這是韓愈自謙語。

- [6] 雷硠——崩塌之聲。這句比喻李、杜的詩作,氣魄雄大,可以振撼天地,使之崩場。 場。
- [7]家居率荒凉——战境窥困。
- [8] 翦翎送籠中二句----比喻李、杜二人跼處在此世界上,如鳥處籠中一樣。
- [9] 金薤句——古時有一種像薤葉的字體,名爲薤葉書。琳,玉名。環,似珠的寶石。置二句說李、杜詩篇,播於金石。
- [10]六丁——神名。《後漢書·梁節王傳》:"數有惡夢,從官卞忌自言能使六丁,善卜夢。"李賢註:"六丁,謂六甲中丁神也,若甲子旬中則丁卯爲神,甲寅旬中則丁巳爲神之類也。"
- [11] 流落二句——二句說李、杜作品保存下來的,不過千百之十一。人們見不到他們全部作品,遠未能充分認識其偉大。
- [12] 刺手——轉手。拔鯨牙——喻詩語雄怪。
- [13] 舉瓢酌天漿——喻詩筆高潔。
- [14] 乞——給人東西。
- [15] 顧語地上友四句——這四句對張籍似有所不滿。張籍雖是韓愈學生,但詩歌創作傾向,倒是接近於白居易。當時韓愈與張籍論詩意見或有不合處,所以借此啓發他。題目稱"調",正體現在這四句中。

#### 【説明】

用詩來說詩,始於杜甫,繼之者為韓愈、白居易諸人。韓詩如《調張籍》《薦士》《醉贈張祕書》《孟生詩》《送無本師歸范陽》等篇都是。一經杜、韓倡導,就為論詩開創了一種新的形式。

本篇所涉及的主要問題,一是關於李、杜的評價,一是關於李、杜詩的風格。李、杜齊名,但在韓愈當時,却盛行一種揚杜抑李論。或是從詩歌的風雅比與這一角度立論,如白居易《與元九書》中所說;或是從詩歌的"鋪陳終始,排比聲韻"這一形式方面出發,如元稹的《唐故工部員外郎杜君墓係銘》中所說,對李白和杜甫都沒有作出全面、恰當的評價。元、白以外,還有一些人隨

便謗傷前輩。韓愈針對這種情況,提出李、杜並尊論,以澄淸視聽、指導後學。韓愈本人的詩作,在語言的鍛鍊、風格的雄渾方面接近杜,而浪漫精神則比較接近李。他夢寐追求的,也正是李白那種巨刃磨天、乾坤擺蕩、拔鯨牙、酌天漿的藝術風格(當然這也概括了杜詩雄怪的一面)。程學恂《韓詩臆說》上說:"此詩李、杜並重,然其意旨,却着李一邊。"正是窺見了此中消息。

論詩用形象的語言作比喻,最早出現於李充評潘岳詩語, (《詩品》上引李充《翰林論》論潘岳詩"翩翩然如翔禽之有羽毛, 衣服之有稍縠。")杜詩中也有之,《戲為六絕句》的"或看翡翠蘭 苕上,未掣鯨魚碧海中"就是。韓愈論詩,喜歡用驚人的比喻,如 《送無本師歸范陽》與本篇同樣是用奇崛的語言,曲狀詩境的沈 雄光怪。在韓愈的影響下,這種文藝批評的方式,逐漸形成為一 種風氣。對不同的作家分別評論其風格的如皇甫湜的《諭業》、敖 陶孫的《詩評》;對作品各種風格進行探索的如司空圖的《詩品》、 郭嚳的《詞品》、姚鼐的《與魯絜非書》等,都可以說是韓愈這種論 詩方法的發展。

# 附 錄

# 醉贈張祕書(節錄)

#### 〔唐〕韓 愈

······君詩多態度,蠶蠶春空雲。東野動驚俗,天葩吐奇芬。張籍學古淡,軒鶴避雞羣。·····今我及數子,固無裔與黨。險語破鬼膽,高詞媲皇墳。至實不雕琢,神功謝鋤耘。·····

蟬隱廬影宋世綵堂本《昌黎先生集》卷二

## 諭 業

#### 〔唐〕皇甫湜

《逍遙遊》曰:"適百里者宿春糧,適千里者必聚糧。"此言務遠則積彌厚。成安君曰:"千里饋糧,士有飢色;樵蘇後爨,師不宿飽。"此言持不實則危。一則寓論,一則武經,相發明,其養符也。故彊於內者外必勝,殖不固者發不堅。功不十倍,不可以果志;力不兼兩,不可以角敵。號猿貫蟲,徹札飲忍,必非一歲之挟拾;仰馬出魚,理心順氣,必非容易之搏拊。淺闢庸種無嘉苗,類約疎織無良帛。夫欲利其獲,不若優其為獲之方;若欲顯其能,不若營其為顯之道。求諸人不若求諸己;馳其華不若馳其實。彼則趦趄於卿士之門,我則婆娑於聖賢之域;彼則巾車於名利之肆,我則冠履於文史之囿。道寢而後進,業成而後索。以其勞於彼,曷若勤於此?以其背於路,曷若齎於家?求售者聲門而衒賈,致賤者深匱而俟價;求聘者自容於靚粧,取賄者嫌扁於密影。鮪可薦也,不慮綸罟之不逢;橋可買也,不慮包匭之不入。務出人之名,安得不厲出人之器? 戰橫行之陣,安得不振橫行之略? 書不千軸,不可以語化;文不百代,不可以知變。躰無常軌,言無常宗,物無常用,景無常取。在殫其理,聚其微,賦物而窮其致。歌詠者極情性之本,載述者遵良直之旨。觸類而長,不失其要。此大略也。

夫比文之(原作此文,據《四部叢刊》影宋本《皇甫持正文集》核改)流, 其來尙矣。自六經子史,至於近代之作,無不備詳。當朝之作,則燕公悉以 評之;自燕公已降,試爲子論之:燕公之文,如楩木枏枝,締構大廈,上棟下 字,孕育氣象,可以變陰陽,閱寒暑,坐天子而朝羣后。許公之文,如應鐘鼙 鼓,笙簧錞磬,崇牙樹羽,考以宮縣,可以奉神明,享宗廟。李北海之文,如 赤羽白甲,延亘平野,如雲如風,有貙有虎,圓然鼓之,吁可畏也。賈常侍之 文,如高冠華簪,曳裾鳴玉,立於廊廟,非法不言,可以望爲羽儀,賽以道義。 李員外之文,則如金譽玉輦,雕龍綵鳳,外雖丹青可掬,內亦躰骨不凡。獨 孤尙書之文,如危峯絕壁,穿倚霄漢,長松怪石,傾倒谿壑;然而略無和暢, 雅德者避之。楊崖州之文,如畏橋新權,鐵騎夜渡,雄震咸厲,動心輕目;然 而鼓作多容,君子所愼。權文公之文,如朱門大第,而氣勢宏(原作"橫",據《四部叢刊》本校改)斂,廊廡廩廐,戶牖悉周;然而不能有新規勝概,令人竦觀。韓吏部之文,如長江大注(原本無"大注"二字,據《四部叢刊》本校增),千里一道,衝騰激浪,汗流不帶;然而施於灌溉(原作"激",據《四部叢刊》本校改),或爽於用。李襄陽之文,如燕市夜鴻,華亭曉鶴,嘹唳亦足驚聽;然而才力偕鮮,悠然高遠。故友沈諫議之文,則隼擊鷹揚,滅沒空碧,崇蘭繁榮,曜英揚裝,雖迅舉秀擢,而能沛艾絕景。其它提珠幾奮組綉者,不可一二而紀矣。

若數公者,或傳符於玄(原作"帝",據《四部叢刊》本校改)宰,或受命於神功,或鳳翥詞林,或虎踞文苑,或抗鬱荀、孟,攘袂班、楊,皆一時之豪彦, 筆硯之麟鳳。今皆游詠其波瀾,偃息其林藪,銓其一揖之舊也,而驟以諭業之言,動子之志,誠未當也。遂絕意隨計,解裝退修,循力行待取之儒規,達先難後獲之通理,將爲勇退,眞勇進也,斯可尙矣。子旣信余之不欺,余亦貴子之不忽,因源流導業,而列證焉。

汲古閣本《皇甫持正集》卷一

# 雕翁詩評

## [宋] 敖陶孫

因暇日與弟姪輩評古今諸名人詩: 魏武帝如幽燕老將,氣韻沉雄。曹子建如三河少年,風流自賞。飽明遠如飢鷹獨出,奇矯無前。謝康樂如東海揚帆,風日流麗。陶彭澤如絳雲在霄,舒卷自如。王右丞如秋水芙蕖,倚風自笑。韋蘇州如園客獨繭,暗合音徽。孟浩然如洞庭始波,木葉微脫。杜牧之如銅丸走坂,駿馬注坡。白樂天如山東父老課農桑,言言皆實。元微之如李龜年說天寶遺事,貌悴而神不傷。劉夢得如鏤冰雕瓊,流光自照。李太白如劉安鷄犬,遺響白雲,聚其歸存,恍無定處。韓退之如囊沙背水,惟韓信獨能。李長吉如武帝食露盤,無補多慾。孟東野如埋泉斷劍,臥壑寒松。張籍如侵工行鄉飲,醻獻秩如,時有詼氣。柳子厚如高秋獨眺,霽晚孤吹。李鬓山如百寶流蘇,千絲鐵網,綺密瓊斯,要非適用。本朝蘇東坡如屈

注天演, 倒連滄海, 變眩百怪, 終歸雄渾。歐公如四瑚八璉, 止可施之宗廟。 荆公如鄧艾縋兵入蜀, 要以嶮絕為功。山谷如陶弘景祗韶入宫, 析理談玄, 而松風之夢故在。梅聖俞如關河放溜, 瞬息無聲。秦少游如時女步春, 終 傷婉弱。後山如九鼻獨唳, 深林孤芳, 冲寂自妍, 不求識賞。韓子蒼如梨園 按樂, 排比得倫。呂居仁如散聖安禪, 自能奇逸。其他作者, 未易殫陳。獨 唐杜工部, 如周公製作, 後世莫能擬議。

清乾隆刻本《詩人玉曆》卷二

# 石遺室詩話(選錄)

#### 〔清〕陳 衍

詩貴風骨。然亦要有色澤,但非尋常脂粉耳,亦要有雕刻,但非專常斧 整耳。有花卉之色澤,有山水之色澤,有彝鼎圖書種種之色澤。王右丞,金 碧樓台山水也。陳後山,淡淡靛青巒頭耳。黃山谷則加赭石,時復著色硃 砂。陳簡齋欲自別於蘇、黃之外,在花卉中爲山茶、蠟梅、山礬。 吳波不動, 楚山叢碧,李太白足以當之。 木葉微脫,石氣自青,孟浩然足以當之。 空山 無人,水流花放,韋蘇州足以當之。 紛紅駭綠,韓退之之詩境也。 榮青線 白,柳子厚之詩境也。

商務印書館排印本《石遺室詩話》卷二十三

# 答吳武陵論非國語書曲

[唐] 柳宗元[2]

#### 濮陽吳君足下:

僕之爲文久矣,然心少<sup>[3]</sup>之,不務也,以爲是特博弈之雄耳。 故在長安時<sup>[4]</sup>,不以是取名譽,意欲施之事實,以輔時及物爲道。 自爲罪人,拾恐懼則閑無事,故聊復爲之。然而輔時及物之道, 不可陳於今,則宜垂於後。言而不文則泥<sup>[5]</sup>,然則文者固不可少 耶?

拘囚以來,無所發明,蒙覆幽獨。會足下至<sup>[6]</sup>,然後有助我之道。一觀其文,心朗目舒,炯若深井之下,仰視白日之正中也。足下以超軼如此之才,每以師道命僕,僕滋不敢。每爲一書,足下必大光耀以明之,固又非僕之所安處也。若《非國語》之說,僕病之久,嘗難言於世俗。今因其閑也而書之,恆恐後世之知言者,用是詬病。狐疑猶豫,伏而不出累月、方示足下,足下乃以爲當,僕然後敢自是也。呂道州[7] 善言道,亦若吾子之言,意者斯文殆可取乎? 夫爲一書,務富文采,不顧事實,而益之以誣怪,張之以闊誕,以炳然誘後生,而終之以僻,是猶用文錦覆陷穽也。不明而出之,則顛者衆矣。僕故爲之標表,以告夫遊乎中道<sup>[8]</sup>者焉。

僕無聞而甚陋,又在黜辱,居泥塗若螾蛭然<sup>[9]</sup>,雖鳴其音聲, 誰為聽之!獨賴世之知言者為准,其不知言而罪我者,吾不有 也。僕又安敢期如漢時列官以立學<sup>[10]</sup>,故為天下笑耶?是足下 之愛我厚,始(《唐文粹》作故)言之也。前一通如來言以汚篋膻, 此在明聖人之道, 微足下, 僕又何託焉! 不悉, 宗元頓首。 上海人民出版社排印本《柳河東集》卷三十一

#### 【註釋】

- [1] 吳武陵——名侃,信州人,祖籍濮陽,元和初進士。曾坐事流永州,與柳宗元友善。《新唐書》卷二〇三《文藝》有傳。《非國語》——《國語》,舊傳左丘明所著,主要紀錄了西周末年和春秋時期周、魯、晉、齊等國貴族的言行。柳宗元在永州時,著《非國語》六十七篇,着重批判《國語》中所反映的天命迷信和維護貴族特權等觀點。
- [2]柳宗元(公元七七三——八一九年)——字子厚,河東人,貞元九年進士。参加 王叔文政治改革集團,曾任禮部員外郎。失敗後,被貶為永州司馬。歷十年, 改為柳州刺史。著有《柳河東集》。《舊唐書》卷一六〇、《新唐書》卷一六八有 傳。
- [3]少---輕視。
- [4]在長安時——按柳宗元幼年家居長安,十餘歲時曾隨父南遊。于貞元九年(公元七九三年)舉進士後,一度游邠州。貞元十四年,第博學宏詞科,為集賢殿正字。十七年調藍田尉。十九年入為監察御史裏行。二十一年(卽永貞元年)為尚書禮部員外郎。九月被貶,離開長安,這裏"在長安時",主要指舉進士及在長安寫官一段時期。
- [5] 泥——難行。《論語·子張》:"致遠恐泥。"
- [6] 會足下至——吳武陵至永州在元和三年(公元八〇八年)。柳宗元于元和四年 所作《寄許京兆孟容書》云:"去年吳武陵來,美其齒少,才氣壯健,可以興西漢 之文章,日與之言,因爲之出十數篇書。"
- [7] 呂道州——呂溫,貞元末進士,與韋執誼、王叔文相善。曾任戶部員外耶等,元 和三年貶爲道州刺史,五年調衡州。《舊唐書》卷一三七、《新唐書》卷一六〇 有傳。
- [8]中道——中途, 华途。《論語·雍也》: "力不足者, 中道而廢。"
- [9] 居泥塗若螾蛭然——旗,同蚓,蚯蚓。蛭,水蟲,螞蝗、水蛭之類。 這句自喻處 境卑汚。
- [10] 漢時列官以立學——漢朝時,對傳述儒家經典的重要著作,政府列為專門學科,設立學官。

#### 【説明】

柳宗元與韓愈同爲唐代古文運動的主將,他的倡導古文,沒有韓愈那樣積極,但在理論與創作上作出了自己的貢獻。

韓、柳都強調"道"與"文"的關係。柳宗元的論道,又有其特點。他雖也說過《五經》是"取道之原",却更注重文章的現實內容,所謂"輔時及物之道,不可陳於今,則宜垂於後,言而不文則泥",就把有益於時代和社會作爲寫作文章的根本任務。他本人積極參加政治改革活動,在《非國語》及其它一些作品中反映出樸素唯物主義思想,對於被比作《六經》的《國語》敢於進行批駁,對"當時之言理道者"的"其言本儒術,則迂迴茫洋,而不知其適,其或切於事,則苛峭刻覈,不能從容"也持批判態度,從這些,可以看出他"輔時及物之道"的具體涵義。此外,他的《報崔黯秀才論爲文書》說:"道之及,及乎物而已耳。"《與楊誨之第二書》說:"且子以及物行道爲是耶非耶?伊尹以生人爲己任,管仲舋浴以伯濟天下,孔子仁之。凡君子爲道,拾是宜無以爲大者也。"都是說明他對道的看法。

柳宗元強烈譴責內容不合於道而徒具形式之美的作品,指出它"猶用文錦覆陷穽也",有很大的危害性。然而他十分重視藝術形式的作用。他一方面尖銳地批評《國語》的"文勝而言尨",而在《答韋中立論師道書》中又自述其爲文經驗曾"參之《國語》以博其趣",對《國語》在藝術上還是有所吸取的。

值得注意的還有:韓愈寫過一篇《毛穎傳》,把毛筆擬人化,作爲傳記主人公,命意和體裁都很新穎,頗近傳奇小說,爲一般囿於正統文學觀念的人所"大笑以爲怪"。柳宗元却竭力加以贊揚,不僅肯定它的藝術成就,而且認爲這類富有趣味的作品同樣"有益於世"。這反映了柳宗元的文藝批評和欣賞眼光是廣闊的。

## 附 錄

# 與呂道州温論非國語書

#### [唐] 柳宗元

四月三日。宗元白, 化光足下:

近世之言理道者衆矣,率由大中而出者咸無焉。其言本儒術,則迂迴 茫洋,而不知其適。其或切於事,則苛峭刻聚,不能從容,卒泥乎大道。甚 者好怪而妄言,推天引神,以爲靈奇,恍惚若化,而終不可逐。故道不明於 天下,而學者之至少也。

吾自得友君子,而後知中庸之門戶階室,漸染砥礪,幾乎道眞。然而常欲立言垂文,則恐而不敢。今動作悖謬,以爲僇於世,身編夷人,名列囚籍。 以道之窮也而施乎事者無日,故乃挽引,強爲小曹,以志乎中之所得焉。

嘗讚《國語》,病其文勝而言尨,好詭以反倫,其道舛逆。而學者以其文也,咸嗜悅焉,伏膺呻吟者,至比六經,則弱其文必信其實,是聖人之道翳也。余勇不自制,以當後世之訕怒,輒乃黜其不臧,救世之謬,凡爲六十七篇,命之曰《非國語》。旣就,累日怏怏然不喜,以道之難明而習俗之不可變也,如其知我者果誰歟! 凡今之及道者,果可知也已。後之來者,則吾未之見,其可忽耶? 故思欲盡其瑕額,以別白中正。度成吾書者,非化光而誰? 輒令往一通,惟少留視役慮以卒相之也。

往時致用作《孟子評》,有韋詞者,告余曰: "吾以致用書示路子,路子曰: '善則善矣,然昔人爲書者,豈若是摭前人耶?'"韋子賢斯言也。余曰,致用之志,以明道也,非以摭《孟子》,蓋求諸中而表乎世焉爾。今余爲是書,非左氏尤甚。若二子者,固世之好言者也,而猶出乎是。沉不及是者滋衆,則余之望乎世也愈狹矣,卒如之何! 苟不悖於聖道,而有以啓明者之慮,則用是罪余者,雖累百世,滋不憾而恧焉,於化光何如哉! 激乎中必属乎外,想不思而得也。宗元白。

上海人民出版社排印本《柳河東集》卷三十一

## 與友人論爲文書

#### [唐] 柳宗元

古今號文章爲難,足下知其所以難乎?非謂比與之不足,恢拓之不遠, 鑽礪之不工,頗類之不除也。得之爲難,知之愈難耳。苟或得其高朗,探其 深蹟,雖有蕪敗,則爲日月之蝕也,大圭之瑕也,曷足傷其明、黜其實哉!

且自孔氏以來,茲道大闡,家脩人勵, 河精竭慮者,幾千年矣。其間耗費簡札,役用心神者,其可數乎?登文章之籙,波及後代,越不過數十人耳。其餘誰不欲爭裂綺纖,互攀日月,高視於萬物之中,雄峙於百代之下乎?率皆縱臾而不克,躑躅而不進,力臟勢窮, 吞志而沒。故曰得之爲難。嗟乎! 道之顯晦,幸不幸緊焉;談之辯訥,升降緊焉;鑒之頗正,好惡緊焉; 交之廣狹,屈伸緊焉。則彼卓然自得以奮其間者,合乎否乎,是未可知也。而又榮古虐今者,比肩疊跡,大抵生則不遇,死而垂擊者衆焉。揚雄沒而《法言》大興,馬遷生而《史記》未振,彼之二才,且猶若是,況乎未甚聞者哉! 固有文不傳於後祀,擊遂絕於天下者矣。故曰知之愈難。而爲文之士亦多漁獵前作,戕賊文史,挟其意,抽其華,置齒牙間,遇事鑑起,金擊玉耀,誑聾瞽之人,徼一時之聲。雖終淪棄,而其奪紫亂雅,爲害已甚。是其所以難也。

間聞足下欲觀僕文章,退發囊笥,編其蕪穢,心悸氣動,交於胸中,未知 執勝,故久滯而不往也。今往僕所著賦頌碑碣文記議論書序之文,凡四十 八篇,合為一通,想令治書蒼頭吟諷之焉。擊轅拊缶,必有所擇,顧鑒視其 何如耳,還以一字示褒貶焉。

上海人民出版社排印本《柳河東集》卷三十一

### 讀韓愈所著毛穎傳後題

[唐] 柳宗元

自吾居夷,不與中州人通書。有來南者,時言韓愈爲《毛額傳》,不能舉

其辭,而獨大笑以爲怪,而吾久不克見。楊子誨之來,始持其書,索而讀之,若捕龍蛇、搏虎豹,急與之角而力不敢暇,信韓子之怪於文也。世之模擬竄額,取靑嫓白、肥皮厚肉、柔筋脆骨,而以爲辭者之讀之也,其大笑固宜。

上海人民出版社排印本《柳河東集》卷二十一

# 上杜司徒書(節錄)

#### 〔唐〕劉禹錫

……昔稱韓非善著書,而《說難》《孤憤》尤為激切,故司馬子長深悲之,為著於篇,顯白其事。夫以非之書,可謂善言人情,使逢時遇合之士觀之,固無以異於他書矣。而獨深悲之者,豈非遭罹世故,益感其言之至邪?小人受性顯蒙,涉道未至,末學見淺,少年氣粗。常謂盡誠可以絕嫌猜,徇公可以再讒愬,謂愼獨防微為近隘,謂艱貞用晦爲廢忠。獨狗已陳,刻舟徒識。罟檴隨足,倀然無知。事去寢想,時時自笑。然後知韓非之善說,司馬子長之深悲,跡符理會,千古相見,雖欲勿悲,可乎?……

◆四部載刊》影宋本《劉夢得文集》卷十四

# 答章中立『論師道書

#### [唐] 柳宗元

二十一日, 宗元白:

辱書云,欲相師。僕道不篤,業甚淺近,環顧其中,未見可師者。雖常好言論,爲文章,甚不自是也。不意吾子自京師來蠻夷間,乃幸見取。僕自卜固無取;假令有取,亦不敢爲人師。爲衆人師且不敢,況敢爲吾子師乎?

孟子稱"人之患,在好爲人師"[2]。由魏、晉氏以下,人益不事師。今之世,不聞有師;有輒譁笑之,以爲狂人。獨韓愈奮不顧流俗,犯笑悔,收召後學,作《師說》,因抗顏而爲師;世果羣怪聚駡,指目牽引,而增與爲言辭。愈以是得狂名,居長安,炊不暇熟,又挈挈[8]而東。如是者,數矣。

屈子賦曰: "邑犬羣吠,吠所怪也[4]。"僕往閱庸、蜀之南,恆雨少日,日出則犬吠,余以爲過言。前六七年,僕來南[5]。二年[6]冬,幸大雪踰嶺被南越中數州,數州之犬,皆蒼黃吠噬狂走者累日,至無雪乃已。然後始信前所聞者。今韓愈旣自以爲蜀之日,而吾子又欲使吾爲越之雪,不以病乎! 非獨見病,亦以病吾子。然雪與日豈有過哉? 顧吠者犬耳。度今天下不吠者幾人,而誰敢衒怪於羣目,以召鬧取怒乎?

僕自謫過以來, 益少志慮。居南中九年, 增脚氣病, 漸不喜鬧, 豈可使呶呶者早暮咈吾耳、騷<sup>[7]</sup>吾心, 則固僵仆煩憒, 愈不可過矣。平居望外遭齒舌<sup>[8]</sup>不少, 獨欠爲人師耳。

抑又聞之,古者重冠禮[9],將以貴成人之道,是聖人所尤用

心者也。數百年來,人不復行。近有孫昌胤者,獨發憤行之。旣成禮,明日造朝,至外庭,薦笏<sup>[10]</sup>,言於卿士曰:某子冠畢。應之者咸憮然<sup>[11]</sup>。京兆尹鄭叔則怫然<sup>[12]</sup>曳笏却立曰:何預我耶?廷中皆大笑。天下不以非鄭尹而快孫子何哉?獨爲所不爲也。今之命師者,大類此。

吾子行厚而辭深,凡所作,皆恢恢然有古人形貌,雖僕敢為師,亦何所增加也。假而以僕年先吾子,聞道著書之日不後,誠欲往來言所聞,則僕固顧悉陳中[13]所得者。吾子苟自擇之,取某事、去某事則可矣;若定是非以教吾子,僕材不足,而又畏前所陳者,其爲不敢也決矣。吾子前所欲見吾文,旣悉以陳之,非以耀明于子,聊欲以觀子氣色誠好惡何如也。今書來,言者皆大過,吾子誠非佞譽誣諛之徒,直見愛甚故然耳。

始吾幼且少,爲文章以辭爲工[14]。及長,乃知文者以明道,是固不苟爲炳炳烺烺[15]、務采色、誇聲音[18]而以爲能也。凡吾所陳,皆自謂近道,而不知道之果近乎遠乎?吾子好道而可[17]吾文,或者其於道不遠矣。故吾每爲文章,未嘗敢以輕心掉[18]之,懼其剽[19]而不留也;未嘗敢以念心易之,懼其弛[20]而不嚴也;未嘗敢以昏氣出之,懼其昧沒[21]而雜也;未嘗敢以矜氣作之,懼其偃蹇[22]而驕也。抑之欲其奧[23],揚之欲其明[24],疎之欲其通[25],廉之欲其節[28],激而發之欲其淸,固而存之欲其重[27]。此吾所以羽翼夫道也。本之《書》以求其質[28],本之《詩》以求其恆[29],本之《禮》以求其宜[30],本之《春秋》以求其斷[31],本之《易》以求其動[32]。此吾所以取道之原也。參之《穀梁氏》以厲其氣[33],參之《孟》《荀》以暢其支[34],參之《莊》《老》以肆其端[35],參之《國語》以博其趣[36],參之《離騷》以致其幽[37],參之《太史公》以著其潔[38]。此吾所以旁推交通而以爲之文也。凡若此者,果是耶,非耶?有取乎,抑其無取乎?吾子幸觀焉,擇

焉,有餘<sup>[39]</sup>以告焉。苟亟來以廣是道,子不有得焉,則我得矣, 又何以師云爾哉<sup>[40]</sup>?取其實而去其名,無招越、蜀吠怪而爲外廷 所笑,則幸矣。宗元復白。

上海人民出版社排印本《柳河東集》卷三十四

#### 【註釋】

- [1] 草中立——蔣之翹注:"史無傳,《新史》年表云,潭州刺史彪之孫,不書爵位。"
- [2]人之患在好爲人師---語見《孟子·離婁上》。
- [3] 挈挈——形容孤獨。
- [4] 邑犬羣吠吠所怪也——語見«九章・懷沙»。
- [5] 僕來南——唐順宗永貞元年(公元八〇五年),宗元從長安被貶為邵州刺史,中途,貶永州司馬,故說來南。
- [6]二年——唐憲宗元和二年(公元八〇七年)。
- [8]望外——猶言意外。齒舌——猶言口舌。
- [9]冠禮——周代男子二十歲行冠禮。
- [10] 鷹笏----鷹,插。古代做官的人,插笏於紳帶。
- [11] 憮然—— 茫然自失。
- [12] 怫然----嗔怒。
- [13] 中----胸中。
- [14]始吾幼且少二句——柳宗元早年,喜歡寫駢文。
- [15] 炳炳烺烺---形容光采。
- [16] 務保色誇聲音——指駢文崇尚華美的詞采、和諧的聲律。
- [17] 可——許可。
- [18] 掉——逞。
- [19] 剽一一快速,引申作浮滑解。
- [20] 施--- 鬆弛。
- [21] 昧没——心思昏昧的意思。
- [22] 偃蹇——形容驕傲。
- [23] 抑之欲其奥——抑,抑制。文章要力透紙背,不宜浮在表面。抑制的作用,在 於使文章的意思曆層深入。

- [24] 揚之欲其明——與上一句的作用相反,寫文章又必須字面紙上皆軒昂,筆要提 得起,提得高,使意義明朝。
- [25] 疏之欲其通一一文氣要疏暢,意思才得通利而無所不達。
- [26] 廉之欲其節——要嚴格地創意選詞。節,節制,有精鍊的意思。
- [27] 固而存之欲其重——固,凝聚。這句意思是說寫文章要使語不浮滑。
- [28]本之書以求其質——《尚書》是我國最古的歷史文獻, 敘述樸素, 不尚華藻。 質,質樸。
- [29] 本之詩以求其恆——《詩三百篇》中有許多抒情的作品,其中精華部分,有永恆的感染力,故云。
- [30]本之禮以求其宜——禮是體現我國古代奴隸社會和封建社會等級制度的東西,宗元就封建統治階級的立場說話,因此說《禮》經的理論是合理的。
- [31]本之春秋以求其斷——相傳孔子修《春秋》,通過一字褒貶來表示他對事物是 非的判斷。
- [32]本之易以求其動——《易經》的易,是變化之意。六爻遞相推動而生變化。《易· 繫辭上》: "是故謂之象(指六十四卦之象),聖人有以見天下之動。"又:"鼓天下 之動者存乎辭(爻辭)。"
- [33] 参之穀梁氏以厲其氣——《穀梁傳》,《春秋》三傳之一。穀梁子名淑(一作俶), 字元始,一名赤,魯人,受經於子夏,爲《春秋》作傳。范寧《春秋穀梁傳序》稱 "穀梁清而婉,其失也短"。楊士勛疏: "清而婉者,辭清義通。"厲其氣,獨言鍊 其氣,鍊其文氣,使之疎而通。
- [34] 参之孟荀以暢其支——支,通枝。暢其支,謂樹木枝葉的暢生。《孟子》的文章 以博辯縱橫見稱,《荀子》文章,邏輯性強,反覆深透。所以說"参之《孟》《荀》以 暢其支",就是要從孟、荀的作品中學到那種枝條暢茂的寫作特色。
- [35] 参之莊老以肆其端——肆,放縱。端,端緒,即發興無端之端。這裏《莊》《老》並舉,就肆其端來說,主要是指《莊子》,《老子》不過附帶提及。《莊子》文章,往往闡述一道理,引用寓言,出奇無窮,放恣無端。正如它所說:"以謬悠之說,荒唐之言,無端崖之辭,時恣縱而不儻(偏的意思)。……以卮言爲曼衍,以重言爲眞,以寓言爲廣。"(《天下篇》)宗元此語,即是莊文大意的概括。
- [36] 參之國語以博其趣一一博,擴展的意思。趣,對理而言,謂其語不必合於理,但 别有奇趣。宗元《非國語序》:"左氏《國語》,其文深閎傑異,……而其誤多誣淫, 不概於聖。余懼世之學者弱其文宋而淪於是非。……"就是所謂"趣"的具體 說明。

- [38] 参之太史公以著其潔――《史記》,《漢書·藝文志》著錄作"《太史公》百三十篇"。潔,指《史記》語言精鍊,掃除一切浮華渣滓而言。宗元在《報袁君陳秀才 避師名書》中也說: "《穀粱子》、《太史公》甚峻潔。"
- [39]有餘——有餘暇。
- [40] 苟函來以廣是道四句——意思是說,我們大家來談談還道,互相啓發,即使你 沒有收穫,我還是會有所收穫的,又何必要居師的名義呢?

#### 【說明】

《與韋中立論師道書》是柳宗元論文的代表作。本文着重講 述兩個問題:一是建立師弟子關係以推動古文運動,一是論述 "文以明道"和由經學文。

在前一問題上, 柳與韓不同, 他不僅不敢爲人師, 而且公開 反對韓愈的"抗顏而爲師"。儘管事實上他對後進之士也"顏悉陳 中所得者", 而"衡、湘以南, 爲進士者, 皆以子厚爲師"(韓愈《柳 子厚墓志銘》語), 但他畢竟是主張"取其實而去其名"的。

後一問題,是本篇的核心,也是作者文論的核心。這裏,首先主張文以明道,不苟爲炳炳烺烺務采色誇聲音以爲能事。其次,談到爲文的目的既然在於羽翼夫道,就不敢出以輕心、怠心、昏氣、矜氣,這跟韓愈所謂"迎而距之,平心而察之,其皆醇也,然後肆焉。雖然,不可以不養也"(《答李翊書》)的說法也有一致之處。第三,談到學習五經旁及子史的問題。他肯定了先秦古文的同時,也特別注意到以先秦古文爲淵源的兩漢古文,尤其是司馬遷的古文。這就把五經子史的文章歸入文學的範疇,而破除了以儒家書籍作爲經典的成見。這與蕭統選文認爲"姬公之籍,孔父之書,與日月俱歷,鬼神爭奧,……老、莊之作,管、孟之流,蓋以立意爲宗,不以能文爲本"(《文選序》),因而不列於文學領域的觀點不

同。而與韓愈在《進學解》中所說: "作爲文章,其書滿家,上規姚 姒,渾渾無涯。周誥、殷盤,佶屈聱牙。《春秋》謹嚴,《左氏》浮誇, 《易》奇而法,《詩》正而葩,下逮《莊》《騷》,《太史》所錄,子雲相 如,同工異曲"的觀點,是一致的。這種把五經子史的文章當作文 學看待的說法,不僅打破了推算經史、卑視文學的舊傳統觀念, 而且就我國古代散文發展的歷史過程來說,就五經、諸子、《史 記》等作品對後代文學的影響來說,就早期的哲學、史學著作還 沒有與文學嚴格區分的情況來說,韓、柳的主張,是有一定的理 由的。第四,本篇還論述了各家散文以及《詩》《騷》等的特色,對 它們作了適當的概括。

# 附錄

# 楊評事文集後序(節錄)

#### 〔唐〕柳宗元

贊曰: 文之用,辭令褒貶,導揚諷踰而已。雖其言鄙野,足以備於用,然而觀其文采,固不足以竦動時聽,誇示後學,立言而朽,君子不由也。故作者抱其根源,而必由是假道焉。

作於聖,故曰經,述於才,故曰文。文有二道:辭令褒貶,本乎著述者也;導揚諷諭,本乎比興者也。著述者流,蓋出於《書》之謨、訓,《易》之象、緊,《春秋》之筆創,其要在於高壯廣厚,詞正而理備,謂宜藏於簡册也。比與者流,蓋出於虞、夏之詠歌,殷、周之風雅,其要在於麗則淸越,言暢而意美,謂宜流於謠誦也。茲二者,考其旨義,乖離不合,故秉筆之士,恆偏勝獨得,而罕有兼者焉。厥有能而專美,命之曰藝成。雖古文雅之盛世,不能並肩而生。

唐興以來,稱是選而不作者,梓潼陳拾遺,其後燕文貞以著述之餘,攻 比興,而莫能極,張曲江以比興之隟,窮著述而不克備,其餘各探一隅,相與

# 背馳於道者,其去彌遠。文之難兼,斯亦甚矣。…… 上海人民出版社排印本《柳河東集》卷二十一

# 報袁君陳秀才避師名書

#### [唐] 柳宗元

秀才足下:

僕避師名久矣。往在京都,後學之士到僕門,日或數十人,僕不敢虛其來意,有長必出之,有不至必惎之。雖若是,當時無師弟子之說。其所不樂爲者,非以師爲非,弟子爲罪也。有兩事,故不能:自視以爲不足爲,一也;世久無師弟子,决爲之,且見非,且見罪,懼而不爲,二也。其大說具《答章中立書》,今以往,可觀之。

秀才貌甚堅,辭甚強。僕自始觀,固奇秀才,及見兩文愈益奇。雖在京都,日數十人到門者,誰出秀才右耶?前已必(原作畢,據注引一本校改)秀才可爲成人,僕之心固虛矣,又何鲲鵬互鄉於尺牘哉?秋風益高,暑氣益衰,可偶居卒談,秀才時見咨,僕有諧內者,不敢愛惜。

大都文以行爲本,在先誠其中。其外者當先讚六經,次《論語》、孟軻 書,皆經言。《左氏》、《國語》、莊周、屈原之辭,稍采取之;《穀梁子》、《太史 公》甚峻潔,可以出入;餘書俟文成異日討也。其歸在不出孔子。此其古人 賢士所懷懷者。求孔子之道,不於異書。秀才志於道,愼勿怪、勿雜、勿務 速顯; 道苟成則慇然爾,久則蔚然爾。源而流者歲旱不涸,蓄穀者不病凶 年,蓄珠玉者不虞殍死矣。然則成而久者,其術可見。雖孔子在,爲秀才 計,未必過此。不具。宗元白。

上海人民出版社排印本《柳河東集》卷三十四

#### 報崔黯秀才論爲文書

〔唐〕柳宗元

祖生足下:

**摩鲁及文章,辭意良高,所嚮慕不凡近,誠有意乎聖人之言。然聖人之** 

言,期以明道,學者務求諸道而遺其辭。辭之傳於世者,必由於書。道假辭而明,辭假書而傳。要之之道而已耳; 道之及,及乎物而已耳。斯取道之內者也。今世因貴辭而矜書,粉澤以爲工,適密以爲能,不亦外乎? 吾子之所言道,匪辭而書,其所望於僕,亦匪辭而書,是不亦去及物之道愈以遠乎?

僕嘗學聖人之道,身雖窮,志求之不已,庶幾可以語於古,恨與吾子不同州部,閉口無所發明、觀吾子文章自秀士,可通聖人之說。今吾子求於道也外,而望於予也愈外,是其可惜歟!吾且不言,是負吾子數千里不棄朽廢者之意,故復云爾也。

凡人好辭工書,皆病癖也。吾不幸蚤得二病。學道以來,日思砭鍼攻 熨,卒不能去,纏結心腑牢甚,願斯須忘之而不克,竊嘗自毒。今吾子乃始 欽欽思易吾病,不亦惑乎? 斯固有潛塊積瘕中子之內藏,恬而不悟,可憐哉! 其卒與我何異? 均之二病,書字益下,而子之意又益下,則子之病又益篤,甚矣子癖於伎也!

吾嘗見病心腹人,有思啗土炭嗜酸鹹者,不得則大戚。其親愛之者,不 忍其戚,因探而與之。觀吾子之意,亦已戚矣。吾雖未得親愛吾子,然亦重來 意之勤,有不忍矣。誠欲分吾土炭酸鹹,吾不敢愛,但遠言其證不可也,俟 面乃悉陳吾狀。未相見,且試求良醫,爲方已之。苟能已,大善,則及物之 道,專而易通。若積結旣定,醫無所能已,幸期相見時,吾決分子其啗嗜者。 不具。宗元白。

上海人民出版社排印本《柳河東集》卷三十四

# 柳宗直西漢文類序

#### 〔唐〕柳宗元

左右史混久矣,言事駁亂,《尚書》《春秋》之旨不立。自左丘明傳孔氏, 太史公述歷古今,合而爲史,迄于今交錯相糺,莫能離其說。獨左氏《國語》 紀言不參於事,《戰國策》《春秋後語》頗本右史《尚書》之制,然無古聖(原無 聖字,據諸本增)人蔚然之道,大抵促數耗矣,而後之文者寵之。文之近古 而尤壯麗,莫若漢之西京,班固書傳之,吾嘗病其畔散不屬,無以考其變,欲 宋比義,會年長疾作,騖墮愈日甚,未能勝也。幸吾弟宗直,愛古書,樂而成 之,搜討磔裂,擴擴融結,離而同之,與類推移,不易時月,而咸得從其條貫, 森然炳然,若開羣玉之府,指揮聯累圭璋琮璜之狀,各有列位,不失其序,雖 第其價可也。以文觀之,則賦頌詩歌書奏詔策議論之辭畢具;以語觀之,則 右史記言,《尚書》《戰國策》成敗與壞之說大備。噫,是可以爲學者之端耶?

始吾少時,有路子者,自贊爲是書,吾嘉而敍其意,而其書終莫能 具,卒俟宗直也,故刪取其敍繫于左,以爲《西漢之類》。首紀殷周之前,其 文簡而野,魏晉以降,則邊而靡,得其中者漢氏。漢氏之東,則旣衰矣。當 文帝時,始得賈生明儒術,武帝尤好焉,而公孫弘、董仲舒、司馬相如之徒 作,風雅益盛,敷施天下,自天子至公卿大夫士庶人咸通焉。於是宜於韶 策,達於奏議,諷於辭賦,傳於歌謠,由高帝訖于哀、平,王莽之誅,四方之文 章蓋爛然矣。史臣班孟堅修其書,拔其尤者,充于簡册,則二百三十年間, 列辟之達道,名臣之大範,賢能之志業,黔黎之風美列焉。若乃合其英精, 離其變通,論次其敍位,必俟學古者與行之。唐與用文理,貞元間,文章特 盛,本之三代,浹于漢氏,與之相準。於是有能者,取孟堅書,類其文,次其 先後爲四十卷。

上海人民出版社排印本《柳河東集》卷二十一

# 唐故柳州刺史柳君集紀四

## 〔唐〕劉禹錫[2]

八音與政通<sup>[3]</sup>,而文章與時高下<sup>[4]</sup>。三代之文至戰國而病<sup>[5]</sup>,涉<sup>[6]</sup>秦、漢復起;漢之文至列國而病<sup>[7]</sup>,唐與復起。夫政厖<sup>[8]</sup>而土裂,三光五嶽之氣分<sup>[9]</sup>,大(《全唐文》作太)音不完<sup>[10]</sup>,故必混一<sup>[11]</sup>而後大振。初,貞元<sup>[12]</sup>中,上方嚮<sup>[13]</sup>文章。昭回<sup>[14]</sup>之光,下飾<sup>[15]</sup>萬物。天下文士,爭執所長,與時而奮,粲然如繁星麗<sup>[16]</sup>天。而芒寒色正,人望而敬者,五行<sup>[17]</sup>而已。河東柳子厚,斯人望而敬者敷!

子厚始以童子有奇名於貞元初,至九年爲名進士[18],十有九年爲材御史[19],二十有一年以文章稱首,入尚書爲禮部員外即[20]。是歲以陳俊少檢獲訓,出牧邵州,又謫佐永州[21]。居十年,韶書徵,不用,遂爲柳州刺史[22]。五歲不得召歸,病且革[23],留書抵其友中山劉某(《文苑英華》、《唐文粹》、《全唐文》某作禹錫)曰[24]:"我不幸,卒以謫死,以遺草累故人。"某(《文苑英華》、《唐文粹》作禹錫)執書以泣,遂編次爲三十(《文苑英華》、《全唐文》作三十二,《唐文粹》作四十五)通[25],行於世。

子厚之喪, 昌黎韓退之誌其墓<sup>[26]</sup>, 且以書來弔<sup>[27]</sup>曰: "哀哉若人之不淑<sup>[28]</sup>。吾嘗評其文, 雄深雅健似司馬子長<sup>[29]</sup>, 崔、蔡<sup>[30]</sup>不足多也。"安定皇甫湜<sup>[31]</sup>於文章少所推讓, 亦以退之言爲然。凡子厚名氏與仕與年暨行己之大方(原無方字, 據影明本《劉賓客文集》補)<sup>[32]</sup>, 有退之之誌若祭文<sup>[33]</sup>在,今附於第一通之末云。

《四部幾刊》影印武進實氏影宋本《劉夢得文集》卷二十三

#### 【註釋】

- [1] 集紀——《全唐文》卷六〇五作"文集序"。柳君,指柳宗元。見本册《答吳武陵 論非國語書》註[2]。
- [2]劉禹錫(公元七七二年——八四二年)——字夢得,河南洛陽人。貞元九年進士,後官至太子賓客、檢校禮部尚書。有《劉賓客集》三十卷、外集十卷。《舊唐書》卷一六〇、《新唐書》卷一六八有傳。
- [3]八音與政通——八音,見本書第一册《尚書‧堯典》註[13]。八音與政通,說的是音樂藝術與政治的關係,本於《禮記‧樂記》: "凡音者,生人心者也。情動於中,故形於聲;聲成交,謂之音。是故治世之音安以樂,其政和; 亂世之音怨以怒,其政乖;亡國之音哀以思,其民困。聲音之道,與政通矣。"鄭玄註: "言八音和否隨政也。"
- [4] 文章與時高下——從下文所闡述,知這裏所說的時,包括統一時代的盛世和分 裂時代的衰世。文章隨着世的盛衰而盛衰。後來歐陽修在《新唐書·藝文志》 裏說:"夫王迹熄而詩亡,離騷作而文辭之士輿,歷代盛衰,文章與時高下。然 其變態百出,不可窮極,何其多也。"就是借用本文的話,但觀點不盡相同,歐陽 對衰世之文,不是完全否定的。
- [6] 涉——到、歷。
- [7] 漢之文至列國而病——列國,指東晉以後十六國南北朝的分裂時期。漢王朝在戰國分裂以後又歸於統一,漢之文又起戰國之衰而復振,班固《兩都賦序》說它是"潤色鴻樂","大漢之文章,炳舜與三代同風"。發展到分裂的南北朝而文章又隨着趨於衰落。這種對南北朝文學的否定論,在唐代文論裏,如陳子昂《與東方左史虬修竹籍序》、虛藏用《右拾遺陳子昂文集序》、李白《古風》其一、韓愈《萬士》,都有類似的說法。而本文則是從國家分裂的角度來提的,是與上

述諸家之論不同之處。

- [8]政厖——僞古文《尚書·周官》:"推賢讓能,庶官乃和。不和政厖。"僞孔安國傳:"厖,雜也。"
- [9] 三光五嶽之氣分——三光: 日、月、星。五嶽: 東嶽泰山, 南嶽衡山, 西嶽華山, 北嶽恒山, 中嶽嵩山。氣, 古人用來解釋構成世界的物質元素的名稱。三光五嶽都是物質之氣自身運動所形成。分, 散離, 消失。
- [10] 大音不完——《老子》:"大音希聲,大象無形。"大音,大到聽之而不可聞的音, **這裏**借以指音之最完美者。大音不完,最完美的音變而爲不完美。
- [11] 混一——國家統一。
- [12] 貞元——唐德宗年號,凡二十一年,從公元七八五年到八〇五年。
- [13] 上——指德宗。喬——意之所向,意爲重視。
- [14] 昭回——《詩·大雅·雲漢》:"倬彼雲漢,昭回于天。"昭,光。回,運轉。昭回的原意是指星辰光的運轉,借以指日月,比擬德宗。
- [15] 飾---裝飾、潤飾。
- [16] 魔——附着。
- [17] 五行——五行之星。《史記·天官書》:"天有五星,地有五行。"《淮南子·天文 凯》:"何謂五星? 東方,木也,……其神為歲星。""南方,火也,……其神為炎 恐。""中央,土也,……其神為鎮星。""西方,金也,……其神為太白。""北方,水也,……其神為辰星。"按:歲星、熒惑等即是五星的名稱,是巨大的星座。
- [18] 子厚始以童子有奇名於貞元初二句——韓愈《柳子厚墓誌銘》:"子厚少精敏無不通達,建其父時,雖少年已自成人,能取進士第,嶄然見頭角。衆謂柳氏有子矣!"貞元九年,權禮部侍即顧少連知實舉,宗元與禺錫同登進士第。同科中進士者共三十二人。
- [19] 十有九年爲材御史——《柳子厚墓誌銘》:"貞元十九年,由藍田尉拜監察 御史。"材,以材能出名。
- [20] 二十有一年二句——貞元二十一年正月二十三日,德宗卒,順宗卽位。宗元任 體部員外耶,在順宗卽位後。
- [21] 是歲三旬——貞元二十一年八月,改年號爲永貞,憲宗卽位。王叔文爲首的政治革新運動失敗。九月,宗元被貶爲邵州刺史。十月,再貶爲永州司馬。陳,粗疏大意。雋,通俊,英俊,才智過人。檢,檢點,約束。訕,毀謗。牧,漢末的一州軍政長官名稱,唐人借以指州刺史,本文用如動詞。邵州,唐代州名,治所在邵陽。讀,貶官斥逐。佐,司馬爲輔佐州刺史之官,故稱佐。永州,唐代州名,

治所在零陵。這裏,作者諱言宗元參加王叔文集團之事,而是說他行動不小心,不自檢點,因而遭受難誇,得到貶官的處分。

- [22]居十年四句——《資治通鑑》卷二三九《唐紀》:"王叔文之黨坐謫官者,凡十年 不量移,執政有憐其才欲漸進之者,悉召至京師;諫官爭言其不可,上與武元衡 亦惡之,(元和十年)三月乙酉,皆以爲遠州刺史,官雖進而地益遠。"徵,徵召。 柳州,唐代州名,治所在柳州。
- [23] 革——通亟,危急。
- [24]抵---達。中山---郡名,劉禹錫的郡望。
- [25] 遂稿次爲三十通——通,卷。按: 今傳宋韓醇《詁訓柳先生文集》四十五卷、外集二卷、新編外集一卷: 宋童宗說《增廣音辯柳集》四十三卷, 宋魏仲舉編《五百家音辯柳先生文集》二十一卷、外集二卷、新編外集一卷、《龍城錄》二卷、附錄八卷, 宋鄭瑩中刻《柳河東集》四十五卷、外集、《龍城錄》、附錄各二卷, 以及其它元、明刊本,卷數都和《三十通》之數不符。其變易源委, 可參考《四庫全書總目》卷一百五十集部別集類三柳集提要的考訂。
- [26] 昌黎韓退之誌其基——昌黎,韓愈的郡望。韓愈所爲《柳子厚墓誌銘》,見《昌 黎先生文集》卷三十二。
- [27] 弔——向死者的家屬信問。
- [28] 若人——其人,指宗元。不救——不幸。
- [29] 司馬子長——司馬遷,字子長。
- [30] 崔、蔡---崔駰、蔡邕,東漢文學家。見本書第一册《文章流別論》註[63][73]。
- [81]安定皇甫湜——安定,郡名,皇甫族的郡望。皇甫湜(約公元七七七年——約 八三〇年),字持正,睦州新安人。元和初中進士,爲陸渾尉,後官至工部耶中。 有《皇甫持正集》六卷。《新唐書》卷一七七有傳,附韓愈傳後。
- [82] 行己之大方——《論語·子路》:"行己有恥。"行己,約束自己的行為。《莊子· 秋水》:"吾長見笑於大方之家。"大方,大道理。
- [33] 祭文---韓愈《祭柳子厚文》,見《昌黎先生文集》卷二十三。

## 【說明】

劉禹錫與柳宗元在政治、哲學關爭中志同道合,他們的文學 觀點也相接近。因之柳宗元把自己全部作品交給他整理編輯成 集。 劉禹錫認為文學與時代社會有密切關係,政治的治亂和國家的分合决定着文章的盛衰。這和他在《天論》中"生乎治者人道明,生乎亂者人道昧"的哲學觀點是一致的,有樸素唯物論的因素。"故必混一而後大振",也反映了他政治上要求鞏固國家統一、反對分裂的強烈願望。當然,他不可能認識到:在階級社會中學術文化以及文學的發展都有它們自己的規律,他的所謂"三代之文至戰國而病",是不符合歷史情况的。

他還認為作者與讀者的身世遭遇,對他們的寫作或批評有深刻的影響。像韓非那樣議論"激切"、"善言人情",遇到司馬遷那樣"遭遇世故"的讀者才更爲之"深悲",體會到"其言之至"。這是司馬遷發憤著書說的繼承與發展,也是劉禹錫自己生活、創作與批評的經驗之談。

關於詩歌創作,劉禹錫發表過深有會心的意見,如在《董氏武陵集紀》中說: "片言可以明百意,坐馳可以役萬景。" "心源爲鑪,筆端爲炭,鍛鍊元本,雕碧羣形。"強調藝術構思和想像的作用,這是作者在詩歌創作中運用形象思維的甘苦之言,對後人是有啓發的。

與柳宗元一樣,劉禹錫強調文學作品的思想性與社會作用, 他對於民間歌曲的重視,也是值得注意的。

# 附 錄

答柳子厚書

#### 〔唐〕劉禹錫

禹錫白:零陵守以函置足下書发("爰"原作"員",據陝西人民出版社影明本《劉賓客文集》改)來, 屑末三幅, 小章書僅千言, 申申亹亹, 茂勉甚悉。

相思之苦懷,廖結贅聚,至是拌然以銷,所不如晤言者無幾。書竟,獲新文二篇,且戲杂曰:將子爲巨衡以揣其鈞石銖黍。余吟而繹之,顧其辭甚約,而味奫然以長。氣爲幹,文爲支,跨礫古今,鼓行乘空。附離不以鑿枘("枘"原作"柄",據陝西人民出版社影明本《劉賓客文集》改),阻嚼不以("以"原作"有",據上海人民出版社排印本《劉禹錫集》改)文字,端而曼,苦而腴,信然以生,瓊然以清。余之衡誠懸于心,其揣也如是。子之戲余,果何如哉! 夫矢發乎羿彀,而中微存乎它人,子無曰必我之師能我衡,苟然,則譽羿者皆羿也,可乎?索居三歲,理言蕪而不治,臨書軋軋,不具。禹錫白。

《四部叢刊》影印武進董氏影宋本《劉夢得文集》卷十四

# 唐故尚書主客員外鄓盧公集紀(節錄)

#### 〔唐〕劉禹錫

心之精微,發而爲文,文之神妙,詠而爲詩。猶夫孤桐朗玉,自有天律, 能事具者,其名必高。名猶實生,故久而益大。……

**《四部義刊》影印武進董氏影宋本《劉夢得文集》卷二十三** 

# 寄李 翺"書

#### [唐] 裴 度[2]

前者,唐生至自滑,猥辱致書札,兼獲所貺新作二十(《唐文粹》作十二)篇。度俗流也,不盡窺見。若《愍女碑》《烈婦傳》<sup>[3]</sup>,可以激淸教義,煥於史氏。《鐘銘》謂以功伐名於器爲銘<sup>[4]</sup>。《與弟正辭書》謂文非一藝<sup>[5]</sup>。斯皆可謂救文之失,廣文之用之文也。甚善,甚善!

然僕之知弟也,未知其他,直以弟敏於學而好於文也,就大經而正焉。故每遇名輩,稱弟不容於口。自謂彌久益無愧詞,竊料弟亦以直諒見待,不以悅媚相容,故不惟嗟悒,亦欲商度其萬一耳。若弟擯落今古,脫遺經籍,斯則如獻白豕[6],何足採取?若猶有祖述,則顧陳其梗概,以相參會耳。

愚謂三、五[7]之代,上垂拱[8]而無為,下不知其帝力[9],其道漸被於天地萬物,不可得而傳也。夏、殷之際,聖賢相遇,其文在於盛德大業,又鮮可得而傳也。厥後周公遭變[10],仲尼不當世,其文遺於冊府,故可得而傳也。於是作周、孔之文。荀、孟之文,左右[11]周、孔之文也。理身,理家,理國,理天下[12],一日失之,敗亂至矣。騷人之文,發憤之文也[13],雅多自賢,頗有狂態[14]。相如、子雲之文,譎諫之文也[15],別爲一家,不是正氣。賈誼之文,化成[16]之文也,鋪陳帝王之道,昭昭在目。司馬遷之文,財成[17]之文也,馳騁數千載,若有餘力。董仲舒、劉向之文,通儒之文也,發明經術,究極天人。其實擅美一時,流譽千載者多矣,不足爲弟道焉。然皆不詭其詞而詞自麗,不異其理而理自新。若夫

典、謨、訓、誥、《文言》《繫辭》、國風、雅、頌<sup>[18]</sup>,經聖人之筆削者, 則又至易也,至直也。雖大彌天地,細入無間,而奇言怪語,未之 或有。意隨文而可見,事隨意而可行。此所謂文可文,非常文也。 其可文而文之,何常之有? 俾後之作者,有所裁准。而請問於弟, 謂之何哉? 謂之不可,非僕敢言; 謂之可也,則大學之道,在明明 德,在止至善矣<sup>[19]</sup>。能止於止乎? 若遂過之,猶不及也。

觀弟近日製作,大旨常以時世之文,多偶對儷句,屬綴風雲, 羈束聲韻,爲文之病甚矣,故以雄詞遠志(《唐文粹》作致),一以 矯之。則是以文字爲意也。且文者,聖人假之以達其心,達則 已,理窮則已,非故高之、下之、詳之、略之也。愚欲去彼取此,則 安步而不可及,平居而不可踰,又何必遠關經術,然後騁其材力 哉?昔人有見小人之違道者,恥與之同形貌,共衣服,遂思倒置 眉目,反易冠帶以異也,不知其倒之反之之非也。雖非於小人, 亦異於君子矣。故文(原文下有人字,據《唐文粹》刪)之異,在氣 格之高下,思致之淺深,不在其磔裂章句,隳廢聲韻也[20]。人之 異,在風神之淸濁,心志之通塞,不在於倒置眉目,反易冠帶也。 試用高明,少納庸妄。若以爲未,幸不以苦言見革其惑[21]。唯僕 心慮荒散,百事罷息,然意之所在,敢隱於故人耶?

昌黎韓愈,僕識之舊矣,中心愛之,不覺驚賞。然其人信 美材也! 近或聞諸儕類云: 恃其絕足[22],往往奔放,不以文立 制[23],而以文爲戲[24]。可矣乎,可矣乎? 今之作者,不及則已; 及之者當大爲防焉耳。

弟索(原作素,據《唐文粹》校改)居多年,勞想深至,窮陰凝 伍<sup>[25]</sup>,動息如何?入奉晨昏之歡,出參帷幄之畫,固多適耳。昨 弟來字,欲度及時干進。度昔歲取名,不敢自高。今孤榮若此,遊 宦謂何,是不復能從故人之所勗耳。但寘力田園,省過朝夕而已。 然待春氣徵和,農事未動,或當策蹇<sup>[28]</sup>謁賢大夫, 乗與弟道舊。 未爾間,猶希尺牘。珍重,珍重。力書無餘。從表兄裴度奉簡。《全唐文》卷五百三十八

#### 【註釋】

- [1]李钢——見本册《答李翊書》註[1]。
- [2] 裴度(公元七六五年——八三九年)——字中立,河東聞喜人。貞元初進士,官至中書令。《舊唐書》卷一百七十、《新唐書》卷一百七十三有傳。《全唐文》卷五百三十七、五百三十八收其文。
- [3] 愍女碑烈婦傳——全題爲《高愍女碑》《楊烈婦傳》。
- [4] 鐘銘句——李朝原文已佚。
- [5] 與弟正辭書句——李朝《寄從弟正辭書》:"汝勿信人號文章爲一藝。夫所謂一藝者,乃時世所好之文,或有盛名於近代者是也。其能到古人者,則仁義之辭也,惡得以一藝而名之哉。"
- [6]如獻白豕——朱浮《爲幽州牧與彭寵書》:"往時遼東有豕,生子白頭,異而獻之。行至河東,見羣豕皆白,懷慙而還。若以子之功,論于朝廷,則爲遼東豕也。"
- [7]三五一一三皇五帝。
- [8] 垂拱——傷古文《書·武成》:"垂拱而天下治。"謂天子垂衣拱手,無爲而治。
- [9]不知其帝力——見本書第一册《文心雕龍·時序》註[1]。
- [10] 周公遭變——《史記·魯周公世家》:"初,成王少時病,周公乃自揃(剪斷)其 蚤(指爪),沈之河以祝於神曰:'王少未有識,奸神命者,乃旦也。'亦藏其策於 府。成王病有變。及成王用事,人或譖周公,周公奔楚。成王發府,見周公轉 書,乃泣,反周公。"
- [11] 左右——猶言羽翼。
- [12] 理身理家理國理天下——四理字都作治字解,唐人避高宗諱,以理代治。
- [13] 發憤之文也——《史記·太史公自序》: "《詩三百篇》, 大抵聖賢發憤之所爲作也。" 屈原憂愁幽思而作《離廢》, 所以本文稱它爲"發憤之文"。
- [14] 雅多自賢頗有狂態——雅,甚。班固《離曆序》:"今若屈原,露才揚己,競乎危國零小之間。"裴度此語,意本於班氏。
- [15] 爾諫之文也——《史記·司馬相如列傳》: "相如曰……請為天子游獵賦。…… 其卒章歸之於節儉,因以風諫。"
- [16] 化成——《易·黄》:"觀乎人文以化成天下。"
- [17] 財成——財,通裁。《易·泰》:"后以財成天地之道。"孔類達《正義》:"當剪財

成就天地之道。"

- [18] 若夫典謨訓酷句——典、謨、訓、酷,是《尚書》之文。《文言》《繫辭》,是《周易》 之文。國風、雅、頌,是《詩三百篇》之詞。
- [19] 大學之道三句——《禮記·大學》: "大學之道,在明明德,在親民,在止於至善。"
- [20] 磔裂章句隐廢擊置——謂鉤章棘句,破壞和諧的音韻。
- [21] 見革其惑----謂解除其疑惑。
- [22] 絕足——謂才力超羣,像千里馬絕廛而奔。
- [23] 不以文立制——謂寫文章不能遵守法度。
- [24] 以文為數——張籍《上韓昌黎書》: "執事聰明,文章與孟子、揚雄相若,……易可俯仰於俗,幫幫為多言之徒哉。……比見執事多尙較雜無實之說,使人陳之於前以為歡,此有以累於令德。……且執事言論文章不謬於古人,今所為或有不出於世之守常者,竊未為得也。"又《上韓昌黎第二書》: "君子發言舉足,不遠於理。未嘗聞以較雜無實之說為數也。執事每見其說,亦拊抃呼矣,是撓氣害性,不得其正矣。苟正之不得,曷所不至焉。或以為中不失正,將以苟悅於衆,是數人也,是玩人也,非示人以義之道也。"這跟裴度批許韓愈"恃其絕足,往往奔放,不以文立制,而以文為戲"的話大致相符合。韓愈集中有《獲麟解》《雜說》等含有嘲戲性的雜文,以及《毛穎傳》《石鼎聯句詩序》等近於小說的作品,被認為是屬於"以文為戲"的。
- [25] 銷陰凝冱——冱,凍結。這句謂天氣嚴寒,積凍不開。
- [26] 策蹇----策隘。

## 【説明】

韓愈提倡古文,在創造新的散文體這方面,取得了成功。但他所楊葉的古文的內容——道,既主要是宣揚孔孟儒學的東西,甚至有時是用來裝點門面的;而他在古文形式方面着重致力的,又往往是一種"言之短長,聲之高下"的特殊技巧,甚至有時還走上"怪怪奇奇"的一路。這樣,他所領導的古文運動,一方面固然對駢文中偏重形式的傾向起了"摧陷廓淸"的作用;一方面却在一定程度上又導來了另一種偏重形式的文風。

韓愈同時代的裴度,是第一個批評韓愈文風的人。裴度在平

定吳元濟時,韓愈爲行軍司馬,二人關於堅決用武力鎮壓藩鎮叛 亂的意見是一致的,但在古文問題上,却存在不小的分歧。在古 文與駢文兩種文章形式互爭雄長的當時, 裴度的主張, 可以說是 一種折衷派。他在《寄李翱書》中,着重闡明文章的作用在於"激 清教義",而寫作則貴在自然。反對那種故意"高之、下之、詳之、 略之"的矯揉造作。文中歷舉了周、孔以來一直到董、劉諸人,都 是"不詭其詞而詞自麗,不異其理而理自新"。根據這樣的準繩, 他認爲駢文的"屬綴風雲,羈束聲韻",當然是"爲文之病",而像 韓愈某些作品的"磔裂章句",也是一種偏向。二者的弊病略同。 裴度這種對古文的批判,無疑是對症發藥,具有補偏的作用。關 於批判韓愈"以文爲戲"這一問題,裴度的觀點,與韓愈也是有歧 異的。在韓愈當時,所謂"以文爲戲"的傳奇小說是一種新興的東 西,在以後一個漫長的時期內,它被排斥於文苑之外,封建文人們 一貫予以鄙視, 認爲是"撓氣害性, 不得其正"的。以衞道身份出 現的韓愈,對此不僅能"拊抃呼笑"地加以欣賞,而且能大膽地進 行試作,這種精神是值得肯定的。韓愈古文中,還有一部分含有 嘲戲性的雜文,則是先秦諸子以寓言故事說理的一個發展。而 裴度轉以此詬病韓愈,其觀點反不冤偏於保守了。

附錄

文 章 論

[唐] 李德裕

魏文《典論》稱"文以氣爲主,氣之清濁有體"。斯言盡之矣。然氣不可以不貰;不貫則雖有英詞麗藻,如編珠綴玉,不得爲全璞之竇矣。鼓氣以勢壯爲美,勢不可以不息;不息則流宕而忘返。亦猶絲竹繁奏,必有希聲窈

眇,聽之者悅聞;如川流迅激,必有洄洑逶迤,觀之者不厭。從兄翰常言"文章如千兵萬馬,風恬雨霽,寂無人聲"。蓋謂是矣。

近世語命,惟蘇廷碩敍事之外自爲文章,才實有餘,用之不竭。沈休文獨以音韻爲切,輕重爲難,語雖甚工,旨則未遠。夫荆璧不能無瑕,隋珠不能無額,文旨旣妙,豈以音韻爲病哉!此可以言規矩之內,不可以言文章外意也。較其師友,則魏文與王、陳、應、劉討論之矣。江南唯於五言爲妙,故休文長於音韻,而謂"靈均以來,此祕未覩",不亦誣人甚矣!古人辭高者,蓋以言妙而適情,不取於音韻。意盡而止,成篇不拘於隻耦。故篇無定曲,辭寡累句。譬諸音樂,古詞如金石零瑟,尙於至音;今文如絲竹鞞鼓,迫於促節。則知聲律之爲弊也,甚矣!

世有非文章者曰:辭不出於風雅,思不越於《離騷》,模寫古人,何足貴也? 余曰:譬諸日月,雖終古常見,而光景常新,此所以爲鹽物也。余嘗爲《文箴》,今載於此。曰:

文之爲物,自然靈氣。惚怳而來,不思而至。杼軸得之,澹而無味。琢 刻藻繪,彌不足貴。如彼璞玉,磨礱成器。奢者爲之,錯以金翠。美 質旣雕,良寶斯葉。

此爲文之大旨也。

《四部叢刊》影明本《李文饒文集外集》卷三

## 答朱載言"書

### [唐] 李 鄒[2]

#### 某頓首:

足下不以某卑賤無所可,乃陳辭屈慮,先我以書。且曰: "余之藝及心不能棄於時,將求知者。問誰可,則皆曰'其李君乎。'" 告足下者過也,足下因而信之又過也。果若來陳,雖道德(原無德字,據《全唐文》增)備具,猶不足辱厚命;況如某者,多病少學,其能以此堪足下所望大而深宏者耶?雖然,盛意不可以不答,故敢略陳其所聞。

蓋行已莫如恭,自責莫如厚,接衆莫如宏,用心莫如直,進道 莫如勇,受益莫如擇友,好學莫如改過。此聞之於師者也。相人之 術<sup>[3]</sup>有三: 迫之以利而審其邪正,設之以事而察其厚薄,問之以 謀而觀其智與不才,賢不肖分矣。此聞之於友者也。列天地,立君 臣,親父子,別夫婦,明長幼,狹朋友,六經之旨矣。浩乎若江海,高 乎若丘山,赫乎若日火,包乎若天地,掇章稱詠,津潤怪麗<sup>[4]</sup>,六經 之詞也。創意造言,皆不相師。故其讀《春秋》也,如未嘗有《書》也; 其讀《詩》也,如未嘗有《易》也;其讀《易》也,如未嘗有《書》也; 其讀屈原、莊周也,如未嘗有六經也。故義深則意遠,意遠則理 辯,理辯則氣直<sup>[5]</sup>,氣直則辭盛,辭盛則文工。如山有恆、華、嵩、 衡焉,其同者高也,其草木之榮<sup>[6]</sup>,不必均也。如濟有淮、濟、河、 江焉,其同者出源到海也,其曲直淺深、色黃白,不必均也。如百 品之雜焉,其同者飽於腹也,其味鹹酸苦辛,不必均也。此因學 而知者也,此創意之大歸也。 天下之語文章,有六說焉:其尚異者,則曰文章辭句奇險而已;其好理者,則曰文章敍意苟通而已;其溺於時者,則曰文章必當對;其病於時者,則曰文章不當對[7];其愛難者,則曰文章宜深不當易;其愛易者,則曰文章宜通不當難[8]。此皆情有所偏滯而不流,未識文章之所主也。

義不深,不至於理,言不信,不在於教勸,而詞句怪麗者有之矣,《劇秦美新》<sup>[9]</sup>、王褒《僮約<sup>[10]</sup>是也。其理往往有是者,而詞章不能工者有之矣,劉氏《人物志》<sup>[11]</sup>、王氏《中說》、俗傳《太公家教》<sup>[12]</sup>是也。古之人能極於工而已,不知其詞之對與否、易與難也。《詩》曰: "憂心悄悄,慍於羣小<sup>[13]</sup>。"此非對也。又曰: "遘慨既多,受侮不少<sup>[14]</sup>。"此非不對也。《書》曰: "朕墍讒說殄行,震驚朕師<sup>[15]</sup>。"《詩》曰: "菀彼柔桑,其下侯旬,捋采其劉,瘼此下人<sup>[16]</sup>。"此非易也。《書》曰: "允恭克讓,光被四表,格於上下<sup>[17]</sup>。"《詩》曰: "十畝之間兮,桑者閑閑兮,行與子旋兮<sup>[18]</sup>。"此非難也。學者不知其方,而稱說云云如前所陳者,非吾之敢聞也。

《六經》之後,百家之言與,老聃、列禦寇、莊周、鶡冠<sup>[19]</sup>、田穰苴<sup>[20]</sup>、孫武、屈原、宋玉、孟軻、吳起、商鞅、墨翟、鬼谷子、荀況、韓非、李斯、賈誼、枚乘、司馬遷、相如、劉向、揚雄,皆足以自成一家之文,學者之所師歸也。故義雖深,理雖當,詞不工者不成文,宜不能傳也。文、理、義三者棄幷,乃能獨立於一時,而不泯滅於後代,能必傳也。仲尼曰:"言之無文,行之不遠<sup>[21]</sup>。"子貢曰:"文猶質也,質猶文也,虎豹之轉,猶犬羊之轉<sup>[22]</sup>。"此之謂也。陸機曰:"怵他人之我先<sup>[23]</sup>。"韓退之曰:"唯陳言之務去<sup>[24]</sup>。"假令述笑哂之狀,曰"莞爾"<sup>[25]</sup>,則《論語》言之矣;曰"啞啞"<sup>[26]</sup>,則《易》言之矣;曰"粲然"<sup>[27]</sup>,則穀梁子言之矣;曰"攸爾"<sup>[28]</sup>,則班固言之矣;曰"囅然"<sup>[28]</sup>,則左思言之矣。吾復言之,與前文何以

異也?此造言之大歸也。

吾所以不協於時而學古文者, 悅古人之行也; 悅古人之行 者, 愛古人之道也。故學其言, 不可以不行其行; 行其行, 不可以 不重其道; 重其道, 不可以不循其禮。古之人, 相接有等, 輕重有 儀,列於經傳,皆可詳引。如師之於門人則名之,於朋友則字而不 名,稱之於師則雖朋友亦名之。子曰:"吾與回言[30]。"又曰:"參 乎,吾道一以貫之[31]。"又曰:"若由也,不得其死然[32]。"是師之 名門人驗[33]也。夫子於鄭,兄事子產;於齊,兄事晏平仲。傳曰: "子謂子產有君子之道四焉[34]。"又曰:"晏平仲善與人交[35]。"子 夏曰:"言游過矣[36]。"子張曰:"子夏云何[37]?"曾子曰:"堂堂乎 張也[38]。"是朋友字而不名驗也。子貢曰:"賜也何敢望回[39]?" 又曰: "師與商也孰賢[40]?" 子游曰: "有澹臺滅明者, 行不由 徑[41]。"是稱於師雖朋友亦名驗也。孟子曰:"天下之達尊三,曰 德、爵、年,惡得有其一以慢其二哉[42]?"足下之書曰:"韋君詞、 楊君潛。"足下之德,與二君未知先後也。而足下齒幼[43]而位卑, 而皆名之。傳曰: "吾見其與先生並行,非求益者,欲速成也[44]。" 竊懼足下不思,乃陷於此。韋踐之與劉書,亟敍足下之善,故敢 盡辭以復足下之厚意,計必不以爲犯。 關頓首。

汲古閣本《李文公集》卷六

### 【註釋】

- [1]朱載言——題下註:"一本作梁載言。"《唐文粹》作進士王載言。按:朱載言,曾 官大理司直、殿中侍御史、循州刺史。梁載言是武則天時人,與李朝不同時。 《文粹》作王亦誤。《容齊隨筆》卷七、《全唐文》卷六三五都作朱。
- [2]李翱----見本册《答李翊書》註[1]。
- [3]相人之術——相人的意義相當於觀察人。
- [ 5 ] 氣直——即理直氣壯的意思。

- [6]草木之榮——即草木之花。
- [7] 其關於時者四句——如裴度《寄李朝書》中說:"觀弟近日制作,大旨常以時世之文,多偶對隱句,屬緩風雲,釋東聲韻,爲文之病甚矣。""故文之異,在氣格之高下,思致之淺深,不在其碟裂章句,隳廢聲韻也。"
- [8] 其愛雖者四句——如韓愈《答劉正夫書》中說:"又問曰:文宜易宜雖?必謹對 曰:無雖易,惟其是爾。"
- [9]劇楽美新----見本書第一册顏之推《顏氏家訓·文章篇》註[9]。
- [10] 王褒僮約----見本書第一册顏之推《顏氏家訓·文章篇》註[8]。
- [11] 劉氏人物志---《人物志》,三國時魏人劉劭(或作邵)所作,今存。
- [12]太公家教——唐代村塾中課蒙之書,用韻語寫,久佚。近代於敦煌遺書中發現 其殘卷。
- [13] 憂心悄悄慍於墓小——二句見《詩・邶風・柏舟》。《正義》: "言仁人憂心悄悄然而怨此墓小人在於君伽者也。"慍,怒。
- [14] 遵假託多受侮不少——二句見《詩·邶風·柏舟》。《正義》: "又小人見困病於我既多,又我受小人侵侮不少。"遵,遇。憫,原作閔,病、痛。
- [15] 朕整讒說珍行陰鶯朕師——二句見《書·堯典》。壁,疾恨。珍,絕。師,衆。
- [16] **始彼柔桑四句——見《詩・大雅・桑柔》。 遊, 茂盛貎。 侯, 語辭。 旬, 均。 《毛傳》: "言陰均也。"劉, 殘。 瘼, 病。 後二句意思是說, 桑葉被宋以後, 苦了在下面乘涼的人。**
- [17] 允恭克護三句——見本册《史通·敘事》註[7]。
- [18] 十畝之間兮三句——見《詩·魏風·十畝之間》。旋,也作還。《正義》: "魏地陋 隘,一夫不能百畝,今禮在十畝之間, 采桑者閑閑然或男或女共在其間往來無 別也。又敘其往來之辭,乃相謂曰:行與子俱迴還兮。雖則異家,得往來俱行, 是其割小之甚也。"按: 遭是採桑者勞動將畢時呼伴同歸之辭。
- [19] 騎冠---《漢書·茲文志》道家著錄《鹖冠子》一篇,註:"楚人,居深山,以鹖爲冠。"
- [20] 田穰苴——春秋時齊將。《史記·司馬穰苴列傳》:"齊威王使大夫追論古者司馬兵法,而附穰苴於其中,因號曰《司馬穰苴兵法》。"
- [21] **官之無文二句——見本書第一册《文心雕龍・情**乐》註[33]。
- [22] 文獨質也四句----見《論語·顏淵》。 轉,皮。
- [23] 怵他人之我先——陸機《文賦》句。
- [24] 唯陳言之務去——韓愈《答李翊書》句。
- [25] 莞爾----- 《論語·路貨》: "夫子莞爾而笑。"何晏《集解»: "莞爾, 小笑貌。"

- [26] 啞啞---《易·陰》: "笑言啞啞。"孔穎達《正義》: "啞啞, 笑語之聲也。"
- [27] 粲然——《穀梁傳》昭公四年:"軍人粲然皆笑。"范寧《集解》:"粲然,盛笑貌。"
- [28] **攸爾——班**固《答賓戲》:"主人迪爾而笑。"李善註:"項岱曰:道,寬舒顏色之貌 也,讀若攸。"
- [29] 驅然——左思《吳都賦》:"東吳王孫聽然而哈。"李周翰註:"聽,大笑也。"
- [30] 吾與回言——語見《論語·爲政》。回,顏回,字子淵,孔子學生。
- [31] 參乎吾道一以貫之——語見《論語·里仁》。參,曾參,字子輿,孔子學生。一以貫之,用一個根本的東西貫徹始終。
- [32] 若由也不得其死然——語見《論語・先進》。由,仲由,字子路,一字季路,孔子 學生。不得其死然,只怕不得好死吧!
- [33] 驗——證。
- [34] 子謂子產有君子之道四焉---語見《論語·公冶長》。子產,鄭大夫,姓公孫, 名儒。
- [85] 晏平仲善與人交---語見《論語·公冶長》。晏平仲,齊大夫,名嬰。
- [36] 子夏曰言游過矣——語見《論語・子張》。子夏,姓ト,名商。言游,名偃,字子游。二人都是孔子學生。過矣,錯了。
- [37] 于張曰子夏云何——語見《論語·子張》。子張,姓顓孫,名師,孔子學生。
- [38] 堂堂乎張也——語見《論語·子張》。堂堂,高大的樣子。
- [39]子貢曰賜也何敢望回---語見《論語·公冶長》。子貢,姓端木,名賜,孔子學生。
- [40] 師與商也孰賢——語見《論語·先進》。師,子張名。商,卜商。
- [41]有滯臺滅明者行不由徑——語見《論語·雅也》。澹臺滅明,字子羽,孔子學生。徑,小路,引申爲邪路。
- [42] 天下之達尊三三句——語出《孟子·公孫丑下》。原文作"天下有達尊三: 舒一, 做一, 德一。……惡得有其一以慢其二哉?"達尊, 公認爲尊貴的東西。做, 年龄。有其一, 指爵位。慢其二, 指輕視齒與德。
- [43] 磁幼——見上條註。
- [44] 吾見其與先生並行三句——語見《論語·憲問》。是觀黨童子來見孔子時,孔子所說對他的看法。意謂吾看見他與長輩並肩而行,他不是要求上進的人,是想急於求成的人。

### 【説明】

李翙是韓愈大弟子。韓愈論文,在內容方面主張明道。在

表現形式上,一方面主張要有創造性,務去陳言,詞必已出,以"鈎章棘句"(《貞曜先生墓誌銘》語,雖是論孟詩,實可通於論文)、"怪怪奇奇"(《送窮文》)為極致;一方面又主張以"文從字順"(《南陽樊紹述墓誌銘》)、"章妥句適"(皇甫湜《韓文公墓誌銘》)稱道韓文語,當是得之於師門緒論)為指歸。在韓愈的全部創作中,也同時存在這兩種不同的傾向。韓門二大弟子李翺與皇甫湜,分別繼承了韓愈的衣鉢。皇甫湜論文與創作,偏於矜奇;而李翺論文,強調文以明道與語言平易。

《答朱載言書》是李翺論文的代表作。文中着重闡述的是創意與造言二事。總的提出了"創意造言,皆不相師"的主張,這與韓愈所說的"陳言務去"和在《南陽樊紹述墓誌銘》中所批判的"後皆指前公相襲,自漢迄今用一律"的精神是完全相通的,較之韓愈在《答劉正夫書》中所說"師其意,不師其辭"的說法有了發展。在創意方面,他具體指出了作家創意的共同標準是義深意遠,至於義意,則各家應有不同的創見而不應相襲。在造言方面,他批判了六種偏見,指出了文章之所主在於"詞工",而達到"詞工"的途徑則在於革新。最後,作者又着重指出了文行一致、文道一致的重要,這跟韓愈《答李翊書》所論,基本上是相同的。宋初王禹偁在《答張扶書》《再答張扶書》中,又繼續發揮了這些論旨,對宋代的古文運動再度掀起有促進作用。

然而李翺的論道,又對宋儒理學很有影響。他的《寄從弟正 辭書》表現了重道輕文的傾向,所謂"性於仁義者未見其無文 也",正是上承孔子"有德者必有言"之意,下啓宋代理學家"道至 則文自工"之說。宋儒譏韓愈爲"倒學",實則李翺這裏已逗露 此意了。

### 附 錄

### 寄從弟正辭書

### 〔唐〕李 鄒

知爾京兆府取解,不得如其所懷,念勿在意。凡人之窮達所遇,亦各有時爾,何獨至於賢丈夫而反無其時哉?此非吾徒之所憂也。其所憂者何? 畏吾之道未能到於古之人爾。其心旣自以爲到,且無謬,則吾何往而不得所樂?何必與夫時俗之人,同得失憂喜而動於心乎? 借如用汝之所知,分爲十焉,用其九學聖人之道而知其心,使有餘以與時世進退俯仰。如可求也,則不啻富且貴矣;如非吾力也,雖盡用其十,祗益勞其心矣,安能有所得乎?

汝勿信人號文章為一藝! 夫所謂一藝者, 乃時世所好之文, 或有盛名於近代者是也。其能到古人者, 則仁義之辭也, 惡得以一藝而名之哉? 仲尼、孟軻殁千餘年矣, 吾不及見其人, 吾能知其聖且賢者, 以吾讀其辭而得之者也。後來者不可期, 安知其讀吾辭也, 而不知吾心之所存乎? 亦未可誣也。夫性於仁義者, 未見其無文也; 有文而能到者, 吾未見其不力於仁義也。由仁義而後文者性也, 由文而後仁義者習也, 猃誠明之必相依爾。貴與富在乎外者也, 吾不能知其有無也, 非吾求而能至者也, 吾何愛而屑屑於其間哉? 仁義與文章生乎內者也, 吾知其有也, 吾能求而充之者也, 吾何懼而不爲哉?

汝雖性過於人,然而未能浩浩其心,吾故書其所懷以張汝,且以樂言吾道云耳。

汲古閣本《李文公集》卷八

醉 說

### [唐] 權德輿

予既醉,客有問文者,潰筆以應之云:管聞於師曰,尙氣、尙理、有簡、有·170·

通。能者得之以是(原作四,據《全唐文》核改),不能者失之亦以是。四者皆得之於全,然則得之矣。失於全,則鼓氣者類於怒矣,言理者傷於懦矣,或狺狺而呀口,站站以墮水;好簡者則瑣碎以譎怪,或如讖緯;好通者則寬疎以浩蕩,龐亂憔悴;豈無一曲之效,固致遠之必泥。苟未能朱絃大靈之遺音遺味,則當鍾磬在懸,牢醴列位;何遽翫丸索而躭粔餌,况顚命而傷氣。六經之後,班、馬得其門。其或怒如中郎,放如漆園,或適拔而峻深,或坦夷而直溫。固當漠然而神,全然而天,混成四時,寒暑位焉,穆如三朝,而文武森然。酌古始而陋凡今,備文質之彬彬。善用常而爲雅,善用故而爲新。雖數字之不爲約,雖彌卷而不爲繁。貫通之以經術,彌縫之以淵元。其天機與懸解,若圬鼻而斲輪。豈止文也,以宏諸立身。不如是,則非吾黨也,又何足以辨云?

◆四部幾刊»影大興朱氏刊本《權載之文集》卷三十

## 答李生第一書

### 〔唐〕皇甫湜[1]

辱書,適曛黑,使者立復,不果一二。承來意之厚,傳曰:"言及而不言,失人<sup>[2]</sup>。"粗書其愚,爲足下答,幸察。

來書所謂今之工文,或先於奇怪者。顧其文工與否耳。夫意新則異於常,異於常則怪矣;詞高則出於衆,出於衆則奇矣。虎豹之文不得不炳於犬羊,鸞鳳之音不得不鏘於烏鵲,金玉之光不得不炫於瓦石,非有意先之也,迺自然也。必崔嵬然後爲岳,必滔天然後爲海。明堂之棟,必撓雲霓;驪龍之珠,必錮(《四部叢刊》本作固)深泉[3]。足下以少年氣盛,故(《四部叢刊》本作固)當以出拔[4]爲意。學文之初,且未自盡其才,何遽稱力不能哉?圖王不成,其弊猶可以霸[5];其僅自見也,將不勝弊矣!孔子譏其身不能者[6],幸勉而思進之也。

來書所謂浮豔聲病之文恥不爲者,雖誠可恥,但慮足下方今不爾,且不能自信其言也。何者?足下舉進士,舉進士者有司高 張科格,每歲聚者試之,其所取乃足下所不爲者也。工欲善其事,必先利其器<sup>[7]</sup>,足下方伐柯而捨其斧<sup>[8]</sup>,可乎哉?恥之,不當求也;求而恥之惑也。今吾子求之矣,是徒涉而恥濡足也,寧能自信其言哉?

來書所謂汲汲於立法寧人[8]者, 迺在位者之事, 聖人得勢所施爲也, 非詩賦之任也。功旣成, 澤旣流, 詠歌紀述, 光揚之作作焉。聖人不得勢, 方以文詞行於後。今吾子始學未仕而急其事, 亦太早計矣。

凡來書所謂數者,似言之未稱,思之或過;其餘則皆善矣。旣 承嘉惠,敢自疎怠,聊復所爲,俟見方盡。 湜再拜。

汲古閣本《皇甫持正集》卷第四

### 【註釋】

- [1] 皇甫湜(約公元七七七年——約八三〇年)——字持正,随州新安人。元和進士,爲陸渾尉,官至工部郎中。有《皇甫持正集》六卷。《新唐書》卷一百七十七有傳,附韓愈傳後。
- [2]傳日言及而不言失人——傳,指《論語》。 選句意為: 人家已經說到了而你還是不說,便失掉了朋友。《論語·衡靈公》: "子曰: 可與言而不與之言,失人;不可與言而與之言,失言。知者不失人,亦不失言。"又《論語·季氏》: "孔子曰: 侍於君子有三愆: 言未及之而言,謂之躁; 言及之而不言,謂之隱; 未見顏色而言,謂之瞽。"本文係混合使用。
- [3] 臟龍之珠二句——《莊子·列黎寇》: "夫千金之珠,必在九重之淵,而臟龍領下。"而,與。臟(音離)龍,黑龍。領,音憾,下巴。
- [4]出拔——《孟子·公孫丑上》:"出於其類,拔乎其萃。"出拔,就是出類拔萃,超 越一般的水平。
- [ 5] 圖王不成二句——《論衡·氣壽篇》: "語曰: '圖王不成,其弊可以霸。'"
- [6] 孔子觀其身不能者——《論語·述而》:"冉求曰:非不說子之道,力不足也。于曰:力不足者,中道而廢,今女壹。"《孟子·公孫丑上》载孟子語:"有是四端(仁、養、禮、智)而自謂不能者,自賊者也,謂其君不能者,賊其君者也。"又《孟子·梁惠王上》:"故王之不王,不爲也,非不能也。"此引孔子,疑是用《論語》之意而彙用《孟子》之語。
- [7] 工欲善其事必先利其器——孔子語,見《論語·鑑靈公》。
- [8] 伐柯而拾其斧——《詩·圖風·伐柯》:"伐柯如何? 匪斧不克。"柯,斧柄。伐柯,伐木爲斧柄。克,能。本文說不可"伐柯而拾其斧",喻李生既要舉進士,就不能反對作爲舉進士工具的"浮豔聲韻之文"。
- [9] 事人——安定人民的生活。

### 【說明】

韓愈論詩文,有矜奇尚異的一面,如在《貞曜先生墓誌銘》中

說: "劇目就心,刃迎樓解,鈎章棘句,招擢胃腎,神施鬼設,間見層出。" 在《荆潭唱和詩序》中說: "搜奇抉怪,雕鏤文字。" 《調張籍》詩說: "百怪入我腸,刺手拔鯨牙,舉瓢酌天漿。" 《醉贈張祕書》詩說: "險語破鬼膽,高詞媲皇墳。" 《送窮文》說: "不專一能,怪怪奇奇。" 因此,他對奇澀難懂的樊宗師的文章,備加費揚;而他自己的作品中,也有《曹成王碑》 《陸渾山火和皇甫湜用其韻》等篇,專以奇辟驚人爲能事。在韓門弟子中,李翺、張籍、李漢諸人,走的都不是這一路。而皇甫湜則主要在這方面下工夫。他對韓文的理解,固然指出了它的"抉經之心,執聖之權"的道的內容,但着眼處却偏於"豪曲快字,淩紙怪發,鯨鏗春麗,驚耀天下","精能之致,入神出天"(都是《韓文公墓誌銘》語)這方面。《答李生第一書》更進一步闡發了他的尚奇論。

本文的主要論點是: "意新則異於常,異於常則怪矣; 詞高則 出於衆,出於衆則奇矣。"奇的先決條件,在於有新的意。他舉虎 豹之文、鸞鳳之音、金玉之光爲論證, 認爲都是積於中而發於外, 不是有意爲奇而是出於自然,不知其然而然的。他對奇的重視, 也正如韓愈《答劉正夫書》所說: "足下家中百物,皆賴而用也,然 其所珍愛者必非常物。夫君子之於文,豈異於是乎?"然而意新詞 高,不一定就要怪怪奇奇,作者單純強調了奇的一面,甚至在自 己的創作實踐上離開意新而沉溺於詞奇,這就不能不導致重形 式而輕內容的不良影響。

權承皇甫湜尚奇的傳統者,有來無擇,來無擇之後有孫樵。 孫樵在《與王霖秀才書》中敍述了這一傳統,並對皇甫湜的尚奇 論有所闡述與補充,他主張"趨怪走奇,中病歸正"(《與王霖秀才 書》語),不偏於奇與正一面。

### 附 錄

### 答李生第二書

### [唐] 皇甫湜

湜白:

生之書辭甚多,志氣甚橫流,論說文章,不可謂無意。若僕愚且困,迺生詞競於此,固非宜。雖然,惡言無從,不可不卒,勿怪。

夫謂之奇,則非正矣,然亦無傷於正也。謂之奇,卽非常矣。非常者,謂不如常者;謂不如常,迺出常也。無傷於正而出於常,雖尚之亦可也。此統論奇之體耳,未以文言之失也。

夫文者非他, 言之華者也, 其用在通理而已, 固不務(原作負,據《四部 叢刊》本校改)奇, 然亦無傷於奇也。使文奇而理正, 是尤難也。生意便共 易者乎? 夫言亦可以通理矣, 而以文爲貴者非他, 文則遠, 無文即不遠也。以非常之文, 通至正之理, 是所以不朽也。生何嫉之深邪? 夫繪事後素, 旣 謂之文, 豈苟簡而已哉? 聖人之文, 其難及也, 作《春秋》, 游、夏之徒不能措一辭, 吾何敢擬議之哉? 秦、漢以來至今, 文學之盛莫如屈原、宋玉、李斯、司馬遷、相如、揚雄之徒, 其文皆奇, 其傳皆遠。生書文亦善矣, 比之數子, 似猶未勝, 何必心之高乎? 傳曰: "言之不出, 恥躬之不逮也。"生自視何如 哉(原作耳,據《四部叢刊》本校正)? 《書》之文不奇, 《易》之文可爲奇矣, 豈 避理傷聖乎? 如"龍戰於野, 其血玄黃"; "見豕負釜, 載鬼一事"; "突如其來如, 焚如, 死如, 棄如", 此何等語也!

生輕宋玉而稱仲尼、班、馬、相如爲文學。按司馬遷傳屈原曰:"雖與日月爭光可矣。"生當見之乎?若相如之徒,即祖(原作粗,據《四部叢刊》本校正)習不暇者也。豈生稱誤邪?將識分有所至極邪?將彼之所立卓爾,非強爲所庶幾,遂讎嫉之邪?其何傷於日月乎!生笑"紫貝闕兮珠官",此與詩之"金玉其相"何異?天下人有金玉爲之質者乎?"披薜荔兮帶女蘿",此與"贈之以芍藥"何異?文章不當如此說也。豈謂怒三四而喜四三,識出之白

而〔怪〕(原作"性",當是"怪"字形近而誤)入之黑乎?生云"虎豹之文非奇"。夫長本非長,短形之則長矣,虎豹之形於犬羊,故不得不奇也。他皆做此。生云"自然者非性"。不知天下何物非自然乎?生又云"物與文學不相侔"。此喻也。凡喻必以非類,豈可以彈喻彈乎?是不根者也。生稱以"知難而退爲謙"。夫無難而退,謙也,知難而退,宜也,非謙也;豈可見黃門而稱貞哉?生以一詩一賦爲非文章。抑不知一之少便非文章邪?直詩賦不是文章邪?如詩賦非文章,《三百篇》可燒矣;如少非文章,湯之《盤銘》,是何物也?孔子曰:"先行其言。"旣爲甲賦矣,不得稱不作聲病文也。孔子云:"必也正名乎。"生旣不以一第爲事,不當以進士冠姓名也。夫煥乎郁郁乎之文,謂制度,非止文詞也。前者捧卷軸而來,又以浮豔聲病爲說,似商量文詞,當與制度之文,異日言也。

近風教偷薄,進士尤甚,迺至有一謙三十年之說,爭為虛張,以相高自 謾。詩未有劉長卿一句,已呼阮籍為老兵矣;筆語未有駱賓王一字,已贈宋 玉爲罪人矣;曹字未識偏傍,高談稷、契;讀書未知句度,下視服、鄭。此時 之大病,所當疾者。生美才,勿似之也。傳曰:"惟善人能受善言。"孔子曰: "君子無所爭,必也射乎。"問於湜者多矣,以生之有心也,聊有復,不能盡, 不宜。湜再拜。

汲古閣本《皇甫持正集》卷四

### 答李生第三書

### 〔唐〕皇甫湜

湜白:

時論所以難,在論其本而善守之,使千流萬轉不遷於末,則蕩而失,共 憤眊無睹,囂囂相訾,何以得哉?

始與生言奇,不言正也,故論止於奇。生以正抑其奇,然及(《全唐文》 作後) 多正流焉。譬與生說先牛馬以說駱駝,而非云也。

生以無傷於正,猶《易》之凡言"無咎",本皆"有咎"。此未了也。《易》之"無咎"不一:本有咎(原無咎字,據《四部叢刊》本校增),由愼故免。亦曰

咎自己招,不可咎人。亦曰義(《四部義刊》本作丼)生。以"凡"目之,當是 讀書未熟,自僕云無傷也。

生言非常之物,如何得常。故當爾也,所以千年聖而愚比肩也。生言 天象形象非常者皆爲妖妄。如天出景星,地出醴泉,蓋非常,謂之妖可乎? 假如妖星熒惑天所常縣,牛溲馬勃地所常有,是常乎?生何窒?

生以松柏不豔比文章,此不知類也。凡比必於其倫。松柏可比節操,不可比文章。大人虎變,君子約變,此文章比也。有以質爲貴者,有以文爲(原無爲字,據《四部叢刊》本增)貴者,引茅屋越席,易黼藻玄黃之用,可乎?

生云奇與易,作者何別,在所為爾。請考之於實。生爲易矣,試爲僕作難 (原此下多"作難作"三字,據《四部叢刊》本刪)者,視何如相如、揚雄也?恐 乃不能,非不爲也。〈楚詞〉〈史記〉〈太玄〉之不朽也,豈爲資笑謔乎哉?如 鳥雀啁啾,擊斷便已,人如不聞爾,何足貴也。所言《詩》〈書〉之文不奇,舉 多言之也,易處多,奇處少爾。〈易〉文大抵奇也,易處幾稀矣。孟子常引 〈詩〉云: "周餘黎民, 雕有孑遺。"豈周遂不遺一民哉? 僕之言猶是也(原無 也字,據《四部叢刊》本增)。

生云知難而退爲謙。是知不可取然後止,非可取而不取者。菽麥異生,而師惑之,何哉?生之師,且惑菽麥,生卷中文能囊包天地耶?此不遜悌之言,吾不信也。《詩》献臣之譏君曰:"嗚呼小子,未知臧否,匪面命之,言提其耳。"此過於以時奉譏也。詩人尙不聞得(原無得字,據《四部叢刊》本增)罪,生何諱之深乎?

《易》曰: "匪我求童蒙,童蒙求我。"生捧書相干,宜有答也;又再三演, 演則不告也。韓退之《復張籍書》曰: "頑然不入者,親以言識之不入,則其 觀吾書之固將無所得矣。"生勗之而已。

汲古閣本《皇甫持正集》卷四

### 與王霖秀才書

〔唐〕孫 樵

太原君足下:

《雷賦》逾六千(原作千六,據《全唐文》校乙)言,推之大《易》,參之玄

象,其旨甚微,其辭甚奇,如觀駭濤於重漠,徒知褫魄眙目,莫得畔岸,誠謂足下怪於文,方舉降旗,將大誇朋從間,且疑子雲復生。無何,足下繼以《翼旨》及《雜題》十七篇,則與《雷賦》相闊數百里。足下未到其壺,則非樵所敢與知;旣入其城,設不如意,亦宜上下銖兩,不當如此懸隔。不知足下以此見嘗耶?抑以背時戾衆,且欲鏞粕啜醨,以苟其合耶?(原作以其苟合耶,據《全唐文》校改)何自待則谗,而徇人反深?

豐鳳之晉必傾聽,雷霆之聲必駁心。龍章虎皮,是何等物?日月五星,是何等象?儲思必深,摛辭必高,道人之所不道,到人之所不到,趣怪走奇,中病歸正。以之明道,則顯而微;以之揚名,則久而傳。前輩作者正如是。譬玉川子《月蝕詩》,楊司城《華山賦》,韓吏部《進學解》,馮常侍《淸河壁配》,莫不拔地倚天,句句欲活。讀之如赤手捕長蛇,不施控騎生馬,急不得暇,莫可(原作不,據《四部叢刊》本校改)捉搦。又似遠人入太興城, 茫然自失, 距比十家縣, 足未及東郭, 目已極西郭耶!

機管得為文眞訣於來無擇,來無擇得之於皇甫持正,皇甫持正得之於 韓吏部退之。然樵未始與人冒及文章,且懼得罪於時。今足下有意於此, 而自疑尙多,其可無言乎? 樵再拜。

汲古閣本《孫可之集》卷二

### 與友人論文書

### 〔唐〕孫 樵

當與足下評古今文章,似好惡不相闊者,然不有所竟。顧樵何所得哉? 古今所謂文者,辭必高然後爲奇,意必深然後爲工,煥然如日月之經天也,炳然如虎豹之異犬羊也。是故以之明道,則顯而微;以之揚名,則久而傳。

今天下以文進取者,歲養試於有司,不下八百輩,人人矜執,自大所得。 故其習於易者,則斥澀艱之辭;攻於難者,則鄙平淡之言。至有破句讚以爲 工,摘俚語以爲奇。秦、漢已降,古文所稱工而奇者,莫若揚、馬。然吾觀其 書,乃與今之作者異耳。豈二于所工,不及今之人乎? 此樵所以惑也。 當元和、長慶之間,達官以文馳名者,接武於朝,皆開設戶牖,主張後進,以磨定文章,故天下之文,薫然歸正。 洎李御史甘以樂進後士,飄然南遷, 由是達官皆闔關鮓舌,不敢上下後進, 宜其爲文者, 得以盛任其意, 無所取質。此誠可悲也!

足下才力雄健,意語鏗耀,至於發論,尚往往為時俗所拘,豈所謂"以黃金注者昏"耶?顧頑樸無所知曉,然嘗得為文之道於來公無擇,來公無擇得之皇甫公持正,皇甫持正得之韓先生退之。其所聞者如前所述,豈樵所能臆說乎?

汲古閣本《孫可之集》卷二

### 皇甫持正文集書後(節錄)

〔淸〕章學誠

提與李鄭,俱稱韓門高第。世稱學於韓者, 鄭得其正, 湜得其奇。今觀 其文,句鑱字削,筆力生健,如挽危弓,臂盡力竭,而強不可制。於中唐人文, 亦可謂能自拔擢者矣。第細按之, 虞氣不足, 於學蓋無所得。襲於形貌以 為瑰奇, 不冤外強中乾, 不及李鄭氏文遠矣。按二人文雖俱學韓, 李能自 立, 不屑屑隨韓步趨。雖才力稍遜, 而學識足以達之。故能神明韓法, 自 關戶庭。皇甫則震於韓氏之奇, 而不復求其所以致奇之理。藉口相如、揚 雄, 不知古人初非有意爲奇。而韓氏所得, 尤爲平實, 不可襲外貌而目 爲奇也。

中唐文字,競爲奇碎。韓公目擊其弊,力挽頹風。其所撰著,一出之於布帛菽粟,務碑實用;不爲矯飾雕鏤,徒侈美觀。惟其才雄學富,有時溢爲奇怪,而矯時勵俗,務去陳言。學者不察,輒妄詡爲奇耳。湜於韓門,所得最爲粗淺,而又漸染中唐奇碎之病,宜其有是累也。

史稱提"性卞急使酒"。裴度修福先寺,將求白居易撰碑。湜大怒曰: "何近舍湜而遠徽居易?"度爲謝過,卽請斗酒,援筆立成。度贈給甚厚,又 大怒曰:"吾自爲《顧況集序》,未嘗許人,今碑字三千,一字三鎌,何遇我薄 耶?"度如數與之。今碑文不見集中,而《顧況集序》不過中唐雕琢常調,未 見聲價當高出也。集中《答李生》三書,喜爭好勝,文結氣躁,殊少理解,始 終癖在一奇,而究亦不能奇也。李生不知何人,觀書中所舉問難之辭,雖似 主張不定,然非無所見者。是不虛心商榷,而矯折強辯,史稱"卞急使酒", 此亦其明徵也。

如李生初問,以謂"今之工文,或先於奇怪"。則當對以水之波瀾,山之 嚴峭,所積深厚,發於外者,不知其然而然,乃可使後生者知文章之本於所 積。是亦韓氏仁義之途,詩書之源之旨也。今乃答以"虎豹之文,不得不炳 於犬羊;鸞鳳之音,不得不鏘於烏鵲",是欲使人不揣其本,但襲炳與鏘者, 而冀至乎鸞鳳虎豹,則固不知鸒鳳虎豹之質矣。

李生再問,有薄屈、宋之意,而謂"一詩一賦非文章";又厭薄於浮豔聲病之文,而有志於古。則當告以場屋之業,所以爲出疆之贄,不可遂廢;屈、宋詞賦,乃六義之遺,不可因聲韻而鄙之同於場屋文字也。若其有之於中,而發之於外,則場屋文詞亦未嘗不可見其端倪。則後進之士,可以曉然於志古趨時雖各有道,其實兩不相妨,但問中之有得否耳。今乃摘其一詩一賦之言,以謂"詩賦非文章耶?《三百篇》可燒矣"。一之"少非文章,《盤銘》是何物耶"?則是不察李生言意而狡獪於口舌之勝氣,豈先達之開示後學哉?必以當時應試詩賦,如昌黎所稱"顏忸怩而心不寧"者,等於陽銘與《三百篇》,雖三尺童子,猶知其不可也。無實之辨,盈篇累軸,豈有窮乎?

及李生三書,摘提之言奇而"無傷於正",以謂如"《易》之凡言'無咎',本皆'有咎'",可見無傷本有傷也。此緣是之論奇,不本於內而從外襲,故止可云"無傷於正"。李生從而駁之,是已。授人以隙,無可辨矣。是猶不得於言,弗求諸心而抗無理之辨,以謂"《易》之無咎不一,有咎由愼故免"。又有"咎自己招,不可咎人,生今以凡目之,當是讀書未熟"。此與詰問之旨若風馬牛,遁辭之窺,亦可見矣。若就其言而論,則《易繫》三百八十四爻,無咎皆爲一例,惟節之六三獨作無所歸咎之解,豈可以一而概衆乎?孔子大傳曰:"無咎者,善補過也。"豈不以凡目乎?倘使李生更據《大傳》明文實是讀書未熟,是又何辭以自解乎?

李生又"以松柏不豔比文章"。此言可與入道矣。蓋浮豔非文所貴,而有意為奇乃是僞體。松柏貞其本性,故拔出於羣木;惟其不爲浮豔與有意

之奇,故能凌霜雪而不凋。其鬱青不改者,所以爲眞豔也;不畏歲寒者,所以爲眞奇也。文能如是,兩漢以還不多觀也。李生以爲文章不豔不奇,故欲取以爲比,而不知果能如是,乃是眞豔眞奇,絕非凡葩衆卉所敢擬也。誠得是說引而進之,李生必有悟也。是也不足知此,而又不能反衷以思,乃強辨曰: "松柏可比節操,而不可比文章。"莊子曰: "道隱於小成,言隱於榮華",榮華非草木乎? 草木旣可比文章,而獨謂松柏不可比, 湜殆自處於蒲柳之質, 故見松柏而不免色懼也。且比事稱物, 理本相通。自古未聞有商論文學,稱引比喻,辨者不卽所喻,以通其義,而強曰: "某物不可喻某某物,僅可喻某。"去彼所喻,以就已喻,庶以救其窒塞不通之窮也。且人人皆曰: 爾之所喻,不如我喻。則誰能心愜,而輾轉狡飾,亦復何所底耶?

李生又曰: "《詩》《書》之文不奇。"此言離合參半,無庸深辨。而湜則曰: "平處多,奇處少,《易》文大抵奇也。"不知湜意將爲《易》文勝《詩》《書》耶? 抑謂《詩》《書》奇處之少,勝平處之多耶? 《易》比虎約鸞鳳而《詩》《書》不堪比耶? 《詩》《書》奇處少者可比虎約鸞鳳,而平處多者不堪比耶? 即湜之喻而窮湜之辨,則悖義害道不可以殫詰也。惜李生者名位卑微,且其所得,亦未能卓然自樹,故不及終抗其辨。向令兩持不下,取其平於韓子,韓子雖甚愛湜,恐有不得而終諱者焉。吾故辨而正之,以戒後之好奇而不衷於理者,使之有以自反。且俾爲先達者愼毋恃其通藉偶前,遽任偏性大言以欺後學;而後進之士,亦自愼寶其璞,毋輕投於浮誕淺躁更出皇甫以下之先達名流也。……

嘉業堂本《章氏遺書》卷八

## 答莊充書

[唐] 杜 牧[1]

某白, 莊先輩足下:

凡爲文以意爲主,以氣爲輔,以辭彩章句爲之兵衞。未有主 強盛而輔不飄逸者,兵衞不華赫而莊整者。四者高下圓折步驟 隨主所指,如鳥隨鳳,魚隨龍,師衆隨湯武<sup>[2]</sup>,騰天潛泉,橫裂天 下,無不如意。苟意不先立,止以文彩辭句繞前捧後,是言愈多 而理愈亂,如入闠闠<sup>[3]</sup>,紛紛然莫知其誰,暮散而已。是以意全 勝者,辭愈朴而文愈高;意不勝者,辭愈華而文愈鄙。是意能遣 辭,辭不能成意。大抵爲文之旨如此。

觀足下所爲文百餘篇,實先意氣而後辭句,慕古而尚仁義者。苟爲之不已,資以學問,則古作者不爲難到。今以某無可取,欲命以爲序,,承當厚意,惕息不安。復觀自古序其文者,皆後世宗師其人而爲之,《詩》《書》《春秋》《左氏》以降,百家之說,皆是也。古者其身不遇於世,寄志於言,求言遇於後世也。自兩漢已來,富貴者千百,自今觀之,聲勢光明,孰若馬遷、相如、賈誼、劉向、揚雄之徒。斯人也,豈求知於當世哉?故親見揚子雲著書,欲取覆醬瓿[4]。雄當其時,亦未嘗自有誇目。況今與足下並生今世,欲序足下未已之文,此固不可也。苟有志,古人不難到,勉之而已。某再拜。

《四部叢刊》影明刊本《樊川文集》卷十三

### 【註釋】

- [1] 杜牧(公元八〇三年——八五二年)——字牧之,京兆萬年(今陜西西安)人。太和二年進士。曾任司勵員外耶、考功耶中知制器、中書舍人等職。有《樊川文集》行世。《舊唐書》卷一百四十七、《新唐書》卷一百六十六有傳。
- [2] **湯武——商湯、周武王。相傳湯伐夏桀,武王伐殷紂,諸侯響應**,所向必克。 《易·草》: 《湯武革命,顧乎天而應乎人。"
- [3] 顧聞---關,市巷;聞,市內外門。顧閱,後人多習用爲市肆之稱。
- [4] 放親見揚子雲著書二句——揚雄著《太玄》,當時劉歆觀之而譏曰:"空自苦! 今學者有祿利,然尙不能明《易》,又如《玄》何? 吾恐後人用覆醬瓿也。"雄笑而不應。(專見《漢書》卷八十七《揚雄傳》)瓿,瓶、缶。

### 【說明】

唐代的古文運動,到中唐韓、柳時達到了高潮,此後,一方面 由于古文運動本身固有的缺點,一方面也由于韓門後繼者的不 善于學習,片面發揮了韓愈文章的某種偏向,日久弊多,招致時 人非議。杜牧於此有所不滿。再加以晚唐文壇,齊梁餘波仍有 影響,當時的實用文章,風行的仍然是追求艷麗的駢體。杜牧的 《答莊充書》就是針對這兩種不良傾向而發的。

韓門論文,首先強調道,並以"聖人"之道為主。這樣作文時已有先入之見,容易被傳統觀念束縛住手脚,在意境上難于創造。 杜牧則以"意"代替"道"。這樣的論調,較為通達。以已意為主,強 調思想內容的重要,比較容易發揮作者的創見。韓門弟子如李鄒 輩,亟亟于孔孟之道,因而時有空疏迂腐不合實際之弊;而杜牧論 文,則以為文章必須"鋪陳功業,稱校短長"(《上安州崔相公啓》), 從政治家的需要出發,把文章與當時的事功聯繫起來,這樣的 "意",就比較切合實際。不過杜牧也不是以"意"代"道",從他的 《讀韓杜集》看來,對韓愈是相當尊敬的。他對莊充爲文時能"慕 古而尚仁義"也是肯定的。這說明他的以"意"代"道",不過是一種 糾偏補弊之論。

而針對當時過分追求形式艷麗的文風,杜牧明確地指出: "凡爲文以意爲主,以氣爲輔,以辭彩章句爲之兵衞。"他運用形象的比喻,說明內容先于形式的關係。反之,"苟意不先立,止以文彩辭句繞前捧後,是言愈多而理愈亂。"無理之文,則"醉愈華而文愈鄙",並沒有眞正的藝術價值。這種主張,對當日文壇的不良傾向,確有一定的針砭作用。

還有,杜牧《獻詩啓》說: "某苦心為詩,本求高絕,不務奇麗,不涉習俗,不今不古,處於中間。"在《唐故平盧軍節度巡官隴西李府君墓誌銘》中,更以肯定的語氣引述了李勘嚴厲批評元白詩"纖艷不逞""淫言媒語"的論點,反映了杜牧在詩論方面也有自己獨特的見解。

## 附 錄

### 上知己文章啓(節錄)

### [唐] 杜 牧

……伏以元和功德,凡人盡當歌詠紀敍之,故作《燕將錄》;往年弔伐之道,未甚得所,故作《罪言》;自艱難來,始卒伍傭役輩多據兵為天子諸侯,故作《原十六衞》; 諸侯或持功不識古道,以至於反側叛亂,故作《與劉司徒曹》;處士之名,即古之巢由伊呂輩,近者往往自名之,故作《爰薛處士序》; 實曆大起宫室,廣聲色,故作《阿房宫赋》;有廬終南山下,曾有耕田著曹志,故作《望故園赋》。……

《四部叢刊》影明刊本《樊川文集》卷十六

### 獻 詩 啓(節錄)

### [唐] 杜 牧

某苦心爲詩,本求髙絕,不務奇麗,不涉習俗,不今不古,處於中間。……

《四部義刊》影明刊本《樊川文集》卷十六

### 唐故平盧軍節度巡官隴西李府君墓誌銘(節錄)

### [唐] 杜 牧

······君諱戡,字定臣。······所著文數百篇,外於仁義,一不關筆。嘗曰: 詩者可以歌,可以流於竹,鼓於絲,婦人小兒皆欲諷誦。國俗薄厚扇之於 詩,如風之疾速。嘗痛自元和以來,有元、白詩者,纖豔不逞,非莊士雅人, 多爲其所破壞,流於民間,疏於屏壁,子父女母,交口教授。淫言媒語,冬寒 夏熱,入人肌骨,不可除去。吾無位,不得用法以治之。欲使後代知有發憤 者,因集國朝以來類於古詩得若干首,編爲三卷,目爲《唐詩》,爲序以導其 志。·····

《四部叢刊》影明刊本《樊川文集》卷九

### 李賀集序

### [唐] 杜 牧

大和五年十月中, 华夜時, 舍外有疾呼傳緘書者, 某曰, 必有異, 亟取火來。及發之, 果集賢學士沈公子明書一通。曰: "吾亡友李賀, 元和中義愛甚厚, 日夕相與起居飲食。賀且死, 嘗授我平生所著歌詩, 離(原作雜, 據《四部叢刊》影金本《李賀歌詩編》序文校改) 為四編, 凡千(《唐文粹》作若干)

首。數年來,東西南北,良爲已失去。今夕醉解,不復得寐,即閱理篋帙,忽得賀詩前所授我者。思理往事,凡與賀話言嬉遊,一處所,一物候,一日夕,一觴一飯,顯顯焉無有忘棄者,不覺出涕。賀復無家室子弟,得以給養卹問,常恨想其人、詠其言止矣。子厚於我,與我爲賀集序,盡道其所來由,亦少解我意。"某其夕不果以書道不可,明日就公謝,且曰:世爲賀才絕出前讓。居數日,某深惟公曰:公於詩爲深妙奇博,且復盡知賀之得失短長,今實(原作寶,據《唐文粹》校改)敍賀不讓,必不能當君意,如何?復就謝,極道所不敢敍賀。公曰:子固若是,是當慢我。某因不敢辭,勉爲賀敍,然其(恐係"某"字之誤)甚慙。

皇賭孫賀,字長吉,元和中,韓吏部亦頗道其歌詩。雲煙綿聯,不足為 其態也;水之迢迢,不足爲其情也;春之盎盎,不足爲其和也;秋之明潔,不 足爲其格也;風檣陣馬,不足爲其勇也;瓦棺篆鼎,不足爲其古也;時花美 女,不足爲其色也;荒國侈殿,梗葬丘壠,不足爲其恨怨悲愁也;鯨味鼈擲, 牛鬼蛇神,不足爲其虛荒誕幻也。蓋騷之苗裔,理雖不及,辭或過之。騷有 感怨刺懟,言及君臣理亂,時有以激發人意。乃賀所爲,無得有是。賀能探 轉前事,所以深嘆恨今古未嘗經道者,如《金銅仙人辭漢歌》《補梁庾肩吾宫 體謠》,求取情狀離絕,遠去筆墨畦逕間,亦殊不能知之。

賀生二十七年死矣。世皆曰:使賀且未死,少加以理,奴僕命騷可也。 賀死後凡十五(原作"某",據《唐文粹》校改)年,京兆杜某爲其序。

《四部叢刊》影明刊本《樊川文集》卷十

# 上崔華州書[1][節錄]

### [唐] 李商隱[2]

中丞[3]閣下:

愚生二十五年矣。五年誦經書,七年弄筆硯。始聞長(《四部叢刊》本作故)老言:"學道必求古,爲文必有師法",常悒悒不快,退自思曰:夫所謂道,豈古所謂周公、孔子者獨能邪?蓋愚與周孔俱身之耳[4]。以是有行道不繫今古,直揮筆爲文,不愛攘取經史,諱忌時世。百經萬書,異品殊流,又豈能意分出其下哉[5]]……

德聚堂重校本《樊南文集詳註》卷八

#### 【註釋】

- [1] 崔華州——崔龜從,字玄告,清河人。元和十二年進士。《舊唐書》卷一百七十六、《新唐書》卷一百六十有傳。據《舊唐書·文宗紀》,開成元年十二月,以中書舍人崔龜從為華州防禦使。李商隱於開成二年登進士第。詳審文意,知此文當作於開成二年初未中進士之時。
- [2]李商隱(約公元八一三年——八五八年)——字義山,號玉谿生,又稱樊南生, 懷州河內人,開成二年進士。一生仕途坎坷,長期爲幕僚,南北東西,四處奔 波。有詩文集行世。《舊唐書》卷一百九十《文苑傳》、《新唐書》卷二百零三《文 藝傳》有傳。
- [3] 中丞——崔龜從以中書舍入出為華州防禦使,例兼御史中丞衡,故作者稱之為中丞。
- [4] 整愚句——意謂我和周公孔子都是一樣的,能够加以體會運用。
- [5]百經萬書三句——這裏的"經",並非專指儒家經典,而是包括佛、道諸家之書 在內。如《老子》被後人尊爲《道德經》。三句意謂諸子百家之書、三教九流之 說,各有見解和價值,不能主觀認定其它的書都居於儒家經典之下。

#### 【説明】

李商隱的文學思想,在晚唐文壇上能够別開生面,獨樹一 幟。他對古文運動後學的流弊進行了尖銳的批評,在這方面,比 杜牧更乾脆,更激烈。其《上崔華州書》就集中反映了這一思想。 對於當時古文家"學道必求古,爲文必有師法"的說法,他極其反 咸,反駁說: "夫所謂道,豈古所謂周公、孔子者獨能邪?"這與他 《容州經略使元結文集後序》所說"孔氏于道德仁義外有何物"是 同一意思,認爲不能專以孔子的是非爲是非。正因他不滿于傳 統思想偏見的束縛,思想較爲解放,所以主張文學創作應該有獨 創性。所謂"行道不繫今古,直揮筆爲文",就是要求作家創作必 須直抒胸臆,作品要有眞情實咸,有所咸而發,而不是隨人脚跟, 人云亦云;所謂"不愛讓取經史,諱忌時世",就是不走復古老路, 不說陳詞濫調,不怕揭露現實。這樣的文學主張,在當時確是難 能可貴的,起了振聾發聵的作用。

在詩歌理論方面,李商隱主張兼通衆製,反對拘于一格。《獻侍郎鉅鹿公啓》說:"我朝以來,……皆陷于偏巧,罕或棄材。枕石漱流,則尚于枯槁寂寞之句;攀鱗附翼,則先于驕奢豔佚之篇;推李杜則怨刺居多,效沈宋則綺靡爲甚。"就表示了這樣的態度。他不同意一概否定六朝文學的主張,對沈約、庾信等六朝作家也不乏讚美之辭,並進一步認爲只有"秉無私之尺刀",纔能"定夫衆製"。這種轉益多師的態度,與杜甫《戲爲六絕句》的意見相近。

### 附 錄

### 容州經略使元結文集後序(節錄)

#### [唐] 李商隱

·····論者徒曰:"次山不師孔氏爲非"。嗚呼! 孔氏於道德仁義外有何物! 百千萬年,聖賢相隨於強中耳。次山之書曰:三皇用眞而恥聖,五帝用聖而恥明,三王用明而恥察。嗟嗟此書,可以無書。孔氏固聖矣,次山安在其必師之邪!

德聚堂重校本《樊南文集詳註》卷七

## 獻侍郎鉅鹿公啓(節錄)

### [唐] 李商隱

……沉屬詞之工,言志爲最。自魯毛兆軌,蘇李揚聲,代有遺音,時無絕響,雖古今異制,而律呂同歸。我朝以來,此道尤盛,皆陷於偏巧,罕或兼材。枕石漱流,則尙於枯槁寂寞(《四部叢刊》本作寥)之句;攀鱗附翼,則先於驕奢豔佚之篇;推李杜則怨刺居多,效沈宋則綺靡爲甚。至於秉無私之刀尺,立莫測之門牆,自非託於降神,安可定夫衆製!……某比興非工,顓蒙有素,然早聞長者之論,夙託詞人之末,淹翔下位,於託知音。……

德聚堂重校本《樊南文集詳註》卷三

### 漫成五章(選錄)

### [唐] 李商隱

沈宋裁辭矜變律,王楊落筆得良朋。當時自謂宗師妙,今日惟觀對屬館。

李杜操持事略齊,三才萬象共端倪。集仙殿與金鑾殿,可是蒼蠅惑曙雞。

德聚堂本《玉谿生詩箋註》卷二

### 禪月集序(節錄)

### [唐] 吳 融

夫詩之作, 聲善則頌美之, 惡惡則風刺之。 苟不能本此二道, 雖甚美, 猶土木偶不主於氣血, 何所尙哉! 自風雅之道息, 爲五七字詩者, 皆率拘以 句度屬對焉。旣有所拘, 則演情敍事不盡之。且歌與詩, 其道一也。然詩之所拘悉無之, 足得放意, 取非常語、非常意, 又盡則爲善矣。

國朝能爲歌、爲詩者不少,獨李太白爲稱首,蓋氣骨高舉,不失頌美風刺之道焉。厥後白樂天《諷諫》五十篇,亦一時之奇逸極言。昔張爲作《詩圖》五層,以白氏爲廣德大教化主,不錯矣。至後李長吉以降,皆以刻削峻拔飛動文彩爲第一流。有下筆不在洞房蛾眉、神仙詭怪之間,則擲之不顧。邇來相數學者,露曼浸淫,困不知變。嗚呼!亦風俗使然也。

然君子萌一意,出一言,亦當有益於事。矧極思屬詞,得不動關於教化。 ……上人之作,多以理勝,復能創新意,其語往往得景物於混茫自然之際, 然其旨歸,必合於道。太白、樂天旣歿,可嗣其美者,非上人而誰!……

《四部義刊》影宋鈔本《禪月集》卷首

# 文 藪"序

### 〔唐〕皮日休[2]

咸通丙戌<sup>[3]</sup>中,日休射策<sup>[4]</sup>不上第,退歸州東别墅<sup>[5]</sup>,編次其文,復將貢於有司<sup>[6]</sup>。發篋叢萃,繁如藪澤,因名其書曰《文藪》焉。比見元次山<sup>[7]</sup>納《文編》于有司,侍郎楊公浚見《文編》,嘆曰:"上第,汚元子耳!"斯文也,不敢希楊公之嘆,希當時作者一知耳!

賦者,古詩之流也。傷前王太佚,作《憂賦》;慮民道難濟,作《河橋賦》;念下情不達,作《霍山賦》;憫寒士道壅,作《桃花賦》。《離騷》者,文之菁英者,傷於宏奧,今也不顯《離騷》,作《九諷》。文貴窮理,理貴原情,作《十原》。太樂既亡,至音不嗣,作《補周禮九夏歌》。兩漢庸儒,賤我《左氏》[8],作《春秋決疑》。其餘碑、銘、讚、頌、論、議、書、序,皆上剝遠非,下補近失,非空言也。較其道,可在古人之後矣。古風詩,編之文末,俾視之,粗俊於口也[9],亦由食魚遇鯖,持肉偶牒[10]。《皮子世錄》,著之於後,亦《太史公自序》[11]之意也。凡二百篇,爲十卷,覽者無誚矣!

中華書局排印本蕭滌非整理《皮子文藪》卷首

### 【註釋】

- [1] 文藝——文章的淵藪。柳開《皮日休文集序》: "凡藪者,澤也,又曰淵藪也,以 其事物萃集之也。"
- [2]皮日休(約公元八三四——八八三年)——字逸少,後改襲美,襄陽人。早年住 鹿門山,自號鹿門子,又號閒氣布衣等。咸通八年進士,曾任太常博士。後參 加黃巢起義軍,任翰林學士。舊說他因故爲巢所殺,或云巢兵敗後爲唐室所害。

詩文與陸龜蒙齊名,人稱"皮陸"。著有《皮子文藪》十卷。

- [3] 咸通丙戌----唐僖宗咸通七年,公元八六六年。
- [4]射策——漢代考試方法之一,主試者提出問題,曹之於策,分為甲乙科,射策者 隨意解答。射即投射之意。**遭裏**指進士考試。
- [5]州東別墅——州,指壽州,今安徽壽縣、六安、霍山、霍丘等縣地。皮目休有寓 所於其地,下第後歸之。參見《文藪》卷十《三羞詩》其一、其三的序。
- [6] 復將貢於有司——唐代應舉者在考試前將平日所作詩文編成卷軸,投獻給朝中顯貴,叫做行卷。假如落第,第二年再獻,叫做溫卷。
- [7]元次山——即元結。參看本册《篋中集序》註[2]及附錄《文編序》。
- [8]《左氏》——指《左傳》,亦稱《左氏春秋》、《春秋左氏傳》。舊傳左丘明所撰。多用事實解釋《春秋》,與《公羊傳》《穀梁傳》完全用義理解釋的有異。西漢末年劉歆及東漢時韓歆等建職爲《左傳》立學官,遭到一些推崇《公羊》《穀梁》二傳的儒生的反對。其後李育作《雖左氏義》四十一事、何休作《左氏青肓》等,都是非難《左傳》的。 參看《漢書》卷三十六《楚元王傳》、《後漢書》卷三十六《范升》、《陳元》、《賈逵》等傳及卷七十九下《儒林傳》。
- [9]粗俊於口——粗,略。俊,同雋,絕異。這句意謂大略有些不同一般的滋味。
- [10] 由食魚遇鯖持肉偶撰——由,與"猶"同,義為如。鯖,魚和肉的雜燴。漢代數 護官合王氏五侯所館奇膳為"五侯鯖"。(見《西京雜記》卷二)偶,也是遇的意思。屛,切熟肉再煮。《齊民要循》有"肺臟法"。遺裏以美食喻自己詩歌。
- [11] 《太史公自序》——司馬遷《史記》最後一篇,列敍其祖系及自己作《史記》的意旨。

### 【説明】

皮日休在唐末社會矛盾激烈尖銳的時代,竭力強調文學作品的現實內容與批判精神。在《文藪序》中,他介紹自己各體作品"皆上剝遠非,下補近失,非空言也",說明都是批判現實,有爲而作。這裏他首先列舉了所作幾篇賦的宗旨,《桃花賦序》更說"非有所諷,輒抑而不發",表現嚴肅的創作態度。他的《九諷系述序》說:"昔聖賢不偶命,必著書以見志,况斯文之怨抑軟!"鮮明地表示要繼承屈原的創作精神。

他的論詩,受到杜甫、白居易現實主義詩論的明顯影響,非常重視詩歌反映社會的功效和使人鑒戒的作用。"詩之美也,聞之足以觀乎功;詩之刺也,閱之足以戒乎政。""於中有鑒戒,一一堪雕鐫。"(見《和魯望詩》)這些和白居易的"文章合爲時而著,詩歌合爲事而作"的觀點是一脈相承的。皮日休評詩特別推崇杜甫、白居易。"教從浮豔詩,作得典誥篇。""所刺必有思,所臨必可傳。"就是贊美白居易能運用通俗婉麗的樂府詩體來反映社會民生,對政治有所裨益。對元、白豔體詩的受人攻擊,他也爲之辯解,認爲這是"發源之非"所造成的末流之弊,和杜牧表示了不同的看法。皮日休對浪漫主義詩歌也是肯定的,在《七愛詩·李翰林》中稱頌李白爲"口吐天上文","五岳爲辭鋒,四溟作胸臆"。《劉棗強碑》中說李白詩歌是"言出天地外,思出鬼神表。讀之則神馳八極,測之則心懷四溟";《郢州孟亭記》中欣賞孟浩然的詩"涵涵然有干霉之典",這就和元、白片面否定李白的態度並不一樣了。

皮日休論文,推重孟軻、韓愈,有儒家道統論的色彩。但他的論孟軻,突出了孟軻肯定湯武革命的思想。"古之士,以湯武為逆取者,其不讀《孟子》乎?"(《詩孟子為學科書》);他的評韓愈,着重表彰韓文中排斥佛老的內容及其"裨造化,補時政"的影響。皮日休作《十原》,受有韓愈《五原》的啓發。其《原謗》云:"堯、舜,大聖也,民且謗之。後之王天下,有不為堯、舜之行者,則民扼其吭,捽其首,辱而逐之,折而族之,不為甚矣。"很大程度上超過了孟軻湯武"誅獨夫"和韓愈《五原》的境界,這裏也反映了皮日休所謂"裨造化,補時政"的實際意義。

## 附 錄

### 桃花賦序

### [唐] 皮日休

中華書局排印本蕭滌非整理《皮子文藝》卷一

## 七愛詩・白太傅居易

### 〔唐〕皮日休

中華書局排印本蕭條非整理《皮子文駁》卷十

### 論白居易薦徐凝屈張祜(節錄)

### [唐] 皮日休

……余嘗謂文章之難,在發源之難也。元、白之心,本乎立教,乃寓意

於樂府雍容宛轉之詞,謂之諷諭,謂之閒適。旣持是取大名,時士翕然從之,師其詞,失其旨,凡官之浮靡豔麗者,謂之"元白體"。二子規規攘臂解辯,而習俗旣深,牢不可破,非二子之心也,所以發源者非也,可不戒哉! 《全唐文》卷七百九十七

## 與李生論詩書

### 〔唐〕司室圖[1]

文之難,而詩之難("難"字原無,依《唐文粹》卷八十五校增,《全唐文》卷八〇七作"詩尤難") 尤難。古今之喻多矣,而愚以爲辨於味<sup>[2]</sup>,而後可以言詩也。江嶺之南,凡足(原作"是",依《全唐文》校改)資於適口者,若醯<sup>[3]</sup>,非不酸也,止於酸而已;若鹺<sup>[4]</sup>,非不鹹也,止於鹹而已。華之人<sup>[5]</sup>以充飢而遽輟者,知其鹹酸之外,醇美者有所乏耳。彼江嶺之人,習之而不辨也,宜哉。詩貫六義,則諷諭、抑揚、渟蓄、溫雅,皆在其間矣<sup>[6]</sup>。然直致所得,以格自奇<sup>[7]</sup>。前輩諸(原作"編",依《全唐文》校改)集,亦不專工於此,矧其下者耶! 王右丞、韋蘇州澄澹精緻,格在其中,豈妨於逾舉哉<sup>[8]</sup>? 賈浪仙<sup>[9]</sup>誠有警句,視其全篇,意思殊餒<sup>[10]</sup>,大抵附於蹇澀,方可致才<sup>[11]</sup>,亦爲體之不備也,矧其下者哉! 噫! 近而不浮<sup>[12]</sup>,遠而不盡<sup>[13]</sup>,然後可以言韻外之致<sup>[14]</sup>耳。

愚幼常自負,既久而逾覺缺然。然得於早春,則有"草嫩侵沙短,冰輕著雨銷"[15]。又"人家寒食月,花影午時天"[16]。(原注:"上句云:'隔谷見鷄犬,山苗接楚田。'")又"雨微吟足思,花落夢無慘"[17]。得於山中,則有"坡暖冬生筍,松涼夏健人"[18]。又"川明虹照雨,樹密鳥衝人"[19]。得於江南,則有"戍鼓和潮暗,船燈照島幽"[20]。又"曲塘春盡雨,方響夜深船"[21]。又"夜短猿悲減,風和鵲喜靈"[22]。得於塞下,則有"馬色經寒慘,雕聲帶晚飢"[23]。得於喪亂,則有"驊騮思故第,鸚鵡失佳人"[24]。又"鯨鯢人海涸,魑魅棘林高"[25]。得於道宮,則有"碁聲花院閉,幡影石

隨幽"[28]。得於夏景,則有"地涼淸鶴夢,林靜肅僧儀"[27]。得於佛寺,則有"松日明金象,苔龜響木魚"[28]。又"解吟僧亦俗,愛舞鶴終卑"[29]。得於郊園,則有"遠陂春旱麥,猶有水禽飛"[30]。(原注:"上句'綠樹連村暗,黃花入麥稀'。")得於樂府,則有"晚粧留拜月,春睡更生香"[31]。得於寂寥,則有"孤蟄出荒池,落葉穿破屋"[32]。得於愜適,則有"客來當意愜,花發遇歌成"[33]。雖庶幾不濱於淺涸,亦未廢作者之體訶也[34]。又七言云:"逃難人多分隙地,放生鹿大出寒林[35]。"又"得劍乍如添健僕,亡書久似憶良朋"[38]。又"孤嶼池痕春漲滿,小欄花韻午晴初"[37]。又"五更惆悵迴孤枕,猶自建燈照落花"[38]。(原注:"上句'故國春歸未有涯,小欄高檻别人家'。")又"殷勤元旦日(原作日日,依《全唐文》校改),歌舞又明年"[39]。(原注:"上句'甲子今重數,生涯只自憐。'")皆不拘於一概也。

蓋絕句之作,本於詣極[40],此外千變萬狀,不知所以神而自神也[41], 豈容易哉? 今足下之詩,時輩固有難色[42],倘復以全美[43]爲工,即知味外之旨矣[44]。勉旃。某再拜。

《四部費刊》影舊鈔本《司空表聖文集》卷二

### 【註釋】

- [1]司空圖(公元八三七年——九〇八年)——字表聖,河中虞鄉人。唐咸通末舉 進士,官中書舍人。農民大起義以後,隱居中條山王官谷。朱溫代唐,圖不食 而死。著有《司空表聖文集》十卷、《詩集》三卷。
- [2]辨於味——味指證味,所以下文或言"證外之致",或言"味外之旨",實是同一意思。
- [3]醯——醋。
- [4] 健---- 鹽。
- [5] 華之人——指中原地區的人。華山在陝西。
- [6] 詩貫六義三句——諷諭是詩的作用, 抑揚、停蓄、溫雅, 則是詩的情調。 六義包括的範圍較廣, 四者可以容納在內。

- [7]然直致所得二句——直致所得,謂自然寫出,即境會心,不勞擬議,相當於作者 在《詩品》中所說的"妙造自然""俯拾即是,不取諸鄰"。以格自奇,謂前輩作者 以他獨具的風格各自標新領異。
- [8] 王右丞三句——王維官至尚書右丞, 草應物官至蘇州刺史。澄澹, 指風格的清深淡遠; 精緻, 指語言的精工; 遺舉, 指筆力的挺拔, 不黏滯在紙上。作者之意, 謂清深淡遠的作品, 自成一種風格, 與風格遺勁的作品, 各擅其美, 並不互相排斥。
- [9] 買浪仙——買島(公元七七九年——八四三年),字浪仙,范陽人。中唐後期詩人,專寫五言律詩,以清苦僻澀為宗,但所表現的生活面狹窄,藝術成就不高。晚唐李洞、喻鳧等人,多學買島,形成了晚唐詩的一種流派。
- [10] 意思殊餒——餒,餓。這句是說賈島詩內容空虚。
- [11] 附於蹇澀方可致才——附,依附,依賴。蹇,難,引申作觀深解。澀,不流暢。這 二句謂賈島詩大部分依賴於雕鍊片字隻語,艱苦僻澀,才可以顯示他偏至的詩 才。意思是說他的才力極小。
- [12] 近而不浮——謂詩的形象,近在眼前,詩人寫來,有妙手偶得之妙,而不流於浮淺。
- [13] 遠而不盡----謂詩的境界極為深遠,不是意盡於句中。
- [14] 翻外之致——韻,等於說詩的語言,包括神韻與韻味。這句是說在語言文字之外,別有餘味。與作者在《詩品》中所說: "超以象外,得其環中","不著一字,整得風流"同一意思。宋詩人梅堯臣所主張的"含不盡之意,見於言外", 殿羽《沧浪詩話》所說的"言有盡而意無窮",亦即是此意。
- [15] 草嫩二句——司空圖《早春》句。
- [16] 人家二句——全篇已佚。
- [17] 雨微二句——《下方》句。
- [18] 坡暖二句——《下方》句。
- [19] 川明二句——《華下送文浦》句。
- [20] 戊鼓二句——《寄永嘉崔道融》句。
- [21] 曲塘二句——《江行》句。
- [22] 夜短二句——全篇已佚。
- [23] 馬色二句——《塞上》句。
- [24] 驊鸝二句——全篇已佚。
- [25] 鯨鲵二句——全篇已佚。

- [26]基聲二句——全篇已佚。
- [27]地涼二句----全篇已佚。
- [28] 松日二句---《上陌梯寺懷舊僧》句。
- [29]解吟二句——《僧舍貽友》句。
- [30] 遠陂二句——《獨望》句。
- [31] 晚柱二句——全篇已佚。
- [32] 孤**卷**二句----《秋思》句。
- [33] 客來二句——《長安贈王注》句。
- [84] 雖庶幾不濱於淺涸二句——謂雖然庶幾不至近於淺露枯竭,但也怕免不掉要 被作者們所嘲笑呵斥。
- [35] 逃離二句——《山中》句。
- [36]得劍二句——《退棲》句。
- [37]孤巉二句——《光啓四年春戊申》句。
- [38] 五更二句——《華上》句。
- [39]殷勤二句——《元日》句。
- [40] 蓋絕句之作本於詣極——詣,造詣。詣極,極高的造詣。要把豐富的詩意,提 鍊壓縮在極短的絕句中,還非得要有高度的藝術修養不可。
- [41]不知所以神而自神也——這裏的神,是司空圖所指的詩的最高境界,即宋人嚴羽《滄溟詩話》所說:"詩之極致有一,日入神。詩而入神,至矣盡矣,蔑以加矣"的意思。
- [42] 時發固有雖色——謂同時的作者要想比美李生,固然不是容易。
- [43] 全美——外形精美的詩句,包孕着無靈的神味,才能說是全美。

### 【説明】

本文與作者詩論的另一篇代表作《二十四詩品》是姐妹篇, 在某種意義上說,二者是相互補充,相互說明的。在這裏,作者 着重從韻味的角度來談詩歌意境的創造,卽認為好詩必須有"韻 外之致"、"味外之旨",而這"味"是妙在"鹹酸之外"的,不是意盡 於句中(書中所謂"淺涸"),而是要"近而不浮,遠而不盡",給讀 者留下聯想與回味的餘地,從而達到"思與境偕"的藝術"詣極"。 這與作者在《與極浦書》中所標舉的"象外之象,景外之景"的意 思是一樣的,都是反對現象(或表象)的堆砌,強調意境的創造。 這種韻味,不僅存在於風格"澄澹"的詩中,而且也存在於風格 "渣舉"的篇章。作者又認為:雖然前輩諧賢不是專工一路,但追 求具有"韻外之致"的"意象"創造則是共同的。《二十四詩品》也 是從這個觀點出發來論述各種風格的。後來,宋人嚴羽的妙悟 說,清人王士禛的神韻說,都多少受到司空圖韻味說的影響。

司空圖的韻味說重在藝術特徵的探索,接觸到詩歌藝術的 美感作用這個重要問題,但是對於藝術的美感作用形成的原因, 在這裏沒有進行具體的討論。

另外,本文雖然也接觸到作品來源於生活的問題,如他標舉自己的詩句,有所謂得於早春、山中、江南、塞下、喪亂、道宮、夏景、佛寺、郊園、樂府、寂寥、愜適等等,但這裏除了塞下、喪亂兩項外,大都是一些孤寂出世、悠閒自在的有閒階級生活,這和他在《詩品》中主要描述的生活情調,如"閱音修算,美曰載歸","綠林野屋,落日氣淸,脫巾獨步,時聞鳥聲","築屋松下,脫帽看詩,但知旦暮,不辨何時"之類,毫無二致。所以儘管本篇開宗明義也提出了"詩貫六義"的主張,並把"諷諭"放在首位,但實際上却是忽視重要的社會內容,使韻味偏於抒寫閒情逸趣方面。而且他對"千變萬化"的藝術境界,歸結於"不知所以神而自神",正和他《與極浦書》中所說的"象外之象,景外之景,豈容易可談哉",《詩品·縝密》"是有眞跡,如不可知",《詩品·流動》"超超神明,返返冥無",都同樣存在神秘化的弊病,當然就不可能科學地說明文學現象。許印芳在本文跋中所說,是對司空圖和他詩論的機承者的一種救弊之談。

# 附錄

## 與極浦書

#### 〔唐〕司空圖

戴容州云:"詩家之景,如藍田日暖,良玉生煙,可望而不可置於眉睫之前也。"象外之象,景外之景,豈容易可譚哉?然題紀之作,目擊可圖,體勢自别,不可廢也。

愚近有《虞鄉縣樓》及《柏梯》二篇,誠非平生所得者。然"官略好禽聲, 軒車駐晚程",即虞鄉入境可見也。又"南樓山色秀,北路邑偏清",假令作 者復生,亦當以著題見許。其《柏梯》之作,大抵亦然。浦公試爲我一過縣 城,少留寺閣,足知其不怍也,豈徒雪月之間哉? 佇歸山後,"看花滿眼淚, 迴首漢公卿","人意共春風(原注:"上二句楊庶子。"按:此注似應在"迴首 漢公卿"句下),哀多如更聞",下至於"塞廣雪無窮"之句,可得而評也。鄭雜 事不罪章指,亦望呈達。知非子狂筆。

《四部費刊》影舊鈔本《司空表聖文集》卷三

## 與李生論詩書跋

#### 〔清〕許印芳

表聖論詩, 味在酸鹹之外, 因舉右丞、蘇州, 以示準的。此是詩家髙格, 不善學之, 易落空套。唐人中, 王、孟、章、柳四家, 詩格相近, 其詩皆從苦吟 而得。人但見其澄澹精緻, 而不知其幾經淘洗而後得澄澹, 幾經鎔鍊而後 得精緻。學者於一切陳腐之言, 浮淺之思, 芟除淨盡, 而後可入門徑。若從 澄澹精緻外貌求之, 必至摹其腔調, 襲其字句, 未有不落空套者, 所謂優孟 衣冠也。

然欲淘洗鎔鍊,而不知審端致力之方,或竟探之茫茫,索之渺渺,雖極

雕肝鏤腎,亦終惝恍而無憑。蓋詩文所以足貴者,貴其善寫情狀。天地人物,各有情狀。以天時言,一時有一時之情狀;以地方言,一方有一方之情狀;以人事言,一事有一事之情狀;以物類言,一類有一類之情狀。詩文題目所在,四者凑合;情狀不同,移步換形,中有眞意。文人筆端有口,能就現前眞景,抒寫成篇,卽是絕妙好詞,所息詞不達意耳。

此際宜用淘洗鎔鍊工夫。凡我見聞所及,有與古今人雷同者,人有佳語,即當閣筆,或另構思,切忌拾人牙慧;人無佳語,我當運以精心,出以果力,眼光所注之處,吐糟粕而吸菁華,略形貌而取神骨,此淘洗之功也。與聞落筆,如黃白合冶,大氣鼓鑄;成篇之後,細檢瑕疵。平者易之以拗峭,板者易之以靈活,繁者易之以簡約,疎者易之以縝密,啞者易之以鏗鏘,露者易之以渾融,此鎔鍊之功也。

功候深時,精義內含,淡語亦濃;實光外溢,模語亦華。旣臻斯境,韻外之致,可得而言,而其妙處皆自現前實境得來,表聖所云:"直致所得,以格自奇"也。其自舉所得,亦多警句。如:"松涼夏健人","樹密鳥衝人","基 聲花院閉","落葉穿破屋","得劍乍如添健侯","小欄花韻午晴初"等句,皆 現前實境,而落筆時若無淘洗鎔鍊工夫,必不能著此等語。由此而推,王、 章諸家詩能出奇之故,可默會矣。

自表**聖**首揭味外之旨,逮宋滄浪嚴氏,專主其說,衍為詩話,傳教後進。 初學之士,無高情遠識,往往以皮毛之見,窺測古人,沿襲摹擬,盡落空套。 詩道之衰,常坐此病。思思發其聾聵而振救之,因抄表聖書,詳論如此。許 印芳識。

«詩法苯編»卷六下

# 詩品

# 〔唐〕司空圖

# 雄 渾

大用外腓,眞體內充[1]。返虛入渾[2],積健爲雄[3]。具備萬物,横絕太空[4]。荒荒油雲,寥寥長風[5]。超以象外,得其環中[6]。持之非強,來之無窮[7]。

# 沖[8] 淡

素處以默,妙機其微<sup>[9]</sup>。飲之太和,獨鶴與飛<sup>[10]</sup>。猶之惠風,荏苒在衣<sup>[11]</sup>。閱音修篁,美曰載歸<sup>[12]</sup>。遇之匪深,卽之愈希<sup>[13]</sup>。脫有形似,握手已違<sup>[14]</sup>。

# 纖 穩[15]

采采流水,蓬蓬遠春<sup>[16]</sup>。窈窕深谷<sup>[17]</sup>,時見美人。碧桃滿樹,風日<sup>[18]</sup>水濱。柳陰路曲,流鶯比鄰<sup>[19]</sup>。乘之愈往,識之愈眞。如將不盡,與古爲新<sup>[20]</sup>。

## 沈著

綠林野屋,落日氣淸。脫巾<sup>[21]</sup>獨步,時聞鳥聲。鴻雁不來, 之子遠行。所思不遠,若爲平生<sup>[22]</sup>。海風碧雲,夜渚月明<sup>[23]</sup>。 如有佳語,大河前橫<sup>[24]</sup>。

#### 高 古

畸人乘真<sup>[25]</sup>,手把芙蓉<sup>[26]</sup>。汎彼浩劫<sup>[27]</sup>,窅然空蹤<sup>[28]</sup>。月出東斗,好風相從<sup>[29]</sup>。太華夜碧,人聞清鐘<sup>[30]</sup>。虚佇神素<sup>[31]</sup>,脫然畦封<sup>[32]</sup>。黄唐在獨,落落玄宗<sup>[33]</sup>。

## 典 雅

玉壺買春,賞雨茆屋<sup>[34]</sup>。坐中佳士,左右修竹。白雲初晴,幽鳥相逐。眠琴綠陰,上有飛瀑<sup>[35]</sup>。落花無言,人淡如菊。書之歲華,其曰可讀<sup>[36]</sup>。

# 洗鍊

如鑛出金,如鉛出銀。超心鍊冶,絕愛緇磷<sup>[37]</sup>。空潭瀉春,古鏡照神。體素儲潔<sup>[38]</sup>,乘月反眞<sup>[39]</sup>。載瞻星氣,載歌幽人<sup>[40]</sup>。流水今日,明月前身。

# 勁 健

行神如空,行氣如虹[41]。巫峽千尋,走雲連風[42],飲眞茹強, 醬素守中[43],喻彼行健,是謂存雄[44]。天地與立,神化攸同[45]。 期之以實,御之以終[48]。

# 綺 麗

神存富貴,始輕黃金。濃盡必枯,淡者屢深。霧餘<sup>[47]</sup>水畔, 紅杏在林。月明華屋,畫橋碧陰。金尊酒滿,伴客彈琴。取之自足,良彈美襟<sup>[48]</sup>。

## 自然

俯拾卽是,不取諸鄰。俱道適往,著手成春<sup>[49]</sup>。如逢花開,如瞻歲新。眞與不奪,強得易貧<sup>[50]</sup>。幽人空山,過雨採蘋<sup>[51]</sup>。海言情悟<sup>[52]</sup>,悠悠天鈞<sup>[53]</sup>。

# 含蓄

不著一字,盡得風流<sup>[54]</sup>。語不涉己,若不堪憂<sup>[55]</sup>。是有眞宰,與之沉浮<sup>[56]</sup>。如綠滿酒,花時返秋<sup>[57]</sup>。悠悠空塵,忽忽海漚<sup>[58]</sup>。淺深聚散,萬取一收<sup>[59]</sup>。

# 豪 放

觀花匪禁,吞吐大荒<sup>[80]</sup>。由道返氣,處得以在<sup>[81]</sup>。天風浪浪<sup>[82]</sup>,海山蒼蒼。眞力彌滿,萬象在旁。前招三辰<sup>[83]</sup>,後引鳳凰。曉策六鼇,濯足扶桑<sup>[84]</sup>。

# 精神

欲返不盡,相期與來<sup>[85]</sup>。明漪絕底<sup>[88]</sup>,奇花初胎<sup>[87]</sup>。青春鸚鵡,楊柳樓臺。碧山人來,清酒深杯。生氣遠出<sup>[88]</sup>,不著死灰<sup>[89]</sup>。 妙造自然,伊誰與裁<sup>[70]</sup>?

# **縝**[71] 密

是有真跡,如不可知。意象欲出,造化已奇<sup>[72]</sup>。水流花開, 清露未晞<sup>[78]</sup>。要路<sup>[74]</sup>愈遠,幽行爲遲。語不欲犯,思不欲癡。獨 春於綠,明月雪時。

#### 疎 野

惟性所宅<sup>[75]</sup>, **眞**取弗羈。控物自富,與率<sup>[76]</sup>為期。築室松下, 脫帽看詩。但知旦暮, 不辨何時。倘然<sup>[77]</sup>適意, 豈必有為。若其天放<sup>[78]</sup>, 如是得之。

## 清 奇

娟娟羣松,下有漪流。晴雪滿汀,隔溪漁舟。可人如玉<sup>[79]</sup>,步屧<sup>[80]</sup>尋幽,載行載止,空碧悠悠。神出古異,澹不可收。如月之曙,如氣之秋。

### 委曲

登彼太行,翠遠羊腸<sup>[81]</sup>。杳靄流玉<sup>[82]</sup>,悠悠花香。力之於時<sup>[83]</sup>,聲之於羌<sup>[84]</sup>。似往已迴,如幽匪藏。水理漩洑<sup>[85]</sup>,鵬風<sup>[86]</sup>劉翔。道不自器,與之圓方。

#### 實境

取語甚直, 計思匪深。忽逢幽人, 如見道心。晴澗之曲, 碧松之陰。一客荷樵, 一客聽翠。情性所至, 妙不自琴。遇之自天, 泠然希音<sup>[87]</sup>。

## 悲慨

大風捲水, 林木爲摧。適苦欲死, 招憩不來。百歲如流, 官貴冷灰。大道日喪,若爲雄才<sup>[88]</sup>。壯士拂劍,浩然彌哀。蕭蕭 落葉,漏雨蒼苔。

#### 形 容

絕佇鹽素<sup>[89]</sup>,少迴淸真<sup>[90]</sup>。如覓水影,如寫陽春。風雲變態,花草精神。海之波瀾,山之嶙峋。俱似大道,妙契同廛<sup>[91]</sup>。離形得似,庶幾斯人<sup>[92]</sup>。

#### 

匪神之靈,匪機之微。如將<sup>[94]</sup>白雲,清風與歸。遠引若至,臨之已非<sup>[95]</sup>。少有道氣,終與俗違。亂山高木,碧苔芳暉。語之思之,其聲愈希<sup>[96]</sup>。

#### 飄 逸

落落<sup>[97]</sup>欲往,矯矯<sup>[98]</sup>不羣。緱山之鶴<sup>[99]</sup>,華頂之雲。高人惠中<sup>[100]</sup>, 令色絪縕<sup>[101]</sup>。御風蓬葉<sup>[102]</sup>, 汎彼無垠。如不可執,如將有聞。識者期之,欲得愈分<sup>[103]</sup>。

#### 曠 達

生者百歲,相去幾何。歡樂苦短,憂愁實多。何如尊酒,日往烟蘿。花覆茆簷,疎雨相過。倒酒旣盡,杖藜行歌。孰不有古,南山峨峨<sup>[104]</sup>。

#### 流動

若納水館<sup>[105]</sup>,如轉丸珠<sup>[106]</sup>。夫豈可道,假體如愚<sup>[107]</sup>。荒荒坤軸,悠悠天樞<sup>[108]</sup>。載要其端,載聞其符<sup>[109]</sup>。超超補明,返返冥無。來往千載,是之謂乎<sup>[110]</sup>

人民文學出版社本郭紹賞《詩品集解》

#### 【註釋】

- [1]大用兩句——腓,音肥,變。兩句是說,浩大的運用變化于外,是由于眞實的體 質充滿于內的結果。這就是體精用宏的意思,作到這樣,自然達到雄渾的境 界。
- [2]返虚入渾——郭紹虞《詩品集解》(以下簡稱《集解》):"何謂'渾'? 全也,渾成自然也。所謂眞體內充,又堆砌不得,填實不得,板滯不得,所以必須復還空虚,纔得入於渾然之境。這是'渾',然而正所以助其'雄'。"
- [3] 積健為雄——《集解》:"何謂'雄'?雄,剛也,大也,至大至剛之謂。這不是可以一朝襲取的,必積強健之氣糧成為雄。""這是'雄',然而又正所以成其'渾'。"
- [4] 具備兩句——《集解》:"萬物,萬理也。具於內者,至備乎萬理而無不足,斯發於外者,也就塞於天地之間,自成一家,橫絕太空,而莫與抗衡了。杜甫所謂'讀 替破萬卷,下筆如有神',庶幾近之。"
- [5] 荒荒兩句——荒荒,蒼茫紀。油雲,《孟子·梁惠王上》: "天油然作雲。"趙岐注: "油然, 興雲之紀。"寥寥,空閥紀。長風, 《南史·宗愍傳》: "顧乘長風破萬里浪。"兩句用形象來比擬渾淪一氣、鼓盪無邊的境界。
- [6]超以兩句——象外,跡象之外。環中,喻空虛之處。《莊子·齊物論》:"樞始得其環中,以應無窮。"環,是門的上下兩橫檻的洞,圓空如環,所以承受樞的旋轉。樞一入環中,便可旋轉自如,以應無窮。環的作用在虛。《集解》:"一方面超出乎迹象之外,純以空運,一方面適得環中之妙,仍不失乎其中,這即是所謂'返虛入渾'。返虛入渾,也就自然成'雄'。所以不能虛也就不能渾,不能渾也就不能雄。"
- [7]持之兩句——強,勉強。"集解»:"'工夫深處却平夷',所以持之不費勉強,不 見矯揉。左右逢源,取之不竭,所以引之使來,又能浩然無量,怕什麼窮盡?一 方面渾化無迹,一方面氣勢充沛,這穩盡雄渾之妙。"
- [8] 沖---和。
- [9]素處兩句——素,淡。處,居處。默,靜默。《集解》:"平居澹素,以默為守,涵養既深,天機自合,故云妙機其微。微也者,幽微也,亦微妙也,言莫之求而自致也。"
- [10] 飲之兩句——飲,讀去聲,使喝。太和,陰陽會合沖和之氣。飲之太和,即《易·乾卦》"保合太和"的意思。鶴本淡逸之品,而又獨飛,那麼與之俱者,其氣象也可以髣髴了。

- [11] 獨之兩句——惠風,和風,春風。王羲之《蘭亭集序》: "惠風和暢。" 荏苒,柔緩 稅。春風沖和淡蕩,在可覺與不可覺之間,只覺襟袖飄揚,好像沒有刺激到皮 膚,通體絕無不適之感。
- [12] 閱音兩句——閱,經歷。修,長。篁,竹。日,語助辭,無義。長竹微動,其聲清和,其境幽靜,身經其間,一聲兩聲,遭之于有意無意之間,心質其美,神與之合,不禁產生與之俱歸的顧望。
- [13] 遇之兩句——即,往就,接近。兩句是說, 詩家沖淡之境, 如惠風篡音, 無心遇之, 好像並不見其幽深, 有意即之, 却又愈覺得它稀寂而不可窺尋。
- [14] 脫有兩句——脫,或,若,假設。《集解》:"愚者求此沖淡之境,即使偶有形迹相似,然而一握手間已違本顧。恍兮饱兮,微哉微哉!此詩在前面極寫沖淡之貌,最後四句始寫沖淡之神。"
- [15] 旗----- 細殼。 穠------ 濃郁。
- [16] 采采兩句——采采,鲜明貌。流水,指水的錦紋。這是形容"藏"。蓬蓬,盛貌。 蓬蓬遠春,春天一派生機蓬勃的景象,形容"穠"。春光湖畔,一望無際,所以說 "遠春"。
- [17]窈窕---深曲貌。杜甫《佳人》:"絕代有佳人,幽居在深谷。"
- [18] 風日——惠風和暢之日。
- [19] 比鄰——近鄰。比,並列,聚靠。
- [20] 聚之四句——乘,趁。四句意謂: 藏穠之境,整量朝上述方向發展下去,愈往而愈認識到眞處,這種境界,永久無盡,終古常見,却又不是陳陳相因,能與古為新,就是光景常新了。
- [21] 巾——頭巾。脫巾,形容風度瀟洒。
- [22] 鴻雁四句——《集解》:"鴻雁不來,則雲山寥落,之子遠行,則情懷渺邈。然而, 所思不遠,好似當前即是;若爲平生,又覺握手如昨。那麼千里如咫尺,似又未 懵相離也。'之子遠行',所思已無可見之理:'若爲平生',所思猶有得見之情。 思之不見,愈思得見,一心凝聚,縈回往復,則獨念之深切又正是沈著之表現 也。前言景,此言情,雙股夾寫,而沈著亦形象化矣。"
- [23] 海風兩句——《集解》:"海風碧雲,指動態的沈著;夜渚月明,指靜態的沈著。海風而觀以碧雲,闊大浩瀚,狀壯美的沈著;夜渚而兼以月明,幽靜明徹,狀優美的沈著。這樣夾寫,沈著之精神更出。"
- [24] 如有兩句——《集解》: "竊以爲大河前橫,當即言語道斷之意。鈍根語本談不到沈著,但佳語說盡,一味痛快,也復不成爲沈著。所以要在言語道斷之際,而

成爲佳語,禮是眞沈著。"

- [25] 畸人乘真——畸, 奇異。畸人,不與世俗相合的人。《莊子·大宗師》: "畸人者, 畸於人而侔於天。"謂畸人乘其本性, 與自然之理同。真, 《說文》: "仙人變形而登天也。"變形就是鍊形為氣。這句說: 畸人乘真氣上昇。
- [26] 芙蓉——莲花。李白《廬山謠》: "遊見仙人綵雲裏, 手把芙蓉朝玉京。"
- [27] 汎——同泛,經歷。浩劫——佛典說世界有成、住、壞、空四個時期,叫做"四劫",到壞劫時,世界歸於毀滅。劫歷時甚長,故稱"浩劫"。
- [28] 窅然——渺然,相隔很遠的意思。空蹤——前不見古人的意思,畸人歷劫以去,僅留空蹤。
- [29] 月出兩句——東斗,東方的斗宿。月出東斗之上而好風與之相隨,兩句寫出高 古之景。
- [30] 太華兩句——太華,華山。清鐘,清亮的鐘擊。太華入夜,萬籟俱寂,一碧無餘,忽聞清鐘,令人靜絕塵氛,神遊太古。兩句寫高古之致。
- [31] 虚佇神素——虚,空。佇,立,存。心之靈謂之神,象之眞謂之素。《北史·韋复 傳論》:"夐隱不負人,貞不絕俗,怡神墳籍,養素丘園。"這句意謂:神情風格超 然塵世之外,不染俗氛。
- [32] 脫然畦封——封,畦的界限。這句是說,超脫於疆界之外,意謂不受世俗禮教的束縛。
- [33] 黄唐兩句——黄唐,黃帝與唐堯。陶潛《時運》:"黃唐莫逮,慨獨在余。"落落, 疏落,不相入稅。《集解》:"抗懷千載,當然不偶世俗,亦惟有抱此玄妙宗旨以 終身已耳。"
- [84] 玉壺兩句——玉壺,酒器。春,兼指春酒與春景。唐人往往稱酒爲"春",見《唐國史補》。載酒游春,春景都爲我所得,所以也可說"買春"。茆,即茅。玉壺買春,比較華貴,形容"典";賞雨茅屋,幽居自得,形容"雅"。
- [85] 眠琴兩句——《集解》:"眠琴,獨言橫琴,言琴之眠於綠陰也,但比橫琴更妙。 橫琴可以彈,眠琴却不一定彈,獨測明據無絃之琴,但得琴中趣也。這樣,與下句'上有飛瀑'自相配合、相掩映,可以看到人境雙清,自然典雅。"
- [36] 曹之兩句——《集解》:"之猶此也,就典雅說。歲華猶言歲時。'陽春召我以煙景,大塊假我以文章',則曹之歲華云者,亦即'一年好景君須記'之意云耳。幽賞未已,高談轉清,雅韻古色,庶幾可讀。"其日,擬議之嗣。體,有玩味的意思。
- [37] 編磷----組, 黑。磷, 薄。《論語·陽貨》: "不日堅乎? 磨而不磷; 不日白乎? 涅而不緇。"

- [38] 醴素醋潔-----體素,以素爲體,因體之素以儲其潔,則淨而又淨,毫無垢穢了。
- [89] 乘月——趁月光之純潔。《晉書·庾亮傳》:"乘月登南樓。" 反真,還其本來或還其本始的意思。《莊子·大宗師》:"而(你)已反其真,而我猶爲人猗。"《莊子·秋水》:"無以人滅天,無以故滅命,無以得殉名,鹽守而勿失,是謂反其資。"
- [40] 軟體兩句——载,發語詞。星氣,皎潔之光,有體素錯潔的意思。幽人,幽隱之人,有乘月返眞的意思。戴瞻、载歌,是說望之而可見,歌之而可思。
- [41] 行神兩句——行,運行,謂人運之以行。《集解》:"行神則勁氣直達,絕無阻礙, 故云如空;行氣則硬器盤空,蒼莽橫亘,故云如虹。力寫勁健二字。"
- [42] 巫峽兩句----《集解》:"以巫峽千零之險峻,而能走雲連風於其間,足見大氣流行,正是勁健二字最形象化的描寫。"
- [43] 飲眞兩句——眞,指眞力、眞氣。茹,食。強,指強力、勁氣。素,平素、平日。中, 指心胸。《集解》:"所飲者眞,所茹者強,則眞力瀰滿,勁氣充周矣。曰飲,曰茹, 正見得經過消化,化爲己有,所以再補一句'蓄素守中',才見得蓄之於平日,存 之於心胸,是集義所生,非義襲而取之矣。"
- [44] 喻彼爾句——行健,《易·乾卦》: "天行健,君于以自強不息。"存雄,《莊子·天下篇》: "天地其壯乎?施(惠施)存雄而無循。"遭裏用"行健""存雄"來說明勁健的風格,同時也是總結以前所舉各例,謂可比以行健,也可稱爲存雄。
- [45] 天地兩句——攸, 器中助詞, 無義。兩句承上文: "喻彼行健", 則可與天地並立, 終古不檢; "是謂存雄", 則天地的存神造化也無不與之同功。這是勁健的作用。
- [46] 期之兩句——《集解》:"期,要也。御,統御也。實,虛實之實,言充實於中。終,始終之終,言久而不變。'期之以實',則不同虛惱之氣,得其所以勁。'御之以終',則並無間斷之時,得其所以健。兩'之'字分指勁健字。"
- [47] 霧餘——指霧已收而未盡收。
- [48] 取之兩句——彈,盡。襟,襟懷。無名氏《詩品注釋》:"言撫斯境也,取之於內,無不自足而有餘,良足以彈一己之美襟而舒暢於懷抱也。"陶潛《諸人共遊周家墓柏下》:"余襟良已彈。"
- [49] 俱道兩句——俱道, 語本《莊子·天運篇》: "道可載而與之俱也。"適, 也是往的意思。《論語·子罕》: "可與共學未可與適道。"《集解》: "旣與道俱而再適往, 自然無所勉強, 如畫工之筆, 極自然之妙, 而著手成春矣。"
- [50] 眞與二句——與,予,給。兩句意謂: 眞予我者不會被奪,強取得者仍歸喪失,因

爲一自然一不自然。

- [51] 幽人兩句——如幽人居空山,反於自然; 雨後探襲,出於自然。總之有生趣活 潑純任自然之意。
- [52] 薄言——語助詞, 發語之辭。《詩·芣首》: "薄言采之。"情悟——指一時之情 適有所悟。
- [53] 天鈞——鈞,制陶器所用的轉輪。天鈞,指自然陶鐵。《莊子·齊物論》: "是以聖人和之以是非而休乎天鈞。"
- [64] 不著兩句——《詩品往釋》: "著,粘著也。官不著一字於紙上,已盡得風流之致也。此二句已盡含蓄之義,以下特推而言之。" 爺方綱《神韻論》謂"不著一字,正是謂函蓋萬有。"
- [55] 語不兩句——楊廷芝《詩品淺解》:"語不涉已,言其語意不露迹象,有與己不相 涉者。若不堪憂,是本無可憂,而心中之蘊結,則常若不勝其憂然。"
- [56] 是有兩句——眞宰, 語本《莊子·齊物論》: "若有眞宰而特不得其朕。"《集解》: "有此眞正主宰, 主乎其內, 自然表現於文辭者, 也就與之或沉或浮而若現若不現了。"
- [57]如渌雨句——渌,同滩,登。《集解》:"如渌酒然,渌滿酒則澄滩不盡,有停蓄 應。如花開然,花以暖而開,若還到秋氣,則將開復閉,有留住狀。描寫含蓄,都很具體。"
- [58] 悠悠雨句——漚,水泡。《集解》:"如浮塵之在空際,悉歸籠罩;如浮漚之處大海,氣積其中:是亦一含蓄現象也。然而空塵悠悠,舒緩無窮,海漚忽忽,為時無多,同一含蓄而有久暫淺深之分。"
- [59] 淺深兩句---《集解》: "塵與漚之淺深聚散,形形色色,博之雖有萬途,約之祗是一理,要均歸於含蓄而已。含蓄則寫雖狀之景,仍含不整之情,也正因以一馭萬,約觀博取,不必羅陳,自覺敦厚。"
- [60] 觀花兩句——大荒,海外極遠之地,見《山海經》。《集解》:"觀花匪禁,即'看竹何須問主人'之意,自見其放。吞吐大荒,即'吞若雲夢者八九,於其胸中曾不帶芥'之意,自見其豪。"孫聯查《詩品臆說》"花"作"化",謂"洞悉造化,略無滯室"之意。
- [61] 由道兩句——《集解》:"由道返氣, 营豪氣是集義所生, 根於道, 故不餒。處得 以狂, 言忘懷得失, 禮能自得, 超於世, 故無累。不餒不累, 自近豪放。"
- [62] 浪浪——形容風聲。
- [63]三辰——日、月、星。

- [64] 曉策兩句——策,鞭策。證,傳說中的海中巨龜。《列子·湯問》: 勃海之東有五山,常隨波漂流,上帝使十五巨證舉首戴之。龍伯之國有大人,一釣而連六證, 合頁而歸。扶桑, 神話中樹木名。《山海經·海外東經》: "湯谷上有扶桑, 十日 所浴。"兩句暗襲左思《詠史詩》"振衣千仞岡, 濯足萬里流"之意。
- [65] 欲返兩句——《詩品淺解》:"精由於聚,人欲返而求之,則有不盡之藏,神得所養,而心之相期者遂與之以俱來。"
- [66] 漪---水波如錦文。絕底---極底。
- [67] 初胎——指花始發苞。
- [68] 生氣遠出——生氣充沛,精神迸露,遠出紙上。
- [69] 死灰——《莊子·齊物論》: "形固可使如槁木, 而心固可使如死灰乎?"
- [70] 妙造兩句——《集解》: "所以精神又不是矯揉造作得來的。妙造自然之境,又 雖可以裁度之乎?"
- [71] 續——細緻。《禮記·聘義》:"縝密以栗。"
- [72] 是有四句——是,指揮密。《集解》:"何以雖有翼迹而如不可知呢? 因為意思 形象之生發,即在將然未然之際。無處不是造化。"
- [73] 晞---乾。
- [74] 要路——獨正路,必經之路。
- [75] 宅——居。
- [76] 率——率資。
- [77] 倘然——《莊子·在宥》:"倘然止。"陸德明釋文引李頤說:"倘,自失稅。"
- [78] 天放——《莊子·馬蹄》:"一而不黨,命曰天放。"天,自然;放,放任。 天放謂任 天自在。
- [79] 可人——可意的人,最惬意的人。如玉,如玉之美。《詩·小雅·白駒》:"其人如玉。"晉時裴楷風神高邁,時謂之玉人。
- [80] 屧——音屑。 道裏指木屐, 木底有齒的鞋子, 古人游山多用之。
- [81] 羊腸——羊腸坂,太行山上的坂道,繁曲如羊腸,故名。
- [82] 杏靄——形容水氣深遠。流玉——指流水。顏延年《聞玉太常》:"玉水記方流,璇源載圓折。"李善《文選注》引《尸子》:"凡水,其方折者有玉,其圓折者有珠。"《集解》:"此品前二句言山路之曲折,此句言水流之曲折。不過取喻詩境,不能專重曲折,故於山路則云翠邊,於水流則稱流玉,並再以杳靄狀之。又以流水落花常相關連,因再由水而及花。悠悠花香,言花氣襲人悠悠然無遠不到,無微不入,亦委曲之至也。"

- 【83】力之於時——《詩品淺解》: "凡我之所得舉皆曰力。時,用之之時也。言力之於其用時,輕重低昂,無不因其時之宜然。" 《集解》: "案: 《列子·力命篇》 '命曰,朕直而推之,曲而任之,自壽自天,自窮自違,自貴自賤,自富自貴,朕豈能識之哉! '以'命'解'時'似亦可通。"
- [84] 擊之於羌——《詩品淺解》: "羌,楚人語詞。此作實字用,言其隨意用之,而無不婉轉如意也。如'羌無故實',若直用'無故直',則索然少味,惟用一'羌'字,便覺曲曲傳神。"《泉解》: "杳靄流玉二句謂委曲出於自然,非可力致。力之於時二句,言自然纔能委曲,委曲任之,是自然亦正是委曲,即下文'道不自器,與之圓方'之意。"
- [85] 漩洑——水波回旋起伏。
- [86] 鵬風——《莊子·逍遙遊》: "有鳥焉,其名爲鵬,背若泰山,翼若垂天之雲,摶扶 搖羊角而上者九萬里。"羊角,謂其風曲折上行若羊角。
- [87] 冷然——清和之意。希音——《集解》:"本《老子》'聽之不聞名日希'語,見得 境雖實而出於處,非呆實之謂矣。"
- [88] 若爲雄才——究竟誰爲雄傑之才,所以搚荷此道呢!
- [89] 絕佇靈素——絕,極,盡。佇,待,望。靈,謂其人之神氣。素,謂其人之本質。這句意思是說:凝神壹志,專注於是。
- [90]少一一少停。《詩品淺解》:"言人能存心摹想得見本來面目,而清眞之氣不逾時來矣。"
- [91] 俱似兩句——《集解》: "上所云云,言形容不可以形迹求,亦不可以強力致,必不即不離,妙合同塵之旨,才稱合拍,故云'俱似大道'。《老子》: '和其光,同其塵,湛兮似或存。'言以塵之至雜而無不同,則於萬物無所異矣。聖人之道如是而後全,則湛然常存矣。"
- [92] 離形兩句——《集解》:"總結形容之妙,貴在離形得似。離形,不求貎同;得似, 正由神合。能如是,庶幾爲形容高手矣。"
- [93] 超詣——超越尋常的造詣。
- [94] 將——攜帶。
- [95] 遠引兩句——《史記·封禪書》: "及到,三神山反居水下。臨之,風輒引去,終 莫能至云。"兩句是說: 超詣之境,可望而不可卽。
- [96] 其聲愈希---《老子》: "大音希聲。"
- [97] 落落——不相入貌,寡合之態。
- [98] 燻爐——高舉貌,特立之態。

- [99] 緱山之鶴——《列仙傳》:"周王子喬好吹笙,作鳳鳴,後告其家人日,七月七日 待我於缑氏山頭,及期,果乘白鶴,謝時人而去。"
- [100] 惠中——惠,通慧。中,心。韓愈《送李愿歸盤谷序》:"秀外而惠中。"
- [101] 令——善。絪縕——元氣。
- [102] 御風蓬葉----《商子·禁使》:"今夫飛蓬,遇飄而行千里,乘風之勢也。"
- [104] **孰不兩句——意謂人誰不死,只有南山長存。《詩·小雅·天保》:"南山之壽,不謇不崩。"**
- [105] 水輨——水車。
- [106] 如轉丸珠——像珠那樣圓轉如丸。
- [107] 假體如愚——《詩品臆說》:"假,使也。使體如愚,無非凝神靜氣,如司馬相如作《上林》《子虚》賦,忽然如睡, 與然而與之意。"
- [108] 荒荒兩句——坤軸,地軸。天樞,北斗第一星名。《呂氏春秋》:"極星與天俱遊,而天樞不移。"荒荒、悠悠,皆喻空間不盡之貌。
- [109] 符——契機。
- [110] 來往兩句——《集解》: "流勵旣不可以迹象求, 所以只有一任自然, 如坤軸天樞 之循環往復, 千载不停, 差爲近似。"

#### 【説明】

時之有品,始於聚代鍾嶸,他的《詩品》從批評的角度看問題,着重在探溯源流,品評古今;而晚唐司空圖《二十四詩品》,則重在藝術方面的探索。許印芳《二十四詩品跋》說:"(司空圖)嘗撰《二十四詩品》,分題繫辭,字字創新,比物取象,目擊道存。然品格必成家而後定,如《雄渾》《高古》之類,其目凡十有二;至若《實境》《精神》之類,乃詩家功用,其目亦十有二。"許氏這樣分門別類地把二十四品一劈爲兩,失之機械;但看到它重在體貌詩歌的不同風格和意境,無及某些藝術功用,這種說法還是言之成理的。如《洗鍊》《委曲》《實境》《形容》《流動》等品,顯然不是專論詩的某種風格,而是涉及詩歌創作的某些藝術表現手法。蘇軾

《書答黄子思詩集後》指出這是司空圖"自列其詩之有得於文字之表者二十四韻",所謂"有得"云云,就不是專指藝術風格而言,而是包括了詩歌創作的經驗之談。

《二十四詩品》的主要貢獻有以下幾方面:首先,它提倡詩歌藝術的多樣性。它以詩的形式,形象化的比喻,表現了詩歌的不同風格和意境,所以《四庫全書總目提要》說是"所列諸體畢備,不主一格"。司空圖旣欣賞"雄渾""豪放"的風格,又讚美"綺麗""纖穠"的風格,對於"典雅""沖淡""飄逸"諸種風格,則更是推崇。關於這一方面,可參閱其《題柳柳州集後序》。生活本來是豐富多彩的,以形象反映生活的詩歌自然千變萬化,藝術風格當然應該是"不拘一格"。那種人為地強求一律,造成某種風格一統天下的局面,是違反詩歌形象地反映生活的特徵的,千人一面、衆口一腔的作品,是不會有藝術生命力的。

其次,它特別強調意境。所謂"意象欲出,造化已奇",與 其《與王駕評詩書》中的"長於思與境偕,乃詩家之所尙"是同一 意思,都是要求情景交融。詩不僅要有物象,更重要的是要有 "意象",要有眞情實感的自然流露。有"境"而無"思",有"象"而 無"意",就只是寫到生活的表象。自然主義地堆砌一大堆表面 的"形象"並不等於形象思維。司空圖認為,藝術的想像必須是 "超以象外,得其環中"。形象思維應該展開想像的翅膀,飛越事 物的表象。但這樣的想像,也不是漫無邊際,毫無目的,而是自 有情理在其中,是"眞體內充"的結晶,是內在之美的外在表現。 這種"離形得似"的眞,是更加高級更加眞實的藝術形象。像這 樣深入地探討形象思維,對後人是很好的啓發。

不過,由於司空圖的時代與階級局限,他的唯心世界觀與嚴重逃避現實不良傾向的影響,如他《白菊》詩所說:"詩中有慮猶須戒,莫向詩中著不平。"他的詩論流露出特定歷史時期地主階

級的沒落情緒,反對詩歌與現實鬥爭密切相聯繫,特別欣賞"沖淡""飄逸"一類風格。王漁洋特別指出司空圖重在"不著一字,盡得風流",把詩說得迷離恍惚,玄妙莫測。這些都是應該批判的。

## 附 錄

# 與王駕評詩書(節錄)

#### 〔唐〕司空圖

……國初,主上好文雅, 風流特盛。沈宋始興之後, 傑出於江甯, 宏肆於李杜,極矣! 右丞蘇州趣味澄敻, 若清風之出岫(各本作"若清沅之貫達", 沅, 一作沇)。 大曆十數公, 抑又其次。 元白力勍而氣孱, 乃都市豪估耳。劉公夢得、楊公巨源, 亦各有勝會。 闐仙、東野、劉得仁輩, 時得佳致, 亦足滌煩。 厥後所聞, 逾褊淺矣。……王生(各本作"今王生者") 寓居其間, 浸漬益久, 五言所得, 長於思與境偕, 乃詩家之所尙者。……

人民文學出版社版郭紹農《詩品集解》附錄《表聖雜文》

# 題柳柳州集後序(節錄)

#### 〔唐〕司空圖

……愚觀文人之為詩,詩人之為文,始皆繁其所尙,旣專則搜研愈至,故能衒其功於不朽。亦猶力巨而鬥者,所持之器各異,而皆能齊勝以為 勍敵也。嘗觀韓吏部歌詩累百首,其驅駕氣勢,若掀雷揭電,奔騰於天地之間,物狀奇變,不得不鼓舞而徇其呼吸也。其次,《皇甫祠部文集》所作,亦為適逸,非無意於深密,蓋或未遑耳。今於華下方得柳詩,昧其搜研之致,亦深遠矣。俾其窮而克壽,抗精極思,則固非瑣瑣者輕可擬議其優劣。又

管觀杜子美《祭太尉房公文》,李太白佛寺碑贊,宏拔清厲,乃其歌詩也。張曲江五言沈鬱,亦其文筆也。豈相傷哉?噫!世之學者褊遠,片詞隻句,不能自辨,已側目相詆皆矣。痛哉!因題《柳集》之末,庶俾後之詮評者,罔惑偏說,以蓋其全工。

人民文學出版社版郭紹虞《詩品集解》附錄《表聖雜文》

# 舊唐書・文苑傳序四

# [五代] 劉 昫[2]

臣觀前代秉筆論文者多矣。莫不憲章《謨》《誥》[3],祖述《詩》《騷》,遠宗毛、鄭[4]之訓論,近鄙班、揚[5]之述作。謂"采采芣苜"[6],獨高比與之源;"湛湛江楓"[7],長擅詠歌之體。殊不知世代有文質,風俗有淳醨[8],學識有淺深,才性有工拙。昔仲尼演三代之《易》[9],刪諸國之《詩》[10],非求勝于昔賢,要取名於今代。實以淳樸之時傷質,民俗之語不經,故飾以文言[11],考之絃誦。然後致遠不泥,永代作程,卽知是古非今,未爲通論。

夫執鑒<sup>[12]</sup>寫形,持衡<sup>[13]</sup>品物,非伯樂<sup>[11]</sup>不能分騖驥之狀,非延陵<sup>[15]</sup>不能別《雅》《鄭》之音。若空混吹竽<sup>[16]</sup>之人,卽異聞《韶》<sup>[17]</sup>之數。近代唯沈隱侯斟酌《二南》<sup>[18]</sup>,剖陳三變<sup>[19]</sup>,攄雲、淵<sup>[20]</sup>之抑鬱,振潘、陸之風徽<sup>[21]</sup>。俾律呂和諧,宮商輯洽,不獨子建<sup>[22]</sup>總建安之霸,客兒<sup>[23]</sup>擅江左之雄。

爱及我朝,挺生賢俊,文皇帝<sup>[24]</sup>解戎衣而開學校,飾實帛<sup>[25]</sup>而禮儒生,門羅吐鳳<sup>[28]</sup>之才,人擅握蛇<sup>[27]</sup>之價。靡不發言為論,下筆成文,足以緯俗經邦,豈止雕章縟句。韻諧金奏,詞炳丹青,故貞觀<sup>[28]</sup>之風,同乎三代。高宗、天后<sup>[29]</sup>,尤重詳延<sup>[30]</sup>,天子賦橫汾<sup>[31]</sup>之詩,臣下繼柏梁<sup>[32]</sup>之奏,巍巍濟濟,煇爍古今。如燕許<sup>[33]</sup>之潤色王言,吳、陸<sup>[34]</sup>之鋪揚鴻業,元稹、劉蕡<sup>[35]</sup>之對策,王維、杜甫之雕蟲<sup>[36]</sup>,並非肄業使然,自是天機秀絕。若隋珠<sup>[37]</sup>色澤,無假淬磨,孔璣翠羽<sup>[38]</sup>,自成華彩,置之文苑,實煥網圖<sup>[39]</sup>。其間爵位崇高,別為之傳。今採孔紹安<sup>[40]</sup>已下,為

中華書局排印本《舊唐書》卷一百九十上

#### 【註釋】

- [1] 舊唐書——五代後晉時官修的唐代史書,原稱《唐書》,為了區別於北宋歐陽修、宋祁等編撰的《新唐書》,故稱《舊唐書》。共二百卷。宰相趙瑩、桑維翰等相繼擔任過監修,於劉昫監修時完成,由他奏上,所以署了他的名。具體編寫時出力最多的有張昭遠、賈緯等。
- [2] 劉昫(公元八八七——九四六年)——字躍遠, 涿州歸義人, 後唐、後晉時都曾 爲相。《舊五代史》卷八十九、《新五代史》卷五十五有傳。
- [4] 毛——毛亨, 西漢時人, 相傳是《毛詩傳》的作者。鄭——鄭玄,東漢時人, 治《毛詩》, 曾為作箋。
- [5] 班——班固。揭——揚雄。
- [6] 采采芣苜——《詩經·周南·芣苢》篇中句。采采,采了又采。芣苢,一種菊科植物,又叫蒼耳或枲耳。《毛傳》:"芣苢,后妃之美也。和平則婦人樂有子矣。" 近人多認為是女人懷念征夫的詩。
- [7] 湛湛江楓——《楚辭·招魂》:"湛湛江水兮上有樞。"湛湛,深貌。
- [8] 淳醜——淳樸與澆薄。
- [9] 仲尼演三代之易——《周禮·大卜》:"掌三易之法,一曰《連山》,二曰《歸藏》,三曰《周易》。"杜子春說:"《連山》忽戲,《歸藏》黃帝。"鄭玄說:"《連山》夏易,《歸藏》商易。"《漢書·藝文志》"宓戲氏……始作八卦,……至殷周之際,…… 文王重易六爻,作上下篇。孔子爲之《彖》《彖》《繫辭》《文言》《序卦》之屬十篇。"
- [10] 删赭國之詩——《史記·孔子世家》:"古者《詩》三千餘篇,及至孔子,去其重,取可施于禮義,……三百五篇,孔子皆弦歌之,以求合《韶》《武》《雅》《頌》之音。"
- [11] 文言——《周易正義》: "《文言》者,是夫子第七翼也。……莊氏云:'文謂文飾,以乾坤德大,故特文飾以爲《文言》。'今謂夫子但贊明《易》道,申說義理,非是文飾華彩,當謂釋兩卦之經文,故稱'文言'。"
- [12] 鑒---銅鏡。

- [13] 衡——秤。
- [14] 伯樂——相傳春秋秦穆公時人, 善相馬。
- [15] 延陵——即公子札,春秋時吳王諸樊弟,曾封于延陵(今江蘇常州),故稱延陵 季子。公元前五四四年出使魯國,觀賞周及各地區傳統音樂,對各種風格進行 分析。見《左傳》襄公二十九年。
- [16] 吹竽——《韓非子·內儲說上》:"齊宜王使人吹竽(笙類樂器),必三百人。南郭處士請為王吹竽,宜王說(悅)之,廩食以數百人。宜王死,湣王立,好一一聽之,處士逃。"
- [17] 聞韶——《論語·述而》:"子在齊聞《韶》,三月不知肉味,曰:'不圖為樂之至於斯也。'"《韶》,相傳是舜時的音樂。
- [18] 沈騰侯——見本書第一册《顏氏家訓·文章篇》註[61]。《二南》——《詩經·國 風》中《周南》《召南》的合稱。
- [19] 三變——《宋書·謝靈運傳論》:"自漢至魏,四百餘年,辭人才子,文體三變。"
- [21] 潘---潘岳。陸---陸機、陸雲。風歌---《文選·謝贈〈于安城答靈運〉》:"稠 器結風歌。"李周翰注:"歡,善也。謂風雅相善也。"這裏指文章優美的風格。
- [22] 子建---曹植字子建。
- [23] 客兒----即謝豐運,幼時寄養於外,族人因名爲"客兒",世稱"謝客"。
- [24] 文皇帝----即唐太宗李世民。他去世後"百僚上諡曰文皇帝"。見《舊唐書》卷三《太宗本紀下》。
- [25] 黄帛——《周易·黄》:"黄于丘園,東帛戔戔。"《正義》:"黄,飾也。"帛,絲織物。
- [26] 吐鳳——《西京雜記》卷二:"(揚)雄著《太玄經》,夢吐鳳凰,集'玄'之上,頃而滅。"後因稱擅長著作爲吐鳳。李商隱《喜் 夏及第》:"門多吐鳳才。"
- [27] 握蛇——曹植《與楊德祖書》:"當此之時,人人自謂握靈蛇之珠,家家自謂抱荆 山之玉。"靈蛇之珠,見本文註[37]。
- [28] 貞觀——唐太宗年號,公元六二七——六四九年。
- [29] 高宗——唐高宗李治,太宗子。天后——武則天。唐高宗永徽六年立為皇后, 高宗稱天皇,武后稱天后。見《舊唐書》卷六《則天皇后本紀》。
- [30] 詳延——《漢書·武帝紀》:"故詳延天下方聞之士,咸肅諸朝。"詳,周遍。延,聘請,引進。
- [81] 横汾——漢武帝《秋風辭》中有"汎樓船号齊汾河,橫中流号揭素波"之句。
- [82] 柏梁——相傳漢武帝在柏梁臺上和墨臣聯句,共賦七曹詩,每人一句,每旬用

韻,一句一意。

- [33] 燕許——唐代駢文家張說(封燕國公,《舊唐書》卷九十七有傳)、蘇鎮(封許國公,《舊書書》卷八十八有傳)的並稱。當時期堂巨篇多出其手。《新唐書·蘇 鎮傳》:"自景龍後,與張說以文章顯,稱望略等,故時號燕許大手筆。"
- [34] 吳陸——吳通微,吳通玄,《舊唐書》卷一百九十下有傳。陸贊,《舊唐書》卷一百三十九有傳。他們在唐德宗時都曾任翰林學士,擅長文辭,朝廷韶令多出其手。陸營的奏議尤著名,屬駢文而非常流暢。
- [35] 劉寶——唐文宗大和二年策試賢良,他的對策"切論黃門太橫,將危宗社",考官"以為漢之異、童無以過之","言論激切,士林感動"。《舊唐書》卷一百九十下有傳。
- [86] 雕蟲——見揚雄《法言·吾子》, 這裏喩詞章。
- [37] 隋珠——《淮南子·覽冥訓》高誘注:"隋侯見大蛇傷斷,以樂傳之。後蛇于江 中衡大珠以報之,因日隋侯之珠,蓋明月珠也。"
- [38] 孔璣翠羽——孔璣, 色澤如孔雀羽的珠璣, 或卽孔雀石。璣是不圓的珠。《三國志・魏書》卷三〇《烏丸鮮卑東夷傳》: 倭國王遣大夫"獻上男女生口三十人, 質白珠五千、孔青大句珠二枚、異文雜錦二十匹。"翠羽, 鬚翠島的羽毛。曹植《洛神賦》: "或采明珠, 或拾翠羽。"
- [39] 細圖——指圖書。網是淺黃色的細網,古代多用以爲書衣。
- [40] 孔紹安——隋宋唐初文人。《舊唐書》卷一百九十上《文苑傳上》中第一篇是他的傳記。

#### 【説明】

五代時期,軍閥割據紛爭,政治極其混亂,經濟與文化遭到很大破壞,而少數上層統治階級的生活非常荒淫奢侈,精神空虛。 豔體詩和花間詞風的流行,反映了他們的藝術趣味。《舊唐書·文 遊傳序》表現出的崇尙駢儷的傾向,在當時也是有代表性的。它 提倡文飾,反對"是古非今"者的只知道"憲章《謨》《誥》、祖述《詩》 《騷》";竭力推崇聲律論的創導者沈約,認爲他的成就可和曹植、 謝靈運比美,並高度贊揚了初唐的文風。這種看法,與唐代以復 古爲革新的詩文運動倡導者的主張有很大差别,而和六朝的文 學思想比較接近。

《舊唐書》中對韓愈、李鄒雖有所肯定,"愈鄒揮翰,語切典 墳",但字裏行間,評價不是很高。它對柳宗元、劉禹錫的贊賞,也 着重於他們的"巧麗淵博,屬辭比事"。《元白傳論》標舉元稹、白 居易的制策、奏議爲"極文章之壺奧"。元、白這類文章是較六朝 的駢文爲樸素流暢,又不同於韓、柳的古文。《舊唐書》編者反對 "向古者傷於太僻,徇華者或至不經",所以特別稱道折衷華實之 作。這對於古文運動末流之弊,片面追求復古而尚奇好怪的風 氣,也有一定針砭作用。

# 附錄

# 舊唐書・韓愈張籍孟郊唐衢李翺宇文籍 劉禹錫柳宗元章辭傳(節錄)

### [五代] 劉 昫

韓愈,字退之,昌黎人。……常以爲自魏晉已還,爲文者多拘偶對,而經 誥之指歸,遷、雄之氣格,不復振起矣。故愈所爲文,務反近體,抒意立言, 自成一家新語。後學之士,取爲師法。當時作者甚衆,無以過之,故世稱 "韓文"焉。然時有恃才肆意,亦有盭孔、孟之旨。若南人妄以柳宗元爲羅 池神,而愈譔碑以實之;李賀父名晉,不應進士,而愈爲賀作〈諱辨〉,令舉進 士;又爲〈毛穎傳〉,费戲不近人情:此文章之甚紕繆者。時謂韓愈有史筆, 及撰〈順宗實錄〉,繁簡不當,敍事拙於取捨,頗爲當代所非。……

史臣曰:貞元、大和之間,以文學聳動曆紳之伍者,宗元、禹錫而已。其 巧麗淵博,屬辭比事,誠一代之宏才。如俾之詠歌帝載,黼藻王言,足以平 揖古賢,氣吞時聲。而蹈道不謹,昵比小人,自致流離,遂隳素業。故君子 羣而不黨,戒懼慎獨,正爲此也。韓、李二文公,於陵遲之末,遑遑仁義,有 志於持世範,欲以人文化成,而遺未果也。至若抑楊、墨,排釋、老,雖於道未 弘,亦端士之用心也。

贊曰: 天地經綸, 無出斯文。愈、鄭揮翰, 語切典墳。 **後雞斷尾**, 害馬敗零。僻**途**自噬, 劉、柳諸君。

中華書局排印本《舊唐書》卷一百六十

# 舊唐書·元稹白居易傳(節錄) 〔五代〕劉 昫

史臣曰: 舉才選士之法, 尙矣。自漢策賢良, 隋加詩賦, 罷中正之法,委銓舉之司。由是爭務雕蟲, 罕趨函丈, 矯首皆希於屈、宋, 駕肩並擬於《風》 《騷》。或侔箴闕之篇, 或效補亡之句。咸欲錙銖《採葛》, 糠秕《懷沙》, 較麗藻於碧雞, 鬭新奇於白鳳。暨編之簡牘, 播在管絃, 未逃季緒之詆訶, 孰望《子虚》之稱賞? 迨今千載, 不乏辭人, 統論六義之源, 較其三變之體, 如二班者蓋寡, 類七子者幾何? 至潘、陸情致之文, 鮑、謝淸便之作, 迨於徐、庾, 踵置增華, 纂組成而耀以珠璣, 瑶臺構而間之金碧。 國初開文館, 高宗禮茂才, 虞、許擅價於前, 蘇、李馳擊於後。 或位昇台鼎, 學際天人, 潤色之文, 咸布編集。 然而向古者傷於太僻, 徇華者或至不經, 齷齪者局於官商, 放縱者流於鄭、衞。若品調律度, 揚搉古今, 賢不肖皆賞其文, 未如元、白之盛也。 昔建安才子, 始定霸於曹、劉; 永明辭宗, 先護功於沈、謝。元和主盟, 徼之樂天而已。臣觀元之制策, 白之奏議, 極文章之壺奧, 盡治亂之根荄。非徒謠頌之片言, 盤盂之小說。 就文觀行, 居易爲優, 放心於自得之場, 置器於必安之地, 優游卒歲, 不亦賢乎。

贊曰:文章新體,建安、永明。沈、謝旣往,元、白挺生。但留金石,長有 ⟨莖>⟨英>。不智孫、吳,焉知用兵!

**中華書局排印本《舊唐書》卷一百六十六** 

# 應 責

#### [宋] 柳 開[1]

或貴曰:子處今之世,好古文與古人之道,其不思乎? 苟思之,則子胡能食乎粟、衣乎帛、安於衆哉? 衆人所鄙賤之,子獨貴尚之,孰從子之化也,忽焉將見子窮餓而死矣。

柳子應之曰:於乎! 天生德於人,聖賢異代而同出。其出之也,豈以汲汲於富貴,私豐於己之身也,將以區區於仁義,公行於古之道也[2]。已身之不足,道之足,何患乎不足;道之不足,身之足,則孰與足? 今之世與古之世同矣,今之人與古之人亦同矣。古之教民,以道德仁義[3];今之教民,亦以道德仁義。是今與古,胡有異哉? 古之教民者,得其位,則以言化之,是得其言也,衆從之矣;不得其位,則以書於後,傳授其人[4],俾知聖人之道易行,尊君敬長,孝乎父,慈乎子。大哉斯道也,非吾一人之私者也,天下之至公者也。是吾行之,豈有過哉? 且吾今恓恓草野,位不及身,將以言化於人,胡從於吾矣。故吾著書自廣,亦將以傳授於人也。

子貴我以好古文。子之言,何謂爲古文? 古文者,非在辭澀言苦,使人難讀誦之;在於古其理,高其意,隨言短長,應變作制,同古人之行事,是謂古文也。子不能味吾書,取吾意,今而視之,今而誦之;不以古道觀吾心,不以古道觀吾志,吾文無過矣。吾若從世之文也,安可垂激於民哉? 亦自愧於心矣。欲行古人之道,反類今人之文,譬乎遊於海者,乘之以驥,可乎哉? 苟不可,則吾從於古文。吾以此道化於民,若鳴金石於宫中,衆豈曰絲竹

之音也,則以金石而聽之矣。

食乎栗,衣乎帛,何不能安於衆哉? 苟不從於吾,非吾不幸也,是衆人之不幸也;吾豈以衆人之不幸,易我之幸乎? 縱吾窮餓而死,死卽死矣,吾之道豈能窮餓而死之哉?吾之道,孔子、孟軻、揚雄、韓愈之立也。子軻、揚雄、韓愈之立也。子不思其言,而妄責於我。貴於我也卽可矣;貴於吾之文,吾之道也,卽子爲我罪人乎!

《四部叢刊》影舊鈔本《河東先生集》卷一

#### 【註釋】

- [1]柳開(公元九四七年——一〇〇〇年)——字仲塗,大名人。宋太祖開寶六年進士,歷典州郡,官至如京使。有《河東集》十五卷、附錄一卷。《宋史》卷四百四十《文苑傳》有傳。
- [2] 登以汲汲於宮貴四句——柳開《與張員外書》:"學者豈爲名位以設其道也,爲 政以立其教也。"與此數語同意。
- [3] 古之教民二句——韓愈《原道》:"夫所謂先王之教者,何也?博愛之謂仁,行而宜之之謂義,由是而之焉之謂道,足乎己無待于外之謂德。"
- [4]不得其位三句——案:韓愈《答李翊曹》:"用則施諸人,舍則傳諸其徒,垂諸文而爲後世法。"卽柳語所本。

# 【説明】

唐代的古文運動,自韓愈、柳宗元以後,並未能進一步發展。 駢文在文學領域內,仍然佔着重要的地位。從五代到宋初,基本 情况沒有改變。當時牛希濟著《文章論》,就指出了當時文章"忘 於敎化之道,以妖豔爲勝",認爲"浮豔之文,焉能臻於道理"。但 是這種言論也沒有起多大影響。直至宋初,古文運動再度興起, 而爲之先驅者卽是柳開。

柳開原名肩愈,字紹先(一作元),意思是以韓、柳的繼承者自任。以後又改名開,字仲塗,自己說是"將開古聖賢之道於時

也, 將開今人之耳目使聰且明也, 必欲開之, 爲其塗矣, 使古今由 於吾也, ……吾欲達於孔子者也。"(《補亡先生傳》)《應責》一篇, 是全面闡述自己觀點的論文。

本文給古文作了如下的解釋: "古其理,高其意,隨言短長,應變作制,同古人行事。"所謂"古其理",即是古人之道,亦即本文所說的"道德仁義"等封建倫理。所謂"高其意",即是高出於"今人之文"的意。所謂"隨言短長",即是文章不尚"辭澀言苦,使人難讀誦",而要達到如韓愈所說"氣盛則言之短長與聲之高下者皆宜"的程度。"應變作制,同古人之行事",是要求古文家取法古人,古文要爲政教服務,要發揮"以言化於人"的作用。而這些要求,正是綺麗的"今人之文"所不能做到的。

根據以上的論點,他得出了道與文合一的結論,認為"吾之道,孔子、孟軻、揚雄、韓愈之道;吾之文,孔子、孟軻、揚雄、韓愈之文也"。二者之間的關係,則是道為目的而文為手段,道是主要的而文是次要的。他譬道為海,而文則是游海的工具。工具也必須與道相適應,用"今人之文"以明道,無異於游海而乘驥。他在《上王學士第三書》中曾有同樣的闡述:"文章為道之筌也,筌可妄作乎?筌之不良,獲斯失矣。""文惡辭之華於理,不惡理之華乎辭也。"范仲淹在《尹師魯集序》上說"五代文體薄弱,皇朝柳仲銓起而壓之",正是指出了他在反對晚唐、五代以來頹靡文風方面的功績。但由於他本着儒家傳統之教,認為今之世與古之世同,今之人與古之人同,沒有看到時代的發展,這是保守觀點;而他的文風也無可避免地仍有辭澀言苦之病。所以他只能成為宋初古文運動的先驅者,不能使這一運動獲得成功。

# 附 錄

#### 本文

### 〔宋〕趙 湘

靈乎物者文也, 固乎文者本也。本在道而通乎神明, 隨發以變, 萬物之 情盡矣。《詩》曰"本支百世",《禮》謂"行有枝葉",皆固本也。日月星辰之 於天,百穀草木之於地,參然紛然,司蠢植性,變以示來,問有遯者。嗚呼! 其亦靈矣,其本亦無邪而存乎道矣。聖人者生乎其間,總文以括二者,故細 大幽闡,咸得其分。由是發其要爲仁義孝悌禮樂忠信,俾生民知君臣父子 夫婦之業,顯顯焉不混乎禽獸。故在天地間,介介焉示物之變。蓋聖神者, 若伏羲之卦,堯、舜之典,大禹之謨, 湯之誓命, 文武之誥, 公且、公奭之詩, 孔子之禮樂,丘明之褒貶,垂燭萬祀,赫莫能滅。非固其本,則湮乎一息焉。 一息之凐,本且摇矣,而沉枝葉能爲後世之蔭乎?而沉能盡萬物之情乎? 《周禮》之後,孟軻、揚雄頗爲本者,是故其文靈且久;太史公亦漢之尤者也, 揚雄呼其文爲實錄,道之所推耳。又曰:"若孔門之用賦者,則賈誼升堂,相 如入室; 奈孔門之不用乎!"然則揚子之言非不用也, 本有所不固爾。《傳》 曰: "夫子之文章, 可得而聞也; 夫子之言性與天道, 不可得而聞也。"大哉 夫子之言,皆文也,所謂不可得而聞者,本乎道而已矣。後世之謂文者,求本 於飾,故爲閱玩之具,競本而不疑,去道而不恥,淫巫蕩假,磨滅聲教,將欲 盘萬物之情性,發仁義禮樂之根蒂,是郤克爲長萬之行,吾不見其易矣。或 曰: 古之文章, 所以固本者皆聖與賢, 今非聖賢, 若之何能之? 對曰: 聖與賢 不必在古而在今也。彼之狀亦人爾,其聖賢者心也,其心仁焉義焉禮焉智 焉信焉孝悌焉, 則聖賢矣。以其心之道, 發爲文章, 教人於萬世, 萬世不泯, 則固本也。今學古之文章而不求古之仁義之道,反自謂非聖賢不能爲之, 是果中道而廢者,果賊於儒術者,爲蠹教之物者。古之人將教天下,必定其 家,必正其身;將正其身,必治其心;將治其心,必固其道。道且固矣,然後 發辭以爲文,無凌替之懼,本末斯盛,雖曰未教,吾必謂之教矣。如不能,是

不若盲聵之夫也。盲聵者不學聖人之道,罔然無所知識,雖無所知,猶不為儒術之殘賊,不爲聖教之罪人矣。吁嗟!如是之不固也,其幸未混於禽獸爾,而沉能教人耶?而沉能道於萬世耶?或曰:今之言文本者,或異於子,如何?對曰:韓退之、柳子厚旣殁,其言者宜與余言異也。

《聚珍版叢書》本《南陽集》卷六

## 唐柳先生集後序

#### 〔宋〕穆 修

唐之文章,初未去周、隋、五代之氣,中間稱得李、杜,其才始用爲勝,而 號雄歌詩,道未極渾備。至韓、柳氏起,然後能大吐古人之文,其言與仁義 相華實而不雜。如韓《元和聖德》《平淮西》,柳《雅章》之類,皆辭嚴義密,製 述如經,能崒然聳唐德於盛漢之表蔑愧讓者,非先生之文則誰與?

予少嗜觀二家之文,常病柳不全見於世,出人間者,殘落纔百餘篇。韓 則雖(原校:雖下有目字)其全,至所缺墜,忘(原校:忘應作亡)字失句,獨於 集家爲甚。志欲補其正而傳之,多從好事訪善本,前後累數十,得所長,輒 加注竄。遇行四方遠道,或他書不暇持,獨齎(原作齋,誤)《韓》以自隨,幸 會人所實有,就假取正。凡用力於斯,已蹈二紀外,文始幾定。久(原校:久 應作而)惟柳之道,疑其未克光明於時,何故伏眞文而不大耀也?求索之莫 獲,則旣已矣於懷。不圖晚節,遂見其書,聯爲八九大編。夔州前序其首。 以卷別者凡四十有五,眞配韓之鉅文與!

書字甚模,不類今跡,蓋往昔之藏書也。從考覽之,或卒卷莫迎其誤脫,有一二廢字,由其陳故闡滅,讚無甚害,更資研證就眞耳。因按其舊,錄爲別本,與隴西李之才多讚累月,詳而後止。

嗚呼! 天厚予者多矣,始而饜我以韓,旣而飫我以柳,謂天不吾厚,豈不誣也哉! 世之學者,如不志於古則已;苟志於古,則踐立言之域,舍二先生而不由,雖曰能之,非余所敢知也。

《四部叢刊》影宋本《河南穆公集》卷二

# 尊 韓

#### 〔宋〕石 介

道始於伏羲氏,而成終於孔子。道已成終矣,不生聖人可也。故自孔子來二千餘年矣,不生聖人。若孟軻氏、揚雄氏、王通氏、韓愈氏,祖述孔子而師尊之,其智足以爲賢。孔子後,道屢廢塞,關於孟子,而大明於吏部。道已大明矣,不生賢人可也。故自吏部來三百有餘年矣,不生賢人。若柳仲塗、孫漢公、張晦之、賈公竦(一作疎),祖述吏部而師尊之,其志實降。

《正誼堂全書》本《石守道先生集》卷下

#### 夢溪筆談(選錄)

#### 〔宋〕沈 括

往歲士人多尙對偶爲文,穆修、張景輩始爲平文,當時謂之"古文"。穆、 張嘗同造朝,待且於東華門外,方論文次,適見有奔馬踐死一犬,二人各記 其事,以較工拙。穆修曰:"馬逸,有黃犬遇蹄而斃。"張景曰:"有犬死奔馬 之下。"時文體新變,二人之語皆拙澀,當時已謂之工,傳之至今。

上海出版公司排印本《**罗溪筆**談校證》卷十四

# 答張扶書[節錄]

〔宋〕王禹偁[1]

秀才張生足下: 僕之登第也, 與子之兄為同恩生<sup>[2]</sup>, 故僕兄事子之兄, 父事子之父, 子之與僕亦弟也。子又攜文致書, 問道於我, 雖他人宜有答也, 況子之於我哉! 然僕頃嘗爲長洲令, 因病起抄書, 得目疾, 不喜視書, 書不讀數年矣。雖強之, 少頃必息其目, 不數日不能竟一卷, 用是見僕道益荒, 而文益衰也。又四年之中, 再爲謫吏<sup>[3]</sup>, 頓挫摧辱, 殆無生意, 以私家之食之累, 未即引去, 黽勉於簿書間以度朝夕, 尚有意講道而評文乎? 爲子力讀十數章, 茫然難得其句, 昧然難見其義, 可謂好大而不同俗矣。

夫文,傳道而明心也。古聖人不得已而爲之也。且人能一乎(原作平, 誤)心至乎道,修身則無咎,事君則有立。及其無位也,懼乎心之所有,不得明乎外,道之所畜,不得傳乎後,於是乎有言焉;又懼乎言之易泯也,於是乎有文焉。信哉不得已而爲之也! 旣不得已而爲之,又欲乎句之難道邪? 又欲乎義之難曉邪? 必不然也。……今爲文而拾六經,又何法焉? 若第取其《書》之所謂"用由靈"[4],《易》之所謂"朋盍簪"[5]者,模其語而謂之古,亦文之弊也。近(原作迫,誤)世爲古文之主者,韓吏部而已。吾觀吏部之文,未始句之難道也,未始義之難曉也。其間稱樊宗師之文必出於已,不襲蹈前人一言一句[6];又稱薛逢爲文,以不同俗爲主[7]。然樊、薛之文,不行於世;吏部之文,與六籍共盡。此蓋吏部誨人不倦,進二子以勸學者。故吏部曰: "吾不師今,不師古,不師難,不師易,不師多,不師少,惟師是爾[8]。"

今子年少志專,雅識古道,又其文不背經旨,甚可嘉也。如 (原作姑, 誤)能遠師六經, 近師吏部, 使句之易道, 義之易曉, 又 輔之以學, 助之以氣, 吾將見子以文顯於時也。某頓首。

《四部費刊》影舊抄本《小音集》卷十八

#### 【註釋】

- [1] 王禹偁(公元九五四年———〇〇一年)——字元之, 濟洲鉅野人。宋太宗太平 興國八年進士,官至翰林學士知制酷,屢以事謫守郡,終於知蘄州。有《小畜集》 三十卷。《宋史》卷二百九十三有傳。
- [2] 同恩生----同一科舉進士者之稱。
- [3]四年之中再爲謫吏——禹偁於太宗至道元年(公元九九五年)坐韶訓,瞿知豫 州,召漫後,於眞宗咸平元年(公元九九八年)出知黄州,故云。
- [4] 弔由靈——《尙書·盤庚》語。弔,至。靈,善。謂謀於衆人時,"衆謀必有異見, 放至極用其善者。"(孔類達《正義》語)
- [5] 朋盍簪----《易·豫》九四爻辭。王弼註:"盍,合也。簪,疾也。"
- [6]其間稱樊宗師之文二句---樊宗師,字紹述,河中人。韓愈《南陽樊紹述墓誌 銘》:"多矣哉! 古未嘗有也。然而必出於己,不蹈襲前人一言一句。"
- [7] 又稱薛逢爲文二句——逢字乃公達之誤。韓愈《國子助教河東薛君墓誌銘》: "君譚公達,字大順,薛姓。……爲文有氣力,務出於奇,以不同俗爲主。"
- [8] 吾不師今七句——韓愈《答劉正夫書》:"或問爲文宜何師?必謹對日: 宜師古 聖賢人。曰: 古聖賢人所為書具存, 辭皆不同, 宜何師? 必謹對曰: 師其意, 不 師其辭。又問曰:文宜易宜難?必證對曰:無難易,惟其是爾。如是而已。"

#### 【説明】

王禹偁與柳開同時,爲宋初古文運動的前驅者。他反對五 代以來的頹靡文風。《哀髙錫》詩說:"文自咸通後,流散不復雅。 因仍歷五代,秉筆多豔冶。"《送孫何序》說:"咸通以來,斯文不 競; 革弊復古, 宜有所聞。"他在文學理論上, 與柳開同樣主張文 道合一,爲文尚平易,反對艱澀。但柳開繼承了韓愈門下皇甫湜 一派,爲文不免"辭澀言苦"之病。王禹偁在創作實踐上,確能貫

徹自己的主張,作品不僅有較強的思想性,而且語言也平易近人,不同於柳開的艱澀。

《答張扶書》是王禹偁文論的代表作。本文對道與文的關係問題,着重闡說了古文"傳道明心"的功能,乃"不得已而言之",為的是"懼乎言之易泯"。根據這一論點,得出了結論: "旣不得已而爲之,又欲乎句之難道邪? 又欲乎義之難曉邪?"作者旣主張古文貴在易曉,就反對那種"模其語而謂之古"的赝品。而他所取於韓愈的文論,則是"吾不師今,不師古,不師難,不師易,不師多,不師少,惟師是爾",以此作爲遵循的準則。

韓愈文論,原有"怪怪奇奇"、"佶屈聱牙"和"文從字順"、"惟師是爾"的兩方面。前者把古文帶上狹窄的途徑;後者才是韓文的成功之處,對於散文的發展,有一定的作用。王禹偁繼承了這一傳統,因此,在本文中特別闡說這一問題。與柳開的《應責》相較,雖然同樣論道與文,而論旨則不同。就其對宋代古文的影響來說,是歐陽修一派的先導。

# 附 錄

## 再答張扶書

#### [宋] 王禹偁

秀才張生足下,僕之前書,欲生之文句義道義易曉,遂引六經韓文以爲 證。生繼爲書啓,謂揚雄以文比天地而下云云者,甚乎哉,子之篤於道而好 於古者也! 僕爲子條辨之,庶知僕之用心也。

子之所謂揚雄以文比天地之不當使人而易度易測者,僕以爲揚雄自大之辭也,而非格言也,不可取而爲法矣。夫天地易簡者也,測天者知剛健不息,而行四時;而測地者知含弘光大,而生萬物;天地畢矣,何難測度哉?若較其轉尺廣袤,而後謂之盡,則天地乃一器也,安得言其廣大乎?且揚雄

之《太玄》,準《易》也。《易》之道,聖人演之,賢人注之,列於六經,縣爲學科,其義甚明而可曉也。揚雄之《太玄》,旣不用於當時,又不行於後代,謂雄死已來,世無文王、周、孔,則信然矣,謂雄之文過於伏羲,吾不信也。僕謂揚雄之《太玄》,乃空文爾,今子欲舉進士,而以文比《太玄》,僕未之聞也。

子又謂六經之文,語艱而義奧若十二三,易道而易曉者十七八,其艱奧 者,非故爲之語,當然矣。今子之文則不然,凡三十篇,語皆迂而艱也,義皆 昧而奧也,豈子之文也,過於六籍邪?若猶未焉,子其擇也。

子謂韓吏部曰"僕之為文,意中以爲好者,人必以爲惡焉,或時應事作俗,下筆令人慚,及示人,人卽以爲好"者,此蓋唐初之文,有六朝淫風,有四子監格,至貞元、元和間,吏部首唱古道,人未之從。故吏部意中自是,而人能是之者,百不一二;下筆自慚,而人是之者十有八九;故吏部有是數也。今吏部自是者,而著之於集矣;自慚者,棄之無遺矣。僕獨意《祭裴少卿文》在焉,其略云:"儋石之儲,不供於私室,方丈之食,每盛於賓筵。"此必吏部自慚,而當時人好之者也。今之世亦然也。子著書立言,師吏部之某可矣;應事作俗,取《祭裴文》可矣;夫何惑焉。

又謂"漢朝人莫不能文,獨司馬相如、劉向、揚雄爲之最",是謂功用深 具文(此二字有誤,應作收)名遠者,數子之文班固取之,列於《漢書》。若相 如《上林賦》《喻蜀》《封禪文》,劉向諫山陵,揚雄議邊事,皆子之所見也,曷 皆語艱而義奧乎?謂功用深者,取其理之當爾,非語適義暗而謂之功用也, 生其志之。

向有江翊黄者,自謂好古,僕見其文義尙淺,故答之曰,脩之不已,則爲聞人。今子喜慕高遠,欲專以絕俗爲主,故僕欲子之文,句易道,義易曉也。孔子曰:"田也兼人,故退之,求也不及,故進之。"亦僕之志也。某頓首。

《四部叢刊》影舊抄本《小畜集》卷十八

# **送 庶 幾 序**

#### 〔宋〕智 圓

吾今年夏,養病於孤山之下,雖困躓癯瘠,而以道自勝,晏如也。戶庭·234·

関然,無關茸者之跡,時有一顧於吾者,皆名僧巨儒耳。秋八月,律僧庶幾 謁吾,甚謹,旣坐而避席,且言欲從吾受古聖人書,學古聖人之爲文,冀吾採 納以誨之也。吾甚壯其志,以其能倍俗之好尚,慕淳古之道,斯則睎驥之徒 也。因命復坐,而語之曰:吾無深識遠見,胡能授若聖人之書乎?吾非魁手 鉅筆,胡能教若聖人之爲文乎?然吾於學佛外,考周、孔遺文,究楊、孟之言,或得微旨。若不以吾爲不肖,欲從吾學,吾於古聖人之文,豈有隱乎?

夫所謂古文者,宗古道而立言,言必明乎古道也。古道者何,聖師仲尼所行之道也。昔者仲尼祖述堯、舜,憲章文、武,六經大備,要其所歸,無越仁義五常也。仁義五常謂之古道也。若將有志於斯文也,必也研幾乎五常之道,不失於中而達乎變,變而通,通則久,久而合。道旣得之於心矣,然後吐之爲文章,敷之爲教化,俾爲君者如勛華,爲臣者如元愷,天下之民如堯、舜之民,救時之弊,明政之失,不順非,不多愛。苟與世齟齬,言不見用,亦冀垂空言於百世之下,闡明四代之訓,覽之者,有以知帝王之道可貴,霸戰之道可賤,仁義敦,禮樂作,俾淳風之不墜,而名揚於青史。蓋爲文之志也。

古文之作,誠盡此矣,非止澀其文字,難其句讀,然後為古文也。果以澀其文字,難其句讀爲古文者,則老、莊、楊、墨異端之書,亦何嘗聲律親對邪?以楊、墨、老、莊之書爲古文可乎?不可也。老、莊、楊、墨,棄仁義,廢禮樂,非吾仲尼祖述堯、舜憲章文、武之古道也。故爲文入於老、莊者謂之雜,宗於周、孔者謂之純。馬遷、班固之書,先黃、老,後六經,抑忠臣,飾主闕,先儒文之雜也;孟軻、揚雄之書,排楊、墨,罪霸戰,黜浮僞,尙仁義,先儒文之純也。吾嘗試論之,以其古其辭而倍於儒,豈若今其辭而宗於儒也。今其辭而宗於儒,謂之古文可也;古其辭而倍於儒,謂之古文不可也。雖然辭意俱古,吾有取焉爾。且代人所爲聲耦之文,未見有根仁抵義,模賢範聖之作者,連簡累贖,不出月露風雲之狀,詔時附勢之談,適足以傷敗風俗,何益於教化哉?

夫為文者,固其志,守其道,無隨俗之好惡,而變其學也。李唐韓文公《與馮宿書》曰:"僕為文久,每自測意中以為好,則人(以)為惡矣。小稱意,人亦小怪;大稱意,即人必大怪之也。時時應事作俗下者,下筆令人慙,及示人,人以為好矣。小慙者,亦蒙謂之小好;大慙者,必以為大好矣。"觀文公之言,則古文非時所尙久矣。非稟粹和之氣,樂淳正之道,胡能好之哉?

若年齒且壯, 苟於斯道加鞭不止, 無使俗謂大好, 無令心有大慙, 然後砥礪名節, 不混庸類, 則吾將期若於聖賢之域也。苟有其文而行違之, 則鳳鳴而隼翼也, 欲道之行, 吾不信也。《語》曰: "子張問行, 子曰: 言忠信, 行篤敬, 蠻貊之邦行矣。言不忠心(當作信), 行不篤敬, 雖州里行乎哉?"若其志之。

幾退而爲文,異日以數篇見於吾。覽其辭,頗有意翼能擯於浮華,尙於 理致。噫! 其可教也,成器可待也。吾由是待之異於他等。多十月,亟請 於吾曰: 幾旣承訓,今將有嘉禾之行,不得蛋莫見,乞言以爲戒。吾因錄誨 幾之言以爲貺,俾無忽忘之也。踐吾之言,則道可至矣。或曰:子,佛氏之 徒也,何言儒之甚乎? 對曰: 幾從吾學儒也,故吾以儒告之,不能雜以釋也。 幾將從吾學釋也,吾則以釋告之,亦不能雜以儒也。不濟其告,古之道也。 二十九日序。

《镶藏經》本《閑居編》卷第二十九

# 答韓三子華韓五持國韓六玉汝 見贈述詩<sup>[1]</sup>

## [宋] 梅堯臣[2]

聖人於詩言<sup>[3]</sup>,曾不專其中,因事有所激<sup>[4]</sup>,因物與以通<sup>[5]</sup>。 自下而磨上,是之謂國風<sup>[6]</sup>;雅章及頌篇,刺美亦道同<sup>[7]</sup>。不獨 識鳥獸<sup>[8]</sup>,而爲文字工。屈原作《離騷》,自哀其志窮,憤世嫉邪 意,寄在草木蟲。邇來道頗喪,有作皆言空: 烟雲寫形象,葩卉詠 青紅; 人事極諛諂,引古稱辨雄; 經營唯切偶,榮利因被蒙。遂使 世上人,只曰一藝充<sup>[9]</sup>,以巧比戲弈,以聲喻鳴桐<sup>[10]</sup>。嗟嗟一何 陋,甘用無言終! 然古有登歌<sup>[11]</sup>,緣醉合徵宮,辭由士大夫,不 出於瞽矇<sup>[12]</sup>。予言與時輩,難用猶篤舊<sup>[13]</sup>;雖唱誰能聽? 所遇 輒瘖聾。諸君前有贈,愛我言過豐。君家好兄弟,響合如笙叢。 雖欲一一報,強說恐非衷,聊書類頑石,不敢事磨礱<sup>[14]</sup>。

《四部設刊》本《宛陵先生集》卷二十七

## 【註釋】

- [1] 韓三子華——名絳,靈壽人。慶曆中進士。神宗朝,官至同中書門下平章事。 韓五持國——名維,絳弟。元祐初,官門下侍郎。有《南陽集》。韓六玉汝—— 名楓,維弟。哲宗朝,官尚書、右僕射兼中書侍郎。
- [2]梅堯臣(公元一〇〇二年——一〇六〇年)——字聖俞,宣城人。進士,官至 尚書都官員外耶。北宋著名詩人。著有《宛陵先生集》六十卷,世稱梅宛陵。 《宋史》卷四百四十三《文苑》有傳。
- [3]詩言——《毛詩序》:"發言為詩。"《禮記·樂記》:"詩言其志也。"孔類達《正義》:"詩謂言詞也。"

- [4]因事有所激——《漢書·藝文志》:"皆感于哀樂,緣事而發。"白居易《與元九書»:"詩歌合爲事而作。"
- [5]因物與以通——《毛詩序》鄭玄《箋》引鄭衆說:"與者託事于物。"
- [6] 自下而磨上二句——《毛詩序》:"上以風化下,下以風刺上,主文而譎諫, 言之者無罪,聞之者足以戒,故曰風。"
- [7] 雅章及頌篇二句——《毛詩序》: "言天下之事,形四方之風,謂之雅。……頌 者,美盛德之形容。"案:大小雅各篇的毛詩小序,明言美的十一,明言刺的五 十一。
- [8]不獨識鳥獸---《論語·陽貨》載孔子論詩,有"多識於鳥獸草木之名"的話。
- [9]只曰一藝充——只把它當作一種技藝。藝,指像下文所說弈棋、彈琴之類。
- [10]鳴桐——即彈琴。琴用桐木製成,故桐作為琴的代稱。
- [11] 登歌——祭祀燕饗時所奏的樂歌。
- [12] **瞽朦---周代樂官名,隸屬于春官大師。見《周禮·春官宗伯下》。**
- [13] 篇耀——《後漢書·光武帝紀》李賢註:"《爾雅》曰:'篤,困也。'《蒼頡篇》曰: '癃,病也。'"
- [14] 聊書類頭石二句——用《詩·小雅·鶴鳴》"它山之石,可以為錯"、"它山之石,可以攻玉"的語意。詩意是自比于它山之石,但自謙為不敢作為攻錯之用。也就是說,對對方提不出有益的意見。

## 【說明】

北宋初期,王禹偁論詩,推崇白居易,力圖挽回晚唐五代纖弱佻巧的風氣,但沒有發生多大影響。稍後西崑體興起,愈加講究詞藻,片面追求形式的華麗,詩風更壞。直到梅堯臣、歐陽修出來,才扭轉了這種傾向。歐、梅兩人之中,梅是專門用力於詩的。劉克莊《後村詩話》說:"本朝詩惟宛陵爲開山祖師。宛陵出,然後桑濮之哇淫稍熄,風雅之氣脈復續,其功不在歐、尹(洙)之下。"(見《後村大全集》卷一七四)這首《答韓三子華、韓五持國、韓六玉汝見贈述詩》就是從理論上提出的反西崑的宣言,"邇來"以下幾句都是針對西崑而說的。

詩中稱述《詩三百篇》的美刺傳統,這些,都和白居易《與元

九書》的論點大旨相同。說"自下而磨上,是之謂國風",強調的是"下以風刺上"的一面。他認為詩歌之作,是"因事有所激,因物與以通"。"因事有所激",說明文學和現實的關係問題;"因物與以通",已接觸到文學形象性的特質,較之"與發於此,而義歸於彼",就要透闢些了。

白居易認為"澤畔之吟,歸於怨思,彷徨抑鬱,不暇及他";又說《離騷》比與之義,僅能得風人十之二三,似乎對偉大詩人屈原的認識還有不足。而梅堯臣則以《離騷》直接繼承《詩三百篇》,把屈原彷徨抑鬱的怨思,提到"憤世嫉邪"的高度。

梅堯臣之所以能够自立一宗,爲宋詩作先導,一方面由於他發展了前人的進步理論,指出了詩歌發展的方向;另一方面也由於他在藝術風格上有自己獨特的見解。

他在《讀邵不疑學士詩卷》裏說: "作詩無古今,惟造平淡 難。""平淡"是梅所極力追求的藝術境界。所謂"平淡", 並不意 味着平庸和淺易;恰恰相反,他是主張以極其樸素的語言和高度 的寫作技術,表現出作品的內容。這種"平淡"風格的特點在於: 意在言外,耐人尋釋。如吃橄欖,從苦澀之中,咀嚼出不盡的甘 腴之味;要洗盡脂粉鉛華,給人以"老樹着花"的美感,使讀者體 味之後,感受到作品強烈的感染力。

所謂"惟造平淡難",不僅在於煉詞,也在於煉意。歐陽修《六一詩話》引梅聖俞語云: "詩家雖率意而造語亦難。……必能 狀難寫之景,如在目前,含不盡之意,見於言外,斯爲至矣。"又 說: "聖俞生平苦於吟詠,故其構思極難。" "聖俞覃思精微,以深 遠閑淡爲意。"劉克莊也說他"留意於句律",學梅的人只知道他 的詩淡,而不知他"殊不草草"。苦吟而以平淡出之,平淡而有深 遠之意,正如王安石所謂"看似尋常最奇崛,成如容易却艱辛" (見《題張司業集》),是不簡單的。 雖然梅堯臣在詩歌創作上並未能完全達到這種境界,然而在唐代詩歌高度發達、盛極難繼的情況下,他這種主張却在詩歌藝術方面開闢了一條新的途徑,南宋大詩人陸游早年就受到他的影響。

## 附 錄

## 傳神悅躬上人

## 〔宋〕梅堯臣

《四部費刊》本《宛陵先生集》卷十

## 讀蟠桃詩寄子美永叔(節錄)

## 〔宋〕梅堯臣

韓孟於文詞,兩雄力相當。偶以怪自戲,作詩驚有唐。篇章綴談笑,雷電擊幽荒。衆鳥誰敢和,鳴鳳呼其凰。孟窮苦纍纍,韓富浩穰穰。窮者啄其精,富者爛文章。發生一爲宮,鞏斂一爲商。二律雖不同,合奏乃鏘鏘。天之產奇怪,希世不可常。寂寥二百年,至寶埋無光。郊死不爲島,聖俞發其藏。……

◆四部費刊》本《宛陵先生集》卷二十四

## 答裴送序意

## 〔宋〕梅堯臣

我欲之許子有贈,爲我爲學勿所偏。誠知子心苦愛我,欲我文字無不全。居常見我足吟詠,乃以述作爲不然。始曰子知今則否?固亦未能無識焉。我於詩言豈徒爾,因事激風成小篇。辭雖琖陋頗尅苦,未到二雅未忍捐。安取唐季二三子,區區物象磨窮年。苦古著書豈無意,貧希祿廩廛俗牽。書辭辯說多碌碌,吾敢虛語同後先。唯當稍稍緝銘誌,願以直法書諧賢。恐子未職我此意,把筆懷歎臨長川。

《四部幾刊》本《宛陵先生集》卷二十五

## 寄滁州歐陽永叔(節錄)

## 〔宋〕梅堯臣

昔讀章公集,固多滁州詞。爛熳寫風土,下上窮幽奇。君今得此郡,名 與前人馳。君才比江海,浩浩觀無涯。下筆猶高帆,十幅美滿吹。一舉一 千里,只在顷刻時。尋常行舟艫,傍岸撑牽疲。有才旬如此,但恨不勇爲。 仲尼著《春秋》,貶骨常苦答。後世各有史,善惡亦不遺。君能切體類,鏡照 嫫與施。直辭鬼膽懼,微文姦魄悲。不書兒女書,不作風月詩。唯存先王 法,好醜無使疑。安求一時譽,當期千載知。……

《四部費刊》本《宛陵先生集》卷二十六

## 依韻和晏相公

## [宋] 梅堯臣

微生守賤貧,文字出肝膽。一爲清穎行,物象顏所寬。泊舟寒潭陰,野

與入秋麥。因吟適情性,稍欲到平淡。苦辭未圓熟,刺口劇菱芡。方將挹 溟海,器小已激鷹。廣流不拒細,愧抱獨慊慊。疲馬去軒時,戀嘶芻秣減。 茲繼《周南》篇,短橈寧及艦。試(疑當作誠)知不自量,感涕屢撣摻。

《四部費刊》本《宛陵先生集》卷二十八

# 讀邵不疑學士詩卷杜挺之忽來因出示之 且伏高致輒書一時之語以奉呈

#### 〔宋〕梅堯臣

作詩無古今,唯造平淡難。醫身有兩目,瞭然瞻視端。邵南有遺風,源 流應未殫。所得六十章,小大珠落盤。光彩若明月,射我枕席寒。含香視 草郎,下馬一借觀。旣觀坐長歎,復想李杜韓。願執戈與戟,生死事將壇。

《四部叢刊》本《宛陵先生集》卷四十六

## 書梅聖俞稾後

## 〔宋〕歐陽修

凡樂達天地之和,而與人之氣相接,故其疾徐奮動可以感於心,歡於惻愴可以察於聲。五聲單出於金石,不能自和也,而工者和之。然抱其器,知其聲,節其廉內而調其律呂,如此者工之善也。今指其器以問於工曰:彼鎮者、鏡者,堵而編,執而列者,何也?彼必曰:發、鼓、鍾、磬、絲、管、干、戚也。又語其聲以問之曰:彼淸者、濁者、剛而奮、柔而曼衍者,或在郊、或在廟堂之下而羅者,何也?彼必曰:八音五聲,六代之曲,上者歌而下者舞也。其聲器名物,皆可以數而對也。然至乎動盪血脈,流通精神,使人可以喜,可以悲,或歌或泣,不知手足鼓舞之所然,問其何以感之者,則雖有善工,猶不知其所以然爲。蓋不可得而言也。

樂之道深矣,故工之善者,必得於心應於手而不可述之言也;聽之善,亦必得於心而會以意,不可得而言也。堯、舜之時,變得之,以和人神,舞百

獸。三代春秋之際,師襄、師曠、州鳩之徒得之,爲樂官,理國家,知興亡。周 衰官失,樂器倫亡,散之河海。逾千百歲間,未聞有得之者。其天地人之和氣 相接者,旣不得泄於金石,疑其遂獨鍾於人。故其人之得者雖不可和於樂, 倚能歌之爲詩。古者登歌清廟,太師掌之。而諸侯之國,亦各有詩,以道其 風土性情。至於投壺饗射,必使工歌以達其意而爲賓樂。蓋詩者,樂之苗 裔與。

漢之蘇、李,魏之曹、劉,得其正始。宋、齊而下,得其浮淫流佚。唐之時,子昂、李、杜、沈、宋、王維之徒,或得其淳古淡泊之聲,或得其舒和髙暢之節;而孟郊、賈島之徒,又得其悲愁鬱堙之氣。由是而下,得者時有而不純焉。

今聖俞亦得之。然其體長於本人情、狀風物,英華雅正,變態百出。哆 兮其似春,凄兮其似秋,使人讚之可以喜,可以悲,陶暢酣適,不知手足之將 鼓舞也。斯固得深者邪! 其感人之至,所謂與樂同其苗裔者邪!

余嘗問詩於聖俞,其聲律之高下,文語之疵病,可以指而告余也;至其心之得者,不可以言而告也。余亦將以心得意會而未能至之者也。聖俞久在洛中,其詩亦往往人皆有之。今將告歸,余因求其稟而寫之。然夫前所謂心之所得者,如伯牙鼓琴,子期聽之,不相語而意相知也。余今得聖俞之稟,猶伯牙之琴絃乎!

《四部叢刊》影元本《歐陽文忠公文集》外集卷二十三

## 六一詩話(選錄)

## 〔宋〕歐陽修

梅聖俞嘗於范希文席上賦河豚魚詩云:"春洲生荻芽,春岸飛楊花,河豚當是時,貴不數魚蝦。"河豚常出於春暮,羣游水上,食絮而肥。南人多與荻芽爲蠹,云最美。故知詩者,謂祗破題兩句,已道盡河豚好處。聖俞平生苦於吟詠,以閒遠古淡爲意,故其構思極難。此詩作於嬌俎之間,筆力雄勝,頃刻而成,遂爲絕唱。

聖俞嘗語余曰:"詩家雖率意,而造語亦難,若意新語工,得前人所未道

者,斯為善也。必能狀難寫之景,如在目前,含不盡之意,見於言外,然後為至矣。賈島云:'竹籠拾山果,瓦瓶擔石泉',姚合云:'馬隨山鹿放,雞逐野禽栖'等,是山邑荒僻,官況蕭條,不如'縣古槐根出,官淸馬情高'為工也。"余曰:"語之工者固如是,狀難寫之景,含不盡之意,何詩爲然?"聖俞曰:"作者得於心,覽者會以意,殆難指陳以言也。雖然,亦可略道其髣髴。若嚴維'柳塘春水漫,花塢夕陽遲',則天容時態,融和駘蕩,豈不如在目前乎?又若溫庭筠'雞聲茅店月,人跡板橋精',賈島'怪禽啼曠野,落日恐行人',則道路辛苦,羈愁旅思,豈不見於言外乎?"

聖俞嘗云: "詩句義理雖通,語涉遂俗而可笑者,亦其病也。如有贈漁父一聯云: '眼前不見市朝事,耳畔惟聞風水聲',說者云惠肝腎風。又有詠詩者云: '盡日覓不得,有時還自來',本謂詩之好句難得耳,而說者云,此是人家失却貓兒詩,人皆以爲笑也。"

《歷代詩話》本《六一詩話》

## 梅聖俞別集序(節錄)

## 〔宋〕陸 游

······先生當吾宋太平最盛時,官京洛,同時多偉人互公,而歐陽公之文,蔡君謨之書,與先生之詩,三者鼎立,各自名家。文如尹師魯,書如蘇子美,詩如石曼卿輩,豈不足垂世哉,要非三家之比,此萬世公論也。先生天資卓偉,其于詩,非待學而工。然學亦無出其右者。方落筆時,置字如大禹

之鑄鼎,練句如后夔之作樂,成篇如周公之致太平,使後之能者欲學而不得,欲贊而不能,况可得而護許去取哉!歐陽公平生常自以爲不能望先生,推爲詩老。王荆公自謂《虎圖詩》不及先生包鼎畫虎之作,又賦哭先生詩,推仰尤至。晚集古句,獨多取焉。蘇翰林多不可古人,惟次韻和陶淵明及先生二家詩而已。雖然,使本無此三公,先生何歓;有此三公,亦何以加秋毫于先生。予所以論載之者,要以見前輩識精論公,與後世妄人異耳。……

中華書局排印本《陸游集·渭南文集》卷十五

## 跋西崑酬唱集

## 〔宋〕陸 游

祥符中,管下韶禁文體浮豔,議者謂是時館中作宜曲詩。宜曲見《東方 朔傳》。其詩盛傳都下,而劉楊方幸,或謂頗指宮掖。又二妃皆蜀人,詩中 有"取酒臨邛遠"之句。賴天子愛才士,皆置而不問,獨下韶諷切而已。不 然,亦殆哉。

中華書局排印本《陸游集・渭南文集》卷三十一

## 怪說中

## (宋)石介[1]

或曰:天下不謂之怪,子謂之怪。今有子不謂怪,而天下謂之怪。請爲子而言之,可乎?

曰: 奚其爲怪也? 曰: 昔楊翰林<sup>[2]</sup>欲以文章爲宗於天下,憂 天下未盡信己之道, 於是盲天下人目, 聾天下人耳。使天下人目 盲, 不見有周公、孔子、孟軻、揚雄、文中子、吏部之道; 使天下人 耳聾, 不聞有周公、孔子、孟軻、揚雄、文中子、韓吏部之道。俟 周公、孔子、孟軻、揚雄、文中子、韓吏部之道。俟 周公、孔子、孟軻、揚雄、文中子、東部之道滅, 乃發其盲, 開其聾, 使天下惟見己之道,惟聞己之道, 莫知其他。

今天下有楊億之道四十年矣。今人欲反盲天下人目,聾天下人耳。使天下人目盲,不見有楊億之道;使天下人耳聾,不聞有楊億之道。俟楊億道滅,乃發其盲,開其聾,使目惟見周公、孔子、孟軻、揚雄、文中子、吏部之道,耳惟聞周公、孔子、孟軻、揚雄、文中子、吏部之道。周公、孔子、孟軻、揚雄、文中子、吏部之道, 魏、禹、، 遇、文、武之道也, 三才、九疇<sup>[3]</sup>、五常之道也。反厥常,則爲怪矣。

夫《書》則有堯舜《典》、皋陶益稷《謨》、《禹貢》、箕子之《洪範》,詩則有大小雅、《周頌》《商頌》《魯頌》,《春秋》則有聖人之經,《易》則有文王之繇[1]、周公之爻[5]、夫子之十翼[6]。今楊億額姸極態,綴風月(原作力, 誤),弄花草, 淫巧侈麗, 浮華纂組; 刓鍐聖人之經, 破碎聖人之言, 離析聖人之意, 蠹傷聖人之道。使天下不爲《書》之《典》《謨》《禹貢》《洪範》, 詩之雅頌, 《春秋》之

經,《易》之繇、爻、十翼; 而爲楊億之窮姸極態, 綴風月, 弄花草, 淫巧侈麗, 浮華纂組。其爲怪大矣!

是人欲乎其怪而就於無怪,今天下反謂之怪而怪之,嗚呼! 《正誼堂全書》本《石守道先生集》卷下

#### 【註釋】

- [1] 石介(公元一〇〇五年——一〇四五年)——字守道, 兗州奉符人。曾居徂徠 山下,人稱為徂徠先生。仁宗天聖八年中進士, 初授嘉州判官, 後以直集賢院 出通判濮州。《宋史》卷四百三十二有傳。有《徂徠集》二十卷。《正誼堂全書》 有《石守道先生集》,分上下卷。
- [2] 楊翰林——楊億(公元九七四年———〇二〇年) 字大年,建州人。宋眞宗景德三年入翰林。《宋史》卷三百五有傳。宋時存其集一百九十四卷,後大部分亡佚,《四庫全書》收其《武夷新集》二十卷,《總目提要》說: "凡詩五卷,雜文十五卷,大致宗法李商隱,而時際昇平,春容典膽,無唐末五代衰與之氣。田況《儒林公護》稱億在兩禁,變文章之體,劉筠、錢惟演輩,皆從而數之,時號楊、劉。三人以詩更相屬和,極一時之麗,惟石介不以爲然,至作《怪說》以設之,見所著《徂徠集》中。近時吳之振作《宋詩鈔》,遂置億集不錄,未免隨擊附和。觀蘇載深以介說爲謬,至形之奏騰,知文章之不可以一格限矣。"
- [3]九曜——《書·洪範》:"天乃錫禹《洪範》九疇。"九曙,謂大法有九類。
- [4] 文王之繇——繇,音胄。《左傳》昭公七年"且其繇曰"杜預註: "繇,卦辭。"如乾卦下之"元亨利貞"。案: 《史記·周本紀》《法言·問神篇》《論衡》的《對作篇》《正說篇》都說文王演八卦爲六十四,《史記·日者傳》又言文王演三百八十四爻,不言文王作卦辭。鄭玄主張文王作卦爻辭,其說見孔類達《周易正義·論卦辭爻辭誰作》。
- [5]周公之爻——《易》每卦有六爻,爻下之辭曰爻辭,如乾卦下之"初九潛龍勿 用"。馬融、陸續、孔穎達都主張爻辭爲周公作,見《周易正義·論卦辭爻辭誰 作》。
- [6] 夫子之十翼-----《易·乾鑿度》:"仲尼五十究《易》,作十翼。"翼是翼成之意。 《易》之上下《彖》、上下《象》、上下《繋》、《文言》、《說卦》、《序卦》、《雜卦》等十 篇,是解釋《易》之作,稱為十翼。見《周易正義・論夫子十翼》。

## 【説明】

柳開、王禹偁倡導古文,孤軍作戰,在宋初還沒有形成爲有力的運動。真宗朝和仁宗初年,西崑派的狂瀾,席卷了當時文壇。歐陽修在《蘇氏文集序》上說:"天聖(仁宗年號)之間,予舉進士於有司,見時學者務以言語聲偶擿裂,號爲時文,以相誇尙。"在《配舊本韓文後》上說:"是時天下學者,楊、劉之作,號爲時文。能者以取科第,擅名聲,以誇榮當世,未嘗有道韓文者。"這說明淫靡文風從宋初延續了數十年之久。直到石介諸人出來,才進一步攻破了這座堡壘。

石介的《怪說》三篇,矛頭是公開指向楊億的。這裏選錄了中篇,其中着重論述的有如下兩個問題.

第一、關於道統與文統的問題。道統的觀念,起於《孟子·盡心》所說由堯、舜到湯、文王、孔子一個統序。韓愈在《原道》中說:"堯以是傳之舜,舜以是傳之禹,禹以是傳之湯,湯以是傳之文、武、周公,文、武、周公傳之孔子,孔子傳之孟軻,軻之死不得其傳焉。"這是古文家所提出的道統說。韓愈在《送孟東野序》中又從莊周、屈原到司馬遷、相如、揚雄到唐代的陳子昂以下作家勾出了一個文學的傳統圖。韓愈爲古文,強調"不惟其辭之好,好其道焉爾"(見《答李秀才書》),但道畢竟代替不了文,道統與文統也是兩回事,所以分別論列。孫樵《與王霖秀才書》自謂"樵嘗得爲文眞訣於來無擇,來無擇得之於皇甫持正,皇甫持正得之於韓吏部退之"。則又專詳文統而不及道統。石介繼承韓愈的精神,却把道統與文統看作是兩位一體。他以周公、孔子以來的道統,歸結到古文家韓愈身上,是道與文合一的看法。他在《與裴員外書》中謂"文之弊已久。……文之本日壞。……吾當思得韓、孟大賢人出,……"正是從文的角度去看韓、孟的道統的。

這種文道傳統合一的主張,實際上削弱了文學的獨立地位,要求文學成為專為封建教義服務的東西。這一統系後來並未取得人們的公認。當道學家與起以後,道學家以得孔、孟的"不傳之學"者自居,以周敦頤、程顥兄弟直接繼承孟軻之流,韓愈在他們的心目中,不過是一個得道之粗迹的文人。而歐、蘇、曾、王等散文家却被明人朱右、茅坤輩推作韓、柳的後繼者,合稱為唐宋八大家,清人加上李翱、孫樵擴展為十大家,桐城派又以歸有光、方苞直接上繼八家之統。儘管古文家也挾道以重文,但道統與文統終於不可復合了。

第二、關於淫靡文風的問題。本文對於楊億諸人"窮姸極態,緩風月,弄花草, 淫巧侈麗, 浮華纂組"的作風, 作了猛烈的抨擊。在這場鬥爭中, 石介的態度極爲堅定。他在《上范思遠書》中說自己"學爲文, 必本仁義, 凡浮碎章句, 淫巧文字, 利誘勢逐, 寧就於死, 曾不肯爲"。當時西崑文人"疾之如仇"。他呼籲"二三同志, 極力排斥之, 不使害於道"。可見這場文學論爭的激烈。

## 附錄

## 上趙先生書

## 〔宋〕石 介

臨上書先生左右:介近得姚鉉《唐文粹》及《昌黎集》。觀其述作,有三代制度、兩漢遺風,殊不類今之文。曰詩賦者,曰碑頌者,曰銘贊者,或序記,或書箴,必本於教化仁義,根於禮樂刑政,而後爲之辭。大者驅引帝皇王之道,施於國家,教於人民,以佐神靈,以漫蟲魚;次者正百度,敍百官,和陰陽,平四時,以舒暢元化,緝安四方。

今之爲文, 其主者不過句讚姸巧, 對偶的當而已; 極美者不過事實繁

多,聲律調諧而已。雕鎪篆刻傷其本,浮華緣飾喪其眞,於教化仁義禮榮刑政,則缺然無髣髴者。

《易》曰:"文明以止。觀乎人文,化成天下。"《春秋》傳曰:"經緯天地曰文。"堯則曰"欽明文思"。禹則曰"文命敷於四海"。周則曰"郁郁乎文哉"。 漢則曰"文章爾雅,訓辭深厚"。今之文何其衰乎?去唐百餘年,其間文人, 計以千數,而斯文寂寥缺壞,久而不振者,非今之人盡不賢於唐之人,盡不 能爲唐之文也。蓋其弊由於朝廷敦好時俗,習尚染積,非一朝一夕也。不 有大賢奮袂(一作臂)於其間,崛然而起,將無革之者乎?

唐之初,承陳、隋剝亂之後,餘人薄俗,尙染齊、梁流風,文體卑弱,氣質 叢脞,猶未足以鼓舞萬物,聲明六合。逮章武皇帝負義、軒之姿,懷唐、虞之 材,卓然起立於軒墀之上,武功戢定海內,刮瓶剔瑕,乾清坤寧,以文德化成 天下,驚潛燭幽,雷動日煩。韓吏部愈,應期會而生,學獨去常俗,直以古 道在己,乃《空桑》《雲和》,千數百年希關泯滅已亡之曲,獨唱於萬千人間。 衆人耳慣,所聽惟鄭、衞 德懲之聲,忽然聞其太古之上,無爲之世,雅頌正始 之晉,恍惚茫昧,如喪聰,如失明,有駭而亟走者,有陋而竊笑者,有怒而大 罵者。 叢聚嘲噪,萬口應答,聲無窮休。 愛而喜、前而聽、隨而和者,惟柳宗元、皇甫湜、李鄭、李觀、李漢、孟郊、張籍、元積、白樂天輩,數十子而已。 吏 部志復古道,奮不顧死,雖擯斥摧毀,日(一作十)百千端,曾不少改所守;數 十子亦皆協贊附會,能窮精畢力,効吏部之所爲。故以一吏部數十子力,能 勝百萬千人之衆人,能起三數百年之弊。唐之文章,所以坦然明白,揭於日 月,渾渾顏顏,浸如江海,同於三代,駕於兩漢者,吏部與數十子之力也。

今天子繼明守成,道德高厚,功業巍然,直與唐並。今卿士大夫,垂納 曳組,森森布列,行義超然,直與唐比。獨斯文邈乎不可視於唐,居上者點 畫語言,組織章句。如彼畫工,不知繪事後素以爲質,但誇其藻火之明,丹 漆之多。如彼追師,不知良玉不琢以爲美,但誇其雕刻之工,文理之縟,載 毫輦筆,窮山刊木,模刻其文字,布於天下,以爲後進(一本多式後進三字)。 耳所習聞,聲名赫奕,位望顯盛者;惟是不知前人有孟軻、揚雄、董仲舒、司 馬相如、賈誼、韓吏部、柳宗元之才之雄也。目所常見,制作淫麗,文辭侈靡 者;惟是不知前世有三代兩漢鉅唐之文之懿也。父訓其子,兄教其弟,童而 朱研其口,長而組織於手,天下靡然向風,寝以成俗。吁!無變之者,有以 待先生也;如唐之弊,變之待吏部也。繼唐之文章,紹吏部之志,維先生能,先生無與讓。

先生職與天地相際接,學臻古今蘊奧,名節德範,人倫師表。所謂有皋、變之才,伊、呂之志,周、孔之道,軻、雄之文。施之於一國之間,和風仁聲,油然其治矣;施之於廊廟之上,皇猷帝功,卓然其成矣。而命與才戾,四十始登一第,仕纔得上農夫之祿,料不能得居廟堂之上,調燮元化,骬謨百度,堯、舜其君,仁壽其民也。天豈虚先生於世哉?《傳》曰:"五百年一賢人生。"孔子至孟子,孟子至楊子,楊子至文中子,文中子至吏部,吏部至先生,其驗敷?孔子、孟子、楊子、文中子、吏部,皆不虚生也。存厥道於億萬世,迄於今而道益明也,名不朽也。今至文害雅,世教墮壞,扶願持危,當在有道。先生豈得不危(一作為)乎?仲尼有云:"吾欲託之空言,不如見之行事深切著明也。"

先生如果欲有為,則請先生為吏部。介願率士建中之徒,為李翺、李觀。先生唱於上,介等和於下;先生擊其左,介等攻其右;先生騎之,介等角之。又豈知不能勝茲萬百千人之衆,革茲百數千年之弊,使有宋之文,赫然為盛,與大漢相視,鉅唐同風哉! 語曰:"當仁不讓於師。"孔子不曰"天之未喪斯文也";孟子不曰"我亦欲正人心,息邪說,詎詖行,放淫辭,以承三聖";楊子不曰"後之塞路者有矣,竊自比於孟子";文中子不曰"千載之下有紹仲尼之業者,吾不得而讓也";吏部不曰"釋、老之害過於楊、墨,吾欲全之於已壞之後,使其道由愈而麤傳";蓋知其道在己不得而讓也。今者道實在於先生,豈得讓乎?介竊痛斯文衰,道不克(疑作充),力不足,不能救。世有賢儒君子,天下所屬意,豈特區區小子,竊有望乎左右。先生留意焉。

《正誼堂全書》本《石守道先生集》卷上

## 上蔡副樞密書(節錄)

## [宋] 石 介

······夫有天地故有文。天尊地卑,乾坤定矣;卑高以陳,貴賤位矣;動 靜有常,剛柔斷矣;方以類聚,物以羣分,吉凶生矣;在天成象,在地成形,變 化見矣。文之所由生也。天垂象,見吉凶,聖人象之;河出圖,洛出書,聖人則之;文之所由見也。觀乎天文以察時變,觀乎人文以化成天下,文之所由用也。三皇之書,言大道也,謂之三墳;五帝之書,言常道也,謂之五典。文之所由迹也。四始六義存乎《詩》,典謨誥誓存乎《書》,安上治民存乎《禮》,移風易俗存乎《樂》,窮理盡性存乎《易》,懲惡勸善存乎《春秋》,文之所由著也。

文之時義大矣哉! 故《春秋》傳曰: "經緯天地曰文。"《易》曰: "文明剛健。"《語》曰: "遠人不服,則修文德以來之。"三王之政曰"救質莫若文"。堯之德曰"煥乎其有文章"。舜則曰"潛哲文明"。禹則曰"文命敷於四海"。周則曰"郁郁乎文哉"。漢則曰"與三代同風"。故兩儀,文之體也;三綱,文之象也;五常,文之質也;九疇,文之數也;道德,文之本也;禮樂,文之節也;孝悌,文之美也;功業,文之容也;教化,文之明也;刑政,文之綱也;號令,文之聲也。聖人職文者也,君子章之,庶人由之。具兩儀之體,布三綱之象,全五常之質,敍九疇之數。道德以本之,禮樂以飾之,孝悌以美之,功業以容之,教化以明之,刑政以綱之,號令以聲之。燦然其君臣之道也,昭然其父子之義也,和然其夫婦之順也。尊卑有法,上下有紀,貴賤不亂,內外不濟,風俗歸厚,人倫旣正,而王道成矣。

今夫文者,以風雲爲之體,花木爲之象,辭華爲之質,韻句爲之數,擊律爲之本,雕錢爲之飾,組續爲之美,浮淺爲之容,華丹爲之明,對偶爲之綱,鄭、衞爲之聲,浮薄相扇,風流忘返,遺兩儀三綱五常九疇而爲之文也,棄禮樂孝悌功業教化刑政號令而爲之文也。聖人職之,君子章之,庶入由之。君臣何由明,父子何由親,夫婦何由順,奪卑何由紀,貴賤何由敍,內外何由別?而化日以薄,風日以至,俗日以僻。此其爲今之時弊也。……

《正誼堂全書》本《石守道先生集》卷上

## 西崑酬唱集序

## 〔宋〕楊 億

予景德中忝佐修書之任,得接羣公之遊,時今紫微錢君希聖、秘閣劉君·252·

子儀,並負懿文,尤精雜道,雕章麗句,膾炙人口。予得以游其牆藩而容其 楷模。二君成人之美,不我遐棄,博約誘掖,寘之同聲,因以歷覽遺編,研味 前作,挹其芳潤,發於希慕,更迭唱和,互相切勵。而予以固陋之姿,參訓繼 之末,入蘭游霧,雖獲益以居多,觀海學山,嘆知量而中止。旣恨其不至,又 犯乎不韙,雖榮於託驥,亦愧乎續貂,間然於茲,額厚何已。

凡五、七言律詩二百四十七章,其屬而和者又十有五人,析爲二卷,取 玉山策府之名,命之曰《西崑酬唱集》云爾。

《四部叢刊》影明本《西崑酬唱集》卷首

## 刊西崑詩集序

#### 〔明〕張 綖

論詩者類知宗盛唐, 黜晚唐, 斯二體信有辨矣。然詩道性情,古人朵之,觀風正樂,以在治忽者也。如不得作者之意,徒曰盛唐盛唐,予不知直似盛唐亦何以也。杜少陵,盛唐之祖也;李義山,晚唐之冠也。體相懸絕矣。 荆國乃謂唐人學杜者,惟義山得其藩籬,此可以意會矣。

楊、劉諸公倡和《西崑集》,蓋學義山而過者。六一翁恐其流靡不返,故以優游坦夷之辭矯而變之,其功不可少,然亦未嘗不有取於崑體也。徂徠、冷齋著爲《怪說》"詩厄",和者又從而張之,崑體遂廢,其實何可廢也。夫子一嘆由瑟,門人不敬子路,信耳者難以言喻如此。故曰"游於藝"。夫誠以藝游,晚唐亦可也。不然,盛唐猶是物也,奚得於彼哉?要必有爲之根源者耳。子美云:"文章一小技,於道未爲奪。"作者之言蓋如此。夫惟達宜聖游藝之旨,審杜老技道之序,味介甫藩籬之說,而得歐公變崑之意,詩道其庶矣乎!

嘉靖丁酉臘月,高郵張綖序。

《四部叢刊》影明本《西崑酬唱集》卷首

## 老學庵筆記(選錄)

## 〔宋〕陸 游

今人解杜詩,但尋出處,不知少陵之意,初不如是。且如《岳陽樓》詩: "昔聞洞庭水,今上岳陽樓。吳楚東南坼,乾坤日夜浮。親朋無一字,老病 有孤舟。戎馬關山北,憑軒涕泗流。"此豈可以出處求哉! 縱使字字專得出 處,去少陵之意益遠矣。蓋後人元不知杜詩所以妙絕古今者在何處,但以 一字亦有出處爲工。如《西崑酬唱集》中詩,何會有一字無出處者,便以爲 追配少陵,可乎? 且今人作詩,亦未嘗無出處,渠不自知,若爲之箋注,亦字 字有出處,但不妨其爲惡詩耳!

《津逮秘書》本《老學庵筆記》卷七

# 答吳充鬥秀才書

## 〔宋〕歐陽修[2]

修頓首白,先輩吳君足下: 前辱示書及文三篇,發而讀之,浩 乎若干萬言之多,及少定而視焉,纔數百言爾。非夫辭豐意雄, 霈然<sup>[3]</sup>有不可禦之勢,何以至此!然猶自患倀倀<sup>[4]</sup>莫有開之使 前者,此好學之謙言也。

修材不足用於時, 仕不足榮於世, 其毀譽不足輕重, 氣力不足動人。世之欲假譽以爲重, 借力而後進者, 奚取於修焉! 先輩學精文雄, 其施於時, 又非待修譽而爲重, 力而後進者也。然而惠然見臨(原校[下同]: 六字一作惠然而見及), 若有所責(一作求), 得(一無此字)非急於謀道, 不擇其人而問焉者歟?

夫學者,未始不爲道<sup>[5]</sup>,而至者鮮焉。非道之於人遠也,學 者有所獨焉爾。蓋文之爲言,難工而可喜,易悅而自足。世之學 者,往往獨之,一有工焉,則曰,吾學足矣。甚者至棄百事不關於 心,曰,吾文士也,職於文而已。此其所以至之鮮也。

昔孔子老而歸魯,六經之作,數年之頃爾。然讀《易》者如無《春秋》,讀《書》者如無《詩》(一作讀《春秋》者如無《詩》《書》)[6],何其用功少而至(此字一作自然)於至也。聖人之文,雖不可及,然大抵道勝者(一有於字)文不難而自至也。故孟子皇皇不暇著書,荀卿蓋亦晚而有作[7]。若子雲、仲淹方勉焉以模(三字,一作強區區力作)言語[8],此(一無此字,有而宏博不及孟荀之雄者十字)道未足而強(一作勉)言者也。後之惑者,徒見前世之文傳,以為學者文而已(此句一作又獨其悅也),故愈力(一無此二字)愈

動而愈不至。此足下所謂終日不出於軒序(一無此句)<sup>[9]</sup>,不能 縱橫高下皆如意者,道未(一作不)足也。若道之充焉,雖行乎 天地(一作下)入於淵泉,無不之也(一有何患不至四字)。

先輩(一作足下)之文, 浩乎霈然, 可謂善矣。而又志於爲道, 猶自以爲未廣, 若不止焉, 孟、荀可至而不難也。修學道而不至者, 然幸不甘於所悅而溺於所止, 因吾子之能不自止, 又以勵修之少進焉, 幸甚幸甚。修白。

《四部叢刊》影元本《歐陽文忠公文集》卷四十七

#### 【註釋】

- [1] 癸充(公元一〇二一年——一〇八〇年)——字冲卿,建州浦城人。青年時即 舉進士,熙寧末,同中書門下平章事。《宋史》卷三百十二有傳。
- [2]歐陽修(公元一〇〇七年——一〇七二年)——字永叔,號六一居士,蘆陵人。 天聖八年進士,曾官樞密副使、參知政事,諡文忠。著有《歐陽文忠公文集》一 百五十一卷、《新五代史》七十五卷。《宋史》卷三百十九有傳。
- [3] 糯然——同沛然,盛大貌。
- [4] 假假---迷茫不知所措貌。
- [5] 夫學者未始不爲道——未始,未嘗。韓愈《送陳秀才形序》: "蓋學所以爲道, 文 所以爲理也。"
- [6]然讀易者如無春秋二句——李翺《答朱载言書》:"創意造言,皆不相師。故其讀《春秋》也,如未嘗有《詩》也;其讀《詩》也,如未嘗有《易》也;其讀《易》也,如 未嘗有《書》也;其讀屈原、莊周也,如未嘗有六經也。"此爲歐陽語所本。又歐 陽修《與樂秀才第一書》云:"古之學者非一家,其爲道雖同,言語文章,未嘗相 似。孔子之繫《易》,周公之作《書》,奚斯之作頌,其辭皆不同,而各自以爲經。" 亦即是此意。
- [7] 荀卿蓋亦晚而有作——《史記·孟子荀卿列傳》:"春申君死而荀卿廢,因家蘭陵。……於是推儒墨道德之行事興壞,序列著數萬言而卒。"
- [8] 子雲仲淹句——子雲,揚雄字。仲淹,隋末王通字。揚雄《太玄經》模仿《易》, 《法言》模仿《論語》;王通《元經》(已佚)模仿《春秋》,《中說》模仿《論語》。所以 本文說他二人"勉焉以模言語",即鸚鵡聲舌之意。

#### 【説明】

宋初,柳開、穆修、王禹偁等開始提倡古文,意在糾正五代以來華靡駢偶的文風。但他們自己的創作,成就不大。宋代古文的復興,到歐陽修才真正顯出創作成績,從這篇《與吳充秀才書》,可以看出他的論文大旨。

在文與道的關係上,歐陽修以古文家的身份,從文的角度提出問題,主張重道以充文。他看出了文與道的聯繫,認為"道勝者文不難而自至",要想文章真正達到"工"的境地,所謂"縱橫高下皆如意者",就不得不和道聯繫起來。內容充實,自然發為光輝;反之,僅僅從文的本身着眼,則"愈力愈動而愈不至"。文中指出揚雄、王通等人從文字語言去模擬經傳,是"道未足而強言",正是闡明這個意思。從這個意思來說,道是本,文是末;然而學道是爲了充實文的內涵,其終極目的還在於文,則重道亦卽重文。這和後來道學家輕文重道,甚至認爲文能害道,把文和道對立起來,在提法上有着根本的區別。

從另一個方面來看,他說"道勝者文不難而自至",並不等於 說"有德者必有言"。在《送徐無黨南歸序》裏,他是把"三不朽" 分開來講的;而以顏淵爲例,說明德行之士不一定就能表現於文 章。可見道爲文之本,而道却代替不了文。"道勝者文不難而自 至",只不過是強調文人不應該溺文而輕道而已。柳開、石介等 人正因爲不瞭解這點,侈談"道統""文統"的結合,把文和道混爲 一談,因而他們在文的方面,也就體會得比較粗淺。

韓愈在《答李翊書》裏曾說,"將蘄至於古之立言者",說必須 注意道德的修養,"養其根而竢其實,加其膏而希其光"。歐陽修論 文,宗法韓氏,大旨略同;而對文與道的關係,他較韓愈說得透徹。 特別值得注意的,是歐陽修對於道的理解。篇中批判學道而 溺於文的文士,認為他們之所以學道而不能至,就在於"棄百事 不關於心,曰,吾文士也,職於文而已"。可見歐陽修所謂道的具體內容主要是現實生活中的"百事"。論文而推原於道,論學道而歸之於關心現實生活中的"百事",關心現實生活中的"百事"而道在其中,這樣,就給文士們指出了關心現實的態度,也說明了文學是不可脫離現實的。這種平實而淺易近人的看法,和後來一般道學家的空談心性,是不同的。

本篇雖然是論述文和道的關係,但它的實質,却初步接觸到文學和現實關係的問題。

## 附錄

## 送徐無黨南歸序

## 〔宋〕歐陽修

草木鳥獸之為物,衆人之為人,其為生雖異,而為死則同,一歸於廢壞 撕盡泯滅而已。而衆人之中,有聖賢者,固亦生且死於其間,而獨異於草木 鳥獸衆人者,雖死而不朽,逾遠而彌存也。其所以為聖賢者,修之於身,施 之於事,見之於言,是三者所以能不朽而存也。

修於身者無所不獲,施於事者有得有不得焉,其見於言者則又有能有不能也。施於事矣,不見於言可也。自《詩》《書》《史記》所傳,其人豈必皆能言之士哉。修於身矣,而不施於事不見於言亦可也。孔子弟子有能政事者矣,有能言語者矣。若顏回者,在陋巷,曲肱飢臥而已,其羣居則默然終日如愚人,然自當時羣弟子皆推奪之,以爲不敢望而及。而後世更百千歲,亦未有能及之者。其不朽而存者,固不待施於事,況於言乎。

予讚班固《藝文志》、唐四庫書目,見其所列,自三代、秦、漢以來,著書之士,多者至百餘篇,少者猶三四十篇,其人不可勝數,而散亡磨滅,百不一

二存焉。予竊悲其人,文章麗矣,言語工矣,無異草木榮華之飄風,鳥獸好 晉之過耳也。方其用心與力之勞,亦何異衆人之汲汲營營,而忽焉以死者, 雖有遲有速,而卒與三者同歸於泯滅。夫言之不可恃也蓋如此。

个之學者,莫不慕古聖賢之不朽,而勤一世以盡心於文字間者,皆可悲也。東陽徐生,少從予學,爲文章,稍稍見稱於人。旣去而與羣士試於禮部,得高第,由是知名。其文辭日進,如水湧而山出,予欲摧其盛氣,而勉其思也,故於其歸,告以是言。然予固亦喜爲文辭者,亦因以自警焉。

《四部義刊》影元本《歐陽文忠公文集》卷四十三

# 論尹師魯墓誌[1]

## [宋] 歐陽修

《誌》言: "天下之人, 藏與不識, 皆知師魯文學議論材能<sup>[2]</sup>。" 則文學之長, 議論之高, 材能之美, 不言可知。又恐太略, 故條 析其事, 再述於後。

述其文,則曰:"簡而有法。"此一句,在孔子六經,惟《春秋》可當之。其他經非孔子自作文章,故雖有法,而不簡也。修於師魯之文不薄矣。而世之無識者,不考文之輕重,但貴言之多少,云師魯文章不合祗著一句道了。

既述其文,則又述其學曰:"通知古今。"此語若必求其可當者,惟孔、孟也。

既述其學,則又述其論議云:"是是非非,務盡其道理,不苟 止而妄隨[3]。"亦非孟子不可當此語。

既述其論議,則又述其材能,備言:師魯歷貶,自兵與便在陝西,尤深知西事,未及施爲而元昊臣,師魯得罪[1]。使天下之人,盡知師魯材能。

此三者,皆君子之極美。然在師魯,猶爲末事。其大節乃篤 於仁義,窮達禍福,不媿古人。其事不可徧舉,故舉其要者一兩 事以取信。如上書論范公<sup>[5]</sup>而自請同貶,臨死而語不及私,則平 生忠義可知也。其臨窮達禍福,不媿古人,又可知也。

既已具言其文、其學、其論議、其材能、其忠義, 遂又言其爲 仇人挟情論告以貶死, 又言其死後妻子困窮之狀, 欲使後世知有 如此人, 以如此事廢死, 至於妻子如此困窮, 所以深痛死者, 而切

貴當世君子致斯人之及此也。

《春秋》之義,痛之益至,則其辭益深,"子般卒"[6]是也。詩人之意,貴之愈切,則其言愈緩,《君子偕老》[7]是也。不必號天叫屈,然後爲師魯稱寃(一作怨)也,故於其銘文,但云:"藏之深,固之密,石可朽,銘不滅。"意謂舉世無可告語,但深藏牢埋此銘,使其不朽,則後世必有知師魯者。其語愈緩,其意愈切,詩人之義也。而世之無識者,乃云銘文不合不講德,不辯師魯以非罪。蓋爲前言其窮達禍福,無媿古人,則必不犯法,況是仇人所告,故不必區區曲辯也。今止直言所坐,自然知非罪矣,添之無害,故勉徇議者添之。

若作古文自師魯始,則前有穆脩<sup>[8]</sup>、鄭條<sup>[9]</sup>輩,及有大宋先達甚多,不敢斷自師魯始也。偶儷之文,苟合於理,未必爲非,故不是此而非彼也。若謂近年古文自師魯始,則范公《祭文》<sup>[10]</sup>已言之矣,可以互見,不必重出也。皇甫湜《韓文公墓誌》、李鄒《行狀》不必同<sup>[11]</sup>,亦互見之也。

《誌》云: 師魯"喜論兵"。論兵, 儒者末事, 言喜無害。喜, 非 嬉戲之戲, 喜者, 好也, 君子固有所好矣。孔子言: 回也好學[12], 豈是薄顏回乎? 後生小子, 未經師友, 苟态所見, 豈足聽哉?

修見韓退之與孟郊聯句[13],便似孟郊詩,與樊宗師作誌[14], 便似樊文,慕其如此,故師魯之《誌》,用意特深而語簡,蓋為師魯 文簡而意深。又思平生作文,惟師魯一見,展卷疾讀,五行俱下, 便曉人深處。因謂死者有知,必受此文,所以慰吾亡友爾,豈恤 小子輩哉!

◆四部體刊》影元本《歐陽文忠公文集》卷七十三

## 【註釋】

[1] 尹師魯墓誌——尹洙(公元一〇〇一年——〇四六年)字師營,河南人。仁

宗天聖進士,官至起居舍人。有《河南集》二十七卷。《宋史》卷二百九十五有傳。《尹師魯墓誌銘》見《歐陽文忠公文集》卷二十八,乃仁宗慶曆八年所作。

- [2] 天下之人三句——《墓誌銘》原文為"然天下之士,識與不識皆稱之曰師魯,蓋 其名重當世。而世之知師魯者,或推其文學,或高其議論,或多其材能。"
- [3] 是是非非三句——《墓誌銘》原文為"其與人言,是是非非,務窮盡道理乃已,不為苟止而妄隨。"
- [4] 師魯歷貶以下五句——乃槪括《墓誌銘》原文大意。元昊,西夏貴族政權首領名。元昊即位後,起兵侵宋,至慶曆四年,始上表稱臣。事詳《宋史》卷四百八十五《夏國傳》。
- [5]上書論范公——《宋史·尹洙傳》:"會范仲淹貶,敕膀朝堂,戒百官為朋黨。洙上奏曰:'仲淹忠亮有素,臣與之義兼師友,則是仲淹之黨也。今仲淹以朋黨被罪,臣不可苟免。'"《墓誌銘》载:"范公貶饒州,諫官御史不肯言。師魯上書言:仲淹臣之師友,顯得俱貶。"
- [6]子般卒——見《春秋》莊公三十二年。《公羊傳》:"子般卒。子卒云子卒。此其稱'子般卒'何?君存稱世子,君薨稱子某,旣葬稱子,踰年稱公。"《穀梁傳》 范寧《集解》:"在喪故稱子,般其名也,莊公大子。不書弒,諱也。"
- [7]君子偕老——《詩·鄘風·君子偕老》《毛詩序》:"《君子偕老》,刺衞夫人也。" 詩有"子之不淑(善也),云如之何!""胡然而天也?胡然而帝也(爲什麼你被 奪敬得像天帝那樣)?"等句,故言"實之愈切,其言愈緩"。
- [8] 穆脩(公元九七九年———〇三二年)——字伯長, 郓州人。虞宗大中祥符時 賜進士出身, 初授泰州司理參軍, 官終題、蔡二州文學掾。有《穆參軍集》三卷。 《宋史》卷四百四十二《文苑傳》有傳。
- [9]鄭條---未詳。
- [10] 范公祭文----范仲淹《范文正集》卷六有《祭尹洙文》。
- [11] 皇甫提韓文公墓誌句——皇甫提《韓文公墓誌銘》見《皇甫持正集》卷六。李翰《故正議大夫行尚書吏部侍郎上柱國賜紫金魚袋贈禮部尚書韓公行狀》見《李文公集》卷十一。
- [12] 回也好學——《論語·雍也》:"哀公問弟子孰為好學? 孔子對曰:有顏回者好學。"
- [13]韓退之與孟郊聯句——《昌黎先生集》卷八有韓愈、孟郊聯句共九題,《孟東野集》別有韓、孟聯句三題。
- [14] 與樊宗師作誌——韓愈《南陽樊紹述墓誌銘》見《昌黎先生集》卷三十四。

#### 【説明】

歐陽修《論尹師魯墓誌》,提出了關於碑傳文寫作的原則問題。

碑誌屬於傳記文學範疇,所描寫的對象是人,在古代文集中 佔有相當大的數量。優秀的傳記文,由於作者對所紀述的人物 比較熟悉,評價比較公允,往往具有文學的和歷史的價值,可以 作爲撰寫史傳的依據,並補充史傳之所不及,反映出社會不同類 型人物的生活面貌。但一般地說來,由於碑誌的寫作,大都是受 了死者子孫的請託與報酬,作者不免曲筆徇情,以陳詞濫調,敷 凌成篇。於是碑誌往往流爲一種無聊的應酬文字。顧炎武《日知 錄》謂"蔡伯喈集中,胡廣、陳實各三碑,橋玄、楊賜、胡碩各二碑, 至於袁滿來年十五,胡根年七歲,皆爲之作碑,自非利其潤筆,不 至爲此"。碑誌文至此,眞不免太濫了。

韓愈的碑誌文,長於描寫人物,頗有些優秀作品。他曾指出作史應該"誅奸諛於旣死,發潛德之幽光"(見《答孟尚書書》),然而關於碑誌文,卻沒有從理論上加以具體的實踐;他的某些作品,還不免有"諛墓"之譏。

歐陽修是繼韓愈而起的古文家,又是歷史家。從文的角度來看,古文之所以爲"古",不僅僅在於語言文字不同於偶儷的俗體,更重要的是陳義之高,達到古人立言不朽的標準;從史的角度來看,則"不虛美,不溢惡"是一個正直的歷史家應有的態度,也是我國古代史傳文優良的傳統。把這種嚴肅的精神運用於碑誌文的寫作,則私人紀述,亦與史傳一樣傳信後世了。

在這兩篇文章裏,歐陽修通過具體的範例說明他對碑誌文的理論,並反復申述其寫作時用意之所在。歸納其內容,可分爲三個方面:首先,關於人物的評價問題,他認爲立言要有分寸,論

斷必須準確。決不因為滿足死者家屬的請求而輕以言議假人;即使在某一個細節上也是絲毫不苟的。他不同意宋代的古文作者始於尹洙,即其一例。其次,在處理題材方面,他主張碑誌文記大節,尙簡略而不貴繁縟。"其事不可徧舉,故舉其要者一兩事以取信"。他講到互見之例,已見於他人文中的就不必重複。復次,在行文措詞方面,他所提倡的是"文簡而意深"。"簡"謂有剪裁;"深"不是艱深,而是有含蓄,有言外之意,耐人專釋。他自己的作品,優遊不迫,婉而多風,是真正能達到這種境界的。

歐陽修《代人上王樞密求先集序》有云:"言所以載事而文所以飾言,事信言文,乃能表現於後世。""事信"必須是"不虛美,不溢惡",是非褒貶,都有意義可尋,才能稱爲忠實的紀錄。"言文"的基本要求,必須是有法有則。篇中所論,和劉知幾《史通·稅事篇》所說的"尙簡"與"用晦",用意是大致相同的。古文家所着重致力的是傳記文,歐陽修在這方面把史筆和文心結合起來,提出了明確的理論,成爲後來古文家"義法論"的先聲。

## 附 錄

## 與杜訢論祁公墓誌書

## [宋] 歐陽修

修啓: 專人至, 辱書。伏承暑熱, 孝履支福, 深慰企想。所要文字, 終不曾得的實葬日, 以謂十日尙遠, 遂未曾銓次。忽辱見索, 亦莫知葬期遠近。為一兒子惠傷寒, 三次勞發, 已一月在床, 虚乏可憂, 日夕憂迫, 心緒紛亂, 不能清思於文辭。縱使強爲之, 辭亦不工, 有玷淸德。如葬期逼, 乞且令韓舍人將《行狀》添改作誌文。修雖遲緩, 當自作文一篇紀述。平生知己, 先相公最深, 別無報答, 只有文字是本職, 固不辭, 雖足下不見命, 亦自當作。然須慎重, 要傳久遠, 不鬥速也。苟粗能傳述, 於後亦不必行, 況治命不用耶。

岩葬期未有日,可待,即尤好也,然亦只月十日可了。岩以愚見, 誌文不若且用韓公《行狀》爲便,緣修文字簡略,止記大節,期於久遠,恐難滿孝子意,但自報知己,盡心於記錄則可耳。更乞裁擇。

范公家神刻,為其子擅自增損,不免更作文字發明,欲後世以家集為信,續得,錄呈。尹氏子卒請韓太尉別為墓表,以此見朋友門生故吏與孝子用心常異,修豈負知已者,范、尹二家,亦可為鑒。更思之,然能有意於傳久,則須紀大而略小。此可與通識之士語,足下必深曉此。但因葬期速,恐倉卒不及,遂及斯言也。幸祭!

京師區區中,日為病患憂煎,不時遭人致問,夏熱節哀自愛。

《四部費刊》影元本《歐陽文忠公文集》外集卷十九

## 答錢公輔學士書

## 〔朱〕王安石

比蒙以銘文見屬,足下於世爲聞人,力足以得顯者,銘父母以屬於不腆之文,似其意非苟然,故輒爲之而不辭。不圖乃猶未副所欲,欲有所增損,鄙文自有意義,不可改也,宜以見還。而求能如足下意者爲之耳。家廟以今法準之,恐足下未得立也。足下雖多聞,要與識者講之。如得甲科爲通判,通判之署,有池臺竹林之勝,此何足以爲太夫人之榮,而必欲書之乎? 貴爲天子,富有天下,苟不能行道,適足以爲父母之羞,况一甲科通判? 苟粗知爲辭賦,雖市井小人,皆可以得之,何足道哉! 何足道哉! 故銘以謂閭巷之士以爲太夫人榮,明天下有識者不以置悲歡榮辱於其心也,太夫人能異於閭巷之士而與天下有識同,此其所以爲賢而宜銘者也。至於諸孫亦不足列,執有五子而無七孫者乎?七孫業之有可道,固不宜略,若皆兒童,賢不肖未可知,列之於義何當也? 賭不具道,計足下當與有識者講之。南去愈遠,君子惟順愛自重。

《四部聲刊》影明本《臨川先生文集》卷七十四

## 與李杲堂陳介眉書

## 〔明〕 黄宗羲

萬充宗傳喻,以高且中誌銘中有兩語,欲弟易之,稍就圓融。其一謂且中之醫行世,未必純以其術;其一謂身名就剝之句。弟文不足傳世,亦何難遷就其說。但念杲堂、介眉方以古文起亂河,芟除黃茅白葦之智,此等處未嘗熟講,將來爲名文之累不少,故略言之,蓋不因鄙文也。

夫銘者,史之類也。史有褒貶,銘則應其子孫之詩,不主褒貶。而其人行應銘,法則銘之;其人行不應銘,法則不銘;是亦褒貶寓於其間。後世不能概拒所請,銘法既亡, 猶幸一二大人先生一掌以埡江河之下, 言有裁量, 毀譽不淆。如昌黎銘王適, 言其謾婦翁;銘李虛中、衞之玄、李于, 言其燒丹致死;雖至善若柳子厚, 亦言其少年勇於爲人, 不自貴重。豈不欲爲之諱哉?以爲不若是, 則其人之生平不見也, 其人之生平不見, 則吾之所銘者, 亦不知誰何氏也, 將焉用之?大凡古文傳世, 主於載道, 而不在區區之工拙。故賢子孫之欲不死其親者, 一則曰宜得直而不華者, 銘傳於後; 再則曰, 某言可信,以銘屬之。荀欲誣其親而已, 又何取直與信哉! 亦以誣則不可傳, 傳亦非其親矣, 是皆不可爲道。

今夫旦中之醫,弟與晦木標榜而起,貴邑中不乏肩背相望,第旦中多一番議論緣飾耳。若曰其術足以蓋世而躋之和、扁,不應貴邑中擾擾多和、扁也。異者,旦中亦會以高下見質,弟應之曰:以秀才等第之,君差可三等。旦中欲稍軒之,弟未之許也。生前之論如此,死後而忽更之,不特欺世人,旦欺旦中矣。說者必欲高拾其術,非爲旦中也。學旦中之醫,旦中死,起而代之;下旦中之品,則代者之品亦與之俱下;故不得不爭其醫術之媒,是利旦中之死也。弟焉得膏唇販舌,媚死及生,周旋其刻薄之心乎?且銘中之意,不欲置旦中於醫人之列,其待之貴重,亦已至矣。如說者之言,乃所以薄待旦中也。

至於身名就剝之言, 更之尤不可解。古人立德、立功、立言三者, 且中有一於是乎? 自有宇宙, 不少賢達聖士, 當時爲人宗物望所歸者, 髙岸深

谷,忽然湮滅。是身後之名,生前著聞者尚不可必,況欲以一藝見長而未得 者乎?弟即全無心肝,謂且中德如會、史,功如禹、稷,言如遷、固,有肯信之 者乎?是於且中無秋毫之益也。惟是且中生平之志,不安於九品之下中, 故銘言日短心長,身名就剝,所以哀之者至矣。不觀歐公之銘張堯夫乎: "其有莫施,其爲不伐,充而不光,遂以昧滅,後孰知也。"堯夫爲歐公好友, 哀之至故言之切也。

今日古文一道,幾於墜地,所幸澗河以東二三君子,得其正路而由之, 豈宜復徇流俗,依違其說。弟欲杲堂、介眉,是是非非,一以古人為法,寧不 喜於今人,毋貼議於後人耳。若鄙文不滿高氏子弟之意,則如范家神刻,其 子擅自增損,尹氏銘文,其家別為墓表,在歐公且不免,而況於弟乎!此不 足道也。

《四部體刊》影原刊本《南雷文案》卷三

## 與程若韓書

## 〔淸〕方 苞

來示欲於誌有所增,此未達於文之義法也。昔王介甫誌錢公輔母,以公輔登甲科爲不足道,沉瑣瑣者乎?此文乃用歐公法,若多以退之、介甫法,倘可損三之一。假而周、秦人爲之,則存者十二三耳。此中出入離合,足下當能辨之。足下喜誦歐公文,試思所熟者《王武恭》《杜祁公》諸誌乎?抑《黃夢升》《張子野》諸誌乎?然則在文言文,雖功德之崇,不若情辭之動人心目也,而沉職事族姻之繼悉乎?夫文未有繁而能工者,如煎金錫,麤礦去然後黑濁之氣竭而光潤生。《史記》《漢書》長篇,乃事之體本大,非按節而分寸之不遺也。前文會更削減,所謂多用介甫法者,以通體近北宋人,不能更進於古。今並附覽,愛以解其蔽,必欲增之,則置此而別求能者可也。

《四部叢刊》影戴氏原刊本《方望溪先生全集》卷六

# 仲兄字文甫說

〔宋〕蘇 洵[1]

洵讀《易》至《渙》之六四曰:"渙其羣元吉<sup>[2]</sup>。"曰,嗟夫,羣者,聖人所欲渙以混一天下者也。蓋余仲兄名渙,而字公羣,則是以聖人之所欲解散滌蕩者以自命也,而可乎?他日以告,兄曰:子可無爲我易之。洵曰:唯。旣而曰:請以文甫易之。如何?

且兄嘗見夫水之與風乎?油然[3]而行,淵然[4]而留,洿泗[5] 汪洋,滿而上浮者,是水也。而風實起之。蓬蓬然[6]而發乎太空, 不終日而行乎四方,蕩乎其無形,飄乎其遠來,旣往而不知其跡 之所存者,是風也。而水實形之[7]。今夫風水之相遭乎大澤之 陂也[8],紆餘委虵[9],蜿蜒淪漣[10],安而相推,怒而相凌,舒而如 雲,蹙而如鱗,疾而如馳,徐而如徊,揖讓旋辟[11],相顧而不前, 其繁如縠,其亂如霧,紛紜鬱擾,百里若一。汩乎順流[12]至乎滄 海之濱,滂薄洶湧,號怒相軋,交橫綢繆[13],放乎空虛,掉乎無 垠,橫流逆折[14],濱旋[15]傾側,宛轉膠戾[16],回者如輪,縈者如 帶,直者如緣,奔者如餘,跳者如鷺,投者如鯉,殊然異態,而風水 之極觀備矣。故曰"風行水上渙"[17]。此亦天下之至文也。

然而此二物者, 豈有求乎文哉?無意乎相求, 不期而相遭, 而文生焉。是其爲文也, 非水之文也, 非風之文也。二物者非能 爲文, 而不能不爲文也, 物之相使而文出於其間也, 故此天下之 至文也。今夫玉非不溫然美矣, 而不得以爲文; 刻鏤組繡, 非不 文矣, 而不可與論乎自然; 故夫天下之無營[18]而文生之者, 唯水 與風而已。 昔者,君子之處於世,不求有功,不得已而功成,則天下以爲賢;不求有言,不得已而言出[19],則天下以爲口實[20]。烏乎!此不可與他人道之,唯吾兄可也。

《四部叢刊》影宋本《嘉祐集》卷十四

## 【註釋】

- [1]蘇洵(公元一〇〇九年——一〇六六年)——字明九,眉山人。官秘書省校書 郎、文安縣主簿。有《嘉祐集》二十卷。《宋史》卷四百四十三《文苑》五有傳。
- [2] 渙其羣元吉——《渙》,《周易》卦名。六四,爻名。孔額達《周易正義》:"······渙 者散釋之名。······渙是離散之號也。"又曰:"能爲羣物散其險害,故曰'渙其羣' 也。······能散羣險,則有大功,故曰'元吉'也。"
- [3]油然——流行貌。
- [4] 淵然——水深貌。
- [5] 停泗——水靜止貌。
- [6]蓬蓬然——風起之貌。《莊子·秋水》:"蓬蓬然起於北海。"
- [7]而水實形之——風無形貌,而從水的動態中可以看到風的形貌,所以說"水實形之。"
- [8]陂---池。 道裏指湖泊。
- [10] 淪連——《詩·伐檀》毛傳釋淪字云:"風水成文轉如輪也。"又:"風行水成文曰 遵。"
- [11] 旋辟——旋轉迴避。
- [12] 汩乎順流——司馬相如《上林赋》:"汩乎混流。"汩, 音串, 水流迅疾貌。
- [13] 網黎——互相連結。
- [14] 横流逆折——司馬相如《上林赋》句。
- [15] 濱旋——水涌起旋轉。
- [16] 廖戾——邪曲貌。
- [17] 風行水上渙——《易·渙》卦: "象曰:風行水上渙。"孔穎達《正義》: "風行水上,激動波濤,散釋之象,故曰風行水上渙。"
- [18] 無整~~~無意於經營。

- [19] 不得已而言出——韓愈《送孟東野序》: "人之于言也亦然,有不得已者而後言。"
- [20] 口實——見本書第一册《詩品序》註[70]。

## 【説明]

文學家自言其創作過程,大致不出二大類型。一種是談甘苦疾徐的體會,極人巧以通於天工,如陸機《文賦》的大部分內容,劉勰《文心雕龍》中不少專篇,都能示人以可以遵循的規矩。又一種是偏重於談與會,所謂"文章本天成,妙手偶得之"(陸游《文章》),《文賦》的後段以及宋人蘇氏父子的文論,可爲代表。

蘇洵《仲兄字文甫說》闡說了文學創作上天人湊泊的問題。 他用風水相遭而成文作比喻,認爲"無意乎相求,不期而相遭,而 文生焉"的作品,才是"天下之至文"。水,比喻創作的源泉和藝術 修養; 風, 比喻創作衝動不能已於言的一種狀態, 殷璠《河嶽英靈 集序》所謂"情來,與來,神來",即是此意。"是水也,而風實起之"; "是風也,而水實形之"。兩相湊泊,才能極文章之偉觀。蘇洵這 種強調神來的理論,比之陸機《文賦》"咸應之會,通塞之紀"一段 的闡說, 更爲全面與具體; 比之韓愈《答李翊書》所謂"當其取於 心而注於手也, 汩汩然來矣", 也進了一步。韓愈只談到學養功 深,就能得心應手,取之不竭;而沒有接觸到好文章的寫出,還有 待於神來。再比之田錫《貽宋小著書》所說"若使援毫之際,屬思 之時,……隨其運用而得性,任其方圓而寓理,亦猶微風動水,水 無定文,太虛浮雲,莫有常態",蘇論也較爲深透。田文僅說到搁 文時的隨物賦形, 同用風水之喻, 而意義懸殊。蓋陸、韓諸家所 論述的,只限於一面,蘇洵比較全面地指出了滿而上浮的水必有 待於風的鼓盪,才成爲天下之至文。槃深的根柢與淋漓的興會 交相爲用而不可缺一。否則便如溫然之玉僅具內在之美,固"不

得以爲文"; 而"刻鏤組繡"的作品, 也"不可與論乎自然"。

後來蘇軾的文論,頗受其父的影響。如《江行唱和集序》說: "夫昔之爲文者,非能爲之爲工,乃不能不爲之爲工也。山川之 有雲霧,草木之有華實,充滿物鬱而見於外。夫雖欲無有,其可得 邪!"蘇軾自己的創作,所謂"吾文如萬斛泉源,不擇地皆可出, 在平地,滔滔汩汩雖一日千里無難。及其與山石曲折、隨物賦 形而不可知也。所可知者,常行於所當行,常止於不可不止,如 是而已矣。其他雖吾亦不能知也。"這跟蘇洵所謂"二物者非能 爲文,而不能不爲文也;物之相使而文出於其間也"的說法是一 致的。

不過,文學的與會與靈威,其主要來源還是生活。因此,風水相遭之說可以有唯物的解釋,也可以有唯心的解釋,讀蘇氏文論,應該注意到如蘇軾在《江行唱和集序》中所說"山川之秀美,風俗之樸陋,賢人君子之遺迹,與凡耳目之所接者,雜然有觸於中,而發於詠嘆"的話,否則是容易偏到唯心論方面去的。

## 附錄

## 江行唱和集序

## 〔宋〕蘇 軾

夫昔之爲文者,非能爲之爲工,乃不能不爲之爲工也。山川之有雲霧, 草木之有華實,充滿勃鬱而見於外,夫雖欲無有,其可得耶! 自聞家君之論 文,以爲古之聖人有所不能自已而作者,故軾與弟轍爲文至多,而未嘗敢有 作文之意。

已亥之歲,侍行適楚,舟中無事,博弈飲酒,非所以爲閨門之歡。而山川之秀美,風俗之樸陋,賢人君子之遺迹,與凡耳目之所接者,雜然有觸於中,而發於詠嘆。蓋家君之作,與弟轍之文皆在,凡一百篇,謂之《南行集》。

將以識一時之事,爲他日之所轉繹,且以爲得於談笑之間,而非勉強所爲之 文也。時十二月八日,江陵驛書。

文學古籍刊行社版《經進東坡文集事略》卷五十六

## 鳧釋先生文集敍(節錄)

#### 〔宋〕蘇 軾

……昔吾先君適京師,與卿士大夫遊,歸以語軾曰:自今以往,文章其日工,而道將散矣。士慕遠而忽近,貴華而賤實,吾已見其兆矣。以魯人鳧繹先生之詩文十篇示軾曰:小子識之,後數十年,天下無復爲斯文者也。先生之詩文,皆有爲而作,精悍確苦,言必中當世之過,鑿鑿乎如五穀必可以療飢,斷斷乎如藥石必可以伐病,其游談以爲高、枝詞以爲觀美者,先生無一言焉。其後二十餘年,先君旣沒,而其言存。士之爲文者,莫不超然出於形器之表。微言高論,旣已鄙陋漢唐,而其反復論難、正言不諱,如先生之文者,世莫之貴矣。……

文學古籍刊行社版《經進東坡文集事略》卷五十六

# 答綦君更生論文書

#### 〔宋〕樓 鑰

錦講聞簡譽久矣。茲承惠然背顧,教以長書,論文章大體,筆力袞袞, 大過所聞,幸甚幸甚。鑰少智舉業,不過欲應有司之求,作吏以來,雖粗有 意於此,而精神多敵於無用。宦遊往來,忽焉半百,重以二三年間,憂禍薫 心,偶然不死,以至今日。舊學本自無幾,益覺荒落,倘何足以言此!而厚 意不可虚辱,試吐一二,相與質正之。

來書謂長江東流,不見其怪,程唐、灎酒之所迫東,而後有動心駭目之觀。誠是也。然豈水之性也哉?水之性本平,彼遇風而紋,遇壑而奔。浙江之壽,蜀川之險,皆非有意於奇變,所謂湛然而平者,固自若也。灎酒之

立中流,或謂其乃所以爲平,此言尤有深致。故樂之未亡也,與天地同和, 可以感發人之良心; 而其旣亡也, 史紀其精者, 謂能使人歎息悽愴, 至泣下 **霑襟者,然後以爲聲之妙。曾不知哀以思者,乃亡國之音,所謂安以樂者何** 在耶?清廟之瑟,一唱而三歎,其亦異於後世之樂矣。妄意論文者,當以是 求之,不必惑於奇而先求其平。唐三百年,文章三變而後定,以其歸於平 也。而柳子厚之稱韓文公,乃曰"文益奇",文公亦自謂"怪怪奇奇",二公豈 不知此,蓋在流俗中以爲奇,而其實則文之正體也。宋景文公知之矣,謂其 "粹然一出於正",至其所自爲文,往往奇澀難讚,豈平者難爲工,奇者易以 動,文人氣習,終未免耶?典、謨、訓誥,無一語之奇,無一字之異,何其渾然 天成如此! 文人欲髙一世,或挾戰國策士之氣以作新之,誠可以傾慰觀聽, 要必有太過處。嗚呼!如伊川先生之《易傳》,范太史之《唐鑑》,心平氣和, 理正詞直,然後爲文之正體,可以追配古作。而遽讚之者,未必深喜,波平 水쮉,過者以爲無奇,必見髙崖懸瀑而後快。韓文公之文,非無奇處,正如 長江數千里,奇險時一間見,皆有觸而後發;使所在而然,則爲物之害多矣。 故古文之感人,如清廟之瑟。若孟郊、賈島之詩,窮而益工者,悲憂憔悴之 官,雖能感切,不近於哀以思者乎?

**逾**本不敢爲人言,言之又極平平。視來書豪壯頓控之氣,亦甚異矣。 人之少而壯,壯而老,如朝氣之銳,畫墮而暮則歸。鑰方墮而將歸,欲以當 足下之銳,宜其說之不相似;然時時讚足下之書以作其墮,足下亦味鑰之言 以趨於平,亦朋友相資之義也。豈惟文哉?喜怒哀樂之未發,與夫平且之 氣,顧豈有一毫之不平?古人欲寡其過而未能,此意安在?幸併思之。多 冒媿甚,惟足下諒之而已。

《四部費刊》影武英殿聚珍版本《攻塊集》卷六十六

## 竹溪先生文集引(節錄)

#### 〔金〕趙秉文

文以意爲主,辭以達意而已。古之人不尙虛飾,因(原本作且,據《畿輔 叢書・閑閑老人滏水集》校改)事遺辭,形吾心之所欲言者耳。間有心之所 不能言者,而能形之於文,斯亦文之至乎?譬之水不動則平,及其石激淵 洄,紛然而龍翔,宛然而鳳蹙,千變萬化,不可殫窮,此天下之至文也。亡宋 百餘年間,唯歐陽公之文不爲尖新艱險之語,而有從容閑雅之態,豐而不餘 一言,約而不失一辭,使人讚之者,亹亹不厭,蓋非務奇之爲尙,而其勢不得 不然之爲尙也。……

《四部戰刊》影汲古閣精寫本《閑閑老人溢水集》卷十五

# 伊川擊壤集門序

### [朱] 邵 雍[2]

《擊壤集》,伊川翁<sup>[3]</sup>自樂之詩也。非唯自樂,又能樂時與萬 物之自得也。

伊川翁曰:子夏謂"詩者,志之所之也。在心爲志,發言爲 詩。情動於中而形於言,聲成其文而謂之音<sup>[4]</sup>。"是知懷其時則 謂之志,咸其物則謂之情,發其志則謂之言,揚其情則謂之聲,言 成章則謂之詩,聲成文則謂之音。然後聞其詩,聽其音,則人之 志情可知之矣。且情有七<sup>[5]</sup>,其要在二,二謂身也,時也。謂身則一身之休感也,謂時則一時之否泰<sup>[6]</sup>也。一身之休感,則不過 貧富貴賤而已;一時之否泰,則在夫與廢治亂者焉。是以仲尼刪《詩》,十去其九<sup>[7]</sup>;諸侯千有餘國,風取十五<sup>[8]</sup>;西周十有二王,雅取其六<sup>[9]</sup>。蓋垂訓之導,善惡明著者存焉耳。

近世詩人,窮感則職於怨憝<sup>[10]</sup>,榮達則專於淫泆<sup>[11]</sup>。身之休感,發於喜怒;時之否泰,出於愛惡。殊不以天下大義而為言者,故其詩大率溺於情好也。噫!情之溺人也甚於水。古者謂水能載舟,亦能覆舟<sup>[12]</sup>,是覆載在水也,不在人也。載則爲利,覆則爲害,是利害在人也,不在水也。不知覆載能使人有利害耶,利害能使水有覆載耶?二者之間,必有處焉。就如人能蹈水,非水能蹈人也,然而有稱善蹈者,未始不爲水之所害也。若外利而蹈水,則水之情亦由人之情也;若內利而蹈水,則敗壞之患立至於前。又何必分乎人焉水焉,其傷性害命一也。

性者,道之形體也,性傷則道亦從之矣。心者,性之郛郭[18]

也,心傷則性亦從之矣。身者,心之區宇也,身傷則心亦從之矣。 物者,身之舟車也,物傷則身亦從之矣。是知以道觀性,以性觀心,以心觀身,以身觀物,治則治矣,然猶未離乎害者也。不若以 道觀道,以性觀性,以心觀心,以身觀身,以物觀物,則雖欲相 傷,其可得乎?若然,則以家觀家,以國觀國,以天下觀天下,亦 從而可知之矣。

予自壯歲,業於儒術,謂人世之樂,何嘗有萬之一二,而謂名教之樂<sup>[14]</sup>,固有萬萬焉。況觀物之樂,復有萬萬者焉。雖死生榮辱,轉戰於前,曾未入於胸中,則何異四時風花雪月,一過乎眼也。誠爲能以物觀物,而兩不相傷者焉。蓋其間情累都忘去爾,所未忘者,獨有詩在焉。然而雖曰未忘,其實亦若忘之矣。何者?謂其所作異乎人之所作也。所作不限聲律,不沿愛惡,不立固必<sup>[15]</sup>,不希名譽,如鑑之應形,如鍾之應聲。其或經道之餘,因閑觀時,因靜照物,因時起志,因物寓言,因志發詠,因言成詩,因詠成聲,因詩成音。是故哀而未嘗傷,樂而未嘗淫<sup>[16]</sup>。雖曰吟詠情性<sup>[17]</sup>,曾何累於性情哉?

鍾皷,樂也;玉帛,禮也[18]。與其嗜鍾皷玉帛,則斯言也不能無陋矣。必欲廢鍾皷玉帛,則其如禮樂何?人謂風雅之道,行於古而不行於今,殆非通論,牽於一身而爲言者也。吁!獨不念天下爲善者少,而害善者多;造危者衆,而持危者寡。志士在畎畝,則以畎畝言,故其詩名之曰《伊川擊壤集》。時有宋治平丙午[18]中秋日也。

《四部叢刊》影明成化本《伊川擊壤集》

#### 【註釋】

[1]伊川擊攘集——《擊壤集》二十卷,宋邵雅撰。《四庫全書總目提要》:"自班图·276·

作《詠史詩》,始兆論宗,東方朔作《誠子詩》,始涉理路,沿及北宋,鄙唐人之不知道,於是以論理為本,以修詞為末,而詩格於是乎大變。此集其尤著者也。 ……然北宋自嘉祐以前,厭五季佻薄之弊,事事反樸還淳,其人品率以光明豁達為宗,其文章亦以平實坦易為主,故一時作者,往往衍長慶餘風。……邵子之詩,其源亦出白居易,而晚年絕意世事,不復以文字為長,意所欲言,自抒胸臆,原脫然於詩法之外,……不苦吟以求工,亦非以工為厲禁。……集爲邵子所自編。"

- [2] 邵雍(公元一〇一二年——一〇七七年)——字堯夫。其先范陽人,父徙共城, 雅徙河南。曾從李之才受象數之學。富弼、司馬光、呂公著等退休洛中的時 侯,都和他往來。著有《皇極經世》《觀物內外篇》等。《宋史》卷四百二十七《道 學傳》有傳。
- [3]伊川翁——雅別號。
- [4] 詩者六句——見《毛詩序》,引文與原文略有異。
- [5] 情有七一一《禮記・禮運》: "何謂人情?喜、怒、哀、懼、愛、惡、欲。 七者弗學而能。"
- [6] 否泰——二卦名。否謂否閉,泰謂道泰。
- [7] 仲尼删詩十去其九——《史記·孔子世家》:"古者詩三千餘篇,及至孔子,去其重,取可施於禮義,……三百五篇,孔子皆弦歌之。"
- [8]風取十五——周南、召南、邶、鄘、衞、王、鄭、齊、魏、唐、秦、陳、檜、曹、幽。
- [9]西周十有二王雅取其六——十二王:武王、成王、康王、昭王、穆王、共王、懿王、 孝王、夷王、属王、宣王、幽王。雅取其六,指文王、武王、成王、属王、宣王、幽 王。
- [10] 憨----《說文》: "憝,怨也。"
- [11] 淫泆——《左傳》:"麟奢淫泆。"《說文》段玉裁註:"凡言淫泆者,皆謂太過。"泆, 音逸。
- [12] 水能载舟二句——《荀子·王制》:"水則载舟,水則覆舟。"《哀公》篇亦载此語。
- [13] 郛郭---城外之郭,引申作外圍之意。
- [14] 名教之樂——《晉書·樂廣傳》: "王澄、胡母輔之等皆以任放爲達,或有至裸體 者。廣聞而笑曰: 名教內自有樂地,何必乃爾。"
- [15] 固必——《論語·子罕》:"毋意、毋必、毋固、毋我。"何晏《集解》。"用之則行,舍之則藏,故無寡必。無可無不可,故無固行。"
- [16] 哀而未營傷二句——見本書第一册《毛詩序》註[35]。

- [17] 吟詠情性---《毛詩序》: "吟詠情性,以風其上。"
- [18] 玉帛禮也——《論語·陽貨》:"禮云禮云,玉帛云乎哉。"玉帛,古代諸侯會盟朝 聘所執爲禮之物。
- [19] 治平丙午——宋英宗三年(公元一〇六六年), 邵雍年五十六。

#### 【説明】

宋朝是道學與盛的時代。高談義理的道學家,往往把抒情寫景的詩歌,看作是玩物喪志的東西。所以程頤說:"某素不作詩,亦非是禁止不作,但不欲爲此閑言語。"(見《二程遺書》卷十八)他也知道作詩不是一件容易事,"學時須是用功,方合詩人格"(見同上)。但他沒有這些閑功夫,於是,乾脆不做。這是道學家對詩歌的一種態度。然而道學家歡喜作詩的卻也大有人在。倘使說,東晉一度出現的玄言詩平實似《道德論》。唐代有些和尚如寒山、拾得等人的詩似佛經中的偈語,則宋代大量湧現的道學家的詩,正如劉克莊所說,"是語錄講義之押韻者"(見《後村大全集》卷一《吳恕齋詩稿跋》)。押韻的語錄講義本不能算詩,可是道學家不僅這樣地去寫詩,而且還有一套理論作爲指導。從上面選的邵雍《伊川擊壤集序》,便可窺見其大略。

本文開宗明義就引《毛詩序》"詩言志"之說,指出"懷其時則謂之志,咸其物則謂之情";似乎邵雍論詩,能注意到文學反映時代現實的一面。但其實不然。問題的關鍵,就在於他根本否定了詩歌抒情的特質。

詩言志,是通過抒情而表現出來的。《毛詩序》在"在心為志,發言為詩"的下面緊接着有"情動於中"一段文字,具體闡明由志發而為詩的過程。詩歌之所以具有"與""觀""羣""怨"的社會作用,正由於詩人能以自己的情感感染別人;至於這情感是否健康,則決定於詩人的志。志與情是密切聯繫着的。所以歷來論

詩, 都是情與志並提; 離開抒情而言志, 就不成其爲詩歌了。邵 雅說, 威物之情有二, "身也, 時也", "一身之休感, 則不過貧富貴 賤而已;一時之否泰,則在夫與廢治亂者焉"。那麼,"身"指作家 的遭遇,"時"則是政治的環境,並且再進一步主張要"以天下大 義而爲言",這些理論似乎也有道理。但是他認爲"身之休感,發 於喜怒; 時之否泰, 出於愛惡"。於是在他看來, "喜怒"和"愛惡" 都不可無所私,無所蔽,因而發出了"情之溺人也甚於水"的咸 嘆。他說:"任我則情,情則蔽,蔽則昏矣; 因物則性,性則神,神 則明矣。"(見《觀物外篇》)這樣,"性"就代替了情;而"明心見性" 就代替了言志與抒情,這就隨入於唯心主義了。所以他所謂"以 道觀道,以性觀性,以心觀心,以身觀身,以物觀物",也就是"因 物則性"的意思。究其實,不外是掃除一切情感的蔽障,用空明 澄澈的心來觀照——切事物,如鑑應形,無所隱遁而已。所以"以 物觀物,而兩不相傷",即是超於物而不累於物,物我兩忘,混然 一體的意思。達到這樣境地發而爲詩,於是"人和心盡見,天與 意相連",就能够"詩揚心造化,筆發性園林"(見《無苦吟》)了。 所以他說自己的詩,是"自樂之詩";"非惟自樂,又能樂時與萬物 之自得也"。可是這"自得"和文學家之所謂"自得"完全變成兩 回事了。

明白這點,就會理解到"雖曰吟詠情性,曾何累於性情哉"的 真諦。所謂"吟詠情性",只不過是寫出"自得之樂"而已。因而"在 耿畝,則以畎畝言",個人的"死生榮辱"和時代的一切,在他看來,都是一種"情累"。無所喜怒,無所愛惡,於是詩歌的社會作用和現實意義,也就被一筆勾銷了。這樣去寫詩,從內容說,"不沿 愛惡,不立固必";可不致如有些詩人以不健康的思想感情來反映社會現實的面貌,從動機說,"不希名譽";從形式說,"不限聲律",當然也不致如有些詩人之追逐時風,玩弄形式技巧。但

是邵雅在"萬物靜觀皆自得"的境界中可得"月到天心處,風來水面時"這類富有"理趣"的詩句,而杜甫卻同樣在觀察現實反映現實的情况下,也可以產生"水流心不競,雲在意俱遲"之句。所以超出現實也好,深入現實也好,不論如何講法,總之還是離不開現實,因為這些詩句也是從現實體會出來的。假使過分強調了"以道觀道,以性觀性,以心觀心,以身觀身,以物觀物",那麼取消了情,也就無從顯示他的性,無從表達他的志,於是像《濂洛風雅》一類的詩,也就只能成為押韻的語錄講義了。邵雍詩,乃至一般道學家的詩,所以成"理障"而不成"理趣"者,其原因卽在此。

附錄

論 詩 吟

〔宋〕邵 雍

何故謂之詩? 詩者曾其志。旣用言成章,遂遺心中事。不止鍊其辭, 抑亦鍊其意。鍊辭得奇句,鍊意得餘昧。

《四部費刊》影明成化本《伊川擊壤集》卷十一

談詩吟

〔朱〕邵 雍

詩者人之志,非詩志莫傳。人和心盡見,天與意相連。論物生新句,評 文起雅言。與來如宿構,未始用雕鐫。

《四部發刊》影明成化本《伊川擊壤集》卷十八

# 邵氏擊壤集序

#### [宋] 魏了翁

邵子平生之書,其心術之精微,在《皇極經世》,其宜寄情意,在《擊壤集》。凡立乎吾萬(萬疑萬之誤)皇王帝霸之與替,春秋冬夏之代謝,陰陽五行之運化,風雲月露之霧曀,山川草木之榮悴,惟意所驅,周流貫徹,融液擺落。蓋左右逢原,略無毫髮凝滯倚著之意。嗚呼! 眞所爲風流人豪者與?

或曰: 揆以聖人之中, 若弗合也。天何言哉? 四時行焉, 百物生焉。聖人之動靜語默, 無非至教, 雖常以示人而平易坦明, 不若是之多言也。老者安之, 朋友信之, 少者懷之, 聖人不心量, 直與天地萬物(原作物萬, 應乙)上下同流, 雖無時不樂, 而寬舒和平, 不若是之多言也。

曰: 是則然矣。宇宙之間,飛潛動植,晦明流峙,夫孰非吾事?若有以察之,參前倚衡,造次顚沛,觸處呈露,凡皆精義妙道之發焉者。脫斯須之不在,則芸芸並驅,日夜雜揉,相代乎前,顧於吾何有焉?若邵子使猶得從游舞雩之下,浴沂詠歸,毋寧使曾晳獨見與於聖人也與?珠、泗已矣,秦、漢以來,賭儒無此氣象,讀者當自得之。

《四部叢刊》影宋本《鶴山先生大全文集》卷五十二

# 費元甫註陶靖節詩序

### [宋] 魏了翁

世之辯證陶氏者曰,前得(疑是後字之誤)名字之互變也,死生歲月之不同也。彭澤退休之年,史與集所載之各異也。然是所當考而非其要也。 其稱美陶公者曰,榮利不足以易其守也,聲味不足以累其眞也,文詞不足以 獨其志也。然是亦近之,而公之所以悠然自得之趣,則未之深識也。

風雅以降,詩人之詞,樂而不淫,哀而不傷,以物觀物,而不牽於物,吟 詠情性,而不累於情,孰有能如公者乎?有謝康樂(樂字原缺)之忠而勇退 過之,有阮嗣宗之達而不至於放,有元次山之漫而不著其跡,此豈小小進退 所能開其際邪? 先儒所謂"經道之餘,因閒觀時,因靜照物,因時起志,因物 寓言,因志發詠,因言成詩,因詠成聲,因詩成音"者,陶公有焉。

同郡費君元甫,耆公之詩,爲之訓故。微詞與義,豪分縷析。余昔過 郡,未嘗不得見焉。今成書而屬余冠篇,乃以所聞於師友(原作支,誤)者復 之。費君出入是詩久矣,其亦(當脫以字)余言爲然乎?

《四部叢刊》影宋本《鶴山先生大全文集》卷五十二

# 通書・文辭

## [宋] 周敦頤[1]

文所以載道也,輪轅飾而人弗庸<sup>[2]</sup>,徒飾也。況虛車乎? 文辭,藝也;道德,實也。篤其實而藝者書之;美則愛,愛則傳焉,賢者得以學而至之,是爲敎。故曰:"言之無文,行之不遠<sup>[3]</sup>。"然不賢者,雖父兄臨之,師保勉之,不學也; 強之,不從也。不知務道德而第以文辭爲能者,藝焉而已。噫! 弊也久矣。

《正誼堂全書》本《濂洛閱閩書》卷一《周子通書》第二十八

#### 【註釋】

- [1]周敦頤(公元一〇一七年——一〇七三年)——字茂叔,宋道州營道人。官至 知南康軍。著《太極圖說》及《通書》四十篇,是宋代理學的開山祖師。因他所 居住的地方在濂溪,世稱濂溪先生。《宋史》卷四百二十七《道學傳》有傳。
- [2]庸---《說文》:"庸,用也。"
- [3] 营之無文二句——見《左傳》襄公二十五年。傳文作"行而不遠"。

## 【說明】

在文和道的關係上,宋代道學家的意見始終是和古文家互相對立着的。道學家主張"文以載道",古文家也說過"明道""貫道"和宗經、徵聖這一類的話,從表面看來,似乎並無多大差別,然而實質上卻有原則性的分歧。蓋古文家之所謂文,指的是詞章之學;對於文道關係的看法,只是強調一些文章內容的思想性而已,其終極的目的還在於文。道學家之所謂道,則有其特定的具體內容,指的是身心性命的義理之學;而"載道"之"文",則僅

僅作爲一種發表思想的工具,其涵義是語言文字的文,而不是文章的文。此後一系列的分歧,就是這樣開始的。

道學家由重道輕文而把文和道對立起來,以至根本否定了文學,是有其發展過程的。第一個提出"文以載道"的是周敦頤。在這篇《文辭》裏,他把"不知務道德而第以文辭爲能者"說成"藝焉而已",表示出重道輕文之意。不過他還說,"美則愛,愛則傳",並不曾否認文辭飾言的作用,所反對的只是"徒飾"而已。到了程頤就變本加厲地提出了"作文害道",並發揮了"有德者必有言"的主張,認爲文是可以不學而能的。於是道學家之所謂文,只成爲講義語錄的文字紀錄,而與文學絕緣了。所以此後主張載道說的道學家,和主張貫道說的古文家經常發生理論上的衝突。

# 附錄

## 語 錄(選錄)

## 〔宋〕程 頤

問: 作文害道否?

曰: 客也。凡爲文不專意則不工,若專意則志局於此,又安能與天地同其大也。〈書〉云: "玩物喪志",爲文亦玩物也。呂與叔有詩云: "學如元凱方成癖,文似相如始類俳,獨立孔門無一事,只輸顏氏得心齋。"此詩甚好。古之學者,惟務養悟性,其他則不學。今爲文者,專務章句,悅人耳目;旣務悅人,非俳優而何?曰: 古者學爲文否?曰: 人見六經,便以爲聖人亦作文,不知聖人亦據發胸中所蘊,自成文耳。所謂有德者必有言也。曰: 游、夏稱文學,何也?曰: 游、夏亦何嘗秉筆學爲詞章也。且如"觀乎天文以察時變,觀乎人文以化成天下",此豈詞章之文也。

或問: 詩可學否?

曰: 既學時須是用功方合詩人格,既用功,甚妨事。古人詩云: "吟成五個字,用破一生心。"又謂"可惜一生心,用在五字上"。此言甚當。先生嘗說王子眞會寄藥來,某無以答他,某素不作詩,亦非是禁止不作,但不欲為此聞言語。且如今言能詩無如杜甫,如云: "穿花蛺蝶深深見,點水蜻蜓款款飛。"如此聞言語道出做甚。某所以不嘗作詩。今寄謝王子眞詩云: "至誠通化藥通神,遠寄衰翁濟病身,我亦有丹君信否? 用時還解壽斯民。"子眞所學,只是獨善,雖至誠潔行,然大抵只是爲長生久視之術,止濟一身。因有是句。

《正誼堂全書》本《二程語錄》卷十一

# 與陳傳道序

## 〔宋〕楊 時

予嘗謂學者視聖人,其獨射之於正鵠乎。雖巧力所及,有中否遠近之不齊,然未有不志乎正鵠,而可以言射者也。士之去聖人,或相倍蓰,或相什佰,所造固不同,然未有不志乎聖人,而可以管學者也。

自孔子沒,更戰國至秦,遂焚曹坑儒士,六經中絕。漢興,雖稍稍復出,然聖學之失其傳尙矣。由漢至唐千餘歲,士之博聞強識者,世豈無其人耶?而卒未有能窺聖學之堂奧者,豈當時之士,卒無志於聖人耶?而卓然自立者,何其少也。

若唐之韓愈,蓋嘗謂世無仲尼,不當在弟子之列,則亦不可謂無其志也。及觀其所學,則不過乎欲雕章鏤句,取名譽而止耳。然則士固不惠不知有志乎聖人,而特惠乎不知聖人之所以學也。

且古之聖人,固宜英如舜也。舜之在側徼,與木石居,鹿豕游,固無異於深山之野人也,是豈有文采過人耶? 伏羲鹭八卦,《書》斷自《堯典》,當是時,六經蓋未有也。而舜之所以聖者,果何自哉? 夫舜,聖人也,生而知之,無事乎學可也。自聖人而下,則未有可以不學者也。舜之臣二十有二人,相與共成帝業者,是果皆生知耶? 不然,其何以學也?

由是觀之,六經雖聖人微言,而道之所存,蓋有言不能傳者,則經雖具,

猶不能輸入之弗達也。然則聖之所以爲聖,賢之所以爲賢,其必有在矣。 雖然,士之去聖遠矣,舍六經亦何以求聖人哉?要當精思之,力行之,超然 默會於言意之表,則庶乎有得矣。若夫過其審籬,望其門牆,足未踰闞,而 輒妄意其室中之藏,則幸其中也,難哉!

嗚呼! 今之士未嘗以此學也。類皆分文析字, 屑屑於章句之末; 甚者 廣記問, 工言辭, 欲誇多鬭靡而已; 是鳥用學爲哉! 彭城陳君傳道, 志學之 士也。其將之官也, 求予言, 故因爲發之。然未知陳君果以吾言爲然耶, 其 未以爲然耶? 幸明告我, 庶幾其有警也。

《正誼堂全書》本《楊龜山集》卷四

## 滄州精舍諭學者

#### [宋] 朱熹

老蘇自言其初學爲文時,取《論語》《孟子》《韓子》及其他聖賢之文,而 兀然端坐終日以讚之者七八年。方其始也,入其中而惶然以博,觀於其外, 而駭然以驚。及其久也,讚之益精,而其胸中豁然以明,若人之言固當然 者,然猶未敢自出其言也。歷時旣久,胸中之言日益多,不能自制,試出而 書之,已而再三讀之,渾渾乎覺其來之易矣。

予謂老蘇,但為欲學古人說話聲響,極為細事,乃肯用功如此,故其所就,亦非常人所及。如韓退之、柳子厚輩,亦是如此。其答李翊、章中立之書,可見其用力處矣。然皆只是要作好文章,令人稱賞而已,究竟何預已事,卻用了許多歲月,費了許多精神,甚可惜也。

今人說要學道,乃是天下第一至大至難之事,卻全然不會著力。蓋未有 能用旬月功夫,熟讀一人書者,及至見人泛然發問,臨時凑(原作棒,誤)合, 不會舉得一兩行經傳成文,不會照得一兩處首尾相貫。其能言者不過以己 私意,敷演立說,與聖賢本意,義理實處,了無干涉。何況望其更能反求諸 已,眞實見得,眞實行得耶!

如此求師,徒費脚力。不如歸家杜門,依老蘇法,以二三年爲期,正襟 危坐,將《大學》《論語》《中庸》《孟子》及《詩》《書》《禮記》程、張諸書分明易 曉處,反復讀之; 更就自己身心上存養玩索,著實行履,有箇入處,方好求師,證其所得,而訂其謬誤。是乃所謂就有道而正焉者,而學之成也可冀矣。如其不然,未見其可。

故曹其說,以示來者云。

《四部叢刊》影明嘉靖本《晦庵先生朱文公文集》卷七十四

## 題碧霞山人王公文集後(節錄)

## 〔宋〕王 柏

"文以氣爲主",古有是言也。"文以理爲主",近世儒者嘗言之。李漢曰: "文者,貫道之器。"以一句蔽三百年唐文之宗,而體用倒置不知也。必如周子曰: "文者,所以載道也。"而後精確不可易。

夫道者,形而上者也; 氣者,形而下者也。形而上者不可見,必有形而下者為之體焉,故氣亦道也。如是之文,始有正氣。氣雖正也,體各不同,體雖多端,而不害其爲正氣,足矣。蓋氣不正,不足以傳遠,學者要當以知道爲先,養氣爲助。道苟明矣,而氣不充,不過失之弱耳; 道苟不明,氣雖壯,亦邪氣而已,虚氣而已,否則客氣而已;不可謂載道之文也。……

《金華**投音**》本《魯齊集》卷五

# 南齊書目錄序

## [宋] 曾 鞏[1]

《南齊書》八紀、十一志、四十列傳,合五十九篇。梁蕭子顯<sup>[2]</sup>撰。始江淹已爲十《志》,沈約又爲《齊紀》<sup>[3]</sup>,而子顯自表武帝,別爲此書。

臣等因校正其訛謬,而敍其篇目曰: 將以是非得失、與壞理亂之故而爲法戒,則必得其所託而後能傳於久,此史之所以作也。然而所託不得其人,則或失其意,或亂其實,或析理之不通,或設辭之不善;故雖有殊功韙德<sup>[4]</sup>非常之迹,將關而不章,鬱而不發;而檮(原作禱,據百衲本二十四史《南齊書》校改) 杌鬼瑣<sup>[5]</sup>,姦回<sup>[8]</sup>凶慝之形,可幸而掩也。

嘗試論之: 古之所謂良史(原無史字,據百衲本《南齊書》校 增)者,其明必足以周萬事之理,其道必足以適天下之用,其智必 足以通難知之意,其文必足以發難顯之情,然後其任可得而稱也。

何以知其然也? 昔者唐虞有神明之性,有徼妙之德,使由之者不能知,知之者不能名[7],以爲治天下之本。號令之所布,法度之所設,其言至約,其體至備,以爲治天下之具。而爲二(原作至,據百衲本《南齊書》校改)典[8]者,推而明之,所記者豈獨其迹也,幷與其深微之意而傳之,小大精粗無不盡也,本末(原作來,據百衲本《南齊書》校改)先後無不白也。使誦其說者,如出乎其時,求其旨者,如即乎其人。是可不謂明足以周萬事之理,道足以適天下之用,智足以通難知之意,文足以發難顯之情者乎? 則方是(原作事,據百衲本《南齊書》校改)之時,豈特任政者皆天下

之士哉? 蓋執簡操筆而隨者,亦皆聖人之徒也!

兩漢以來,爲史者去之遠矣。司馬遷從五帝三王旣歿數千載之後,秦火之餘,因散絕殘脫之經,以及傳記百家之說,區區掇拾,以集著其善惡之迹,與廢之端;又創己意以爲本紀、世家、八書、列傳之文,斯亦可謂奇矣。然而蔽害天下之聖法,是非顚倒而采摭謬亂者<sup>[8]</sup>,亦豈少哉!是豈可不謂明不足以周萬事之理,道不足以適天下之用,智不足以通難知之意,文不足以發難顯之情者乎? 夫自三代以後,爲史者如遷之文,亦不可不謂儁偉拔出之材,非常之士也。然顧以謂明不足以周萬事之理,道不足以適天下之用,智不足以通難知之意,文不足以發難顯之情者,何哉?蓋聖賢之高致,遷固有不能純達其情而見之於後者矣,故不得而與之也。遷之得失如此,況其他邪?至於宋、齊、梁、陳、後魏、後周之書<sup>[10]</sup>,蓋無以議爲也。

子顯之於斯文,喜自馳騁,其更改破析刻彫藻績之變尤多,而其文益下,豈夫材固不可以強而有邪?數世之史旣然,故其事迹曖昧,雖有隨世以就功名之君,相與合謀之臣,未有赫然得傾動天下之耳目,播天下之口者也。而一時偷奪傾危,悖理反義之人,亦幸而不暴著於世,豈非所託不得其人故也?可不惜哉! 蓋史者,所以明夫治天下之道也;故爲之者,亦必天下之材,然後其任可得而稱也。豈可忽哉,豈可忽哉!

《四部雙刊》影元本《南豐先生元豐類臺》卷十一

## 【註釋】

- [1] 曾鞏(公元一〇一九年——一〇八三年)——字子固,南豐人。嘉祐二年進士, 官至中書舍人。有《元豐類藻》五十卷。《宋史》卷三百十九有傳。
- [2] 萧子顯(公元四八九年——五三七年)——字景陽,南蘭陵人。南齊高帝蕭道 成之孫,豫章王蕭嶷之子,齊封寧都縣侯,梁初降爲子。《梁書》卷三十五附《蕭

于恪傳》,《南史》卷四十二亦有傳。

- [3]江淹二句——《隋曹·經籍志》:"《齊紀》二十卷,沈約撰。梁有江淹《齊史》十三卷,亡。"
- [4] 建德——張衡《西京賦》薛綜註:"煌, 善也。"建德, 独言美德。
- [ b ] 橋杌——《左傳·文公十二年》: "顧頊氏有不才子,不可敬訓,不知語言,天下之民謂之檮杌。"杜預註: "頑凶無齒匹之貌。"嵬瓊——《荀子·非十二子》: "矞字鬼瓊。" 楊倞註: "嵬謂為狂險之行者也,瑣謂為姦細之行者也。"王先謙《集解》: "鬼瑣,獨委瑣也,鬼委擊近,故相通借。嵬瑣為委曲瑣細之尤,言小人極不足道者也。"
- [6] 姦回——傷古文《書·泰誓下》:"崇信姦回。"僞孔安國傳:"回,邪也。"
- [7] 由之者不能知二句——《論語·泰伯》: "子曰: 民可使由之,不可使知之。"
- [8]二典——謂《尚書》的《堯典》《舜典》。
- [9] 蔽害天下之聖法二句——《漢書·司馬遷傳贊》: "又其是非頗繆於聖人,論大 道則先黃老而後六經,序遊俠則退處士而進姦雄, 述貨殖則崇勢利而羞賤貧, 此其所蔽也。"
- [10]宋齊梁陳後魏後周之書——今傳《宋書》一百卷,梁沈約撰。《梁書》五十六卷, 唐姚思康撰。《陳書》三十六卷,唐姚思康撰。《魏書》一百十四卷,北齊魏收撰。《周書》五十卷,唐令狐德棻等撰。

#### 【說明】

李漢《昌黎先生文集序》會說: "文者貫道之器也。"古文家如何用文來"貫"道,從韓愈的文章中我們很難得到具體的理解。但是在宋代,由於古文家和道學家在理論上的對峙,遂使貫道說在各方面得到了進一步的闡發。歐陽修結合自己碑誌文的創作實踐,把它提到"立言不朽"的高度,作了一些說明(見前選歐陽修文論)。稍後於歐陽修的曾鞏在這篇《南齊書目錄序》以及《寄歐陽舍人書》(見附錄) 裏又作了一些闡發。於是如何以文貫道的問題,至少對某種體裁的文章來說就有了比較明確的認識。

《南齊書目錄序》談的是史傳文、《寄歐陽舍人書》談的是碑

誌文,但在古文家看來,碑誌"義近於史",在寫作的原理上是可以相通的。

會鞏認為無論寫史或作碑誌文,"必得其所託而後能傳於 人"。所以人選就很重要。寫史要得良史之才,而作碑誌文也必須 畜道德能文章者才能取信於人而傳之久遠。人選之所以重要,就 因為畜道德而能文章者,才能明事達理,真做到以文貫道。

因此,曾鞏認爲古之良史,不僅"其明必足以周萬事之理,其 道必足以適天下之用,其智必足以通難知之意",同時"其文必足 以發難顯之情"。這樣,才能"使誦其說者,如出乎其時;求其旨 者,如即乎其人"。要達到這樣的標準,必須旣是"聖人之徒"又是 能文之士。所以他對古代史家,就連司馬遷、班固也表示不滿; 而批評蕭子顯之"喜自馳騁",也就更覺得"其文益下"了。文能 宏道,文能貫道,就是在這種關係上結合成爲一個有機體的。

他所論的雖是史傳之文,但碑誌文也是如此,傳記文也是如此,所以終究是古文家的文論,而成爲後來古文家"義法論"的先導。古文家這樣煞費苦心地說明以文貫道的作用,但由於忽略了《史記》形象地描寫人物的優點,所以古文家集中雖也有一些優秀的傳記文,然而他們在理論上所提出來探索的,只是立言有體、敍次得法以及文字繁簡的問題。其影響所及,削弱了傳記文的藝術性;給後來古文家傳記文的發展帶來了種種的限制。

# 附 錄

## 寄歐陽舍人書

## 〔宋〕曾 鞏

鞏頓首載拜舍人先生:去秋人還,蒙賜書及所譔先大父墓碑銘,反復觀誦,感與慚丼。

夫銘誌之著於世,義近於史,而亦有與史異者;蓋史之於善惡無所不書,而銘者,蓋古之人有功德材行志義之美者,懼後世之不知,則必銘而見之。或納於廟,或存於墓,一也。苟其人之惡,則於銘乎何有?此其所以與史異也。其辭之作,所使死者無有所憾,生者得致其嚴。而善人喜於見傳,則勇於自立;惡人無有所紀,則以媿而懼。至於通材達識,義烈節士,嘉言善狀,皆見於篇,則足爲後法警勸之道。非近乎史,其將安近?及世之衰,人之子孫者,一欲褒揚其親,而不本乎理,故雖惡人,皆務勒銘以誇後世。立言者旣莫之拒而不爲,又以其子孫之所請也,書其惡焉,則人情之所不得,於是乎銘始不實。後之作銘者,常觀其人,苟託之非人,則書之非公與是,則不足以行世而傳後。故千百年來,公卿大夫,至於里巷之士,莫不有銘,而傳者蓋少。其故非他,託之非人,書之非公與是故也。

然則執為其人,而能盡公與是歟? 非畜道德而能文章者無以為也。蓋 有道德者之於惡人,則不受而銘之,於衆人則能辨焉。而人之行,有情善而 迹非,有意奸而外淑,有善惡相懸而不可以實指,有實大於名,有名侈於實。 猶之用人,非畜道德者,惡能辨之不惑。議之不徇,不惑不徇,則公且是矣。 而其辭之不工,則世猶不傳,於是又在其文章兼勝焉。故曰,非畜道德而能 文章者,無以爲也。豈非然哉!

然畜道德而能文章者,雖或並世而有,亦或數十年或一二百年而有之。 其傳之難如此,其遇之難又如此。若先生之道德文章,固所謂數百年而有 者也。先祖之言行卓卓,幸遇而得銘,其公與是,其傳世行後,無疑也。而 世之學者,每觀傳記所書,古人之事,至其所可感,則往往畫(原作盡,誤) 然,不知涕之流落也。況其子孫也哉! 况鞏也哉! 其追睎祖德,而思所以 傳之之繇,則知先生推一賜於鞏而及其三世,其感與報,宜若何而圖之?

抑又思,若鞏之淺薄滯拙,而先生進之;先祖之屯歷否塞以死,而先生顯之。則世之魁閎豪杰不世出之士,其誰不願進於門?曆遁幽抑之士,其誰不有望於世?善誰不爲?而惡誰不愧以懼?爲人之父祖者,孰不欲教其子孫?爲人之子孫者,孰不欲寵榮其父祖?此數美者,一歸於先生。旣拜賜之辱,且敢進其所以然。

所諭世族之次,敢不承教而加群焉。愧甚,不宜。鞏再拜。 《四部戰刊》影元本《南豐先生元豐類臺》卷十六

# 上人書

## [宋] 王安石[1]

嘗謂文者,禮教治政云爾。其書諸策而傳之人,大體歸然而已<sup>[2]</sup>。而曰"言之不文,行之不遠"<sup>[3]</sup>云者,徒謂辭之不可以已也, 非聖人作文之本意也。

自孔子之死久,韓子[4]作,望聖人於百千年中,卓然也。獨子厚[5]名與韓並,子厚非韓比也,然其文卒配韓以傳,亦豪傑可畏者也。韓子嘗語人以文矣,曰云云;子厚亦曰云云;疑二子者,徒語人以其辭耳,作文之本意,不如是其已也。

孟子曰: "君子欲其自得之也,自得之則居之安,居之安則資之深,資之深則取諸左右逢其原<sup>[6]</sup>。"孟子之云爾,非直施於文而已,然亦可託以爲作文之本意。

且所謂文者,務爲有補於世而已矣;所謂辭者,猶器之有刻鏤繪畫也。献使巧且華,不必適用,誠使適用,亦不必巧且華。要之以適用爲本,以刻鏤繪畫爲之容而已。不適用,非所以爲器也,不爲之容,其亦若是乎?否也。然容亦未可已也,勿先之其可也。

某學文久,數挾此說以自治,始欲書之策而傳之人,其試於事者,則有待矣。其爲是非邪?未能自定也。執事,正人也,不阿其所好者。曹雜文十篇獻左右,願賜之敎,使之是非有定焉。

《四部幾刊》影明本《臨川先生文集》卷七十七

#### 【註釋】

- [1] 王安石(公元一〇二一年——一〇八六年)——字介甫, 號华山, 臨川人。慶曆二年進士, 神宗時, 官同中書門下平章事。有《臨川集》一百卷。《宋史》卷三百二十七有傳。
- [2]大體歸然而已——即作者《與祖擇之書》所云"其書之策也,則道其然而已矣" 之意。然,如此,指上文所云"禮教治政"。歸然,謂歸之於禮教治政。
- [3] 言之不文二句——見本册周敦頤《文辭》註[3]。
- [4]韓子——指韓愈。
- [ 5 ] 子厚——柳宗元字。
- [6]君子四句——見《孟子·離婁下》。原文作:"君子深造之以道,欲其自得之也。……"引文首句文字有所删節。

#### 【説明】

王安石這篇《上人書》,討論了文和辭的關係,實際上也就是內容和形式的關係,所以和當時的文道問題,也多少有一些關聯。

文中把文和辭分開來講,文指作文的本意,辭指篇章之美。 作文的本意在於明道,而所謂道,則是可以施之於實用的經世之 學。故云:"嘗謂文者,禮教治政云爾。"《與祖擇之書》說:"治教 政令,聖人之所謂文也。……其書之策也,則道其然而已矣。"本 篇和《與祖擇之書》雖是自述書、雜文及書、序、原、說的作意,指 的是理論文,但文以實用爲主,卻是王安石對文學的基本看法。

既然文以實用爲主,因此在內容與形式的關係上,他明確地指出必須重視內容。他認爲文之有辭,"猶器之有刻鏤繪畫"。製器的本意在於用,至於刻鏤繪畫,不過作爲一種容飾和美觀。在重視內容的前提下,形式也是重要的,不過兩者之間有主次的關係。所以說: "容亦未可已也,勿先之其可也。"

他認爲古文家雖然誇談文以明道,但其眞實的心得,則在文

而不在道。篇中批評韓愈、柳宗元"徒語人以其辭",正是這個意思。他也看到了道學家的矯枉過正,重道輕文,所以也不完全否認"巧且華"的作用。因此,他的文章,峭折簡勁,說理透闢,旣不同於刻鏤無用之文,也不同於語錄樸質之體,非常重視語言的表現力和藝術特徵,繼承古代散文的優良傳統。

# 附錄

## 與祖擇之書

#### 〔宋〕王安石

治教政令,聖人之所謂文也,曹之策,引而被之天下之民,一也。聖人之於道也,蓋心得之;作而爲治教政令也,則有本末先後,權勢制義,而一之於極。其書之策也,則道其然而已矣。

被陋者不然,一適焉,一否焉,非流焉則泥,非過焉則不至。甚者置其本,求之末,當後者反先之,無一焉不誟於極。彼其於道也,非心得之也,其曹之策也,獨能不詩耶?故曹之策而善,引而被之天下之民,反不善焉,無矣。二帝、三王,引而被之天下之民而善者也;孔子、孟子,曹之策而善者也;皆聖人也,易地則皆然。

某生十二年而學,學十四年矣,聖人之所謂文者,私有意爲,曹之策則 未也。間或悱然動於事而出於詞,以警戒其躬;若施於友朋,褊迫陋庳,非 敢謂之文也。乃者執事欲收而教之,使獻焉。雖自知明,敢自蓋邪? 諡書 所爲書序原說若干篇,因敍所聞與所志,獻左右,惟賜覽觀焉。

《四部聲刊》影明本《臨川先生文集》卷七十七

## 韓子

#### 〔宋〕王安石

紛紛易盡百年身,舉世何人職道眞? 力去陳言夸末俗,可憐無 補費

# 答張浻書

#### 〔宋〕孫 復

復白,明遠足下:十月泊正月中,兩唇手書,辭意勤至。道離羣外,以僕居今之世,樂古聖賢之道與仁義之文也,遠以尊道扶聖立言垂範之事問於我。我幸而至於斯也有年矣。重念世之號進士者,率以砥礪辭賦,睎覘科第爲事。若明遠額然獨出,不汲汲於彼而孜孜於此者,幾何人哉?然懼明遠年少氣勇,而欲速成,無至於斯文也,故道其一二,明遠熱察之而已。

夫文者, 道之用也, 道者, 教之本也。故文之作也, 必得之於心而成之於言。得之於心者, 明諸內者也, 成之於言者, 見諸外者也; 明諸內者, 故可以強其利。是故《詩》《書》《禮》《樂》大《易》《春秋》, 皆文也, 總而謂之經者也, 以其終於孔子之手, 尊而異之爾。斯聖人之文也。後人力薄不克以嗣, 但當佐佑名教, 夾輔聖人而已。或則列聖人之微旨, 或則名諸子之異端, 或則發千古之未寤, 或則正一時之所失, 或則陳仁政之大經, 或則斥功利之末術, 或則揚賢人之聲烈, 或則寫下民之憤歎, 或則陳天人之去就, 或則述國家之安危。必皆臨事摭實, 有感而作, 爲論、爲識、爲書疏、歌、詩、贊、頌、簽、解、銘、說之類, 雖其目甚多, 同歸於道, 皆謂之文也。若肆意構處, 無狀而作, 非文也, 乃無用之瞽言爾。徒汚簡册, 何所貴哉!

明遠無志於文則已,若有志也,必在曆其心而索其遺。曆其心而索其道,則有所得也必深;其所得也旣深,則其所言者必遠;旣深且遠,則庶乎可望於斯文也。不然,則淺且近矣,曷可望於斯文哉!

かずれ

17 172

噫! 斯文之難至也久矣。自西漢至李唐,其間鴻生碩儒,嚴肩而起,以 文章垂世者衆矣。然多楊、墨、佛、老虛無報應之事,沈、謝、徐、庾妖豔邪侈 之言,雜乎其中,至有盈編滿集,發而視之,無一言及於教化者。此非無用 瞽言,徒汚簡策者乎? 至於終始仁義,不叛不雜者,惟董仲舒、揚雄、王趙、 韓愈而已。

由是言之,則可容易而至之哉? 若欲容易而至,則非吾所聞也。明遠熟察之,無以吾言爲忽。不宜。

問經堂精舍本《孫明復小集》卷二

#### 原文

#### [朱] 李 觀

利可晉乎? 曰: 人非利不生, 曷爲不可言。欲可言乎?曰: 欲者人之情, 曷爲不可言。言而不以禮, 是貪與淫罪矣! 不貪不淫, 而曰不可言, 無乃賊人之生, 反人之情。世俗之不惠儒以此。孟子謂何必曰利, 激也。焉有仁義而不利者乎? 其書數稱渴、武將以七十里百里而王天下, 利豈小哉? 孔子七十所欲不踰矩, 非無欲也。於《詩》則道男女之時, 容貌之美, 悲感念望, 以見一國之風, 其順人也至矣。學者大抵雷同。古之所是, 則謂之是, 古之所非, 則謂之非。 詰其所以是非之狀, 或不能知。 古人之言, 豈一端而已矣。 夫子於管仲, 三歸具官則小之, 合諸侯正天下則仁之, 不以過掩功也。韓愈有取於墨翟、莊周, 而學者乃疑。噫! 夫二子皆妄言耶? 今之所謂賢士大夫, 其超然異於二子者邪, 抑有同於二子而不自知者邪? 何皆彼之甚也?

《四部費刊》影明本《直講李先生文集》卷二十九

# 延平集序

## 〔宋〕李 觀

世俗見孔子不用而作經,乃言聖賢得志則在行事,不在審也。噫! 孔子 誠不用矣,堯、舜、禹、陽時,聖賢有不得志者乎! 奚其爲典、謨、訓、誥哉! 成王、周公時,有不得志者乎! 奚其爲雅、頌哉! 心之志,志之言,智之文, 若凍餒然,孰謂得志而不衣食哉! 用之大,其言者愈大,《虞書》之曆象日月 星辰,夏后之賦貢九州,周人之職三百六十官,不已大乎?

今之君子固多靳儒,至於布衣閭巷,尚曰賢者行而已,不必文也。彼 額、閔氏時,夫子在,蓋無可復言,非爲有德行不著書也。游、夏之徒,不在 德行科,亦不措一辭。子思、孟軻,豈無德行乎?是皆不才子無功於文,而 雷同此說,以自慰耳。

建安宋貫之, 仕逾二十年, 用雖不大, 志亦未得。然有君親之奉, 有政事之勤, 在他人投筆久矣, 而貫之拳拳不翅褐博。其學要諸仲尼, 餘鮮取焉。多聞而敏, 所嚮靡不克, 故集而行之者四五。去年秋, 以南劍監郡, 假守昭武, 旣期, 又成十卷, 目以示觀, 曰《延平集》。 觀嘆今人之異乎古, 美貫之之異乎今, 孰告吾君而大用之, 其言又有大於此者, 因序以冠其首。 時則慶曆七年冬十有二月也。

《四部叢刊》影明本《直講李先生文集》卷二十五

## 答陳充祕校書(節錄)

#### 〔宋〕司馬光

……足下書所稱引古今傳道者,自孔子及孟、荀、楊、王、韓、孫、柳、張、賈才十人耳。若語其文,則荀、楊以上不專爲文;若語其道,則恐王、韓以下,未得與孔子並稱也。若論學古之人,則又不盡於此十人者也。孔子自稱"述而不作",然則孔子之道,非取諸己也,蓋述三皇、五帝、三王之道也。三皇、五帝、三王,亦非取諸己也,鉤探天地之道,以教人也。故學者苟志於道,則莫若本之於天地,考之於先王,質之於孔子,驗之於當今,四者皆冥合無間,然後勉而進之,則其智之所及,力之所勝,雖或近或遠,或小或大,要爲不失其正焉。舍是而求之,有害無益矣。彼數君子者,誠大賢也,然於道殆不能無較而不粹者焉。足下必欲求道之眞,則莫若以孔子爲的而已。

夫射者必志於的, 志於的而不中者有矣, 未有不志於的而中者也。彼數君子者與我, 皆射者也, 彼雖近, 我雖遠, 我不志於的, 而惟彼所射之從, 則亦去的愈遠矣。此某之所聞而是非不能自定者也。足下試熱察而審

處焉。不宜。光再拜。

《四部叢刊》影宋本《溫國文正司馬公文集》卷五十九

## 習 齋 紀 餘(節錄)

#### 〔明〕顏 元

……荆公之所憂,皆司馬、韓、范輩所不知憂者也。荆公之所見,皆周、程、張、邵雖所不及見者也。荆公之所欲為,皆當時隱見諸曹生所不肯為、不敢爲不能爲者也。烏得不亂公之政於當時,貶公之名於後世哉? 史氏將錄此書(《上仁宗皇帝言事書》),而先加"議論高奇,矯世變俗"八字於前。嗟乎,是宋家一代人物,識見卑庸耳;公何高奇哉? ……

《證輔叢書》本《習齊紀餘》卷六

# 書黄子思『詩集後

#### [宋] 蘇 軾[2]

予嘗論書,以謂鍾、王<sup>[3]</sup>之迹,蕭散簡遠,妙在筆畫之外。至 唐顏、柳<sup>[4]</sup>,始集古今筆法而盡發之,極書之變,天下翕然<sup>[5]</sup>以爲 宗師。而鍾、王之法益微。

至於詩亦然。蘇、李之天成<sup>[6]</sup>,曹、劉之自得<sup>[7]</sup>,陶、謝之超然<sup>[8]</sup>,蓋亦至矣。而李太白、杜子美以英瑋絕世之姿,稜跨百代,古今詩人盡廢;然魏、晉以來,高風絕塵<sup>[9]</sup>,亦少衰矣<sup>[10]</sup>。李、杜之後,詩人權作,雖間有遠韻,而才不逮意。獨韋應物、柳宗元發纖 穩於簡古,寄至味於潛泊<sup>[11]</sup>,非餘子所及也。唐末司空圖崎嶇 兵亂之間,而詩文高雅,猶有承平之遺風,其論詩曰:"梅止於酸,鹽止於鹹,飲食不可無鹽梅,而其美常在鹹酸之外<sup>[12]</sup>。"蓋自列 其詩之有得於文字之表者二十四韻<sup>[13]</sup>,恨當時不識其妙,予三 復其言而悲之。

閩人黃子思,慶曆、皇祜[14] 間號能文者。予嘗聞前輩誦其 詩,每得佳句妙語,反復數四,乃識其所謂。信乎表聖之言,美在 鹹酸之外,可以一唱而三歎也。予旣與其子幾道、其孫師是遊, 得窺其家集。而子思篤行高志,為吏有異材,見於墓誌詳矣,予 不復論,獨評其詩如此。

文學古籍刊行社版《經進東坡文集事略》卷六十

## 【註釋】

[1]黄子思——黄孝先,字子思,浦城人。

- [2]蘇軾(公元一〇三七年———〇一年)——字子晴,號東坡居士,眉山人。洵子。嘉祐二年進士,曾任禮部兼端明殿、翰林侍讀兩學士,為禮部尚書。有《東坡七集》一百十卷。《宋史》卷三百三十八有傳。
- [3] 鍾王——鍾繇,字元常,三國時魏顯川長社人。官至太傅。工正、隸、行、草、八 分,尤長於正隸。王羲之,字逸少,東晉臨沂人。官至右衞將軍。善行、草,以 書聖名。
- [4]顏柳——顏眞卿,字清臣,唐瑯琊人。官至太子太師,封魯郡公。柳公權,字誠 歷,唐京兆人。俱唐代著名書法家。
- [5] 食然——一致。
- [6] 蘇李之天成——相傳蘇武、李陵的五言詩,《文選》載七首,《古文苑》載十首,此 外還有零章斷句見於他書所引,今俱收於丁福保所輯《全漢詩》中。《東坡題 駁·題文選》,謂"李陵、蘇武五言皆僞"。近人多持此說。東坡雖以爲僞,但對 它的藝術成就,卻給以"天成"的評價。天成,謂其詩渾然天成,不待雕琢。
- [7]曹劉之自得——嚴羽《滄浪詩話》:"曹、劉體,子建、公幹也。"案:以曹、劉並稱,最早見於鍾嶸《詩品序》:"次有輕薄之徒,笑曹、劉為古拙。""曹、劉殆文章之聖。"其後杜甫《寄高適》:"方駕曹、劉不啻過。"元稹《唐故工部員外郎杜君墓聚銘》:"氣奪曹、劉。"秦觀《韓愈論》:"曹植、劉公幹之詩長於豪逸。"都以曹、劉合稱。自得,謂自發于己,不須法度布置,與上句"天成"之意相近。
- [8]陶謝之超然——陶、謝,陶淵明、謝靈運。超然,最意境之離散超逸與語句的自然超脫而言,而特着重於後者。黃庭堅《與王庠周彥譽》說:"見東坡《書黃子思詩卷後》論陶、謝詩,鍾、王書,極有理。"可見蘇論在當時之被重視。
- [9] 絕壓——超越世俗。
- [10] 而李太白杜子美至亦少衰矣六句——曾季貍《艇齋詩話》: "東坡《黄子思詩序》,論詩至李、杜,字畫至顏、柳,無遺巧矣,然鐘、王蕭散簡遠之意,至顏、柳而靈;魏、晉詩人高風遠韻,至李、杜而亦衰。此說最妙。大抵一盛則一衰,後世以爲盛,則古意必已衰。物物皆然,不獨詩字畫然也。"
- [11]獨章應物柳宗元二句——《東坡題跋》卷二許韓柳詩:"柳子厚詩在陶淵明下, 韋蘇州上。……所貴乎枯淡者,謂其外枯而中膏,似淡而實美,淵明、子厚之流 是也。"可與本文所論相發。曾季貍《短齊詩話》:"前人論詩,初不知有韋蘇州、 柳子厚,論字亦不知有楊凝式。二者至東坡而後發此秘。遂以章、柳配淵明, 擬式配顏魯公,東坡眞有德於三子也。"
- [12] 梅止於酸四句——見司空圖《與李生論詩書》。 語句稍有不同,此述其意。

- [13] 二十四韻——即指《二十四詩品》。
- [14] 慶曆皇祐——都是宋仁宗年號。慶曆自公元一〇四一年至一〇四八年,皇祐 自公元一〇四九年至一〇五三年。

#### 【説明】

蘇詩為宋詩中一大流派。後人評價蘇詩,稱其於曹、劉、陶、 謝、李、杜、韓、白諸家,無所不學,而"地負海涵,不名一體","能驅 駕杜、韓,卓然自成一家,而雄視百代"(《唐宋詩醇》)。作為蘇詩 藝術風格的特色,超邁豪橫是主要的一面;但又有淡雅高遠的另一面。晚年的《和陶》詩,就是屬於後者,而詩評家也往往以《和 陶》詩爲蘇詩的極詣。蘇軾以橫絕一世的才華,寫詩如其爲文, "萬斛泉源,不擇地皆可出"。他"以文字爲詩,以才學爲詩,以議 論爲詩"(《滄浪詩話》語),不難於超邁豪橫,而他所神往的那種 "高風絕塵"、外平淡而中纖體的境界,轉覺有難於着手之感。明 乎此,來讀《書黃子思詩集後》,就可以理解蘇軾的詩論跟他的詩 作未能完全適應的關鍵。

本文以書法喻詩,從創造的角度,肯定了李、杜"以英瑋絕世之姿,稜跨百代",極盡詩家之變態。這是蘇軾所不難於追蹤的。在肯定李、杜的基礎上,再提高一步,則覺得"蘇、李之天成,曹、劉之自得,陶、謝之超然",高韻乃在筆墨蹊徑之外,而不可企及。回頭來看李、杜,才有"魏、晉以來,高風絕塵,亦少衰矣"的不足之感。本文所謂"發纖穩於簡古",是把兩種對立的藝術風格,看成是可以相互滲透、相反相成的關係,纖穩與簡古相統一,才可以達到"寄至味於澹泊"的妙用。這種詩論,和司空圖的《詩品》有淵源關係。《詩品·綺麗》"濃盡必枯,淺者屢深",本文於此作了進一步的闡說,顯示了文學批評工作的細緻和深入。蘇軾這樣的論點,曾經不止一次地闡述過,周紫芝《竹坡詩話》說:"作詩到

平淡處,要似非力所能。東坡嘗有書與其姪云:大凡爲文,當使氣象崢嶸,五色絢爛,漸老漸熟,乃造平淡。余以不但爲文,作詩者尤當取法於此。"《詩人玉屑》引蘇軾另一段話:"書之美者莫如顏魯公,然書法之壞自魯公始; 詩之美者莫如韓退之,然詩格之變自退之始。"都是從藝術上着眼,用意相同。後來元好問在《東坡詩雅引》中,即用蘇軾的論點對他作了如下的評價:"五言以來,六朝之謝、陶,唐之陳子昂、韋應物、柳子厚最爲近風雅,自餘多以雜體爲之,詩之亡久矣。雜體愈備則去風雅愈遠,其理然也。近世蘇子瞻絕愛陶、柳二家,極其詩之所至,誠亦陶、柳之亞。然評者尚以其能似陶、柳而不能不爲風俗所移,爲可恨耳。夫詩至於子瞻,而且有不能近古之恨,後人無所望矣。"據此以參照本文,不難窺見蘇軾詩論的關鍵所在。

## 附 錄

## 送 參 寥 師

#### [宋] 蘇 軾

上人學苦空,百念已灰冷,劍頭惟一吷,焦穀無新穎。胡爲逐吾輩? 文字 野炳,新詩如玉雪,出語便新警。退之論草書,萬事未嘗屛,憂愁不平氣,一寓筆所騁,頗怪浮屠人,視身如丘井,類然寄澹泊,誰與發豪猛? 細思

乃不然, 眞巧非幻影, 欲令詩語妙, 無厭空且靜, 靜故了羣動, 空故納萬境。 閱世走人間, 觀身臥雲嶺, 鹹酸雜衆好, 中有至昧永。詩法不相妨, 此語更當請。

《四部叢刊》影宋本《集註分類東坡先生詩》卷二十一

## 答陳師仲書(節錄)

#### [宋]蘇軾

·····詩文皆奇麗,所寄不齊,而皆歸合於大道,軾又何言者。其間十常有四五見及,或及舍弟,何相愛之深也。處世齟齬,每深自嫌惡,不論他人。及見足下輩猶如此,輒亦少自赦。詩能窮人,所從來尙矣,而於軾特甚。今足下獨不信,建言詩不能窮人,爲之益力,其詩日已工,其窮殆未可量。然亦在所用而已。不龜手之藥或以封,安知足下不以此達乎?人生如朝露,意所樂則爲之,何暇計議窮達,云能窮人者固繆,云不能窮人者,亦未免有意於畏窮也。·····

文學古籍刊行社版《經進東坡文集事略》卷四十五

# 評 韓 柳 詩

## 〔宋〕蘇 軾

柳子厚詩,在陶淵明下,草蘇州上;退之豪放奇險則過之,而溫麗靖深不及也。所貴乎枯澹者,謂其外枯而中膏,似澹而實美,淵明、子厚之流是也。若中邊皆枯澹,亦何足道。佛云:"如人食蜜,中邊皆甜。"人食五味,知其甘苦者皆是,能分別其中邊者,百無一二也。

《津逮秘書》本《東坡題跋》卷二

## 書摩詰藍田煙雨圖(節錄)

#### 〔宋〕蘇 軾

味摩詰之詩,詩中有畫,觀摩詰之畫,畫中有詩。……

《津逮秘書》本《東坡題跋》卷五

# 答曾子華論詩(節錄)

#### 〔宋〕包 恢

······古人於詩不苟作,不多作。而或一詩之出,必極天下之至精,狀理 則理趣渾然,狀事則事情昭然,狀物則物態宛然,有窮智極力之所不能到 者,獨造化自然之聲也。蓋天機自動,天籟自鳴,鼓以雷霆,豫順以動,發自 中節,聲自成文,此詩之至也。······

《敝帚稿略》卷二

## 許長卿詩序(節錄)

## 〔元〕戴表元

酸鹹甘苦之於食,各不勝其味也,而善庖者調之,能使之無味。溫涼平 烈之於藥,各不勝其性也,而善醫者製之,能使之無性。風雲月露,蟲魚草 木,以至人情世故之託於諸物,各不勝其為迹也,而善詩者用之,能使之無 迹。是三者所為,其事不同,而同於為之之妙。何者?無味之味食始珍,無 性之性藥始勻,無迹之迹詩始神也。……

《剡上叢書》本《剡源集》卷九

## 詩 畫(節錄)

#### 〔明〕李 贄

東坡先生曰: "論畫以形似,見與兒童鄰。作詩必此詩,定知非詩人。" 升菴曰: "此言畫貴神,詩貴韻也。然其言偏,未是至者。晁以道和之云: '畫寫物外形,要物形不改; 詩傳畫外意,貴有畫中態。'其論始定。"卓吾子 謂改形不成畫,得意非畫外,因復和之曰: "畫不徒寫形,正要形神在; 詩不 在畫外,正寫畫中態。"杜子美云: "花遠重重樹,雲輕處處山。"此詩中畫也, 可以作畫本矣。唐人畫桃源圖,舒元輿爲之記云: "烟嵐草木,如帶香氣。熟 視詳玩,自覺骨戛青玉,身入鏡中。"此畫中詩也,絕藝入神矣。

中華書局本《焚書》卷五

# 答謝民師書[1][節錄]

## 〔宋〕蘇 軾

……所示書教及詩賦雜文觀之熟矣,大略如行雲流水,初無定質,但常行於所當行,常止於所不可不止,文理自然,姿態横生。孔子曰:"言之不文,行而不遠。"[2]又曰:"辭達而已矣。"[3] 夫言止於達意,卽疑若不文,是大不然。求物之妙,如繫風捕影,能使是物了然於心者,蓋千萬人而不一遇也,而況能使了然於口與手者乎?是之謂辭達。辭至於能達,則文不可勝用矣。

揚雄好為艱深之辭,以文淺易之說,若正言之則人人知之矣。此正所謂雕蟲篆刻者<sup>[4]</sup>,其《太玄》《法言》<sup>[5]</sup>皆是類也,而獨悔於賦,何哉?終身雕篆而獨變其音節,便謂之經,可乎?屈原作《離騷經》,蓋風雅之再變者,雖與日月爭光可也<sup>[6]</sup>,可以其似賦而謂之雕蟲乎?使賈誼見孔子,升堂有餘矣,而乃以賦鄙之,至與司馬相如同科<sup>[7]</sup>。雄之陋如此比者甚衆,可與知者道,難與俗人言也,因論文偶及之耳。……

文學古籍刊行社版《經進東坡文集事略》卷四十六

#### 【註釋】

- [1] 謝民師——名舉廉,新淦人。元豐八年進士,後爲廣東帳幹,遇蘇軾從海南回,以詩文相往來。
- [2] 营之不交行而不遠——見《左傳》襄公二十五年,原作"言而不文,行而不遠"。
- [3] 辭達而已矣——見本書第一册《論語》〔選錄〕。
- [4]雕蟲篆刻——見本書第一册《法言·吾子》註[3]。
- [5] 《太玄》《法言》——《漢書・揚雄傳》: 揚雄"以爲經莫大於《易》,故作《太玄》;傳 莫大於《論語》,故作《法言》"。

- [6] 屈原三句——參看本書第一册《屈原傳》及該篇註[6]。
- [7]使賈誼見孔子四句——《法言·吾子》:"如孔氏之門用賦也,則賈誼升堂,相如 入室矣。如其不用何?"本文不同意此說,認為如果賈誼見到孔子,其地位不止 升堂,不能因為他作過賦,便把他和司馬相如相提並論。科,程品,等級。

#### 【説明】

蘇軾論文, 崇尚自然。爲了把豐富多采的客觀事物准確、生動地描繪出來, 他主張作文應該有充分的表達自由, 打破一切格套。所謂"吾文如萬斛泉源, 不擇地而出", "與山石曲折, 隨物賦形", "如行雲流水, 初無定質"等等, 實際上都是說的這層意思。"文理自然", 就能"姿態橫生"。

對於孔子的"辭達而已矣"之說,蘇軾作了新的解釋。孔子的原意主要是說:文辭只要能達意就够了,不要過求文朵。蘇軾的辭達說,則是強調文章要充分表達作者的思想和客觀事物的特徵,這就是很高的藝術境界了。他首先要求作者對所描寫的事物有充分的認識,作到"了然於心"。這也就是《篔簹谷偃竹記》所說的"故畫竹必先得成竹於胸中"。這裏也反映了他對文學作品內容方面觀察得更深入一些的要求,他的批評"儒者之病,多空文而少實用",就是從這個要求出發的。其二,他要求作者有高度的藝術表現能力,"了然於口與手"。他認為這比"了然於心"更不容易作到。對藝術手段的作用如此重視,顯示了蘇氏對"道"與"文"的關係的看法,不僅不同於道學家,即和韓愈、歐陽修等的議論也是有出入的。

由於崇尚自然,蘇軾十分鄙視矯揉造作,也反對形式拘泥。 他失銳地批評了揚雄,認爲他的《太玄》《法言》諸作是"以艱深文 淺易",形式上模擬經典,並不能抬高其身價。相反,屈原、賈誼的 辭賦,形式上與《詩經》不一樣,却同有不朽的價值。

由於崇尚自然,蘇軾也強烈不滿王安石的"欲以其學同天·308·

下",他肯定"王氏之文,未必不善",但既然大地生物,千差萬別,各呈姿態,所以生氣勃勃,文章也是如此,強求千篇一律,只能造成文苑一片荒蕪。

當然, 崇尚自然與自由表達, 不等於否定藝術的規律, 而恰恰是尊重藝術規律, 要求熟練地掌握藝術規律。"行於所當行", "止於所不可不止", 卽表示了這種態度。

# 附録

# 答王庠書(節錄)

#### 〔宋〕蘇 軾

……前後所示著述文字,皆有古作者風力,大略能道意所欲言者。孔 于曰:"辭達而已矣。"辭至於達,足矣,不可以有加矣。〈經說》一篇,誠然是 言也。西漢以來,以文設科而文始衰,自賈誼、司馬遷已不逮先秦古書,況 其下者乎?文章循爾,況於道德乎?所論周勃則恐不然,平、勃未當一日 忘漢,陸賈之爲謀至矣。彼視祿、產猶几上內,但將相和調,則大計自定。若 如君言,先事經營,則呂氏覺悟,誅兩人,而漢亡矣。軾少時好議論古人,旣 老涉世更變,往往悔其言之過,故樂以此告君也。

儒者之病,多空文而少實用,賈誼、陸贄之學殆不傳於世。老病且死,獨欲以此教子弟,豈意親姻中乃有王郎乎?三復來脫,喜忭不已,應舉者志 於得而已。今程試文字,千人一律,考官益厭之,未必得也。……

文學古籍刊行社版《經進東坡文集事略》卷四十六

# 答張文潛書(節錄)

## 〔宋〕蘇 軾

……惠示文編,三復感嘆,甚矣君之似子由也!子由之文實勝僕,而世

俗不知,乃以爲不如。其爲人,深不願人知之;其文如其爲人,故汪洋澹泊,有一唱三嘆之聲,而其秀傑之氣,終不可沒。作《黃樓賦》,乃稍自振厲,若欲以警發憤憤者。而或者便謂僕代作,此尤可笑,是殆見吾善者機也。

文字之衰,未有如今日者也! 其源實出於王氏。王氏之文,未必不善也,而息在於好使人同己。自孔子不能使人同。顏淵之仁,子路之勇,不能以相移; 而王氏欲以其學同天下。地之美者,同於生物,不同於所生; 惟荒瘠斥鹵之地,彌望皆黃茅白葦,此則王氏之同也。

近見章子厚, 言先帝晚年, 甚惠文字之陋, 欲稍變取士法, 特未暇耳。 議者欲稍復詩賦, 立春秋學官, 甚美! 僕老矣, 使後生猶得見古人之大全 者, 正賴黃魯直、秦少游、晁无咎、陳履常與君等數人耳。……

文學古籍刊行社版《經進東坡文集事略》卷四十五

## 文 說

#### [宋]蘇軾

吾文如萬斛泉源,不擇地而出,在平地滔滔汩汩,雖一日千里無難。及 其與山石曲折、隨物賦形而不可知也。所可知者,常行於所當行,常止於不 可不止,如是而已矣。其他雖吾亦不能知也。

文學古籍刊行社版《經進東坡文集事略》卷五十七

# 上樞密韓太尉鬥書

〔宋〕蘇 轍[2]

太尉執事, 轍生好爲文, 思之至深。以爲文者, 氣之所形。然 文不可以學而能, 氣可以養而致。孟子曰: "我善養吾浩然之氣。" 今觀其文章, 寬厚宏博, 充乎天地之間, 稱其氣之小大。太史公 行天下, 周覽四海名山大川, 與燕、趙間豪俊交遊, 故其文疎蕩, 頗有奇氣。此二子者, 豈嘗執筆學爲如此之文哉? 其氣充乎其 中, 而溢乎其貌, 動乎其言, 而見乎其文, 而不自知也。

轍生十有九年矣。其居家所與遊者,不過其鄰里鄉黨之人, 所見不過數百里之間,無高山大野,可登覽以自廣;百氏之書,雖 無所不讀,然皆古人之陳迹,不足以激發其志氣。恐遂汩沒,故 決(原作狹,觀)然捨去,求天下奇聞壯觀,以知天地之廣大。過 秦、漢之故都,恣觀終南、嵩、華之高,北(原作比,觀)顧黃河之奔 流,慨然想見古之豪傑。至京師,仰觀天子宮闕之壯,與倉廩府 庫、城池苑囿之富且大也,而後知天下之巨麗。見翰林歐陽公[3], 聽其議論之宏辨,觀其容貌之秀偉,與其門人賢士大夫遊,而後 知天下之文章聚乎此也。

太尉以才略冠天下,天下之所恃以無憂,四夷之所憚以不敢 發,入則周公、召公[4],出則方叔、召虎[5],而轍也未之見焉。且 夫人之學也,不志其大,雖多而何爲?轍之來也,於山見終南、 嵩、華之高,於水見黃河之大且深,於人見歐陽公,而猶以爲未見 太尉也。故願得觀賢人之光耀,聞一言以自壯,然後可以盡天下 之大觀,而無憾者矣。 轍年少,未能通習吏事。嚮之來,非有取於斗升之祿,偶然得之,非其所樂。然幸得賜歸待選,使得優遊數年之間,將歸益治其文,且學爲政。太尉苟以爲可教而辱教之,又幸矣。

《四部艷刊》影明活字本《變城集》卷第二十二

#### 【註釋】

- [1] 韓太尉——韓琦(公元一〇〇八年——一〇七五年),字稚圭,相州安陽人。宋仁宗時,舉進士第二,授將作監承,通判淄州。後進樞密直學士,歷官陝西經略安撫招討使。與范仲淹齊名,天下稱爲"韓范"。後召爲樞密使,旋拜同中書門下平章事。英宗時,拜右僕射,封魏國公。神宗立,拜司徒,兼侍中。有《安陽集》五十卷。《宋史》卷三百十二有傳。
- [2]蘇較(公元一〇三九年—————二年)——字子由,號額濱遺老,眉山人。 軾弟。嘉祐二年進士,曾官門下侍郎。有《獎城集》五十卷、《後集》二十四卷、《三集》十卷、《應韶集》十二卷。《宋史》卷三百三十九有傳。
- [3]歐陽公——即指歐陽修。
- [4]周公召公——《史記·周本紀》:"封弟周公旦於曲阜日魯,封召公奭於燕。"周公、召公是周武王時大臣。
- [5]方叔召虎——《詩·小雅·采芑》:"方叔元老,克壯其獻。"《詩·大雅·江漢》: "江漢之滸,王命召虎。"方叔、召虎是周宣王時大臣。

### 【說明】

孟子的知言養氣說,在魏、晉以來的文學理論領域內,有了新的發展。自曹丕《典論·論文》到劉勰《文心雕龍·養氣》到韓愈《答李翊書》,先後賦予養氣說以不同的涵義。蘇轍在《上樞密韓太尉書》中,又具體闡說了養氣的新內容。

首先,作者在本文中提出了與曹丕不同的論點。曹丕說:"文以氣為主,氣之淸濁有體,不可力強而致。"作者則是"以爲文者,氣之所形,然文不可以學而能,氣可以養而致"。曹丕論氣,側重於先天的秉賦;作者論氣,側重於後天的修養。因此,他盡管認

為文章的神化之境非學力可到,但養氣的結果, 硼中彪外, 文章仍然可以到達聖處。所謂"氣充乎其中, 而溢乎其貌, 動乎其言, 而見乎其文, 而不自知也"。

復次,作者又提出了怎樣養氣的問題。這,一方面在於內心的修養,一方面有待於外境的閱歷。他舉孟子與司馬遷二人爲例,孟子善養浩然之氣,所以"文章寬厚宏博,充乎天地之間,稱其氣之小大"。這是重在內心修養的。司馬遷"行天下,周覽四海名山大川,與燕、趙間豪俊交遊,故其文疎蕩,頗有奇氣"。這是重在外境的閱歷的。外境閱歷,又包括人物交遊的影響與山川形勝奇聞壯觀等的激發。自力與外境本不可截然分割,而作爲散文家與詩人的蘇轍,根據實踐的體會,卻偏重於外境。

劉勰《文心雕龍·物色》說: "然屈平所以能洞監風騷之情者,抑亦江山之助乎!"本文後半所闡述,正是這一傳統說法的繼承,而且又有了補充。

附録

內 遊

〔元〕郝 經

昔人謂漢太史遷之文,所以奇,所以深,所以雄雅健絕,超麗疏越者,非區區於文字之間而已也。遷生龍門,耕牧河山之陽,南浮江、淮,上會稽,探禹穴,窺九嶷,浮於沅、湘;北涉汝、泗,講業齊、魯之都,過梁、楚;西使巴、蜀,略邛、笮、昆明,還於河、洛;能盡天下之大觀,以助其氣,然後吐而爲辭,筆而爲曹。故爾欲學遷之文,先學其遊可也。余謂不然,果如是,則遷之爲遷亦下矣。勤於足跡之餘,會於觀覽之末,激其志而益其氣,僅發於文辭而不能成事業,則其遊也外,而所得者小也。其遊也外,故其得也小,其得也小,故其失也大。是以《史記》一書,甚多疏略,或有牴牾。論大道則先黃、

老而後六經,序游俠則退處士而進姦雄,述貨殖則崇埶利而羞賤貧。其於曹法也,則記繁而志寡。項籍一夫也,而述本紀,與堯、舜並;陳涉役徒也,作世家,與孔子同;其失豈淺淺哉?

故欲學遷之遊,而求助於外者,曷亦內遊乎?身不離於衽席之上,而遊 於六合之外,生乎千古之下,而遊於千古之上,豈區區於足跡之餘、觀覽之 末者所能也? 持心御氣,明正精一,遊於內而不滯於內,應於外而不逐於 外。常止而行,常動而靜,常誠而不妄,常和而不悖。如止水,衆止不能易; 如明鏡, 衆形不能逃; 如平衡之權, 輕重在我; 無偏無倚, 無汙無滯, 無撓無 蕩,每寓於物而遊焉。於經也則河圖、洛書,剸劃太古,掣天地之幾,發天地 之蘊,盡天地之變,見鬼神之跡。太極出形,面目於世,萬化萬象,張皇其 中,而彌花洞豁,崎嶇充溢;因吾之心,見天地鬼神之心;因吾之遊,見天地 鬼神之遊。周誥、商盤、禹謨、舜典,醇擰忠致,貫日月,開金石,都俞吁咈, 号号顏顏,唐、虞、三代之治,慢然而見。 風、雅、變、正、諷、**贊**、刺、美,洋洋 乎中聲,鼓動至化,元經筆削,煣邪直正。齊桓、晉文,霸心方侈,而東之以 道, 縛之以義; 亂臣賊子, 禁其欲而不敢肆。藩垣屛翰, 既周流而歷覽之, 乃 升正大之堂,入高明之域。堯、舜、禹、湯、文、武、周、孔,拱宓犧而坐,臯、 變、伊、呂, 亞風牧而侍, 孟軻氏辨乎其間, 而額、曾導焉, 荀、揚奉焉。熙熙乎 育物之仁, 翕翕乎制物之義, 位尊卑, 辨上下, 治神人之禮, 和而不流之樂; 別嫌疑,明是非,照燿昭昕之智,閑而存之之敬,實而守之之信,化而極之 之聖,死生之說,神應之妙,大發其閩。而詭言詖行,放闢斥除;聖路廓清,而 天宇泰定。至矣哉! 君君臣臣,父父子子,夫夫婦婦,兄兄弟弟,何盛爾也。 而後易志賾精而遊乎史; 廢興之跡, 邪正之由, 大君大臣之所以盛, 小惠小 道之所以蔽,醴樂之所以興,政刑之所以紊,國勢之所以張,國本之所以強, 姦佞驚孽之所以逞,禍亂崩析之所以致,紀綱之所以明,風俗之所以壞,教 化之所以行。見其記註繁而正義鮮也,思得仲尼者而筆削之;見其典故廢 而法制剝也,思得周公者而振起之。旣遊矣,旣得矣,而後洗心齋戒,退藏 於密, 視當其可者, 時時而出之; 可以動則動, 可以止則止, 可以久則久, 可 以速則速。蘊而爲德行,行而爲事業,固不以文辭而已也。如是則吾之卓 爾之道,浩然之氣,嶡乎與天地一,固不待於山川之助也。彼嶞山喬嶽,高

則高矣,於吾道何有? 長江大河,盛則盛矣,於吾氣何有? 故曰,欲遊乎外者,必遊乎內。噫! 以史遷之才,果未遊於內耶? 蓋亦稱之者過矣。

乾隆刻本《郝文忠公陵川文集》卷二十

# 答洪駒父鬥書

### [宋] 黄庭堅[2]

駒父外甥教授: 別來三歲<sup>[3]</sup>,未嘗不思念。閑居絕不與人事相接,故不能作書,雖晉<sup>[4]</sup>城亦未曾作書也。專人來,得手書,審在官不廢講學,眠食安勝,諸稺子長茂,慰喜無量。

寄詩語意老重,數過讀,不能去手,繼以數息,少加意讀書,古人不難到也。諸文亦皆好,但少古人繩墨耳,可更熟讀司馬子長、韓退之文章<sup>[5]</sup>。

凡作一文,皆須有宗有趣,終始關鍵,有開有闔<sup>[6]</sup>;如四瀆<sup>[7]</sup>雖納百川,或匯而爲廣澤,汪洋千里,要自發源注海耳。

老夫紹聖以前,不知作文章斧斤<sup>[8]</sup>,取舊所作讀之,皆可笑。 紹聖以後,始知作文章,但以老病惰懶,不能下筆也。外甥勉之, 爲我雪恥。

《爲犬文》雖雄奇,然不作可也。東坡文章妙天下,其短處在 好爲<sup>[9]</sup>,慎勿襲其軌也<sup>[10]</sup>。

甚恨不得相見,極論詩與文章之善病,臨書不能萬一,千萬 強學自愛,少飲酒爲佳。

所寄《釋權》一篇, 詞筆從橫, 極見日新之效。更須治經, 深 其淵源, 乃可到古人耳[11]。青瑣[12]祭文, 語意甚工, 但用字時有 未安處。自作語最難, 老杜作詩, 退之作文, 無一字無來處, 蓋 後人讀書少, 故謂韓、杜自作此語耳。古之能爲文章者, 真能 陶冶萬物, 雖取古人之陳言入于翰墨, 如靈丹一粒, 點鐵成金 也[13]。 文章最爲儒者末事,然索學之,又不可不知其曲折,幸熟思之。至於推之使高,如泰山之崇崛,如垂天之雲<sup>[14]</sup>;作之使雄壯,如滄江八月之濤,海運<sup>[15]</sup>吞舟之魚,又不可守繩墨令儉陋也<sup>[16]</sup>。

《四部設刊》影宋本《豫章黄先生文集》卷十九

#### 【註釋】

- [1]洪駒父——洪獨,字駒父,豫章人。黄庭堅的外甥,紹聖進士,靖康中為諫議大夫。汴京失守,芻唯痛飲沈醉,竟被誣陷,坐貶沙門島,卒於島中。芻與兄朋弟炎、羽都有才名,號四洪。芻著有《老圃集》一卷,收入呂本中所編《江西宗派詩集》。此外,又著有《詩話》《豫章職方乘》等。
- [2] 黄庭堅(公元一〇四五年——一〇五年)——字替直,號山谷、涪翁,洪州分寧人。治平四年進士,曾官校書郎、著作耶,出知宣州、鄂州等處, 謫黔州、宜州。有《山谷集》六十九卷。《宋史》卷四百四十四《文苑》六有傳。
- [3] 別來三歲——按宋徽宗建中靖國元年辛已(公元一一〇一),庭堅在郭州,王觀 復(春)與洪獨父來會,庭堅有詩。別來三歲,則是崇寧二年癸未(公元一一〇 三),庭堅仍在郭州,時年五十九。
- [4] 晉——進。
- [5] 諸文亦皆好三句——庭堅《與王庠周彥書》: "所寄詩文,反覆讀之,如對談笑也。意所主張,甚近古人,但其波瀾枝葉不若古人爾。意亦是讀建安作者之詩與淵明、子美所作,未入神爾。"又《跋書柳子厚詩》: "予友生王觀復作詩有古人應度,雖氣格已超俗,但未能從容中玉珮之音、左准繩、右規矩爾。意者讀書未破萬卷,觀古人之文章未能盡得其規事,及所總覽籠絡,但知玩其山龍黼黻成章耶?"都是主張熟讀前代作家作品以求合古人規矩繩墨,可與本文所論相多。
- [6] 凡作一文四句——宗,宗旨。趣,越向。本文所指宗趣,意義相當於作品的主題。終始,就作品的意義言,指來龍去脈;就作品的形式言,指頭尾結構。庭堅於詩文,講求布置法度。胡仔《苕溪漁隱叢話》前集引其言:"每作一篇,先立大意。長篇須曲折三致意,乃可成章。"又引范溫《曆溪詩眼》载其言:"文章必邁布置",並謂每見後學,多告以《原道》命意曲折云云,都可與本文所論相念。
- [7]四濱----《爾雅·釋水》:"江、淮、河、濟爲四濱,四濱者,發源注海者也。"

- [8] 紹聖以前二句——紹聖,朱哲宗年號,自公元一〇九四年至一〇九七年,凡四年。紹聖二年,庭堅五十一歲,謫黔州。紹聖以前,謂在謫黔州以前。下文"紹聖以後,始知作文章",則是謂謫黔州以後。斧斤,喻作詩文的方法技巧。按:王構《修辭鑒衡》引《名賢詩話》:"黃魯直自黔南歸,詩變前體,且云:'須要唐律中作活計,乃可言詩,以少陵淵蓄雲萃,變態百出,雖數十百韻,格律益嚴,蓋操制詩家法度如此。'"胡仔《苕溪漁騰叢話》後集:"余讀豫章先生傳贊云:'山谷自黔州以後,句法尤高,筆勢放縱,實天下之奇作。'"都可與此文所言參證。
- [9] 東坡文章妙天下其短處在好屬——庭堅《書王知載朐山雜詠後》說:"詩者人之情性也,非強諫爭於廷,怨忿詬於道,怒鄰屬坐之爲也。"論旨與此相同。
- [10] 襲其軌——蹈其前轍。
- [11] 更須治經三句——庭堅《與秦少章帖》:"文章雖未學,要須茂其根本,探其淵源。"《與徐師川書》:"其未至者探經備未深。"《大雅堂記》:"夫無意而意已至,非廣之以國風雅頌,深之以《離廢》《九歌》,安能咀嚼其意味,聞然入其門耶?"都可與本文所論相發。
- [12] 青瑣——疑是指《青瑣高議》的作者劉斧。
- [13] 點鐵成金——陸機《文賦》"或襲故而彌新,或沿濁而更清"; 較然《詩式》也謂 "偷器最為鈍賊,……其次偷意,……其次偷勢",這些意見,可能為點鐵成金說 之所本。庭堅更進一步提出"奪胎換骨法",則比"點鐵成金"說,更沒有創新意 養了。此後江西派詩人繼承了這一衣鉢。宋人著作中除《冷齊夜話》(見說明 引)外,如《藝苑唯黃》《詩話總盤》《苕溪漁隱叢話》《甜語陽秋》《古今詩話》《捫 雖新話》《媚眞子》《詩人玉屑》《雲麓漫鈔》《五總志》《養雪叢談》等,均引述其 說,可見其影響的廣泛。
- [14] 垂天之雲——《莊子・逍遙遊》: "鵬之背不知其幾千里也,怒而飛,其翼若垂天之雲。"
- [15]海運——《莊子·逍遙遊》:"是鳥也,海運則將徙於南冥。"王先歸集解:"《玉篇》: '運,行也。'案: 行於海上,故日海運。"
- [16] 又不可守繩墨令儉陋也——庭堅《題李白詩草後》: "余評李白詩如黃帝張樂于洞庭之野,無首無尾,不主故常,非墨工槧人所能擬識。"即是此意。

## 【說明】

杜甫、韓愈在宋代特別受到文人們的重視。杜甫自言"讀書·818·

破萬卷,下筆如有神"(《奉贈韋左丞丈二十二韻》),指的是在萬卷羅胸的基礎上去其糟粕,取其精華,自鑄偉詞,達到高超的境地,並不同於後人的以抄書當作詩。韓愈自言"沈浸釀郁,含英咀華,作爲文章,其書滿家"(《進學解》),但他卻反對剽襲古人,主張"陳言之務去"(《答李翊書》),"惟古於詞必己出"(《南陽樊紹述墓志銘》)。宋人作詩,掉書袋形成風氣,王安石、蘇軾,都有此癖好。發展到江西詩派的開山祖師黃庭堅,更提出了一套化腐朽爲神奇,"以故爲新"(《再次韻楊明叔小序》)的理論,江西派詩人也就以此爲不傳之祕。他們對杜、韓的理解是不確切的。

《答洪駒父書》是庭堅五十九歲的作品。書中強調"自作語最 難"。釋惠洪《冷齋夜話》曾引庭堅的話:"詩意無窮而人之才有限, 以有限之才追無窮之意,雖淵明、少陵不得工也。然不易其意而 造其語,謂之換骨法;窺入其意而形容之,謂之奪胎法。"意義大 致相同。庭堅的說法,着重在詩歌語言的技巧方面。這種主張, 是以借鑑代替創造,以因襲拼凑代替推陳出新,帶有片面追求形 式的傾向。庭堅在自己的寫作實踐上,確也有這種毛病。宋人 方回《桐江集·劉元暉詩評》謂:"黃專用經史雅言、晉宋淸談、 《世說》中不緊要字, 融液爲詩。"清人翁方綱《復初齋文集·跋山 谷手錄雜事墨迹》謂:"所錄皆漢、晉間事,預儲爲詩文材料。"這 種做法,宋人魏泰《臨漢隱居詩話》就批評了他:"黄庭堅作詩得 名,好用南朝人語, 專求古人未使之事, 又一二奇字, 綴葺而成 詩。自以爲工,其實所見之僻也。"金人王若虚《滹南詩話》也有**這** 樣的批評."魯直論詩有奪胎換骨、點鐵成金之喻,世以爲名言。 以予觀之, 特剽竊之黠者耳。魯直好勝, 而恥其出於前人, 故爲 此強辭而私立名字。"都是擊中庭堅詩論要害的話。

黄庭堅論詩,也有談到思想內容的。如《胡宗元詩集序》中 說:"其與托高遠,則附於國風;其忿世疾邪,則附於《楚辭》。"《戲 呈孔毅父》詩中說:"文章功用不濟世,何異絲集綴露珠。"但其全部理論的傾向,是重在形式技巧,而不是思想內容。

# 附錄

#### 贈高子勉(選錄)

#### 〔宋〕 黄庭堅

妙在和光同塵,事須鉤深入神,聽它下虎口著,我不爲牛後人。

拾遺句中有眼,彭澤意在無絃,顧我今六十老,付公以二百年。 《四部叢刊》影宋本《豫章黄先生文集》卷十二

# 潛溪詩眼(選錄)

#### [宋] 范 溫

山谷言文章必藍布置,每見後學,多告以《原道》命意曲折。後予以此概考古人法度,如杜子美《贈章見素詩》云: "紈绔不餓死,儒冠多誤身",此一篇立意也,故使人靜聽而具陳之耳。自"甫昔少年日",至"再使風俗淳",皆儒冠事業也。自"此意竟蕭條",至"贈蹬無縱鱗",言誤身如此也。則意舉而文備。故已有是詩矣,然必言其所以見章者,於是有厚愧眞知之句。所以眞知者,謂傳誦其詩也。然宰相職在薦賢,不當徒愛人而已,士故不能無望,故曰: "竊效買公喜,難甘原憲資。"果不能薦賢則去之可也,故曰: "焉能心快快,祗是走踆踆",又將入海而去秦也。然其去也,必有遲遲不忍之意,故曰: "尙憐終南山,回首清渭濱。"則所知不可以不別,故曰: "常擬報一飯,況懷辭大臣。"夫如此是可以相忘於江湖之外,雖見素亦不得而見矣,故曰"白鷗沒浩蕩,萬里誰能馴"終焉。此詩前賢錄爲壓卷,蓋布置最得正體,如官府甲第廳堂房室,各有定處,不可亂也。韓文公《原道》,與《書》之《堯典》

蓋如此,其佗皆謂之變體可也。蓋變體如行雲流水,初無定質,出於精微,奪乎天造,不可以形器求矣。然要之以正體爲本,自然法度行乎其間。譬如用兵,奇正相生,初若不知正而徑出於奇,則紛然無復綱紀,終於敗亂而已矣。《原道》以仁義立意,而道德從之。故老子捨仁義,則非所謂道德。繼敍異端之汩正,繼敍古之聖人不得不用仁義也如此,繼敍佛老之捨仁義,則不足以治天下也如彼,反復皆數疊,而復結之以先王之教,終之以人其人、火其書,必以是禁止而後可以行仁義,於是乎成篇。若《堯典》自"若稽古帝堯"至"格於上下",則堯之大略也。自"克明俊德"至於"於變時难",言堯修身以及天下也。於是"乃命義和"言天事,"若予采""若時登庸"言人事,"洪水方割"言地事,三才之道旣備,繼之以遜位終焉。然則自古有文章,便有布置,講學之士不可不知也。

哈佛燕京學社本《宋詩話輯佚·潛溪詩眼》

# 冷 齋 夜 話(選錄)

# 〔宋〕惠 洪

山谷言: 詩意無窮而人才有限; 以有限之才追無窮之思,雖淵明、少陵不得工也。不易其意而造其語, 謂之換骨法; 規摹其意形容之, 謂之奪胎法。

《說郛》本《冷齋夜話》

# 與王觀復書三首之一[節錄]

#### [宋] 黄庭堅

……所送新詩,皆與寄[1]高遠,但語生硬不諧律呂[2],或詞氣不逮初造意時。此病亦只是讀書未精博耳。長袖善舞,多錢善賈[8],不虛語也。南陽劉勰[4]皆論文章之難云:"意飜空而易奇,文徵實而難工[5]。"此語亦是。沈、謝[6]輩爲儒林宗主,時好作奇語,故後生立論如此。好作奇語,自是文章病,但當以理爲主,理得而辭順,文章自然出羣拔萃。觀杜子美到夔州後詩[7],韓退之自潮州還朝後文章[8],皆不煩繩削[9]而自合矣。……文章蓋自建安[10]以來好作奇語,故其氣象衰茶,其病至今猶在。唯陳伯玉、韓退之、李習之,近世歐陽永叔、王介甫、蘇子瞻、秦少游[11]乃無此病耳。……

《四部叢刊》影宋乾道刊本《豫章黄先生文集》卷十九

### 【註釋】

- [1] 興寄——見《與東方左史虬修竹篇序》註[4]。
- [2] 律呂——相傳古時"黃帝令伶倫作爲律(按:指樂律)"(見《呂氏春秋·古樂》)。 伶倫截竹爲筒,以筒的長短,區別聲音的輕濁高低,分陰陽各六,陽爲律,陰爲 呂,合稱十二律。律呂本指樂律,在這裏作者借用來比喻詩歌的格律。
- [3] 長袖善舞多錢善買——《韓非子·五蠹》: "鄙諺曰: '長袖善舞,多錢善賈。'此 言多資之易為工也。"這是比喻所憑藉的東西愈多,就愈容易把事情辦好,換句 話說,也就是具備了優越的條件,事情就好辦了。
- [4]南陽劉勰——參見本書第一册《文心雕龍·神思》註[1]。按:劉勰郡望是東莞, 儒居京口。所謂"南陽"云云, 或係作者誤記, 或"陽"字爲"朝"字誤文。

- [5] 意酬空而易奇文徵實而難工——《文心雕龍·神思》篇語。"文"原作"言","工"原作"巧"。 參見本書第一册《神思》篇註[17]。
- [6]沈謝——即沈約、謝朓。見《上吏部裴侍即啓》註[11]。
- [7]杜子美到強州後詩——杜甫,字子美。見本册《戲爲六絕句》註[1]。他於大曆 元年(公元七六六年,時五十五歲)到魏州,住了將近兩年,於大曆三年(公元七 六八年)正月離開魏州,順流東下,最後於大曆五年(公元七七〇年)病死在湘 江的船上。黄氏之所以推重杜甫到魏州後詩,主要是從"理得""辭順""平淡 簡易"而又"山高水深",不落凡近等內容形式兩方面着眼。關於這方面,可參 閱本文附錄的《與王觀復書三首之二》。
- [8]韓退之自潮州還朝後文章——韓愈,字退之。見前《答李翊書》註[2]。元和十四年正月,他因諫迎佛骨表事被貶為潮州刺史,同年十月二十四日改袁州刺史,穆宗即位後即被召還朝。黃氏還句話,是作為推崇杜甫到藝州後詩的陪觀,也是從意境與語言的平淡自然方面着眼的。
- [9] 繩削——繩,繩墨,木匠正曲直的器具。削,斧削。謂以繩墨衡量,然後按照 準繩加以斧削。這裏引申爲對作品的修飾、剪裁。
- [10] 建安——見本書第一册《宋書·謝麗運傳論》註[16]。
- [11] 唯陳伯玉二句——陳子昂,字伯玉,見本册《東方左史虬修竹篇序》註[2]。李翱,字智之,見本册《答李翊書》註[1]。歐陽修,字永叔,見本册《答吳充秀才書》註[2]。王安石,字介甫,見本册《上人書》註[1]。蘇軾,字子瞻,見本册《曹黄子思詩集後》註[2]。秦觀(公元一〇四九年——〇〇年),字少游,號淮海居士,高郵人。實官秘書省正字。有《淮海集》。

#### 【説明】

《答洪駒父書》突出了黃庭堅詩論中的"法"——卽詩歌句法、律法等形式方面;而本文則重在"理",強調詩歌創作的藝術規律外,也注意到詩歌的思想內容。在這裏,他認為詩歌應該"以理為主",因為"理得而辭順,文章則自然出羣拔萃"。在他的詩論中,"法"與"理"並不相互排斥,而是矛盾的統一體。

對王觀復的詩,黄氏指出了"語生硬不諧律呂""詞氣不逮初 造意時"的缺點,反對"好作奇語",強調這是不學古的結果:"此病 只是讀書未精博耳。"在這裏他何嘗廢"法"而不言。不過他認為要達到"理得而辭順"的境界,更須進一步以杜甫到夔州後詩為楷式,精心研習,方能得其眞髓:"但熟觀杜子美到夔州後古律詩,便得句法簡易,而大巧出焉。平淡而山高水深,似欲不可企及,文章成就,更無斧鑿痕,乃為佳耳。"(《與王觀復書三首之二》)又說"杜子美詩妙處,乃在無意於文,夫無意而意已至,非廣之以《國風》《雅》《頌》,深之以《離騷》《九歌》,安能咀嚼其意味,闖然入其門耶?"(《大雅堂記》)杜甫自己也一方面說"晚節漸於詩律細",一方面又說"老去詩篇渾漫與",看似漫不經心,自然天成,實經千錘百煉,爐火純青。這也就是黃氏所讚賞的"不煩繩削而自合"的意思。其實,黃氏的詩歌創作並沒做到這一點。魏泰《臨漢隱居詩話》就批評他"好用南朝人語,專求古人未使之事,又一二奇字綴葺而成詩,自以爲工,而實所見之僻也,故句雖新奇而氣乏渾厚"。

此外,還須說明一下,黃庭堅之"理"有自己獨特的含義,旣不同于道學先生抽象的義理,也不是一般詩人作家直抒胸臆的情理。本文的"理",旣是指文理,也包括了黃庭堅對客觀事物的認識,並表露了他的人生態度。

# 附 錄

# 與王觀復書三首之二(節錄)

## 〔宋〕黄庭堅

······· 听寄詩多佳句,猶恨雕琢功多耳。但熟觀杜子美到夔州後古律詩,便得句法簡易,而大巧出焉。平淡而山高水深,似欲不可企及,文章成就,更無斧鑿痕,乃爲佳作耳。······

《四部號刊》影宋乾道刊本《豫章黃先生文集》卷十九

## 大雅堂記(節錄)

#### 〔宋〕黄庭堅

……子美詩妙處,乃在無意於文,夫無意而意已至,非廣之以《國風》 《雅》《頌》,深之以《離騷》《九歌》,安能咀嚼其意味,闖然入其門耶?故使後 生輩自求之,則得之深矣。使後之登大雅堂者,能以余說而求之,則思過 华矣。彼喜穿鑿者棄其大旨,取其發興於所遇林泉人物草木魚蟲,以為物 物皆有所託,如世間商废隱語者,則子美之詩委地矣。……

《四部費刊》影宋乾道刊本《豫章黃先生文集》卷十七

# 何 君 墓 表(節錄)

#### 〔宋〕陸 游

詩豈易言哉?一書之不見,一物之不識,一理之不窮,皆有憾焉。同此世也,而盛衰異;同此人也,而壯老殊。一卷之詩有淳濟,一篇之詩有善病,至于一聯一句,而有可玩者,有可疵者,有一讀再讀至十百讀,乃見其妙者,有初悅可人意,熟味之使人不滿者。大抵詩欲工,而工亦非詩之極也。鍛煉之久,乃失本旨,斷削之甚,反傷正氣。雖曰名不可幸得,以名求詩,又非知詩者。纖麗足以移人,誇大足以蓋衆,故論久而後公,名久而後定。嗚呼艱哉! 予固不足爲知此道者,亦致其意久矣,顧每不敢易于品藻。蓋彼皆廣求約取,極數十年之力,僅得其所謂自喜者以示人,而我乃欲一覽而盡,其可乎?

4 **- -** - - - - - - - -

中華會局排印本《陸游集·渭南文集》卷三十九

## 東屯高齋記(節錄)

### 〔宋〕陸 游

……少陵,天下士也。早遇明皇、肅宗,官爵雖不奪顯,而見知實深,蓋 嘗慨然以稷虜自許。及落魄巴蜀,感漢昭烈諸葛丞相之事,屢見於詩。頓 挫悲壯,反覆動人,其規模志意豈小哉。然去國寢久,諸公故人熟睨其窮, 無肯出力。比至夔,客於柏中丞、嚴明府之間,如九尺丈夫,俯首居小屋下, 思一吐氣而不可得。予讀其詩,至"小臣議論絕,老病客殊方"之句,未嘗不 流涕也。嗟夫,辭之悲乃至是乎! 荆卿之歌,阮嗣宗之哭,不加于此矣。少 陵非區區於仕進者,不勝愛君憂國之心,思少出所學佐天子,與正(貞)觀開 元之治,而身愈老,命愈大謬,坎壤且死,則其悲至此,亦無足怪也。……

中華書局排印本《陸游集·渭南文集》卷十七

# 與汪秘校論文書

# 〔宋〕呂南公[1]

往者辱示動動之意,使以鄙文進禮几席。承命旣久,冗瑣未能即呈,迺今不免獻矣,猶願以言嘗於左右。

蓋所謂文者,所以序乎言者也。民之生,非病啞吃,皆有言, 而賢者獨能成,存於序,此文之所以稱。古之人以爲道在已而言 及人,言而非其序,則不足以致道治人。是故不敢廢文。堯、舜 以來,其文可得而見,然其辭致抑揚上下,與時而變,不襲一體。

蓋言以道爲主,而文以言爲主。當其所值時事不同,則其心氣所到,亦各成其言,以見於所序,要皆不違乎道而已。商之書,其文未嘗似虞、夏,而周之書,其文亦不似商書,此其大概。若條件而觀之,則謨不類典[2],《五子之歌》不類《禹貢》[8],《盤庚》不類《說命》[4],《微子》又不類《伊訓》[6],至於《泰誓》《洪範》《大誥》《周官》《呂刑》之文[6],皆不相類也。

蓋古人之於文,知由道以充其氣,充氣然後資之言,以了其心,則其序文之體,自然盡善,而不在準做。自周之晚,六經始集,七十子之徒,雖不以誦經爲功,然其奪仰孔子,盛於前世。及孟子、荀卿相望而出,益復奪孔子而小衆家,故秦火旣冷,而漢代諸生爲辭,不敢自信其心,而曰:"我歌頌帝王盛德,與夫論述世故,皆出入六經,峻有師法[7],不可疵類[8]。"此西漢文所以見高於世,而東京以下學士,不易其說也。

雖然,亦其說如此。劉向之文,未嘗似仲舒<sup>[8]</sup>,而相如之文,未嘗似馬遷<sup>[10]</sup>,揚雄之文,亦不傚孟子也。張衡、左思等輩,於

道如從管間窺豹,故其所作文賦,緊持揚、馬襟袖,而不敢縱其握<sup>[11]</sup>。自是文章世衰一世,幾於童子之臨模矣!

繇揚雄至元和千百年[12],而後韓、柳作。韓、柳之文,未嘗相似也,而前此中間寂寞,無足稱。豈其固無人? 其患起於不知由道以充氣,而置我心以視傚他人,故雖勞猶不能傑然自立。去元和至吾宋又數百年,而有歐、王[13]之盛。宗其學者,文辭往往奇特,然至今者又已少貶。蓋文之爲道,由東京以下,始與經家分兩歧,其弊起於氣不足。以序言之人,恥無所述,因乃瑣屑解詁,過自封殖[14],且高其言以欺繼後生。曰:"文者虛辭,非吾所取,吾當釋經以明道而已",疲輭人喜論銷兵[15],是故相師而成黨。嗟乎! 從之者亦不思矣!

夫揚、馬以前文章,何嘗失道之旨哉! 今之學士,抑又鼓倡, 爭言韓、柳未及知道,不足以與明<sup>[16]</sup>; 不如康成、王肅<sup>[17]</sup>諸人, 稍近議論。噫! 又過矣! 夫所爲知道者,果將何爲? 必將善於 行事,而有益於世也,不識康成、王肅之行事,有以大過人乎? 如 以爲行事因時,難相比貴,則所以去取重輕者,無乃謂學經貫穿 衆說,難於立意成篇乎? 是又非吾所信。

且天下孰有能飲千鍾而不能三爵者,彼解詁章句,三爵之才而已。陸淳非不能說經,而當時有書廚之譏<sup>[18]</sup>,此足以見爲文難於解詁。夫使韓、柳爲澄之解,而有不能乎?彼韓、柳者,蓋知古人之學不如此,是以略其不足爲者,精於其可爲者耳。

說者又云: "吾不論說經爲文之難易; 但經術明則道可行, 吾故趣於此。"此亦不然! 夫康成、王肅之時, 大亂數百年而後止, 此時學者, 豈不知宗本王、鄭經術耶, 道何以不行也? 孔、孟以前學者, 未嘗解經, 而言治者, 每稱三代。且先王所謂明道者, 豈解詁章句之謂乎? 後人欲追治古經, 而按此以進焉, 吾不知其與捕風[19]者何異矣!

天下治亂,有常勢也。儒者之才,不務見於事功,以助爲國者之福,而希世沽名,苟爲家說,以亂古書,自稱高妙,此何所補?陸淳豈不明《春秋》,希聲[20]豈不明《易》,祝欽明[21]豈不明《三禮》,然此徒於當時治亂爲有補乎否也?而後生方倚此論功,不自信其心,以思自古文學道德之變,而更紛紛輕視文人。且文章豈足爲儒者之功?即能之,固不必恃。然解詁人輕之,亦錯矣。是飲千鍾者,不自以爲能酒,而三虧者反笑千鍾之醉也!

某不佞,少年時浪事慷慨,欲以文學自立,二十有餘,猶不得 其緒,以爲能事止於時文<sup>[22]</sup>而已。蓋至於二十四五,然後克有 所見,於列、莊<sup>[23]</sup>見道之書,於《六經》見道之訓,於百家見道之 所以文而文之所以得,於十八代史<sup>[24]</sup>見道之所以變,沈酣而演 釋之。稱以誠心自許,私嘗以爲文字之事,雖使聖人復生,不得 廢吾所是。而遭時不偶,有前之云云。天下滔滔,未易同志,唯 當勒成一家,俟之百世焉耳!

祕校才高而識敏,亟從時俊之列,超拔入官。而問學淹該,如不自足,方用謙屈,乃以及於鄙文。且某何敢愛哉!但稱有所疑者:當今文與經家分黨之際,未知祕校所取何等之文耳?若薨、舜以來,揚、馬以前與夫韓、柳之作,此某所謂文者。若乃場屋詭偽,劫剽穿鑿猥冗之文[25],則某之所恥者。往時嘗爲之矣,然未嘗以之比數於文也。譬猶美女時花,細麗豔妖,朝盛而夕衰焉,目雖偶游,不足以爲榮觀。必若黃河泰山峻厚高簡,渾灝奔注,與天地齊同,而日月不能老之者,此某之所以究心,未識所取亦在此否?

旅貧而力奪,心氣有所不專,下筆超超,或未了意。祕校取之在此,雖一言可以致亮;如其取之於彼,則又何言! 謹錄書陳正事以下若干篇,以復盛德,惟試覺其如何? 苦熱煩汗,書不狀心。

《四庫全書珍本初集》本《澶園集》卷十一

#### 【註釋】

- [1] 呂南公(公元一〇四七年——一〇八六年)——字次儒, 號袞斧, 建昌南城人。 熙寧中試進士不第, 即絕意進取, 以灌園終其身。有《灌園集》二十卷。《宋史》 卷四百四十四《文苑傳》有傳。
- [2] 謨不類典——《書》有《堯典》與《皋陶謨》。
- [3]五子之歌不類禹貢----《禹貢》乃《夏曹》篇名。現存《夏曹》的《五子之歌》乃僞 古文。
- [4] 盤庚不類說命——《盤庚》乃《商書》篇名。現存《商書》的《說命》乃僞古文。
- [5] 微子不類伊訓——《微子之命》乃僞古文《周書》。《伊訓》乃僞古文《商書》。
- [6] 泰警洪範大酷周官呂刑之文——《泰誓》《洪範》《大酷》《呂刑》都是《周書》篇 名。《泰誓》《周官》乃僞古文。
- [7] 晚有師法---獨言極有師法。
- [8]疵類——類,絲節,引伸為疵。疵類連用,即是指疵病。
- [9]仲舒---董仲舒。
- [10] 馬遷——司馬遷。
- [11] 張衡左思五句——謂張衡《兩京賦》、左思《三都賦》都是模倣司馬相如《子虚赋》《上林赋》、揚雄的《蜀都賦》的形式。
- [12] 蘇揚雄至元和千百年——蘇,即由字。元和,唐憲宗年號,自公元八〇六年至 八二〇年。揚雄卒於公元一八年,下數至公元八〇六年凡七百八十八年,本文 云千百年是約數。
- [13] 歐王——歐陽修、王安石。
- [15] 疲輭人喜論銷兵——兵,謂心兵,指意氣。性格軟弱的人不喜作意氣的爭論。
- [16] 今之學士四句——如《二程遺書》六:"揚子之學實,韓子之學華,華則涉道淺。" 又十八:"退之晚年爲文所得處甚多。學本是修德,有德然後有官,退之卻倒學 了。"
- [17] 康成王肅——康成,鄭玄的字。王肅,三國魏時經師。《三國志·魏志》卷十三有傳。
- [18] 陸淳二句——淳(?——公元八〇六年),字伯冲,唐吳郡人,避太子名,改名質。 師事趙匡,匡師啖助,質盡傳二家《春秋》之學。著有《春秋集傳集例》十卷、《春 秋徽旨》三卷、《春秋集傳辨疑》十卷。今存。案:春斯县南齊時陸澄事,《南史。

陸澄傳》: "澄號當世碩學,讀《易》三年,不解文義,欲撰《宋書》竟不成。王儉戲之曰: 陸公,書廚也。"本文蓋誤用此典。但下文又接着說"夫使韓、柳爲澄之解",是作者竟以淳、澄混作一人了。

- [19] 捕風----《漢書·郊祀志》:"聽其洋洋滿耳,若將可遇。求之盪盪,如係風捕影,終不可得。"
- [20] 希聲——陸希聲,唐末吳縣人,官戶部侍郎、中書門下平章事。博學善爲文,工書法。著有《周易傳》二卷,見《新唐書·藝文志》著錄。
- [22] 時文——歐陽修《蘇氏文集序》: "天聖(仁宗年號)之間,予舉進士於有司,見時學者,務以言語聲偶擿裂,號為時文。"案:本文所稱時文,則是指當時應試的經養文字。宋代的時文,不同於明、清的八股文。
- [28]列莊——《列子》與《莊子》,都是道家。
- [24] 十八代史——《史記》《漢書》《後漢書》《三國志》《晉書》《宋書》《南齊書》《梁書》 《陳書》《魏書》《北齊書》《周書》《隋書》《南史》《北史》《舊唐書》《新唐書》《五代史》。按:陳殷《十八史略序》無《舊唐書》,有李燾劉時舉《通鑑》。諸橋較次《大漢和辭典》十八史條無《舊唐書》,有《宋史》。呂南公北宋時人,不能見到李燾書與《宋史》。茲以《舊唐書》當之。
- [25] 場屋能傷二句——場屋,科學時代考試士子的地方。當時場屋之文,即上所稱的時文。見時文條註。

# 【説明】

呂南公的文論,在宋代也代表了一部分人的意見。這篇《與 汪祕校論文書》所闡述的論文旨趣,約有兩個方面:

第一,自漢武帝罷黜百家、獨崇儒術之後,儒家經典成爲鞏 固封建政權的工具,於是就出現了大批以解詁經書章句爲專業 的儒生。這些說經之儒由於得所依附,有較高的社會地位,不免 輕視文人。一命文人,便無足觀,成爲一種不正常的傳統的看 法。呂南公強調"儒者之才",應該"見於事功",文章固不足恃; 然而沒有文章的表現,"則不足以致道治人"。因此,他"以爲文學 之事,雖使聖人復生,不得廢吾所是"。文中以鄭玄、王肅、陸淳等人爲例,指出說經的儒生無補於世,而文章之士,如韓愈、柳宗元倒能够卓立千古。可見文人不是不能爲說經的儒生,是不屑爲說經的儒生;而"解詁人"反輕視文章之士,就更可笑了。

當時朝廷用王安石經義之學以取士,王氏所著《三經新義》及《字說》成爲功令規定的士人必習之書。呂南公因不願受到這種思想上的束縛,一試不中之後,即絕意進取。他說"欲以文學自立",憤慨於"文與經家分黨之際",人們對文人缺乏正確的認識,所以議論如此的痛快而激切。

第二,運用一個固定不變的程式來拔取人才,不但限制了人們自由地發揮思想,而且也必然給文風帶來不良的影響。蘇軾在《答張文潛書》裏說當時"文字之衰","其源實出於王氏",王氏之文"好使人同己",朝廷取士之法途徑極為狹隘,因此文壇上就呈現出一片"黃茅白葦"的荒涼景象。呂南公所謂"時文",所謂"場屋詭僞,劫剽穿鑿狠冗之文",也是針對當時千篇一律,應試的經義文字而言的。他論文反對模擬準仿,認爲古今文章,千變萬化。由於作者個性不同,"心氣所到,亦各成其言",不可能大家一樣。而這各種不同風格的形成,首先是"與時而變",有着鮮明的時代色彩,所以"商之書,其文未嘗似虞、夏,而周之書,其文亦不似商書"。其次由於題材和體製的不同,所以"謨不類典,《五子之歌》不類《禹貢》……";即使是同樣的題材和體製,不同作者的作品,也是有不同的表現的。他說,"韓、柳之文,未嘗相似",其所以有取於古文家者在於此;他之所以不屑爲當時經義之文也在於此。

呂南公在文學上的造詣雖不高,但不能說沒有一定的識力,至少對當時"黄茅白葦"式的經術文章是起一些批判作用的。

# 附錄

# 讀李文饒集(節錄)

#### 〔宋〕 呂南公

余與凌襲先生論立功立言,先生稱有道者必能立功,而立功者不必皆有道。余獨論立言,以爲士必不得已於言,則文不可以不工。蓋意有餘而文不足,如吃人之辯訟,心未嘗不虛,理未始不直,然而或屈者,無助於辭而已矣。噫! 古今之人苟有所見,則必加思,加思必有得,有得矣而不欲著之於言以示世,殆非人情。然而偉談劇論,不聞人人各有者,此非文不足故歟?

《四庫全書珍本初集》本《灌園集》卷十七

# 上蘇內翰書(節錄)

# [朱] 毛 滂

·····本朝以文章聳動搢紳之伍者,天下最知有歐陽文忠公,中間先生父子兄弟,懷才抱道,吐秀發奇,又相鳴於翰墨之囿,如長江大河,浩無畔岸,景嵒峭壁,萬仞崛起,此天下所以目駁耳回而披露於下風也。爲兒童者記誦先生之言,能論撰者盜竊先生之意,視先生以爲規矩繩墨,未有以方圓曲直逃者也。熙寧間作新斯文,而丞相以經術文章爲一代之儒宗,天下始知有王氏學。瀰獅乎其猶海也,其執經下座摳衣受業者,如百川歸之海。於是百家之言,陳弊窗爛,學士大夫見必嘔而唾之。嗚呼,一旦取覆醬瓿矣!當時歷金門、上玉堂、紆青拖紫,朱丹其穀者,一出王氏之學而已。先生以爲彼眞有以知王氏乎?其心誠樂其所學而好之乎?不二十年間,天子出丞相不用也,其議論益彫落,而文亦就弊矣。主上新即位,諸公以耆舊得召,合於朝廷間,其老儒宿學,平日宛舌同聲而凐鬱不快者,一旦開其約結,順風而疾呼,應者蓋已如響,而王氏之學又將覆醬瓿矣。先生以爲學士大

夫今日從先生游者爲誰何,是皆前日規短繩墨於先生者也,然王氏之說殆亦滿其腹中,蓋亦中間叛先生而去者耳。自先生兄弟入朝,某由二浙歷淮、泗至於京師,有服儒衣冠者,某必問之,今公卿大夫以經術文章進者誰爲能?必曰不出先生兄弟;宜誰師?必曰宜師先生兄弟。先生以爲彼眞有以知先生乎,其心誠樂先生之所學而好之乎?先生之名滿天下,雖漁樵之人,里巷之兒童,馬醫廝役之徒,深山窮谷之妾婦,莫不能道也。是天下所共知也。某以爲其人之所以眞知先生者,非天下所共知也。王氏之學固未必人人知而好之,蓋將以爲進取之階,官室之奉,妻孥之養,餔啜之具耳。此某所以病今之學者爲利蓋如此而已矣。某少知讀書。頑然樸魯,聞道甚淺,然其所學則周公、仲尼之道,非進取之道也。古人今人,前輩後輩,某不知執重執輕,從其是者而已。……

《四庫全書珍本初集》本《東堂集》卷六

# 石林詩話(選錄)

## 〔宋〕葉夢得[1]

王荆公晚年詩律尤精嚴,造語用字間不容髮<sup>[2]</sup>,然意與言會,言隨意遺,渾然天成,殆不見有牽率<sup>[3]</sup>排比處。如"含風鴨綠 鱗鱗起,弄日鵝黃裛裛垂"<sup>[4]</sup>,讀之初不覺有對偶;至"細數落花 因坐久,緩等芳草得歸遲"<sup>[5]</sup>,但見舒閒容與之態耳,而字字細 考之,皆經(原作"若徑",據《苕溪漁隱叢話》前集卷三十六校改) 檃括權衡者<sup>[8]</sup>,其用意亦深刻矣。……(卷上)

杜子美《病柏》《病橘》《枯檬》《枯楠》四詩,皆與當時事[7]。《病柏》當爲明皇作[8],與《杜鵑行》[9]同意;《枯樓》比民之殘困[10],則其篇中自言矣;《枯楠》云:"猶含楝梁具,無復霄漢志",當爲房次律之徒作[11];惟《病橘》始言"惜哉結實小,酸澀如棠梨"[12],末以比荔枝勞民[13],疑若指近倖之不得志者。自漢魏以來,詩人用意深遠,不失古風,惟此公爲然,不但語言之工也。(卷上)

詩語固忌用巧太過,然緣情體物[14],自有天然,工妙雖巧而不見刻削之痕,老杜"細雨魚兒出,傲風燕子斜"[15],此十字殆無一字虛設:雨細著水面爲温[16],魚常上浮而淰[17],若大雨則伏而不出矣;燕體輕弱,風猛則不能勝,唯微風乃受以爲勢,故又有"輕燕受風斜"[18]之語。至"穿花蛺蝶深深見,點水蜻蜓、射、飛"[19],"深深"字若無"穿"字,"射泉"字若無"點"字,皆無以見其精微。如此讀之,渾然全似未嘗用力,此所以不礙其氣格[20]

超勝。使晚唐諸子為之,便當如"魚躍練波拋玉尺,鶯穿絲柳織金梭"體矣。七言難於氣象雄渾,句中有力,而紆徐<sup>[21]</sup>不失言外之意。自老杜"錦江春色來天地,玉壘浮雲變古今"<sup>[22]</sup>,與"五更鼓角聲悲壯,三峽星河影動搖"<sup>[23]</sup>等句之後,嘗恨無復繼者。韓退之筆力最為傑出,然每苦意與語俱盡。《和裴晉公破蔡州回》詩<sup>[24]</sup>所謂"將軍舊壓三司貴<sup>[25]</sup>,相國新棄五等崇"<sup>[26]</sup>,非不壯也,然意亦盡於此矣。不若劉禹錫《賀晉公留守東都》云:"天子旌旗分一半,八方風雨會中州"<sup>[27]</sup>,語遠而體大也。(卷下)

古今論詩者多矣,吾獨愛 湯惠休稱謝靈運爲"初日芙葉"[28],沈約稱王筠爲"彈丸脫手"[29],兩語最當人意。初日芙葉,非人力所能爲,而精彩華妙之意,自然見於造化[30]之妙,靈運諸詩可以當此者亦無幾。彈丸脫手,雖是輸寫便利,動無留礙,然其精圓快速,發之在手,筠亦未能盡也。然作詩審到此地,豈復更有餘事! 韓退之《贈張籍》[31]云:"君詩多態度,蠶露春空雲",司空圖記戴叔倫語云:"詩人之詞如藍田日暖,良玉生烟"[32],亦是形似之微妙者,但學者不能味其言耳。(卷下)

何文煥《歷代詩話》本《石林詩話》

### 【註釋】

- [1] 葉夢得(公元一〇七七年——一四八年)——字少蘊,晚年自號石林居士,原籍蘇州吳縣,居住鳥程(今浙江吳興縣)。紹聖四年進士。紹興年間,歷任江東安撫制置大使景知建康府,崇信軍節度使等職,頗致力於抗金防務。學問博治,精熟典故。他的詞間有感懷國事之作,也能詩。著有《建康集》《石林詞》《石林詩話》《避暑錄話》《石林燕語》等書。《宋史》四百四十五卷有傳。
- [2] 王荆公二句——王荆公,即王安石,宋神宗元豐年間封荆國公,故稱。《石林詩 話》另有一段記載:"荆公詩用法甚嚴,尤精於對偶,嘗云:'用漢入語,止可以漢 人語對;若參以異代語,便不相類。'"

- [4] 含風二句——王安石《半山即事十首(之三)》詩句。"含風鴨綠鳞鳞起",微風之下,綠波蕩漾之稅;"异日鴉黃夏蔓垂",和風之中,嫩柳枝條的爐娜之態。以鴨綠喩水,鴉黃喩柳,是一種修辭手法。
- [5] 細數二句——王安石《薔薇四首(之三)》詩句。
- [6] 皆經檃括權衡者——檃括,矯揉彎曲木材使之平直或成形的器具,遭裏引申爲 修飾文辭、剪裁篇章。權衡,本指稱量東西的器具,這裏引申爲按一定的標準 加以衡量比較的意思。此句意謂每個字句都是經過千錘百煉的。
- [7]杜子美《病柏》二句——杜甫,字子美。浦起龍《體杜心解》:"《病柏》、《枯楠》是一類,《病橘》、《枯棧》是一類。四詩寄託遙深,吐屬溫雅。蓋敷鋒鍔為之,力追 古作者。"
- [8]《病柏》句——明皇,即唐玄宗。關於《病柏》一詩,錢謙益的《錢注杜詩》繼承 《石林詩話》的說法,認為是為唐明皇而作。楊倫《杜詩鏡銓》則認為是"傷房次 律之詞"。
- [9] 《杜鵑行》——詩中有"雖同君臣有舊禮,骨肉滿眼身鸅孤"一類的話。楊倫《杜 詩鏡銓》引洪邁《容齊隨筆》曰:"時明皇爲李輔國劫遷西內,肅宗不復定省,子 美作《杜鵑行》以傷之。"
- [10] 《枯楼》句——指"傷時苦軍乏,一物官盡取。嗟爾江漢人,生成復何有?有同枯梭木,使我沈歎久"一類詩句。
- [11] 《枯楠》四句——房琯, 字次律, 唐肅宗時曾爲宰相, 後因兵敗被貶斥。《新唐書》卷一百三十九有傳。楊倫《杜詩鏡銓》註曰: "末首(指《枯楠》詩)亦爲用人者發。枯楠比大材不見用, 水榆比小材當重任。時房琯自禮部出晉州, 張鎬再貶辰州司戶, 肅宗所相者乃呂諲、苗晉卿之屬, 公故惜而悲之。"
- [12] 棠梨——又名白棠或甘棠,果實像梨而小,可食,味甜酸。
- [13] 宋以此荔枝勞民——指"憶昔南海使,奔騰獻荔枝。百馬死山谷,到今營舊悲" 一類詩句。
- [14] 綠情體物——陸機《文賦》: "詩綠情而綺麗,賦體物而瀏亮。"李善註: "詩以言志,故曰綠情; 賦以陳事,故曰體物。"這裏泛指詩歌創作的抒情達志和狀物敘事的作用。
- [15] 細雨二句——杜甫《水檻遺輿二首(之一)》詩句。
- [16] 漚——水泡。
- [17] 沧——音審, 閃動。

- [18] 輕燕受風斜——杜甫《春歸》詩句。
- [19] 穿花點水二句——杜甫《曲江二首(之二)》詩句。
- [20] 氣格——意同風格。
- [21] 新徐——意指從容不迫。
- [22] 錦江玉壘二句——杜甫《登樓》詩句。錦江,即今之岷江。玉壘,山名,在今成 都市西北。
- [23] 五更三峽二句——杜甫《閣夜》詩句。
- [24]和裴晉公破蔡州回——韓集全名為《晉公破賊回重拜臺司以詩示幕中賓客愈奉和》。裴晉公,名度,唐憲宗元和十二年(公元八一七年),平淮西叛藩吳元濟,因功封晉國公,故云。
- [25] 將軍舊壓三司貴——漢代稱司馬、司徒、司空為三公。漢武帝元狩四年(公元前一九年),初置大司馬,冠以將軍之號,位在司徒上,見《漢書·百官公卿表》。 裴度時為彰義軍節度淮西宣慰處置使門下侍郎平章事,兼有宰相與統帥的官衛,故云。
- [26] 相國新衆五等崇——《禮記·王制》: "王者之制祿爵:公、侯、伯、子、男五等。" 時裴度爲相,對晉國公,爲五等爵位之最高者,故云。
- [27] 中州——古代常稱河南一帶為中州, 意指其居天下的中央。
- [28] 吾獨愛句—— 湯惠休, 字茂遠, 里居及生卒年不詳。曾出家為和尚, 選俗後, 位至揚州刺史。主要活動於南朝宋、齊時期。當時有詩名。鍾嶸《詩品》卷中《顏延之》條記載: "湯惠休曰: '謝(靈運)詩如芙蓉出水, 顏(延之)如錯宋鏤金。'顏終身病之。" 這些話大概即是《石林詩話》之所本。但據《南史》卷三十四《顏延之傳》: "延之嘗問鮑照已與靈運優劣, 照曰: '謝五言詩如初發芙蓉, 自然可愛; 君詩若鋪錦列繪, 亦雕續滿眼。'延之終身病之。"與《詩品》不同。也有人認為是湯惠休承襲鮑照之語以攻訐延之。
- [29] 沈約句——沈約,見本書第一册《宋書·謝蒙運傳論》註[1]。《南史》卷二十二《王筠傳》: "約嘗啓上,言晚來名家無先筠者。又於御庭謂王志曰: '賢弟子文章之美,可謂後來獨步。謝朓常見語云, "好詩圓美流轉如彈丸"。近見其數首,方知此嘗爲實。'"據此, "彈丸"云云, 似是沈約借用謝朓的話來評王筠詩。
- [30] 造化——指天地。
- [31] 贈張籍----韓集作《醉贈張秘書》。
- [32] 司空圖三句——見本册附錄司空圖《與極浦書》。

#### 【説明】

宋詩話發展到南渡前後,盛極一時。但其中屬士大夫資閑談、逞博辯的著作不少,多偏於考據和個別章句的欣賞。而在這種風氣中,葉夢得《石林詩話》却能涉及詩歌藝術的某些理論,確是比較突出的。

關於《石林詩話》,《四庫總目提要》斷言它"論詩推崇王安石","而於歐陽修、蘇軾詩皆有所抑揚"。這話不盡合乎事實。北宋末,新、舊黨爭已轉化爲宗派傾軋,這對石林雖不無影響,但《詩話》中對"熙寧初時論不一,士大夫好惡紛然"的現象頗爲不滿,而對文同"未嘗有所向背"的態度則予肯定。據此而論,他的詩論當然有他自己的藝術標準,也不必因人廢言。研究《石林詩話》者正可從它的理論價值出發,不必牽涉到黨爭的方面去。

宋詩話商討理論大致有以下兩種傾向:如《歲寒堂詩話》主要是着眼於思想內容而涉及某些藝術特色;如《石林詩話》則是從某些具體的藝術特徵入手而又顧及思想內容。石林雖是晁無答的外甥,但他却不滿於江西詩派的偏重來歷出處和 "脫胎換骨"、"點鐵成金"等說法。他主要是從詩歌創作的藝術思維角度看問題,可說是已開《滄浪詩話》的先聲。如"禪宗論雲間有三種語","老杜詩亦有此三種語",是滄浪以禪喻詩之所出;對"傾囷倒廩無復餘地"一類詩歌的批評,近於滄浪反對"以文字爲詩,以才學爲詩,以議論爲詩"的意思;欣賞"初日芙蕖""彈丸脫手"等詩評,強調無所雕琢的自然之妙,謂"亦是形似之微妙者,但學者不能味其言耳",這正與滄浪所謂"不涉理路,不落言筌","透徹玲瓏,不可凑泊"意思相似。

但脚踏實地,無空疏浮泛之弊,似又略勝一籌。如對杜甫《病柏》 等詩的評價,認爲是"興當時事","用意深遠","不但語言之工", 兼顧思想與藝術,所論較爲全面。

# 附錄

## 石 林 詩 話(選錄)

#### [宋] 葉夢得

禪宗論雲間有三種語:其一為隨波逐浪句,謂隨物應機,不主故常;其二為截斷衆流句,謂超出言外,非情識所到;其三為函蓋乾坤句,謂泯然皆契,無間可同其深違,以是為序。余嘗戲謂學子言,老杜詩亦有此三種語,但先後不同:"波漂茲米沉雲黑,露冷蓮房墜粉紅"為函蓋乾坤句;以"落花游綠白日靜,鳴鳩乳燕青春深"為隨波逐浪句;以"百年地僻柴門迥,五月江深草閣寒"為截斷衆流句。若有解此,當與渠同念。(卷上)

"池塘生春草,園柳變鳴禽",世多不解此語爲工,蓋欲以奇求之耳。此語之工,正在無所用意,猝然與景相遇,借以成章,不假繩削,故非常情所能到。詩家妙處,當須以此爲根本,而思苦言難者往往不悟。鍾嶸《詩品》論之最詳,其略云:"'思君如流水',旣是卽目; '高臺多悲風',亦惟所見; '清晨登隴首',羌無故實; '明月照積雪',非出經史。古今勝語多非補假,皆由直奪。顏延之、謝莊尤爲繁密,於時化之,故大明泰始中文章殆同審抄。近任昉、王元長等,辭不貴奇,競須新事,邇來作者,寝以成俗,遂迺句無虛語,語無虛字,牽擊補衲,蠹文已甚,自然英旨,罕遇其人。" 余每愛此言簡切,明白易曉,但觀者未嘗留意耳。自唐以後,旣變以律體,固不能無拘窘。然苟大手筆,亦自不妨削據於神志之間,斷輪於甘苦之外也。(卷中)

何文煥《歷代詩話》本《石林詩話》

# 詩 史(選錄)

#### 〔宋〕蔡居厚

唐僧多佳句,其琢句法,有比物以意而不言物,謂之象外句。如無可上人詩曰:"聽雨寒更盡,開門落葉聲",是落葉比雨聲也。又曰:"微陽下喬木,遠燒入秋山",是微陽比遠燒也。用事琢句,妙在言其用,而不言其名耳。此惟荆公、山谷、東坡知之。荆公詩:"含風鴨綠鱗鱗起,弄日鵝黃褭褭睡",此言水柳之用,而不言水柳之名。

哈佛燕京學社本《宋詩話輯佚》

# 王直方詩話(選錄)

#### 〔宋〕 王直方

文忠公《盤車圖》詩云: "古畫畫意不畫形,梅詩詠物無隱情。忘形得意知者寡,不若見詩如見畫。"東坡作《韓幹薑馬詩》云: "韓生薑馬眞是馬,蘇子作詩如見薑。世無伯樂亦無韓,此詩此畫誰當看?"又云: "論畫以形似,見與兒童鄰。君看賦詩者,定知非詩人。詩畫本一律,天工與淸新。"又云: "少陵翰墨無形畫,韓幹丹青不語詩。此畫此詩今已矣,人間驚驥謾爭馳。" 余每誦數過, 殆欲常以為法也。

謝朓嘗語沈約曰: "好詩圓美流轉如彈丸",故東坡《答王鞏》云: "新詩如彈丸",及《送歐陽弱》云: "中有淸圓句,銅丸飛柘彈。" 蓋謂詩貴圓熱也。然圓熟多失之平易,老硬多失之乾枯。不失於二者之間,可與古之作者並驅矣。

田承君云:"池塘生春草", 蓋是病起忽然見此爲可喜, 而能道之, 所以爲貴。

哈佛燕京學社本《宋詩話輯佚》

## 潛溪詩眼(選錄)

#### [宋] 范 溫

形似之意,蓋出於詩人之賦,"蕭蕭馬鳴,悠悠旆旌"是也;激昂之語,蓋出於詩人之興,"周餘黎民,靡有孑遺"是也。古人形似之語,如鏡取形,燈取影也。故老杜所題詩,往往親到其處,益知其工。激昂之語,孟子所謂"不以文害辭,不以辭害志",初不可形迹考,然如此乃見一時之意。余遊武侯廟,然後知《古柏詩》所謂"柯如青銅根如石",信然,决不可改。此乃形似之語。"霜皮溜雨四十圍,黛色參天二千尺。雲來氣接巫峽長,月出寒通雪山白",此激昂之語,不如此則不見柏之大也。文章固多端,警策往往在此兩體耳。

世俗喜綺麗,知文者能輕之。後生好風花,老大即厭之。然文章論當理與不當理耳。苟當於理,則綺麗風花同入於妙;苟不當理,則一切皆為長(一作常)語。上自齊梁諸公,下至劉夢得溫飛卿輩,往往以綺麗風花累其正氣,其過在於理不勝而詞有餘也。老杜云:"綠垂風折笋,紅綻雨肥梅。岸花飛送客,檣燕語留人",亦極綺麗,其模寫景物,意自親切,所以妙絕古今。其言春容閑適則有"穿花蛺蝶深深見,點水蜻蜓欺欵飛","落花游絲白日靜,鳴鳩乳燕靑春深"。言秋景悲壯則有"藍水遠從千澗落,玉山高並兩峯寒","無邊落木蕭蕭下,不盡長江滾滾來"。……皆出于風花,然窮盡性理,移奪造化。

哈佛燕京學社本《宋詩話輯佚》

## 彦 周 詩 話(選錄)

#### 〔宋〕許 顗

六朝詩人之詩不可不熟讀。如"芙蓉露下落,楊柳月中疎",鍛鍊至此,

自唐以來無人能及也。退之云:"齊梁及陳隋,衆作等蟬噪",此語我不敢 議,亦不敢從。

何文煥《歷代詩話》本《查周詩話》

# 碧溪詩話(選錄)

## [宋] 黄 徹

山谷云: "詩者人之性情也,非強諫爭於庭,怨晉於道,怒鄰罵座之所為也。"余謂怒鄰屬座固非詩本旨,若《小弁》親親,未嘗無怨;《何人斯》(案:黄徹誤引,應是《巷伯》): "取彼譖人,投畀豺虎",未嘗不憤。謂不可諫爭,則又甚矣。箴規刺誨,何爲而作? 古者帝王尚許百工各執藝事以諫,詩獨不得與工技等哉! 故譎諫而不斥者,惟風爲然。如雅云: "匪面命之, 言提其耳", "彼童而角,實訌小子",憂心慘慘,念國之爲虐,亂匪降自天,生自婦人,忠臣義士,欲正君定國,惟恐所陳不激切,豈盡優柔婉晦乎? 故樂天《寄唐生詩》云: "篇篇無空文,句句必盡規。"(卷十)

丁福保《歷代詩話讀篇》本《看溪詩話》

# 竹坡詩話(選錄)

### [宋] 周紫芝

有明上人者作詩甚艱,求捷法于東坡,作兩頌以與之,其一云:"字字覓 奇險,節節累枝葉。咬嚼三十年,轉更無交涉。"其一云:"衡口出常言,法度法前軌。(通行本《蘇東坡集·詩頌》作"衝口出常言,法度去前軌。")人言非妙處,妙處在于是。"乃知作詩到平淡處,要似非力所能。東坡嘗有書與其 姪云:"大凡爲文當使氣象崢嶸,五色絢爛,漸老漸熟,乃造平淡。"余以爲不但爲文,作詩者尤當取法於此。

何文煥《歷代詩話》本《竹坡詩話》

### 珊瑚鈎詩話(選錄)

### 〔宋〕張表臣

篇章以含蓄天成爲上,破碎瑚鎪爲下。如楊大年西崑體,非不佳也,而 弄斤操斧太甚,所謂七日而混沌死也。以平夷恬淡爲上,怪險蹶趨爲下。 如李長吉錦養句非不奇也,而牛鬼蛇神太甚,所謂施諸廊廟則馭矣。(卷一) 何文煥《歷代詩話》本《珊瑚鈎詩話》

# 學詩詩

### 〔宋〕吳 可[1]

學詩渾似學參禪<sup>[2]</sup>,竹榻蒲團不計年。直待自家都了得,等 閒拈出便超然。

學詩渾似學參禪,頭上安頭<sup>[3]</sup>不足傳。跳出少陵窠臼外,丈 失志氣本衝天。

學詩渾似學參禪,自古圓成[4]有幾聯?春草池塘<sup>[5]</sup>一句子, 驚天動地至今傳。

乾隆刻本《詩人玉屑》卷一

### 【註釋】

- [1] 吳可一一字思道,北宋末年人,曾官於汴京。建炎以後,轉徙楚、豫等地,至乾 道、淳熙間尙在。有《藏海居士集》二卷、《藏海詩話》一卷。
- [2] 學詩渾似學參禪——《證道歌》:"琴師訪道爲參禪。"訪問老宿,參究禪道,謂之 參禪。
- [3]頭上安頭——《傳燈錄》: "元安示衆曰: 今有一事,問汝等,若道是,即頭上安頭,若道不是,即斬頭求活。"黄庭堅《拙軒頌》: "頭上安頭, 屋下蓋屋, 畢竟巧者有餘, 拙者不足。"頭上安頭, 謂事物之重複, 湮裏借以指作詩因襲古人。
- [4] 圓成——《大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行首楞嚴經》:"發意圓成一切衆 生無量功德。"案: 圓成, 圓滿成就之意。
- [5]春草池塘——"池塘生春草",謝靈運《登池上樓》句。鍾峽《詩品》:"《謝氏家錄》云:康樂每對(謝)惠連,輒得佳語。後在永嘉西堂思詩,竟日不就,寤寐間忽見惠連,即成'池塘生春草'。故常云此語有神助,非吾語也。"葉夢得《石林詩話》:"'池塘生春草,園柳變鳴禽。'世多不解此語為工,蓋欲以奇求之耳。此語之工,正在無所用意,猝然與景相遇,借以成章,不假繩削,故非常情所能到。"

### 【説明】

兩宋道學與盛,但唐以來在禪宗中獨霸天下的南宗頓門,其餘燄仍未少減,這使兩宋詩人以禪喻詩,成爲風氣。

禪學在宋眞宗年代,吳僧道原就有《景德傳燈錄》的編寫,以後,接着出現了《天聖廣燈錄》《建中靖國續燈錄》《聯燈會要》《嘉泰普燈錄》。普濟又刪繁節要編成《五燈會元》。這些禪宗典籍,後來居上,風靡一時,完全代替了唐人《禪門師資承襲圖》等舊籍。即此可證宋代禪風之盛。北宋著名詩人蘇軾、黃庭堅都精通禪學,與禪宗老宿往來。不僅在蘇、黃的詩歌中,突出地表現了詩有禪趣、用禪語入詩的特色,而且在他們的詩歌理論上,也開始以參禪喻詩。蘇軾《夜直玉堂攜李之儀端叔詩百餘首讀至夜半書其後》詩:"暫借好詩消永夜,每逢佳處輒參禪。"黃庭堅《奉答謝公定與榮子邕論狄元規孫少述詩長韻》:"無人知句法,秋月自澄江。"(案:《證道歌》:"一月普現一切水,一切水月一月攝。"黃語所本。)都是顯著之例。不過蘇偏重禪悟,黃偏重律法,路徑稍有不同。而吳可的《學詩詩》,則主要是繼承蘇氏的傳統,同時也參酌了黃氏的論旨,並有所發展。

吳可少時以詩爲蘇軾所賞識,其所著《藏海詩話》,往往闡述蘇氏詩論,楊櫫了"凡作詩如參禪,須有悟門"的宗旨。在這三首《學詩詩》中,提出了兩個論點:第一是,詩貴頓悟,要求直證,信手拈來,便成超詣。因此,詩語必須自然"圓成"。他並不否定"竹榻蒲團不計年"那樣的長期漸修工夫的重要,但更重要的關鍵,則是"自家了得"的一旦超悟。這跟他同時代作者韓駒《贈趙伯魚》詩所說:"學詩當如初學禪,未悟且遍參諸方;一朝悟罷正法眼,信手拈出皆成章"的說法,完全一樣。第二是,作詩貴有自家面目,跳出前人窠臼,反對頭上安頭地陳陳相因,這是把宗門呵

佛駡祖、"學我者死"、"汝欲稗販我耶"的精神貫徹到作詩中來, 跟黃庭堅《贈高子勉》詩所說"我不爲牛後"的精神是一致的。如 上兩個論點,是不可分割的整體;總的是蘇軾《詩頌》所謂"衝口 出常言,法度去前軌,人言非妙處,妙處在於是",《送參寥師》所 謂"欲令詩語妙,無厭空且靜,……詩法不相妨,此語當再請"的 引申。

吳可的《學詩詩》,在當時會引起了詩人們的注意。冀相、趙蕃都有過和作。江西派詩人曾幾《讀呂居仁舊詩有懷》也說:"學詩如參禪",楊萬里也往往在七絕中用禪喻詩,葛天民《寄楊誠齋》詩也說:"參禪學詩無兩法。"戴復古《論詩七絕》也說:"欲參詩律似參禪,妙趣不由文字傳。"詩禪之說幾乎成爲南宋流行的口頭禪。至嚴羽《滄浪詩話》出,以禪喻詩又發展到一個新的階段。而吳可則是由蘇軾到嚴羽這一段過程中承先啓後的詩禪論者。

# 附錄

### 藏海詩話(選錄)

### [宋] 吳 可

豊山水者,有無形病,有有形病。有形病者易醫,無形病則不能醫。詩家亦然。凡可以指瑕鐫改者,有形病也;混然不可指摘,不受鐫改者,無形病不可醫也。

"北邙不種田,唯種松與柏;松柏未生處,留待市朝客。"又《貧女》詩: "照水欲梳妝,搖搖波不定;不敢怨春風,自無臺上鏡。"二詩格高,而又含不 盡之意見於言外。

丁福保《歷代詩話續編》本《嚴海詩話》

### 贈趙伯魚

### 〔宋〕韓 駒

昔君叩門如啄木,深衣靑純帽方屋,謂是諸生延入門,坐定徐言出公族。爾曹氣昧那有此,要是胸中期不俗(原作速,據《宋詩鈔·陵陽集》校改)。荆州早識高與黃,誦二子句聲琅琅,後生好學果可畏,僕常倦談殊未詳。學詩當如初學禪,未悟且遍參諸方,一朝悟罷正法跟,信手拈出皆成章。

**《重刻江西詩派韓饒二集》本《陵陽先生詩》卷一** 

### 學詩詩

### 〔宋〕襲 相

學詩渾似學多禪,悟了方知歲是年。點鐵成金猶是妄,髙山流水自依然。

學詩渾似學多禪,語可安排意英傳。會意即超聲律界,不須鍊石補靑天。

學詩渾似學多禪, 幾許搜腸覓句聯。欲識少陵奇絕處, 初無言句與人傳。

乾隆刻本《詩人玉曆》卷一

### 學詩詩

### 〔宋〕趙 蕃

學詩渾似學多禪,識取初年與暮年。巧匠曷能雕朽木,燎原寧復死灰然。

學詩渾似學多禪, 要保心傳與耳傳。秋菊春蘭寧易地, 清風明月本同 天。 學詩渾似學多禪,束縛寧論句與聯。四海九州何歷歷,千秋萬歲敦傳傳。

乾隆刻本《詩人玉屑》卷一

### 學詩詩

〔明〕都 穆

學詩渾似學多禪,不悟眞乘枉百年。切莫嘔心並剔肺,須知妙語出天然。

學詩渾似學多禪,筆下隨人世豈傳。好句眼前吟不盡,癡人猶自管窺天。

學詩渾似學多禪,語要驚人不在聯。但寫眞情並實境,任他埋沒與流傳。

無錫丁氏校印本《歷代詩話讀編·南漆詩話》

# 論詞

### 〔宋〕李清照[1]

樂府聲詩<sup>[2]</sup>並著,最盛於唐開元、天寶間<sup>[3]</sup>,有李八郎<sup>[4]</sup>者,能歌,擅天下。時新及第進士,開宴曲江<sup>[5]</sup>,榜中一名士,先召李,使易服隱名姓,衣冠故敞,精神慘沮,與同之宴所。曰:"表弟願與坐末。"衆皆不顧。旣酒行樂作,歌者進,時曹元謙、念奴<sup>[6]</sup>為冠。歌罷,衆皆咨嗟稱賞。名士忽指李曰:"請表弟歌。"衆皆哂,或有怒者。及轉喉發聲,歌一曲,衆皆泣下。羅拜,曰:"此李八郎也。"

自後鄭衞之聲日熾,流靡之變日煩。已有《菩薩蠻》《春光好》《莎鷄子》《更漏子》《浣溪紗》《夢江南》《漁父》[7]等詞,不可徧舉。

五代干戈,四海瓜分豆剖,斯文道熄。獨江南李氏君臣尙文雅,故於"小樓吹徹玉笙寒","吹皺一池春水"之詞<sup>[8]</sup>,語雖奇甚,所謂亡國之音哀以思<sup>[9]</sup>也!

逮至本朝,禮樂文武大備,又涵養百餘年,始有柳屯田永者,變舊聲作新聲<sup>[10]</sup>,出《樂章集》。大得聲稱於世,雖協音律,而詞語歷下。又有張子野、宋子京兄弟<sup>[11]</sup>,沈唐、元絳、晁次膺<sup>[12]</sup>輩繼出,雖時時有妙語,而破碎何足名家!至晏元獻<sup>[13]</sup>、歐陽永叔、蘇子瞻,學際天人,作爲小歌詞,直如酌蠡水於大海<sup>[14]</sup>,然皆句讀不葺之詩爾<sup>[15]</sup>,又往往不協音律者。何耶?蓋詩文分平側,而歌詞分五音,又分五聲,又分六律,又分淸濁輕重<sup>[16]</sup>。且如近世所謂《聲聲慢》《雨中花》《喜遷鶯》,旣押平聲韻,又押入聲韻。《玉

樓春》本押平聲韻,又押上去聲,又押入聲。本押仄聲韻,如押上聲則協,如押入聲,則不可歌矣[17]。王介甫、曾子固,文章似西漢,若作一小歌詞,則人必絕倒,不可讀也[18]。

乃知別是一家,知之者少。後晏叔原、賀方回、秦少游、黄魯 直出[19],始能知之。又晏苦無鋪敍[20]。賀苦少典重。秦則專主 情致,而少故實,譬如貧家美女,非不妍麗,而終乏富貴態。黃卽 尚故實,而多疵病,譬如良玉有瑕,價自減华矣。

《海山仙館養養》本《苕溪漁鹽叢話》後集卷三十三

### 【註釋】

- [1] 李清照(公元一〇八四年——?)——號易安居士,齊南人。李格非女,嫁趙明誠。北宋末南宋初著名女詞人。有《献玉詞》一卷。俞正燮《癸巳類稿》卷十五有《易安居士事輯》。
- [2] 聲詩——指樂府以外唐入宋作歌詢入樂歌唱的五七言詩。
- [3] 開元——唐玄宗年號,自公元七一三年至七四一年。天**寶**——唐玄宗年號,自 公元七四二年至七五六年。
- [4] 李八耶——唐代有鬥聲樂以較勝頁的風氣,如白行簡《李娃傳》記滎陽鄭生念 加長安東西市鬥歌;段安節《樂府雜錄》記貞元中段善本與康崑崙鬥琵琶,都是 先隱名易服,然後出奇制勝,與這裏所說的李八耶故事相類。《碧雞漫志》卷一 記唐時男子善歌者有李龜年、米嘉榮、李袞等。八耶卽李袞。見李聲《國史補》。
- [5] 開宴曲江——曲江在县安城東南,是唐代京郊著名的風景區。每屆新及第進士,照例在置裏遊賞宴會。
- [6]曹元禄——不詳。念奴——唐天寶時著名的歌伎。元稹《連昌宮嗣》自註:"念奴,天寶中名倡,善歌。"
- [7] 菩薩豐等——皆詞謂名。《菩薩豐》,唐代教坊曲名,開元、天寶時從西南傳入,後用爲詞謂;《春光好》是唐玄宗製曲,見《羯鼓錄》;《更漏子》因晚唐溫庭衡此詞中多詠更漏而得名;《浣溪紗》,唐教坊曲名,後用爲詞調;《夢江南》本名《謝秋媛》,李德裕製曲,見《樂府雜錄》;《漁父》,唐張志和所作。賭調中僅《莎鷄子》今無詞流傳。
- [8]獨江南李氏君臣向文雅三句——指五代時南唐國主李璟、李煜父子與臣子馮

延已等。當時南唐君臣都愛好作詞,宋馬令《南唐書》卷二十一《馮延已傳》記他們君臣間的一段故事: "元宗(即李璟)樂府詞云: '小樓吹徹玉笙寒'(《攤破浣溪沙》),延已有'風乍起,吹皺一池春水'(《謁金門》)之句,皆爲警策。元宗嘗戲延巳曰: '吹皺一池春水,干卿何事?'延巳曰: '未如陛下小樓吹徹玉笙寒也',元宗悦。"

- [9] 亡國之音哀以思——本《禮記·樂記》語。
- [10] 柳屯田永二句——柳永,原名三變,字耆卿,行七,崇安人。景祐進士,官屯田 員外耶。有《樂章集》。創作長調甚多。變舊聲作新聲者,謂利用唐、宋舊曲, 加以改製,翻作新調。
- [11] 張子野――張先(公元九九〇年――一〇二八年),字子野,浙江吳興人。有《張子野詞》。北宋詞在他和柳永集子裏開始多用長調。宋子京兄弟――宋子京,即宋祁(公元九九八年――一〇六一年),字子京,其兄宋庠(公元九九六年ーー〇六六年),字公序,安州安陸人,事蹟詳《宋史》卷二百八十四本傳。宋祁詞有近人趙萬里輯本《校輯宋金元人詞・宋景文公長短句》,宋庠詞未見。
- [12] 沈唐——字公述,官大名府簽判,有嗣見《花菴詞選》。元絳——(公元—〇〇八年——一〇八三年)字厚之,錢塘人,神宗朝參知政事,事蹟詳《宋史》卷三百四十三本傳,有嗣見《花草粹編》。 晁次膺——晁端禮(公元一〇四六年——一一一三年),字次膺,熙寧六年進士,兩爲縣令,忤上官,坐廢。有《閑齋琴趣》。
- [13] 晏元獻——晏殊(公元九九一年——一〇五五年),字同叔,江西臨川人,仁宗 時官至同平章事, 余樞密使, 歐陽修、王安石都是他的門下士, 卒諡元獻, 事實 詳《宋史》三百十一,有《珠玉集》。
- [14] 酌蠡水於大海——在大海中取一瓢水, 比喻很容易的事。
- [16] 然皆句讀不葺之詩爾——句讀不葺,句子長短不整齊。長短句本是詩詞形式不同之一點,李清照主張詞"別是一家",要求作詞在內容風格上也當有別於詩。這句批評主要是對蘇詞而發,晏殊、歐陽修本屬傳統的婉約派,此處牽連偶及。
- [16] 歌詞分五音四句——五音、清濁、輕重的涵義,清照未有解說。張炎《詞源》以 唇齒喉舌鼻當五音。五聲是指宮商角徵羽,見《周禮·春官大師》。古時與五音 往往混稱。張世南《游宮紀聞》卷九說輕清爲陽,重濁爲陰。此皆宋人之說。五 音似指發聲部位,淸濁則即元人論曲之陰陽。(虞集《中原音韻序》說周德清 "以聲之淸濁,定字之陰陽,如高聲從陽,低聲從陰。"與張世南說相反;案"淸" 字陰聲,"濁"字陽聲,周說是,今人也如此分。又詞曲中所分陰陽,始於宋、元

人;孔廣森論古聞,以收鼻音與否分"陰聲韻""陽聲韻",此與宋、元人所說陰陽 聲劃然二事,不可混爲一談。)六律指十二律中陰陽聲之律,即黃鐘、大蔟、姑 洗、義賓、夷則、無射。十二律,陽六爲律,陰六爲呂。稱六律,以代十二律呂。 此句是說作詞須叶音律。

- [17] 本押仄聲韻四句——俞正燮《癸巳類稿·易安居士事輯》云: "謂本平可通側, 不拘上去入; 若本側則上去入不可相通。"
- [18] 王介甫曾子固五句——前論蘇軾詞是謂不可以詩入詞,**道裏**是謂不可以文入詞。
- [19] 晏叔原——晏幾道(公元—〇三〇年?——一一〇六年?),字叔原,號小山,晏殊幼子。元豐年間,監題昌許田鎮,有《小山詞》。賀方回——賀鑄(公元一〇六三年——一一二〇年),字方回,衛州人,官泗州通判,晚年居蘇州,死在常州,有《東山寓聲樂府》。秦少游——見本册《與王觀復書三首之一》註[11]。 黃耆直——見本册《答洪駒父書》註[2]。
- [20] 晏苦無鋪敘——《小山詞》都爲小令,少作長調,故稱其無鋪敘。

#### 【説明】

這是北宋末年一篇著名的詞論。作者是一位很有成就的女詞人,她鮮明地提出自己的見解和主張,並且尖銳地批評了許多詞遠老宿,所以幾百年來很受讀者的注目。總括這篇論文對詞的見解和要求,有下列幾點: (一)高雅, (二)渾成, (三)協樂, (四)典重, (五)鋪敍, (六)故實。她和周邦彥是同時代的作家,若拿她這些論調來讀周邦彥的《清眞詞》,正是"波瀾莫二"。我們看北宋末年的詞壇趨勢,知道這篇文字是足以代表當時多數人的主張的。因爲當柳永、蘇軾兩家的詞風和傳統詞風發生矛盾的時候,一部分詞人對柳、蘇都表示不同程度的不滿。這篇詞論提出詞"別是一家"的主張,就是針對蘇軾"以詩爲詞"的作法而發的。

這篇詞論批評北宋作家, 止於元絳、晁端禮(次膺), 而不提及周邦彥, 也無一語涉及靖康之亂, 可能是她早年遭亂以前的作

品。我們讀她的《漱玉集》裏諸名篇,並不都是很典重、尚故實、 擅長於鋪敍的作品,這大抵由於她遭亂之後,流離民間,生活激 變,使她的創作實踐能够突破早年的文學觀點。

這篇詞論裏一個主要問題,是詩與詞應分應合的爭論,這問題起於蘇軾。蘇軾繼承歐陽修、梅堯臣改變文風、詩風之後而改變詞風,他的詞打破了詩詞的界限;而當時一般文士却強調"拿體"之說, 譏笑他"雖極天下之工,要非本色"(見陳師道《後山詩話》);李清照的詞論就是這種論調影響下的產物。在兩宋之間,詞的發展已進入激變階段,在民族矛盾大爆發的時代裏,詞要接受這個時代的要求,就必須蛻棄它幾百年來"豔科"的面目。南宋大作家辛棄疾,不但打破了詩詞的界限,並且以辭賦、散文各種體裁來作詞。李清照主張保持"婉約派"的傳統風格,說詞"別是一家",不許詩來侵犯它的疆域,是由於她局限於早年生活環境,不可能預料到後來詞的發展情況之故。

她主張歌詞應分五音、五聲、六律、淸濁、輕重,也是沿北宋 文人詞的傳統的說法。她以此作為詞"別是一家"不同於詩的佐 證。但她自己的詞篇裏却看不出嚴守宮律的痕跡,尤其是她晚 年的幾首名作,這無疑由於南渡前後整個社會起了大激變,詞人 創作自然不復有較量宮徵的心情了。李淸照的詞論和她的創作 不相應,也可作為這篇詞論寫於她的早期的旁證。

總之,在我國二千多年的文學史上,女性有卓越文才的寥寥 可數,其能依據創作經驗寫爲理論文字的,李清照之前未之或 聞;這不但是宋代詞壇上有自己見解、有組織條理的第一篇詞 論,並且是我國婦女作的文學批評第一篇專文。她反對詞裏"鄭 衞之聲",不滿南唐君臣"亡國之音"和柳永"辭語廛下"的作品, 這些論點也都有一定的合理因素,是應予肯定的。

# 附錄

### 詞 評

### 〔宋〕晁補之 胡 仔

《復齋漫錄》云: "無咎評本朝樂章,不見諸集,今錄於此云。世言柳耆卿曲俗,非也。如《八聲甘州》云: '漸霜風凄緊,關河冷落,殘照當樓。'此唐人語,不減高處矣。歐陽永叔《院溪沙》云: '堤上遊人逐畫船,拍堤春水四垂天,綠楊樓外出鞦韆。'要皆絕妙,然只一出字,自是後人道不到處。東坡詞,人謂多不諧音律,然居士詞橫放傑出,自是曲中縛不住者。黃魯直間作小詞,固高妙,然不是當家語,自是着腔子唱好詩。晏元獻不蹈襲人語,而風關閑雅,如'舞低楊柳樓心月,歌盡桃花扇影風。'知此人不住三家村也。張子野與柳耆鄭齊名,而時以子野不及耆卿,然子野韻高,是耆卿所乏處,近世以來,作者皆不及。秦少游如'斜陽外,寒鴉萬點,流水澆孤村。'雖不識字,亦知是天生好言語。"

苕溪漁隱曰: "無己稱今代詞手,惟秦七、黃九耳。唐諸人不迨也。無 咎稱魯直詞,不是當家語,自是着腔子唱好詩。二公在當時,品題不同如 此。自今觀之,魯直詞亦有佳者,第無多首耳。少游詞雖婉美,然格力失之 弱。二公之言,殊過譽也。"

《海山仙館叢書》本《苕溪漁隱叢話》後集卷三十三

### 碧 鷄 漫 志(選錄)

### 〔宋〕王 灼

或問歌曲所起,曰:天地始分而人生焉,人莫不有心,此歌曲所以起也。 《舜典》曰:"詩言志,歌永言,聲依永,律和聲。"《詩序》曰:"在心爲志,發言 爲詩,情動于中而形于言。言之不足,故嗟歎之;嗟歎之不足,故永歌之;永 歌之不足,不知手之舞之,足之蹈之。"《樂記》曰:"詩言其志,歌咏其聲,舞動其容:三者本于心,然後樂器從之。"故有心則有詩,有詩則有歌,有歌則有聲律,有聲律則有樂歌。永言,即詩也,非于詩外求歌也。今先定晉節,乃製詞從之,倒置甚矣。而士大夫又分詩與樂府作兩科。古詩或名曰樂府,謂詩之可歌也,故樂府中有歌,有謠,有吟,有引,有行,有曲;今人于古樂府,特指為詩之流,而以詞就音,始名樂府,非古也。舜命夔教胄子,詩歌聲律,率有次第。又語禹曰:"予欲聞六律、五聲、八音,在治忽,以出納五言。"其君臣賡歌,九功、南風、卿雲之歌,必聲律隨具。古者朵詩,命太師為樂章,祭祀、宴射、鄉飲皆用之,故曰:正得失,動天地,感鬼神,莫近于詩。先王以是經夫婦,成孝敬,厚人倫,美教化,易風俗。詩至于動天地,感鬼神,移風俗,何也?正謂播諸樂歌,有此效耳。然中世亦有因筦弦金石造歌以被之,若漢文帝使愼夫人鼓瑟,自倚瑟而歌,漢、魏作三調歌辭,終非古法。(卷一)

古人初不定聲律,因所感發爲歌,而聲律從之,唐、虞禪代以來是也,餘 波至西漢末始絕。西漢時,今之所謂古樂府者漸興,晉、魏爲盛,隋氏取漢 以來樂器、歌章、古調併入淸樂,餘波至李唐始絕。唐中葉雖有古樂府,而播在聲律則尠矣;士大夫作者,不過以詩一體自名耳。蓋隋以來,今之所謂 曲子者漸興,至唐稍盛,今則繁聲淫奏,殆不可數。古歌變爲古樂府,古樂府變爲今曲子,其本一也;後世風俗益不及古,故相懸耳。而世之士大夫,亦多不知歌詞之變。(卷一)

唐末五代,文章之陋極矣,獨樂章可喜,雖乏高韻,而一種奇巧,各自立格,不相沿襲。·····(卷二)

王荆公長短句不多,合繩墨處自雍容奇特。晏元獻公、歐陽文忠公風流經藉,一時莫及,而溫潤秀潔,亦無其比。東坡先生以文章餘事作詩,溢而作詞曲,高處出神入天,平處尙臨鏡笑春,不顧儕輩。或曰:"長短句中詩也。"為此論者,乃是遭柳永野狐涎之毒。詩與樂府同出,豈當分異?若從柳氏家法,正自不分異耳(按:此句似應作"正自分異耳")。晁無咎、黃魯直皆學東坡,韻製得七八。黃晚年閒放於狹邪,故有少疎蕩處。後來學東坡者,葉少蘊、蒲大受亦得六七,其才力比晁、黃差劣。蘇在庭、石耆翁入東坡之門矣,短氣跼步,不能進也。趙德麟、李方叔皆東坡客,其氣味殊不近;趙

婉而李俊,各有所長,晚年皆荒醉汝、潁、京、洛間,時時出滑稽語。賀方回、 周美成、晏叔原、僧仲殊各盘其才力,自成一家。賀、周語意精新,用心甚苦, 毛澤民、黃載萬次之。叔原如金陵王、謝子弟,秀氣勝韻,得之天然,將不可 學,仲殊次之; 殊之贍,晏反不逮也。張子野、秦少游俊逸精妙; 少游廣困 京、洛,故疎蕩之風不除。陳無己所作數十首,號曰"語業",妙處如其詩,但 用意太深,有時僻澀。陳去非、徐師川、蘇養直、呂居仁、韓子蒼、朱希眞、陳 子高、洪覺範佳處亦各如其詩。王輔道、履道善作一種俊語,其失在輕浮; 輔道誇捷敏,故或有不縝密。李漢老富麗而韻平平。舒信道、李元膺思致 妍密,要是波瀾小。謝無逸字字求工,不敢輒下一語,如刻創通草人,都無 筋骨,要是力不足。然則獨無逸乎?曰:類多有之,此最著者爾。宗室中明 發、伯山,久從汝、洛名士游,下筆有逸韻,雖未能一一盡奇,比國賢聖褒則 過之。王逐客才豪,其新麗處與輕狂處皆足驚人。沈公述、李景元、孔方 平、處度叔姪、晁次膺、万俟雅言,皆有佳句,就中雅言又絕出;然六人者源 流從柳氏來,病於無韻。雅言初自集分兩體,曰"雅詞",曰"側豔",目之曰 "勝萱麗藻",後召試入宮,以側豔體無賴太甚,削去之; 再編成集,分五體, 曰"應制",曰"風月脂粉",曰"雪月風花",曰"脂粉才情",曰"雜類",周美成 目之曰"大聲"。次膺亦間作側灩。田不伐才思與雅言抗行,不聞有側蓋。 田中行極能寫人意中事,雜以鄙俚,曲盡要妙,當在万俟雅言之右;然莊語 則不佳。嘗執一扇,書句其上云:"玉蝴蝶戀花心動",語人曰:"此聯三曲名 也,有能對者,吾下拜。"——北里狹邪間橫行者也。宗室溫之次之。長短句 中作滑稽無賴語,起於至和、嘉祐之前,猶未盛也。熙、豐、元祐間,兗州張 山人以詼諧獨步京師,時出一兩解。澤州孔三傳者,首創諸宮調古傳,士大 夫皆能誦之。元祐間王齊叟彥齡,政和間曹組元寵,皆能文,每出县短句,膾 炙人口。**彥鮯以滑稽語譟河朔。組潦倒無成,作《紅窗迥》及雜曲數百解**, 聞者絕倒,滑稽無賴之魁也。夤緣遭遇,官至防禦使。同時有張袞臣者,組 之流,亦供奉禁中,號"曲子張觀察"。其後祖述者益衆,嫚戲汙賤,古所未 有。組之子知閣門事勳,字公顯,亦能文,嘗以家集刻板,欲蓋父之惡,近有 旨下揚州毀其板云。(卷二)

中國戲劇出版社《中國古典戲曲論著集成》本《碧鷄漫志》

### 跋花間集二首

### 〔宋〕陸 游

《花間集》皆唐末五代時人作。方斯時,天下岌岌,生民救死不暇,士大 夫乃流宕如此,可嘆也哉!或者亦出于無聊故耶?笠澤翁書。

#### 叉

唐自大中後,詩家日趣淺薄。其間傑出者,亦不復有前輩閔妙渾厚之作,久而自厭,然梏于俗尚,不能拔出。會有倚聲作詞者,本欲酒間易曉,頗擺落故態,適與六朝跌宕意氣差近,此集所載是也。故歷唐季五代,詩愈卑,而倚聲者輒簡古可愛。蓋天寶以後,詩人常恨文不迨,大中以後,詩衰而倚聲作。使諸人以其所長格力施于所短,則後世孰得而議? 筆墨馳騁則一,能此不能彼,未易以理推也。開禧元年十二月乙卯,務觀東籬書。

中華書局排印本《陸游集・渭南文集》卷三十

# 長短句序

### 〔宋〕陸游

雅正之樂微,乃有鄭衞之香。鄭衞雖變,然零瑟笙磬猶在也。及變而為燕之筑,秦之缶,胡部之琵琶箜篌,則又鄭衞之變矣。風、雅、頌之後,爲腦、爲賦、爲曲、爲引、爲行、爲謠、爲歌,千餘年後,乃有倚聲製辭,起于唐之季世。則其變愈薄,可勝嘆哉! 予少時汩于世俗,頗有所爲,晚而悔之。然為歌菱唱,猶不能止,今絕筆已數年,念舊作終不可掩,因書其首以識吾過。淳熙已酉炊熟日,放翁自序。

中華書局排印本《陸游集・渭南文集》卷十四

# 跋後山居士長短句(節錄)

# 〔宋〕陸 游

唐末, 詩益卑, 而樂府髙古工妙, 庶幾漢魏。 陳無己詩妙天下, 以其餘作辭, 宜其工矣。顧乃不然, 殆未易曉也。……

中華書局排印本《陸游集・渭南文集》卷二十八

# 題酒邊詞凹

### 〔宋〕胡 寅[2]

詞曲者,古樂府之末造也。古樂府者,詩之傍行也[3]。詩出於《離騷》《楚詞》,而《離騷》者,變風變雅之怨而迫、哀而傷者也;其發乎情則同,而止乎禮義則異[4]。名之曰曲,以其曲盡人情耳[5]。方之曲藝[6],猶不逮焉;其去《曲禮》[7]則益遠矣。然文章豪放之士,鮮不寄意於此者,隨亦自掃其跡,曰謔浪[8]遊戲而已也。唐人爲之最工者。柳耆卿[9]後出,掩[10]衆製而盡其妙,好之者以爲不可復加。及眉山蘇氏[11],一洗綺羅香澤之態,擺脫綢繆宛轉之度,使人登高望遠,舉首高歌,而逸懷浩氣超然乎塵垢之外。於是《花間》爲阜隸,而柳氏爲輿臺[12]矣。薌林居士步趨蘇堂而齊其哉[13]者也。觀其退江北所作於後,而進江南所作於前,以枯木之心,幻出萜華,酌元酒之每[14],棄置醇味,非染而不色,安能及此! 余得其全集於公之外孫汶上劉荀子卿,反復厭飫[15],復以歸之,因題其後。公宏才偉績,精忠大節,在人耳目,固史載之矣。後之人昧其平生,而聽其餘韻,亦猶讀《梅花賦》而未知宋廣平數[16]? 武夷胡寅題。

**毛氏汲古閣本《宋六十名家詞》** 

### 【註釋】

[1]酒邊詞——詞集名。二卷。作者向子諲(公元一〇八六年————五三年), 字伯恭,宋臨江人。仕至戶部侍郎。金使讓和將入境,子諲不肯拜金韶,忤秦 檜意,乃辭官。退閒十五年,號所居曰"藥林",有《藥林集》《藥林家規》。《宋史》 卷三百七十七有傳。

- [3] 詞曲者四句——末造,末世,此處猶言末路。傍行,猶傍支。這四句意謂詞曲 是從古樂府派生出來的,而古樂府又僅是詩歌長河中的一支流,源同而流異。
- [4] 其發乎情二句——《毛詩序》:"變風發乎情,止乎禮義。"
- [5]名之日曲二句——曲是樂曲,曲子的簡稱,胡寅以爲它能曲盤人情,故名叫 "曲",這是一種穿鑿附會的解釋。
- [6] 曲藝——謂小的技能,見《禮記·文王世子》"曲藝皆誓之"句鄭玄註。
- [7]曲禮——《禮記》中的一篇,記吉、凶、賓、軍、嘉五禮之事。 曲與曲藝、《曲禮》各不相涉, 胡寅是以經學家的觀點亂加比較。
- [8] 譴浪——《詩·邶風·終風》:"譴浪笑敖。"毛傳:"言戲謔不敬。"
- [9]柳耆卿——柳永,宇耆卿,崇安人。北宋仁宗朝進士。曾官屯田員外耶。有《樂章集》。
- [10] 掩----同"奄",包括。
- [11] 眉山蘇氏——指蘇軾。
- [12] 花間二句——《花間集》,詞總集名,凡十卷,五代後蜀趙崇祚編。選錄晚唐五代 溫庭筠、韋莊及蜀中詞人十八家所作詞五百首,是最早的一部詞集。 卓隸與 畫,都是賤役之稱。
- [13] 齊其載——齊,譬。献,大塊的切肉。這裏是說了解蘇詞的佳處。
- [14] 元酒——古代祭祀時當酒用的水,一作玄酒。尊——酒槽。
- [15] 反復厭飫—— 反復的咀嚼回味。
- [16] 亦獨讀梅花賦句——唐開元時,名相宋璟有《梅花賦》。皮日休《桃花賦序》說: "余嘗慕宋廣平(即宋璟)之爲相,貞姿勁質,剛態毅狀,疑其鐵腸石心,不能吐 婉媚辭。然睹其文而有《梅花賦》,清便富豔,得南朝徐(陵)、庚(信)體,殊不類 共爲人也。"

### 【説明】

胡寅這篇文字,是爲題向子鹽的詞集而作的。胡寅、向子諲是北宋末年人。北宋人對柳永、蘇軾兩家詞頗多爭論,阿好柳詞的,不滿蘇詞的不合樂律,並且說他以詩爲詞,非詞的本色(見陳師道《後山詩話》)。當時士大夫"綺羅香澤"的詞風,是與他們歌酒聲色的生活相適應的,這是柳永詞所以獲得風行一時的原因。南渡前後,漢民族顏於危亡之境,一部分詞人用詞來表達愛國的咸情,蘇軾一派豪放詞,乃得到發展和提高。這篇題辭在當時蘇派詞家裏,是相當重要的文字。它把"登高望遠","逸懷浩氣"的豪放派詞的風格,從實質上指出它擺脫《花間》、柳永的詞風,而繼承變風變雅《離騷》的優秀傳統的消息。向子諲是一位有政治節操的人物,他因爲觸忤秦檜,而被迫退休;胡寅也因爲反對議和,爲秦槍所迫害。這種政治態度和他們的文學觀點是有密切關係的。

胡寅詞今存題嚴子陵釣台《水調歌頭》一首(見《釣台集》卷下)。風格很像蘇詞,這足爲胡寅這篇文字的印證。

附錄

東山詞序

〔宋〕張 耒

文章之於人,有滿心而發,肆口而成,不待思慮而工,不待雕琢而麗者,皆天理之自然,而性情之至道也。世之言雄暴虓武者,莫如劉季、項籍,此兩人者,豈有兒女之情哉?至其過故鄉而感慨,別美人而涕泣,情發於言,流爲歌詞,含思凄婉,聞者動心。爲此兩人者,豈其費心而得之哉?直寄其

意耳。

余友賀方回,博學業文,而樂府之詞,髙絕一世。攜一編示余,大抵倚 聲而爲之,詞皆可歌也。或者譏方回好學能文,而惟是爲工,何哉? 余應之 曰:是所謂滿心而發,肆口而成,雖欲已焉而不得者。若其粉澤之工,則其 才之所至,亦不自知也。夫其盛麗如游金、張之堂,而妖冶如攬嬙、施之袪, 幽潔如屈、宋,悲壯如蘇、李,覽者自知之,蓋有不可勝言者矣。 醮郡張耒文 潛序。

《强村饕餮》本《東山詞》

### 碧鷄漫志(選錄)

### 〔朱〕王 灼

廣川王通經,好文辭,爲諸姫作歌尤奇古;而高祖之戚夫人,燕王且之華容夫人,兩(兩,一作所)歌又不在諸王下——蓋漢初古俗猶在也。東京以來,非無作者,大概文采有餘,性情不足。髙歡玉壁之役,士卒死者七萬人,慚憤發疾歸,使斛律金作《敕勒歌》,其辭略曰:"山蒼蒼,天(它本天均作野)茫茫,風吹草低見牛羊。"歡自和之,哀感流涕。金不知書,能發揮自然之妙如此,當時徐、庾聲不能也。……(卷一)

期軻入秦,燕太子丹及賓客送至易水之上。髙漸離擊筑,軻和而歌,為變豫之聲,士皆涕淚。又前為歌曰: "風蕭蕭兮易水寒,壯士一去兮不復還。"復為羽擊慷慨,士皆瞋目,髮上指冠。軻本非聲律得名,乃能變徵換羽於立談間,而當時左右聽者亦不憒憒也。今人苦心造成一新聲,便作幾許大知晉矣。(卷一)

……(元)微之分詩與樂府作兩科,固不知事始,又不知後世俗變。凡十七名,皆詩也。詩卽可歌、可被之筦弦也。元以八名者近樂府,故謂由樂以定詞;九名者本諸詩,故謂選詞以配樂。今《樂府古題》具在,當時或由樂定詞,或選詞配樂,初無常法。習俗之變,安能齊一?(卷一)

或曰: 古人因事作歌, 輸寫一時之意, 意盡則止, 故歌無定句, 因其喜怒哀樂; 聲則不同, 故句無定聲。 今香節皆有轄東, 而一字一拍, 不敢輒增損,

何與古相戾歟? 予曰:皆是也。今人固不及古,而本之性情,稽之度數,古今所尚,各因其所重。昔堯民亦擊壤歌,先儒爲搏拊之說,亦曰所以節樂。樂之有拍,非唐、虞創始,實自然之度數也。……嘉祐間,汴都三歲小兒在母懷飲乳,聞曲皆撚手指作拍,應之不差。雖然,古今所尚冶體風俗,各因其所重,不獨歌樂也。古人豈無度數? 今人豈無性情? 用之各有輕重,但今不及古耳。今所行曲拍,使古人復生,恐未能易。(卷一)

柳耆卿《樂章集》,世多愛賞該洽,序事閒暇,有首有尾,亦間出佳語,又能擇聲律諧美者用之,惟是選近卑俗,自成一體,不知書者尤好之。予嘗以比都下富兒:雖脫村野,而聲態可憎。前輩云:"《離騷》寂寞千年後,《戚氏》 凄凉一曲終。"《戚氏》,柳所作也。柳何敢知——世間有《離騷》,惟賀方回、周美成時時得之。賀《六州歌頭》、《望湘人》、《吳晉子》諸曲,周《大酺》、《蘭陵王》諸曲,最奇崛。或謂深勁乏韻,此遭柳氏野狐涎吐不出者。歌曲自唐、虞三代以前,秦、漢以後皆有,造語險易,則無定法。今必以"斜陽芳草"、"淡煙細雨"繩墨後來作者,愚甚矣。故曰:不知書者,尤好耆卿。(卷二)

長短句雖至本朝盛,而前人自立,與眞情衰矣。東坡先生非心醉於香律者,偶爾作歌,指出向上一路,新天下耳目,弄筆者始知自振。今少年妄謂東坡移詩律作長短句,十有八九不學柳耆卿則學曹元寵,雖可笑,亦毋用 笑也。(卷二)

中國戲劇出版社《中國古典戲曲論著集成》本《碧鷄漫志》

# 跋東坡七夕詞後(節錄)

### 〔宋〕陸 游

昔人作七夕詩,率不免有珠欖綺疏惜別之意。惟東坡此篇,居然是星 漢上語,歌之曲終,覺天風海雨逼人。學詩者當以是求之。……

中華書局排印本《陸游集·渭南文集》卷二十八

### 稼 軒 詞 序

### 〔宋〕范 開

器大者聲必閱, 志高者意必遠。知夫聲與意之本原, 則知歌詞之所自 出。是蓋不容有意於作爲, 而其發越著見於聲音言意之表者, 則亦隨其所 蓄之淺深, 有不能不爾者存焉耳。

世言稼軒居士辛公之詞似東坡,非有意於學坡也,自其發於所蓄者言之,則不能不坡若也。坡公嘗自言,與其弟子由爲文〔至〕多,而未嘗敢有作文之意,且以爲得於談笑之間而非勉強之所爲。公之於詞亦然: 苟不得之於嬉笑,則得之於行樂;不得之於行樂,則得之於醉墨淋漓之際。揮毫未竟而客爭藏去。或閑中書石,與來寫地;亦或微吟而不錄,漫錄而焚藥。以故多散逸。是亦未嘗有作之之意,其於坡也,是以似之。

雖然,公一世之豪,以氣節自負,以功業自許。方將斂藏其用,以事清礦,果何意於歌詞哉,直陶寫之具耳。故其詞之爲體,如張樂洞庭之野,無首無尾,不主故常;又如春雲浮空,卷舒起滅,隨所變態,無非可觀。無他,意不在於作詞,而其氣之所充,蓄之所發,詞自不能不爾也。其間固有淸而麗、婉而嫵媚,此又坡詞之所無,而公詞之所獨也。昔宋復古、張乖崖方嚴勁正,而其詞迺復有濃纖婉麗之語,豈鐵石心腸者類皆如是耶?

開久從公游,其**殘膏**賸馥,得所霑焉爲多。因暇日哀集冥搜,才逾百首,皆親得於公者。以近時流布於海內者率多價本,吾爲此懼,故不敢獨 悶,將以祛傳者之惑焉。淳熙戊申正月元日門人范開序。

**预芬樓影印汲古閣鈔本《稼軒詞》** 

### 辛稼軒詞序

### 〔宋〕劉辰翁

詞至東坡,傾蕩磊落,如詩如文,如天地奇觀,豈與氢兒雌繁學語較工

拙;然猶未至用經用史,牽雅頌入鄭衞也。自辛稼軒前,用一語如此者必且掩口。及稼軒橫豎爛熳,乃如禪宗捧喝,頭頭皆是;又如悲笳萬鼓,平生不平事並巵酒,但覺賓主酣暢,談不暇顧。詞至此亦足矣。然陳同父效之,則與左太沖入羣慍(疑當作媼)相似,亦無面而返。嗟乎,以稼軒爲坡公少子, 豈不痛快靈傑可愛哉,而愁髻齲齒作折腰步者閹然笑之。《敕勒》之歌拙矣,"風吹草低"之句,與《大風》起語高下相應,知音者少。顧稼軒胸中今古,止用資爲詞,非不能詩,不事此耳。

斯人北來,喑鳴驚悍,欲何爲者?而讒擯銷沮,白髮橫生,亦如劉越石。陷絕失望,花時中酒,託之陶寫,淋漓慷慨,此意何可復道!而或者以流連光景、志業之終恨之,豈可向癡人說夢哉!爲我楚舞,吾爲若楚歌,英雄感愴,有在常情之外,其難言者未必區區婦人孺子間也。世儒不知哀樂,善刺人,及其自爲,乃與陳若山等。嗟哉!偉然二丈(原作大,據《稼軒詞編年箋注》校改)夫無異。吾懷此久矣,因宜春張淸則取《稼軒詞》刻之,復用吾請。清則少遊杭浙,有奇志逸氣,必能彷彿爲此詞者。

《豫章叢書》本《須溪集》卷六

# 夏均父集四序

### 〔宋〕呂本中[2]

學詩當識活法[3]。所謂活法者,規矩備具,而能出於規矩之外;變化不測,而亦不背於規矩也。是道也,蓋有定法而無定法,無定法而有定法。知是者,則可以與語活法矣。謝元暉有言,"好詩(疑脫流字)轉圓美如彈丸[4]",此真活法也。近世惟豫章黃公,首變前作之弊,而後學者知所趣向,畢(原作必,據《歷代詩話續編》本改。)精盡知,左規右矩,庶幾至於變化不測。然余區區淺末之論,皆漢、魏以來有意於文者之法,而非無意於文者之法也。子曰:"與於詩,詩可以與,可以觀,可以羣,可以怨;邇之事父,遠之事君,多識於鳥獸草木之名。"今之爲詩者,讀之果可使人與起其爲善之心乎,果可使人與、觀、羣、怨乎,果可使人知事父、事君而能識鳥獸草木之名之理乎?爲之而不能使人如是,則如勿作。

吾友夏均父,賢而有文章,其於詩,蓋得所謂規矩備具,而出 於規矩之外,變化不測者。後果多從先生長者游,聞人之所以言 詩者而得其要妙,所謂無意於文之文,而非有意於文之文也。

《四部幾刊》影奮鈔本《後村先生大全集》卷九十五《江西詩派》引

### 【註釋】

- [1] 夏均父集——夏倪,字均父,蕲州人。宣和中,自府曹左官祁陽監酒,有《遠遊 堂集》二卷。倪爲江西詩派二十五人之一。
- [2] 吕本中(公元一〇八四年——一一四五年)——字居仁, 籌州人。靖康初, 資潤

部員外耶,紹興六年賜進士出身,歷官中書舍人,權直學士院。學者稱東萊先生。曾作《江西詩社宗派圖》。有《東萊集》二十卷、《外集》二卷,《紫微詩話》一卷,《呂氏童蒙訓》一卷。《朱史》卷三百七十六有傳。

- [3]活法——活法是指神明於規矩之外者,不滯於法而亦不背於法。
- [4] 謝元暉有吉二句——見本册《石林詩話》註[29]。

### 【説明】

呂本中是宋代的道學家而又是詩家、詩論家,他的評詩的議論見於他的《江西詩社宗派圖》及《紫微詩話》二書。(宋人胡仔《苕溪漁隱叢話》裏引他的《呂氏童蒙訓》也有論詩之語,今傳的《童蒙訓》却把它删去了。郭紹虞《宋詩話輯佚》中有《童蒙詩訓》,可參閱。)這篇序裏提出"學詩當識活法"的主張,是宋人詩論中一個著名的論點。他序《江西詩社宗派圖》也說:"詩有活法,若靈均自得,忽然有入,然後惟意所出,萬變不窮。"《與曾吉甫論詩第一帖》也說:"要之此事須令有所悟入,則自然度越諸子。"都以悟入為說,近於佛家禪宗的話頭,這是江西派說詩的習氣。

但這篇序文裏解釋"活法"是:"規矩備具,而能出於規矩之外,變化不測,而亦不背於規矩。"是用司空圖所謂"超以象外,得其環中",及蘇軾所謂"吾文如萬斛泉源,不擇地皆可出,……常行於所當行,常止於不可不止"的說法,並非盡出於禪家。又他所謂"有意於文者之法"與"無意於文者之法",也近於蘇軾所謂"隨物賦形而不可知",本非玄妙之談。在《童蒙訓》裏說:"作文必要悟入處,悟入必自工夫中來,非僥倖可得也。"《與曾吉甫論詩第一帖》也說:"悟入之理,正在工夫勤惰間耳,如張長史見公孫大娘舞劍,頓悟筆法。如張者,專意此事,未嘗少忘胸中,故能遇事有得,逐造神妙,使他人觀舞劍,有何干涉。"《紫微詩話》自述答晁叔用語云:"只熟,便是精妙處。"這把"悟入"而得"活法"的根源,歸結到勤用工夫,這便是平平無奇的切實道理了。他說詩雖不

免有近禪宗的話,但還沒有故意賣弄玄虛的流弊。

# 附 錄

# 與會吉甫論詩第一帖

### 〔宋〕 呂本中

髓諭作詩次第,此道不講久矣,如本中何足以知之。或勵精潛思,不便下筆;或遇事因感,時時舉揚;工夫一也。古之作者,正如是耳。惟不可鑿空殭作,出於牽疆,如小兒就學,俯就課程耳。《楚辭》、杜、黃,固法度所在,然不若徧考精取,悉爲吾用,則姿態橫出,不窘一律矣。如東坡、太白詩,雖規摹廣大,學者難依,然讀之使人敢道,澡雪滯思,無窮苦艱難之狀,亦一助也。要之,此事須令有所悟入,則自然越度(應乙)諸子。悟入之理,正在工夫勤惰間耳。如張長史見公孫大娘舞劍,頓悟筆法。如張者,專意此事,未嘗少忘胸中,故能遇事有得,遂造神妙;使他人觀舞劍,有何干涉。非獨作文學書而然也。和章固佳,然本中猶竊以爲少新意也。近世來韻之妙,無出蘇、黃,雖失古人唱酬之本意,然用韻之工,使事之精,有不可及者。

《海山仙館叢書》本《苕溪漁騰叢話》前集卷四十九

### 與曾吉甫論詩第二帖

### 〔宋〕 呂本中

詩卷熟讀,深慰寂寞。蒙問加勤,尤見樂善之切,不獨爲詩賀也。其間大概皆好,然以本中觀之,治擇工夫已勝,而波瀾尚未闊,欲波瀾之闊去,須於規摹令大,涵養吾氣而後可。規摹旣大,波瀾自闊,少加治擇,功已倍於古矣。試取東坡黃州以後詩,如《種松》《醫眼》之類,及杜子美歌行及長韻近體詩看,便可見。若未如此,而事治擇,恐易就而難遠也。退之云: "氣、水也,言、浮物也,水大,則物之浮者,大小畢浮。氣之與言,猶是也。氣盛,

則言之長短,與聲之高下皆宜。"如此,則知所以爲文矣。曹子建《七哀詩》 之類,宏大深遠,非復作詩者所能及,此蓋未始有意於言語之間也。近世江 四之學者,雖左規右矩,不遺餘力,而往往不知出此,故百尺竿頭,不能更進 一步,亦失山谷之旨也。

《海山仙館叢書》本《苕溪漁隱叢話》前集卷四十九

# 童蒙詩訓(選錄)

### 〔宋〕呂本中

讀《古詩十九首》及曹子建詩,如"明月入我牖,流光正徘徊"之類,詩皆思深遠而有餘意,冒有盡而意無窮也。學者當以此等詩常自涵養,自然下筆不同。

前人文章各自一種句法。如老杜"今君起柂春冮流,予亦江邊具小舟", "同心不減骨肉親,每語見許文章伯"。如此之類,老杜句法也。東坡"秋水 今幾竿"之類,自是東坡句法。魯直"夏扇日在搖,行樂亦云聊"。此魯直句 法也。學者若能遍考前作,自然度越流聲。

老杜云: "新詩改罷自長吟。"文字頻改,工夫自出。近世歐公作文,先 貼於壁,時加寬定,有終篇不留一字者。魯直長年多改定前作,此可見大 略。如《宗室挽詩》云: "天網恢中夏,賓筵禁列侯",後乃改云: "屬舉左官 律,不通宗室侯。"此工夫自不同矣。

陸士衡《文賦》云: "立片言以居要,乃一篇之警策。"此要論也。文章無警策則不足以傳世,蓋不能竦動世人。如老杜及唐人諧詩,無不如此。但晉、宋間人,專致力於此,故失於綺靡而無高古氣味。老杜詩云: "語不驚人死不休。"所謂驚人語,即警策也。

潘邠老言七言詩第五字要響。如"返照入江翻石壁,歸雲掩樹失山村"。 · 870 · 翻字,失字,是響字也。五言詩第三字要響。如"圓荷浮小葉,細麥落輕花"。 浮字,落字,是響字也。所謂響者,致力處也。予竊以爲字字當活,活則字字自響。

浩然詩: "掛席幾千里,名山都未逢; 泊舟薄陽郭,始見香爐峯。" 但詳看此等語,自然高速。如此詩亦可以爲高遠者也。

淵明、退之詩, 句法分明, 卓然異衆, 惟魯直爲能深識之。學者若能證 此等語, 自然過人。阮嗣宗詩亦然。

徐師川言:作詩自立意,不可蹈襲前人。因誦其所作《慈母溪詩》,且言慈母溪與望夫山相對,望夫山詩甚多,而慈母溪古今無人題詩。末兩句云: "離鸞只說閨中事,舐犢那知母子情!"

學古人文字,須得其短處。如杜子美詩,頗有近質野處。如《封主簿親事不合詩》之類是也。東坡詩有汗漫處,魯直詩有太尖新、太巧處,皆不可不知。東坡詩如"成都畫手開十眉"、"楚山固多猿,青者點而壽",皆窮極思致,出新意於法度,表前賢所未到。然學者專力於此,則亦失古人作詩之意。

大概學詩,須以《三百篇》《楚辭》及漢、魏間人詩爲主,方見古人玅處,自無齊、梁間綺靡氣味也。

作文必要悟入處,悟入必自工夫中來,非僥倖可得也。如老蘇之於文,魯直之於詩,蓋盡此理也。

哈佛燕京學社本《宋詩話輯佚》卷下

# 歲寒堂詩話(選錄)

### 〔宋〕張 戒[1]

建安、陶、阮以前,詩專以言志;潘、陸以後,詩專以詠物;兼 而有之者,李、杜也。言志乃詩人之本意,詠物特詩人之餘事。 古詩、蘇、李、曹、劉、陶、阮,本不期於詠物,而詠物之工,卓然天 成,不可復及; 其情眞,其味長,其氣勝,視《三百篇》幾於無愧。 凡以得詩人之本意也。潘、陸以後,專意詠物,雕鐫刻鏤之工日以 增,而詩人之本旨掃地盡矣。謝康樂"池塘生春草"[2],顏延之 "明月照積雪"[3],謝玄暉"澄江靜如練"[4],江文通"日暮碧雲 合"[5],王籍"鳥鳴山更幽"[6],謝貞"風定花獨落"[7],柳惲"亭臯 木葉下"[8],何遜"夜雨滴空階"[9],就其一篇之中,稍冤雕鐫,麤 足意味,便稱佳句;然比之陶、阮以前蘇、李、古詩、曹、劉之作,九 牛一毛[10]也。大抵句中若無意味,譬之山無烟雲,春無草樹,豈 復可觀?阮嗣宗詩,專以意勝;陶淵明詩,專以味勝;曹子建詩,專 以韻勝; 杜子美詩, 專以氣勝。然意可學也, 味亦可學也, 若夫韻 有髙下,氣有強弱,則不可強矣。此韓退之之文,曹子建、杜子美 之詩,後世所以莫能及也。世徒見子美詩多麤俗,不知麤俗語在 詩句中最難, 非麤俗, 乃髙古之極也。自曹、劉死,至今一千年, 惟子美一人能之,中間鮑照雖有此作,然僅稱俊快,未至髙古。 元、白、張籍、王建樂府,專以道得人心中事爲工,然其詞淺近, 其氣卑弱[11]。至於盧仝,遂有"不喞溜鈍漢"[12],"七椀 喫不 得"[13]之句,乃信口亂道,不足言詩也。近世蘇、黃亦喜用俗語, 然時用之,亦頗安排勉強,不能如子美胸襟流出也。子美之詩,

顏魯公之書, 雄姿傑出, 千古獨步, 可仰而不可及耳。

國朝諸人詩爲一等,唐人詩爲一等,六朝詩爲一等,陶、阮、 建安七子、兩漢爲一等,風騷爲一等,學者須以次參究,盈科而後 進可也[14]。黃魯直自言學杜子美[15],子瞻自言學陶淵明[16],二 人好惡,已自不同。魯直學子美,但得其格律耳。子瞻則又專稱 淵明,且曰,曹、劉、鮑、謝、李、杜諧子皆不及也。 夫鮑、謝不及則 有之, 若子建、李、杜之詩, 亦何愧於淵明, 卽淵明之詩, 妙在有味 耳。而子建詩,微婉之情,洒落之韻,抑揚頓挫之氣,固不可以優 劣論也。古今詩人推陳王[17]及古詩第一,此乃不易之論。至於 李、杜,尤不可輕議。歐陽公喜太白詩,乃稱其"淸風明月不用一 錢買,玉山自倒非人推"之句[18],此等句雖奇逸,然在太白詩中, 特其淺淺者。魯直云:"太白詩與漢、魏樂府爭衡[19]。"此語乃眞 知太白者。王介甫云:"白詩多說婦人, 識見汚下[20]。"介甫之論 過矣。孔子刪詩,三百五篇說婦人者過半,豈可亦謂之識見汚下 耶?元微之嘗謂"自詩人以來,未有如子美者",而復以太白爲不 及[21]。故退之云:"不知羣兒愚,那用故謗傷[22]。"退之於李、杜, 但極口推傳,而未嘗優劣,此乃公論也。子美詩奄有古今,學者 能識國風騷人之旨,然後知子美用意處; 識漢、魏詩,然後知子美 遣嗣處;至於"掩顏、謝之孤髙,雜徐、庾之流麗"[23],在子美不足 道耳。歐陽公詩學退之, 叉學李太白; 王介甫詩, 山谷以爲學三 謝[24];蘇子瞻學劉夢得,學白樂天、太白,晚而學淵明[25];魯直 自言學子美。人才高下,固有分限,然亦在所習,不可不謹。其 始也學之,其終也豈能過之,屋下架屋,愈見其小。後有作者出, 必欲與李、杜爭衡,當復從漢、魏詩中出爾。

詩以用事為博,始於顏光祿<sup>[28]</sup>,而極於杜子美;以押韻為工,始於韓退之,而極於蘇、黃。然詩者,志之所之也,情動於中而形於言<sup>[27]</sup>, 豈專意於詠物哉?子建"明月照高樓,流光正徘

徊"[28],本以言婦人淸夜獨居愁思之切,非以詠月也;而後人詠月之句,雖極其工巧,終莫能及。淵明"狗吠琛巷中,鷄鳴桑樹頗"[29],本以言郊居閒適之趣,非以詠田園;而後人詠田園之句,雖極其工巧,終莫能及。故曰:"言之不足,故長言之;長言之不足,故詠嘆之;詠嘆之不足,故不知手之舞之、足之蹈之[30]。"後人所謂"含不盡之意"[31]者此也。用事押韻,何足道哉?蘇、黄用事押韻之工,至矣盡矣,然究其實,乃詩人中一害,使後生只知用事押韻之為詩,而不知詠物之爲工,言志之爲本也。風雅自此掃地矣。

韻有不可及者, 曹子建是也; 味有不可及者, 淵明是也; 才力 有不可及者, 李太白、韓退之是也; 意氣有不可及者, 杜子美是 也。文章古今迥然不同,鍾燦《詩品》,以古詩第一,子建次之,此 論誠然。觀子建"明月照高樓"、"高台多悲風"[32]、"南國有佳 人"[33]、"驚風飄白日"[34]、"謁帝承明廬"[35]等篇,音節鏗鏘(原 作"鏗鏘音節",應乙)抑揚,態度溫潤清和,金聲而玉振之,辭不迫 切,而意已獨至,與三百五篇異世同律,此所謂韻不可及也。淵 明"狗吠深巷中,鷄鳴桑樹顕"、"採菊東籬下,悠然見南山"[38],此 景物雖在目前,而非至閒至靜之中,則不能到,此味不可及也。杜 子美、李太白、韓退之三人,才力俱不可及,而就其中退之喜崛奇 之態,太白多天仙之詞,退之猶可學,太白不可及也。至於杜子 美,則又不然,氣吞曹、劉,固無與爲敵。如放歸鄜州,而云"維時 遭艱虞,朝野少暇日,顧慙恩私被,詔許歸蓬蓽"[37];新婚戍邊,而 云"勿爲新婚念,努力事戎行","羅襦不復施,對君洗紅粧"[38]; 《壯遊》云:"兩宮各警蹕[39],萬里遙相望";《洗兵馬》云:"鶴駕通 宵鳳輦備,鷄鳴問寢龍樓曉"[40];凡此皆微而婉,正而有禮。孔子 所謂"可以與,可以觀,可以羣,可以怨,邇之事父,遠之事君"者[41] 如"刺規多諫諍,端拱自光輝,儉約前王體,風流後代希"[42]、"公 若登臺輔, 臨危莫愛身"[43], 乃聖賢法言, 非特詩人而已。

"蕭蕭馬鳴,悠悠旆旌[14]。"以"蕭蕭""悠悠"字,而出師整暇之情狀,宛在目前;此語非惟創始之爲難,乃中的之爲工也。荆軻云:"風蕭蕭兮易水寒,壯士一去兮不復還[145]。"自常人觀之,語既不多,又無新巧,然而此二語遂能寫出天地愁慘之狀,極壯士赴死如歸之情,此亦所謂中的也。古詩:"白楊多悲風,蕭蕭愁殺人[148]。""蕭蕭"兩字,處處可用,然惟墳墓之間,白楊悲風,尤爲至切,所以爲奇。樂天云:"說喜不得言喜,說怨不得言怨[17]。"樂天特得其麤爾。此句用悲愁字,乃愈見其親切處,何可少耶?詩人之工,特在一時情味,固不可預設法式也。

國風云: "愛而不見,搔首踟蹰<sup>[48]</sup>。" "瞻望弗及,佇立以 泣<sup>[49]</sup>。"其詞婉,其意微,不迫不露,此其所以可貴也。古詩云: "馨香盈懷袖,路遠莫致之<sup>[50]</sup>。"李太白云: "皓齒終不發,芳心空 自持<sup>[51]</sup>。"皆無愧於國風矣。杜牧之云: "多情卻是總無情,惟覺 尊前笑不成<sup>[52]</sup>。"意非不佳,然而詞意淺露,略無餘蘊。元、白、 張籍,其病正在此,只知道得人心中事,而不知道盡則又淺露也。 後來詩人能道得人心中事者少爾,尚何無餘蘊之貴哉?

國風、《離騷》固不論,自漢、魏以來,詩妙於子建,成於李、杜,而壞於蘇、黃。余之此論,固未易爲俗人言也。子瞻以議論作詩,魯直又專以補綴奇字,學者未得其所長,而先得其所短,詩人之意掃地矣。段師教康崑崙琵琶,且遣不近樂器十餘年,忘其故態<sup>[53]</sup>。學詩亦然。蘇、黃習氣淨盡,始可以論唐人詩,唐人聲律習氣淨盡,始可以論六朝詩,鐫刻之習氣淨盡,始可以論曹、劉、李、杜詩。《詩序》云:"情動於中而形於言,言之不足,故嗟嘆之。"子建、李、杜皆情意有餘,洶湧而後發者也。劉勰云:"因情造文,不爲文造情<sup>[54]</sup>。"若他人之詩,皆爲文造情耳。沈約云:"相如工爲形似之言,二班長於情理之說<sup>[55]</sup>。"劉勰云:"情在詞外

曰隱, 狀溢目前曰秀<sup>[56]</sup>。"梅聖俞云:"含不盡之意見於言外, 狀難寫之景如在目前<sup>[57]</sup>。"三人之論, 其實一也。

無錫丁氏校印本《歷代詩話續編·歲寒堂詩話》卷上

### 【註釋】

- [1] 張戒——正平人,宋高宗時曾爲殿中侍御史、司農少卿等職。後因和趙鼎、岳飛一起反對和議,被劾革職。著有《歲寒堂詩話》二卷。
- [2] 池塘生春草----見本册吳可《學詩詩》註[5]。
- [3]明月照積雪——謝靈運《歲暮》詩句。此云顏延之詩,當由誤記。
- [4]澄江靜如練——謝朓《晚登三山還望京邑》詩句。
- [5]日暮碧雲合——江淹《雜體·休上人怨別》詩句。
- [6] 島鳴山更幽——王籍《入若耶溪》詩句。
- [7] 風定花猶落——《南史》卷七十四《謝貞傳》:"八歲嘗爲《春日閑居》詩,從舅王 筠奇之,謂所親曰:'至如"風定花猶落",乃迫步惠連矣。'"
- [8]亭阜木葉下——柳惲《擣衣詩》詩句。
- [9] 夜雨滴空階——何邃《臨行與故遊夜別》詩句。
- [10] 九牛一毛——語出司馬遷《報任少卿書》,比喻十分渺小。
- [11] 元白張籍王建樂府四句——張籍,見本册《與元九書》註[60]。王建,字仲初,紹川人。唐大曆十年進士,官至陝州司馬,死于文宗太和末年,年八十餘。他的樂府詩和張籍齊名,世稱張王樂府。有《王建集》十卷。張戒此意,明人有所闡發。王世貞《藝苑卮言》云:"樂府之所貴者,事與情而已。張籍善言情,王建善徵事,而境皆不佳。"陸時雍《詩鏡總論》云:"元、白以潦倒成家,意必盡言,言必靈輿,然其力足以達之。""元、白之韻平以和,張、王之韻庳以急,其好盡則同,而元、白獨未傷雅也。雖然,元、白好盡言耳,張、王好盡意也。盡言特煩,盡意則娶矣。""人情物態不可言者最多,必盡言之,則俚矣。知能言之爲佳,而不知不言之爲妙,此張籍、王建所以病也。張籍,小人之詩也,俚而佻。王建款情熟語,其兒女子之所爲乎? 詩不入雅,雖美何觀矣。""張籍、王建詩有三病:言之盡也,意之醜也,爾之庳也。言窮則盡,意憂則醜,韻軟則庳。"
- [12]不唧溜鈍漢——盧仝《揚州送伯齡過江》詩句。唧溜,機靈。
- [13] 七椀喫不得—— 慮仝《走筆謝孟諫議寄新茶》詩句。
- [14] 國朝諸人詩爲一等以下七句——《孟子·離婁下》:"源泉混混,不舍晝夜,盈科

而後進,放乎四海。"趙岐注: "科, 坎也。"盈科而後進, 謂泉水把窪下之處注滿, 又繼續向前奔流。 這裏借以說從風騷以下一直至宋人之詩, 以夾探討。案: 嚴 羽《滄溟詩話》云: "試取漢、魏之詩而熟參之, 夾取晉、宋之詩而熟參之, 夾取南 北朝之詩而熟參之, 夾取沈、宋、王、楊、盧、駱、陳拾遺之詩而熟參之, 夾取開 元、天寶諸家之詩而熟參之, 夾獨取李、杜二公之詩而熟參之, 又取大曆十才子 之詩而熟參之, 又取元和之詩而熟參之, 又雖取晚唐諸家之詩而熟參之, 又取本朝蘇、黃以下諸家之詩而熟參之, 又雖取晚唐諸家之詩而熟參之, 又取本朝蘇、黃以下諸家之詩而熟參之, 其眞是非自有不能隱者。"又云: "大曆以前, 分明別是一副言語; 晚唐, 分明別是一副言語; 本朝諸公, 分明別是一副言語。如此見, 方許具一隻眼。"其說即本於張戒。

- [15] 黃魯直自言學杜子美——案: 黃庭堅為《大雅堂記》稱"余嘗欲隨欣然會意處, 箋以數語"云云,黃集中論學杜語不一而足。
- [16] 子瞻自言學陶淵明——《東坡續集》卷三《與蘇轍書》:"吾於詩人,無所甚好,獨 好淵明之詩。 淵明作詩不多,然其詩質而實綺,瓊而實腴,自曹、劉、鮑、謝、李、 杜諸人,皆莫及也。吾前後和其詩凡一百有九篇,至其得意,自謂不甚愧淵明。"
- [17] 陳王——曹植,曾封陳王。
- [18] 歐陽公喜太白詩三句——《歐陽文忠公集》卷一百二十九《筆說·李白杜甫詩優 劣說》: "'落日欲沒峴山西, 倒著接驅花下迷, 襄陽小兒齊拍手, 大家爭唱《白銅 鞮》。'此常言也。至於'清風明月不用一錢買, 玉山自倒非人推', 然後見其橫 放。其所以驚動千古者, 固不在此也。杜甫於白得其一節而精強過之。至於 天才自放, 非甫可到也。"
- [19] 魯直云二句——王琦注《李太白全集》卷三十四引《黄山谷文集》:"太白歌詩,度越六代,與漢、魏樂府爭衡。"
- [20] 王介甫云三句——《苕溪漁隱叢話前集》卷六引《鍾山語錄》:"荆公次第四家詩 (卽杜甫、歐陽修、韓愈、李白四家)以李白最下,俗人多疑之。公曰: '白詩近 俗,人易悅故也。白識見汚下,十首九說婦人與酒,然其才豪俊,亦可取也。'"
- [21]元徽之嘗謂三句——元稹《唐故工部員外耶杜君墓係銘》:"則詩人以來,未有如子美者。……至若鋪陳終始,排比聲韻,大或千言,次猶數百; 詞氣豪邁,而風調清深,屬對律切,而脫棄凡近; 則李尙不能歷其藩翰, 況堂奧乎?"
- [22] 退之云三句——韓愈《調張籍》詩句。臺兒,指當時誹謗李白詩歌的人。
- [23] 掩顏謝之孤高二句——語見元稹《唐故工部員外郎杜君墓係銘》。
- [24] 三謝——陳師道《後山詩話》:"黃唇直謂荆公之詩……'扶興度陽磯,窈窕一川 花',雖前人亦未易道也,然學三謝失于巧耳。"三謝,謂謝麗運、謝惠連與謝朓。

- [25] 蘇子贈三句——陳師道《後山詩話》: "蘇詩始學劉禹錫,……晚學太白。……" 黄庭堅《駁子贈和陶詩》: "子贈讀海南,時宰欲殺之。飽喫惠州飯,細和淵明 詩。"方東樹《昭昧詹言》: "白傳意格,東坡所本。"
- [26] 顏光祿——卽顏延之,宋武帝時爲金紫光祿大夫。
- [27] 詩者三句——《毛詩序》文。
- [28] 明月照高樓二句——曹植《七哀》詩句。
- [29] 狗吠深巷中二句——陶源明《歸園田居》詩句。
- [30] 首之不足六句——見《禮記·樂記》。
- [31] 含不盛之意——參看註[57]。
- [32] 高台多悲風——曹植《雜詩》詩句。
- [33] 南國有佳人——曹植《雜詩》詩句。
- [34] 黃風飄白日——曹植《贈徐幹》詩句。
- [35] 關帝承明廬——曹植《赗白馬王彪》詩句。
- [36] 探菊東鯔下二句——陶淵明《飲酒》詩句。
- [37] 維時遭襲虞四句——杜甫《北征》詩句。
- [38] 勿爲新婚念四句——杜甫《新婚别》詩句。
- [39] 兩宮句——警,警戒; 蹕,清道。古代皇帝出入所經之地要戒嚴,稱警蹕。時玄宗在成都,其子肅宗在靈武,故云。
- [40] 鶴駕二句——鶴駕,太子車駕。杜甫作《洗兵馬》時,太子爲李俶。鳳聲,指太子所乘車。龍樓,門樓上有銅龍,故名。此二句是杜甫諷太子應盡子職。
- [42] 刺規多諫靜四句——杜甫《送盧十四弟侍御護韋尚書鑒櫬歸上都二十韻》詩句。
- [43] 公若登臺輔二句——杜甫《奉送殿公入朝十韻》詩句。
- [44] 蕭蕭馬鳴二句——《詩·小雅·車攻》詩句。
- [46] 風離蕭兮二句——載《史記·刺客列傳》。
- [46] 白楊多悲風二句——《古詩十九首》詩句。
- [47] 樂天云三句——僞托的《金針詩格》中有此語。
- [48] 愛而不見二句——《詩·邶風·靜女》詩句。
- [49] 瞻望弗及二句----《詩·邶風·燕燕》詩句。
- [50] 馨香盈懷袖二句——《古詩十九首》詩句。
- [51] 皓齒終不發二句——李白《古風》詩句。

- [52] 多情卻是總無情二句——杜牧《贈別》詩句。
- [53] 段師教康崑崙琵琶三句——段安節《樂府雜錄》: "(唐)德宗……乃令(段善本) 教授崑崙,……段奏曰: '且遺崑崙不近樂器十餘年,使忘其本領,然後可教。' 蹈許之,後果盤段之藝。"
- [54] 劉勰云三句——見本書第一册劉勰《文心雕龍·情采》。
- [55] 沈約云三句——見本書第一册沈約《宋書·謝麗運傳論》。
- [56] 劉勰云三句——此爲劉勰《文心雕龍·騰秀》佚文。
- [57] 梅聖俞云三句——歐陽修《六一詩話》:"聖俞嘗語余曰:'……必能狀難寫之 景如在目前,含不盡之意見於言外,然後為至矣。'"

#### 【説明】

當南宋初期,蘇、黃詩風風靡一世的時候,首先正面提出反對意見的是張戒的《歲寒堂詩話》。從上面選的幾節中,可以看出張戒的論詩大旨之所在,都是不滿於蘇、黃的。

關於詩歌的內容方面,張戒認為應當是以言志為本。至於 詠物寫景,乃是餘事。曹植"明月照高樓",陶潛"狗吠深巷中"之 所以不可企及,正由於"本不期於詠物,而詠物之工,卓然天成" 的緣故。但是詠物寫景,也是詩的內容之一。"相如工為形似之 言",並不妨礙他的成就。因此,他有取於劉勰所謂隱秀與梅聖 俞之論意景,對於狀景之作也不完全否定。他所反對的,是"以 用事為博","以押韻為工",為詠物而詠物。

由於詩以言志爲本,所以張戒引孔子"與、觀、羣、怨"之說, 充分地肯定了杜甫詩的思想意義,但對蘇軾的"以議論作詩",則 認爲是"詩人之意掃地矣"! 這因爲蘇軾有些詩中說理論事,縱 橫馳驟,使得詩歌散文化,超出了言志抒情的範圍,因此就把他 和黃庭堅的"補綴奇字"一概相量,稱之爲"習氣"。

關於詩歌的藝術風格方面,張戒主張涵蓄蘊藉,必須是"情意有餘,洶湧而後發";但又要"情在詞外,狀溢目前",以"不迫不

露"為貴。他不滿於元、白和張籍,由於他們"只知道得人心中事,而不知道盡則又淺露也"。可見他之所謂"淺",只是因為說得太"露"。說得太"露",詩格就"卑",那末像蘇軾和黃庭堅,一個發洩無餘,一個刻劃過甚,當然更是他所反對的了。他說詩歌語言之工,在於"中的"。所謂"中的",指的是以恰當的詞語,確切不移地表現"一時情味"。既"不可預設法式",又無"新巧"可言,要其指歸,還是以渾成爲尚,而不假於雕飾。

由於強調渾成的意境,張戒不僅把蘇、黃的"用事""押韻"看作一種習氣,就連"聲律"和"鐫刻"也看作一種習氣。他說:"自漢、魏以來,詩妙於子建,成於李、杜,而壞於蘇、黃。"子建之妙,在於"微婉之情,洒落之韻,抑揚頓挫之氣",三者棄而有之。詩之所以成於李、杜,因爲李白"多天仙之詞","與漢、魏樂府爭衡","其才力有不可及";杜甫得《風》《騷》之旨,驅使漢、魏之詞,"其意氣有不可及"。至於蘇、黃繼李、杜而後,則奇外出奇,極盡變態。"學者未得其所長,而先得其所短",於是滄海橫流,詩道爲之大壞。變極則復,他悟出了"人才高下,固有分限,然亦在所習,不可不謹"。他以爲要與李、杜爭衡,就必須上溯漢、魏、《風》《騷》。"屋下架屋,愈見其小",從李、杜來學李、杜,尚且不可,更何況向蘇、黃討生活呢?可是由破到立,是有過程的。"蘇、黃習氣淨盡,始可以論唐人詩;唐人聲律習氣淨盡,始可以論六朝詩;鐫刻之習氣淨盡,始可以論曹、劉、李、杜詩"。所謂"以來參究,盈科而後進",就是這個意思。

張戒論詩,以儒家的傳統思想爲指導,強調溫柔敦厚的詩教, 對蘇黃的評論也難免有過激之詞; 但他重視內容,推崇杜甫,對 當日詩壇的不良風氣,作了有力的批判,具有補偏救弊的意義。

#### 附錄

#### 養一齋詩話(選錄)

#### [淸] 潘德輿

"詩言志","思無邪",詩之能事畢矣。人人知之而不肯述之者,懼人笑 其迂而不便於己之私也。雖然,漢、魏、六朝、唐、宋、元、明之詩,物之不齊 也。"言志""無邪"之旨,權度也。權度立,而物之輕重長短不得遁矣;"言 志""無邪"之旨立,而詩之美惡不得遁矣。不肯述者私心,不得遁者定理, 夫詩亦簡而易明者矣。

曾志者必自得,無邪者不爲人,是故古人之詩,本之於性天,養之以經 籍,內無忧迫苟且之心,外無夸張淺露之狀;天地之間,風雲日月,人情物 態,無往非吾詩之所自出,與之貫輸於無窮;此卽深造自得、居安資深、左右 逢原之說也,不爲人故也。後世之士,若不爲人,則不復學詩; 搦管之先,祗 求勝人,多作之後,遂思傳世,雖久而成集,閱之幾無一言之可存。何也? 彼原未嘗學詩也。分曹詠物之作,酬和叠韻之體,諛頌悅人之篇,餖釘考古 之製, 窮工極巧, 瀰漫浩汗, 何益於身心, 何裨於政教? 作者詡能手, 誦者稱 國工,名家不能掃除,餘子依爲活計,紛紛藉藉,皆孔子所謂爲人者也。此 鳥得有自得之一時,使人一唱三歎諷辱不寘哉? 難者曰: 爲已自得,聖學 也,學詩必要諸聖,不迂則僭。曰:子知詩宜辨雅俗乎?曰:知之。曰:知之 則無疑予言之迂且僭也。夫所謂雅者,非第詞之雅馴而已;其作此詩之由, 必脫棄勢利,而後謂之雅也。今種種鬥露騁姸之詩,皆趨勢弋利之心所流 露也。詞縱雅而心不雅矣,心不雅則詞亦不能掩矣。不雅由於爲人而不自 得,然則子欲畫雅俗之界,舍爲己自得之說,又何從辨之?《三百篇》、漢人 之詩,委巷婦孺,亦廁其中,彼豈嘗探討聖學者,特其詩不爲人而自得,故足 傳誦耳。子於此求之,則知予非好作頭巾語矣。不審乎此,而震驚時俗之 同然,依傍他人之門戶,無志無識,終於苟焉耳。何詩之可言?

阿諛誹謗、戲謔淫蕩、夸詐邪誕之詩作而詩教烺,故理語不必入詩中,

詩境不可出理外。謂詩有別趣,非關理也,此禪宗之餘唾,非風雅之正傳。

《三百篇》之體製音節,不必學,不能學;《三百篇》之神理意境,不可不學也。神理意境者何?有關係寄托,一也;直抒已見,二也;純任天機,三也;言有盡而意無窮,四也;不學《三百篇》,則雖赫然成家,要之纖瑣摹擬、短釘淺盡而已。今人之所喜,古人之所笑也。漢、唐人不盡學《三百篇》,然其至高之作,必與《三百篇》之神理意境簡合,而後可以感人而傳誦至今。夫才高者,倘可簡合,而何不可學之有哉?東坡先生教人作詩,曰:"熟讚《毛詩》國風與《離騷》,曲折盡在是矣。"王伯厚曰:"《新安吏》'僕射如父兄'。'雖則如燰,父母孔邇',此詩近之。山谷所謂'論詩未覺國風遠'也。"王濟之曰:"讀《詩》至《綠衣》《燕燕》《碩人》《黍離》等篇,有言外無窮之感。唐人詩尙有此意,如'君向蘆湘我向秦',不言悵別,而悵別之意溢於言外,'潮打空城寂寞回',不言與亡,而與亡之感溢於言外,最得風人之旨。"愚謂此類甚多,皆《三百篇》可學之證也。(以上見卷一)

陶公曰: "黄、唐莫逮,惟獨在予。"杜公曰: "許身一何愚,自比稷與契。" 有此等襟抱, 詩乃爲千古之冠, 然又非好作褒衣大袑語者所能彷彿也。文 章之道, 傳眞不傳僞, 亦觀其平日胸次行止爲何如耳。

"辭達而已矣",千古文章之大法也。東坡嘗拈此示人,然以東坡詩文觀之,其所謂"達",第取氣之滔滔流行,能暢其意而已。孔子之所謂"達",不止如是也。蓋達者,理義心術、人事物狀,深微誰見,而辭能闡之,斯謂之達。達則天地萬物之性情可見矣。此豈易易事,而徒以滔滔流行之氣當之乎?以其細者論之,"楊柳依依",能達楊柳之性情者也,"蒹葭蒼蒼",能達蒹葭之性情者也。任舉一境一物,皆能曲肖,神理托出豪素,百世之下,如在目前,此達之妙也。《三百篇》以後之詩,到此境者,陶乎,杜乎?坡未盡遠也。(以上見卷二)

吾學詩數十年,近始悟詩境全貴質實二字,蓋詩本是文采上事,若不以 質實爲貴,則文濟以文,文勝則靡矣。吾取虞道園之詩者,以其質也,取顧 亭林之詩者,以其實也。亭林作詩,不如道園之富,然字字皆實,此修辭立 誠之旨也。竹垞、歸愚選明詩,皆及亭林,皆未嘗尊爲詩家高境,蓋二公學 詩見地,猶爲文采所囿耳。

一唱三歎,由於千錘百鍊。今人都以平澹爲易易,知其未奧甘苦來也。

右丞"雨中山果落,燈下草蟲鳴",其難有十倍於"草枯鷹眼疾,雲蟲馬蹄輕" 者。到此境界,乃自領之,略早一步,則成口頭語,而非詩矣。

時最爭意格。詞氣富健矣,格不清高,可作而不可示人;格調清高矣,意不精深,可示人而不可傳遠。有以論意格爲腐談者,中其所短故耶? (以上見卷三)

陶公詩雖天機和뾮,靜氣流溢,而其中曲折激蕩處,實有憂憤沉鬱、不 可一世之概,不獨於易代之際,奮欲圖報,如《擬古》之"枝條始欲茂,忽值山 河改,本不植高原,今日復何悔",《詠荆軻》之"雄髮指危冠,猛氣衝長纓,其 人雖已歿,千載有餘情"、《讚山海經》之"精衞衡微木,將以塡滄海,刑天舞 干戚,猛志故常在。徒設在昔心,良晨詎可待"也。即平居酧酢間,憂憤亦多 矣,不爲拈出,何以論其世察其心乎?如"醒醉還相笑,發言各不領"。"是非 苟相形, 雷同共譽毀"。"賜也徒能辯, 乃不見予心"。"擺落悠悠談, 請從予所 之。知音苟不存,已矣何所悲"。"孰若當世士,冰炭滿懷抱"。"不怨道里長, 但畏人我欺"。"多謝諸少年,相知不忠厚"。"迂譽誠可學,違己詎非迷"。"我 心固非石,君情定何如"。"不見相知人,惟見古時邱。此士難再得,吾行欲何 求?"萧所學任天,自與俗異,同時必有貌爲推奪、內實非薄者,必又有多方 訕笑、交訌其側者,非具定識定力,何以能不爲之動而卒成所學也。故端居 自勵,亦深以懷疑改職爲警,曰"當年詎有幾,縱心復何疑",曰"達人解其會, 逝將不復疑",曰"一往便當已,何爲復狐疑",然則和鬯流溢,學成之候也, 憤激沈鬱,刻苦之功也。先有絕俗之特操,後乃有天然之眞境。彼一味平和 而不能屏絕俗學者,特鄉原之流,豈風雅之詣乎?(以上見卷十)

道光刻本《養一獨詩話》

# 論 詩 詩

[宋] 陸 游[1]

# 九月一日夜讀詩稿有感走筆作歌[2]

我昔學詩未有得,殘餘未免從人乞。力孱氣餒心自知,妄取虛名有慚色<sup>[3]</sup>。四十從戎駐南鄭<sup>[4]</sup>,酣宴<sup>[5]</sup>軍中夜連日。打球築場<sup>[8]</sup>一千步,閱馬列厩三萬匹。華燈縱博聲滿樓<sup>[7]</sup>,寶釵豔舞光照席<sup>[8]</sup>。琵琶弦急冰雹亂,羯鼓<sup>[9]</sup>手匀風雨疾。詩家三昧<sup>[10]</sup> 忽見前,屈賈在眼元歷歷<sup>[11]</sup>。天機雲錦用在我,剪裁妙處非刀尺<sup>[12]</sup>。世間才傑固不乏,秋毫未合天地隔<sup>[13]</sup>。放翁老死何足論,《廣陵散》絕還堪惜<sup>[14]</sup>。

中華書局排印本《陸游集·劍南詩稿》卷二十五

# 題廬陵蕭彥毓秀才詩卷後(其二)[15]

法不孤生自古同, **癡**人乃欲鏤虛空<sup>[18]</sup>。君詩妙處吾能識, 正在山程水驛中<sup>[17]</sup>。

中華書局排印本《陸游集·劍南詩稿》卷五十

# 讀近人詩[18]

琢瑚自是文章病,奇險尤傷氣骨多<sup>[19]</sup>。君看大羹玄酒味,蟹 螯蛤柱豈同科<sup>[20]</sup>。

中華春局排印本《陸游集·劍南詩稿》卷七十八

# 示 子 遹 [21]

我初學詩日,但欲工藻繪;中年始少悟,漸若窺宏大。怪奇亦間出,如石漱湍瀬<sup>[22]</sup>。數仞李杜牆<sup>[23]</sup>,常恨欠領會。元白纔倚門,溫李眞自鄶<sup>[24]</sup>。正令筆扛鼎<sup>[25]</sup>,亦未造三昧。詩爲六藝一<sup>[26]</sup>,豈用資狡獪<sup>[27]</sup>(自注:晉人謂戲爲狡獪,今閩語尙爾)? 汝果欲學詩,工夫在詩外。

中華書局排印本《陸游集·劍南詩稿》卷七十八

#### 【註釋】

- [1] 陸游(公元一一二五年——一二一〇年)——字務觀,號放翁,山陰人。隆興 初,賜進士出身,官至寶章閣待制。有《劍南詩稿》八十五卷、《渭南文集》五十 卷、《南唐書》十八卷、《老學庵筆記》十卷。《宋史》卷三百九十五有傳。
- [2]九月一日夜讀詩稿有感走筆作歌——這首詩是宋光宗紹熙三年(公元一一九二年)陸游在山陰時作。這時作者已六十八歲。在這年以前五年,陸游在嚴州刻成《劍南詩稿》前集。這首詩具體敘述了自己詩歌創作的發展過程。
- [3]我昔學詩未有得四句——陸游年青時智拜曾幾為師,頗受江西詩派的影響,雖 然早黃詩名,但他後來的生活道路與創作思想有所轉變,因而對這一時期的詩 歌創作進行自我批評。
- [4]四十從戎句——陸游到南鄭前線四川宣撫使王炎幕任幹辦公事兼檢法官時是四十八歲。"四十"云云,舉其整數。
- [5] 酣宴---指盡歡極樂的宴會。
- [6]打球築場——打球(《劍南詩稿》舊刻本都作"毬"),指宋代軍中馬上的擊球運動。《宋史》卷一百二十一《禮志(軍禮)》記載:"打毬,本軍中戲。……整木東西為毬門,……二人守門,……(諸人)馳馬爭擊。……將及門,逐廂急鼓。毬度,殺鼓二通。……得籌者下馬稱謝。"遭裏說"打球築場一千步,閱馬列底三萬匹",與此相合。
- [7] 荜燈——荜麗明亮的燈。縱博——盡情博弈。博,局戲,用六箬十二模;弈,指

圍棋。

- [8] **資**釵句——**資**釵,婦女珍貴的首飾。詩中意謂服飾華**麗**的軍妓的舞蹈極其動 人。
- [9]羯鼓——我國西北少數民族的樂器,用山桑木製成,形似漆桶,用手持杖擊奏。
- [10] 三昧——本是佛經中用語, 這裏借用為要訣、訣竅的意思。
- [11] 屈賈句——屈,屈原;賈,賈誼。元歷歷,清楚如畫的意思。這句意思是說充分 地領會了屈原賈誼的創作精神。
- [12] 天機二句——天機,本指神話故事中織女的布機; 雲錦, 謂錦繡美如彩雲。非刀尺, 謂妙手天成, 織布剪裁時無須憑藉刀尺的幫助。這兩句以紡織裁衣為喻, 比擬詩人善於運用材料, 剪裁恰當, 無雕琢斧鑿的痕迹。
- [13] 秋毫句——秋天鳥獸的新生羽毛細小難見。全句意謂差之毫釐,失之千里。
- [14] 放翁二句——《廣陵散》,古琴曲名。《晉書》卷四十九《嵇康傳》:"康將刑東市, ……索琴彈之,曰:'昔袁孝尼從吾學《廣陵散》,吾每靳固之,《廣陵散》於今絕 矣!'"後世因此就把失傳的東西稱爲《廣陵散》。這二句詩的意思是說,自己死 了倒算不了什麼,可是詩學失傳才真正值得惋惜。
- [16] 法不孤生二句——"法不孤生"、"心不孤起,仗境方生",本是佛教禪宗的口號(見智眼《人天眼目》卷四載石佛忠《相生頌》,延壽《宗鏡錄》卷四論"心法",《雜阿含經》卷十五:"柱畫虚空")。 這裏借指詩歌創作的構思問題。李幼武《名臣 首行續錄》卷一載黃庭堅語:"詩不可鑿空強作,待境而生,便自生耳。"陸游詩意所本。
- [17] 君詩二句——《廣西通志》卷二百二十四載桂林石刻陸游與杜思恭手札(《渭南文集》未收)有遺樣一段話,可與此詩相互發明:"大抵此業在道途則愈工,…… 顧舟楫鞍馬間加意勿輟,他日絕塵邁往之作必得之此時爲多。"遺就是說,詩歌 創作必須面向現實,接觸客觀生活,不能閉門造車,專在書本上下功夫。
- [18] **责**近人**时**——這首時是宋寧宗嘉定元年(公元一二〇八年)秋陸游在山陰時 作。這年作者八十四歲。
- [19] 琢琱二句——黄庭堅《與王觀復書》: "所寄詩多佳句,獨恨雕琢功多。"又:"好作奇語,自是文章病。"姜夔《白石道人詩說》:"雕刻傷氣。"《渭南文集》卷三十九《何君墓喪》也說:"大抵詩欲工,而工亦非詩之極也。鍛鍊之久,乃失本信,實

削之甚,反傷正氣。"都可和本篇互相參證。

- [20] 君看二句——大羹, 見本書第一册《文賦》註[117]。玄酒, 見本册《題酒邊詞》 註[14]。蟹螯, 螃蟹的第一對步足。蛤柱, 蛤蜊的肉柱。蟹脚與蛤蜊, 雖然味道特殊, 但終比不上純而無味的大羹玄酒, 因為在人們神聖的祭壇上, 它們是擺不上去的。這兩句意思是說, 詩歌創作必須質樸, 反對雕琢。
- [21] 子邈(公元一一七八年——一二五〇年)——字懷祖, 陸游幼子。以父致仕恩 補官,自新喩丞、溧陽令、嚴州知州歷官至吏部侍郎。
- [22]怪奇二句——此句謂中年以後,有時還寫一些瘦硬奇險的詩,不免有一些早年 學江西詩派的習氣。歐陽修《水谷夜行寄子美聖俞》:"梅翁事清切,石齒漱寒 耀。"陸游所本。
- [23] 數仞李杜牆——見本册《答李翊書》註[4]。
- [24]元白二句——謂元、白僅能及到李、杜的門牆,溫庭筠、李商隱則更下一等,不足道了。"自鄶",用《左傳》季札觀樂故事,季札到魯觀樂,對各國的樂歌都有醉語,但謂"自鄶以下無譏焉",意謂鄶風以下,不足譏議。
- [25] 蜂扛鼎——韓愈《病中閒張十八》詩:"龍文百斛鼎,蜂力可獨扛。"
- [26] 六藝——《周禮·地官保氏》指禮、樂、射、取、書、數。這裏指《六經》,即《詩》《書》《禮》《樂》《易》《春秋》。《史記·伯夷列傳》: "夫學者載籍極博,猶考信於六藝。《詩》《書》雖缺,然虞、夏之文可知也。"
- [27] 豈用資狡獪——狡獪,遊戲,這裏引申作僥倖取巧解。陸游於淳熙十四年六十 六歲所作《示桑甥十韻》詩中謂"大巧謝雕琢,至剛反摧藏。一技均道妙, 佻心 誰能當。"亦是此意。

#### 【説明】

這四首詩是陸游六十八歲到逝世前一年所作。從這裏可以看到陸游的創作過程和論詩的總結。

陸游詩早年從江西派入手,曾拜曾幾為師,曾幾稱他的詩 "淵源殆自呂紫微(本中)"(陸游《呂居仁集序》)。"我得茶山(曾 幾)一轉語,文章切忌參死句"(陸游《贈應秀才》),是陸游初期學 習江西派的體會。由於他處在民族矛盾尖銳的時代,受了家庭的 薫陶和前輩愛國人士的教育,與賣國集團進行了鬥爭,報國無 路,於是"蹭蹬乃去作詩人"(《初冬雜詠》),這就使他在創作實 踐上, 終於能擺脫江西派的影響。特別是中年入蜀從軍南鄭以 後,廣闊的現實世界,豐富的戰地生活,大大發展了他的創作與 詩論。他所說的從"我昔學詩未有得,殘餘未免從人乞"、"我初 學詩日,但欲工藻繪"到"四十從戎駐南鄭"、"詩家三昧忽見前", "中年始少悟, 漸若窺宏大"的過程, 就是這樣一個曲折地摸索到 正確道路的過程。他四十九歲攝嘉州(今四川樂山)時作《夜讀 岑嘉州詩集》,對岑參的邊塞詩評價很高。愛國的激情使他的詩 歌創作發生了很大的變化。他六十八歲時所寫《九月一日夜讀 詩稿有咸走筆作歌》一詩,就是形象地描述了這一歷程中的轉變 眼,信手拈出皆成章"那樣在藝術上證悟到"文章本天成,妙手偶 得之"(陸游《文章》)的境地,而是證悟到社會生活和創作的密切 關係。以此爲前提,而後少時所學的"藻繪"工夫,煉字造句、徵 典屬對等藝術技巧才能有用地爲積極的內容服務,寫出思想性 與藝術性統一的作品。這就是陸游認為過去"亦未造三昧"的三 昧。它跟江西派詩人純藝術地用佛語喻悟境的話頭,有實質上 的差異。

陸游在《示子遹》中,批判了早年單純追求形式、"但欲工藻 繪"的錯誤,指出了"詩爲六藝一,豈用資狡獪?"在他的《老學庵 筆記》中會對片面講究詩句有出處的作詩方法作過批判,認爲 "今人作詩,亦未嘗無出處,……但不妨其爲惡詩"。"琢瑚自是 文章病,奇險尤傷氣骨多"(《讀近人詩》)。琢瑚、奇險,都是"狡 獪"的注脚。於是他又指出:"法不孤生自古同,癡人乃欲鏤虛 空! 君詩妙處吾能識,正在山程水驛中。"作家現實生活的體驗, 正是《示子遹》結尾所提示的"汝果欲學詩,工夫在詩外"的具體 內容,也是他所堅持的寫詩原則。

# 附 錄

# 夜讀岑嘉州詩集

#### 〔宋〕陸游

漢嘉山水邦, 岑公昔所寓。公詩信豪偉, 筆力追李杜。常想從軍時, 氣無玉關路。(自注: 公詩多從戎西邊時所作)至今蠹簡傳, 多昔橫槊賦。零落才百篇, 崔嵬多傑句。工夫刮造化, 音節配韶護。我後四百年, 清夢奉巾履。晚途有奇事, 隨牒得補處。羣胡自魚內, 明主方北顧。誦公天山篇, 流涕思一過。

中華書局排印本《陸游集·劍南詩稿》卷四

### 宋都曹屢寄詩且督和答作此示之

#### 〔宋〕陸 游

古詩三千篇, 删取才十一。每讀先再拜, 若聽清劇瑟。詩降為楚騷, 猶足中六律。天未喪斯文, 杜老乃獨出。陵遲至元白, 固已可憤疾。及觀晚唐作,令人欲焚筆。此風近復熾, 隙穴始難窒。淫哇解移人, 往往喪妙質。苦言告學者, 切勿爲所忧。航川必至海, 爲道當擇術。

中華書局排印本《陸游集·劍南詩稿》卷七十九

#### 上辛給事書(節錄)

#### 〔宋〕陸 游

某官閣下: 君子之有文也,如日月之明,金石之聲,江海之濤瀾,虎豹之 炳蔚,必有是實,乃有是文。夫心之所養,發而爲言,言之所發,比而成文; 人之邪正,至觀其文則盡矣決矣,不可復隱矣。爝火不能爲日月之明,瓦釜不能爲金石之聲, 橫污不能爲江海之濤瀾, 犬羊不能爲虎豹之炳蔚; 而或謂庸人能以浮文眩世, 鳥有此理也哉? 使誠有之, 則所可眩者, 亦庸人耳。

某聞前輩以文知人,非必鉅篇大筆,苦心致力之詞也,殘章斷藁,憤觀 戲笑,所以娛憂而舒悲者,皆足知之。甚至於郵傳之題詠,親戚之書贖,軍 旅官府倉卒之間,符檄書判,類皆可以洞見其人之心術才能,與夫平生窮 達、壽夭。前知逆決,毫芒不失。如對綦枰而指白黑,如觀人面而見其目衡鼻 縱,不待思慮搜索而後得也。何其妙哉! 故善觀見錯者,不必待東市之誅, 然後知其刻深之殺身; 善觀平津侯者,不必待淮南之謀,然後知其阿諛之易 與。方發策決科時,其平生事業,已可望而知之矣。賢者之所養,動天地,開 金石,其胸中之妙,充實洋溢,而後發見於外,氣全力餘,中正閱博,是豈可 容一毫之僞於其間哉?

某束髮好文,才短識近,不足以望作者之藩籬,然知文之不容僞也,故 務重其身而養其氣。質賤流落,何所不有,而自信愈篤,自守愈堅,每以其 全自養,以其餘見之於文,文愈自喜,愈不合於世。夫欲以此求合於世,某 則愚矣。而世遂謂某終無所合,某亦不敢謂其言爲智也。……

中華書局排印本《陸游集·渭南文集》卷十三

# 江西宗派詩序凹

#### 〔宋〕楊萬里[2]

江西宗派詩者, 詩江西也, 人非皆江西也<sup>[3]</sup>。人非皆江西, 而詩曰江西者何? 繫之也。繫之者何? 以味不以形也。

東坡云:"江瑶柱似荔子。"又云:"杜詩似《太史公書》。"不惟當時聞者嘸然,陽應曰諾而已<sup>[4]</sup>,今猶嘸然也。非嘸然者之罪也,舍風味而論形似,故應嘸然也。形焉而已矣,高子勉不似二謝<sup>[5]</sup>,二謝不似三洪<sup>[6]</sup>,三洪不似徐師川<sup>[7]</sup>,師川不似陳後山<sup>[8]</sup>,而況似山谷乎? 味焉而已矣,酸鹹異和,山海異珍,而調腧<sup>[9]</sup>之妙,出乎一手也。似與不似,求之可也,遺之亦可也。

大抵公侯之家有閥閱, 豈惟公侯哉, 詩家亦然。窶人子崛起委巷, 一旦秆以銀黃<sup>[10]</sup>, 纓以端委<sup>[11]</sup>, 視之, 言公侯也, 貌公侯也。公侯則公侯乎爾, 遇王謝子弟<sup>[12]</sup>, 公侯乎? 江西之詩, 世俗之作, 知味者當能別之矣。

昔者詩人之詩,其來遙遙也。然唐云李、杜,宋言蘇、黃,將四家之外,舉無其人乎?門固有伐,業固有承也。雖然,四家者流,一其形,二其味,二其味,一其法者也。盍嘗觀夫列禦寇、楚靈均之所以行天下者乎?行地以輿,行波以舟,古也。而子列子獨御風而行,十有五日而後反,彼其於舟車,且烏乎待哉[13]!然則舟車可廢乎?靈均則不然,飮蘭之露,餐菊之英[14],去食乎哉!芙蓉其裳,寶璐其佩[15],去飾乎哉!乘吾桂舟,駕吾玉車[16],去器乎哉!然朝閬風,夕不周[17],出入乎宇宙之間,忽然耳,蓋有待乎舟車,而未始有待乎舟車者也。今夫四家者流,蘇似李,黃似杜;蘇、李之

詩,子列子之御風也; 杜、黃之詩,靈均之乘桂舟、駕玉車也。無待者神於詩者歟<sup>[18]</sup>? 有待而未嘗有待者<sup>[19]</sup>,聖於詩者歟? 嗟乎! 離神與聖,蘇、李,蘇、李乎爾! 杜、黄,杜、黄乎爾! 合神與聖,蘇、李不杜、黄,杜、黄不蘇、李乎? 然則詩可以易而言之哉?

秘閣修撰給事程公,以一世儒先<sup>[20]</sup>,厭直<sup>[21]</sup>而帥江西,以政新民,以學賦政。如春而肅,如秋而燠,蓋二年如一日也。迨暇則把酒賦詩,以黼黻乎翼軫<sup>[22]</sup>,而金玉乎落霞秋水<sup>[23]</sup>。嘗試登滕王閣<sup>[24]</sup>,望西山<sup>[25]</sup>,俯章江<sup>[28]</sup>,問雙井<sup>[27]</sup>,今無恙乎?因喟曰:江西宗派圖呂居仁所譜,而豫章自出也。而是派之鼻祖雲仍<sup>[28]</sup>,其詩往往放逸<sup>[29]</sup>,非闕歟? 於是以謝幼槃之孫源所刻石本,自山谷外,凡二十有五家,彙而刻之於學官,將以與廢西山章江之秀,激揚江西人物之美,鼓動騷人國風之盛。移書說<sup>[30]</sup>予曰:子江西人也,非乎?序斯文者,不在子其將焉在?予三辭不獲,則以所聞書之篇首云。淳熙甲辰<sup>[31]</sup>十月三日廬陵楊萬里序。

《四部襲刊》影宋鈔本《誠廢集》卷七十九

#### 【註釋】

[1]江西宗派詩——胡仔《苕溪漁隱叢話》前集: "呂居仁近時以詩得名,自言傳衣江西,幣作《宗派圖》,自豫章(黃庭堅)以降,列陳師道、潘大臨、謝逸、洪錫、饒節、信祖可、徐俯、洪朋、林敏修、洪炎、汪革、李錞、韓駒、李彭、晁沖之、江端本、楊符、謝邁、夏倪、林敏功、潘大觀、何觀、王直方、僧善權、高荷,合二十五人,以為法嗣,謂其源流皆出豫章也。"趙彥衞《雲麓漫鈔》,諸人皆載其字,曰: "宗派之祖曰山谷,其次陳師道無己、潘大臨邠老、謝逸無逸、洪朋龜父、洪錫駒父、饒節德操乃如壁也,祖可正平、徐俯師川、林(敏)修子仁、洪炎玉父、汪革信民、李錞希聲、韓駒子蒼、李彭商老、晁沖之叔用、江端本子之、楊符信祖、謝邁幼槃、夏倪均父、林敏功、潘大觀、王直方立之、善權巽中、高荷子勉,凡二十五人。居仁其一也。"惟林敏功潘大觀無字。《江西詩社宗派圖錄》所列呂居仁《江西詩

社宗派圖»,人數與《雲麓漫鈔》同,云是王應麟《小學紺珠》定本。《圖錄》載潘 大觀字仲達、林敏功字子仁、敏修字子來、菩權楊符無字。鮑廷博刊張泰來《圖 錄》劉克莊《江西詩派小序》於《知不足齋叢書》,據宋本《劉後村集》校,楊符作 揚符。《後村集》《江西詩派小序》之次第爲: 陳師道、韓駒、徐俯、潘大臨、三 洪、夏倪、二謝、二林、晁沖之、汪革、李彭、三僧、高荷、江端本、李錞、揚符、呂本 中。而總序云:"自山谷而下,凡二十六人,內何人表願、潘仲達大觀,有姓名而 無詩。存者凡二十四家,王直方詩絕少,無可采,餘二十三家,部帙稍多。"又 云:"派詩舊本,以東萊居后山上,非也。今以繼宗派,庶幾不失紫豫公(居仁) 末。據《叢話》所引最早材料,二十五人中有何觀,合山谷爲二十六人。居仁本 人,不自列於圖內。《漫鈔》去何覬而加入居仁,則以居仁之集,列于《江西宗派 **詩集》中之故。而後村《總序》則又有何顧而無何觀。《叢話》所列凡二十五人,** 合山谷居仁在內,則爲二十七人。陳振孫《直齊書錄解題》: "《江西詩派》一百 三十七卷,《檀派》十三卷。自黄山谷而下二十五家,又曾紘、曾思父子詩。"《宋 史·藝文志»: "呂本中《江西宗派詩集》一百十五卷, 曾紘《江西禮宗派詩集》二 卷。"二書著錄的卷數不同,怕不是一時所刻。沈曾植刊《江西詩派韓饒二集》, 序云:"據陳氏《解題》下稱詳詩集類,則詩集類自林敏功《高騰集》起,至江端本 《陳留集》止,所謂'皆入詩派'者,其次第當即詩派次第。綜其卷數,計林敏功 《高隱集》七卷,林敏修《無思集》四卷,潘大臨《柯山集》二卷,謝逸《溪堂集》五 卷、《補遺》二卷,樹邁《竹友集》七卷,李彭《日徙園集》十卷,洪朋《清虚集》一 卷,洪易《老圃集》一卷,洪炎《西渡集》一卷,韓駒《陵陽集》四卷、《別集》二卷, 高荷《還還集》二卷,徐俯《東湖集》三卷,呂本中《東萊集》二十卷、《外集》二卷, 晁沖之《具茨集》十卷,汪革《清溪集》一卷,饒節《倚松集》二卷,夏倪《遠遊堂 集》二卷,王直方《歸曳集》一卷,李醇《希擊集》一卷,楊符《楊信祖集》一卷,江 端本《陳留集》一卷,凡二十一家,九十一卷。益以別出之《山谷集》三十卷、《外 集》十一卷、《別集》二卷,《后山集》六卷、《外集》五卷,皆明言詩派者,已溢出一 百三十七卷之外。尚有祖可《瀑泉集》十三卷,善橏《眞騰集》三卷,都計合於後 村總序二十五家之數,而卷數則爲一百六十二卷矣。"今詩派詩集僅有殘本, 《四庫全書》所著錄的各家別集,除山谷、后山與東萊集外,僅有二謝、三洪、韓 駒、饒節、李彭諸集。晁沖之集,刊本五卷,海山仙館本十五卷,《四庫》未著錄。 其餘諸集,都失傳了。楊氏此文所序是呂本中所輯《江西宗派詩集》,至於《檀 派》詩, 楊氏别有序文。

- [2]楊萬里(公元一一二七年——一二〇六年)——字廷秀,號誠齋,吉永人。紹與二十四年進士,官至寶謨閣學士。有《誠齋集》一百三十三卷。《宋史》卷四百三十四《儒林》四有傳。
- [3] 入非皆江西也——按二十六人中陳師道彭城人,潘大臨、潘大觀黃岡人,祖可丹陽人,林敏功、林敏修蕲春人,韓剛蜀之清井監人,吳沖之鉅野人,夏倪蕲州人,王直方開封人,高荷荆南人,吕本中壽春人,李錞、楊符未詳,其餘爲江西人。
- [4] 東坡云六句——《苕溪漁隱叢話前集》: "東坡云: 僕嘗問荔支何所似? 或曰: 荔支似龍眼。坐客皆笑其陋, 荔支實無所似也。僕云: 荔支似江瑤柱。應者皆噍然, 僕亦不辨。昨日見畢仲游, 僕問: 杜甫似何人? 仲游言似司馬遷。僕喜而不答, 蓋與養言會也。"《太史公書》即《史記》。《漢書·韓彭英盧吳傳》: "諸將皆噍然, 陽應曰諾。"顏師古注: "孟康曰: 噍, 音撫, 不精明也。"
- [5] 高子勉不似二謝——高子勉,名荷,荆南人。官蘭州通判。五言學杜甫,為黄 庭堅所賞譽。謝逸,字無逸,臨川人,布衣。從弟邁,字幼槃,自號竹友,以詩文 與逸齊名,時稱二謝。
- [6]三洪——洪朋,字龜父,豫章人。舉郡試第一。弟獨,字駒父,進士,官諫議大夫。炎,字玉父,元祐末登第,官著作秘書少監。三洪爲黃庭堅之甥。
- [7]徐師川——名俯,分寧人。紹興初,賜進士出身,官至端明殿學士,權參知政 事。黃庭堅之甥。
- [8]陳後山(公元一〇五三年——一〇二年)——名師道,字無己,一字履常,彭城人。官秘書省正字。方回《鷹奎律髓》列爲江西詩派三宗之一。
- [9] 胹-----煮。
- [10] 新以銀黃——銀黃,銀印與黃金印。印必有組綬,故云新以銀黃。
- [11] 纓以端委——纓是冠帶。端委是禮衣。《左傳·哀公七年》正義引王肅說,則以委爲冠。本文稱"纓以端委",則當作冠解。
- [12] 王謝子弟——東晉王、謝二家是大貴族。前人謂王、謝子弟,雖不端正者,亦奕 奕有一種風致。
- [13] 于列于獨御風而行四句——《莊子·逍遙遊》: "夫列子御風而行,冷然善也。旬有五日而後反。……此雖免乎行,猶有所待者也。若夫乘天地之正,而御六氣之辯,以遊無窮者,彼且惡乎待哉。"
- [14] 飲蘭之鷹二句——《楚辭·離騷》:"朝飲木蘭之墜露兮,夕餐秋凘之落英。"
- [15] 芙蓉其裳二句——《楚辭·離騷》:"集芙蓉以爲裳。"《楚辭·九章·涉江》:"弦

明月号佩寶璐。"

- [16] 乘吾桂舟二句——《楚辭·九歌·湘君》:"沛吾乘兮桂舟。"《楚辭·離縣》:"屯 余車其千乘兮,齊玉軟(車輪)而並馳。"
- [17] 朝閩風夕不周——《楚辭·離騷》:"朝吾將濟於白水兮,登閩風而裸馬。""路不 周以左轉兮,指西海以爲期。"閩風,不周,都是神話中的山名,在崑崙。
- [18] 無待者神於詩者數——無待,謂無待於法。
- [19] 有待而未管有待者——謂有法而能神明於法之外。
- [20] 儒先——先,即先生。
- [21] 厭直——古代侍從之臣,直宿內廷。厭直謂倦作侍從之官。
- [22]以黼黻乎翼軫——翼軫,二十八宿之星名。翼宿爲南方朱鳥七宿之第六宿,軫宿爲朱鳥七宿之末宿。王勃《秋日登洪府滕王閣餞別序》:"南昌故郡,洪都新府,星分翼軫,地接衡廬。"《太平寰宇記》:"《史記·天官》云:'翼軫爲楚分。'"《元和郡縣圖志》:"洪州·····春秋時楚之東境。"故道裏用翼軫作江西之代稱。黼黻乎翼軫,猶言藻繪江西山水。
- [23] 金玉乎落霞秋水——金聲玉振,用以指文學,並轉作動詞用。落霞秋水,謂江 西的美麗風光。王勃《秋日登洪府滕王閣餞別序》:"落霞與孤鶩齊飛,秋水共 長天一色。"
- [24] 滕王閣——唐宋時,閣在江西新建縣西章江門上,唐滕王李元嬰都督洪州時 所建。
- [25] 西山——在南昌城西三十里。
- [26] 章江——一名南江,源出江西省崇義縣聶都山,東流會貢水,即爲赣江。流經 南昌城西章江門外。
- [27] 雙井——在江西省修水縣西三十一里,黃庭堅曾居於此,故世以雙井稱庭堅。
- [28] 鼻祖——始祖。雲仍——《爾雅·釋親》: "異孫之子爲仍孫,仍孫之子爲雲孫。"
- [29] 放逸——散失。
- [30] 12 一告。
- [31] 淳熙甲辰——淳熙爲宋孝宗年號,自公元——七四年至一一八九年。甲辰爲 淳熙十一年,是年楊萬里五十八歲。

#### 【説明】

詩文之有宗派,是伴隨着文統觀念的形成而來的。唐人孫

樵《與友人論文書》自言:"管得爲文之道於來公無擇,來公無擇 得之皇甫公持正,皇甫持正得之韓先生退之。"這隱然是在標榜 古文的三宗了。張爲作《詩人主客圖》,以白居易等六人列爲不 同的宗主,每一主下有升堂、入室、及門等不同等第的客。清人 李調元指出:"宋人詩派之說,實本於此。"(李調元《詩人主客圖 序》)至於正式提出宗派之名,則始於宋代的江西詩派。江西詩派 以黄庭堅爲不祧之宗,但在庭堅當時,還沒有出現詩派名目。庭 堅詩有特殊的風格,並提出做詩的綱領,受他影響的人無形中說 演成一種流派,所以到北宋末期,呂本中把這些詩人羅列一起, 寫成《江西詩社宗派圖》,又有《江西詩派詩集》的編刊。宗派圖 所列二十五人, 並沒有包羅當時所有江西詩派的詩人在內, 例如 本中同時的曾幾,方回尊之爲江西派三宗之一的陳與義,都未列 入。而被列入的詩人如韓駒却又不樂於入派。因此胡仔、劉克 莊諸人先後對呂氏的去取, 曾致異議。但從總的情况看, 江西詩 派的特殊詩風,畢竟是當時已經形成的客觀事實。詩派圖所列 各家,基本上具有共同的創作傾向。本中作圖,並不完全出於標 榜聲氣。

南宋著名的四大詩人尤(袤)、楊(萬里)、范(成大)、陸(游),都是從江西派入手而最終越出了江西派界限的。楊萬里在《献齋江湖集序》中說: "余少作有詩千餘篇,至紹興壬午七月皆焚之,大概江西體也。"在《献齋荆溪集序》中說: "予之詩始學江西諸君子,既又學後山五字律,既又學半山七字絕句,晚乃學絕句於唐人。……戊戌三朝時節,賜告,少公事,是日卽作詩,忽若有悟,於是辭謝唐人及王、陳、江西諸君子,皆不敢學,而後於如也。"(這裏,楊氏把後山區別於江西諸君子之外,是其所謂江西諸君子者,乃指山谷及三洪等人而言。)但如果認爲楊氏與江西派已完全絕緣,也不盡然。他六十歲以後,還增補呂本中的《宗派圖》爲《江

西續派》,比江西派於南宗禪, 認為是詩中最高境界(見楊氏《江西續派二曾居士詩集序》及《送分寧主簿羅龍材秩滿入京》), 並且為江西派的總集寫下了這篇序。

在這篇序文中,楊氏認爲理解江西派詩的特色,應求之於江 西派詩共同的法,應求之於風味而不是求之於形貌。他以"酸鹹 異和, 山海異珍, 而調胹之妙, 出乎一手"來比喻"二其味, 一其 法"的法。江西詩派的法是怎樣的法?序文沒有明言,但我們還是 可以指出的,那就是呂本中所說的活法(見《夏均父集序》)。用 楊萬里自己的話來說,也正是"問儂佳句如何法,無法無盂也沒 衣"(《酹閣皂山碧厓道士甘叔懷贈十古風》)。正因爲江西詩人 共同遵循的法是活法, 所以他們在形貌上雖然同學杜甫, 但又各 具獨特的風味。如黃庭堅的兀傲,陳師道的樸摯,風味兩不相 同。但楊氏又說:"江西之詩,世俗之作,知味者當能別之。"則江 西詩人的風味,旣有不同之點,又有共同之點。共同之點,在於 求生避熟,蘇軾《書黃魯直詩後》稱:"魯直詩文如蝤蛑江瑤柱,格 韻高絕,盤飧盡廢。"(《東坡題跋》)清人姚鼐稱庭堅詩"兀傲磊落 之氣,足與古今作俗詩者澡濯胸胃,導啓性靈"。又謂其似"不食 煙火人語"(俱見《今體詩鈔》)。評論的對象雖是庭堅,但江西 派詩基本上具有這些共同的風味。楊氏以江西詩與世俗之作對 舉,正透示給我們以這個消息。

本文在分析了江西派詩的藝術特點以後,接着提出了李、蘇 與杜、黃二派詩的同異論,李、蘇是"無待者神於詩者",杜、黃 是"有待而未嘗有待者"的"聖於詩者"。這也就是有法而無法論 的注脚。

儘管江西派詩人高談活法,但在他們的創作實踐中,由奪胎換骨而流於"刃傷事主"的作風,仍然存在。呂本中的《東萊詩集》就有摹擬黃庭堅的痕迹。在江西詩派流弊已經顯著的南宋

初期,楊萬里終於入室操戈,另闢了一個途徑。同時尤、范、陸與姜夔也是如此。本文所論,雖然限於純藝術的範疇,但對江西末派的頹風來說,是起着一定的針砭作用的。

# 附 錄

# 立春日有懷二首(共二)

#### 〔宋〕楊萬里

玉堂着句轉春風,諸老從前亦寓忠。誰爲君王供帖子,丁寧綺語不須工。

《四部費刊》影宋鈔本《誠寮集》卷一

#### 和李天麟二首

#### 〔宋〕楊萬里

學詩須透脫,信手自孤高。衣鉢無千古,丘山只一毛。句中池有草,字外目俱蒿。可口端何似,霜螯略帶糟。

句法天難祕,工夫子但加。多時且柏樹, 悟罷豈桃花?要共東西玉, 其如南北涯! 肯來談箇事? 分坐白鷗沙。

《四部叢刊》影宋鈔本《誠齋集》卷四

#### 和段季承左藏惠四絕句

#### [宋] 楊萬里

箇箇詩家各築壇,一家橫割一江山。祗知輕薄唐將晚,更解攀翻晉·398·

以還!

遮莫蟠胸曹似山,更饒落筆語如泉。陰何絕倒無人怨,却怨渠儂祕不傳。

道是詩壇萬丈高,端能辨(疑爲"辨"之訛)却一生勞。阿誰不識珠和玉? 若箇關渠風更騷。

四詩贈我儘新奇,萬象從君聽指麾。流水落花春寂寞,小風淡日燕差池。

《四部費刊》影宋鈔本《誠齋集》卷二十四

# 讀詩

#### 〔宋〕楊萬里

船中活計只詩編,讚了唐詩讀半山。不是老夫朝不食,半山絕句當早餐。

《四部叢刊》影宋鈔本《誠齋集》卷三十一

# 答徐子材談絕句

#### 〔宋〕楊萬里

受業初參且半山,終須投換晚唐間。《國風》此去無多子,關**族**挑來祗等閑。

《四部叢刊》影宋鈔本《誠齋集》卷三十五

# 誠齋荆溪集序

#### 〔宋〕楊萬里

予之詩,始學江西諸君子,旣又學後山五字律,旣又學半山老人七字絕

句,晚乃學絕句於唐人,學之愈力,作之愈寡。嘗與林謙之屢歎之。謙之云: 擇之之精,得之之艱,又欲作之之不寡乎? 予喟曰: 詩人蓋異病而同源也,獨予乎哉!

故自淳熙丁酉之春上壁壬午止,有詩五百八十二首,其寡蓋如此。其 夏之官荆溪,旣抵官下,閱訟牒,理邦賦,惟朱墨之爲親,詩意時往目(疑爲 日之形訛)來於予懷,欲作未暇也。戊戌三朝時節,賜告,少公事,是日卽作 詩,忽若有寤,於是辭謝唐人及王、陳、江西諸君子,皆不敢學,而後於如也。 試令兒輩操筆,予口占數首,則瀏瀏焉無復前日之車軋矣。自此每過午,吏 散庭空,卽攜一便面,步後園,登古城,採擷杞菊,攀翻花竹,萬象畢來,獻予 詩材,蓋疃之不去,前者未歸,而後者已迫,渙然未覺作詩之難也。蓋詩人 之病,去體將有日矣。方是時,不惟未覺作詩之難,亦未覺作州之難也。

明年二月晦,代者至,予合符而去,試彙其稿,凡十有四月,而得詩四百九十二首,予亦未敢出以示人也。今年備官公府掾,故人鍾君將之自淮水,移曹於予曰:荆溪比易守,前日作州之無難者,今難十倍不啻。子荆溪之詩,未可以出敷?予一笑抄以寄之云。淳熙丁未四月三日,廬陵楊萬里廷秀序。

《四部義刊》影宋鈔本《誠齊集》卷八十

# 唐李推官披沙集序

#### 〔宋〕楊萬里

予生百無所好,而顧獨尤好文詞,如好好色也;至於好詩,又好文詞中之尤者也;至於好晉、唐人之詩,又好詩之尤者也。予於天下士大夫家及入三館,傳唐詩數百家,多至百千篇,寡至一二篇,自謂三百年間,奇環(疑為"褒"之訛)詭寶,略無遺矣。晚識李兼孟達於金陵,出唐人詩一編,乃其八世祖推官公《抄沙集》也。如"見後却無語,別來長獨愁",如"危城三面水,古樹一邊春",如"月明千嶠雪,凝急五更風",如"煙殘偏有焰,雪甚却無聲",如"春雨有五色,遷來花旋成",如"雲藏山色晴還媚,風約溪聲靜又回",如"未醉已知醒後憶,欲開先為落時愁":蓋征人豪苦之情,孤愁窈眇之

聲,騷客婉約之鹽,風物榮悴之英,所謂周禮盡在魯矣! 讀之使人發融冶之 職於荒寒無聊之中,動慘戚之感於笑談方懌之初,《國風》之遺音,江左之異 曲,其果弦絕而不可煎廖歟? 然則謂唐人自李、杜之後有不能詩之士者,是 曹丕火浣之論也;謂詩至晚唐有不工之作者,是桓靈寶哀梨之論也。或曰: 推官之詩,子能辨之; 子之言將使誰辨之? 曰: 嗟乎! 後世有曹丕無靈寶, 推官公其已矣。予則有憂也。不然,推官公其已乎? 予何憂哉! 推官公諱 咸用,唐末人也。孟達請予序之。後二年,乃能書以寄之。孟達亦能詩,殊 有推官公句法云。紹熙四年十一月旣望,誠齋野客廬陵楊萬里序。

《四部聲刊》影宋鈔本《誠齊集》卷八十一

#### 頤庵詩稿序(節錄)

#### 〔宋〕楊萬里

夫詩,何爲者也? 尙其詞而已矣。曰: 善詩者去詞。然則尙其意而已矣?曰: 善詩者去意。然則去詞去意,則詩安在乎?曰: 去詞去意,而詩有在矣。然則詩果焉在?曰: 嘗食夫飴與荼乎?人孰不飴之嗜也,初而甘,卒而酸;至於荼也,人病其苦也,然苦未旣,而不勝其甘。詩亦如是而已矣。昔者暴公醫蘇公,而蘇公刺之,今求其詩,無刺之之詞,亦不見刺之之意也。乃曰: "二人從行,誰爲此禍?"使暴公聞之,未嘗指我也,然非我其誰哉?外不敢怒,而其中媿死矣。《三百篇》之後,此昧絕矣,惟晚唐諸子差近之。《寄邊衣》曰: "寄到玉關應萬里,戍人猶在玉關西。"《弔戰場》曰: "可憐無定河邊骨,猶是春閨夢裏人。"《折楊柳》曰: "差笛何須怨楊柳,春光不度玉門關。"《三百篇》之遺味,黯然猶存也。近世惟半山老人得之。予不足以知之,予敢言之哉?……

《四部幾刊》影宋鈔本《誠齋集》卷八十三

# 詩 論(節錄)

#### 〔宋〕楊萬里

論曰: 天下之善不善,聖人視之甚徐而甚迫,甚徐而甚迫者,導其善者以之於道,矯其不善者以復於道也。宜徐而追,天下之善始惑;宜迫而徐,天下之不善始逋。蓋逋因於莫之矯,而惑起於莫之導。善而莫之導,是謂窒善;不善而莫之矯,是謂開不善。聖人反是:徐其所不宜迫,而迫其所不宜徐。經之自《易》而《書》,非不備也,然皆所以徐天下者也。啓其扃,聽其入,坦其軌,縱其馳,入也,馳也,——否也,聖人油然不之責也。天下皆善乎?天下不能皆善,則不善亦可導乎?聖人之徐,於是變而爲追,非樂於追也,欲不變而不得也。迫之者,矯之也,是故有《詩》焉。《詩》也者,矯天下之具也。而或者曰:聖人之道,《禮》嚴而《詩》寬。嗟呼,執知《禮》之嚴爲嚴之寬,《詩》之寬爲寬之嚴也歟?蓋聖人將有以矯天下,必先有以鈎天下之至情,得其至情而隨以矯,夫安得不從。蓋天下之至情,矯生於媿,媿生於衆,媿非議則安,議非衆則私,安則不媿其媿,私則反議其議。聖人不使天下不媿其塊、反議其議也,於是舉衆以議之,舉議以媿之,則天下之不善者不得不媿。媿斯矯,矯斯復,復斯善矣,此《詩》之教也,詩果寬乎?聳乎其必费,而斷乎其必不恕也,詩果不嚴乎?……

《四部叢刊》影宋鈔本《誠齊集》卷八十四

#### 白石道人詩集自序

#### 〔宋〕姜 夔

詩本無體,《三百篇》皆天籟自鳴,下逮黃初,迄於今人,異韞故所出亦異。或者弗省,遂豔其各有體也。

近過梁谿,見尤延之先生,問余詩自誰氏。余對以異時泛閱衆作,已而·402·

病其駮如也,三黨三沐,師黃太史氏。居數年,一語噤不敢吐,始大悟學卽病,顧不若無所學之爲得,雖黃詩亦偃然髙閣矣。先生因爲余言:"近世人士喜宗江西。溫潤有如范致能者乎,痛快有如楊廷秀者乎? 髙古如蕭東夫,俊逸如陸務觀,是皆自出機軸,亶有可觀者。又奚以江西爲?"

余曰: 誠齋之說政爾, 昔聞其歷數作者, 亦無出諸公右, 特不肯自屈一指耳。雖然諸公之作, 殆方圓曲直之不相似, 則其所許可, 亦可知矣。余識千巖於瀟、湘之上, 東來識誠齋、石湖, 嘗試論茲事, 而諸公咸謂其與我合也。豈見其合者而遺其不合者耶? 抑不合乃所以爲合耶? 抑亦欲俎豆余於作者之間, 而姑謂其合耶? 不然, 何其合者衆也? 余又自唶曰: 余之詩, 余之詩耳, 寬居而野處, 用是陶寫寂寞則可, 必欲其步武作者, 以釣能詩聲, 不惟不可, 亦不敢。

《四部叢刊》影江都陸氏校刻本《白石道人詩集》

# 白石道人詩說(選錄)

#### 〔宋〕姜 夔

大凡詩自有氣象、體面、血脈、韻度,氣象欲其渾厚,其失也俗;體面欲其宏大,其失也狂;血脈欲其貫串,其失也露;韻度欲其飄逸,其失也輕。

詩之不工,只是不精思耳;不思而作,雖多亦奚為?

雕刻傷氣,敷衍露骨。若鄙而不精巧,是不雕刻之過; 拙而無委曲,是不敷衍之過。

人所易言,我寡言之,人所難言,我易言之,自不俗。

難說處一語而盡,易說處莫便放過。僻事實用,熱事虛用。說理要簡切,說事要圓活,說景要微妙。多看自知,多作自好矣。

小詩精深,短章蘊藉,大篇有開闔乃妙。

不知詩病,何由能詩,不觀詩法,何由知病。名家者各有一病,大醇小班差可耳。

詩有出於風者,出於雅者,出於頌者。屈原之文,風出也;韓、柳之詩,雅出也;杜子美獨能兼之。

陶淵明天**資旣高**,趣旨又遠,故其詩散而莊,澹而腴,斷不容作邯鄲步也。

語費含蓄。東坡云"言有盡而意無窮"者,天下之至言也。山谷尤謹於此,清廟之瑟,一唱三歎,遠矣哉!後之學詩者,可不務乎?若句中無餘字,篇中無長語,非善之善者也。句中有餘味,篇中有餘意,善之善者也。

波瀾開闔,如在江湖中,一波未平,一波已作。如兵家之陣,方以爲正, 又復是奇,方以爲奇,忽復是正。出入變化,不可紀極,而法度不可亂。

文以文而工,不以文而妙,然舍文無妙,勝處要自悟。

意格欲高,句法欲響,只求工於句字,亦末矣。故始於意格,成於句字。句意欲深欲遠,句調欲清欲古欲和,是爲作者。

時有四種高妙,一曰理高妙,二曰意高妙,三曰想高妙,四曰自然高妙。 礙而實通,曰理高妙;出自意外,曰意高妙;寫出幽微,如清潭見底,曰想高妙;非奇非怪,剝落文朵,知其妙而不知其所以妙,曰自然高妙。

一篇全在尾句,如截犇馬。詞意俱盡,如臨水送將歸是已。意盡詞不盡,如摶扶搖是已。詞盡意不盡,剡溪歸棹是已。詞意俱不盡,溫伯雪于是已。所謂詞意俱盡者,急流中載後語,非謂詞寫理盡者也。所謂意盡詞不

盡者,意盡於未當盡處,則詞可以不盡矣,非以長語益之者也。至如詞盡意 不盡者,非遺意也,辭中已彷彿可見矣。詞意俱不盡者,不盡之中,固已深 盡之矣。

一家之語,自有一家之風味,如樂之二十四調,各有韻聲,乃是歸宿處。 模倣者語雖似之,韻亦無矣,雞林其可欺哉?

《歷代詩話》本《白石道人詩說》

# 答楊宋卿

# [朱]朱熹[1]

前辱柬手啓一通,及所為詩一編,吟諷累日,不忍去手,足下之賜甚厚。吏事匆匆,報謝不時,足下勿過。

熹聞詩者,志之所之,在心為志,發言為詩,然則詩者,豈復有工拙哉?亦視其志之所向者高下如何耳。是以古之君子,德足以求其志<sup>[2]</sup>,必出於高明純一之地<sup>[3]</sup>,其於詩固不學而能之。

至於格律之精粗,用韻屬對比事遺辭之善否,今以魏、晉以前諸賢之作考之,蓋未有用意於其間者,而況於古詩之流乎? 近世作者,乃始留情於此,故詩有工拙之論,而施藻之詞勝,言志之功隱矣。

熹不能詩,而聞其說如此,怎以報足下意,姑道一二。盛編再拜封納,並以爲謝。

《四部叢刊》影明本《晦庵先生朱文公文集》卷三十九

#### 【註釋】

- [1]朱熹(公元一一三〇年——一二〇〇年)——字元晦,一字仲晦,徽州婺源人。 紹興十八年進士,官至華文閣待制,諡曰文。後人稱周敦碩、程顥、程碩、張载 及熹爲宋五子。熹著作極多,影響較大的是《四書集註》《詩集傳》《楚辭集注》 《韓文考異》等,自爲詩文則有《晦庵先生朱文公集》一百卷、《續集》十一卷、《別 集》十卷。《宋史》卷四百二十九《道學傳》有傳。
- [2] 求其志---《論語·季氏》:"隱居以求其志。"
- [3]高明純一之地——指人之德性。《左傳·文公五年》: "高明柔克。"孔穎達《正義》: "高明,謂人性之高亢明爽也。"純,義同"一",見《淮南子·覽冥訓》高誘

注。純一,指其性至純,不雜它念。

#### 【説明】

宋代道學家中喜談文學的是朱熹。這篇《與楊宋卿書》提出了兩個問題:一,衡量一個詩人,主要是看他所言的志。志之所向者高,則詩格自高,所以德足以求其志,而詩可不學而能。二, 詞華和聲韻格律的講求,是魏、晉以後的事,而魏、晉以前儘多好詩,因此這方面的工與拙,不能成爲評價詩歌的標準和尺度。這對信是朱熹詩論的論綱,印證其它有關資料,便可得到具體的闡釋。

"詩言志",本是句老話,但對志的理解以及如何言志,則意見極爲紛歧。朱熹之所謂志,主要是就道德的修養而言的。《詩集傳序》說,"察之性情隱微之間,審之言行樞機之始",這已涉及到心性方面的問題了。《答鞏仲至》書中又強調"忠信所以進德",修辭以"立誠"爲先,把"正心""誠意"的功夫,看作詩文的先決條件。所以說:"今人不去講義理,只去學詩文,已落得第二義。"(見《淸邃閣論詩》)

強調"修辭立其誠",所以朱熹反對文學的虛偽性。他指出 漢代擬《騷》之作,"詞氣平緩,意不深切",乃是由於缺乏眞情實 咸,"如無所疾痛,而強為呻吟"的緣故(見《楚辭辯證》)。他於平 淡之外,看出了陶詩豪放的一面;並且認為"隱者多是帶氣負性之 人為之",陶詩的豪放是寓於平淡之中,"但豪放來得不覺耳"(見 《清邃閣論詩》)。這種地方,正可看出他"察之性情隱微之際"的 識力。

朱熹把詩歌的發展,劃成了三個階段,其第三個階段正是律 詩確立的時期。他認為"至律詩出,而後詩之與法始皆大變"。大 約他論詩主張"平淡自攝",主張雍容和緩,主張自然渾成而有蘊 藉,所以人為的格律聲韻,在他看來,自然是一種必須解脫的桎梏。他之所以力詆蘇、黃,正由於"蘇才豪,然一袞說盡,無餘意, 黃費安排"。這說明朱熹的文學思想,帶有濃厚的復古色彩,以道學家的"義理"為第一義,持論不免過偏;然而在具體地評述作家和作品時,却不乏獨到之見。

#### 附錄

# 上趙漕書

#### [朱] 朱 松

某少賤貧,進不能操十百之金,貿易取貨,以長雄一鄉; 退不能求百畝 之田,於長山大谷之中,躬耕以爲養; 反顧其家,四壁蕭然,溝壑之憂,近在 朝夕,途窮勢迫,計無所出。乃始挾書操筆,學爲世俗所謂舉子場屋之文 者,其言決裂繁碎,支離曼衍,而不宿於道,無用而可笑,不待詳說可知也。 旣冠,試禮部,始得脫去。當是時,年少豪銳之氣,方俯一世而眇萬物,向非 有禮義法律羈束於其後先,必且追隨一時之俠,揮金使酒,馳騁而嘯呼,以 自快其意而後已。惟其不得騁,故斂其使氣以玩世者,而一寓於詩。

蓋嘗以爲學詩者,必探蹟六經,以浚其源;歷觀古今,以益其波;玩物化之無極,以窮其變;窺古今之步趨,以律其度。雖知其然而病未能也。竊嘗數夫自詩人以來,莫盛於唐,讚其詩者,皆粲然可喜,而考其平生,鮮有軌於大道而厭足人意者,其甚者,曾與閶閻兒童之見無以異。此風也,至唐之季年而尤劇,使人鄙厭其文,惟恐持去之不速。

夫詩自二南以降,三百餘篇,先儒以爲二南周公所述,用之鄉人邦國, 以風動一世,其餘出於一時公卿大夫與夫間巷匹夫匹婦之所作,其辭抑揚 反復,蹈厲頓挫,極道其憂思佚樂之致,而率歸之於正。聖人以是爲先王之 餘澤,猶可見其髣髴,足以聳動天下後世,故刪而存之。至今列於六經,焯 乎如日月。春秋之世,列國君臣相與宴享朝聘,以修先君之好,往往賦古人 詩,以自見其意,觀時稱情,必當其物,不然,有君賦之而臣不拜,其謹且嚴如此。而晉、鄭垂隴之會,鄭之諸卿,皆賦詩以屬趙孟,而叔向因以知其存亡與衰之先後,其言之驗,若合符然。蓋心者,禍福之機也,心取是詩而口賦之,雖吉凶未見於前,而神者先受之矣。至漢蘇、李,渾然天成,去古未遠。魏、晉以降,迨及江左,雖已不復古人制作之本意,然淸新宮麗,亦各名家,而皆蕭然有拔俗之韻,至今讀之,使人有世表意。唐李、杜出,而古今詩人皆廢。自是而後,賤儒小生,膏吻鼓舌,决章裂句,青黃相配,組繡錯出,鷄年沒齒,求以名家,惴惴然恐天下之有軋己以取名者。至其甚者,恃才以犯上,罵坐以貽譴,擯斥顚沛,足跡相及,此何爲者邪?

管聞之夫子曰: "詩三百,一言以蔽之,曰:思無邪。"嗟夫,聖人之意,其可思而知也。夫王者正心誠意於一堂之上,而四海之遠,以教則化,以綏則來,以討則服。與夫僖公牧於魯野,而其馬皆有可用之姿,蓋本一道。而詩三百之意,聖人取一言以盡之,乃在於此。後之學者,不深惟古人述作之旨,而欲以區區者自名曰詩,誠可憫笑。

某也何足以議此,徒以少日嗜好之篤,學之而不至也。深惟學將求媲於古人,不本是求,而唯末之齊,亦見其勞而無功矣。恭惟執事高文奧學,標準一世,其主盟吾道,推穀後進,蓋有先世之遺風,方持使者節,控引一路,微勞末技,日效於前,以希奨拔。而某以菽水之意,竊祿僻邑,未嘗得拜伏於下風。得於傳聞,不肖名氏似嘗掛齒牙之餘論,得無有稱道少日率爾之作以欺執事者乎?篆刻可悔,方竊自毒,雖知唐詩人之區區者爲可笑,而求以庶幾夫聖人之意,此非執事,將安所質之?竊觀執事大筆餘波,溢爲章句,句法峻潔,而思致有餘,此正如韓愈雖以爲餘事,而瑰奇高妙,固已超軼一時矣。非深得夫聖人所取於詩之意,與夫古今述作之大旨,其孰能至此?

某願聞一二焉。故輒料理十數年所學爲古律詩五七言若干篇,繕寫塵獻,醫諸博弈,或可以奉公退之一笑。昔宋廣平之沈下僚也,蘇味道爲綉衣直指使者,一日,見廣平《梅花賦》,驟稱於朝,始爲聞人。且廣平宏毅開濟之姿,雖其未達,宜已表世而傑出,豈其屑屑於一賦,以求知於人。而味道於此,亦復捨其大而稱其細。豈非蘊諸中者,必逢時而遭變而後見;強聒而自鬻者, 君子之所賤;而文字之美,可一見而決以爲階乎? 廣平則某豈敢

議,然執事望臨一時,四方之士希一言以軒輊於世,則其區區自獻,而有望 於門下者,亦士之常分,而君子之所恕也。文凡逾(原作職, 誤)僧今之君 子,或有所不容,若夫古人上下相求之義,非執事誰望耶? 賤職自縻,未由 面請願誨,惴慄俟命。

《四部叢刊》影明本《草齋集》卷九

# 答 鞏 仲 至(節錄) [宋] 朱 熹

……抑又聞之,古之聖賢所以教人,不過使之講明天下之義理,以開發其心之知識,然後力行固守,以終其身。而凡其見之言論,措之事業者,莫不由是以出,初非此外別有歧路可施功力,以致文字之華靡,事業之恢宏也。故《易》之《文言》,於《乾》九三實明學之始終,而其所謂忠信所以進德者,欲吾之心實明是理,而眞好惡之,若其好好色而惡惡臭也。所謂修辭立誠以居業者,欲吾之邁夫所發以致其實,而尤先於言語之易放而難收也。其曰修辭,豈作文之謂哉?今或者以修辭名左右之齋,吾固未知其所謂,然設若盡如《文言》之本指,則猶恐此事當在忠信進德之後,而未可以遽及。若如或者賦詩之所詠歎,則恐其於乾乾夕惕之意,又益遠而不相似也。鄙意於此,深有所不能無疑者,今雖不敢承命以爲記,然念此事於人所關不細,有不可以不之講者,故敢私以爲請,幸試思之,而還以一言判其是非焉。

至於佳篇之貺,則意益厚矣。顧惟頓挫於此,豈敢有所與,三復以還,但知贊軟而已。然因此偶記頃年學道未能專一之時,亦嘗間考詩之原委,因知古今之詩,凡有三變。蓋自書傳所記,虞、夏以來,下及魏、晉,自爲一等。自營、宋間顏、謝以後,下及唐初,自爲一等。自沈、宋以後,定著律詩,下及今日,又爲一等。然自唐初以前,其爲詩者,固有高下,而法猶未變;至律詩出,而後詩之與法始皆大變,以至今日,益巧益密,而無復古人之風矣。故嘗妄欲抄取經史諸書所載韻語,下及《文選》、漢、魏古詞,以盡乎郭景純、陶淵明之所作,自爲一編,而附於《三百篇》、《楚辭》之後,以爲詩之根本準則。又於其下二等之中,擇其近於古者,各爲一編,以爲之羽翼與衞。

(原注:且以李、杜言之,則如李之《古風》五十首,杜之秦、蜀紀行、《遣興》 《出塞》《潼關》《石濠》《夏日》《夏夜》諸篇。律詩則如王維、章應物輩,亦自 有蕭散之趣,未至如今日之細碎卑冗,無餘昧也。)其不合者,則悉去之,不 使其接於吾之耳目,而入於吾之胸夾,要使方寸之中無一字世俗言語意思, 則其爲詩,不期於高遠而自高遠矣。然顧爲學之務,有急於此者,亦復自知 材力短弱,決不能追古人而與之並,遂悉棄去,不能復爲。況今老病,百念 休歇,寧尙復語此乎? 然感左右見顧之重,若以爲可語此者,故聊復言之, 恐或可以少助百尺竿頭更進一步之勢也。

來喻所云"漱六藝之芳潤,以求眞澹",此誠極至之論。然恐亦須先證得古今體制,雅俗鄉背,仍更洗滌得盡腸胃間夙生葷血脂膏,然後此語方有所措;如其未然,竊恐穢濁爲主,芳潤入不得也。近世詩人,正緣不會透得此關,而規規於近局,故其所就,皆不滿人意,無足深論。然旣就其中而論之,則又互有短長,不可一概抑此伸彼。況權度未審,其所去取,又或未能盡合天下之公也。此說甚長,非書可究,他時或得面論,庶幾可盡。但恐彼時且要結絕修辭公案,無暇可及此耳。記文甚健,說盡事理,但恐亦當更考歐、會遺法,料簡刮摩,使其清明峻潔之中,自有雍容俯仰之態,則其傳當愈遠,而使人愈無遺憾矣。僭易併及,愧悚之深,不審明者於意云何?亦幸有以反覆之也。……

《四部叢刊》影明本《晦庵先生朱文公文集》卷六十四

#### 淸邃閣論詩(選錄)

#### 〔宋〕朱 熹

作詩間以數句適懷亦不妨,但不用多作,蓋便是陷溺爾。當其不應事時,平淡自攝,豈不勝如思量詩句。至其眞味發溢,又却與尋常好吟者不同。

古詩須看西晉以前,如樂府諸作皆佳。杜陵夔州以前詩佳,夔州以後自出規模,不可學。蘇、黃只是今人詩,蘇才豪,然一袞說盡,無餘意,黃費

安排。

齊、梁間人詩, 讀之使人四肢懶慢, 不收拾。

李太白詩,不專是豪放,亦有雍容和緩底,如首篇"大雅久不作",多少和緩。陶淵明詩,人皆說是平淡,據某看,他自豪放,但豪放來得不覺耳。 其露出本相者,是《詠荆軻》一篇,平淡底人,如何說得遺樣言語出來。

杜詩初年甚精細,晚年橫逆不可當,只意到處便押一箇韻。如自秦州 入蜀諸詩,分明如畫,乃其少作也。李太白詩,非無法度,乃從容於法度之 中,蓋聖於詩者也。《古風》兩卷,多效陳子昂,亦有全用其句處。太白去子 昂不遠,其奪慕之如此。然多爲人所亂,有一篇分爲三篇者,有二篇合爲一 篇者。

人多說子美變州詩好,此不可曉,魯直一時固自有所見,今人只覺魯直 說好,便却說好,如矮人看場耳。問:韓退之潮州詩、東坡海外詩如何? 曰: 却好。東坡晚年詩固好,只文字也多是信筆胡說,全不看道理。

杜子美"暗飛螢自照"語,只是巧; 韋蘇州云: "寒雨暗深更,流螢度高閣",此景色可想,但則是自在說了。因言《國史補》稱韋爲人高潔,鮮食寡欲,所至之處,掃地焚香,閉閣而坐,其詩無一字做作,直是自在,其氣象近道,意常愛之。問: 比陶如何? 曰: 陶却是有力,但語健而意閑,隱者多是帶性負氣之人爲之,陶欲有爲而不能者也,又好名。韋則自在,其詩則有作不着處,便倒塌了底。晉、宋間詩多閑淡,杜工部等詩常忙了。陶云"身有餘勞,心有常閑",乃《禮記》身勞而心閑則爲之也。

古人詩中有句,今人詩更無句,只是一直說將去,這般詩一日作百首也得。如陳簡預詩"亂雲交零壁,細雨濕靑林"。"暖日薫楊柳,濃陰醉海棠"。他是甚麽句法。

今人所以事事作得不好者,緣不識之故。只如箇詩,舉世之人盡命去 奔做,只是無一個人做得成詩,他是不識,好底將做不好底,不好底將做好 底,遺箇只是心裏鬧不虛靜之故。不虛不靜,故不明,不明,故不識,若虛靜 而明,便識好物事。雖百工技藝,做得精者,也是他心虛理明,所以做得來 精。心裏鬧如何見得。

今人不去講義理,只去學詩文,已落得第二義; 沉又不去學好底,只去學那不好底。如近時人學山谷詩,然又不學山谷好底,只學得山谷不好處。 林澤之云:後山詩恁底深,他資質儘高,不知如何肯去學山谷? 曰:後山雅健,強似山谷,然氣力不似山谷較大,但却無山谷許多輕浮底意思。然若論序事,又却不及山谷。山谷善序事,情序得盡;後山敍得較有疎處。若散文則山谷大不及後山。

江西之詩,自山谷一變,至楊廷秀又再變。楊大年詩巧,然巧之中猶有 混成底意思,便巧得來不覺。及至歐公,早漸漸要說出來,然歐公詩自好, 所以他喜梅聖俞詩,蓋枯淡中有意思。歐公最喜一人送別詩兩句云:"曉日 都門道,微涼草樹秋",又喜王(當作常)建詩"曲徑通幽處,禪房花木深"。 歐公自言平生要道此語不得。今人都不識這意思,只要嵌事使難字便云 好。

考亭書院本《朱子文集大全類編》

# 書龍川集[1]後[節錄]

#### 〔宋〕葉 適[2]

……同甫集有《春秋屬辭》三卷,放今世經義破題<sup>[3]</sup>,乃昔人連珠急就<sup>[4]</sup>之比,而寄意尤深遠。又有長短句四卷,每一章就,輒自歎曰: "平生經濟<sup>[5]</sup>之懷,略已陳矣。" 余所謂微言,多此類也。若其他文,海涵澤聚,天霽風止,無狂浪暴流,而回漩起狀,縈映妙巧,極天下之奇險,固人之所共知,不待余言也。

《四部叢刊》影明本《水心先生文集》卷二十九

#### 【註釋】

- [1]龍川集——陳亮(公元——四三——一九四年)著。他字同甫(父),學者稱龍川先生,婺州永康人,南宋進步思想家,所作政論氣勢縱橫,嗣風豪邁,有愛國精神,《宋史》卷四百三十六有傳。
- [2] 莱適(公元——五〇———二二三年)——南宋哲學家,永嘉學派的代表,字正則,洪州永嘉人,學者稱水心先生,講究功利之學,反對當時理性空談,有《水心先生集》。《宋史》卷四百三十六有傳。
- [3]放——通仿。 經義——科舉考試所用文體之一,以經費中文句為題,闡明其中義理。始于宋代。 破題——科舉文起首數句須說明題目要義,謂之破題。
- [4] 連珠——文體名。明徐師曾《文體明辨》說是"借物陳義以通諷諭之詞","駢偶而有韻"。因其辭麗言約,歷歷如貫珠,故名。今傳有揚雄、班固之作。急就——《急就篇》,一名《急就章》,字書,西漢史游撰。今本三十四章,大抵按姓名、衣服、飲食、器用等,分類編成韻語,多數爲七言句,句首有"急就"二字,故以名篇。宋晁公武《郡齊讀書志》說: "急就者,謂字之雖知者,緩急可就也。"
- [ 5 ] 經濟——經世濟民,治理國家的意思。

#### 【説明】

葉適、陳亮都是南宋時期的進步思想家,他們的哲學思想中 有唯物主義因素,政治上講求實事實功的功利之學,主張抗擊金 朝的壓迫,革除弊政。他們的學說與朱熹等道學家對立,和封建 正統思想表現了某些異端。

葉、陳的文學見解與他們的政治、哲學觀點有着共同的基礎,十分注意文學的社會功用和文學作品的政治內容,所謂"為文不能關教事,雖工無益也"及"理得而辭順,則文章自然出類拔萃",都鮮明地表示了這種態度。當詞這文學體裁還被一部分囿于傳統思想的人認為只能抒寫個人狹隘生活情趣、剪紅刻翠的小道的時候,陳亮却以之來傾吐自己全部的政治抱負,和辛棄疾等愛國詞人之作相互呼應。"平生經濟之懷,略已陳矣。"是何等自負,也是對詞作的何等重視,並且把它提到了未有的高度。從陳亮的《念奴嬌・登多景樓》等詞看來,其中識見卓越,氣槪宏偉,正是他《上孝宗皇帝書》等宏論偉略的形象化表述,無愧于自己和朋友的期許。

葉適論詩在強調思想內容的同時,也很注意韻律辭彩之美,與道學家的態度不同,和嚴羽的旨趣也有區別。

# 附 錄

#### 對讀文選杜詩成四絕句

#### 〔宋〕葉 適

一從屈原《離騷》賦,便至杜甫短長吟。千載中間多作者,誰於海嶽第高深。

絕疑此老性坦率,無那評文兼世情。若比乃翁增上慢,諸賢何得更垂名。

江淹雜體意不選,合彩和晉列衆珍。揀出陶潛許前輩,添來庾信是新人。

草堂四松看摩空,瀼西千果交青紅。似須隱約住蜀道,可惜奔波離峽中。

《四部叢刊》影明本《水心先生文集》卷八

# 徐道暉墓誌銘(節錄)

#### 〔宋〕葉 適

······有詩數百,新思尤奇,皆橫絕數起,冰懸雪跨,使讀者變踔慘慄,背 首吟嘆不自已。然無異語,皆人所知也,人不能道爾。蓋魏晉名家,多發興 高遠之言,少驗物切近之實。及沈約、謝朓永明體出,士爭効之。初猃甚 艱,或僅得一偶句,便已名世矣。夫東字十餘,五色彰施,而律呂相應,豈易 工哉!故善為是者,取成於心,寄妍於物,融會一法,極受萬象,豨苓桔梗, 時而爲帝(原無帝字,據《詩人玉屑》卷十九《葉水心論唐詩與嚴滄浪異》 補),無不按節赴之;君奪臣卑,賓順主穆,如丸投區、矢破的,此唐人之精 也。然脈之者謂其機碎而害道,淫肆而亂雅,至於廷設九奏,廣就大福,而 反以浮響疑官商、布樓謬組鏞,則失其所以爲詩矣。然則發今人未悟之機, 回百年已廢之學,使後復言唐詩自君始,不亦詞人墨卿之一快也。·····

《四部叢刊》影明本《水心先生文集》卷十七

## 贈 辞 子 長(節錄)

#### (宋) 葉 適

讀書不知接統緒,雖多無益也。爲文不能關教事,雖工無益也。篤行·416·

而不合於大義,雖高無益也。立志不存於憂世,雖仁無益也。…… 《四部費刊》影明本《水心先生文集》卷二十九

# 書作論 法後意與理勝

#### [宋] 陳 亮

大凡論不必作好語言,意與理勝,則文字自然超衆。故大手之文,不 為詭異之體而自然宏富,不為險怪之辭而自然典麗,奇寓于純粹之中,巧藏 於和易之內。不善學文者,不求高於理與意,而務求於文彩辭句之間,則 亦陋矣。故杜牧之云: "意全勝者,辭愈樸而文愈高; 意不勝者,辭愈華而文 愈鄙。"昔黃山谷云: "好作奇語,自是文章一病,但當以理爲主。"理得而辭 順,文章自然出類拔萃。

上海人民出版社排印本《陳亮集》卷十六

# 文章正宗鬥綱目

## 〔宋〕 眞德秀[2]

正宗云者,以後世文辭之多變,欲學者識其源流之正也。自昔集錄文章者衆矣,若杜預、擊虞諸家[3],往往堙沒弗傳。今行於世者,惟梁昭明《文選》、姚鉉《文粹》[4]而已。由今眡[5]之,二書所錄,果皆得源流之正乎? 夫士之於學,所以窮理而致用也。文雖學之一事,要亦不外乎此。故今所輯,以明義理切世用為主。其體本乎古,其指近乎經者,然後取焉,否則辭雖工亦不錄。其目凡四: 曰辭命、曰議論、曰敍事、曰詩賦,今凡二十餘卷云。紹定執徐之歲[6]正月甲申,學易齋書。

明正德本《西山先生真文忠公文章正宗》

#### 【註釋】

- [1] 文章正宗——《文章正宗》二十卷、《續集》二十卷,朱眞德秀編。錄《左傳》《國 語》以下至於唐末之作。其持論以論理爲主而不論文。
- [2] 真德秀(公元一一七八年——一二三五年)——字景元,後更字景希,浦城人。 慶元五年進士,官至戶部尚書、資政殿學士,諡曰文忠。真氏之學出於僧體仁, 而體仁乃朱熹門人,真氏實得朱熹嫡傳。有《西山先生眞文忠公文集》五十一 卷。《宋史》卷四百三十七《儒林傳》有傳。
- [3]杜預擊虞諸家——《隋書·經籍志》:"《善文》五十卷,杜預撰。"擊虞,見本書第一册《文章流別論》註[1][2]。
- [4]姚鉉文粹——姚鉉,字寶臣, **度**州人,太平興國進士。《宋史》卷四百四十一《文 苑傳》有傳。所編《唐文粹》一百卷,今存。
- [ 5 ] 眡-----同麗。

[6] 紹定執徐之歲——紹定,宋理宗年號,自公元一二二八年至一二三三年。 辰年日執徐,此指紹定五年壬辰。

#### 【説明】

宋代道學家論文,重視所謂"發揮義理,有補世敎"(眞德秀《跋彭忠肅文集》語),輕視文學作品的藝術意義。北宋程頤說:"作文審道",是"玩物喪志"(語見《二程遺書》)。南宋朱熹說:"古文之與時文,其使學者棄本逐末,爲審等爾。"(語見朱熹《答徐載叔》)這種觀點,到朱熹的再傳弟子眞德秀而到達極端。他編選《文章正宗》,有意識地貫徹道學家的文論主張,與昭明《文選》相對立,並企圖取而代之。

《文章正宗》序言中,楬橥了作者所認爲"源流之正"的準則 是"明義理,切世用"。被選錄的作品,必須是"其體本乎古,其指 近乎經","否則辭雖工亦不錄"。以"事出於沈思,義歸乎翰藻"爲 宗旨的昭明《文選》與姚鉉《唐文粹》,在作者看來,自然要發出 "果皆得源流之正乎"的疑問了。當然,這種論點,如果用以挽救 浮華冶蕩的文風,未嘗沒有裨益。但它偏於一端,抹殺了文學的 藝術價值,實際也就扼死了文學的生命,這對文學的發展是不利 的。作者同時代的詩人劉克莊在《後村詩話》中就有過這樣的不 滿之辭: "《文章正宗》初萌芽, 西山先生以詩歌一門屬予編類, 且 約以世教民彝爲主,如仙釋、閨情、宮怨之類皆勿取。余取漢武 帝《秋風辭》,西山曰:'文中子亦以此辭爲悔心之萌,豈其然乎?' 意不欲收,其嚴如此。然所謂'懷佳人兮不能忘'之語,蓋指公卿 羣臣之扈從者,似非爲後宮設。凡余所取,而西山去之者大半, 又增入陶詩甚多,如三謝之類多不入。"這具體說明了眞氏甄錄 的片面性。淸儒顧炎武同樣是儒家學者,持論就要平正全面得 多。他說:"眞希元《文章正宗》所選詩一播千古之陋,歸之正旨。

然病其以理為宗,不得詩人之趣。且如《古詩十九首》,雖非一人之作,而漢代之風,略具於此。今以希元之所刪者讀之,'不如飲美酒,被服納與素',何以異乎《唐詩·山有樞》之篇;'良人惟古歡,枉駕惠前綏',蓋亦《邶詩》'雄雉于飛'之義;牽牛織女,意仿《大東》;冤絲女蘿,情同《車牽》。十九作中,無甚優劣。必以坊程正俗之旨嚴爲繩削,雖矯昭明之枉,恐失國風之義。六代浮華,固當芟落;必使徐、庾不得爲人,陳、隋不得爲代,毋乃太甚,豈非執理之過乎?"(見顧炎武《日知錄》卷三"孔子刪詩"條。)這一批判,可說是擊中了道學家文論的要售。《四庫全書總目提要》說:"四五百年以來,自講學家外,未有尊而用之者,豈非不近人情之事,終不能強行於天下歟?"正說明了道學家的文論,是缺乏市場的。

# 附錄

# 跋彭忠肅文集

#### 〔宋〕眞德秀

漢西都文章最盛,至有唐爲尤盛。然其發揮理義,有補世教者,董仲舒氏、韓愈氏而止耳。國朝文治蝟與,歐、王,曾、蘇,以大手筆追還古作,高處不減二子。至據、洛諸先生出,雖非有意爲文,而片言隻辭,貫綜至理,若《太極》《西銘》等作,直與六經相出入,又非董、韓之可匹矣。然則文章在漢、唐未足言盛,至我朝乃爲盛爾。忠肅彭公以濂、洛爲師者也,故見諸著述,大抵鳴道之文,而非復文人之文。公之子橫浦使(原誤作史)君鉉,以鏤本寄余,敬題其末。

《四部費刊》影明正德本《西山先生真文忠公文集》卷三十六

## 唐文爲一王法論

#### [宋]魏了翁

任斯道之託,以統天下之異,則不可無以奪其權。天下惟一王之法,最 足以一天下之趨向。彼其慶賞刑威之用於天下,而天下莫與之抗者,以其 法之所存故也。君子任斯道於一身,以正天下之不正,裁節矯揉,而不使之 差跌於吾規矩準繩之所不能制,則一王之法豈獨有天下者司之,而斯文獨 無之哉?聖人不作,學者無歸往之地,重之以八代之衰,而道喪文敝。後生 曲學之於文,僅如偏方小伯,各主一隅,而不覩王者之大全,或主於王、楊, 或主於燕、許,非無其主也,然特宗於伯爾。有韓子者作,大開其門以受天 下之歸, 反问劉僞, 堂堂然特立一王之法則, 雖天下之小不正者, 不於王, 將 能歸? 史臣以唐文爲一王法而歸之。韓愈之倡是法也,惟韓愈足以當之。 天下莫不有所主: 江海能爲百谷主也,而後百川歸之; 太山能爲羣獄主也, 而後羣目仰之。天下之分,自敵已以上,毫髮不可妄踰,而況於道之所統, 其去取予奪可無王法以裁正之乎?孔、孟一簍人爾,魯《史記》一書,孔子何 爲傲然立一王之法,以刑賞天下之諸侯,而當時謂之素王?七篇之書,孟子 胡爲司距放之權,而天下亦謂爲亞聖?孔子豈不知華袞鈇鉞,施之列國則 爲僭?而禹、周公執天下之勢,孟子亦豈不知與己大相遼絕乎?魯以獻道, 文以經世,以言語代賞罰,筆舌代鞭扑(原作朴,課),其所立之法,雖儼 然南面之尊,有不能與之爭衡者。然後知一王之法,吾孔、孟立之以垂世久 矣,非用空言而徒爲記載也。不幸聖人沒而王法絕,火於秦,黃、老於漢,佛 於晉、宋、齊、梁之間,間有文人才士以主持斯文,攘臂鼓吻以自立其說,然 目《離騷》爲奴婢,指屈、宋爲衙官,爲宋玉爲罪人,呼阮籍爲俗吏,其摽立氣 勢則有之矣,而王法則吾不知也。有唐之興,稀章繪句,尙存江左之失,未 宗燕、許,如《翠微宫》之頌、《啓母碣》之銘、《洛寶書》之頌、《周受命》之頃, 皆迎合揣摩之文也。未得王、楊,則韓休之薄滋味,張九齡之窘邊幅,王勃 之多玷缺,許景先之乏風骨,皆未能粹然一出於正也。是何也?主王、楊之 伯,主燕、許之宗,則蕞爾之國,不足以一天下之異也。有昌黎韓愈者出,刊 落陳言,執六經之文以繩削天下之不吾合者。《原道》一書,汪洋大肆;《佛骨》一表,生意凜凜,正聲勁氣巍然,三代令王之法且遜之。其始也,王、楊爲之伯,天下安其伯而不敢辭,以爲文章之法出於王、楊也。及其久也,燕、許爲之宗,則天下宗其文而不敢異,以爲文章之法出於燕、許也。最後,愈之爲文,法度勁正,迫近盤、誥,宛然有王者之法,下視燕、許諸人,直猶淺陋之曹、檜,皆大國之一方爾。則凡天下之爲文者,誰敢不北面厥角以聽王法之予(原作于,誤)奪哉?雖然,天下之習沉極浸漬之久,則其弊非一朝之可革,變齊僅可以至魯,變魯僅可以至道。以聖人之才量,豈不能直變一齊,而且革之以漸焉。況唐之文敕漸靡晉、宋之餘習,自正觀後,王師且黜張昌齡、裴盧、駱賓王等輩,雖太宗、高宗主之,而斯文之弊且不能盡革。使文章之變,非燕、許諸人爲之先,則一韓愈豈能以一髮挽千鈞哉?雖然立一王之法以裁天下之異習,此上之人爲之,愈何與焉?大曆、正元,徒事姑息,而元和、長慶,戾吾道尤甚焉!立唐文章之王法,不出於時君,而出於愈,愈亦甚不得已也。雖然史臣之說,雖論愈也,亦規唐也。

《四部體刊》影宋本《鶴山先生大全文集》卷一百一

# 滄浪詩話·詩辨

## 〔朱〕嚴 羽四

夫學詩者以證爲主<sup>[2]</sup>: 入門須正,立志須高; 以漢、魏、晉、(原本無"晉"字,據明正德本《滄浪先生吟卷》校增)盛唐爲師,不作開元、天實以下人物。若自生退屈<sup>[5]</sup>,即有下劣詩魔入其肺腑之間;由立志之不高也。行有未至,可加工力;路頭一差,愈鶩愈遠;由入門之不正也。故曰:學其上,僅得其中;學其中,斯爲下矣。又曰:見過於師,僅堪傳授;見與師齊,滅師半德也<sup>[4]</sup>。工夫須從上做下,不可從下做上。先須熟讀《楚詞》,朝夕諷詠以爲之本;及讀《古詩十九首》,樂府四篇<sup>[5]</sup>,李陵、蘇武、漢、魏五言皆須熟讀,即以李、杜二集(原本作"智",據《滄浪先生吟卷》校改)枕藉觀之,如今人之治經,然後博取盛唐名家,醞釀胸中,久之自然悟入。雖學之不至,亦不失正路。此乃從頂賴<sup>[6]</sup>上做來,謂之向上一路<sup>[7]</sup>,謂之直截根源<sup>[8]</sup>,謂之頓門<sup>[9]</sup>,謂之單刀直入<sup>[10]</sup>也。

時之法有五: 日體製, 日格力, 日氣象, 日興趣, 日音節<sup>[11]</sup>。

時之品有九:日高,日古,日深,日遠,日長,日雄渾,日飄逸,日悲壯,日淒婉。其用工有三:日起結,日句法,日字眼。其大槊有二:日優游不迫,日沉着痛快。詩之極致有一:日入神。詩而入神,至矣,盡矣, 蔑以加矣!惟李、杜得之。他人得之蓋寡也[12]。

禪家者流,乘有小大[13],宗有南北[14],道有邪正[15];具正法 眼者[18](原本作"看",據《滄浪先生吟卷》校改),是謂第一義[17]。 若聲聞、辟支果[18],皆非正也。論詩如論禪:漢、魏、晉等作與盛 唐之詩,則第一義也。大曆以還之詩[19],則已落第二義矣。晚唐 之詩,則聲聞、辟支果也。學漢、魏、晉與盛唐詩者,臨濟[20]下也。 學大曆以還者,曹洞[21]下也。大抵禪道惟在妙悟,詩道亦在妙 悟。且孟襄陽學力下韓退之遠甚,而其詩獨出退之之上者[22],一 味妙悟故也。惟悟乃爲當行,乃爲本色。然悟有淺深,有**分限之** 悟,有透徹之悟,有但得一知半解之悟。漢、魏尙矣,不假悟也。 謝靈運至盛唐諸公,透徹之悟也[23]。他雖有悟者,皆非第一義 也。吾評之非僭也,辨之非妄也。天下有可廢之人,無可廢之 **言。詩道如是也。若以爲不然,則是見詩之不廣,參詩之不熟** 耳。試取漢、魏之詩而熟參之,次取晉、宋之詩而熟參之,次取南 北朝之詩而熟參之, 次取沈、宋[24]、王、楊、盧、駱、陳拾遺之詩而 熟參之,次取開元、天寶諸家之詩而熟參之,次獨取李、杜二公 之詩而熟怨之,又取大曆十才子[25]之詩而熟怨之,又取元和之 時<sup>[28]</sup>而熟**怨**之,又取晚唐諧家之詩而熟**怨**之,又取本朝蘇、黄以 下諸公之詩而熟參之,其眞是非亦有不能隱者。儻猶於此而無 見焉,則是爲外道蒙蔽其眞識,不可救藥,終不悟也[27]。

夫詩有別材,非關書<sup>[28]</sup>也; 詩有別趣,非關理也。而古人未 皆不讀書、不窮理。所謂不涉理路、不落言筌(原本作"鑒"字,據 《滄浪先生吟卷》校改)者,上也。詩者,吟詠情性也。盛唐詩人 惟在興趣,羚羊掛角,無跡可求<sup>[29]</sup>。故其妙處瑩徹玲瓏,不可凑 泊,如空中之音,相中之色,水中之月<sup>[30]</sup>,鏡中之象,言有盡而意 無窮。近代諸公作奇特解會<sup>[31]</sup>,遂(原本無"遂"字,據《滄浪先生 吟卷》校增)以文字為詩,以議論為詩,以才學為詩。以是為詩, 夫豈不工,終非古人之詩也。蓋於一唱三嘆之音<sup>[32]</sup>,有所歉焉。 且其作多務使事,不問興致;用字必有來歷,押韻必有出處,讀之 終篇,不知着到何在。其末流甚者,叫噪怒張,殊乖忠厚之風,殆 以罵詈為詩<sup>[33]</sup>。詩而至此,可謂一厄也,可謂不幸也。然則近代 之詩無取乎? 曰:有之,吾取其合於古人者而已。國初之詩,尙沿襲唐人:王黄州[34]學白樂天,楊文公、劉中山學李商隱[35],盛文肅學韋蘇州[38],歐陽公學韓退之古詩[37],梅聖俞學唐人平澹處[38]。至東坡、山谷始自出己法以為詩,唐人之風變矣[39]。山谷用工尤深刻[40],其後法席盛行,海內稱為江西宗派[41]。近世趙紫芝、翁靈舒輩,獨喜賈島、姚合之語[42],稍稍復就淸苦之風;江湖詩人[43]多效其體,一時自謂之唐宗;不知止入擊聞、辟支之果,豈盛唐諸公大乘正法眼者哉! 嗟乎! 正法眼之無傳久矣。唐詩之說未唱,唐詩之道有時而明也。今旣唱其體曰唐詩矣,則學者謂唐詩誠止於是耳,茲詩道之重不幸耶! 故予不自量度,輒定詩之宗旨,且借禪以爲喻,推原漢、魏以來,而截然謂當以盛唐爲法,(原註:後捨漢、魏而獨言盛唐者,謂古(原作"唐"字,據《滄浪先生吟卷》校改]律之體備也。)雖獲罪於世之君子,不辭也。

乾隆刻本《詩人玉曆》卷一

#### 【註釋】

- [1] 殿羽——字儀卿,一字丹丘,自號滄浪逋客,邵武人。與同族參、仁,皆有詩才, 號三殿。論詩主妙悟,其邑人上官偉長、吳夢易、朱叔大、黃裳、吳陵等傳其宗 派。著有《滄浪詩話》《滄浪集》。
- [2]案:各本均以此節與下"禪家者流"云云合為一條,今據《詩人玉曆》本列為第 一條。
- [3] 退屈----退縮屈曲的意思。《五燈會元》卷十五:"善遇禪師曰:'彼旣丈夫我亦爾,執爲不可!良由諸人不肯承當,自生退屈。'"
- [4] 見過於師四句——此懷海禪師語,《五燈會元》卷三引。
- [5]樂府四篇——案《文選》樂府一類首列《樂府四首古辭》一題,包括《飲馬長城窟行》、《君子行》、《傷歌行》、《長歌行》四篇。
- [6]頂藝——頭部。《五燈會元》卷十八,介諶禪師有"踏着釋迦頂藝"之語。
- [7] 向上一路——《傳燈錄》卷七:"寶積禪師上堂示衆曰:向上一路,千聖不傳,學 者勞形,如猿捉影。"

- [8] 直截根源——《傳燈錄》卷三十: "永嘉眞覺大師《證道歌》: '直截根源佛所印, 摘葉尋枝我不能。'"
- [9] 頓門---獨言頓悟之門。佛家以速疾證悟妙果爲頓悟。
- [10] 單刀直入——《傳燈錄》卷九:"靈佑禪師曰,單刀趣入,則凡聖情盡體露眞常。" 《五燈會元》卷九:"趣入"作"直入"。
- [11] 前一節提出了他的學古主張,此節與下一節均從學古之說闡發,所以雖似泛論 作詩之法,實則正指出了學古之法,要從遭五方面注意。
- [12] **這一條各本均析爲四條,今從《詩人玉曆》所引合爲一條,義似較長。前一條論法,這一條論品**,所謂"用工""極致",也是指品而言。
- [13] 乘有小大——佛說法因人而殊,人有智愚,故所說有深淺。其說之廣大深妙者 爲大乘,淺小者爲小乘。
- [14] 宗有南北——佛教禪宗自五祖宏忍後分爲南北二宗。南宗始整能所創,北宗始神秀,得法雖一,而開導發悟有頓漸之異,故曰南頓北漸。
- [15] 道有邪正——《傳燈錄》卷九:"黃樂希運禪師云:有此眼腦,方辨得邪正宗 黨。"
- [16] 正法眼——禪家語,指佛所說之正法。《大梵天王問佛決疑經》載佛對迦葉說: "我有正法眼藏, 涅槃妙心, 即付囑于汝。"禪宗諸僧, 常用此語。宋代詩人借用 此語以說的, 殿羽以前, 已有如韓駒《贈趙伯魚》詩所云。
- [17] 第一義——借用佛家語。《大乘義章》:"第一義者,亦名眞語。……彼世諦若對 第一,應名第二。"
- [18] 聲聞辟支果——佛家有三乘:一菩薩乘,二辟支乘,三聲聞乘。菩薩乘普齊墓 生,故稱大乘;辟支、聲聞僅求自度,故稱小乘。辟支,梵語獨覺之義,謂並無師 承,獨自悟道也。聲聞,謂由誦經聽法而悟道者。
- [19] 大層以還之詩——大曆,唐代宗年號,自公元七六六年至七七九年。大曆以還之詩,指中唐之詩。唐詩分初、盛、中、晚之說,定於明代高標。高標之說雖本於嚴羽,但羽尙不標中唐之目,故常言"大曆"或"大曆以環"。
- [20] 臨濟——"臨濟宗"源出六祖弟子懷護,懷護傳馬祖,馬祖傳百丈,百丈傳黃檗, 黃樂傳臨濟義玄禪師。臨濟宗至宋時,有楊岐、黃龍二派,其傳特盛。
- [21] 曹洞——"曹洞宗"源出六祖弟子行思,行思傳希遷,希遷傳藥山,藥山傳雲巖, 云巖傳良价禪師,住瑞州洞山;良价傳本寂禪師,住撫州曹山,故合稱"曹洞 宗"。
- [22] 且孟襄陽學力下韓退之遠甚兩句——《後山詩話》謂:"退之於詩本無解處,以 ·426·

- 才高而好耳。"又云:"退之以文為詩,雖極天下之工,要非本色。"又謂:"子贈謂 孟浩然之詩,謂高而才短"。此當爲嚴說所本。
- [23] 謝靈運兩句——昔人雖以陶淵明與謝靈運並稱陶、謝,但謝詩雕刻,遠不及陶。 故嚴羽謂靈運爲透徹之悟,許學夷《詩源辨體》頗持異議。實則羽此說本於皎 然《詩式》。《詩式》云:"高手如康樂公,……但見情性,不覩文字,蓋詣道之極 也。"此說爲滄浪所本。
- [24] 沈宋——《舊唐書·文苑·沈佺期傳》: "佺期善屬文, 尤县五七言之作, 與宋之間齊名, 時人稱爲沈、宋。"
- [25] 大曆十才子——《新唐書·文藝·盧編傳》: "編與吉中孚、韓翃、錢起、司空曙、苗 發、崔峒、耿湋、夏侯蕃、李端,皆能詩,齊名,號大曆十才子。"他書所載,十人姓 名略有出入。計有功《唐詩紀事》謂: "大曆十才子,……盧編、錢起、耶士元、司 空曉(曙)、李端、李益、苗發、皇甫曾、耿湋、李嘉祐。 又云: 吉頊、夏侯蕃亦是。 或云: 錢起、盧編、司空曉、皇甫曾、李嘉祐、吉中孚、苗發、耶士元、李益、耿湋、李端。"《滄浪詩話》云: "冷朝陽在大曆十才子中爲最下。"其名又出於上述記載 之外。
- [26]元和之詩——元和,唐憲宗年號,自公元八〇六年至八二〇年。李肇《國史補》: "元和已後,……歌行則學流蕩於張籍; 詩章則學矯激於孟郊,學後切於白居 易,學淫廢於元稹。俱名為元和體。"此蓋泛指元和以後詩風而言。又《新唐書· 元稹傳》: "祿尤長於詩,與(白)居易名相培,天下傳護,號元和體。"《滄溟詩 話》亦云: "元和體,元、白諸公。"據元稹《上令狐相公詩啓》,當時已有此稱,是 則專以元、白代表元和詩風。
- [27]禪家者流至終不悟也一節——滄浪驗悟,可有二義:一指第一義之悟,一指透徹之悟。這一節重在第一義之悟,故欲人於遍觀熟身之後,自辨其眞是非。下一節重在透徹之悟,故又不欲人以議論才學為詩,而歉於一唱三嘆之音。這樣排列更能看出《詩辨》一篇的主要精神,所以現在不取通行各本,而從《詩人玉曆》。
- [28] 書——"書"字,後人稱引多誤作"學",非。
- [29] 羚羊掛角兩句---《傳燈錄》卷十六:"道膚禪師謂衆曰:如好獵狗,只解尋得有 蹤迹底;忽遇羚羊掛角,莫道迹,氣亦不識。"
- [30] 空中之音三句——趙與皆《賽退錄》載張芸曳論詩語: "王介甫如空中之音,相中之色,欲有零釋,不可得矣。"《五燈會元》: "應物現形,如水中月。"
- [31] 奇特解會——禪家語。《五燈會元》:"奇特商量。"又:"尋言逐句,求覓解會。"

- [32] 一唱三嘆之音——見本書第一册陸機《文賦》註[117]。
- [33] 殆以屬醫為詩——案黃庭堅《書王知載朐山雜錄後》云: "詩者人之情性也,非強諫爭於廷,怨忿詬於道,怒鄰屬座之謂也。"則山谷亦反對以屬醫為詩者,惟東坡好以時事為譏謂,故《後山詩話》稱"蘇詩始學劉禹錫,故多怨刺。"滄浪所言當指此。同時戴復古《論詩十絕》謂: "時把文章供戲謔,不知此體讓人多。"可能戴、嚴相互受影響。
- [34] 王黄州——王禹偁曾知黄州,故稱王黄州。禹偁詩有"本與樂天爲後進"之句。
- [35] 楊文公劉中山句——楊億諡曰文,劉筠中山人,時稱楊、劉。二人詩專學李商 隱,時有"轉擔義山"之語。
- [36] 盛文肅學草蘇州——盛度諡文肅,詩學草應物,有《愚谷》《銀台》《中書》《中樞》 等四集,今不傳。
- [37] 歐陽公學韓退之——歐陽修詩力矯崑體,以氣格爲主,故與韓愈古詩相近。
- [38] 梅聖俞學唐人平滯處——梅聖俞,見本册《答韓三子華韓五持國韓六玉汝見贈 述詩》註[2]。歐陽修《六一詩話》稱其詩"覃思精微,以深遠閑淡爲意"。
- [39] 至東坡山谷兩句——張戒《歲寒堂詩話》: "子瞻以議論作詩,魯直又專以補綴 奇字,學者未得其所長,而先得其所短,詩人之意播地矣。"此說爲滄浪所本。
- [40] 山谷用工尤深刻——《朱子語類》卷一四〇:"蘇、黃只是今人詩。蘇才豪,然一 滾說盡無餘意;黃費安排。"
- [41] 江西宗派—— 見本册楊萬里《江西宗派詩序》註[1]。
- [42] 近世趙紫芝翁靈舒鞏兩句——趙師秀,字紫芝,號靈秀; 翁卷,號靈舒,與徐照 (號靈暉)、徐瓒(號靈淵)均永嘉人,時號"永嘉四靈"。四人詩格相類,工為唐 律,專以賈島、姚合為法。賈島,見本册《與李生論詩書》註[9]。姚合,唐陝州 峽石人。元和進士,善爲五言律詩,頗類賈島,故姚、賈並稱。
- [43] 江湖詩人——南宋錢塘曹賈陳起與江湖詩人友善,刊《江湖集》《江湖前集》《江湖後集》《江湖續集》《中興江湖集》等,收載復古諸人作品,後遂稱這些詩人爲江湖派。

# 【説明】

宋人詩論偏重學古。詩人和道學家都有此論調,但滄浪重在 形貌風格上的模擬,故創爲以禪喻詩之說,其意義又與當時詩人 和道學家的學古主張稍有不同。由於他以禪喻詩,故重在妙悟。

案其所謂悟,似有二義。一指第一義之悟,以漢、魏、晉、盛唐爲 師,而反對蘇、黃詩風;一指透徹之悟,重在透徹玲瓏不可凑消, 於是除反對蘇、黃詩風之外,再批判永嘉四靈的學唐風氣。因 此,他在"破"的方面是有一些進步意義的。但就其"立"的方面 來講,則不免偏於藝術性而忽於思想性,所以第一義之悟成爲明 代前後七子擬古主張之先聲; 而透徹之悟, 又成淸代王士禛神韻 說之所祖。對後世詩論起了一些不良影響。大抵滄浪於詩,約略 體會到形象思維和邏輯思維的分別,但沒有適當的名詞可以指 出這分別,於是只能歸之於妙悟,而創爲別才別趣之說。別才別 趣之說,幾乎成爲後人集中爭論之點,其實只因後人根據通行的 錯誤本子,所以看不到滄浪所體會到的形象思維和邏輯思維之 分別,甚至斷章取義,曲解滄浪的原意。今考《詩人玉屑》和《對床 夜語》所引,均作"而古人未嘗不讀書不窮理",可知滄浪並不反 對多讀書多窮理,而是指出應當如何讀書與如何用書、如何窮理 與如何說理的問題。在滄浪以前,一般人即使也看到作詩不同 於邏輯思維,但只是從詩文體製的分別來看,所以總認爲蘇、黃 **詩風是由於以文爲詩的關係。至滄浪別才別趣之說,才開始認** 證到形象思維和邏輯思維的分別。他自負為"自家實證實悟"的 應當是指的這方面。這是他的貢獻。然而,也正在這問題上,暴 露了他的局限性。由於他只強調詩的藝術性,不知道詩從生活中 來,從現實中來,所以一方面他不理解生活經驗豐富,才能反映 現實,寫出好詩,於是無可解釋只能歸之於別才。另一方面,更 不理解形象地反映現實的結果,同樣可以說明事理,於是也只能 歸之於別趣。他論詩接觸到形象思維的問題,確有所見,但離開 了生活現實, 也就只能講些迷離恍惚不可究詰的話了。

# 附錄

# 答出繼叔臨安吳景仙書

## 〔宋〕嚴 羽

僕之《詩辨》,乃斷千百年公案,誠驚世絕俗之談,至當歸一之論。其間 說江西詩病,眞取心肝劊子手。以禪喻詩,莫此親切。是自家實證實悟者, 是自家閉門鑿破此片田地,卽非傍人籬壁、拾人涕唾得來者。李、杜復生, 不易吾言矣。而吾叔靳靳疑之,況他人乎?所見難合固如此,深可歎也!

吾叔謂: 說禪非文人儒者之言。本意但欲說得詩透徹, 初無意於爲文, 其合文人儒者之言與否, 不問也。

高意又使回護,毋直致褒貶。僕意謂:辨白是非,定其宗旨,正當明目 張膽而言,使其詞說沈著痛快,深切著明,顯然易見;所謂不直則道不見,雖 得罪於世之君子,不辭也。吾叔《詩說》,其文雖勝,然只是說詩之源流,世 變之高下耳。雖取盛唐,而無的然使人知所趨向處。其間異戶同門之說, 乃一篇之要領。然晚唐本朝,謂其如此,可也;謂唐初以來至大曆之異戶同 門,已不可矣;至於漢、魏、晉、宋、齊、梁之詩,其品第相去,高下懸絕,乃混 而稱之,謂錙銖而較,實有不同處,大率異戶而同門,豈其然矣?

又謂: 韓、柳不得爲盛唐,猶未落晚唐。以其時則可矣,韓退之固當別論; 若柳子厚五言古詩,倘在章蘇州之上,豈元、白同時諸公所可望耶? 高見如此,毋怪來書有甚不喜分諸體製之說,吾叔誠於此未瞭然也。作詩正須辨盡諸家體製,然後不爲旁門所惑。今人作詩,差入門戶者,正以體製莫辨也。世之技藝,猶各有家數。市綠帛者,必分道地,然後知優劣,況文章乎? 僕於作詩,不敢自負,至識則自謂有一日之長,於古今體製,若辨蒼素,甚者望而知之。來書又謂: 忽被人捉破發問,何以答之? 僕正欲人發問而不可得者。不遇盤根,安別利器; 吾叔試以數十篇詩,隱其姓名,舉以相試,爲能別得體製否? 惟辨之未精,故所作或雜而不純。今觀盛集中,倘有一二本朝立作處,毋乃坐是而然耶?

又謂:盛唐之詩,雄深雅健。僕謂此四字,但可評文,於詩則用健字不得。不若《詩辨》雄渾悲壯之語,爲得詩之體也。毫釐之差,不可不辨。披、谷睹公之詩,如米元章之字,雖筆力勁健,終有子路事夫子時氣象。盛唐諸公之詩,如顏魯公書,旣筆力雄壯,又氣象渾厚,其不同如此。只此一字,便見吾叔脚根未點地處也。

所論屈原《離騷》,則深得之,實前輩之所未發;此一段文亦甚佳。大概 論武帝以前皆好,無可識者;但李陵之詩,非虜中感故人還漢而作,恐未深 考。故東坡亦惑江、漢之語,疑非少卿之詩,而不考其胡中也。

妙喜是徑山名僧宗杲也自謂參禪精子,僕亦自謂參詩精子。嘗謁李友 山論古今人詩,見僕辨析毫芒,每相激賞,因謂之曰: "吾論詩,若那吒太子 析骨還父,析內還母。"友山深以爲然。當時臨川相會匆匆,所惜多順情放 過,蓋傾蓋執手,無暇引惹,恐未能卒竟其辨也。鄙見若此,若不以爲然,卻 願有以相復,幸甚!

人民文學出版社本《滄浪詩話校釋》

## 嚴氏糾謬(選錄)

## 〔淸〕馮 班

嘉靖之末,王、李名盛。群其詩法,蟲本於嚴滄浪,至今未有知其謬者,今備論之如左:

以禪喻詩, 滄浪自謂親切透徹者。自永論之, 但見其漫漶類倒耳。具疏之如左:

滄浪曰:"禪家者流,乘有大小,宗有南北,道有邪正。學者須從最上乘,具正法眼,悟第一義。若小乘禪、聲聞、辟支果,皆非正也。論詩如論禪,漢、魏、晉與盛唐之詩,則第一義也;大曆已還之詩,則小乘禪也(馮氏所引《滄浪詩話》本有此五字),已落第二義矣。晚唐之詩,則聲聞、辟支果也。學漢、魏、盛唐之詩,臨濟下也;學大曆已還之詩,曹洞下也。"

糾曰: "乘有大小",是也。擊聞、辟支,則是小乘。今云大曆已還是小乘,晚唐是擊聞、辟支,則小乘之下,別有權乘,所未聞一也。初祖達曆自西

域來震且,傳至五祖忍禪師,下分二枝,南爲能禪師,是爲六祖,下分五宗; 北爲秀禪師,其徒自立爲六祖,七祖普寂以後無聞焉。滄浪雖云宗有南北, 詳其下文,都不指喻何事,卻云臨濟、曹洞。按臨濟玄(原作元)禪師,曹山 寂禪師,洞山价禪師,三人並出南宗,豈滄浪誤以二宗爲南北乎?所未聞二 也。臨濟、曹洞,機用不同,俱是最上一乘。今滄浪云大曆已還之詩小乘禪 也,又云學大曆已還之詩,曹洞下也,則以曹洞爲小乘矣。所未聞三也。凡 喻者,以彼喻此也。彼物先了然於胸中,然後此物可得而喻。滄浪之言禪, 不惟未經多學南北宗派大小三乘,此最是易知者,尚倒謬如此,引以爲喻, 自謂親切,不已妄乎?至云"單刀直入"、云"頓門"、云"活句死句"之類,剽 竊禪語,皆失其宗旨,可笑之極。

滄浪云: "不落言筌,不涉理路。"按此二言似是而非,惑人為最。夫迷悟相覺,則假言以為筌; 邪正相背,斯循理而得路。迷者旣覺,則向來之言還歸無言;邪者旣返,則向來之路未嘗涉路。是以經教紛紜,實無一法可說也。此在教家已自如此; 若教外別傳,則絕廛而奔,誠非凡情淺見所測,吾不敢言也。至於詩者言也,言之不足故長言之,長言之不足故詠歌之,但其言微不與常(原作嘗)言同耳,安得有不落言筌者乎? 詩者,諷刺之言也。憑理而發,怨誹者不亂,好色者不至,故曰"思無邪。"但其理玄,或在文外,與專常(原作嘗)文筆言理者不同,安得不涉理路乎? 滄浪論詩,止是浮光掠影,如有所見,其實脚跟未曾點地,故云盛唐之詩,"如空中之色,水中之月,鏡中之象",種種比喻,殊不知劉夢得云: "與在象外",一語妙絕。又孟子言: "說詩者不以文害辭,不以辭害志,以意逆志,是爲得之。"更自確然灼然也。嗚呼! 可以言此者寡矣。滄浪只是"興趣"言詩,便知此公未得向上關 捩子。

《常熟二馮先生集》本《鈍吟雜錄》卷五

# 答李天英鬥書

## 〔金〕趙秉文[2]

天英足下: 自足下失意東歸,無日不思,況如三歲何! 得來晉,具悉動靜爲慰可望[3]。所寄《雜詩》,疾讀數過,擊節屢嘆。足下天才英逸,不假繩削,豈復老夫所可擬議,然似受之天而不受之人。屢欲貢悃誠,山川間之,坐成浮沉。況動厚如此,遇望[4]點化,僕非其人。筆拙思荒,自濡其涸,況望餘波耶? 豈以犬馬齒在前,欲俯就先後進禮耶? 布一工[5]所聞於師友間者,幸恕不揆[6]。

嘗謂古人之詩,各得其一偏,又多其性之似者。若陶淵明、謝靈運、韋蘇州[7]、王維、柳子厚、白樂天得其冲淡,江淹、鮑明遠[8]、李白、李賀得其峭峻,孟東野、賈浪仙[8]又得其幽憂不平之氣。若老杜可謂兼之矣。然杜陵知詩之爲詩,未知不詩之爲詩。而韓愈又以古文之渾浩,溢而爲詩,然後古今之變盡矣。太白詞勝於理,樂天理勝於詞。東坡又以太白之豪、樂天之理合而爲一,是以高視古人,然亦不能廢古人。

足下以唐、宋詩人,得處雖能免俗,殊乏風雅,過矣! 所謂近風雅,豈規規然如晉、宋詞人蹈襲用一律耶? 若曰子厚近古,退之變古[10],此屏山守株之論[11],非僕所敢知也。詩至於李、杜,以爲未足;是畫至於無形,聽至於無聲,其爲怪且迂也甚矣,其於書也亦然。

足下之言,措意不蹈襲前人一語,此最詩人妙處。然亦從古人中入,譬如彈琴不師譜,稱物不師衡,上匠不師繩墨,獨自師

心,雖終身無成可也。故爲文當師六經、左丘明、莊周、太史公、賈誼、劉向、揚雄、韓愈。爲詩當師《三百篇》《離騷》《文選》《古詩十九首》,下及李、杜。學書當師三代金石、鍾(原作鐘誤)、王、歐、虞、顏、柳<sup>[12]</sup>。盡得諸人所長,然後卓然自成一家,非有意於專師古人也,亦非有意於專擴古人也。自書契以來,未有撰<sup>[13]</sup>古人而獨立者。若揚子雲不師古人,然亦有擬相如四賦<sup>[14]</sup>。韓退之惟陳言之務去,若《進學解》,則《客難》<sup>[15]</sup>之變也,《南山詩》則子厚之餘也<sup>[16]</sup>。豈遽汗漫自師胸臆,至不成語,然後爲快哉?然此詩人造語之工,古人謂之一藝可也。至於詩文之意,當以明王道,輔敬化爲主。六經吾師也,可以一藝名之哉! 賈誼、董仲舒、司馬遷、揚子雲、韓愈、歐陽、司馬溫公<sup>[17]</sup>,大儒之文也,僕未之能學焉。梁肅、裴休、晁迥、張無盡<sup>[18]</sup>,名理之文也,吾師之。太白、杜陵、東坡,詞人之文也,吾師其辭,不師其意。淵明、樂天,高士之詩也,吾師其意,不師其辭。然吾老矣,眼昏力爾<sup>[19]</sup>,雖欲力學古人,力不足也。

足下來書,自言近日欲作文字,然滯于藏鋒,不能飛動;詩欲古體,然僻于幽隱,不能豪放。足下自知之,僕尚何言。然藏錄書之一端,所貴徧學古人。昔人謂之法書,豈是率意而爲之也?又須真積力久[20],自楷法中來,前人所謂未有未能坐而能走者。飛動乃吾輩胸中之妙,非所學也。若市人能積學而不能飛動,吾輩能飛動而不能積學,皆一偏之弊耳。東坡論五十八草書,似鶯哥嬌,數日相見,曰:"此書何如?"曰:"乃秦吉了耳。"[21]足下之書,無乃近似之乎!精神所注,間出奇逸,稍怠之際,如病痱腫,得免秦吉了足矣。想當捧腹大笑也。

寄來詩如: "長河老秋凍,馬怯冰未牢。河山冷鞭底,日暮風 更號。""晨井凍不爨,誰料[22]寒士飢。天廐玉山禾,不救我馬隤。" "塵埃汩沒伺候工,《離騷》不振於[23]魚蟲。風雲誰復話蓍葵,不 门[24]履豨哀屠龍。挾牋搦筦坐書空,伊優堂上醉歌鍾[25]。乃知造化[28]戲兒童,不妨遠目逐[27]孤鴻。莫怪魏瓠無所容,此志[28]未許江船東。五經不帶途轍窮,門庭日日生皇風。太阿剖室砥以石[29],坐掃鵝鸛[30]搖天雄。""岩椒鬱雲,日夕生陰。雨雪縞夜,秋黄老林。人烟墨突,樵徑雲深。""造物開岩地,石帳開[31]劍壁。苔花張古錦,霜苦老秋碧。日夕雲寶陰,風鼓泉湧石。馬蹄忌磅确,樵道生枳棘。盤盤出井底,回首悵如失。長老不耐役[32],底事掛塵迹。披雲出山椒,白鳥表林隙。"其餘老昏殊不可曉,然此迄今大成[33],不過長吉、盧仝合而爲一,未能以故爲新,以俗爲雅[34],非所望於吾友也。

昔人有吹簫學鳳鳴者<sup>[35]</sup>,鳳鳴不可得聞,時有梟音耳。君 詩無乃間有梟音乎?向者屏山嘗語足下云:"自李賀死二百年無 此作矣。"理誠有之,僕亦云然。李公愛才,然愛足下之深者,宜 莫如老夫。顧足下以古人之心爲心,不顧足下受之天而不受之 人,如世輕薄子也。與足下心知,故道此意,幸少安毋躁。

《四部叢刊》影汲古閣精寫本《閑閑老人淦水文集》卷十九

#### 【註釋】

- [1] 李天英——李經,字天英,金錦州人。累舉不第。元好問選其詩入《中州集》卷五,稱其"作詩極刻苦,如欲絕去筆墨蹊徑間者,李(純甫)趙(栗文)諸人頗稱道之"。《金史》卷一百二十六《文藝傳》有傳。
- [2] 趙秉文(公元一一五九年——一二三二年)——字周臣,號閑閑老人,金滏陽人。大定二十五年進士,官至禮部尚書兼侍讀。金代著名古文家兼詩人,有《滏水文集》二十卷。《金史》卷一百十有傳。
- [3]可望——可,疑爲所字之誤。
- [4] 遇望——遇,疑爲過字之誤。
- [ 5 ] 布一工——凝有課字。
- [6] 不揆——揆,度量。不揆,不自量力。
- [7] \$\$M——見本册白居易《與元九書》註[67]。

- [8] 鮑明遠----鮑照,字明遠。
- [9] 賈浪仙——見本册《與李生論詩書》註[9]。
- [10] 子厚近古退之變古——《東坡題跋》卷二評韓、柳詩:"柳子厚詩在陶淵明下,章蘇州上。退之豪放奇險則過之,而溫麗靖深不及也。"又《書黃子思詩集後》: "李、杜之後,詩人繼作,雖間有遠韻,而才不逮意。獨章應物、柳宗元發鸛穢於簡古,寄至味於滯泊,非餘子所及也。"《詩人玉屑》引蘇軾語:"詩之美者莫如韓退之,然詩格之變,自退之始。"此即所謂"子厚近古,退之變古"之說之所本。 張成《歲寒堂詩話》:"柳柳州詩字字如珠玉,精則精矣,然未若退之之變態百出也。"同是論近古變古,而抑揚互異。 屏山之論,殆近於蘇。趙氏駁之,意近於 張。
- [11] 屏山――李純甫(公元――八五年――一二三一年)字之純,號屏山,弘州襄陰人。承安二年進士,官至京兆府判官。元好問選其詩入《中州集》卷四。《金史》卷一百二十六《文藝傳》有傳。守株――謂拘泥不知變通。用《韓非子・五蠹》中守株待冤故事。
- [12] **鍾王歐處顏柳——鍾繇,魏曹法家。王羲之、王獻之父子,晉書法家。歐陽詢、 農世南、顏眞卿、柳公樓,都是唐書法家。**
- [18] 撰——撰疑是"摈"字之誤。撰摈形近。摈即文中前面所用的"擅"字。
- [14] 擬相如四賦——揚雄《甘泉賦》《河東賦》《羽獵賦》《長楊賦》,都是擬司馬相如 《子虛賦》《上林賦》而作。
- [15]客難——東方朔有《答客難》。
- [16] 南山詩則子厚之餘也——子厚疑是子雲之誤,意謂韓愈《南山》乃是以揚雄賦 **筆爲詩。**
- [17] 旬馬溫公——司馬光。
- [18] 梁肅——字敬之,一字寬中,陸渾人。唐德宗建中初中文辭清麗科,官至右補 闕、翰林學士、皇太子諸王侍護。工古文,通佛學。《新唐書》卷二百二《文藝 傳》有傳,附蘇源明傳後。《全唐文》收其文入卷五百十七至五百二十二。裴休 ——字公美,孟州濟源人。唐穆宗長慶中登第,官至吏部尚書加太子少師。精 佛學,與名僧宗密遊。《舊唐書》卷一百七十七、《新唐書》卷一百八十二有傳。 《全唐文》收其文入卷七百四十三。吳迴——字明遠,宋清豐人,徙居彭城。太 平與國進士,官至禮部尚書。通佛道二家之學,有《翰林集》三十卷、《道院集》 十五卷、《法蔵碎金錄》十卷等。《宋史》卷三百五有傳。張無盡——張商英,字 天覺,就無盡居士,新津人。官至觀文娶大學士。精佛學。《宋史》卷三百五十

#### 一有傳。

- [19] 第一一亦作茶。疲稅。
- [20] 資積力久——《荀子·勸學》:"眞積力久則入。"楊惊注:"眞,誠也。力,力行也。"眞積力久,謂眞心誠意,日積月累,力行而能持久。
- [21] 東坡論五十八草書五句——五字談,當作李。《東坡先生志林》:"劉十五論李十八草書,謂之鷃哥嬬。意謂鷃鴟能言,不過數句,卽雜以鳥唱。十八其後稍進,以書問僕,'近日比舊如何?'僕答之,'可作秦吉了矣。'"
- [22] 料----《中州集》料作療。
- [23]於——《中州集》於作矜。
- [24] 门——《中州集》门作剧。
- [25] 伊優----《中州集》作咿喔。醉歌鍾----《中州集》醉作酣。
- [26] 化---《中州集》化作物。
- [27] 逐——《中州集》逐作送。
- [28] 志---《中州集》志作去。
- [29] 砥以石——《中州集》砥作疆。
- [30] 鵝鸛——《中州集》作鸛鶴。
- [31] 石帳開——《中州集》作岩帳揜。
- [32]不耐役——《中州集》役作事。
- [33] 然此迄今大成——遺句疑有誤字,今或當作令。句意謂遺樣的詩句即使達到大成之境。
- [34] 以故為新以俗為雅——權德與《醉說》:"善用常而為雅,善用故而為新。"陳師道《後山詩話》:"閩士有好詩者,不用陳語常談,寫投梅聖俞。答書曰:子詩誠工,但未能以故為新,以俗為雅爾。"《東坡題跋》卷二題柳子厚詩云:"詩須要有為而作,用事當以故為新,以俗為雅;好奇務新,乃詩之病。"黃庭堅《再次韻楊明叔小序》:"蓋以俗為雅,以故為新,百戰百勝,如孫、吳之兵,棘端可以破骸,如甘繩飛衢之射,此詩人之奇也。"
- [35] 昔人有吹簫學鳳鳴者——周時蕭史善吹簫,秦穆公以女弄玉嫁之。日教弄玉 吹簫作鳳鳴。事見《列仙傳》。

#### 【説明】

趙秉文在金代文學家中地位極高,他的文學主張和王若虛

有些相近,都是宗主蘇軾,而歸之於平易通達的。蘇軾詩文取徑 寬廣,熔古今雅俗於一鑪,而自成面貌,趙秉文所深深向往的說 是這種境界。這篇《與李天英書》說到作詩文應該"從古人中入"。 他把"從古人中入", 比之爲彈琴之師譜, 稱物之師衡, 工匠之師 繩墨,在基本法則上是不能師心自用的。但是各人的稟賦不同, 生活環境不同,從古代不同的作家中廣泛吸取其創作經驗,歸根 結底,還是要"盡得諸人所長",而能"卓然自成一家"。所謂"自 成一家",是指"得……其性之似者",富有獨特的個性風格而言 的。這樣,既非"有意於專師古人",又非"有意於專擯古人",能 從古人中入,而又能從古人中出了。篇中論及"近風雅"和"退之 變古"的問題,意見都很精闢。翁方綱曾說蘇軾之學盛於北方, 郝經《題閑閑畫象》也有"金源一代一坡仙"的話,所以趙秉文的 論點比較接近蘇軾。大概他才氣不及東坡,故論詩頗重視功力, 不廢法度。劉祁《歸潛志》說他"論詩最細",又說,"余於趙,則取 其作詩法"。但由於他講法而ショ於法,故仍能領會到東坡"以 故爲新,以俗爲雅"的深刻用意,有的"師其意""不師其辭",有的 "師其辭",而"不師其意",強調多方面學習,才能取精用宏。這 和蘇軾的文學精神也是相通的。

劉祁曾說趙秉文教人作詩文"不可執一體"(見同上),他主要是崇尚坦易自然,也有取於豪放雄奇的風格,至於刻意求奇,造成詭譎怪異,則是他所極力反對的。因此,對當時流行的李賀的詩風,在本文裏就成爲論爭的焦點。

李賀在中唐詩人中自成一體。他那奇異的想象和戛戛獨造的語言藝術,富有一種足以迷人的藝術魅力,是其長處;但也有理不勝詞、語言有時晦澀的缺點。而後來學習他的詩的人,就更容易產生流弊。金代李賀詩風特別盛行,從趙行《重刊李長吉詩集序》中可以看出大概的情况。當時,和趙秉文狎主驅撞的李异

山,論詩尚奇怪,推崇盧仝、李賀,主張"當別轉一路,勿隨人脚跟"(見《歸田錄》引)。李天英之專學李賀,正是受到他的影響。李天英強調"不蹈襲前人一語",自矜風格的獨創,而不知編學古人,融合變化,來形成自己的風格。這在趙秉文看來,正所謂"未能以故爲新,以俗爲雅"。因而他只能"自師胸臆",單純從才氣技巧上去追步李賀。這樣,好奇而不免入於怪,所以文中譏諷他學鳳鳴而有梟音了。

對於文學中理和辭的關係,趙秉文是有着比較正確的理解的。本文雖然是針對學習李賀的詩風而言,但這流弊也是李賀詩理不勝詞本身所帶來的。從這個意義來說,它也可看作杜牧意見(見本書《答莊充書》附錄杜牧《李賀集序》)的闡發。

# 附錄

## 重刊李長吉詩集序

#### 〔金〕趙 衍

龍山先生爲文章,法六經,尚奇語,詩極精深,體備諸家,尤長於賀。渾源 劉京叔爲《龍山小集序》云:"《古漆井》《苦夜長》等詩,雷翰林希顏、麻徵君 知幾諸公稱之,以爲全類李長吉。"亂後隱居海上,教授郡侯諸子,卑士先與 余讀賀詩,雖歷歷上口,於義理未曉,又從而開省之,然恨不能盡其傳。及 龍山入燕,吾友孫伯成從之學,余繼起海上,朝夕侍側,垂十五年,詩之道頗 得聞之。嘗云:五言之興,始於漢而盛於魏;雜體之變,漸於晉而極於唐。 窮天地之大,竭萬物之富,幽之爲鬼神,明之爲日月,通天下之情,盡天下之 變,悉歸於吟詠之微。逮李長吉一出,會古今奇語而臣妾之,如"千歲石床啼 鬼工,雄雞一聲天下白"之句,詩家比之"載鬼一車"、"日中見斗";"洞庭明 月一千里,涼風雁啼天在水"過《楚辭》遠甚。又云:賀之樂府,觀其情狀,若 乾坤閱園,萬彙溉漱,神其變也, 欸駸人耶。韓吏部一貫爲天下法,悉力稱 賀。杜牧又詩之雄也,極所推讓,前敍已詳矣。人雖欲爲賀,莫敢企之者,登 知之猶難,行之愈難也。至有博治書傳,而賀集不一過目,爲可惜也。

雙溪中書君詩鳴於世,得賀最深,嘗與龍山論詩及賀,出所藏舊本,乃司馬溫公物也,然亦不無少異。龍山因之校定,且曰:喜賀者尙少,況其作者耶?意欲刊行,以廣其傳,冀有知之者。會病不起,余與伯成緒其志而爲之。此書行,學賀者多矣,未必不發自吾龍山也。丙辰秋日碣石趙衍題。

《四部幾刊》影金本《李賀歌詩編》

# 論 詩

# 〔金〕王若虚[1]

山谷於詩,每與東坡相抗,門人親黨遂謂過之。而今之作者,亦多以爲然。予嘗戲作四絕云。

駿步由來不可追,汗流餘子費奔馳<sup>[2]</sup>。離言直待南遷後,始 是江西不幸時<sup>[3]</sup>?

信手拈來世已驚<sup>[4]</sup>,三江袞袞筆頭傾。莫將險語誇勍敵,公自無勞與若爭<sup>[5]</sup>。

戲論誰知是至公,蝤蛑信美恐生風<sup>[8]</sup>。奪胎換骨<sup>[7]</sup>何多樣,都在先生一笑中。

文章自得方爲貴,衣缽<sup>[8]</sup>相傳豈是眞; 已覺祖師<sup>[9]</sup>低一著, 紛紛法嗣復何人?

王子端<sup>[10]</sup>云: "近來陡覺無佳思,縱有詩成似樂天。"其小樂天甚 矣。予亦嘗和爲四絕。

功夫費盡漫(原作謾, 誤)窮年, 病入膏肓[11]不可鐫。寄語(原作與, 誤)雪溪王處士, 恐君猶是管窺天[12]。

東塗西抹<sup>[13]</sup>門新妍,時世梳妝亦可憐<sup>[14]</sup>。人物世衰如鼠尾<sup>[15]</sup>,後生未可議前賢<sup>[18]</sup>。

妙理宜人入肺肝, 麻姑搔癢豈勝鞭<sup>[17]</sup>。世間筆墨成何事, 此 老**智**中具一天。

百斛明珠——圓,絲毫無恨徹中邊<sup>[18]</sup>。徒渠屢受羣兒 謗<sup>[18]</sup>,不害三光<sup>[20]</sup>萬古懸。

《四部發刊》影舊鈔本《滹南遺老集》卷四十五

#### [註釋]

- [1] 王若虚(公元一一七四年——一二四三年)——字從之,東城人。舉承安二年 經義進士,官至直學士。有《滹南遺老集》四十五卷。《金史》卷一百二十六《文 藝傳》有傳。
- [2] 汗流句——蘇軾《潮州韓文公廟碑》:"汗流藉混走且僵。"
- [3] 雅言直待南遷後二句——魏慶之《詩人玉屑》引《詩話》: "余觀東坡自南遷以後詩,全類子美藝州以後詩,正所謂老而嚴者也。子由云: 東坡謫居儋耳,獨善為詩,精深華妙,不見老人衰應之氣。魯直亦云: 東坡嶺外文字,讀之使人耳目聰明,如清風自外來也。觀二公之言如此,則余非過論矣。"案: 這二句謂東坡詩在南遷以前,即已有極高成就,非黃山谷所及,所以不必待有南遷以後之詩,才顯得江西派詩之遠不及東坡。
- [4]信手拈來世已費——蘇軾《次體孔毅父集古人句見贈》:"前生于美只君是,信手拈得俱天成。"陸游《秋風亭拜寇萊公遺像》:"巴東詩句澶州策,信手拈來整可驚。"
- [5] 莫將險語誇勍敵二句——謂東坡詩之藝術成就,在於自然高妙,不是憑一些誇 多關險之作與山谷爭一日之長。
- [6] 蝤蛑信美恐生風——《東坡題跋·書黃魯直詩後》:"魯直詩文如蝤蛑江瑤柱, 格韻高絕,盤飧盡廢,然不可多食,多食則發風動氣。"蝤蛑,音秋謀,蟹類,通稱 梭子蟹、槍蟹,棲於沿海。
- [7]奪胎換骨——見黄庭堅《答洪駒父書》說明。
- [8]衣缽——《舊唐書·神秀傳》:"昔後魏末,有僧達摩者,本天竺王子,以護國出家入海,得禪宗妙法,云自釋迦相傳,有衣缽爲記,世相付授。"此喩江西詩派。
- [9] 祖師——禪宗以達摩爲東土第一祖,江西詩派以黃庭堅爲三宗之首,故云。
- [10] 王子端(公元一一五一年——一二〇二年)——王庭筠字。庭筠自號黃華山主, 藍州熊岳人。金大定十六年進士,官至翰林修撰。《中州集》收其詩入卷三。 《金史》卷一百二十六《文藝傳》有傳。
- [11] 病入膏肓——《左傳》成公十年: "醫至,日:疾不可爲也,在肓之上,膏之下,攻 之不可,達之不及,藥不至焉,不可爲也。"杜預註: "肓,鬲也。心下爲膏。"
- [12] 管窺天---《漢書·東方朔傳》: "以管窺天,以蠡測海。"比喩所見狹小。
- [13] 東途西抹——王定保《摭言》載薛逢語:"阿婆三五少年時,也曾東途西抹來。"
- [14] 時世稅妝句——秦韜玉《貧女》詩:"共憐時世儉稅妝。"

- [15] 鼠尾----未詳。當是謂瑣小之意。
- [16] 後生句——杜甫《戲爲六絕句》:"今人嗌點流傳賦,不覺前賢畏後生。"
- [17] 麻姑搔癢句——葛洪《神仙傳》:"麻姑手爪似鳥, 蔡經見之, 心中念曰:背大癢時,得此爪以爬背,當佳也。(王)遠已知經心中所言,即使人牽經鞭之,謂曰: 麻姑,神人也。汝何忽謂其爪可爬背耶?"
- [18] 徹中邊---佛家稱中道與有空二邊為中邊,禪門有時徹中邊之喻,這裏借用其辭。
- [19] 墓兒跨——韓愈《調張籍》:"李杜文章在,光燄萬丈長。不知羣兒愚,那用故謗 傷。"
- [20] 三光——見本册《唐故柳州刺史柳君集紀》註[9]。

#### 【說明】

上面選錄的王若虛絕句八首,前四首論蘇、黃詩,後四首論白居易詩。

蘇軾和黃庭堅開宋朝一代詩風,文學史上一向蘇、黃並稱。 從新變的意義來說,蘇、黃兩人有其相同之點。末流揚波,發生弊 病,所以張戒說,詩"壞於蘇、黃"(見《歲寒堂詩話》);後來的元 好問也有"滄海橫流"之嘆(見《論詩絕句》)。然而蘇和黃的作風 又有極大的區別,江西派詩人宗法山谷而無取於東坡,卽其明 證。

王若虛持論較為通達,他一方面不為古今所囿,對宋詩之異於前古,不以為病(見《滹南詩話》,下同);另一方面,推尊蘇軾而集矢於江西。從其中可以看出他論詩旨趣之所在。後四首之論白居易,其精神也是相一致的。

首先,他認為"哀樂之眞,發乎性情",反對"經營過深","雕琢太甚"。他說蘇詩如三江滾滾,筆底翻瀾;白詩如百斛明珠,晶瑩圓徹;他們能够達到這樣境界,主要是由於寫出了眞襟抱,眞性情,信手拈來,無假於文字語言上的雕琢。故其於蘇則曰:"奪

胎換骨何多樣,都在先生一笑中。"於白則曰:"世間筆墨成何事, 此老智中具一天。"

其次,王若虛不僅擅長詩文,而且也是金代特出的學者。他並不一般地反對以學問入詩,他所最推奪的蘇軾的詩中,就有很多運用典故和化用成語之處,然而他看到,這在蘇軾是隨筆點染,任意揮洒而成;"如肺肝中流出",因而於縱橫浩瀚之中,仍然有其超妙自然的意境在,這就決非山谷"以鋪張學問以爲富,點化陳腐以爲新"者所能追及。故云:"駿步由來不可追,汗流餘子費奔馳。"《詩話》指出山谷"有奇而無妙,有斬絕而無橫放",也是這個意思。

王氏論詩的主旨在於"真",在於"自得"。他之崇尚白、蘇,由於一個是"情致曲盡","隨物賦形";一個是"萬斛泉源,不擇地皆可出"。而這都是得之於內,決非刻意求工的苦吟者所能強求的。所以把"功夫費盡邊窮年"的王庭筠比作以管窺天,認為是"病入膏肓",不可救藥了。他會說:文章"定法則無,大體須有。"(見《文辨》)所謂"大體",指的是"理達辭順";所謂"定法",則是"繩人"的"句法",如江西派所標榜的"點鐵成金""奪胎換骨"之類。他看到了這一點,所以說"魯直開口論句法,此便是不及古人處"。詩中譏諷江西"祖師低一著",因為"祖師"的"衣钵"不過是一些"定法"而已,和"文章自得",是了不相關的。

# 附錄

滹南詩話(選錄)

〔金〕 王若虚

吾舅嘗論詩云:"文章以意為之主,字語為之役。主強而役弱,則無使·444·

不從。世人往往驕其所役,至跋扈難制,甚者反役其主。"可謂深中其病矣。 又曰:"以巧爲巧,其巧不足。巧拙相濟,則使人不厭。唯甚巧者,乃能就拙 爲巧。所謂遊戲者,一文一質,道之中也。雕琢太甚,則傷其全。經營過深, 則失其本。"又曰:"頸聯頷聯,初無此說,特後人私立名字而已。大抵首二 句論事,次二句猶須論事,首二句狀景,次二句猶須狀景,不能遽止,自然之 勢。詩之大略,不外此也。"其(其字下,原衍論字,據丁氏《歷代詩話續編》 本删)篇實之論哉。

樂天之詩,情致曲盡,入人肝脾,隨物賦形,所在充滿,殆與元氣相侔。 至長觀大篇,動數百千官,而順適愜當,句句如一,無爭張牽強之態,此豈撚 斷吟鬚悲鳴口吻者之所能至哉?而世或以淺易輕之,蓋不足與言矣。

郊寒白俗, 詩人類鄙薄之, 然鄭厚許詩, 荆公、蘇、黃輩, 曾不比數, 而云樂天如柳陰春鶯, 東野如草根秋蟲, 皆造化中一妙, 何哉? 哀樂之眞, 發乎情性, 此詩之正理也。(以上《滹南遗老集》卷三十八)

東坡云:"論畫以形似,見與兒童隣。賦詩必此詩,定非知詩人。"夫所貴於畫者,為其似耳;畫而不似,則如勿畫。命題而賦詩,不必此詩,果為何語?然則坡之論非歟?曰:論妙在形似之外,而非遺其形似,不奢於題,而要不失其題,如是而已耳。世之人不本其寔,無得於心,而借此論以爲高。畫山水者,未能正作一木一石,而託雲烟杳靄,謂之氣象。賦詩者茫昧僻遠,按題而索之,不知所謂,乃曰格律貴爾。一有不然,則必相嗤點,以爲淺易而零常。不求是而求奇,眞僞未知,而先論高下,亦自欺而已矣。豈坡公之本意也哉!

山谷之詩,有奇而無妙,有斬絕而無橫放,鋪張學問以爲富,點化陳腐以爲新,而渾然天成,如肺肝中流出者不足也。此所以力追東披而不及敷? 或謂論文者奪東坡,言詩者右山谷,此門生親黨之偏說,而至今詞人多以爲口實。同者襲其迹而不知返,異者畏其名而不敢非。善乎吾舅周君之論也,曰: "宋之文章,至魯直已是偏仄處,陳後山而後,不勝其弊矣。人能中道 而立,以互限觀之,是非眞僞,望而可見也。"若虛雖不解詩,頗以爲然。近讀 《東都事略·山谷傳》云:"庭堅長於詩,與秦觀、張耒、晁補之游蘇軾之門,號 四學士。獨江西君子以庭堅配軾,謂之蘇、黃。"蓋自當時已不以是爲公論 矣。(以上《滹南遺老集》卷三十九)

古之詩人,雖越尙不同,體制不一,要皆出於自得,至其詞達理順,皆足以名家,何嘗有以句法繩人哉?魯直開口論句法,此便是不及古人處,而門徒親黨以衣缽相傳,號稱法嗣,豈詩之眞理也哉?

近歲諸公以作詩自名者甚衆,然往往持論太高,開口輒以《三百篇》《十九首》為準,六朝而下,漸不滿意,至宋人殆不齒矣。此固知本之說,然世間萬變,皆與古不同,何獨文章而可以一律限之乎? 就使後人所作,可到《三百篇》,亦不肯悉安於是矣。何者? 滑稽自喜,出奇巧以相誇,人情固有不能已焉者。宋人之詩,雖大體衰於前古,要亦有以自立,不必盡居其後也。遂鄙薄而不道,不已甚乎。少陵以文章為小技,程氏以詩為閒言語,然則凡辭達理順,無可瑕疵者,皆在所取可也。其餘優劣,何足多較哉!(以上《滹南遺老集》卷四十)

《四部叢刊》影舊抄本《滹南遺老集》

## 文 辨(選錄)

## [金] 王若虛

邵公濟嘗言遷史杜詩意不在似,故佳。此繆妄之論也。使文章無形體 邪?則不必似;若其有之,不似則不是。謂其不主故常,不專蹈襲可矣;而 云意不在似,非夢中語乎?

陳後山曰:"揚子雲之文好奇而卒不能奇,故思若(疑爲苦之訛)而辭 艱。善爲文者因事出奇,江河之行,順下而已。至其觸山赴谷,風搏物激, 然後盡天下之變。子雲雖奇故不能奇也。"此論甚佳,可以爲後學之法。 凡爲文有遙想而言之者,有追憶而言之者,各有定所,不可亂也。《歸去來辭》,將歸而賦耳,旣歸之事,當想像而言之。今自問途而下,皆追錄之語,其於畦徑無乃窒乎? "已矣乎"云者,所以總結而爲斷也,不宜更及耘耔嘯詠之事。退之《感二鳥賦》亦然。(以上《滹南遗老集》卷三十四)

〈歸去來辭〉本自一篇自然眞率文字,後人模擬,已自不宜,况可次其韻乎? 次韻則牽合而不類矣。

陳後山云:"退之之記,記其事耳;今之記乃論也。"予謂不然。唐人本短於議論,故每如此。議論雖多,何害爲記?蓋文之大體固有不同,而其理則一,殆後山妄爲分別,正猶評東坡以詩爲詞也。且宋文視漢唐百體皆異,其開ൂ積放,自一代之變,而後山獨怪其一二,何邪?(以上《滹南遗老集》卷三十五)

歐公散文自爲一代之祖,而所不足者精潔峻健耳。五代史論曲折太過, 往往支離蹉跌,或至渙散而不收,助詞虛字亦多不愜,如《吳越世家論》尤甚 也。

《湘山野錄》云:"謝希深、尹師魯、歐陽永叔各爲錢思公作《河南驛記》,希深僅七百字,歐公五百字,師魯止三百八十餘字。歐公不伏在師魯之下,別撰一記,更減十二字,尤完粹有法。師魯曰:'歐九眞一日千里也。'"予謂此特少年豪俊一時爭勝而然耳,若以文章正理論之,亦惟適其宜而已,豈專以是爲貴哉。蓋簡而不已,其弊將至于儉陋而不足觀也已。

期公謂東坡《醉白堂記》為韓、白優劣論,蓋以擬倫之語差多,故戲云爾,而後人遂爲口實。夫文豈有定法哉?意所至則爲之題,意適然殊無害也。

東坡自言其文如萬斛泉源,不擇地而滔滔汩汩,一日千里無難,及其與

山石曲折,隨物賦形,而不自知,所之者。常行於所當行,而止於不可不止。 論者或護其太誇,予謂惟坡可以當之。夫以一日千里之勢,隨物賦形之能, 而理盡輒止,未嘗以馳騁自喜,此其橫放超邁而不失爲精純也邪?

東坡之文具萬變而一以貫之者也。爲四六而無俳諧偶麗之弊,爲小詞而無脂粉緣豔之失,楚辭則略依仿其步驟而不以奪機杼爲工,禪 語 則 姑 爲談笑之資而不以窮葛藤爲勝,此其所以獨兼衆作莫可端倪。而 世 或 謂 四六不精於汪藻,小詞不工於少游,禪語楚辭不深於魯直,豈知東坡也哉! (以上《滹南遗老集》卷三十六)

吾舅周君德卿嘗云:文章巧於外而拙於內者,可以驚四筵而不可適獨 坐,可以取口稱而不可得首肯。至哉,其名言也。杜牧之云:"杜詩韓筆愁 來讚,似侍麻姑癢處抓",李義山云:"公之斯文若元氣,先時已入人肝脾", 此豈巧於外者之所能邪?

四六文章之病也,而近世以來,制誥表章率皆用之,君臣上下之相告語,欲其誠意交孚,而駢儷浮辭不啻如俳優之鄙,無乃失體邪?後有明王賢大臣禁絕之,亦千古之快也。

或問文章有體乎? 曰:無。又問無體乎? 曰:有。然則果何如? 曰:定 體則無,大體須有。(以上《滹南遺老集》卷三十七)

《四部義刊》影舊鈔本《淳南遺老集》

# 論詩三十首(選錄)

(自注:丁丑歲三鄉作)[1]

#### 〔金〕元好問[2]

漢謠魏什久紛紜<sup>[3]</sup>,正體無人與細論<sup>[4]</sup>。誰是詩中疏鑿 手<sup>[5]</sup>?暫敎涇、渭各淸渾<sup>[0]</sup>。

曹、劉<sup>[7]</sup>坐嘯虎生風,四海無人角兩雄。可惜幷州劉越石,不敎橫槊建安中<sup>[8]</sup>。

鄴下風流<sup>[9]</sup>在晉多,壯懷猶見缺壺歌<sup>[10]</sup>。風雲若恨張華少,溫、李新聲奈爾何<sup>[11]</sup>!(自註:鍾嶸許張華詩,恨其兒女情多,風雲氣少。)

一語天然<sup>[12]</sup>萬古新,豪華落盡見眞淳<sup>[13]</sup>。南窗白日羲皇上<sup>[14]</sup>,未害淵明是晉人<sup>[15]</sup>。(自註: 柳子厚唐之謝鹽運,陶淵明晉之白樂天。)

縱橫詩筆見高情<sup>[16]</sup>,何物能澆魂磊平<sup>[17]</sup>?老阮不狂誰會得<sup>[18]</sup>?出門一笑大江横<sup>[19]</sup>。

心畫心聲<sup>[20]</sup>總失眞,文章寧(原本作仍,據蔣刻本《元遺山 詩箋注》校改)復見爲人。高情千古《閑居賦》,爭信安仁拜路 廛<sup>[21]</sup>。

慷慨歌謠絕不傳,穹廬一曲本天然。中州萬古英雄氣,也到 陰山敕勒川<sup>[22]</sup>。

沈、宋<sup>[23]</sup>橫馳翰墨場,風流初不廢齊、梁<sup>[24]</sup>。論功若準平吳例,合著黃金鑄子昂<sup>[25]</sup>。

關靡誇多費寬觀<sup>[28]</sup>,陸文猶恨冗於潘<sup>[27]</sup>。心聲只要傳心了,布穀瀾翻可是難<sup>[28]</sup>。(自註:陸蕪而潘淨,語見<世說>。)

排比舖張<sup>[29]</sup>特一途,藩籬如此亦區區。少陵自有連城壁,爭 奈徵之識碱砆<sup>[30]</sup>。(自註:事見元稹《子美墓志》。)

眼處心生句自神<sup>[31]</sup>,暗中摸索總非真<sup>[32]</sup>。畫圖臨出秦川景,親到長安有幾人<sup>[33]</sup>?

"望帝春心托杜鵑",佳人錦瑟怨華年[34]。詩家總愛西崑好,獨恨無人作鄭箋[35]。

萬古文章有坦途[38],縱橫誰似玉川盧[37]? 眞書不入今人眼,兒輩從教鬼畫符[38]。

東野窮愁死不休<sup>[39]</sup>,高天厚地<sup>[40]</sup>一詩囚。江山萬古潮陽 筆,合在元龍百尺樓<sup>[41]</sup>。

窘步相仍死不前,唱**酵**無復見前賢<sup>[42]</sup>。縱橫正有凌雲筆,俯仰隨人亦可憐<sup>[43]</sup>。

奇外無奇更出奇,一波纔動萬波隨[44]。只知詩到蘇、黃盡, 滄海橫流卻是誰[45]?

曲學虛荒小說欺, 俳諧怒駡豈詩宜<sup>[18]</sup>? 今人合笑古人拙, 除卻雅言都不知<sup>[47]</sup>。

"有情芍藥含春淚,無力薔薇臥晚枝"[48]。拈出退之《山石》句,始知渠是女郎詩[49]。

金入洪爐不厭煩,精眞那計受纖塵<sup>[50]</sup>。蘇門果有 忠臣 在, 肯放坡詩百態新<sup>[51]</sup>?

百年纔覺古風迴<sup>[52]</sup>,元祜諸人<sup>[53]</sup>次第來。諱學金陵<sup>[54]</sup>猶有說,竟將何罪廢歐、梅<sup>[55]</sup>?

古雅難將子美親,精純全失義山眞[58]。論詩寧下涪翁拜,未作江西社裏人[57]。

池塘春草謝家春<sup>[58]</sup>,萬古千秋五字新。傳語閉門陳正字<sup>[59]</sup>,"可憐無補費精神"<sup>[80]</sup>。

《四部聲刊》影明弘治本《遺山先生文集》卷十一

#### 【註釋】

- [1]丁丑歲三鄉作——翁方綱《石洲詩話》:"金宜宗興定元年丁丑,先生年二十八歲。自貞祐三年乙亥,蒙古兵入金燕都,四年丙子,先生自秀容避亂河南,至是歲寓居三鄉,在其登進士第之前四年。"
- [2]元好問——見本册張炎《嗣源》註[32]。
- [3]漢謠魏什句——漢謠、魏什泛指漢、魏時代的詩。紛紜意指紛亂。這句謂漢、魏風骨,後代逐漸失去它的優良傳統,僞體亂眞。
- [4] 正體無人與細論——杜甫《戲為六絕句》: "別裁偽體親風雅。"正體指風雅的傳統,與偽體相對立。翁方綱《石洲詩話》: "正體云者,其發源長矣,由漢、魏以上推其源,實從《三百篇》得之。藍自杜陵云'別裁偽體', '法自儒家', 此後更無有能疏鑿河源者耳。"
- [6] 涇渭清渾——見本書第一册《文心雕龍・情采》註[15]。宗廷輔《古今論詩絕句輯註》: "此自伸其論詩之旨也。"
- [7]曹劉——曹劉見本曹第一册鍾樂《詩品序》註[65]及本册蘇軾《書黃子思詩集後》註[7]。元氏《自題中州集後》又有"鄴下曹、劉氣盡豪"句。據謝靈運《擬魏太子鄴中集詩》小序,謂"劉植卓築偏人,而文最有氣,所得頗經奇"。鍾樂《詩品》列劉植於上品,謂其"仗氣愛奇,動多振絕,眞骨凌霜,高風跨俗。但氣過其文,雖潤恨少。然自陳思已下,植稱獨步"。劉勰《文心雖龍‧體性》亦云:"公幹氣福,故言壯而情駭。"綜合各家評論,說明劉楨詩風骨豪壯,所以元好問稱曹、劉爲"氣豪",爲"兩雄"。現存楨詩僅十五首,殆難以看到他的全貌。
- [8]可惜幷州劉越石二句——劉琨,字越石,西晉末年愛國詩人。《詩品序》謂"劉越石仗清剛之氣"。宗廷輔《古今論詩絕句輯注》:"越石蒼渾,與先生合,且北人,故欲齊之建安之列。"元稹《唐故工部員外耶杜君墓係銘》:"建安之後,……曹氏父子鞍馬間爲交,往往橫槊賦詩。故其遠文壯節,抑揚怨哀,悲離之作,尤極於古。"越石以詩人而爲統帥,故元氏以橫槊爲言。翁方稱《石洲詩話》:"論詩從建安才子說起,此眞詩中疏擊手矣。李太白亦云:'蓬萊文章建安骨。'韓文公亦云:'建安能者七。'此於曹、劉後,特舉一劉越石,亦詩家一大關摸。"案:陳流《詩比興箋》:"元遺山《論詩絕句》……謂劉楨淺狹圓寂之作,未能以敵三

曹,惟越石氣蓋一世,始與曹公蒼茫相敵也。"此以曹爲曹操,揚琨抑楨,非元氏論詩本意。

- [9] 郭下風流——指建安詩風,魏太子居鄴下,建安七子環繞其周圍,故云。
- [10] 缺壺歌——劉義慶《世說新語》: "王處仲(敦)每酒後,輒詠'老願伏櫪,志在千里; 烈士暮年,壯心未已'。(曹操《步出東西門行》句)以如意打唾壺, 壺口壺缺。"
- [11] 風雲兩句——鍾嶸《詩品》評張華詩: "其體華體,與託不奇,巧用文字,務為拼治;雖名高囊代,而疏亮之士,獨恨其兒女情多,風雲氣少。"這裏貶斥"溫、李新聲",特指溫庭筠、李商隱詩歌中綺麗婉體一面,至商隱詩精純的一面,元氏亦予肯定,可多看後章。霸方綱《石洲詩話》: "此首特舉晉人風格,高出齊、梁也,非專以斥薄溫、李也。後章'精純全失義山眞',豈此之謂乎? 義山在晚唐時,與飛劑、柯古(段成式)並稱三十六體,原自以綺麗名家,是又不能盡以義山得杜之精緻,而槪例之也。即放翁論詩,亦有'溫、李眞自鄶'之句。蓋論晚唐格調,自不得不如此。遺山之論,前後非有異議耳。" 宗廷輔注: "意不甚滿於墾帨為工者,特借《詩品》一語發之。蓋六朝競尙才藻,激昂之氣少,其源實晉期之。故先生云如此。"
- [12] 一語天然——《朱子語類》:"泗明詩平淡出於自然。"殿羽《滄浪詩話》:"淵明之詩質而自然。"與元氏意合。
- [13] 豪華落盡見眞淳——這語本於黃庭堅。胡仔《苕溪漁隱叢話》前集: "《正法眼藏》云: '石頭一日問藥山曰: 子近日作麼生? 山曰: 皮膚脫落盡,惟有眞實在。' 魯直《別楊明叔》詩云: '皮毛剝落盡,惟有眞實在。'全用藥山禪師語也。"
- [14] 南窗白日羲皇上——陶淵明《與子儼等疏》:"常言五六月中,北窗下臥,遇凉風 暫至,自謂是羲皇上人。"
- [15] 未害潤明是晉人——宗廷輔注:"提出潤明,不滿晉人意可見。玩末句則上首意 更明。"案: 詩意謂晉詩大都追求嗣華,而陶淵明獨崇尚自然,亦何害其爲晉人。 發方綱《石洲詩話》:"此章論陶詩也,而注先以柳繼謝者,……蓋陶、謝體格,並 高出六朝,而以天然閑適者歸之陶,以蘊釀神秀者歸之謝,此所以爲初日芙蓉, 他家莫及也。"
- [16] 縱橫詩筆見高情——鍾嶸《詩品》評阮籍: "而《詠懷》之作,可以陶性靈,發幽思, 言在耳目之內, 情寄八荒之表, 洋洋乎會於風雅, 使人忘其鄙近, 自致遠大, 頗多感慨之詞。"嚴羽《滄浪詩話》: "黃初之後, 惟阮籍《詠懷》之作, 極為高古, 有建安風骨。"與元氏意合。

- [17] 何物能澆碗磊平——《世說新語》: "王孝伯問王大,阮籍何如司馬相如?王 大曰:'阮籍胸中垦塊,故須酒澆之。'"
- [18] 老阮不狂離會得——《魏志·王粲傳》註引《魏氏春秋》: "籍口不論人過,而自然高邁。" 《詠懷詩》李善註: "嗣宗身仕亂朝,常恐罹豁遇禍,因茲發詠,故每有憂生之嗟; 雖志在刺譏而文多隱避。百代之下,雖以情測。"
- [19] 出門一笑大江橫——黃庭堅《王充道送水仙花五十枝欣然會心爲之作詠》詩句。
- [20]心萱心聲---《法言·問神》:"故言,心聲也; 書,心壹也。聲臺形,君子小人見矣。"
- [21]高情二句——《晉書·潘岳傳》:"字安仁,……岳性輕躁,越世利。與石崇等詔事賈證,每候其出,與崇輒望塵而拜。……旣仕官不建,乃作《閑居賦》。"都穆《南漾詩話》:"揚子雲曰: 言,心聲也; 字,心萱也。蓋謂觀言與書,可以知人之邓正也。然世之偏人曲士,其言其字,未必皆偏曲,則言與書又似不足以觀人者。元遺山詩云:……。有識者之論固如此。"
- [22]陰山敕勒川——《樂府詩集》: "《樂府廣題》曰: '北齊神武(高數)攻周玉璧, 士卒死者十四五,神武惠懷疾發。周王下令曰: 高數 夏子親犯玉璧, 劍弩一發, 元凶自斃。神武聞之, 勉坐以安士衆, 悉引諸貴, 使斛律金唱《敕勒》, 神武自和之。其歌本鲜卑語, 易爲齊言, 故其句長短不齊。'"《敕勒歌》: "敕勒川, 陰山下。 天似穹廬, 雜蓋四野。天蒼蒼, 野茫茫, 風吹草低見牛羊。"宗廷輔注: "北齊斛律金《敕勒歌》,極豪莽, 且本是北音, 故先生深取之。"
- [23] 沈宋——見本册《沧浪詩話·詩辨》註[24]。
- [24] 風流初不廢齊梁——郭紹廣《滄浪詩話校釋》: "案齊、梁體可有二義:一指風格,即陳子昂所謂'彩麗競繁,而與寄都絕',《朱子語類》所謂'齊、梁間之詩讀之使人四肢皆媚慢不收拾'者也。一指格律,則與永明體相近。……姚範《接稿堂章記》謂: '稱永明體者以其拘於聲病也; 稱齊、梁體者以綺艷及詠物之藏麗也。'"案: 沈、宋詩在風格與格律方面都是走齊、梁的道路,故元氏云爾。

- [26] 鬭靡誇多——韓愈《送陳秀才彤序》:"讀書以爲學, 續言(組織詞句)以爲文, 非 以誇多而鬥靡也。"
- [27] 陸文獨恨冗於潘——《世說新語》: "孫與公(綽)云:潘(岳)文淺而淨,陸(機)文 深而蕪。"又: "孫與公云:潘文爛若披錦,無處不善; 陸文若排沙揀金,往往見 寶。"劉峻註: "《文章傳》曰: '……司空張華……謂曰:人之作文,患於不才,至 子爲文,乃患才多也。'"
- [28] 布穀瀕翻可是雖——布穀, 島名。布穀瀕翻, 形容誇多。宗廷輔注: "先生固不滿於晉人者, 此則借論潘、陸, 以箴宋人也。夫詩以言志, 志盡則言竭。自蘇、 黃創爲長篇次韻, 於是牽於韻脚, 不得不借端生議, 勾留比附, 而辭費矣。'口角 瀬翻如布穀', 東坡句也。"
- [29] 排比舖張——元稹《唐故工部員外耶杜君墓係銘》語,見本册《歲寒堂詩話》 註[21]。翁方綱《石洲詩話》:"排比舖張,即所云布穀瀾翻也。"案:合元稹工部 墓銘全文觀之,排比舖張,特指長篇排律而言,是一種誇多的藝術手法。遺山 認為此不過詩之一體,在杜詩中亦非上乘。而元稹轉以此推重杜甫,故遺山認 為"識磁砆"。
- [31] 眼處心生句自神——謂眼所接觸的實境,激發詩情,自能寫出入神之句。查慎行《十二種詩評》: "見得冀,方道得出。"宗廷輔注: "景物興會,無端湊泊,取之即是,自然入妙。" 《大毗婆沙論》: "問: 眼處云何? 答: 諸眼於色,已正當見;及彼同分,是名眼處。"
- [32] 暗中摸索總非翼——謂並無現實生活的感受,只是在暗中虛擬,總不是眞實之境。
- [33] 查圖二句——施國祁註: 《三秦記》曰: '長安正南秦嶺,嶺根水流爲秦川,一名 樊川。'案: 少陵自天寶五载至十五年以前皆在長安,見諸題詠,如《元都理》之

子規山竹,王母雲旗; 《慈恩塔》之河奠西流,七星北戶; 《曲江三章》之素沙白石,杜曲桑麻; 《麗人行》之三月氣新,水邊多麗; 《樂遊園》之碧草烟縣,芙蓉波浪; 《漢陂行》之棹謳間發,水面藍關; 《西南臺》之錯翠南山,倒影白閣; 《湯東霊 湫》之陰火玉泉,棲空浴日:凡茲景物,並近秦川一帶,登臨俯仰,獨立冥搜,分明十幅畫圖都在把酌浩然,曠懷游目中一一寫照也。宋范寬有秦川圖。"案: 這二句謂後人無眞情實感而以模仿古人為能事。

- [34] 望帝春心二句——李商隱《錦瑟》詩:"錦瑟無端五十絃,一絃一柱思華年。莊生曉夢迷胡蝶,望帝春心托杜鵑。滄海月明珠有淚,藍田日暖玉生烟。此情可待成追憶,只是當時已惘然。"施國祁註:"厲獎樹(騙)云:'此詩義山悼亡之作也。錦瑟五十絃,剖爲二十五,是即其人生世之年;故云思華年也。今則如莊生之蝶,望帝之鵑,已化爲異物矣。然其珠光玉潤,容華出衆,有令人追憶不能忘者,在當日已惘然,知尤物之不能久存,不待追憶而始然也。'案:玉溪此詩,冥托似深,後之解者,言人人殊,不能備载。"翁方綱《石洲詩話》:"拈此二句,非第趁其置也,正以先提唱杜鵑句於上,卻押華年於下,乃是此篇迴復幽咽之旨也。遺山當日必有神會,惜未見其所述耳。"
- [85] 詩家總愛西崑好二句——翁方稱《石洲詩話》:"宋初楊大年、錢惟演諸人館閣之作,日《西崑酬唱集》。其詩效溫、李體,……西崑者,宋初翰苑也。是宋初館開效溫、李體,乃有西崑之目,而晚唐溫、李時,初無西崑之目也。遺山沿智此稱之襲,不知始於何時耳。然遺山論詩,旣知義山之精眞,而又薄溫、李爲新聲者,蓋義山之精徽,自能上追杜法;而其以綺麗爲體者,則斥爲新聲,但以其聲言之。此亦所謂言各有當耳。"宗廷輔注:"先生詩取徑與義山迥珠,獨不薄義山。"案:以義山詩爲西崑體,在元氏以前已有混用不別者。惠洪《冷寮夜話》謂:"詩到義山,謂之文章一厄,以其用事僻澀,時稱西崑體。"胡仔《苕溪漁隱叢話前集》在唐彥謙之後王建之前,有西崑體,其中多論義山詩。嚴羽《滄浪詩話》謂:"李商隱體,即西崑體也。"又謂:"西崑體,即李商隱體,然彙溫庭筠及本朝楊、劉諸公而名之也。"遺山所選《中州集》引李純甫屏山所作《西嶌集序》亦謂"李義山喜用僻事,下奇字,晚唐人多効之,號西崑體。"知宋、金兩代,沿誤已久,遺山不遇因龔其誤而已。《詩三百篇》毛氏傳,鄭玄爲作筆。
- [36] 坦途——韓愈《贈盧仝》詩:"往年弄筆朝仝異,怪詞驚衆誇不已;近來自說尋坦途,猶上處空跨縣駬(駿馬)。"
- [37] 玉川盧——盧仝自號玉川子, 詩怪異。《朱子語類》謂: "唐人玉川子辈, 句語雖 險怪, 意思亦自有混成氣象。"孫機《與王紫秀才書》稱盧仝《月蝕詩》"拔地倚

天,句句欲活。讀之如赤手捕長蛇,不施控騎生馬,急不得暇,莫可捉搦。"與遺山"縱橫"之評相合。

- [38] 眞書二句——查愼行《十二種詩評》: "播盡鬼怪一派。"
- [39] 東野鷄愁死不休——孟郊,字東野。歐陽修《六一詩話》: "孟郊、賈島,皆以詩 鷄至死。而平生尤自喜爲鷄苦之句。"
- [41] 江山萬古二句——潮陽調韓愈,愈晚年謫為潮州刺史。元龍,陳登字。《魏志·陳登傳》: "如小人欲臥百尺樓上",乃劉備語。瞿佑《歸田詩話》: "遺山論詩云……推奪退之,而鄙薄東野,至矣。東坡亦有'未足當韓豪'之句,又云: '我厭孟郊詩,復作孟郊語。'鹽不為所取也。東野詩如: '食齊腸亦苦,強歌聲無歡。出門即有礙,離謂天地寬。'又云: '夜吟曉不休,苦吟鬼神愁,如何不自閑,心與身爲譬。' 氣象如此,宜其一生跼蹐也。" 翁方綱《石洲詩話》: "韓門諸家不斥賈而斥孟,亦與東坡意同。"案: 遺山此論,後人也多不同意的,如沈德潛《說詩吟語》、潘德與《養一齋詩話》以及錢振鹽《讀星說詩》諸書,都有不滿之論。
- [42] 窘步相仍二句——"窘步相仍"與末句所謂"俯仰隨人",都是指次韻詩拘束於 預脚,寸步不得自由,俯仰隨原唱者之意。觀第二句"唱酬無復見前賢",知遺 山用意所在。嚴羽《滄浪詩話》: "和韻最害人詩。古人酬唱不次韻,此風始盛 於元、白、皮、陸。本朝諸賢,乃以此而鬥工,遂至往復有八九和者。"都穆《南 漆詩話》: "古人詩有唱和者,蓋彼唱而我和之,初不拘體製兼襲其韻也。後乃 有用人觀以答之者,觀老杜、嚴武詩可見,然亦不一一次其韻也。至元、白、皮、 陸諸公,始尚次韻,爭奇鬥險,多至數百言,往來至數十首,而其流弊至於今極 矣。非沛然有餘之才,餘不爲其實束,所謂性情者,果可得而見邪?"案: 此論可 與遺山語互證。
- [43] 縱橫正有凌雲筆二句——杜甫《戲爲六絕句》:"凌雲健筆意縱橫。"宗廷輔注: "此殆譏好夾韻者。夾韻詩雖於元、白,皮、陸繼之,然亦止今體耳。至蘇、黃則 無所不夾矣。先生不甚滿於東坡,又未便直加點詞,故所云如此。"
- [44] 奇外無奇二句——姜羹《白石道人詩說》:"波瀾開合,如在江湖中,一波未平, 一波已作。如兵家之陣,方以爲正,又復是奇,方以爲奇,忽復是正,出入變化, 不可紀極,而法度不可亂。"
- [45] 只知詩到蘇黃靈二句——劉克莊《後村詩話》: "元點以後,詩人迭起,一種則波·456·

獨當而句律疎,一種則鍛鍊精而惰性遠,要之不出蘇、黃二體而已。"案: 滄海橫 流謂狂流氾濫。潘德興《養一齋詩話》: "明以滄海橫流賈蘇。"宗廷輔注: "自 蘇、黃更出新意,一洗唐調,後遂隨風而麗,生硬放佚,靡惡不臻,變本加厲,咎 在作俑。先生低之,故實之如此。"

- [46] 曲學處荒二句——黃庭堅、戴復古、嚴羽都反對以俳諧屬署為詩,見本册《滄 浪詩話·辨詩》及註[33],可與遺山之論相發明。遺山《楊叔能小亨集引》稱: "初余學詩,以十數條自警。"其中如"無怨勳,無離浪,無驚很,無狡秆,無爲仇 戰諮傷,無爲顰俗鬨傳,無爲聲師皮相,無爲點卒醉橫,無爲法家醜祗,無爲琵 雹娘人魂韻詞"等條,都與此詩用意相通。施國祁註:"案:少陵、義山,俱有俳 體體詩。"
- [47]除卻雅言都不知——宗廷輔註:"此首專詆東坡。或疑其職東坡不應重叠如此, 不知此乃先生宗旨所在,射人射馬,擒賊擒王,所見旣虞,故不懷一再彈擊也。"
- [48] 有情芍藥二句——此賽觀《春日》絕句詩,見《淮海集》卷十。晚枝,《淮海集》作 曉枝,作曉是。
- [49] 拈出退之山石句二句——遺山《中州集·擬栩先生王中立傳》: "予嘗從先生學, 問作詩究竟當如何? 先生畢業少游(觀)《春雨》詩云: '有情芍藥含春淚, 無力薔薇队晚枝。'此詩非不工, 若以退之'芭蕉葉大栀子肥'之句校之, 則《春雨》 為婦人語矣。破卻工夫, 何至學婦人?"據此, 則遺山此論, 原得自王中立。但以女耶比擬業詩, 則宋人敖陶孫《臞翁詩評》即已有"秦少游如時女步春, 終傷嫉弱"之語。芭蕉七字, 韓愈七古《山石》句。查慣行《十二種詩評》: "齊、梁、陳、隋諸名家, 大抵皆女郎詩, 不數中唐以後也。"宗廷輔註: "此首排淮海。上二句即以淮海詩狀淮海詩境也。"
- [50] 金入洪爐二句——這二句是褒蘇之嗣,真金經過煅煉,本自精熱不受纖塵。然 詩家古調,亦至蘇而亡,故末句又以"百態新"贬之。
- [51] 蘇門二句——《宋史·文苑傳》:"黃庭堅……與張来、晁補之、秦觀,俱游蘇軾門,天下稱爲四事士。"潘德與《養一齋詩話》:"明言蘇門無忠直之言,故致蘇詩競出新態。"宗廷輔註:"晁叔用(沖之)云:東坡如毛爐、西施,淨洗卻面,與天下糖人門好。即此末句'百態新'之意。""新擊創則古調亡,自蘇、黃派行而唐代恩流至是盡泯(消失)。明何仲默《答李獻吉養》云:'文靡於隋,韓力振之,然古文之法亡於韓;詩獨於陶,謝力振之,然古詩之法亡於謝。'世或駭其言。然東坡亦言:'書之美者莫如顏魯公,然書法之褒,自魯公始;詩之美者莫如韓退之,然詩格之變,自退之始。'語見《詩人玉曆》,何書即此意耳。"周壽昌《思益堂日

札》:"遺山《論詩》:'蘇門若有忠臣在,肯放坡詩百態新。'又云:'只知詩到蘇、 黃盡,滄海橫流卻是難。'是遺山於蘇詩,頗存刺露之意。然案遺山《洛陽》詩 云:'城頭大匠論蒸土,地底中耶待摸金';查初白云:'摸金校尉,非中耶也,束 坡誤用,先生仍而不改。'夫遺山用典,尚承東坡之誤,謂非服習坡詩有素者 乎?"案:"元氏《論詩》中貶蘇之詞,也是學蘇。"(可參考郭紹虞《中國文學批評 皮»)遺山有關蘇詩"百態新"的評價,曾在《東坡詩雅引》一文中闡述之云·"五 官以來,六朝之謝、陶,唐之陳子昂、韋應物、柳子厚最爲近風雅。自餘多以雜 體爲之,詩之亡久矣。雜體愈備則去風雅愈遠,其理然也。近世蘇子瞻絕愛陶、 柳二家,極其詩之所至,誠亦陶、柳之亞。然評者尙以其能似陶、柳而不能不 爲風俗所移,爲可恨耳。夫詩至於子膽,而且有不能近古之恨,後人無所望矣。" 是遺山貶彈東坡,乃在肯定的基礎上批判。而清人趙翼《甌北詩話》則謂: "元 遺山論詩云: '蘇門果有忠臣在,肯放坡詩百態新。'此言似是而實非也。新豈 **马霄,意未經人說過則新,書未經人用過則新。詩家之能新,正以此耳。若反** 以新爲嫌,是必拾人牙後,人云亦云,否則抱柱守株,不敢踰限一步,是尙得成 家哉? 尚得成大家哉?"此論對遺山貶彈蘇詩"百態新"之意有誤解。遺山之 意,臺謂東坡詩以"門麗் 路多"為新,有失風雅之傳統而已。

- [52] 百年總覺古風週——翁方稱《石洲詩話》: "此週字, 即坡公詩'昇平格力未全 週'之週字, 是遺山力爭上游處也。"
- [53] 元點諸人——元點,宋哲宗年號,自公元一〇八六年至一〇九三年。嚴羽《滄 浪詩話》:"元點體,蘇、黃、陳諸公。"
- [54] 譚學金陵——王安石龍相後居金陵,故即以金陵稱安石。王嗣之《澠水燕談錄》: "荆國王文公以多聞博學為世宗師。……公之治經尤尙解字,末流務為新奇,淺成穿鑿。朝廷患之,韶學者兼用舊傳註,不專治新經,禁援引《字解》。於是學者皆變所學,至於著書以詆公之學者,且諱稱公門人。故(張)芸曳為挽詞云: '今日江湖從學者,人人諱道是門生。'"案: 宋、金之際學者對王安石政治上的事業,認識不足,故遺山作此語,並用以論詩。宗廷輔註: "猶有說,即以人發冒之意。"
- [55] 竟將何罪廢歐梅——嚴羽《滄浪詩話》: "國初之詩尚沿護唐人: ……歐陽公學韓退之古詩,梅聖俞學唐人平淡處。至東坡、山谷始自出己意以爲詩, 唐人之風變矣。"朱弁《曲洧舊聞》: "東坡詩文, 落筆輒爲人所傳誦。每一篇到, 歐陽公爲終日喜。……一日與媒論文及坡公。嘆曰: 汝記吾舊, 三十年後, 世上人更不道著我也。崇寧、大觀閱, 海外詩(讀東坡海外詩)盛行, 後生不復有舊歐公者。"

陳振孫《直齊書錄解題》: "聖俞為詩,古澹深遠,有盛名於一時。近世少有喜者, 或加穀酱;惟陸務觀重之,此可為知者道也。自世人競宗江西,已看不入眼,况 晚唐卑格方錮之時乎? 少陵尚有竊藏妄論者,其於宛陵何有?" 潘德與《養一 齊詩話》: "明言歐、梅甫能復古,而元祐蘇、黃諸人次第變古。"

- [56] 古雅雖將子美親二句——王若盧《滹南詩話》: "山谷自謂得法於少陵,而不許於東坡。予觀之,少陵,《典》《謨》也;東坡,《孟子》之流;山谷,則揚雄《法言》而已。"案: 李義山詩精純之處,得力於杜,胡仔《苕溪漁騰叢話》前集引《蔡寬夫詩話》云: "王荆公晚年亦喜義山詩,以為唐人知學老杜而得其藩籬,惟義山一人而已。"葉夢得《石林詩話》亦云: "唐人學老杜,惟商騰一人而已。雖未盡造其妙,然精密華麗,亦自得其彷彿。"朱舟《風月堂詩話》謂"黄庭堅用崑體工夫而造老杜渾成之地"。是宋人有以為山谷學杜從崑體與義山入手者。遺山此論,卻謂山谷失義山之眞,未得其精純,則正如潘德與《養一齊詩話》所指出,義山詩原有"若'求之流輩豈易得,行矣關山方獨吟',學杜而得其粗率者,又開宋人一派矣"。山谷就是從義山這種粗硬處學杜。所以遺山以為"精純全失義山眞"也。宗廷輔註: "詆山谷,上二句直舉山谷之疵。"
- [57] 論詩寧下涪翁拜二句——涪翁, 黃庭堅別號。宗廷輔註: "查初白云: '涪翁生物錘鍊, 自成一家, 直得下拜。'此讀寧爲寧可之寧也, 故爲調停, 非先生意。寧下者, 豈下也。"案: 遺山《自題中州集後》云: "北人不拾江西唾, 未要冒耶借齒牙。"與此同意。涪翁旣是江西派的宗祖, 遺山不顧入江西社, 豈有向涪翁下拜之理。再證之以遺山的詩作, 也不類涪翁。
- [58] 池塘句——見本册吳可《學詩詩》註[5]。
- [59] 閉門陳正字——黃庭堅《病起荆江亭即事》:"閉門寬句陳無己。"任源注:"無己 名師道,……無己坐黨銀廢,旣而自棣學除秘書省正字。"胡仔《苕溪漁騰叢話 前集》引《王直方詩話》:"……江端禮……要看無己作詩,有'閉門十日雨,吟作 飢萬聲'之句,大爲山谷所愛。"
- [60] 可憐句——王安石《韓子》詩句。宗廷輔註:"鈺後山。後山詩純以拗樸取勝。 '池塘生春草',何等自然。"

# 【説明】

論詩絕句, 濫觴於杜甫《戲爲六絕句》。宋以後作者不下數十家, 大體上可分爲二大流別。從南宋戴復古的《論詩十絕》起, 到

清代趙執信、趙翼、宋湘、張問陶、丘逢甲諸家的論詩諸絕句,屬 於闡說理論;從金代元好問《論詩三十首》起,到清代王士禛、袁 校、洪亮吉、李希聖、陳衍諸家的論詩絕句,屬於品評作家作品。 後者往往擴大範圍到摘賞佳句,點級瑣聞;等而下之,甚至標榜 聲氣,更屬自鄶無譏了。

元好問爲金、元二代的著名詩人,《論詩三十首》,雖屬於後一類型,但實際體現了一家論詩的宗旨,與後人仿效其體的作品 大有不同。元氏寫這詩時,年二十八歲,但末首自稱"老來留得 詩千首",疑晚年曾有改定,故留下此語,我們正可據以窺測元氏 詩論的全貌。

這裏選錄了二十二首。第一首開宗明義,以疏鑿手自任,樹立疏鑿的準則。所謂"正體",是與杜甫《戲爲六絕句》所說"別裁偽體"的"偽體"相對立的。其餘二十一首,比較全面地辨析了正偽清濁的鴻溝所在。主要有如下五個方面:

第一、貴自得, 反模擬:

在"眼處心生句自神"一首中,指出了只有"親到長安"。"眼處心生"的實證實悟,才能下筆有神;批判了唐臨晉帖般的模擬作風。因此,元氏對以奪胎換骨爲能事的江西派詩,抱着鄙夷的態度,不屑步他們的後塵,在"古雅難將子美親"一首中,明白表示"論詩寧下涪翁拜,未作江西社裏人"。

第二、主張自然天成,反對誇多門靡:

在詩歌風格上,元氏是主張古調,反對新聲的。主張古調,並不是模擬,指的是自然天成的風格。所謂新聲是指誇多門靡、 逞弄才華的一套。他一方面肯定了陶淵明的"一語天然萬古新, 豪華落盡見真淳",謝靈運"池塘生春草"的"萬古千秋五字新", 歐、梅的"百年才覺古風迴";一方面否定了"鬥靡誇多""布穀瀾翻"的作風,指出杜詩的"排比鋪張"不過一體,元稹以此尊杜是 未藏連城壁, 髓斥元、白、皮、陸一直到蘇、黄的衣韻詩是"窘步相仍死不前", "俯仰隨人亦可憐", 批判了矜多炫巧的蘇詩是"百態新"、黄詩是"古雅難將子美親", 並比蘇、黃詩於"滄海橫流"。

第三、主張髙雅,反對險怪俳諧怒罵:

從主張古調的觀點出發,元氏又強調高雅。在"縱橫詩筆見高情"一首中,肯定了阮籍,在"沈、宋橫馳翰墨揚"一首中,肯定了陳子昂,陳子昂正是以力復"漢、魏風骨"自任的一人,而阮籍也正是"正始之音"的代表。二家之所以被元氏重視,就是由於風格的高雅。另方面在"萬古文章有坦途"一首中,批判了"鬼臺符"的險怪詩風,而慨嘆於"真書不入今人眼";在"曲學虛荒小說欺"一首中,又指出了"俳諧怒駡豈詩宜,今人合笑古人拙,除卻雅言都不知"。元氏這些崇尚高雅,反對怒駡為詩的理論,實際是受到蘇、黃二家說詩的影響的。(可參看蘇軾《書黃子思詩集後》、黃庭堅《答洪駒父書》。)盡管元氏對蘇詩的"百態新"一面有不滿,但當時蘇學在北方,成爲風氣,元氏接受薪火之傳,並不足怪。清人翁方綱《齋中與友論詩》說"蘇學盛於北,景行遺山仰",是窺見了此中消息的。何況蘇詩也還有高雅的一面,(詳見注引元氏《東坡詩雅引》)元氏並不會予以抹撥。

第四、主張剛健豪壯,反對纖弱窘仄:

元氏在理論上重視阮、陶、陳子昂的高風雅調,而在創作實踐上,由於時代喪亂與北方雄壯河山的激發,以及蘇學在北的影響,個人豪邁性格的決定,凌雲健筆,轉近於蘇。因此,他在風格論上,又強調剛健豪壯,反對纖弱窘仄。在"曹、劉坐嘯虎生風"、"鄴下風流在晉多"、"慷慨歌謠絕不傳"、"東野窮愁死不休"、"有情芍藥含春淚"、"池塘春草謝家春"等首中,對豪壯風格的曹、劉、劉琨、《勅勒歌》、韓愈等盡情贊揚,對風雲氣少的張華、溫、李、"女郎詩"的秦觀以及"詩囚"的孟郊、"無補費精神"的陳師道、則作了

無情的發嘲。但元氏也絕不否定李商隱詩的藝術成就,給以"精 純"的評價,幷且因無人爲作鄭箋而咸到遺憾。這說明元氏立 論是比較公允而全面的。

第五、主張眞誠,反對偽飾:

元氏除從詩歌藝術的角度, 分析其正偽淸濁以外, 特別重視作詩的根本關鍵。他感慨地指出"心畫心聲總失真, 文章寧復見爲人"的偽飾。而對陶詩的肯定, 卻正是因爲它的"真淳"。正面主張"心聲只要傳心了", 出於真誠的才是好詩。元氏在《楊叔能小享集引》中說: "何謂本? 誠是也。……故由心而誠, 由誠而言, 由言而詩也。三者相爲一。……夫惟不誠, 故言無所主, 心口別爲二物。"正是這詩的最好註脚。

# 附 錄

# 杜詩學引

### 〔金〕元好問

杜詩註六七十家,發明隱奧,不可謂無功;至於鑿空架虛,旁引曲證,饒 雜米鹽,反為無累者亦多矣。要之,蜀人趙次公作證誤,所得頗多。託名於 東坡者爲最妄,非託名者之過,傳之者過也。

稿嘗謂子美之妙,釋氏所謂學至於無學者耳。今觀其詩,如元氣淋漓,隨物賦形;如三江五湖,合而為海,浩浩瀚瀚,無有涯涘;如祥光慶雲,千變萬化,不可名狀;固學者之所以動心而駭目。及讀之熟,求之深,含咀之久,則九經百氏古人之精華,所以膏潤其筆端者,循可髣髴其餘韻也。夫金屑丹砂、芝朮多桂,識者例能指名之;至於合而為劑,其君臣佐使之互(原作玄,據靈石楊氏原刻本校改)用,甘苦酸鹹之相入,有不可復以金屑丹砂、芝多朮桂而名之者矣。故謂杜詩爲無一字無來處,亦可也;謂不從古人中來,亦可也。前人論子美用故事,有著鹽水中之喻,固善矣,但未知九方皋之相

馬,得天機於減沒存亡之間,物色牝牡,人所共知者爲可略耳。

先東嚴君有言,近世唯山谷最知子美,以爲今人讚杜詩,至謂草木蟲魚,皆有比與,如試世間商度隱語然者,此最學者之病。山谷之不注杜詩, 試取《大雅堂記》讀之,則知此公注杜詩已,意可爲知者道,難爲俗人言也。

乙酉之夏,自京師還,閒居崧山,因錄先君子所教,與聞之師友之間者 爲一書,名曰《杜詩學》。子美之傳誌、年譜,及唐以來論子美者在焉。 候兒 子輩可與實,當以告之,而不敢以示人也。六月十一日,河南元某引。

《四部聲刊》影明弘治本《遺山先生文集》卷三十六

# 楊叔能小亨集引

### 〔金〕元好問

貞祐南渡後,詩學大行,初亦未知適從,溪南辛敬之、淄川楊叔能以唐 人為指歸。敬之舊有聲河南,叔能則未有知之者。與定末,叔能與予會於 京師,遂見禮部閑閑公及楊吏部之美,二公見其"幽懷久不寫"及《甘羅廟》 詩,噴噴稱嘆,以爲今世少見其比。及將往關中,張左相信甫、李右司之純、 馮內翰子駿皆以長詩贈別,閑閑作引,謂其詩學退之《此日足可惜》,頗能似 之。至比之金膏水碧,物外自然,奇寶景星,丹鳳承平,不時見之嘉瑞。叔 能用是名重天下,今三十年。然其客於楚於漢沔於燕、趙、魏、齊、魯之間,行 天下四方多矣,而其窮亦極矣。 叔能天資澹泊,寡於言笑,儉素自守,詩文 似其爲人。其窮雖極,其以詩爲業者,不變也。 其以唐人爲指歸者,亦不變 也。 今年其所觀《小亨集》成,其子復見予鎭州,以集引爲請。予亦愛唐詩 者,唯愛之篇而求之深,故似有所得,嘗試妄論之。

詩與文,特言語之別稱耳,有所記述之謂文,吟詠情性之謂詩,其爲言語則一也。唐詩所以絕出於《三百篇》之後者,知本焉爾矣。何謂本? 誠是也。古聖賢道德言語布在方册者多矣,且以"弗慮胡獲,弗爲胡成","無有作好","無有作惡","樸雖小,天下莫敢臣"較之,與"所年孔夙,方社不莫","敬共明神,宜無悔怒"何異,但篇題句讚不同而已。故由心而誠(原作成, 誤),由誠而言,由言而詩也。三者相爲一。情動於中而形於言,官發乎遷

而見乎遠,同聲相應,同氣相求,雖小夫賤婦孤臣孽子之感諷皆可以厚人倫、美教化,無它道也。故曰不誠無物。夫惟不誠,故言無所主,心口別爲二物;物我邈其千里,漠然而往,悠然而來,人之聽之,若春風之過馬耳,其欲動天地、感神鬼,難矣。其是之謂本。唐人之詩,其知本乎,何溫柔敦厚,萬然仁義之言之多也! 幽憂憔悴,寒饑困憊,一寓於詩(原作時,據靈石楊氏原刻本校改),而其阨窮而不憫,遺佚而不怨者,故在也。至於傷讒疾惡,不平之氣不能自揜,實之愈深,其旨愈婉,怨之愈深,其辭愈緩。優柔饜飫,使人祗泳於先生之澤,情性之外,不知有文字,幸矣學者之得唐人爲指歸也。

初予學詩,以十數條自警云:無怨數,無謔浪,無驚很,無崖異,無狡訐,無媕阿,無傳會,無籠絡,無衒鬻,無緣節,無爲堅白辨,無爲賢聖顯,無爲妾婦妬,無爲仇敵謗傷,無爲聾俗鬨傳,無爲瞽師皮相,無爲黥卒醉橫,無爲點兒白捡,無爲田舍翁木強,無爲法家醜証,無爲牙郎轉販,無爲市倡怨恩,無爲琵琶娘人魂餶詞,無爲村夫子冤園策,無爲第沙僧困義學,無爲稠梗治禁詞,無爲天地一我今古一我,無爲薄惡所移,無爲正人端士所不道。信斯言也,予詩其庶幾乎?惟其守之不固,竟爲有志者之所先。今日讀所謂《小亨集》者,祗以增媿汗耳。予旣以如上語爲集引,又申之以種松之詩,因爲復冒歸而語乃翁。吾老矣,自爲瓠壺之日久矣,非夫子亦何以發予之狂言。已酉秋八月初吉河東元某序。

《四部叢刊》影明弘治本《遺山先生文集》卷三十六

# 陶然集詩序

### 〔金〕元好問

貞祐南渡後, 詩學為盛: 洛西辛敬之, 淄川楊叔能, 太原李長源, 龍坊雷伯威, 北平王子正之等, 不啻十數人, 稱號專門; 就諸人中, 其死生於詩者, 汝海楊飛卿一人而已。李內翰欽叔工篇翰, 而飛卿從之游。初得"樹古葉早黃, 僧閑頭白暹"之句, 大為欽叔所推激。從是游道日廣, 而學亦大進。 客居東平將二十年, 有詩近二千首, 號《陶然集》。所賦《青梅》《瑞蓮》《餠聲》《雪意》, 或多至十餘首; 其立之之卓, 鑽之之堅, 得之之難, 積之之多乃如

此。此其所以爲貴也歟?

歲庚戌,東平好事者,求此集刊布之。飛卿每作詩,必以示予,相去千餘里,亦以見寄,其所得予亦頗能知之。飛卿於海內詩人,獨以予爲知已,故以集引見託。

或病吾飛卿追琢功夫太過者,予釋之曰: 詩之極致,可以動天地,感鬼神;故傳之師,本之經,眞積之力久而有不能復古者。自"匪我愆期,子無良媒","自伯之東,首如飛蓬","愛而不見,搔首踟蹰","旣見復關,載笑載言"之什觀之,皆以小夫賤婦,滿心而發,肆口而成,見取於采詩之官,而聖人刪詩亦不敢盡廢。後世雖傳之師,本之經,眞積力久而不能止焉者。何古今難易不相侔之如是耶? 蓋秦以前,民俗醇厚,去先王之澤未遠,質勝則野,故肆口成文,不害爲合理。使今世小夫賤婦,滿心而發,肆口而成,適足以汚簡牘,倘可辱采詩官之求取耶? 故文字以來,詩爲難;魏、晉以來,復古爲難;唐以來,合規矩準繩尤難。

夫因事以陳辭,辭不迫切,而意獨至,初不為難。後世以不得不難為雜耳! 古律歌行,篇章操引,吟詠謳謠,詞調怨嘆,詩之目旣廣,而詩評詩品詩說詩式,亦不可勝讀。大概以脫棄凡近、澡雲塵翳、驅駕擊勢、破碎陣敵、囚鎖怪變、軒豁幽祕、籠絡今古、移奪造化為工,鈍滯僻澀、淺露浮躁、狂縱淫膽、詭誕瑣碎、陳腐爲病。"毫髮無遺恨","老去(應作晚節)漸於詩律細","佳句法如何","新詩改罷自長吟","語不驚人死不休",杜少陵語也。"好句似仙堪換骨,陳言如賊莫經心",蔣許昌語也。"乾坤有清氣,散入詩人脾,千人萬人中,一人兩人知",貫休師語也。"看似尋常最奇崛,成如容易卻艱難",半山翁語也。"詩律傷嚴近寡恩",唐子西語也。子西又言:"吾於它文,不至蹇澀,惟作詩極難苦,悲吟累日,僅自成篇,初讀時未見可羞處,姑置之;後數日取讀,便覺瑕譽百出,輒復悲吟累日,反復改定,比之前作稍有加焉;後數日復取讀,疵病復出,凡如此數四,乃敢示人,然終不能工。"李賀母謂賀必欲嘔出心乃已,非過論也。今就子美而下論之,後世果以詩為專門之學,求追配古人,欲不死生於詩,其可已乎?

雖然,方外之學,有爲道日損之說,又有學至於無學之說,詩家亦有之。子美夔州以後,樂天香山以後,東坡海南以後,皆不煩繩削而自合。非技進於道者能之乎? 詩家所以異於方外者,渠聲談道不在文字,不離文字。詩

家聖處不離文字,不在文字。唐賢所爲情性之外不知有文字云耳。以吾飛 卿立之之卓,鑽之之堅,得之之難,異時霜降水落,自見涯涘。吾見其泝石 棲,歷雪堂,問津斜川之上。萬慮洗然,深入空寂,盪元氣於筆端,寄妙理於 冒外。彼悠悠者,可復以昔之隱几者見待耶?《陶然》後編,請取此序證之, 必有以予爲不妄許者。重九日遺山眞隱序。

《四部費刊》影明弘治本《遺山先生文集》卷三十七

# 洞 源<sup>[1]</sup> [選錄]

#### 〔元〕張 炎[2]

古之樂章、樂府、樂歌、樂曲[3], 皆出於雅正。粤自隋、唐以 來,聲詩間爲長短句[1];至唐人則有《尊前》《花間集》[5]。 迄於崇 寧[8], 立大晟府[7], 命周美成諸人[8]討論古晉, 審定古調, 淪落之 後,少得存者。由此八十四調[9]之聲稍傳;而美成諸人又復增演 慢曲、引、近[10],或移宫换羽爲三犯、四犯之曲[11],按月律爲 之[12],其曲遂繁。美成負一代詞名,所作之詞,渾厚和雅,善於 融化詩句[13],而於音譜且間有未諧,可見其難矣。作詞者多效其 體製,失之軟媚而無所取。此惟美成爲然,不能學也。所可倣傚 之詞, 豈一美成而已。舊有刊本《六十家詞》[14], 可歌可誦者, 指 不多屈。中間如秦少游、高竹屋、姜白石、史邦卿、吳夢窗[15],此 數家格調不侔[16], 句法挺異, 俱能特立淸新之意, 删削靡憂之 嗣,自成一家,各名於世。作詞者能取諸人之所長,去諸人之所 短[17],精加玩味,象而爲之[18],豈不能與美成輩爭雄長哉! 余疎 陋觀才[19],昔在先人[20]侍側,聞楊守齋、毛敏仲、徐南溪諸公商 推音律[21],管知緒餘,故生卒好爲詞章,用功踰四十年,未見其 進。今老矣,嗟古音之寥寥,慮雅詞之落落,僭述管見,類列於 後,與同志者商略之。

### 清 空

詞要清空,不要質實<sup>[22]</sup>。清空則古雅峭拔,質實則凝澀晦昧。姜白石詞,如野雲孤飛,去留無迹; 吳夢窗詞,如七寶樓台,

眩人眼目,碎拆下來,不成片段。此清空質實之說。夢窗《聲聲慢》云:"檀樂金碧,婀娜蓬萊<sup>[23]</sup>,游雲不蘸芳洲。"前八字恐亦太澀。如《唐多令》云:"何處合成愁?離人心上秋<sup>[24]</sup>。縱芭蕉不雨也颼颼。都道晚涼天氣好,有明月,怕登樓。前事夢中休,花空烟水流。燕辭歸,客尚淹流。垂柳不縈裙帶住,謾長是,縈行舟。"此詞疎快,卻不質實。如是者集中尚有,惜不多耳。白石詞如《疏影》《暗香》《揚州慢》《一萼紅》《琵琶仙》《探春》《八歸》《淡黄柳》等曲,不惟清空,又且騷雅<sup>[25]</sup>,讀之使人神觀飛越。

# 雑 論

嗣之作必須合律<sup>[28]</sup>,然律非易學,得之指授方可。若詞人方始作詞,必欲合律,恐無是理;所謂千里之程起於足下,當漸而進可也。正如方得離俗爲信,便要坐禪守律<sup>[27]</sup>,未曾見道,而病已至,豈能進於道哉? 音律所當夢究,詞章先宜精思。俟語句妥溜,然後正之音譜,二者得彙,則可造極玄之域<sup>[28]</sup>。今詞人纔說音律,便以爲難,正合前說,所以望望然而去之<sup>[29]</sup>。苟以此論製曲,音亦易諧,將于于然而來矣<sup>[30]</sup>。

辛稼軒、劉改之<sup>[31]</sup>作豪氣詞,非雅詞也。於文章餘暇,戲弄筆墨,爲長短句之詩耳。元遺山極稱稼軒詞<sup>[32]</sup>。及觀遺山詞<sup>[33]</sup>,深於用事,精於鍊句,有風流蘊藉處不減周、秦。如《雙蓮》《雁邱》<sup>[84]</sup>等作,妙在模寄情態,立意高遠,初無稼軒豪邁之氣。豈遺山欲表而出之,故云爾。

《榆園叢書》本《詞源》

# 【註釋】

[1] 詞源——上下二卷,有元初錢良點序,署年丁已,是延點四年(公元一三一七年),陸文圭歇有"梨園白髮,湧宮蛾眉,餘情哀思,聽者淚落,君亦因是棄家客游

無方三十年矣"的話。這書寫成時,上距宋亡四十多年,張炎已七十餘歲了。

- [2] 張炎(公元一二四八年——?)——字叔夏, 號玉田, 又號樂笑豬。西寨人, 生長杭州。他是南宋初年大將張俊的六世孫, 他的高祖張鐵有《南湖集》, 父張樞有《寄閒集》, 都是詞人。張炎生於宋理宗淳祐八年, 宋亡時三十三歲, 往燕京蒙古政府求官, 失意而歸。曾經在四明設卜肆謀生, 卒於元代延祐、至治間(公元一三二〇年前後), 年約七十餘。有詞八卷, 名《山中白雲》。
- [3]樂章樂府樂歌樂曲——四者義同名異,都是指配合音樂可以歌唱的詩。
- [4] 聲詩問為長短句——唐代初以五七言詩入樂,但五七言詩字句整齊,與參差多變的樂譜未能諧合,探用長短句就可適應樂曲的繁複變化。聲詩問為長短句 這種情况,就逐漸導致了詞體的正式成立。
- [5] 尊前——嗣總集名,凡二卷,大概是五代或宋初人所編輯。選錄李白、溫庭筠、李煜等唐五代人詞。作家三十餘人, 詞二百餘首。名叫《尊前集》,在當時可能是一種唱本,供樂工歌伎在酒席上選唱。花間集——見本册《題酒邊詞》註[12]。
- [6] 崇寧——宋徽宗年號,自公元一一〇二年至一一〇六年。
- [7]大晟府——宋徽宗時的宮廷音樂機關,崇寧四年(公元一一〇五年)設立。它 的任務是整理古樂,創製新調。
- [8] 周美成諸人——周邦彦(公元一〇五七年——一二一年), 字美成, 錢塘人。 於徽宗政和六年提舉大晟府, 跟他同時或稍前後為大晟府制撰者尚有徐坤(幹臣)、田為(不伐)、姚公立、晁冲之(叔用)、江漢(朝宗)、万俟詠(雅言)、晁端禮(次膺)等人。
- [9]八十四調——中國古代樂律分十二律呂,又分七音。十二律呂各有七音,相乘得八十四調。但南宋時實際用的只有七宮十二調。
- [10]慢曲引近——詞謂的類別名。慢曲即慢曲子,與急曲子相對而言,又稱爲長調。如《木蘭花慢》《上林春慢》之類。引詞如《千秋歲引》《江城梅花引》之類; 近詞如《祝英臺近》《訴衷情近》之類。
- [11] 或移宮換羽句——謂製作犯調之曲。宋詞中之犯調猶元曲中之集曲,是集取同一宮調中兩個以上不同詞調的樂句而成一新調。三犯四犯之曲如《三犯渡江雲》《玲瓏四犯》之類。
- [12]按月律為之——古代樂律分十二律以應十二月。宋徽宗曾令大晟府,"依月用律,月進一曲"(見《碧鷄漫志》卷二)。楊纘《作詞五要》說"律不應月則不美,如十、十一月調須用正宮,元宵詞必用仙呂宮(疑作南呂)為宜也"。但當時詞人都不遵此。

- [13] 善於融化詩句——宋陳振孫《直齋書錄解題》卷二十謂: "清眞嗣多用唐人詩語, 檃括入律, 渾然天成。"沈義父《樂府指迷》也說: "凡作詞當以清眞爲主。蓋清眞最爲知音, 且無一點市井氣, 下字運意, 皆有法度, 往往自唐、宋諸賢詩句中來。"
- [14] 舊有刊本六十家嗣——此書久佚,內容不詳。
- [15] 高竹屋——高觀國,字賓王,山陰人,有詞集名《竹屋楽語》。姜白石——姜夔,字堯章,號白石道人,鄱陽人。往來於鄂、赣、皖、蘇問,卒於杭州。有詞集名《白石道人歌曲》。史邦和——史達祖,字邦和,號梅溪。汴人,居杭州,智爲當時的宰相韓侂胄的堂吏。他的詞以工巧見長。有《梅溪祠》。吳夢窗——吳文英,字君特,號夢窗,四明人。曾爲嗣榮王等顯貴門客。其詞以穠麗勝,有《夢窗甲乙丙丁稿》。
- [16] 不侔——不相等,不同。
- [17] 能取諸人之所長二句——元陸輔之曾從張炎問學,他的《詞旨》中說: "周清眞之典麗,姜白石之騷雅,史梅溪之句法, 吳夢窗之字面, 取四家之所長, 去四家之所短, 此翁(謂樂笑翁, 即張炎)之要訣。"
- [18] 象而爲之——作爲樣子仿照製作。
- [19] 鹽才——才能淺薄。
- [20] 先人——即張樞,字斗南,號寄聞,有嗣見《絕妙好詞》及《浩然齋雅談》。他作詞嚴守音律。《嗣源》說他:"曉楊音律,有《寄閒集》,旁綴音譜,刊行於世,每作一詞,必使歌者按之,稍有不協,阻而改正。"《浩然齊雅談》也說他"嘗度《依聲集》百閱,音韻諧美"。今《寄閒集》《依聲集》兩書皆佚。
- [21] 楊守齊——楊欖,字繼翁,又字守齊,一號紫霞翁,尹陵人。《嗣源》附錄他的《作嗣五要》,主張作詞要擇腔、擇律、填詞按譜、推律押韻與立新意。有詞見《絕妙好詞》。毛敏仲——未詳。徐南溪——徐理,號南溪,會稽人。有詞見《陽春白雲》。

- 也。惟質故實,所謂意餘於辭也。文者,文飾也,卽詞家之遺辭也。惟文故空,所謂辭餘於意也。予故以爲夢窗詞,正是文而空,不是質而實; 白石詞正是質而實,不是文而空。不過夢窗文中有質,白石質外有文,而其傳誦之作,又皆有清氣往來,此其所以爲名家也。"案:此說又可爲張氏之論進一解。
- [23] 檀類金碧婀娜蓬萊—— 遭八字確頗晦霾費解。夢窗此詞是為"陪幕中餞孫无懷于郭希道池亭"作。檀類金碧婀娜三詞都是狀詞,一般用檀類形容竹,金碧形容樓臺,婀娜形容柳。此處或謂郭希道園中有竹、柳、樓臺之屬,景級有如蓬萊仙島。
- [24]何處合成愁二句——這是用拆字法作詞,"愁"字在形體上是"心秋"兩字合成。
- [26] 合律——合於音律、樂譜。
- [27] 坐禪--佛家修行時靜坐。守律---遵守佛門的戒律。
- [28] 極玄之域----最高的境界。唐人姚合選《唐詩極玄集》。
- [29] 望望然而去之——望望然,失望而又惭愧的樣子。《孟子·公孫丑》:"望望然 去之。"
- [80] 于于然而來矣——行動舒緩自得的樣子。韓愈《上宰相書》:"于于焉而來矣。"
- [31] 辛稼軒——辛棄疾(公元一一四〇年——一二〇七年),字幼安,號稼軒,歷城人。南宋大詞人。有《稼軒詞》。劉改之——劉過(公元一一五四年——一二〇六年),字改之,號龍州道人,廬陵人,宋光宗年間,屬上書論恢復大計,不被採用,有《龍洲詞》。他的詞風格豪放,和辛棄疾相近。
- [32]元遣山極稱稼軒詞——元好問(公元——九〇年——二五七年),字裕之,號 遺山,太原秀客人。金奠定五年進士,曾為尚書省左司員外耶等官,金亡不仕。 有《遺山集》四十卷,編金人詩為《中州集》十卷。《金史》卷一百二十六《文藝》 有傳。元好問《遺山自題樂府引》中由客轉述他的話說:"樂府以來,東坡為第一,以後便到辛稼軒。"
- [88] 遺山詞——元好問詞集名《遺山樂府》,凡三卷。
- [34] 姜莲雁邱——兩詞皆用《水調歌頭》調,見《遺山樂府》卷上。

### 【説明】

《詞源》是張炎晚年的著作,上卷論樂律,下卷論詞的賞鑑和作法。他提出評詞的標準有三:一、意趣高遠,二、雅正,三、清空。他作詞受北宋周邦彥和南宋姜夔的影響最大。(他的朋友鄧牧為他的詞集《山中白雲》作序,也提到這點。)但是張炎在這書裏對周、姜兩家是有抑揚之論的;他讚賞周詞"渾厚和雅,善於融化詩句",而不滿他"意趣不高遠",不免"失雅正之音",他說周詞頌"以白石(姜夔)騷雅句法潤飾之",才算是"天機雲錦"。他論"意趣"和他的"雅正"之說相通;他說"詞欲雅而正,志之所之,一為情所役,則失其雅正之音。……"他是因為不滿柳(永)、周(邦彥)的"澆風"而提出"雅正""意趣"的要求的。但他一方面反對柳、周的"軟媚",一方面也反對蘇、辛的豪放。甚至說辛棄疾"作豪放詞,非雅詞也",那無疑是他的偏見了。

重視"意趣"和"雅正"還不是張炎一家之說;他在《詞源》裏特立"清空"一目,那是爲不滿吳文英詞晦澀的作風而發的;他抬出姜夔作爲"清空"的典範作家。姜、吳兩家詞同受周邦彥的影響,吳詞的色澤比周詞更濃,往往弄到"凝滯晦澀"的地步,不及姜變能以清剛瘦勁救周詞的"軟媚"。在反晦澀這一意義上,張炎這個補偏救弊的主張,是應該肯定的。雖然他的"清空"之說也還有可議之處。(如他說"清空"的要求,只是屬辭"不要質實",要能"疏快",要用事"融化不澀",要用"虛字呼喚"等等。都離不了屬辭用事方面。又,他以姜變爲"清空"典範作家,其實"清空"一辭也不能包括姜變詞的全部作風。)

張炎是一位精通音律的詞家,《詞源》上卷都是討論樂律的。 他繼承父親張樞"曉暢音律"的家學,又從古琴家楊纘問學,在詞樂未失墜的時候,記錄下許多歌詞的文獻,這是他在詞學上的 大買獻。《雜論》第一條說: "詞之作必須合律,然律非易學",又說: "音律所當參究, 詞章先宜精思。"這對當時一部分死腔盲塡的詞家是一下當頭棒喝。南宋詞人講究音律的多奉周邦彥的《清異集》為典範,方千里、楊澤民、陳允平都有和淸眞詞,都嚴格遵守周詞的四聲,字字不敢移易,因此往往弄得文理不通。(三人中的楊澤民這種情形尤其多;如《一落索》: "盡日登山繞樹, 祿非尸素。"《解連環》: "伊心料應未若。"《花犯》: "看嫩臉與花爭豔,休夸空覓水。" 這些都因為 "守律"而成為 "不辭"。)我們討論詞律,首先必要求作品成其為文學,然後才談得上合樂合律。姜夔作《自度曲》,自說"初率意為長短句,然後協以律",這是因文造樂,不是因樂造文的。張炎針對方、楊的流弊,提出他自己對音樂和辭章的看法,是善於體會姜夔《自度曲》的精神的。

# 附錄

# 余景游樂府編序

# [元] 戴表元

詞章之體,累變而爲今之樂府,猶字書降於後世,累變而爲草也。草之於書,樂府之於詞章,禮法士所不爲。余於童時,亦棄不學。及後有聞,乃知二藝者,本爲不悖於古,而余所知,特未盡也。

今夫小學之家,夠毫布費,一人意而剏之,千萬人楷而習之者,世之所 謂正書。而古法之壞,則自夫正書者始也。放焉而爲草,草之自然,其視篆 隸,相去反無幾耳。

國風、雅、頌,古人所以被弦歌而薦郊廟,其流而不失正,猶用之房中焉,此樂府之所由濫觴也。余嘗得先漢以來歌詩誦之,大抵樂府而已。宋、梁之間,詩有律體,而繼之作者,遂一守而不變,擊病偶儷,歲深月盛,以至於唐人之衰,而詩始自爲家矣。其爲樂府者,又濫而陷於留違荒蕩,杯酒狎

邪之辭,故學者諱而不言,以爲必有託爲。陳禮義而不煩,舒性情而不亂, 其事寧出於詩!劉夢得有言:"五晉與政通,而文章與時高下。"樂府之道, 豈端使然?

同鄉友余(原作朱,據《剡上叢書》本《剡源集》校改)君景游,自絕四方之事,捐書避俗,日課樂府一二章。有所憤切,有所好悅,有所感嘆,有所諷刺,一繫之於此。編成久之,不敢以示人,而先私於余。余曜然曰,此固疇昔所悔,以爲未及盡知者也。君強記治聞,法度修謹,故其所作,授古多而諧令少,覺者多有以余爲知言。歲陽在玄黓,陰在敦祥,良月晦日,剡源戴表元序。

《四部號刊》影明本《刻源戴先生文集》卷九

# 趙氏詩錄序

### [元] 楊維楨[1]

評詩之品無異人品也。人有面目骨體,有情性神氣; 詩之醜好高下亦然。風、雅而降爲騷,而降爲《十九首》,《十九首》而降爲陽、杜,爲二李<sup>[2]</sup>,其情性不埜(野),神氣不羣,故其骨骼不庳<sup>[3]</sup>,面目不鄙。嘻!此詩之品,在後無尚也。下是爲齊、梁,爲晚唐、季宋,其面目日鄙,骨骼日庳,其情性神氣可知已。嘻!學詩於晚唐、季宋之後,而欲上下陶、杜、二李,以薄<sup>[4]</sup>乎騷、雅,亦落落乎其難哉!

然詩之情性神氣,古今無間也。得古之情性神氣,則古之詩 在也。然而面目未識,而(疑脫謂字)得其骨骼,妄矣。骨骼未 得,而謂得其情性,妄矣。情性未得,而謂得其神氣,益妄矣。

吾友宋生無逸,爰其鄉人趙璋之詩來,曰:璋詩有志於古,非 錮於代之積習而弗變者也。是敢晉<sup>[5]</sup>於先生,求一言自信。余 旣訝宋言,而覆其詩,如《桃源》《月蝕》,頗能力拔於晚唐、季宋 者。它日進不止,其於二李、杜、陶,庶亦識其面目; 識其面目之 人,庶乎情性神氣者併得之。璋父勉乎哉! 毋曰吾詩止於是而 已也。至正<sup>[6]</sup>丁亥九月望在姑蘇錦秀坊寫。

《四部幾刊》影鳴野山房鈔本《東維子文集》卷七

# 【註釋】

[1] 楊維楨(公元一二九六年——一三七〇年)——字康夫,號鐵崖,山陰人。元泰 定四年進士,官至建德路總管府推官。明初,曾應韶修纂禮樂書。以詩名禮一 時,人號爲"鐵崖體"。有《東維子集》三十卷,《鐵崖古樂府》十卷,《樂府補》六卷。《明史》卷二百八十五、《新元史》卷二百三十八《文苑傳》有傳。

- [2]二李——指李白、李贺。
- [3] 庫——短。
- [4] 港——迫近。
- [ 5 ] 晉——進。
- [6] 至正——元順帝年號,自公元—三四一年至一三六七年。

#### 【説明】

元代文學,以新興的雜劇、散曲爲代表。古文詩詞,雖有作者,但已走向下坡路,難與唐、宋抗衡。有關詩文的理論批評,相 應地比較岑寂。

楊維楨是元後期有才華的詩人,作品雄奇怪麗。當時反對 者譏之為"文妖"(王彝語), 贊揚者則稱之為"鏟一代之陋"(貝瓊 語)。《趙氏詩錄序》闡述了楊氏的論詩宗旨。

本文接觸到詩學理論上的兩個問題:一是有關詩的性靈格調問題,一是學古的對象問題。楊氏認為詩品即是人品的表徵。格調是面目骨骼,屬於詩的外形;性情神氣屬於詩的內美。前者是核幹而後者乃本根,離開性情神氣,便無眞詩可言。這是前提。然而性情神氣不能離面目骨骼而坦露,因此,格調是學古的入手門徑,其終極目的,是要"證其面目之久,庶乎情性神氣者併得之"。由此,接觸到第二個問題。人的面目性情有野鄙與不羣之別,詩的格調也有醜好高下之殊。其間界綫的區分,楊氏以爲繫於時代的隆替。從風雅而後,至唐之二李爲下限,"此詩之品,在後無尙"。齊梁、晚唐、季宋,則面目已鄙,骨骼已卑,就不足效法。雖然本文幷未提出詩必漢、魏、盛唐的主張,但他所追摹的目標,却在於古人之高格,"得古之情性神氣,則古之詩在也"。這種傾向,確是影響了明代前後七子的詩論。

在晚宋江西派、江湖派詩風已成強弩之末以後,元代詩人轉而趨向於學習晚唐。楊氏不僅從自己的寫作實踐提出如上的主 張,同時也針對當時卑下的詩風,提出了向上一路的要求。

# 附錄

# 元故奉訓大夫江西等處儒學提舉 楊君墓誌銘(節錄)

# 〔明〕宋 濂

元之中世,有文章鉅公起於浙河之間,曰鐵崖君,聲光殷殷,摩戛霄漢; 吳、越諸生多歸之,殆猶山之宗岱,河之走海。如是者四十餘年,乃終。……

初君爲童子時,屬文輒有精魄,賭老生咸謂咄咄逼人。暨出仕,與時齟齬,君遂大肆其力於文辭,非先秦、兩漢弗之學,久與俱化,見諸論撰。如覩商敦思彝,雲蠶成文,而寒芒橫逸,奪人目睛。其於詩尤號名家,震盪凌厲, 駸殿將逼盛唐, 驟閱之神出鬼沒,不可察其端倪,其亦文中之雄乎?……

激者之論,恆調名者天所最忌,矧以能文名,則又忌之尤者也。所以文人多畸孤坎壞,以終其身, 視當與實循風馬牛不相及也。嗚呼,豈其然哉?彼貨殖者不越朝歌暮絃之樂爾,顯榮者不過紆朱拖紫之華爾,未百年間聲銷景沈,不翅飛鳥遺音之過耳。叩其名若字,鄉里小兒已不能知之矣。至若文人者,挫之而氣彌雄,激之而業愈精,其嶷立若嵩華,其昭回如雲漢,衣被四海而無慊,流布百世而可徵,是殆天之所相以彌綸文運,豈曰忌之云乎。嗚呼! 君眞是已。然君不可謂不幸也,使君志遂情安,稍起就勳績,未必事攻於文,縱攻矣,未必磨礪之能精,藉曰,旣精矣,亦未必歲積月累,發越如斯之夥也。斯文如元氣,司化權者,每左右馮翼,俾其延縣而弗絕,則其燾育以成君者,豈不甚侈也耶?一世之短,百世之長,如君亦足以不朽矣。或者乃指此爲君病,豈知天哉!……

殿榮校刻本《宋文憲公全集》卷十

# 文 妖

## 〔明〕王 彝

天下之所謂妖者,狐而已矣。然而,文有妖焉,又有過於狐者。夫狐也,俄而爲女婦,而世之男子,有不幸而惑焉者,皆誤謂爲女婦,而相與以室家之道,則固見其黛綠朱白、柔曼傾衍之容,而所以妖者,無乎而不至,故謂之眞女婦也。雖然,以爲人也則非人,以爲女婦也則非女婦,蓋室家之道之狡獪以幻化者也。此狐之所以妖也。

文者, 道之所在, 抑曷爲而妖哉? 浙之西, 有言文者, 必曰楊先生。余 觀楊之文, 以淫詞怪語裂仁義, 反名實, 獨亂先聖之道, 顧乃柔曼傾衍, 黛綠朱白, 而狡獪幻化, 奄焉以自媚, 是狐而女婦, 則宜乎世之男子者之惑之也。 余故曰: 會稽楊維楨之文, 狐也, 文妖也。噫! 狐之妖至於殺人之身, 而文之妖往往使後生小子羣趣而競習焉, 其足以爲斯文禍, 非谗小。 文而可妖哉? 然妖固非文也, 世蓋有男子而弗惑者, 何憂焉。

明抄本《王常宗集》卷三

# 錄鬼簿序凹

# [元] 鍾嗣成[2]

賢愚壽夭、死生禍福之理,固兼乎氣數而言,聖賢未嘗不論也。蓋陰陽之訓伸,即人鬼之生死[3],人而知夫生死之道,順受其正,又豈有嚴牆桎梏之厄哉[4]?雖然,人之生斯世也,但以已死者爲鬼,而不知未死者亦鬼也。酒罌飯壽[5],或醉或夢,塊然[6] 泥土者,則其人與已死之鬼何異?此固未暇論也。其或稍知義理[7],口發善言,而於學問之道,甘於暴棄,臨終之後,漠然[8]無閒,則又不若塊然之鬼爲愈也。予嘗見未死之鬼,弔已死之鬼,未之思也,特一間耳[9]。獨不知天地開闢,亙古及今,自有不死之鬼在。何則? 聖賢之君臣,忠孝之士子,小善大功,著在方冊[10]者,日月炳煥,山川流峙,及乎千萬叔[11]無窮已,是則雖鬼而不鬼者也。

余因暇日,緬懷<sup>[12]</sup>故人,門第卑微,職位不振<sup>[18]</sup>,高才博 識,俱有可錄,歲月彌久,湮沒無聞,遂傳其本末,用以樂章;復以 前乎此者,敍其姓名,述其所作,冀乎初學之士,刻意嗣章,使冰 寒於水,靑勝於藍<sup>[14]</sup>,則亦幸矣。名之曰《錄鬼簿》。嗟乎! 余 亦鬼也。使已死未死之鬼,作不死之鬼,得以傳遠,余又何幸焉! 若夫高尚之士,性理之學<sup>[15]</sup>,以爲得罪於聖門者,吾黨且噉蛤 鯏<sup>[16]</sup>,別與知味者道。

至順元年龍集庚午月建甲申二十二日辛未古汴鍾嗣成序[17]。

中國戲劇出版社《中國古典戲曲論著集成》本《錄鬼榜》

### 【註釋】

- [1]錄鬼簿——元鐘嗣成著。凡二卷。序作於元文宗至順元年(公元一三三〇年), 而書中紀事,訖於順帝至正五年(公元一三四五年),是書成已在順帝時。書中 载金到元中期以前的雜劇及散曲作家的小傳和作品名目。分爲三期:第一期, "前辈已死名公才人有所編傳奇行於世者";第二期,"方令已亡名公才人余相 知者,及已死才人不相知者";第三期,"方令才人相知者,及方令才人聞名而不 相知者"。凡著錄元劃四百五十八本。是現存中國戲曲史上第一部重要文獻。
- [2]鑑嗣成——字繼先,號蹺齊,汴梁人。寄居杭州。累試不第。著《錄鬼簿》二卷。所作雜劇有《章台柳》《錢胂論》等七種,已佚。僅存散曲數十首。
- [3]陰陽二句——《禮記·月令》:"陰陽爭,死生分。"孔頻達《正義》: "怒陽氣長者生,感陰氣成者死。"ո,同"屈"。
- [4]人而知夫生死之道三句——《孟子·靈心上》:"孟子曰:莫非命也,順受其正 (順理而行,所接受的便是正命);是故知命者不立乎巖牆之下(危險之地)。靈 其道而死者,正命也;桎梏(古代拘繫罪人手足的刑具)死者,非正命也。"
- [5]酒器飯囊——即酒囊飯袋的意思,比喻無用的人,只會吃喝。曾遊《類說》卷二十二引陶岳《荆湖近事》:"馬氏(五代楚國主馬殷)奢僧,諸院王子僕從烜赫; 文武之道,未嘗留意。時謂之酒囊飯袋。"晷,音學,盛酒器。
- [6] 塊然——《莊子·應帝王》: "塊然獨以其形立。"塊然,象土塊那樣無知。
- [7] 義理——《漢書·劉歆傳》:"由是章句義理備焉。"宋代理學家又稱理學為義 理。遭裏,只作道理解。
- [8] 漠然——寂然。
- [9] 一間——謂兩者極其接近,差距極小。語見《孟子·盡心下》。
- [10] 方册——典籍。古代文字書在方版或价簡上, 价簡相聯爲册。
- [11] 郑——佛教用語,梵文音譯"叔波"之略,指通常年月日時不能計算之遠大時 節。
- [12] 顧懷——遠想。
- [13] 門第二句——王國維《宋元戲曲史》: "雜劇之作者,大抵布衣;否則爲省據令史之屬。"按《錄鬼簿》所载"前辈已死名公才人"中,更列有敬坊中人。
- [14] 青膀於藍二句——《荀子·勸學》: "青,取之於藍,而青於藍; 冰,水爲之,而寒 於水。"這二句是說後學可以勝過前輩。
- [15] 性理之學——宋代稱理學爲性理之學。《二程遺書》卷十八: "在天爲命,在義

為理,在人為性,主於身為心,其實一也。"在性即是理,理則自堯舜至於強人一也。"

- [16] 且噉蛤蜊——噉, 音淡, 吃。《南史·王融傳》:"初為司徒法曹, 能(往訪)王僧 酤, 因遇沈昭略, 未相識。昭略屢顧盼, 謂主人曰: 是何年少? 融曰: 僕出于扶桑, 入于陽谷, 照耀天下, 誰云不知, 而殉此問? 昭略云: 不知許(這樣)事, 且食蛤蜊。"
- [17] 龍樂庚午——龍,歲屋。龍樂庚午,即歲在庚午。月建——一個月份所值的干支。月建甲申,即月值甲申,七月也。古汴——元代的汴梁,即唐代的汴州。

#### 【説明】

元代戲曲勃興,同時也出現了關於戲曲的批評,儘管它們在理論上還不成熟,比較零碎,也頗值得珍視。當時的曲論中,常常包括對戲曲和散曲的評論,署名燕南芝庵的《唱論》、陶宗儀的《輟耕錄》等中,都有一些關於曲的有益見解。鍾嗣成的《錄鬼簿》廣泛地記載金元戲曲作家的傳記和作品目錄,有的附《凌江仙》表示憑弔和評價,成爲一部比較系統的戲曲史和批評著作。

在當時封建正統的士大夫心目中,對那些戲曲作家多數是輕視的,因而他們的生平與創作自然不載于正史列傳。鍾嗣成却不管他們的"門第卑微,職位不振",竭力推崇他們的"高才博學,俱有可傳",認為有其不朽價值;並希望通過對他們的介紹,對戲曲創作的發展起積極的作用。"冀乎初學之士,刻意詞章,使冰寒於水,靑勝於藍",就是情見乎辭的。序文最後又說自己的著作可能"有得罪於聖門",可見這種高度肯定戲曲文學與作家的態度和封建傳統思想的矛盾,這裏存在着鬥爭與衝突。

《錄鬼簿》中對"前輩名公樂章傳於世者"以董解元列首位, "前輩才人有所編傳奇於世者"以關漢卿列首位,具見對董、關兩 人在戲曲發展史上地位的肯定。在關於鮑天祜、睢景仁等所作 的評價中,強調它們"多使人感動詠歎"的感染力量和風格的"新 奇"等,在某種程度上揭示了新興文學的特徵,反映了著者對戲 曲創作的要求和批評標准。

# 附 錄

# 錄鬼簿(選錄)

### 〔元〕鍾嗣成

#### 鄭光祖(節錄)

光祖字德輝。……公之所作,不待備述,名香天下,聲振閨閣,伶倫聲稱 "鄭老先生",皆知其爲德輝也。惜乎所作,貪於俳諧,未免多於斧鑿,此又 別論爲。……乾坤膏馥潤飢膚,錦繡文章滿肺腑,筆端寫出驚人句。番騰今 共古,占詞場老將伏轍。《翰林風月》,《梨園樂府》,端的是會下工夫。

### 飽天祜(節錄)

天祐宇吉甫。杭州人。初業儒,長事吏簿曹之役,非其志也。跬步之間,惟務搜奇索古而已。故其穩撰,多使人感動詠歎。余與之談論節要,至今得其良法。……平生詞翰在宮商,兩字推蔽付錦囊,聳吟肩有似風魔狀。 苦勞心嘔斷腸,視榮華總是乾忙。談音律,論教坊,唯先生占斷排場。

# 睢景仁(節錄)

景臣後字景賢。……心性聰明,酷嗜音律。維揚諸公,俱作《高祖還鄉》 套數,惟公《哨遍》製作新奇,皆出其下。又有南呂《一枝花·題情》云:"人間 燕子樓,被冷駕蕭錦。酒室鸚鵡靈,釵折鳳凰金。"亦爲工巧,人所不及也。 ……吟髭然斷爲詩魔,醉眼慵開爲酒酢。半生才便作三間,些歎番成《薤露 歌》,等閒間蒼疊成皤。功名事,歲月過,又待如何?

中國戲曲研究院《中國古典戲曲論著集成》本《錄鬼簿》

# 唱 論(選錄)

### 〔元〕燕南芝庵

三数所唱,各有所句: 道家唱情,僧家唱性,儒家唱理。

大忌鄭衞之淫擊,續雅樂之後,絲不如竹、竹不如肉,以其近之也。又 云:取來歌裏唱,勝向笛中吹。

成文章曰"樂府",有尾聲名"套數",時行小令喚"葉兒"。套數當有樂府氣味,樂府不可似套數。街市小令,唱尖歌倩意。

中國戲曲研究院《中國古典戲曲讀著集成》本《唱論》

# 輟耕曲錄(選錄)

[元] 陶宗儀

### 作今樂府法

裔孟符吉博學多能,以樂府稱,管云:作樂府亦有法。曰鳳頭、猪肚、約 尾六字是也。大概起要美麗,中要浩蕩,結要響亮,尤貴在首尾真穿,意思 清新,苟能若是,斯可以言樂府矣。此所謂樂府,乃今樂府,如《折桂令》《水 仙子》之類。

# 醉太平小令

"堂堂大元, 姦佞專權, 開河變鈔禍根源, 惹紅巾萬千。官法濫, 刑法重, 黎民怨。人奥人, 鈔買鈔, 何會見? 贼做官, 官做贼, 混愚賢。哀哉可憐!" 右《醉太平》小令一閱, 不知誰所造, 自京師以至江南, 人人能道之。 古人多取里巷之歌謠者, 以其有關於世數也。今此數語, 切中時病, 故錄之, 以俟 采民風者焉。

#### 雜劇曲名

碑官廢而傳奇作,傳奇作而戲曲攤。金季國初,樂府猶宋詞之流,傳奇 猶宋戲曲之變,世傳謂之雜劇。金章宗時,董解元所編《西廂記》,世代未 遠,尙罕有人能解之者,况今雜劇中曲調之冗乎?因取諸曲名,分調類編, 以備後來好事稽古者之一覽云。

中華書局排印本《新曲苑》本《觀詩曲錄》

# 太和正音譜(選錄)

〔明〕朱 權

#### 序(節錄)

猗默盛哉,天下之治也久矣。醴樂之盛,聲教之美,薄海內外,莫不咸被仁風於帝澤也,於今三十有餘載矣。近而侯甸郡邑,遠而山林荒服,老幼 蹟官,驅歌鼓舞,皆樂我皇明之治。夫禮樂雖出於人心,非人心之和,無以 顯禮樂之和;禮樂之和,自非太平之盛,無以致人心之和也。故曰:治世之 晉安以樂,其政和。是以諸賢形諸樂府,流行于世,膾炙人口,鏗金戛玉,鏗然播乎四裔,使鴂舌雕題之氓,垂髮左衽之俗,聞者無不忻悅。雖曾有所異,其心則同,聲音之感於人心大矣。……

凡作樂府,古人云:有文章者謂之"樂府";如無文飾者,謂之"俚歌",不可與樂府共論也。

關漢卿之詞,如瓊筵醉客。觀其詞語,乃可上可下之才,蓋所以取者, 初爲雜劇之始,故卓以前列。

良家之子,有通於音律者,又生當太平之盛,樂雅熙之治,欲返古感今, 以飾太平。所扮者,……元謂之"昇平樂"。 蓋雜劇者,太平之勝事,非太平則無以出。……

娼夫不入羣英四人,共十一本。子昂趙先生曰: 娼夫之詞,名曰"綠巾詞"。其詞雖有切者,亦不可以樂府稱也,故入於娼夫之列。

古之善歌者:秦青、薛譚、韓秦娥、沈古之、石存符。此五人,歌聲一退,行雲不流,木葉皆墜,得其五音之正,故能感物化氣故也。

古有兩家之唱,芝菴增入"喪門"之歌爲三家。

道家所唱者,飛馭天表,游覽太虛,俯視八紘,志在冲漠之上,寄傲宇宙之間,慨古感今,有樂道徜徉之情,故曰"道情"。

儒家所唱者性理,衡門樂道,隱居以曠其志,泉石之興。

僧家所唱者,自梁方有"喪門"之歌,初謂之"頌偈";"急急修來急急修"之語是也;不過乞食抄化之語,以天堂地獄之說,愚化世俗故也。至宋末,亦唱樂府之曲,笛內皆用之。元初,讚佛亦用之。

中國戲曲研究院《中國古典戲曲論著集成》本《太和正音譜》